



「新潟発 わくわく教育ファーム」

アグリ・スタディ・プログラム改訂版

平成27年10月 新潟市・新潟市教育委員会

「新潟発 わくわく教育ファーム」

アグリ・スタディ・プログラム

改訂版



平成27年10月

新潟市
新潟市教育委員会

目 次

はじめに	新潟市長	篠田 昭 …	1
発刊の言葉	新潟市教育委員会教育長	前田 秀子 …	2
I 基本構想		3
1 「これから」を生き抜く子どもたちのために		4
2 基本的考え方		8
3 支援体制の整備		17
II プログラム		27
プログラム一覧		28
プログラムの見方		44
1 小学校編		49
2 中学校・中等教育学校編		277
3 特別支援学校編		345
4 幼稚園・保育園編		391
5 適応指導教室編		439
付) P T A 編		445
III 資料		453
あとがき	新潟市教育委員会教育政策監	伊藤 充 …	474

「アグリ・スタディ・プログラム」への応援メッセージ 目次

アグリ・スタディ・プログラムの作成にご協力いただいた方、本市の教育ファームに縁のある方などからメッセージをいただいています。

■伊賀の里モクモク手づくりファーム 会長 木村 修 氏 ……………	26
(アグリパーク整備アドバイザー)	
■農林水産省消費・安全局 消費者情報官 道野 英司 氏 ……………	71
■文部科学省初等中等教育局 視学官 田村 学 氏 ……………	71
■農林水産省農村振興局農地資源課 課長補佐 小林 賢一 氏 (元新潟市農林水産部長) ……………	131
■【フランス】元トゥール商業大学ジャパンセンター所長 レモン 洋子 氏 ……………	208
(2006年, 2007年, 2012年フランス教育ファーム視察 アテンド・通訳)	
■【フランス】ナント市近郊の農家教育ファーム「Ferme de la Puillière」イザベル氏, ジャンポール氏 ……	231
(2006年, 2012年フランス教育ファーム視察)	
■【フランス】ナント市 Rutigliano 中学校 命と土地の科学教科教師 オレリー サガラ 氏 ……………	237
(2012年フランス教育ファーム視察)	
■NPO 法人大地といのちの会 理事長 吉田 俊道 氏 ……………	242
(菌ちゃんリサイクル元気野菜づくり考案者, 平成25年度新潟市教育ファーム実践セミナー 講師)	
■西日本新聞社 編集委員 佐藤 弘 氏 ……………	252
(平成24年度新潟市教育ファームキックオフセミナー講師, 平成25年度新潟市教育ファーム実践セミナーコーディネーター)	
■福島県喜多方市教育委員会 教育長 芳賀 忠夫 氏 (農業を教科に取り入れた「喜多方市小学校農業科」) …	252
■沖縄県今帰仁村教育委員会 教育長 新城 敦 氏 (教育ファーム実践市町村) ……………	319
■JA 糸島経済部資材課考査役 古藤 俊二 氏 (平成26年度 経営助言懇話会 講師) ……………	334
■福岡市立舞鶴小学校 教諭 稲益 義宏 氏 (平成27年度 教員宿泊体験研修会 講師) ……………	334
■新潟市教育ファーム市民交流会議 会長 諸橋 弥須衛 氏 (教育ファーム応援市民団体) ……………	361
■フジタファーム 代表取締役 藤田 毅 氏 (地域交流牧場全国連絡会 監事) ……………	372
■大越農園 代表 大越 正章 氏 (全国農業青年クラブ連絡協議会 顧問) ……………	372
■新潟市小学校長会 会長 逢坂 健太郎 氏 (新潟市立白山小学校 校長) ……………	382
■新潟市中学校長会 会長 高居 和夫 氏 (新潟市立小針中学校 校長) ……………	382
■新潟市立東新潟中学校 校長 高橋 恒彦 氏 (前新潟市教育委員会学校支援課長) ……………	404
■新潟市小中学校PTA連合会 会長 大宮 一真 氏 ……………	404
■前新潟市食育・花育センター所長 大谷 善秋 氏 ……………	418
■元新潟市教育ファーム推進担当ディレクター 佐藤 信幸 氏 ……………	418
■新潟市立新津第三小学校 校長 岩崎 道郎 氏 ……………	431
(前新潟市教育委員会学校支援課教育ファーム担当指導主事)	
■新潟市こども創造センター 館長 浅井 俊一 氏 (教育ファーム実践施設) ……………	438
■新潟市動物ふれあいセンター 館長 田中 和志 氏 (教育ファーム実践施設) ……………	438
■新潟市アグリパーク 教育ファーム園長 真柄 正幸 氏 (教育ファーム実践施設) ……………	444
■アグリパークパートナー 西山 久子 氏 (新潟市アグリパーク農業体験学習指導者) ……………	444
■NPO 法人新潟農えん隊 理事長 星野 尚志 氏 (菌ちゃんリサイクル元気野菜づくりコーディネーター) ……	450
■元新潟医療福祉大学教授 星野 恵美子 氏 (障がい者向け農業体験プログラムコーディネーター) ……	451

はじめに

大合併から11年目、政令指定都市移行から9年目を迎えた今年、平成27年度から平成34年度までの8年間における本市の目指す姿（都市像）を示す新たな総合計画「にいがた未来ビジョン」を作成しました。

現在、「地方創生」が叫ばれる中、地域の特色を生かした持続的なまちづくりを進めることがより一層重要となるため、本市においては、農業が盛んな地域と大消費地が近接する特徴を生かした「田園型政令市」のまちづくりをさらに形作っていくことが求められています。

本市は、農業を生かした取組や今後の可能性が評価され、平成26年5月には、「大規模農業の改革拠点」をテーマとして、国家戦略特別区域に指定されました。

しかしながら、現在農業を取り巻く環境には、農業者の高齢化や担い手の減少、環太平洋パートナーシップ協定（TPP）など、多くの課題が見られます。

これらの課題を解決する取組の一つが「新潟発 わくわく教育ファーム」です。子どもから大人まで市民誰もが農や食に関する体験を通じて、農業への興味・関心を高め、消費者と生産者が互恵の関係を築くことで農業の活性化を図るものです。

その中心的な役割を担うものが学習指導要領の内容に基づいて学習と農業体験を結びつけた農業体験学習プログラム「アグリ・スタディ・プログラム」です。

教育委員会と協働で、昨年6月にグランドオープンした「いくとびあ食花」や日本初の宿泊型公立教育ファームである「アグリパーク」の整備に合わせて第1版を策定し、今年の7月に追補版となる補遺編を策定しました。

第1版策定から1年以上が経過し、これまでの農業体験学習の実績を踏まえ、より学習課題やまとめを意識した内容に改訂したものが、今回の改訂版です。

この改訂版に基づいて市内全小学校での農業体験学習を継続し、本市が誇る農業や食に対する理解を深め、ふるさとへの愛情や誇りを育むとともに、子どもたちの学力向上も図っていきます。

原体験が少ない現代社会に生きている子どもたちにとって、五感全てを使うことができる農業体験は今後ますます重要となってきます。本市では、私たちが普段食べている物の価値やその背景を知る食育、食べ物の生産に関わっている人の生きざまを知るキャリア教育なども併せて行うことで、子どもたちの「生きる力」を育むために農業体験から農業体験学習に高めた取組を新潟から全国に発信していきます。

結びに、本改訂版の作成にあたり、貴重なご意見を頂戴しました保育園・幼稚園、学校関係の皆さまや関係各位に、心より感謝申し上げますとともに、プログラムの推進にあたり、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

平成27年10月

新潟市長 篠田 昭



改訂版 発刊の言葉

新潟市教育委員会では、『新潟市教育ビジョン第3期実施計画』を平成27年3月に策定しました。これまでの前・後期実施計画の成果を受け、「学・社・民の融合による教育」をビジョンの根幹に据え、「学力・体力に自信をもち、世界と共に生きる心豊かな子ども」の実現に向け、教育施策を推進しています。

第3期実施計画では、これまでの計画達成状況や社会情勢の変化などを踏まえ、基本構想や基本計画を原則的に継続する施策「NEXT」とともに、新たな視点による施策「NEW」を位置付けました。

これまで、体験活動については「豊かな心と健やかな体の育成」の施策として自然体験などの体験活動を通し、子どもたちの豊かな人間性や社会性を育むことに重きを置いていました。第3期実施計画では、体験活動を「アグリ・スタディ・プログラムの推進」と明示するとともに、「確かな学力の向上」のための施策として位置付けました。実感の伴った確かな学びを実現するための取組としたのです。このことにより、子どもは持続可能な社会の実現に向け、よりよく問題を解決するとともに、豊かな食の恵みに感謝し、いのちや人の絆を大切にすることができるようになります。そして新潟市の特徴である農業の素晴らしさに気付き、ふるさとを愛し、誇りに思う心を自ら育むことにつながっていくのです。

農業体験活動を教科等の学習に生かすことができるように、平成26年6月、『アグリ・スタディ・プログラム』を発行しました。このプログラムを受けて、学校教育田、学校教材園、近郊の農家、いくとびあ食花、そしてアグリパークで農業体験学習が行われてきました。平成27年6月には、プログラムの数を増やした補遺編を発行しました。今回の改訂では、これらのプログラムを統合するとともに、それぞれの指導計画に学習課題とまとめの例を明示しました。

新潟市の小・中学校では、「学習課題」と「まとめ」を、授業改善の重要な視点として、継続的、組織的に取り組んでいます。『アグリ・スタディ・プログラム』による農業体験学習にも「学習課題」と「まとめ」を取り入れることで、より充実した学びを具現することができ、第3期実施計画が目指す教育の実現につながるものと期待しています。

最後に、『アグリ・スタディ・プログラム』の執筆、改訂にご尽力いただきました教員の皆様、パイロット校の児童・生徒や保護者の皆様、アグリ・スタディ・プログラム検討委員の皆様をはじめ、多くの皆様からご協力いただいたことに深く感謝を申し上げます。

平成27年10月

新潟市教育委員会教育長 前田 秀子



I 基本構想

1 「これから」を生き抜く子どもたちのために …………… 4

- (1) 知識基盤社会に生きる子どもたち
- (2) バーチャル世界に生きる子どもたち
- (3) グローカル社会に生きる子どもたち
- (4) 持続可能な社会を担う子どもたち
- (5) 自ら食環境を整えなければならない時代に生きる子どもたち

2 基本的考え方…………… 8

- (1) 「アグリ・スタディ・プログラム」の目的
- (2) 教育課程上の位置付け
- (3) 「アグリ・スタディ・プログラム」実践の場が教育ファーム
- (4) 「アグリ・スタディ・プログラム」で大切にすること
- (5) 農業体験活動を農業体験学習に高めるために
- (6) 「アグリ・スタディ・プログラム」で授業力を鍛える

3 支援体制の整備…………… 17

- (1) 施設にかかわる支援
○新潟市アグリパーク 七つのコンセプト
 - 1 子どもたちが本格的な農業体験をすることができます
 - 2 子どもたちが持続可能な循環型の農業を学ぶことができます
 - 3 子どもたちが生きる力を培うため、体験と知識を結び付けた学習をすることができます
 - 4 子どもたちが農業体験、加工体験、食体験を関連付けた学習をすることができます
 - 5 子どもたちが郷土への誇りと愛情、命の大切さを学ぶことができます
 - 6 子どもたちが農業体験をとおしてキャリア意識を高めることができます
 - 7 子どもたちが農家のサポートを受けながら仲間と協力して絆を深めることができます
- (2) プログラムにかかわる支援
- (3) 経費にかかわる支援

I 基本構想

1 「これから」を生き抜く子どもたちのために

(1) 知識基盤社会に生きる子どもたち

子どもたちがこれから生きていく社会は、「知識基盤社会」であるといわれています。「知識基盤社会」とは、「新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会」です。このような社会が進めば進むほど、知識・情報・技術を支える実際の体験や、知識・情報・技術の背後にある体験を想像する力が重要になってきます。

大切なことは、子どもたちが体験と知識とを結び付けることができるかどうかです。体験を伴わない知識は貧弱で汎用性・応用性がありません。反対に、体験を伴った知識は力強く豊かで、汎用性・応用性があり、新しい知識や技能を生み出していくことができます。知識基盤社会に生きる子どもたちには、体験と知識とを結び付け、それをもとに新しい知識や技能を生み出していく力が必要なのです。

すでに学校や地域では、体験のもつ力に着目し、意図的に体験させる活動＝体験活動を取り入れた取組を進めてきました。しかしながら、ここ十数年の子どもたちの様子を見ると、地域では子供会、町内会などの体験活動が減少していることが指摘されています。また、家庭では親子で登山をしたり、演劇を見たりするなどの体験をしている子どもと、ほとんど体験をしていない子どもの家庭ごとの格差がますます広がっているといわれています。

一方学校では、学習指導要領において生活科や総合的な学習の時間が創設され、体験活動が強く奨励されたことにより体験活動は増加しました。しかし、全国的に見ると、とりあえず体験さえさせておけばよいという安易な考えもあり、「体験活動あって学びなし」と批判されるような、学習成果に結び付かない状況も多く見られました。

これからの社会では、地域や家庭が学習の基盤となる子どもたちの体験活動の量と質を高めていくとともに、学校が知識と体験活動とを結び付ける授業を丹念に進めていく必要があります。

(2) バーチャル世界に生きる子どもたち

子どもたちがこれから生きていく世界は、より一層バーチャルの度合いが増

していきといわれています。例えば、友達と一緒に場所においても、それぞれがコンピュータゲームをして遊んでいるといった光景は日常的に見られるようになりました。彼らはゲームの画面の中で喧嘩や殴り合いをしたり、冒険旅行に出たり、釣りや山登りをしたりしています。そこに共通するのは、「生きているもの」に直接触れ、感じ、思い、考える体験が欠如しているということです。それゆえ以前に比べると、子どもたちは友達との交流の中で、直接痛みや悩み、温かみを知ることが少なくなり、他の人の痛みや悩み、温かみを想像することが苦手になっています。いじめに悩んでいる友達を思いやることができない子どもの増加も、その表れの一つかもしれません。さらに、バーチャルな世界で感じたことをもとに考えたり、判断したり、行動したりする子どもの増加を、多くの大人が危惧しています。

バーチャルの度合いが増していく社会において、子どもたちに一層必要になる力は、他人の痛みを思いやることができる力や、命の尊厳、自然の崇高さを思う力です。このような力を培うためには、子どもたちに「生きているもの」に直接触れたり、動植物を育てたりする体験活動をもとに、感じ・考える学習を通して心を耕し、感性を高め、自らの行動をより高い視点から考えさせることが必要です。

たとえば、農業体験活動を取り入れた場合、人の生命をつなぐ農作物を植え、水をやり、草をとり、収穫し、加工し、調理し、食す。あるいは、家畜に餌をやり、畜舎を掃除し、搾乳し、加工し、調理し、食すことが考えられます。それは子どもたちが生命の誕生、生命の成長、生命の死に出会うことです。そして、農業を支えている人々に出会い、その熱い心を知ることです。さらに、共に農作物や家畜の世話をする友達との絆を深めることです。このような子どもたちの原体験と学びが、その後の人間関係を豊かなものにしていくのです。

これからの社会では、子どもたちが生命のあるものを育てたり、それを感謝して食したりするような体験活動をもとに学習を構成することができるよう環境を整えていく必要があります。

(3) グローカル社会に生きる子どもたち

子どもたちがこれから生きていく社会は、世界的視野（グローバル）と地域的視野（ローカル）の二つの面から物事を見て、考え、行動していくグローカル社会であるといわれています。それは、「地球規模で考えながら、志をもって自分の地域で仕事をする」、あるいは「自分の地域を愛し、そこで学んだことを大切にしながら、志をもって地球規模で仕事をする」ことです。

しかしながら、日本の子どもは、外国の子どもに比べて、将来の夢や志が貧弱だという意見をよく聞きます。夢や志は生まれ育った地域に誇りをもち、そ

ここに軸足を置いて世界を展望したときに沸きあがる自分の未来像です。それが貧弱である原因は、日本の子どもたちが、地域の誇るべきものに接し地域を愛する経験が少なかったり、働く体験をしてその意味を考える経験が少なかったりするからだといわれています。

子どもたちの学習の中に地域の誇るべきものや地域を支える産業に接する活動を取り入れることが大切です。ふるさと新潟市が誇るべき産業の一つが農業です。農業は人間が生きる上での基礎となる産業であり、幼児から小学生、中学生、高校生に至るまでそれぞれが成長の度合いに応じて参加し、キャリア意識を高め、働く意味を考えることができるものです。このように、子供たちは新潟市を支える農業に接することにより、農業のすばらしさを知ったり、新潟市のすばらしさを探究するきっかけを見つけたりすることができるのです。

私たち大人は、子どもたちがこのような体験ができるよう、プログラムなどを整備していく必要があります。

(4) 持続可能な社会を担う子どもたち

子どもたちがこれから生きていく社会は、地球という有限な資源の中で、現世代が将来の世代の利益や要求を満たす力を損なわない範囲内で環境を利用して、発展し続けなければならないといわれています。これが持続可能な社会です。

それは多岐の分野にわたりますが、教育面から見ると、私たちとその子孫たちが、地球で生きていくことを困難にするような問題について考え、立ち向かい、解決する力を培うための教育を推進して、持続可能な社会の担い手を育てることに尽きます。

このような教育を進めるためには、農業体験学習に限って具体例を述べれば、循環型農業に取り組んでいる新潟の農家やアグリパークに学び、循環のサイクルを体験させることが重要です。たとえば、乳牛にトウモロコシを食べさせ、生乳を生産する。牛糞を熟成して堆肥にした後、トウモロコシ畑に施肥する。成長したトウモロコシを、再び乳牛の飼料とする。

このような循環型農業を体験させ考えさせることにより、環境への負荷を少なくしていくことの大切さに気付かせ、持続可能な社会を担う基礎的な力を身に付けていくことができるようになるのです。

私たち大人は、これから自らが持続可能な社会の実現に貢献するとともに、子どもたちが循環型農業などの体験ができるよう、施設設備やプログラムなどを整備していく必要があります。

(5) 自ら食環境を整えなければならない時代に生きる子どもたち

子どもたちがこれから生きていく時代は、世界的に見ると食糧不足の問題が

より深刻になったり、農業が環境破壊に及ぼす影響が大きくなったりするといわれています。また、国内生産と輸入のバランス等の量の問題や、安全・安心な食料と不安が残る食料の格差が広がる質の問題、そして健康や病気の観点から人間と食との付き合い方に関する問題など、多方面で食に関する問題が深刻さを増す時代といわれています。

このような時代にあっては、「自分は何を食べるか」という問題意識をもち、農林水産物から加工品に至るまでのさまざまな食情報を整理し、安全や健康、味覚の問題を含め自分の口に入るものを自覚的にコントロールするなど、自分の食環境を整えていく力を高めていくことが大切です。

しかしながら、利便性や経済性のみを追求するあまり、健康上好ましくない食材を使った加工食品を無自覚的に購入する家庭が増加しているという指摘もあります。そのような環境で育成された子どもが大人になり、無自覚的な食生活をしている例は多く見られます。

私たち大人は、自分の食環境は自分で整えていく力を子どもが身に付けることができるようにしなければなりません。そのためにも、子どもたちが健康的な食料を生産する体験を行い、それを使って加工・調理し、食す体験ができる環境を整備したり、それらの仕事に一所懸命に取り組む人々と接することができる機会を増やしたりしていく必要があります。



このような五つの視点から、農業体験を各教科等の学習に位置付けることにより、新潟市の子どもたちが農業のすばらしさに気づき、人との絆や命を大切にして、ふるさと新潟を愛し誇りに思うとともに、持続可能な社会の実現に向け、よりよく問題を解決していく力を高めることが期待されます。すなわち、生きる力を高めることが期待されるのです。

これを実現するために「アグリ・スタディ・プログラム」を策定します。

2 基本的考え方

(1) 「アグリ・スタディ・プログラム」の目的

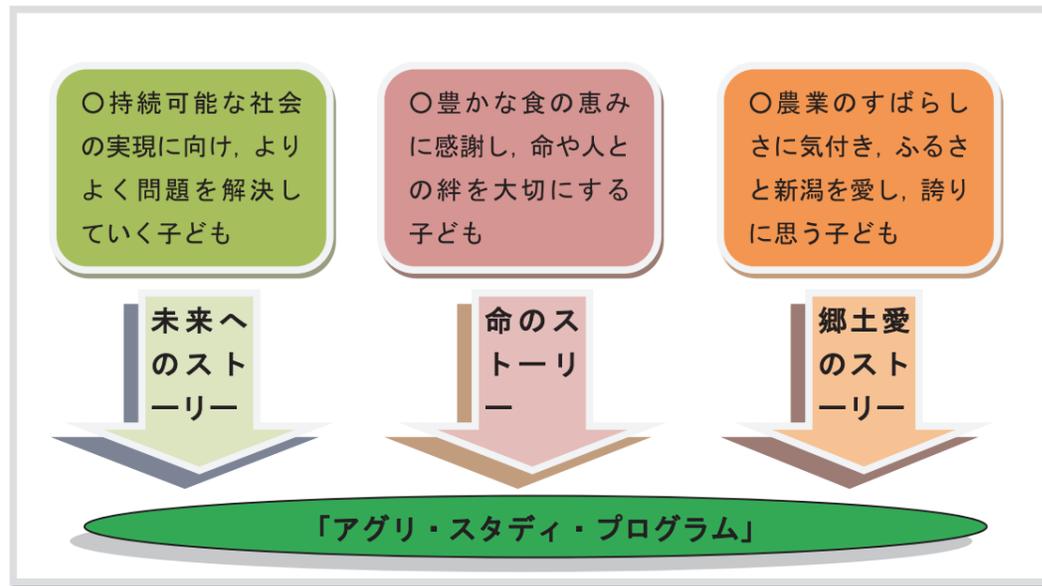
「アグリ・スタディ・プログラム」は、特定の教科等の名前ではなく、新潟市の学校・園で行う田園型政令市・新潟にふさわしい農業体験学習の総称です。

その目的は、新潟市教育ビジョンの基本目標の一つである「学力・体力に自信をもち、世界と共に生きる心豊かな子ども」の実現です。この実現に向けて、各教科等の学習を深化・補充し、生きる力を育む学習を提供します。

子どもたち一人一人に期待する姿は、次のとおりです。

- 持続可能な社会の実現に向け、よりよく問題を解決していく子ども
- 豊かな食の恵みに感謝し、命や人との絆を大切に子ども
- 農業のすばらしさに気づき、ふるさと新潟を愛し、誇りに思う子ども

子どもたち一人一人に期待する姿を実現するために、三つのストーリーを用意しました。そして、三つのストーリーをもとにして、個々のアグリ・スタディ・プログラムを作りました。



(2) 教育課程上の位置付け

学習は各学校の教育課程に位置付けられ、多くの教科等と関連付けられて実践されることにより、高い効果をあげることができます。

そのため私たちは、幼稚園、小学校、中学校、中等教育学校、特別支援学校の教育課程に位置付けることを想定して、学習指導要領に基づき農業体験活動

を取り入れた方が教育効果があがると考えられる教科等を選定しました。そして、それが学習指導要領のどこに位置付くかを、プログラムごとに明示しました。また、厚生労働省の「保育所保育指針」についても同様の考え方で対応しました。

「アグリ・スタディ・プログラム」に関わる各教科等

* 文部科学省「学習指導要領」「幼稚園教育要領」、厚生労働省「保育所保育指針」から作成

幼稚園・保育園	小・中学校	特別支援学校
<ul style="list-style-type: none"> ・健康 ・人間関係 ・環境 ・言葉 ・表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会（農業学習、地域学習、地域の歴史学習） ・理科（生物学習） ・家庭（食育） ・図画工作・美術 ・総合的な学習の時間（環境教育、健康教育、キャリア教育） ・特別活動（給食指導、遠足・集団宿泊的行事、クラブ活動） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活 ・職業・家庭 ・自立活動

そして、それぞれの教科等について、農業体験を生かした単元等を構成し、次のように学校種等ごとに編成しました。

- 1 小学校編
- 2 中学校・中等教育学校編
- 3 特別支援学校編
- 4 幼稚園・保育園編
- 5 適応指導教室編

各編には、それぞれの学校種等のプログラムを収録しました。これは、多くの学校に適合するように作られた汎用プログラムです。この中から学校や地域、子どもたちの実態に応じて選択し、各学校の教育課程に位置付けることを期待します。

しかしながら、いくら農業体験学習が子どもの成長に効果があるといっても、そのような学習を常時行っていたのでは、学習時間や指導内容の面からも、指導体制の面からも、教育課程に無理がかかり過ぎてしまいます。そして、結局長続きしない取組に終わってしまう可能性があります。そのため「アグリ・スタディ・プログラム」の推進に当たっては、教育課程の全体的なバランスを考えてメリハリを付けて農業体験学習を取り入れ、無理のない範囲で推進していくことが重要です。

(3) 「アグリ・スタディ・プログラム」実践の場が教育ファーム

「アグリ・スタディ・プログラム」を実践するのは、すでに多くの学校が米作りや野菜作りなどを行っている学校教育田や校内の学校教材園はもちろんのこと、農業体験学習施設「新潟市アグリパーク」、いくとびあ食花、近隣農家等です。



このように、「アグリ・スタディ・プログラム」による農業体験学習を行うすべての場のことを新潟市では「教育ファーム」と定義しています。

「アグリ・スタディ・プログラム」は、それぞれ学校が無理のない範囲で地域や学校の実態に即して学習する教育ファームを選び、実践できるよう作られています。

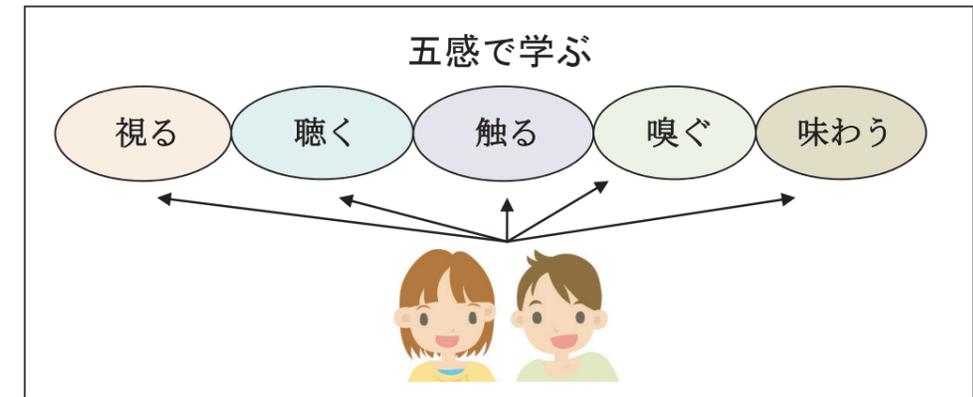
(4) 「アグリ・スタディ・プログラム」で大切にすること

「アグリ・スタディ・プログラム」は、次の五つのことを大切に編成されています。



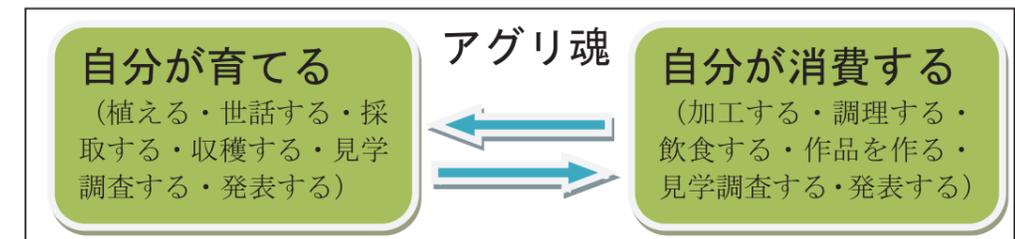
A 五感を通して学ぶ

「アグリ・スタディ・プログラム」の目的を実現するため、第一に「見る (watch)」「聴く (listen)」「触る (touch)」「嗅ぐ (sniff)」「味わう (taste)」という五感を生かした栽培体験・飼育体験・食品加工体験・調理体験・食味体験等を大切にします。五感により人間は自分が「生きている」ことを明確に自覚することができます。そして、五感を通して学ぶことにより、子どもたちは言葉の理解だけでなく、自分の感覚と知識を結び付けた確実な学びを獲得することができるのです。



B 「アグリ魂」に学ぶ

第二に「アグリ魂」、すなわち「育てる」と「消費する」を結び付けて学習することを大切にします。人間が生きていくためには、「育てる」と「消費する」ことの両方の調和が重要です。私たちは、これを「アグリ魂」と呼びます。育てる体験とは、自分で植える、世話する、採取する、収穫することなどであり、消費する体験とは、自分で加工する、調理する、飲食する、作品を作るなどです。私たちは、そこに「育てる」・「消費する」ことに関して「見学調査する」と「発表する」を含めて考えています。アグリ魂による農業体験学習を行うことで、子どもたちは自分の口に入り自分の体を形成してくれているものが、どのように生産され、加工され、調理されるかを知ることができます。さらにその過程で生命の仕組みや生産の工夫に気付き、さらにそれらを使って学習の成果として作品化することにより、働くことや食べることの意味、さらには生きることの意味を自分のこととして考えることができるのです。

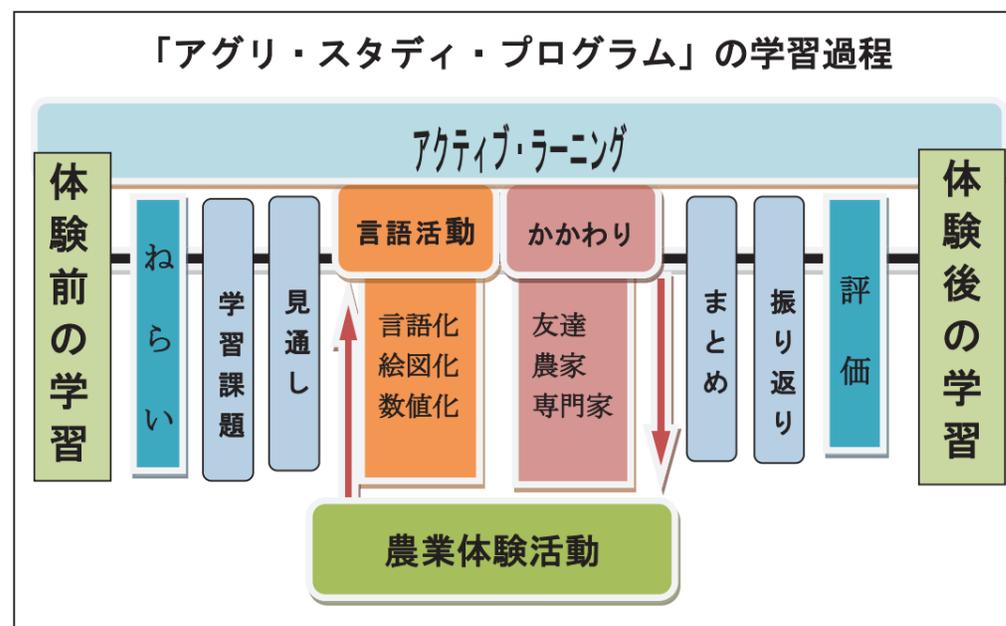


C 働くことを通して学ぶ

第三に汗を流して働くことを大切に学習を行います。子どもが将来の自分の生き方や仕事を考えるうえで、働く体験は欠かすことができません。特に農業は人間が生きるための基礎的な産業です。農業体験学習をすることで働く意味に気付き始めた子どもは、より広範囲な他の産業等の中から自分に適した仕事は何なのかを真剣に考えるようになります。そして、キャリア意識を高め、自分の将来を展望するきっかけを得ることができるのです。農業体験学習こそキャリア教育の原点です。

D 「アクティブ・ラーニング」で学ぶ

第四に「体験前の学習ー学習課題ー農業体験学習・言語活動・かかわりーまとめー体験後の学習」という、農業体験活動を明確に位置付けたアクティブ・ラーニングを推進します。その際、農業体験活動により得たことを言語化・絵図化・数値化する「言語活動」を位置付け、子どもたちの頭や心の中を可視化できるようにします。共通の農業体験をもった子どもたちは、可視化されたものを駆使して自分の思考を友達の思考と比べたり、自分の思考を修正したりしながら、自分の思考力を高めることができます。さらに、学習課題とまとめが正対した学習を続けることにより、体験と知識、体験と体験を結び付けて、一層確実な学びを子どもたち自身が実現することができるのです。



E 専門家に学ぶ

第五に子どもが水稻農家、畑作農家、果樹農家、酪農家や食品加工の専門家など、農と食の専門家に出会いながら学ぶ体験活動を大切にします。農業や食品加工の専門家に出会うことで子どもは、新潟の農業の素晴らしさは、これまで努力を重ね困難を解決してきた様々な人々により支えられていることを知ります。そして、自分たちが愛し誇るべき郷土新潟の中核は「人」であることに気付いてくれるようになるのです。そのため、たとえば新潟市アグリパークでは、子どもと専門家との出会いを効果的に行うことができるよう、教師・インストラクター・専門家・アグリパークパートナーがそれぞれ役割を明確にして学習を進めます。

教師・インストラクター・専門家・アグリパークパートナーの役割

○教師（引率教師）

- ・事前の学習活動とのつながりから学習課題を提示し、活動後、まとめ、振り返りを行う。
- ・子どもの学習態勢を整えたり、子どもの安全を管理したりする。
- ・教育に関する専門的知識・技能により、体験活動を体験学習に高めるため、タイムリーにインストラクターの進行等を補強するなど、授業を総合的に推進する。

○インストラクター（新潟市アグリパークスタッフ）

- ・教育に関する基礎的知識・技能により農業体験学習を進行する。
- ・農業・加工に関する基礎的知識・技能により農作業・食品加工等の演示や説明を行う。

○専門家（水稻農家、畑作農家、果樹農家、酪農家や食品加工業者）

- ・農業や加工に関する専門的知識・技能により、ゲストティーチャーとして専門家の立場から農作業・食品加工等の演示や説明を行う。

○アグリパークパートナー（農家のボランティアの方々）

- ・子どもたちがアグリパークで農作業や調理、食品加工などをする際に、活動を支援する。

(5) 農業体験活動を農業体験学習に高めるために

近年、子どもの家庭や地域での体験が不足しているという指摘がなされ、学校の教育活動に体験活動を取り入れることの重要性が指摘されました。そし

て、「生活」や「総合的な学習の時間」の創設等により、学校における体験活動は量的に拡大することになったのです。

その結果、体験と体験を結び付けて新しい知識を生み出していたり、体験と知識を結び付けて知識体系の中に位置付けていたりする優れた授業が開発され、子どもたちの力が飛躍的に伸びていく事例が多く報告されました。しかし、その反面、体験活動の重要性のみが喧伝された結果、体験さえさせればそれでよいという安易な考えが広まり、体験活動が多く取り入れられても、子どもに各教科等でねらう学習内容が獲得されていない、子どもに力が付いていないという指摘がなされるようになりました。

それは、農業体験活動についても同様でした。たとえば、小学校学習指導要領の小学校5年社会の内容に次の記載があります。

(2)に「我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする。

ア 様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること。

イ 我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色など

ウ 食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き

* 「小学校学習指導要領」

社会のいわゆる「農業単元」といわれる学習として、子どもたちが手で田植えをしたり、稲刈りをしたりする体験活動を取り入れた授業がよく見られます。しかしながら、それは上記学習指導要領の内容のどこに入るのでしょうか。可能性があるのは「ウ 食料生産に従事している人々の工夫や努力」ですが、「手による田植え・稲刈りの体験活動」は、学習指導要領でねらう現在の「食料生産に従事している人々の工夫や努力」を学ぶ活動としては不十分であると考えられます。小学校5年社会の時間を使って、5年社会の学習内容に不十分な体験をさせて、それで終わらせてはならないのです。

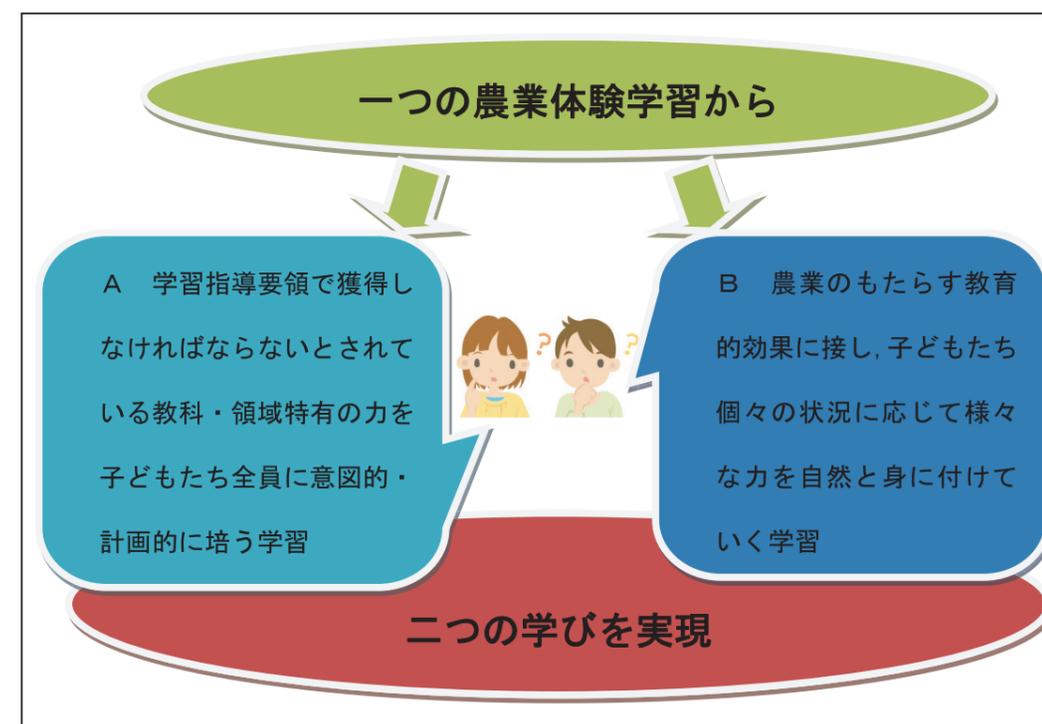
工夫や努力を学ばせるのであれば、手による田植えの体験活動と、同じ面積を田植え機で植える様子の観察後、両者を比較検討させることにより稲作における機械化の工夫を学ばせることで、ようやく工夫と努力に気付かせることができるのです。このように、体験活動の前後にあることを知らせたり、他の体験活動と結び付けさせたりして教育活動を構成していく中で、「手による田植え・稲刈りの体験活動」をするからこそ、子どもは小学校5年社会のねらいを

達成する学習をすることができるのです。すなわち、子どもが学習課題作りや学習課題解決、まとめの活動を行う際、体験活動と体験活動を結び付けたり、体験活動と知識を結び付けたり、知識と知識を結び付けたりさせることが重要なのです。

このような考えから、「アグリ・スタディ・プログラム」では、各教科等の目標の達成と内容の獲得を第一に考え、授業時間のねらいの達成を目指して、農業体験活動や写真、絵図等の関連資料などをていねいに準備するよう計画しました。

しかしながら、私たちは直接各教科等の目標と内容ではないけれども、農業体験活動がもつ教育的効果の大きさに着目しています。たとえば前述した「手による田植え・稲刈りの体験活動」は5年社会の学習としては不十分ですが、この体験活動により、子どもは土のぬくもりや土のエネルギーを感じて心が癒されたり、昔の農民の苦労や何百年にも渡ってそれを続けてきた新潟の農民の心意気を知り、郷土新潟を支えた人々に誇りをもったりするのです。それは、各教科等を超えたより広い教育作用として子どもに働き掛けるのです。

そのため、私たちは農業体験活動を農業体験学習に高めることを目指して、次のような2種類の学習を観点として「アグリ・スタディ・プログラム」を策定することにしました。



すなわち前述の5年社会の「農業単元」で「手による田植え・稲刈りの体験活動」を取り入れる場合、Aの学習とは、小学校社会5年の目標・内容にかかわる学習であり、機械による田植えや稲刈りの体験活動との比較により、農作業の機械化や水田の乾田化、耕地整理、水田1区画の拡大化など食料生産に従事している人々の工夫や努力を全員が理解する学習です。また、Bの学習とは、小学校社会5年の目標・内容を越えた学習であり、ある子どもは土のぬくもりや土のエネルギーを感じて心を癒したり、またある子どもは何百年にもわたって自然と闘い新潟市の農業を守り伝えてきた農民の心意気と忍耐強さを知り、郷土新潟市を支えた人々に誇りをもったりする学習です。

このような2種類の学びを必要十分条件とした学びを実現することが、農業体験活動を農業体験学習に高めることになるのです。

(6)「アグリ・スタディ・プログラム」で授業力を鍛える

今、教師に求められる授業力は、子どもの知識と知識、知識と体験、体験と体験を結び付けて考えさせることであり、子どもと他の子どもの知識と知識、知識と体験、体験と体験を結び付けて考えを深めさせ、新しいものを創造させることです。

しかし、残念ながら知識と体験を結び付けることに成功している教師はだんだんと減ってきているといわれています。それは、子どもたちの共通体験が減少してきたため、授業で個々の子どもの体験をとりあげても、話し合いが成立しにくくなっているからです。

「アグリ・スタディ・プログラム」は、子ども全員で農業体験活動を行い、共通体験をもったうえで、学習課題を全員で考え解決し、自分なりにまとめていく学習です。子どもが共通の体験活動をもとに考えるからこそ、話し合いが成立するのです。教員がこのような指導過程を構想し、インストラクターや専門家と打ち合わせをしながら体験活動を位置付けていくことが重要です。そして、メモや作文などの子どもの言語活動を見取っていく中で、子どもの思考を把握して授業を進めていくのです。このような授業づくりこそが、知識と知識、知識と体験、体験と体験を結び付けて新しい考えを創る子どもを育てるのです。

そして、このような授業を計画し、実践することを粘り強く続けることにより、教師は自らの授業力を鍛えることができます。新潟市の教員が、知識と知識、知識と体験、体験と体験を結び付ける高い授業力を有することを期待します。

3 支援体制の整備

(1) 施設にかかわる支援

「アグリ・スタディ・プログラム」を推進する拠点として、新潟市アグリパークを建設しました。私たちは、そのコンセプトを次のよう定めました。

新潟市アグリパーク 七つのコンセプト

新潟市アグリパークは、日本初の公立教育ファームであり、そのコンセプトは、次の七つです。新潟市アグリパークの施設・設備・プログラムは、この七つのコンセプトを具現するよう整備されていますし、今後も整備が進められていきます。

- 1 子どもたちが本格的な農業体験をすることができます。
- 2 子どもたちが持続可能な循環型の農業を学ぶことができます。
- 3 子どもたちが生きる力を培うため、体験と知識を結び付けた学習をすることができます。
- 4 子どもたちが農業体験、加工体験、食体験を関連付けた学習をすることができます。
- 5 子どもたちが郷土への誇りと愛情、命の大切さを学ぶことができます。
- 6 子どもたちが農業体験をとおしてキャリア意識を高めることができます。
- 7 子どもたちが農家のサポートを受けながら仲間と協力して絆を深めることができます。

1 子どもたちが本格的な農業体験をすることができます

新潟市アグリパークは、ショーウインド的な農業体験ではなく、本格的な農業体験ができる農場です。実際に子どもたちが牛の世話・搾乳・バターづくりをしたり、畑の耕起・蒔種・世話・収穫・調理をしたりすることができます。

そのため、たとえば新潟市アグリパークの牛乳や家畜の肉は、次のように加工され、子どもたちの口に入るなど、可能な限り実際の農場に近付けるようにしています。

- (1) 搾乳→業者へ渡し牛乳に加工して新潟市アグリパークへ→売店で販売したり、子どもたちが飲んだりします。
- (2) 豚・牛→業者へ渡し精肉し新潟市アグリパークへ→売店で販売したり、調理して食堂で提供したりします。
- (3) 豚・牛→業者へ渡し精肉し新潟市アグリパークへ→新潟市アグリパークでソーセージ加工→売店で販売したり、食堂で提供したりします。

2 子どもたちが持続可能な循環型の農業を学ぶことができます

新潟市アグリパークは、持続可能な農業を学ぶ施設であり、そこで行われるのは循環型の農業です。

そのため、たとえば家畜の糞などは乾燥・熟成され、堆肥として畑にまかれます。その堆肥によって栽培された農作物の一部は、家畜の飼料として再利用されるなど、循環型の農業が子どもたちの目に見えるようになっています。

さらに、ソーラー発電装置や雨水貯蔵など、使用エネルギーの一部分は自然エネルギーでまかなうように整備していきます。

また、宿泊棟の部屋ごとの使用電力量を表示するシステムを取り入れるなど、子どもたちが自らのエネルギー生活を振り返ることができるようにします。

3 子どもたちが生きる力を培うため、体験と知識を結び付けた学習をすることができます

新潟市アグリパークは、子どもたちが学習指導要領に基づき体験と知識を結び付ける学習を展開する施設です。

そのため、新潟市アグリパークでは、学習指導要領の内容にふさわしい農業体験学習や食体験学習を積極的に取り入れ、子どもたちの頭と体と心の中で体験と知識を結び付ける次のようなプログラムを作成し、各学校の実態に応じて提供しています。

- ・すべての農業体験活動が全教科領域のカリキュラムのどこに位置付くかが明確になったプログラム
- ・体験と知識を結び付ける指導方法や子どもの姿が明示されたプログラム

4 子どもたちが農業体験、加工体験、食体験を関連付けた学習をすることができます

新潟市アグリパークは、食べ物がどのようにして育てられ、どのように加工・調理されて、自分の口に入るかを学ぶことのできる施設です。

そのため、子どもたちが農業体験（栽培・収穫・飼育等）でかかわった農産物が加工・調理され、子ども自身の口に入るまでを体験できる施設・設備・プログラムを備えています。たとえば、プログラムの多くは、次のように作成されています。

- ・家畜の飼育世話体験→搾乳体験→チーズ・バター加工体験→食体験（食体験が最初にくる場合もあります）
- ・家畜の飼育世話体験→（精肉加工）→ソーセージ加工体験→調理体験→食体験（食体験が最初にくる場合もあります）
- ・野菜等の蒔種体験→栽培世話体験→収穫体験→下処理体験→調理体験→食体験（食体験が最初にくる場合もあります）

本来は、上記の活動で世話をした家畜の肉をソーセージにしたり、種蒔きをした枝豆を収穫したりして食する体験が望ましいのですが、訪問回数や時間等の関係で事実上不可能です。そのため、新潟市アグリパークでは、複数の学校がリレー形式で一つの農作物を育てる「アグリ・リレー・プロジェクト」というシステムを設けました。これは、A校が耕起した畑にB校が播種し、C校が灌水・防除し、さらにD校が収穫・調理して食べるというものです。このように、多様な農作物をリレー形式で何区画も栽培することにより、他の学校が育てた農作物を収穫させてもらい調理して食べる代わりに、自分たちが他の農作物を灌水・防除して次の学校に収穫を委ねるなど、限られた時間で農業体験と食体験の両方を行うことが可能となります。

5 子どもたちが郷土への誇りと愛情、命の大切さを学ぶことができます

新潟市アグリパークは、子どもたちが新潟市の農家の英知を集めたすばらしい農業を体験して郷土への誇りと愛情を培ったり、飼育・栽培を通して動植物の命を実感し人間が命をいただいて生きているという命の学習をしたりする施設です。

そのため、次のような施設・設備・プログラム等を整えるようにします。

- ・家畜の観察・世話を十分にできる広さを備えた施設
- ・家畜の出産や家畜の出荷の様子を観察できる施設
- ・腰までぬかる泥田整備
- ・土地改良の物語など新潟市の農業の努力と工夫が分かる展示等の環境整備
- ・新潟市アグリパークを含む市内で収穫した健康な農作物を材料とした農家レストランによる食事の提供
- ・子どもが生命を実感できるプログラム
- ・新潟市の農業のすばらしさを感じることでできるプログラム
- ・「新潟市アグリブランド」等の特産物の販売

6 子どもたちが農業体験を通してキャリア意識を高めることができます

新潟市アグリパークは、子どもたちが農業に接し、自らの将来の仕事を考えるキャリア教育の機会を提供する施設です。さらに、学校教育で農業体験学習を行った後、自分だけの農の「物語」を紡ぐため、家族やグループで何度も繰り返し訪れ、自分と農業とのかかわりについて考えることのできる「里」のような施設です。

そのため、すばらしい農家の方々と接したり、農業の楽しさや農業に挑戦したりすることができるよう、次のような取組を進めていきます。

- ・小規模学校の利用や家族の利用に主眼をおいた宿泊棟の建設
- ・大規模学校の利用に主眼をおいた学年規模の宿泊棟の建設
- ・農業の楽しさや農業に挑戦するプログラムの作成
- ・ロールモデルとなるすばらしい農家の方々と接する機会の提供

7 子どもたちが農家のサポートを受けながら仲間と協力して絆を深めることができます

新潟市アグリパークは、子どもたちが安心できる施設の中で、農家の方々の力を借りながら仲間と協力し合うことで農業体験活動をやり遂げ、食材調達から加工・調理、そして食事まで「同じ釜の飯を食う」ことにより、互いの絆を深め合う施設です。

そのため、次のような施設・設備・プログラム等の充実を進めていきます。

- ・防犯設備等の整備
- ・街灯等の設置
- ・周辺農家の方々をボランティアとして組織化するシステム
- ・看護師等の配置
- ・救急医療体制整備
- ・安全のための人員体制の整備
- ・協力し合わなければうまくいかないような農業体験・食品加工体験などのプログラムの工夫
- ・協力すると充実感が倍加するような農業体験・食品加工体験などのプログラムの工夫

(2) プログラムにかかわる支援

① 新潟市アグリパーク等の施設

a ていねいな打ち合わせの実施

アグリパーク等では、子どもたちに実感を伴った確かな学びを実現するため、ていねいな打ち合わせを大切にしています。

アグリパーク等での打ち合わせは、次の三つの観点で行います。

① 子どもの思考の流れについて

農業体験活動にとどまることなく農業体験学習を実現できるよう、学習課題－アクティブラーニング－まとめの一連の流れの中で、学校の教師とインストラクターの役割をどう分担するか打ち合わせます。

具体的には、打ち合わせにおいて、教師はアグリパーク等に来る前に、どのような学習課題を設定しておくか、インストラクターは当日、どのような資料やワーク用紙を準備してどのように進行するか、体験活動の途中で教師はどのようにかかわるのか、体験活動の後、教師はどのように子どもにメモさせ、感想を言わせ、どのようにまとめさせるかなどを明確にします。

② プログラム、人数、料金等について

農業体験学習を効果的に行うことができるよう、プログラム内容の種類、利用人数、利用時間、利用料金を打ち合わせます。なお、アグリパーク等のプログラム体験料は、原材料等の活動実費を基本として決められています。

③ 安心・安全について

子どもたちが安全・安心に農業体験学習を行うことができるよう、非常口等非常時の対応、医療体制、食物アレルギーへの対応等を打ち合わせます。時間的に余裕をもった計画をつくるのが、安全・安心につながります。

b プログラムの実施

新潟市アグリパーク等の施設では、その施設ならではの体験活動を取り入れたプログラムを用意し、学校の教育活動のねらいに応じてプログラムを選択できるよう支援します。具体的には、学校の先生方の指導のもと施設のインストラクターが進行し、それぞれの各教科等のねらいが達成できるようプログラムを実施します。

c 学校の要望を取り入れた修正プログラムの実施

新潟市アグリパーク等の施設では、学校の要望によりプログラムを可能な限り修正し、学校の教育活動のねらいと「アグリ・スタディ・プログラム」の趣旨により即した形で学習が行われるよう支援します。具体

的には、まずインストラクターが学校とていねいに打ち合わせを行って学習のねらいに応じてプログラムを修正し、役割分担を確認したうえで、修正プログラムを実施します。

幼稚園や保育園が、小・中学校のアグリパークツアーズの中の体験を希望する場合は、幼稚園・保育園プログラムを実施した上でアグリパークツアーズのプログラムをオプションとして活用願います。

d 学校と共同開発したプログラムの実施

新潟市アグリパーク等の施設の専門的知識を有する者が学校と一緒に教材研究等を行い、新規にプログラムを開発・実施できるよう支援します。

② 各学校・園

a 学校・園へ出向くプログラムの実施

校内の学級園や学校教育田も大切な教育ファームです。「アグリ・スタディ・プログラム」のプログラムの中には、新潟市アグリパーク等施設のスタッフが学校へ出向いて支援するものもあります。

b 学校と農業関係者をつなぐ支援

生産、販売、加工、研究などの様々な分野で、農業の発展に向けて活躍している人たちがたくさんいます。新潟市アグリパーク等の施設では、学校の教育活動のねらいに応じた農業関係者を紹介するなど、各学校の農業体験学習が無理なく推進されるよう支援します。

③ 情報提供

「アグリ・スタディ・プログラム」実践の様子、成果や課題等の情報提供を適宜行っていきます。

(3) 経費に関する支援

新潟市の幼稚園・保育園、小学校、中学校、特別支援学校が「アグリ・スタディ・プログラム」などを利用する際の交通費・宿泊費等を支援します。

1 アグリ・スタディ・プログラム関係

アグリパークでの体験



(1)	事業名	アグリパークでの宿泊農業体験学習【宿泊】
	内容	アグリ・スタディ・プログラム集に基づく特別活動などにおけるアグリパークでの宿泊を伴う農業体験学習
	具体例	小学校アグリパーク・ツアーズ(宿泊編)＜小学校 4～6年 特別活動[学校行事]＞ 中学校アグリパーク・ツアーズ(宿泊編)＜中学校 全学年 特別活動[学校行事]＞ アグリツアーを成功させよう！(宿泊)＜特別支援学校 中学部 特別活動[学校行事]＞
	対象	小学生・中学生
	支援内容	①講師謝礼 ②宿泊費 ③交通費
	助成金額	①・②全額市が助成 ③1学年のみで、1学級につき60,000円、年1回まで ・食事代、体験費は参加者負担



(2)	事業名	アグリパークでの日帰り農業体験学習【日帰り】
	内容	アグリ・スタディ・プログラム集に基づく社会や理科などにおけるアグリパークでの日帰りの農業体験学習
	具体例	牛さん ありがとう！＜幼稚園・保育園 環境＞ まるごとかんじて ストロベリーデイ！＜小学校 2年 生活＞ 農業が感動に変わる職場体験学習＜中学校 全学年 総合的な学習の時間＞ あいにいこう！『HOT ほっと』あにまる ZOO！！＜特別支援学校 小学部 生活＞
	対象	園児・小学生・中学生
	支援内容	①講師謝礼 ②交通費
	助成金額	①全額市が助成 ②各学年1学級につき30,000円、年3回まで※ ・体験費は参加者負担 (園児の場合は年1回まで※)

※「年3回まで」とは、アグリパーク【日帰り】、近隣農家【日帰り】、いくとびあ食花【日帰り】を合せた回数(園児の場合は、アグリパーク【日帰り】といくとびあ食花【日帰り】)

学校・園や地域での体験

(3)	事業名	近隣農家での農業体験学習【日帰り】	
	内容	アグリ・スタディ・プログラム集に基づく 社会などにおける地域の農家での農業体験学習	
	具体例	そうだったの！冬咲きチューリップの秘密<小学校 3年 社会> 日本で一番！アート新潟園芸<中学校 全学年 総合的な学習の時間>	
	対象	小学生・中学生	
	支援内容	①講師謝礼 ②交通費	
	助成金額	①全額市が助成 ②各学年1学級につき30,000円、年3回まで* ・体験費は参加者負担	

(4)	事業名	園庭を活用した食育・農業体験	
	内容	アグリ・スタディ・プログラム集に基づく 幼稚園・保育園の園庭での微生物と野菜くずを 活用した土づくり・野菜づくり	
	具体例	菌ちゃん元気な野菜づくり<幼稚園・保育園 環境>	
	対象	園児	
	支援内容	①講師謝礼 ②必要機材 ・食育・花育センターと連携して、食習慣や 生活習慣を改善する「食改善プロジェクト」も 並行して実施可	
	助成金額	①・②全額市が助成	

いくとぴあ食花での体験

(5)	事業名	いくとぴあ食花での日帰り食育・花育等体験学習【日帰り】	
	内容	アグリ・スタディ・プログラム集に基づく 総合的な学習などにおけるいくとぴあ食花での食育・花育等体験学習	
	具体例	朝ごはん元気いっぱい<幼稚園・保育園 健康> めざせ！花いくミニマスター！<小学校 1・2年 生活> 食花ハローワーク<中学校 全学年 総合的な学習の時間> 植物にふれよう・つくろう ～花びらが大変身！～(春編)<特別支援学校 中学部 生活>	
	対象	園児・小学生・中学生	
	支援内容	①講師謝礼 ②交通費	
	助成金額	①全額市が助成 ②各学年1学級につき30,000円、年3回まで* ・体験費は参加者負担 (園児の場合は年1回まで*, なお、親子で参加する 「朝ごはん元気いっぱい」は1学級につき60,000円)	

2 その他教育ファーム関係

学校や地域での体験

(1)	事業名	学校教育田【日帰り】	
	内容	社会科や総合的な学習における学校教育田での米づくり等の体験学習	
	具体例	5月：田植え、7月：生育調査、9月：稲刈り など	
	対象	小学生・中学生	
	支援内容	①設置に係る費用 ②学校教育田への移動に係る交通費	
	助成金額	①JAへの補助金(176,000円/10a) ②徒歩で移動ができない学校のみ。 1学級につき30,000円、年3回まで	

宿泊を伴う
農林漁業の現場での体験

(2)	事業名	子ども農山漁村交流プロジェクト【宿泊】	
	内容	市内での宿泊を伴う農林漁業体験	
	具体例	県立青少年研修センター等に泊まって、市内農家での農業体験や早朝の地引網体験 (アグリパークでの体験も含む)	
	対象	小学3年生～6年生	
	支援内容	①講師謝礼 ②宿泊代 ③交通費	
	助成金額	①全額市が助成 ②全額市が助成。農林漁家民宿や地域の特色ある 宿泊施設、民泊など(青少年教育施設は除く) ③1学年のみで、1学級につき60,000円、年1回まで ・食事代、体験費は参加者負担	

いくとぴあ食花での体験

(3)	事業名	いくとぴあ食花団体体験プログラム【日帰り】	
	内容	食や花に親しみ、創造性を養い、動物についての 理解を深める体験プログラム	
	具体例	食育・花育センターにおける食や草花に関する体験、こども創造センターにおける 創作活動、動物ふれあいセンターにおける動物との触れ合い など	
	対象	園児・小学生・中学生	
	支援内容	①交通費(バス代)	
	助成金額	①1団体につきバス1台30,000円、 2台まで、年1回まで ・体験費は参加者負担	

*P23～25の支援内容は平成28年度のもので、年度により変動することがあります。

アグリパークを日本の食育の聖地に！

日本で初めて、公設の教育ファームを立ち上げ、関係者の皆様にはその運営や推進に大変なご努力やご尽力されていることに唯々頭の下がる思いです。

新潟市のアグリパークでの教育ファームとしての取組は、日本における食育の聖地として必ず県内外から評価される施設になると信じています。

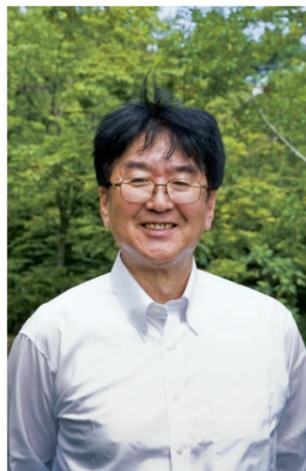
それは今までにない教育プログラムを教育委員をはじめ新潟市の教育関係者の皆様が一枚岩になって、学習指導要領に則ったプログラム「アグリ・スタディ・プログラム」を作成されたことです。いわばバイブルを創ったことに意義があるのです。このファームにおいて、このプログラムで体験学習をされた子どもたちは必ずや心身ともに健康で健全に育つと信じています。

食べ物の本質を知り、野菜や果樹や家畜から命を学び、食べ物に感謝する心が芽生えること。また小さな種から芽を出し成長する植物や家畜の子孫継承などの生命科学の不思議さに驚きや感動を覚え、そしてその不思議さに興味や感心を抱き、自主的に勉強をし始め、そして学習能力が自然と身に付くこと。

生まれ故郷新潟の農業や食に触れ、新潟の食の素晴らしさを知り、またその基になる農業の大切さを知り、郷土を誇りに持ち、そして郷土をこよなく愛すること。このような精神を持った子どもたちに成長して頂ける素晴らしい学習プログラムだと思っています。

是非、これからも食と農を結びつける食育の聖地として皆様のますますのご健闘とご活躍お祈り申し上げます。

株式会社伊賀の里モクモク手づくりファーム 会長 木村 修
(アグリパーク整備アドバイザー)



Ⅱ プログラム

プログラム一覧	28
プログラムの見方	44
1 小学校編	49
(1) アグリパーク	49
(2) いくとぴあ食花 (※ 食育・花育センター, こども創造センター, 動物ふれあいセンター)	209
(3) 近隣農家	243
(4) 学校教材園	253
(5) 学校教育田	(88)
2 中学校・中等教育学校編	277
3 特別支援学校編	345
4 幼稚園・保育園編	391
5 適応指導教室編	439
付) P T A 編	445

アグリ・スタディ・プログラム一覧

1 小学校編プログラム	
(1)アグリパーク	学習指導要領上の位置付け
① そうだったの！土のひみつ	1・2年 生活 *生活の内容(7)「動植物の飼育・栽培」
② おいしい 楽しい おやさいマジック (命の源, 土作り編)	1・2年 生活 *生活の内容(7)「動植物の飼育・栽培」
③ おいしい 楽しい おやさいマジック (パーティー編)	1・2年 生活 *生活の内容(7)「動植物の飼育・栽培」, (9)「自分の成長」
④ まるごとかんじて ストロベリーデイ!	1・2年 生活 *生活の内容(5)「季節の変化と生活」, (9)「自分の成長」
⑤ かしい消費者になろう ~畑から食卓へ, おいしい野菜をとどけたい~【見直そう わたしたちの買い物】	3年 社会 *社会の内容(2)「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」ア
⑥ かしい消費者になろう ~畑から食卓へ, おいしい野菜をとどけたい~【調べよう ものを作る仕事】	
⑦ 新潟おいしい果物物語	3・4年 社会 *社会の内容(2)「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」イ
⑧ 季節によって違うのですか?	4年 理科 *理科の内容B「生命・地球」(2)季節と生物
⑨ 昔の泥田に入ろう	3・4年 社会 *社会の内容(5)「地域の古い道具, 文化財や年中行事, 地域の発展に尽くした先人の具体的事例」
⑩ 果樹園はどんな場所?	3・4年 社会 *社会の内容(5)「地域の古い道具, 文化財や年中行事, 地域の発展に尽くした先人の具体的事例」
⑪ アグリ教育田:にいがたお米No.1! (田植え編)	
⑫ アグリ教育田:にいがたお米No.1! (草取り編)	5年 社会 *社会の内容(2)「我が国の農業や水産業(食料生産)の様子と国民生活との関連」ウ
⑬ アグリ教育田:にいがたお米No.1! (稲刈り編)	
⑭ おいしさの秘密を探せ ~野菜と家畜から学ぶ生命の循環~	5年 社会 *社会の内容(2)「我が国の農業や水産業(食料生産)の様子と国民生活との関連」ウ
⑮ 畜産農家の工夫をさがそう!	5年 社会 *社会の内容(2)「我が国の農業や水産業(食料生産)の様子と国民生活との関連」ウ
⑯ そうだったの! めしへの秘密!	5年 理科 *理科の内容B「生命・地球」(1)「実や種子のでき方」
⑰ ありがとう・いただきます ~家畜から学ぶ, いのちのあたたかさにつながり~	6年 理科 *理科の内容B「生命・地球」(1)「人の体のつくりと働き」
⑱ 見つけて 感じて ~動物となかよし~	全学年 図画工作 *図画工作の内容A表現(2)
⑲ まかせてね今日の食事 ~アグリ定食を作ろう~	6年 家庭 *家庭の内容B「日常の食事と調理の基礎」(3), D「身近な消費生活と環境」(2)
⑳ ありがとう・いただきます ~道徳編~	6年 道徳 *道徳の内容3-(2)(D-(20))
㉑ 稲も家畜も, 私たちのために	5年 総合的な学習の時間 *学習課題:「横断的・総合的な課題」
㉒ 大豆は, ホントに大事な豆	3~5年 総合的な学習の時間 *学習課題:「横断的・総合的な課題」
㉓ 考えてみよう! 米粉からお米のこと	5年 総合的な学習の時間 *学習課題:「横断的・総合的な課題」
㉔ そうだったの! 牛乳に秘められた命の恵み!	3~6年 特別活動[学級活動]共通事項 (2)「日常生活や学習への適応及び健康安全」キ「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」

主な体験活動 ※このような体験活動と適切な学習課題, 学習のまとめ等を構成してプログラム化しています。	1人あたり 料金 (税込)	総時間 (うち体験学習 時間)
よい土調べ体験⇒よい土クイズ(まとめ)⇒堆肥場めぐり, 牛のえさやり体験⇒土作り体験	30円	13時間 (3時間)
よい土調べ体験(1)⇒よい土調べ(2)⇒堆肥場めぐり, 牛のえさやり体験⇒土作り体験	30円	18時間 (3時間)
野菜の観察(1)⇒野菜の観察(2)⇒野菜の収穫⇒ピザ作り⇒牛へお礼のえさやり	260円	16時間 (4時間)
イチゴつみ, 食味体験⇒(受粉体験)⇒いちご大福づくり体験	160円	17時間 (4時間)
【販売者の工夫や思いについて考える】直売所見学⇒野菜の収穫体験⇒調理・試食体験⇒野菜の下処理と販売準備体験	40円	14時間 (4時間)
【生産者の工夫や思いについて考える】直売所見学⇒野菜の収穫体験⇒調理・試食体験⇒野菜の下処理と販売準備体験	40円	13時間 (4時間)
梨園体験と聞き取り調査⇒食味, クイズ, 収穫体験⇒カード製作, ラッピング	370円	8時間 (3時間)
野菜探しくイズ体験⇒季節の野菜料理作り⇒お礼の活動(除草等)	80円	29時間 (4時間)
昔の農具調査⇒泥田体験	要相談	15時間 (4時間)
梨もぎ体験⇒梨畑の地形調べ	370円	16時間 (2時間)
手植えで田植え体験⇒機械植えの見学	10円	18時間 (3時間)
除草体験	10円	18時間 (2時間)
コンバインの稲刈り見学⇒手刈り, はざかけ体験⇒千歯こき体験	10円	18時間 (4時間)
農地の観察⇒野菜の食味体験⇒堆肥観察体験⇒堆肥探索体験	40円	17時間 (2時間)
ブラッシング体験⇒搾乳体験⇒聞き取り調査	70円	17時間 (2時間)
ルーペで実の観察, 収穫体験⇒スコープで実の観察, 切って観察⇒食味・果樹農家の話・種数え	440円	11時間 (2時間)
家畜の世話と観察⇒搾乳体験と試飲⇒清掃体験	70円	17時間 (3時間)
動物とのふれあい体験⇒動物の絵を描く	70円	9時間 (3時間)
旬の野菜の収穫体験⇒調理体験⇒土作り体験	440円	12時間 (5時間)
(家畜の世話と体験⇒搾乳体験と試飲⇒清掃体験)⇒自然愛, 動植物愛護の「道徳」の授業	無料	1時間
家畜の観察・世話体験⇒食肉加工体験⇒清掃体験	390円	56時間 (4時間)
土作り⇒大豆の種まき⇒大豆生産者にインタビュー⇒味噌作り 脱穀⇒大豆加工品作り⇒味噌おにぎり作り	140円/100g (大豆を持ち 込む場合115 円)	37時間 (4時間) (4時間)
米粉作り⇒米粉・小麦粉比べ1(調理)⇒米粉・小麦粉比べ(食味)⇒米粉開発関係者の話	140円	16時間 (4時間)
牛乳クイズ, 畜産農家の話⇒搾乳体験(・子牛とのふれあい)⇒牛乳の試飲⇒クイズ・調べ学習・畜産農家の話	70円	5時間 (3時間)

1 小学校編プログラム	
(1) アグリパーク	学習指導要領上の位置付け
⑮ アグリパーク・ツアーズ ～日帰り編～	全学年 特別活動〔学校行事・遠足〕
⑯ アグリパーク・ツアーズ ～宿泊編～	4～6年 特別活動〔学校行事・遠足〕
【アグリパークツアーズプログラム】	
入村式・退村式(日帰り)	全学年 特別活動〔学校行事〕 *特別活動〔学校行事〕の内容(4)遠足・集団宿泊的行事、 (5)勤労・奉仕的行事
入村式・退村式(宿泊)	
① アグリ探検隊	
② アグリオリエンテーリング	
③ 循環型農業探検隊	
④ 循環型農業オリエンテーリング	
⑤ 農業道場	
⑥ 農業活性化研究センター見学(限定プログラム)	
⑦ 搾乳と試飲・世話	
⑧ 牛の世話と牛乳の試飲	
⑨ トウモロコシの試食と堆肥ウォッチング・家畜のエサやり	
⑩ 羊や牛の見学とウイナーソーセージ作り・試食	
⑪ 搾乳とアイスクリーム作り・試食	
⑫ 搾乳とバター作り・試食	
⑬ 昔の農家の子どもになろう(野菜の収穫と試食)	
⑭ 畑の耕起と収穫・簡単調理・試食(アグリ・リレー・プロジェクト)	
⑮ 畑の種まきと収穫・簡単調理・試食(アグリ・リレー・プロジェクト)	
⑯ 野菜の世話と収穫・簡単調理・試食(アグリ・リレー・プロジェクト)	
⑰ 野菜の収穫と調理・試食	
⑱ 家畜の世話とスケッチ	
⑲ 野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食(初級編)	
⑳ 野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食(上級編)	
㉑ 野菜の収穫とあいもん団子作り・試食	
㉒ 枝豆収穫と試食	
㉓ 雪下野菜収穫と調理・試食	
㉔ トウモロコシ収穫と焼きトウモロコシ作り	
㉕ 野菜の収穫と生ジュース作り・試飲	
㉖ 芋の収穫と焼きも・試食	
㉗ 野菜の収穫と鍋料理体験・試食(冬メニュー)	

主な体験活動 ※このような体験活動と適切な学習課題、学習のまとめ等を構成してプログラム化しています。	1人あたり 料金 (税込)	総時間 (うち体験学習 時間)
学校集合 ⇒ バスで学校出発 ⇒ 入村式 ⇒ 午前の活動 ⇒ 午後の活動 ⇒ 退村式 ⇒ バスでアグリパーク出発 ⇒ 学校着	選択した体験活動に応じて	7時間 (5時間)
■1日目 学校集合 ⇒ バスで学校出発 ⇒ 入村式 ⇒ 午前の活動 ⇒ 昼食 ⇒ 午後の活動 ⇒ 入浴 ⇒ 夕食 ⇒ 夜の活動 ⇒ 就寝 ■2日目 起床 ⇒ 朝飯前の活動 ⇒ 朝食 ⇒ 午前の活動 ⇒ 昼食 ⇒ 午後の活動 ⇒ 退村式 ⇒ バスでアグリパーク出発 ⇒ 学校着	選択した体験活動に応じて	1泊2日
①～④の料金は学校で資料を印刷する場合は無料です。		
入村式:めあてを確認し、思い出に残る行事にするため準備を整える。 退村式:アグリパークでの生活をふり返り、集団生活で大切にすべきことを再確認する。	無料	(10分+15分) (35分+15分)
全員でまとまってパークを回り、「育てるー消費する」に関するクイズに答えながら農業と人間の関係について見聞を広げる。	10円	(45分)
グループで協力してパーク内を回り、「育てるー消費する」に関するクイズで点数を競いながら農業と人間の関係について見聞を広げる。	1グループ 10円	(90分)
全員でまとまってパークを回り、「育てる⇒消費する⇒育てる」に関するクイズに答えながら農業と人間の関係について見聞を広げる。	10円	(45分)
グループでパーク内を回り、「育てる⇒消費する⇒育てる」に関するクイズで点数を競い、農業と人間の関係について見聞を広げる。	1グループ 10円	(90分)
自分が食べているものが、耕すー畝を作るー植えるー世話するなど、どのような農業技術により作られたかを体験し、見聞を広げる。	無料	(45～90分)
農業活性化研究センターを見学し、農業研究について見聞を広める。※計画段階でアグリパークに要相談	無料	(45分)
搾乳して試飲した後、牛のブラッシング、餌やり、畜舎清掃等を行うことにより、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。	80円	(90分)
牛等のブラッシング、餌やり、畜舎清掃等を行った後、牛乳を試飲することにより、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。	80円	(45分)
堆肥ができるまでを観察し、その原料を生産してくれる家畜にお礼のエサやりを行うことにより、持続可能な循環型農業を理解する(堆肥のお土産付き)。	30円	(90分)
ケーシングの材料になる腸を持つ羊や牛を見学した後、ウイナーソーセージ作りを行うことにより、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。	390円	(200分)
牛や山羊の搾乳を行った後、アイスクリームを作り、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に作った物を食べる楽しさを感じる。	210円	(145分)
牛や山羊を搾乳した後、バターを作りを行うことにより、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。	130円	(135分)
昔の農家の子どももたしたように、畑でキュウリ、トマト等すぐにかぶりつける野菜を収穫し、豪快に試食する。	10円	(45分)
土起こし・畝作りなどを行った後、別の畑で収穫し、簡単な調理をして試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。	90円	(145分)
種まきなどを行った後、別の畑で収穫し、簡単な調理をして試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。	90円	(145分)
水やりや草取り等の農作業を行った後、別の畑で収穫し、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。	90円	(145分)
野菜の収穫を行った後、調理を行い、試食することにより、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさに気付く。	90円	(100分)
家畜の世話や見学してからスケッチをすることにより、家畜に愛着を覚え、質感豊かな絵を描く。	30円	(90分)
収穫した野菜などを材料に石窯ピザを作り、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。	250円	(90分)
薪割り⇒火入れ⇒野菜収穫⇒石窯ピザ作り⇒試食により、どのようにして農産物からおいしい食べ物に変えてきたかに気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。※中学以上	250円	(135分)
アグリリレープロジェクト等での野菜を使って、あいもん団子を作り試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した物を食べる楽しさを感じる。	290円	(180分)
枝豆を収穫し、茹でて試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。	30円	(90分)
雪の中から野菜を掘り出し、調理して試食することにより、自然の力に気付くとともに、友達と一緒に収穫した野菜を飲食する楽しさを感じる。	40円	(90分)
トウモロコシを収穫し、焼いて試食することにより、農業の果たす役割に気づくとともに、友達と一緒に収穫した物を食べる楽しさを感じる。	40円	(100分)
野菜の収穫を行い、それを使ってジュースを作り、試飲することにより、農業の果たす役割に気づくとともに、友達と一緒に収穫した野菜のジュースを飲む楽しさを感じる。	90円	(90分)
芋を収穫したり、アグリリレープロジェクトの芋を使ったりして、焼きいもを作り、試食することにより、農業の果たす役割に気づくとともに、友達と一緒に収穫した物を食べる楽しさを感じる。	40円	(90分)
収穫した野菜やアグリリレーの野菜などを使って鍋料理を作り、みんなで鍋をつついて試食することにより、農業の果たす役割に気づくとともに、友達と一緒に収穫した物を食べる楽しさを感じる。	250円	(90分)

⑳野菜の収穫とカレー作り・試食	
㉑豆の見学と豆腐作り・試食	
㉒麦の見学とパン作り・試食	
㉓イチゴ摘みとイチゴ大福作り・試食	
㉔かまどの話とかまど米炊き・おむすびの試食	
㉕お餅の話と餅つき・試食<宿泊メニュー>	
㉖笹団子の話と笹団子作り・試食	
㉗生ごみが奇跡を起こす！	
㉘わら細工に挑戦しよう！	
①+αプログラム・野菜を調べて新潟の農業について知ろう！（①の+αメニュー）	
②+αプログラム・ミニトマトの食べ比べ（⑬～⑰の+αメニュー）	
③+αプログラム・アグリフォイル焼き（⑲、⑳の+αメニュー）	
④+αプログラム・専門家のお話（全プログラムの+αメニュー）	
⑤+αプログラム・読み聞かせ（全プログラムの+αメニュー）	
夜の活動①農家の夜語り	
夜の活動②農業夜話	
夜の活動③星空観察と農業話	
夜の活動④アグリで肝試し	
朝飯前の活動①家畜ブラッシング	
朝飯前の活動②家畜のエサやり・畜舎清掃	
朝飯前の活動③畑作物の水やり・草取り	
朝飯前の活動④野菜の芽かき・葉かき	

全学年 特別活動[学校行事]
*特別活動[学校行事]の内容(4)遠足・集団宿泊的行事、
(5)勤労・奉仕的行事

収穫した野菜を使って、カレーライスを作り、試食することにより、友達と一緒に調理したものを食べる楽しさに気づく。	440円	(135分)
アグリレープロジェクトの豆を使って、豆から豆腐を作り、試食することにより、友達と一緒に食品加工した物を食べる楽しさに気づく。	100円	(135分)
麦の様子を見学した後、パン作りを行い、試食することにより、友達と一緒に食品加工したものを食べる楽しさに気づく。	120円	(135分)
収穫したイチゴを使ってイチゴ大福を作り、試食することにより、農業の果たす役割に気づくとともに、友達と一緒に加工したイチゴ大福を食べる楽しさを感じる。	160円	(105分)
かまどをつかってご飯をたき、おにぎりを作って、試食することにより、昔の農家の生活を知るとともに、「同じ釜の飯」を食べる連帯感を感じる。	130円	(135分)
アグリパーク周辺の水田のもち米で兎杵と臼を使って餅をつき試食することにより、農業の果たす役割に気づくとともに、友達と一緒に搗いた餅を食べる楽しさを感じる。	150円	(180分)
収穫したりアグリレープロジェクトの等を使ったりして笹団子を作り、試食することにより、友達と一緒に食品加工した物を食べる楽しさを感じる。	350円	(180分)
自分たちが調理で出した生ごみを、微生物の働きですばらしいものに変化させる経験を通して、循環型農業に関心をもつとともに、持続可能な社会を作る重要性に気づく。	40円	(45分)
昔の農民が夜仕事に行ったわら細工に挑戦し、昔の農業が、稲⇒わら⇒わら細工製品⇒<使用>⇒堆肥⇒水田⇒稲の循環により成り立っていたことに気付く。※中学以上	わら代など	(180分)
「①アグリ探検隊」のプラスαプログラム	無料	(90分)
「⑩畑の耕起と収穫・試食」のプラスαプログラム	20円	(30分)
「⑮野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食(初級編)」及び「⑯野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食(上級編)」のプラスαプログラム	20円	(80分)
すべてのプログラムについて、専門家から話をしていただき、農業や加工の意味づけを行うことができる。30分～100分	無料	(30～100分)
読み聞かせの専門家から活動に関係のある本を読んでもらう。	無料	(25～75分)
農家の方から農作業に関するお話や伝説を聞く。	無料	(45分)
新潟の農業や農業の歴史について専門家の方から話を聞く。	無料	(50分)
星の運行と農作業についての話を聞き、星空観察をする。	無料	(70分)
通過儀礼として農村に伝わる肝試しを体験する	無料	(70分)
家畜のブラッシング体験をする	20円	(30分)
家畜のエサやりと、畜舎の清掃を体験する	40円	(30分)
旗作物の水やり・草取り体験を行う	10円	(30分)
野菜の手入れを体験する	10円	(30分)

1 小学校編プログラム	
(2)いくとびあ食花	学習指導要領上の位置付け
①めざせ！花いくミニマスター！【食育・花育センター】	1・2年 生活 *生活の内容(5)季節の変化と生活, (6)自然や物を使った遊び
②動物さんたち何をしているの？【動物ふれあいセンター, こども創造センター】	1・2年 図画工作 *図画工作の内容A表現(2)
③食育・花育センターの秘密【食育・花育センター】	3～6年 総合的な学習の時間 *学習課題:「横断的・総合的な課題」
④つくって学ぶ命【動物ふれあいセンター, 食育・花育センター, こども創造センター】	5年 総合的な学習の時間 *学習課題:「横断的・総合的な課題」
⑤めざせ！和食で“家庭遺産”@いくとびあ【食育・花育センター】	5・6年 家庭 *家庭の内容B(2)「栄養を考えた食事」, 家庭の内容B(3)「調理の基礎」
⑥ペットの幸せ～動物愛護・ふれあいセンターの取組～【動物愛護センター, 動物ふれあいセンター】	6年 特別活動・道徳 *特別活動[学校行事]共通事項(4)遠足・集団宿泊的行事 *道徳の内容3-(1), 3-(2)(D-(19), (20))
⑦卒業に向けて～台所でひとり立ち～【食育・花育センター】	6年 総合的な学習の時間 *学習課題:「横断的・総合的な課題」
(3)農家	学習指導要領上の位置付け
①そうだったの！冬咲きチューリップの秘密	3年 社会 *社会の内容(2)「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」イ
②おいしい柿づくりのひみつ	3年 社会 *社会の内容(2)「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」イ
(4)学級教材園	学習指導要領上の位置付け
①教材園に今日行く, 明日行く, 共に育(ヘチマ栽培)	4年 理科 *理科の内容B「生命・地球」(2)イ「植物の成長」
②SVカレー de おもてなし in 学級菜園	6年 総合的な学習の時間 *学習課題:「横断的・総合的な課題」
③伝統野菜を, 育てて・食べちゃおう!	6年 総合的な学習の時間 *学習課題:「横断的・総合的な課題」
④生ごみが奇跡を起こす! ごみは, ごみじゃない!	6年 理科 *理科の内容B「生命・地球」(2)「生物と環境」

主な体験活動 ※このような体験活動と適切な学習課題, 学習のまとめ等を構成してプログラム化しています。	1人あたり 料金 (税込)	総時間 (うち体験学習 時間)
旬の草花クイズ⇒草花あそび⇒まとめ&草花専門家の話	無料	8時間 (2時間)
動物とのふれあい体験⇒動物の絵を描く	200円	4時間 (2時間)
花栽培体験・聞き取り調査⇒振り返りの活動⇒花展示・聞き取り調査	無料	10時間 (3時間)
羊の世話体験⇒食肉加工体験⇒土偶づくり体験	800円	19時間 (5時間)
おだしをとってみそ汁をつくらう⇒(食育ビンゴゲーム⇒目指せ! 栄養食事バランス)	約100円	13時間 (2+3時間)
新潟市動物愛護センターの見学⇒動物ふれあいセンターの見学⇒道徳の時間で, これからの自分の生き方を考える	無料	4時間 (2+1時間)
直売所で食材を買う⇒おかずを作る(⇒家庭との連携学習で弁当作り⇒卒業式で保護者に弁当でおもてなし)	約400円	23時間 (6時間)
主な体験活動 ※このような体験活動と適切な学習課題, 学習のまとめ等を構成してプログラム化しています。	1人あたり 料金 (税込)	総時間 (うち体験学習 時間)
ビニルハウス調べ⇒農家の人へ質問⇒農家の人からのお話(⇒栽培活動⇒PR活動)	要相談	18時間 (2時間)
柿仕分け作業の見学⇒柿の収穫体験⇒農家の人からの聞き取り調査(⇒選果場の見学⇒発表会)	要相談	14時間 (3時間)
主な体験活動 ※このような体験活動と適切な学習課題, 学習のまとめ等を構成してプログラム化しています。	1人あたり 料金 (税込)	総時間 (うち体験学習 時間)
種まき・植えかえ⇒芽・茎・葉・つるの観察⇒花の観察⇒実・種子の観察・たわし作り	種代	19時間 (5時間)
畝作り・苗植え⇒野菜の世話⇒調理と会食(卒業謝恩会)	苗代	34時間 (2時間)
土作り⇒伝統野菜の種まき(⇒伝統野菜の食料事情を調べる⇒伝統野菜を使った郷土料理作りまたは新しい料理作り)	約500円 (種・肥料など)	40時間 (3時間)
野菜くずの観察⇒土作り⇒植え付け(⇒野菜栽培)	約100円	6時間 (2時間)

2 中学校編プログラム	
(1)アグリパーク	学習指導要領上の位置付け
①食素材の力をいかし、付加価値を高める ～新潟食農ブランドづくり～	1年 技術・家庭〔家庭分野〕 *家庭分野の内容B「食生活と自立」(3)イ、D「身近な消費生活」(1)イ
②協力し合い 苦手な野菜を克服しよう！	全学年 特別活動〔学級活動〕 *特別活動〔学級活動〕の内容(2)「適応と成長及び健康安全」、オ「望ましい人間関係の確立」、キ「心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成」
③Agrish Cooking! ～英語で郷土料理 in Agri～	2年 外国語〔英語〕 *外国語の内容(1)言語活動ア「聞くこと」(エ)(オ)、イ「話すこと」(イ)、エ「書くこと」(エ)
④ザ・野菜づくり ～アグリで体験生物育成と季節の食材の調理～	全学年 技術・家庭 *技術・家庭〔技術分野〕の内容C「生物育成に関する技術」(1)ア「生物育成の条件と育成環境の管理方法」 *技術・家庭〔家庭分野〕の内容B「食生活と自立」(3)イ「地域の食文化についての理解」
⑤農業が感動に変わる職場体験学習！	全学年 総合的な学習の時間 *学習課題:「横断的・総合的な課題」
⑥新潟農業ヒストリー ～乾田化で都市化～	全学年 総合的な学習の時間 *学習課題:「横断的・総合的な課題」
⑦アグリビジネスを体験しよう！ ～仮想株式会社で起業体験学習～	全学年 総合的な学習の時間 *学習課題:「横断的・総合的な課題」
⑧新潟はスイーツ王国だ！ ～地場産野菜の魅力を生かして～	全学年 特別活動〔生徒会活動〕
⑨アグリパーク・ツアーズ ～日帰り編～(選択プログラム45) ※プログラムは、30ページを参照	
⑩アグリパーク・ツアーズ ～宿泊編～(選択プログラム53) ※プログラムは、30ページを参照	全学年 特別活動〔学校行事〕 *特別活動〔学校行事〕の内容(4)旅行・集団宿泊的行事、(5)勤労・奉仕的行事
(2)いくとびあ食花	学習指導要領上の位置付け
①食花ハローワーク【いくとびあ各施設】	全学年 総合的な学習の時間 *学習課題:「職業や自己の将来にかかわる課題」
(3)近隣農家	学習指導要領上の位置付け
①日本で一番！アート新潟園芸	全学年 総合的な学習の時間 *学習課題:「職業や自己の将来にかかわる課題」
②世界にプレゼン！ブランド新潟米	全学年 総合的な学習の時間 *学習課題:「職業や自己の将来にかかわる課題」

主な体験活動 ※このような体験活動と適切な学習課題、学習のまとめ等を構成してプログラム化しています。	1人あたり 料金 (税込)	総時間 (うち体験学習 時間)
産地見学ツアーと生産者の方々へのインタビュー⇒収穫した生鮮野菜・果物とと加工食品の食べ比べ⇒仮想店舗「中学生青空アグリCafé」による6次産業化模擬体験⇒レシピコンペ体験	110円 ～ 210円	10時間 (5時間)
苦手な野菜の収穫体験⇒調理体験⇒食味体験	440円	7時間 (3時間)
新潟の郷土料理に関する英語のパンフレット作り⇒新潟の郷土料理体験⇒外国の方向けパンフレット作り	230円	13時間 (4時間)
野菜の管理技術体験⇒野菜の収穫体験⇒加工・調理体験	440円	10時間 (4時間)
■圃場管理 施設を見学する⇒農作物の話聞く⇒農作業をする⇒昼食をとりながら、指導員へインタビュー⇒農作業をする⇒振り返り、まとめを記録 ■畜舎管理 施設を見学する⇒畜産動物の話聞く⇒畜舎作業をする⇒昼食をとりながら、指導員へインタビュー⇒畜舎作業をする⇒振り返り、まとめを記録 ■インストラクター業務 施設を見学する⇒業務の話聞く⇒業務を行う⇒昼食をとりながら、指導員へインタビュー⇒業務を行う⇒振り返り、まとめを記録	無料	5日の場合 37時間 (6時間×5日) 休憩除く
亀田郷の歴史の講義⇒芦沼体験⇒米とぎ・炊飯・おにぎり作り・食事⇒(排水機場の見学) ※芦沼体験は準備中	130円	10時間 (6時間)
【仮想株式会社を起業】営業宣伝課:チラシ制作, 栽培課:野菜栽培・収穫, 商品開発1課:食品加工, 商品開発2課:グッズ製作 ⇒ 商品の販売	120円 (その他別途)	20時間 (5時間)
圃場探検と聞き取り調査⇒野菜の収穫と食体験⇒体験の共有(ファシリテーション活動)⇒スイーツ作り	50円	6時間 (4時間)
学校集合 ⇒ バスで学校出発 ⇒ 入村式 ⇒ 午前の活動 ⇒ 午後の活動 ⇒ 退村式 ⇒ バスでアグリパーク出発 ⇒ 学校着	選択した 体験活動に 応じて	7時間 (5時間)
■1日目 学校集合 ⇒ バスで学校出発 ⇒ 入村式 ⇒ 午前の活動 ⇒ 昼食 ⇒ 午後の活動 ⇒ 入浴 ⇒ 夕食 ⇒ 夜の活動 ⇒ 就寝 ■2日目 起床 ⇒ 朝飯前の活動 ⇒ 朝食 ⇒ 午前の活動 ⇒ 昼食 ⇒ 午後の活動 ⇒ 退村式 ⇒ バスでアグリパーク出発 ⇒ 学校着	選択した 体験活動に 応じて	1泊2日
主な体験活動 ※このような体験活動と適切な学習課題、学習のまとめ等を構成してプログラム化しています。	1人あたり 料金 (税込)	総時間 (うち体験学習 時間)
自己紹介, あいさつ⇒注意事項の確認⇒職場実習⇒1日の振り返り	無料	1～5日
主な体験活動 ※このような体験活動と適切な学習課題、学習のまとめ等を構成してプログラム化しています。	1人あたり 料金 (税込)	総時間 (うち体験学習 時間)
植物園見学⇒園芸農家でのインタビュー, 鉢植え体験	500円以内	8時間 (3時間+昼食)
農家へのインタビュー⇒田植え体験⇒稲刈り体験⇒コンバインによる稲刈りの見学(⇒海外向けのパンフレット作成)	無料	11時間 (4時間)

3 特別支援学校編プログラム	
(1)アグリパーク	学習指導要領上の位置付け
①あいにいこう！「HOTほっと」あにまるZOO！！	小学部全学年 生活 *生活の内容1段階(10)身近な自然の中で、教師と一緒に遊んだり、自然や生き物に興味や関心をもったりする。
②うれしいな！みんなと一緒に野菜作り！	中学部全学年 特別活動〔学校行事〕 *特別活動〔学校行事〕の内容(4)旅行・集団宿泊的行事、(5)勤労生産・奉仕的行事
③アグリツアーを成功させよう！（日帰り編）	中学部全学年 特別活動〔学校行事〕 *特別活動〔学校行事〕の内容(4)旅行・集団宿泊的行事
④アグリツアーを成功させよう！（宿泊編）	中学部全学年 特別活動〔学校行事〕 *特別活動〔学校行事〕の内容(4)旅行・集団宿泊的行事
(2)いくとぴあ食花	学習指導要領上の位置付け
①植物にふれよう・つくろう ～花びらが大変身！～(春編)【食育・花育センター】	中学部全学年 生活単元学習 *生活単元学習の内容「栽培を中心とした単元」
②植物にふれよう・つくろう ～花びらが大変身！～(秋編)【食育・花育センター】	中学部全学年 生活単元学習 *生活単元学習の内容「栽培を中心とした単元」
(3)教材園	学習指導要領上の位置付け
①さつまいもを育てよう・おいしく食べよう	中学部全学年 生活単元学習 *生活単元学習の内容「栽培を中心とした単元」

主な体験活動 ※このような体験活動と適切な学習課題、学習のまとめ等を構成してプログラム化しています。	1人あたり 料金 (税込)	総時間 (うち体験学習 時間)
コースを選んだり組み合わせたりする活動(・わくわくコース〈見る〉・どきどきコース〈ふれる〉・てくてくコース〈散歩する〉・もぐもぐコース〈えさをやる〉・ぬりぬりコース〈絵を描く〉)⇒アイスクリームの試食・振り返り	160円	3時間 (約1時間)
■第1次 苗植え・水やり ■第2次 収穫⇒調理体験または販売体験	80円	7時間 (1+2時間)
アグリ探検⇒体験学習(搾乳・バター加工・笹団子加工・わら細工)⇒昼食⇒買い物	選択した 体験活動に 応じて	6時間 (6時間)
■1日目 入村式:アグリパークにおける目当てを確認⇒ルール、生活の仕方、活動の仕方等の確認⇒荷物整理、役割分担⇒昼食⇒休憩、午後の準備⇒『収穫体験』もしくは『買い物学習』⇒コテージに移動⇒調理室に移動⇒昼食作り⇒夕食⇒後片付け⇒入浴⇒レクリエーション(肝試し・星空観察)⇒身支度、就寝 ■2日目 起床、身支度⇒朝食前の活動(牛の世話体験、果物収穫)⇒朝食⇒コテージで荷物整理、掃除⇒昼食(野菜ピザ)作り⇒昼食⇒退村式、感想発表	選択した 体験活動に 応じて	1泊2日
主な体験活動 ※このような体験活動と適切な学習課題、学習のまとめ等を構成してプログラム化しています。	1人あたり 料金 (税込)	総時間 (うち体験学習 時間)
花の観賞⇒花びらの収穫⇒染物作り	約300円	5時間 (3時間)
花の観賞⇒花びらの収穫⇒花びら染めのコースター作り	約300円	5時間 (3時間)
主な体験活動 ※このような体験活動と適切な学習課題、学習のまとめ等を構成してプログラム化しています。	料金 (1人あたり)	総時間 (うち体験学習 時間)
畑作り⇒苗植え体験⇒収穫体験⇒調理体験	約300円	15時間 (1+1+1+2時間)

4 幼稚園・保育園編プログラム	
(1)アグリパーク	幼稚園教育要領, 保育所保育指針上の位置付け
①菌ちゃんはお友達～野菜くずでリサイクル元気野菜づくり～	環境 (1)自然に触れて生活し, その大きさ, 美しさ, 不思議さなどに気付く (3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く (5)身近な動植物に親しみをもって接し, 生命の尊さに気付く, いたわったりかわいがったりする (6)身近なものを大切に作る
②大豆の変身～味噌の不思議～	環境 (1)自然に触れて生活し, その大きさ, 美しさ, 不思議さなどに気付く (3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く (5)身近な動植物に親しみをもって接し, 生命の尊さに気付く, いたわったりかわいがったりする (6)身近なものを大切に作る
③牛さん ありがとう	環境 (1)自然に触れて生活し, その大きさ, 美しさ, 不思議さなどに気付く (3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く (5)身近な動植物に親しみをもって接し, 生命の尊さに気付く, いたわったりかわいがったりする (6)身近なものを大切に作る
(2)いくとぴあ食花	幼稚園教育要領, 保育所保育指針上の位置付け
①朝ごはんで元気いっぱい【食育・花育センター】	健康 (5)先生や友達と食べることを楽しむ (6)健康な生活のリズムを身につける (9)自分の健康に関心を持ち, 病気の予防などに必要な活動を進んで行う
②植物の不思議～いろいろなものに変身～【こども創造センター, 動物ふれあいセンター】	環境 (1)自然に触れて生活し, その大きさ, 美しさ, 不思議さなどに気づく (2)生活の中で様々なものに触れ, その性質や仕組みに興味や関心を持つ (4)自然などの身近な事象に関心を持ち, 遊びや生活に取り入れようとする (5)身近な動植物に親しみを持ち, いたわったり, 大切にしたり, 作物を育てたり, 味わうなどして, 生命の尊さに気づく。
③楽しく食べよう!～おいしく食べよう 朝ご飯～【こども創造センター, 食育・花育センター】	健康 (4)様々な活動に親しみ, 楽しんで取り組む (6)健康な生活のリズムを身に付け, 楽しんで食事する (7)身の回りを清潔にし, 衣類の着脱, 食事, 排せつなど生活に必要な活動を自分でする
(3)幼稚園・保育園教材園	幼稚園教育要領, 保育所保育指針上の位置付け
①サツマイモ大好き	環境 (1)自然に触れて生活し, その大きさ, 美しさ, 不思議さなどに気付く (3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く (5)身近な動植物に親しみをもって接し, 生命の尊さに気付く, いたわったりかわいがったりする (6)身近なものを大切に作る
②おいしい野菜を育てよう～菌ちゃん元気野菜づくり～	環境 (1)自然に触れて生活し, その大きさ, 美しさ, 不思議さなどに気付く (3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く (5)身近な動植物に親しみをもって接し, 生命の尊さに気付く, いたわったりかわいがったりする (6)身近なものを大切に作る
③なにができるのだろう? みんなで野菜作り!～野菜で漬物づくり～	環境 (1)自然に触れて生活し, その大きさ, 美しさ, 不思議さなどに気付く (3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く (5)身近な動植物に親しみをもって接し, 生命の尊さに気付く, いたわったりかわいがったりする (6)身近なものを大切に作る

主な体験活動 ※このような体験活動と適切な学習課題, 学習のまとめ等を構成してプログラム化しています。	料金 (1人あたり)	総時間 (うち体験学習時間)
持参した野菜くずの観察⇒プランターによる土づくり⇒慣行栽培との比較	40円	(2時間)
大豆の観察⇒味噌作り⇒完成品の味噌と比べる(⇒園で熟成⇒味噌を使った調理)	140円/100g (大豆を持ち込む場合115円)	(2時間)
牛と牛乳のクイズ⇒搾乳(牛乳の試飲)⇒餌やり⇒アイスクリーム作り	210円	7時間 (4時間)
主な体験活動 ※このような体験活動と適切な学習課題, 学習のまとめ等を構成してプログラム化しています。	料金 (1人あたり)	総時間 (うち体験学習時間)
朝ごはんの大切さを知るエプロンシアター⇒朝ごはんもりもり度チェック⇒親子で朝ごはん作り・試食(⇒家庭で実践)	約200円	6時間 (4時間)
稲の穂を使って筆を作る⇒作った筆で絵を描く⇒動物と触れ合う	100円	5時間 (3時間)
朝ごはんの大切さを知るエプロンシアター⇒箸の使い方や食事のマナーを知る⇒オープン粘土で箸置き作り	200円	4～5時間 (2時間)
主な体験活動 ※このような体験活動と適切な学習課題, 学習のまとめ等を構成してプログラム化しています。	1人あたり 料金 (税込)	総時間 (うち体験学習時間)
畑で苗植え⇒世話と観察⇒収穫⇒調理⇒試食	約300円	(2+2時間)
野菜くずの観察⇒土作り⇒野菜作り⇒収穫・食味	2,700円 (1クラス)	(5+1+1+2時間)
農家からもらった種を育てる⇒間引きしてみそ汁にする⇒収穫⇒漬物作り	2,000円 (1クラス)	(4+3時間)

5 適応指導教室編プログラム	
(1)アグリパーク	幼稚園教育要領, 保育所保育指針上の位置付け
①ふれあい交流会	小学校5・6年特別活動[学校行事] 中学校1～3年特別活動[学校行事] *小学校 特別活動[学校行事](4)遠足・集団宿泊的行事 *中学校 特別活動[学校行事](4)旅行・集団宿泊的行事
付録)PTA編プログラム	
アグリパーク・教材園	
①親子で菌ちゃんとお友達！～野菜くずでリサイクル元気野菜づくり～	小学校PTA行事

幼稚園や保育園が、小・中学校のアグリパークツアーズの中の体験を希望する場合は、幼稚園・保育園プログラムを実施した上でアグリパークツアーズのプログラムをオプションとして活用願います。

主な体験活動 ※このような体験活動と適切な学習課題, 学習のまとめ等を構成してプログラム化しています。		
主な体験活動 ※このような体験活動と適切な学習課題, 学習のまとめ等を構成してプログラム化しています。	1人あたり 料金 (税込)	総時間 (うち体験学習 時間)
出会いの集い(レクリエーションなど)⇒野菜の収穫⇒収穫した野菜でピザ作り・ピザミニパーティー⇒搾乳体験 &えさやり体験⇒終わりの集い	320円	7時間 (5時間)
主な体験活動 ※このような体験活動と適切な学習課題, 学習のまとめ等を構成してプログラム化しています。		
主な体験活動 ※このような体験活動と適切な学習課題, 学習のまとめ等を構成してプログラム化しています。	1人あたり 料金 (税込)	総時間 (うち体験学習 時間)
持参した野菜くずの観察⇒プランターによる土づくり⇒慣行栽培との比較	100円	2時間 (2時間)

プログラムの見方①〈見開き, 1, 2ページ目について〉

プログラム名と各種ストーリー性の程度について、★数で記しています。

子どもの問題意識を大切にするため、学習課題の例を記しています。

子どもたちの生きる力を伸ばすため、様々な体験活動を効果的に組み合わせた農業体験学習の流れについて、順を追って記しています。

取り上げた農業体験学習によって、子どもがどのように学んでいくのかを、子どもの具体的な姿で示し、その学びが学習指導要領のどこに位置付くのかを記しています。

体験学習 小学校全学年 特別活動

②④ そうだったの! 牛乳に秘められた命の恵み!

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

自分が育てる(調査・観察・採取する)

牛乳には、どんな秘密があるのだろうか。

①牛乳クイズ, 畜産農家の話

乳牛ならオスもメスもお乳を出すんじゃないのかな?

みなさんは、子牛が飲むお乳を分けてもらっているんですよ。そのために、乳牛は…。

子牛さんから分けてもらっていたなんて…。
※お乳が出なくなると…。

② 搾乳体験・子牛とのふれあい

・搾ってみると、あたたかいし、やわらかいな。
・やさしく搾るね。みんなでしぼって、どれくらいの量になるかな。

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校全学年:特別活動[学級活動]

- ・子牛が飲む乳を人間が分けてもらっていること、1年中、牛乳を得るために乳牛は、子牛を産むように人間によって管理されていること等から、牛の生命の営み(自然)の中から、牛乳という恩恵を得ていることを実感を持って知り、感謝の気持ちをもつことに結び付けていきます。
- また、製品になるまでの過程、牛乳の栄養等を知ること、給食に携わる人への感謝や自分の食習慣への関心を高めていくことにも結び付けていきます。
- ※特別活動[学級活動]共通事項(2)「日常生活や学習への適応及び健康安全」キ「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」

- ・実施期間 通年
- ・1班最大人数 30人
- ・費用 70円/人

この体験学習の実施時期や活動の人数、費用等について記しています。

自分が消費する(飲食する)

ふれあい

③牛乳の試飲, 酪農家の話

私は、牛乳クイズ上級編に挑戦しよう!

骨を作るのに確か…?

いつもより、おいしく感じるな。しぼった後、どうなるかを調べるんだ。

しぼった乳は、冷却保管して、あとからローリー車が集めに来て…。

・子牛のギュウちゃん、お乳を分けてくれてありがとう。
・バイバイ。たくさん飲んで大きくなってね。
・私もしっかり飲んで大きくなるね。

みんなが搾ってくれたお乳だよ。

農業体験学習について、想定される農家の人や子どもの様子をイラストや言葉で活動の順を追って記しています。

搾乳体験、子牛とのふれあい体験の学びの可能性

- 地形や気候などの自然条件とのかかわり、働く人の仕事の進め方、生産物の販売などの工夫を中心に学習を構成していくならば…
※小学校3・4年社会の内容(2)「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」
- 消費者の需要にこたえ、新鮮で良質な物を生産し出荷するための様々な努力や工夫、自然環境や社会的条件を生かした生産を高める工夫を中心に学習活動を構成していくならば…
※小学校5年社会の内容(2)「わが国の農業や水産業(食料生産)の様子と国民生活との関連」
- また、搾乳や子牛との触れ合いで感じた気持ちを、表現する活動として、国語や図画工作の時間につなげていくこともできます。

この学習で取り上げた体験活動を、どうすれば他の教科・領域に取り入れることができるのか、その可能性について条件や組み合わせ方を示しながら記しています。

一つのプログラムについて、4ページにわたって説明してあります。
・最初の1,2ページ見開きで、体験学習の大まかな流れと学びの内容が示されています。

・3ページ目には、単元の流れと単元における体験学習の位置付けが示されています。
・4ページ目には、体験学習時の指導略案が示されています。

プログラムの見方②<3ページ目について>

○プログラムに
関係する单元名
○プログラムに
関係する单元の
目標

- 実践例 「そうだったの! 牛乳に秘められた命の恵み!」
- 1 関連する单元名 小学校全学年 特別活動〔学級活動〕
「そうだったの! 牛乳に秘められた命の恵み!」(4時間)
 - 2 関連する单元の目標
・アグリパークで、牛乳の生産にかかわる農家の人の話を聞いたり、搾乳や子牛とふれあったりする活動を通して、自然への恩恵、生産にかかわる人たちへの感謝の気持ちをもつとともに、給食などの自分の食習慣をよりよくしていくことができるようにする。

○「体験学習の前に」
体験学習の場がより
充実した学びの場と
なるように、問題意
識を高めたり、興味
・関心を高めたりす
る学習活動例を記し
ています。

体験の前

○「アグリパークでの
体験学習」
まず、体験活動を行う
時に子どもたちがもっ
ている課題やねらいの
例を記しています。次に、
体験学習の一連の流
れや、学習のポイント
などを記しています。
最後に、この学習を通
して子どもたちにかか
せたいまとめのメモ例
を記しています。

- 3 関連する单元の流れと体験学習の位置付け
(1)牛乳についての調べ学習(4時間)
・毎日食べている給食について、発達段階に応じて食育の観点から考えさせる。
・牛乳については、共通の課題として位置付け、知りたいこと調べたいことを明確にして、アグリパークでの調べ学習、体験学習に臨めるようにする。
※遠足として位置付けて行う場合には、活動グループを決めたり、安全面の確認をしたりする。

学習課題例

牛乳には、どんな秘密があるのだろうか。

アグリパークでの体験学習<3時間>

- ①牛乳に関する4拓クイズ→②搾乳体験→③牛乳をいただく→④子どもたちが搾乳した牛乳に関する自然の恩恵
牛乳の栄養、製造 牛乳を飲む子牛の様子を
にする農家の人の話 過程のクイズ みる

まとめのメモ例

「牛乳は、母牛が子牛にあげるべき大切なお乳」
「乳牛や牛乳に関する仕事をする人は、いろいろな工夫をして牛乳を作っている。」
「子牛を育てる牛乳には自分たちの体のためにも大切な栄養がたくさんある。」

体験の後に

- ・体験したことや農家の人の話、自分でその場で調べたことを基に、学習シートや振り返り作文などの表現活動によって、学んだことを食育の観点で明確にさせる。
- ・給食をはじめ、望ましい食習慣に向けて、今後、生活の中で実践する自分なりの目標を考えさせたり、実現に向けて話し合ったりさせる場をもつ。

○「体験学習の後に」
体験学習の場での学
びをより深めていくた
めの学習活動例を記
しています。

○「本時のねらい」

体験学習時のねらいを子どもの具体的な姿で記しています。

プログラムの見方③<4ページ目について>

5 本時の展開例(135分=3時間)

学習活動	教師(T)・指導員(I)・子ども(C)専門家(P)	指導上の留意点
①今日の学習課題をつかむ (15分)	T:学習課題を確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって安全・安心に活動に臨めるようにする。	・視覚情報を用いて説明し、どの子どもにも理解できるようにする。
②牛乳に関する4拓クイズ、牛乳に関する自然の恩恵に関する話を聞く (20分) (畜舎学習室)	I:「私たちが飲んでいる牛乳は()が()のために出している」という文を提示し、()の言葉を考えさせる。 C:最初は「牛」次は「私たち」かな? I:お乳を出してくれる牛は?①すべての牛②オスの牛③メスの牛④お母さんの牛 C:メスの牛かな、お母さんの牛かな? C:ということは、赤ちゃんのために出しているのかな P:子牛に飲ませるための乳を人間が分けてもらっていること、1年中牛乳を得るために、乳牛は子牛を産むように人間によって管理されていることを子どもに話す。 I:一頭の牛さんから、1日にお乳はどれくらいとれるでしょうか。①みんなが飲む牛乳パック約10人分②約100人分③約1000人分? C:100人分くらいかな?	①畜舎内では、大きな声を出さないことを確認する。 ・給食で飲んでいる牛乳と関連づけながら発達段階に応じたクイズを行い、牛や搾乳への関心を高める。
③一人一人搾乳体験をする。子牛とふれあう (70分) (畜舎)	I:搾乳までの諸注意、手の消毒、しぼり方を練習させながら説明。 C:握り方はこうするのか。上手くお乳が出るかな。 (活動2)搾乳をする I:子どもの脇につき、注意や補助をする。 C:おっぱいは、温かいなあ。 C:ジュワーって出てきたよ。飲んでみたいなあ。 (活動3)子牛とふれあう C:かわいいなあ。お乳を分けてくれてありがとう。 (その他活動例) ・機械による搾乳を見る ・牛の体しらべ、畜舎の道具、牛乳ができるまで等のクイズに取り組む	※牛の生命の営み(自然)のなかから牛乳という恩恵を得ていることを実感をもたせてわからせるように、酪農家から、発達段階に応じた内容で語ってもらう。 ・事前にこれから実際に搾る量と比べよう促す。 ・自分が何搾乳できたか、みんなで合計どれだけ搾乳できたか分かるようにし、搾ったお乳を大切に扱う気持ちと結びつくようにする。 ・搾乳の体験まで時間差が生じることから、関連するクイズを用意する。
④牛の飼育の仕方や牛乳の栄養、製造過程等について質問する。牛乳をいただく。牛乳を飲む子牛をみる。 (30分) (畜舎・学習室)	I:牛や牛乳に関する質問を受け答える。 C:しぼられたお乳は、どうなっていくのかな。 C:牛乳は体にどんないいことがあるのかな。 C:上級クイズに挑戦して、牛乳博士になるぞ。骨にいいって聞いたことあるな。あってるかな? C:何か、今日の牛乳はおいしい感じがするね。 C:牛さんお乳を分けてくれて、ありがとう。これからは大切に飲むよ。 T:学習をまとめ、まとめメモを書かせ、インストラクターへお礼を述べる。	・発達段階に応じて、機械搾乳の様子を見せたり、牛乳ができるまでの過程や生産者の工夫がわかる資料を用意する。 ①試飲前に手洗いを徹底させる。 ・今日の学習を振り返り、母牛への感謝の言葉を子どもから引き出し、感謝の気持ちで牛乳が飲めるようにする。 ・子どもたちが搾った乳を子牛が飲む様子を見られるようにする。

小学校は1単位が
45分間、中学校
は50分間の授業
時間となっています。

○「本時の展開例」

・「学習活動」
主な学習活動と所要時間を順番に記しています。

・「教師・指導員・子ども・専門家」

インストラクターや専門家、教師がどのような指示や問い掛けを行い、それに応じて子どもがどのように反応するかの予想を例示しています。

・「指導上の留意事項」

体験が、確かな学びとなるためのポイントを記しています。そのほか、安全への配慮について注で記しています。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
集団生活や生活への関心・意欲・態度	・乳牛や牛乳に関する仕事をする人への感謝の気持ちをもつ。 ・栄養の視点から自分の食生活について考えようとする。	行動観察 振り返り作文
集団の一員としての思考・判断・実践	・牛乳のもつ栄養から、食品や食生活のことを考えることができる。	振り返り作文
集団活動や生活についての知識・理解	・牛乳に関する自然の恩恵のことが分かる。 ・牛乳の製品になるまでの過程や栄養についてが分かる。	行動観察 振り返り作文

○「体験学習の評価例」

観点別の評価規準を子どもの具体的な姿で表し、その評価方法も記しています。

プログラムの見方④

◎総合的な学習の時間のプログラムについて

アグリパーク、いくとぴあ食花では、下記のような様々な体験活動が行うことができるように準備されています。各学校は、自校の総合的な学習の時間の学習テーマ等のねらいが達成できるように、準備された体験活動と調べ学習などをうまく組み合わせ、独自の体験学習プログラムを作成することができます。本誌に掲載した総合的な学習の時間のプログラムは、実践例の一つです。

アグリパーク、いくとぴあ食花でできる主な体験活動

<アグリパーク>

家畜の観察、家畜の世話体験、牛の搾乳体験、畑の耕起体験、畑の種まき体験、畑作物の世話体験、畑作物の収穫体験、畑作物の調理体験、石窯ピザ作り体験、パン作り体験、餅つき体験、ウインナーソーセージ作り体験、バター加工体験、豆腐加工体験、笹団子加工体験、あいの団子加工体験、ジュース作り体験、かまどおにぎり体験、ベジタブルスウィーツ体験、稲作り体験、枝豆ゆで体験、焼きトウモロコシ作り体験、鍋料理体験、雪下野菜収穫体験、肉まん作り体験、イチゴスウィーツ作り体験、焼いも体験、食味体験 など

<食育・花育センター>

味覚体験、ポップコーン作り体験、お米ができるまでの学習体験、ご飯炊き体験、みそ汁作り体験、草花に触れよう体験、野菜の花クイズ、寄せ植え体験 など

<こども創造センター>

動物の土偶作り体験、食べ物サンプル作り体験、植物の土鈴作り体験 など

<動物ふれあいセンター>

動物えさやり体験、ヤギの搾乳体験、動物ブラッシング体験、ヤギのミルクを使った乳製品作り体験 など

体験学習のプログラム例

○「稲も家畜も、わたしたちのために」

<生命、環境>

(主な体験活動、調べ学習)



- ・家畜の観察（心音調べ、反すう観察等）
- ・家畜の世話体験（ブラッシング、えさやり、畜舎清掃等）
- ・食肉加工体験（ソーセージ作り）
- ・食味体験 ・加工品調べ
- ・米作り、お米調べ、生産者インタビュー、米粉調べ、米粉作り、米粉の調理 など

○「大豆は、ホントに大事な豆」

<郷土、国際、環境>

(主な体験学習、調べ学習)



- ・名産品調べ ・大豆調べ
- ・土作り ・大豆の栽培
- ・味噌、豆腐などの大豆の加工品調べ
- ・味噌、豆腐などの大豆の加工品作り
- ・味噌おにぎり作り ・食味体験
- ・日本や世界における大豆等の食料事情調べ

1 小学校編 (1) アグリパーク

① そうだったの！土のひみつ	<1年 生活>	50
② おやさいまじっく（命の源、土作り編）	<2年 生活>	54
③ おやさいまじっく（パーティー編）	<2年 生活>	58
④ まるごとかんじて ストロベリーデイ！	<2年 生活>	62
⑤ かしこい消費者になろう ～畑から食卓へ、おいしい野菜をとどけたい～		66
「見直そう わたしたちの買い物」	<3年 社会>	68
⑥ かしこい消費者になろう ～畑から食卓へ、おいしい野菜をとどけたい～		69
「調べよう ものを作る仕事」	<3年 社会>	69
⑦ 新潟おいしい果物物語	<3年 社会>	72
⑧ 季節によって違うのですか？	<4年 理科>	76
⑨ 昔の泥田に入ろう	<4年 社会>	80
⑩ 果樹園はどんな場所？	<4年 社会>	84
⑪ 「ふるさとにいがた」お米 NO.1（田植え編）	<5年 社会>	88
⑫ 「ふるさとにいがた」お米 NO.1（草取り編）	<5年 社会>	92
⑬ 「ふるさとにいがた」お米 NO.1（稲刈り編）	<5年 社会>	93
⑭ おいしさの秘密を探せ ～野菜と家畜から学ぶ生命の循環～		94
	<5年 社会>	94
⑮ 畜産農家の工夫を探そう！	<5年 社会>	98
⑯ そうだったの！めしべの秘密！	<5年 理科>	102
⑰ ありがとう・いただきます（理科編）	<6年 理科>	106
⑱ 見つめて感じて ～動物となかよし～	<全学年 図画工作>	110
⑲ まかせてね今日の食事 ～アグリ定食を作ろう～		114
	<6年 家庭>	114
⑳ ありがとう・いただきます（道徳編）	<6年 道徳>	118
㉑ 稲も家畜も、わたしたちのために	<5年 総合的な学習の時間>	122
㉒ 大豆は、ホントに大事な豆	<3～5年 総合的な学習の時間>	126
㉓ 考えてみよう！米粉からお米のこと	<5年 総合的な学習の時間>	132
㉔ そうだったの！牛乳に秘められた命の恵み！	<全学年 特別活動〔学級活動〕>	136
㉕ 小学校アグリパーク・ツアーズ（日帰り編）	<全学年 特別活動〔学校行事〕>	140
㉖ 小学校アグリパーク・ツアーズ（宿泊編）	<4～6年 特別活動〔学校行事〕>	148

「アグリ・スタディ・プログラム」の小学校編を作成するにあたっては、学習指導要領に基づき、教科等の授業時間の中で、これからの社会を生き抜くために必要な力を子どもたちに培うことを一番に考えました。そして、子どもたちが体験と知識を結び付けて学び、学習課題—まとめ・振り返りを中心としたアクティブ・ラーニングの中で、農業体験活動を農業体験学習に高めることができるよう一つのプログラムを構成しました。

① そうだったの！土のひみつ

- ・ 未来へのストーリー ★★★★★
- ・ 命のストーリー ★★★★★★
- ・ 郷土愛のストーリー ★★

・ 実施期間	通年
・ 1班最大人数	30人
・ 費用	30円/人

が 魂
自分が育てる（世話する・見学調査する）

きれいなお花がたくさん咲くための土は、どんな土だろうか。

① よい土調べ体験 **② よい土クイズ（まとめ）**

よい土って栄養があればいいんでしょ？

第◇問「水が流れやすい方がいいでしょうか？水を保ちやすい方がいいでしょうか？」

ふかふかしていい土だな。栄養もありそう。

水が流れていってらなくなって困るから、保ちやすい方かな。

くさいにおいがしないね。

野菜くずもよい土に役立つんだね。家でもできそうだよ。

わらを食べてうんちになって…。

④ 土作り体験

必要なものをまぜて、自分でよい土を準備するよ。

学 習 指 導 要 領 上 の 位 置 付 け

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校1・2年：生活

- ・ 植物の育つ場所の根本である土の条件について、体験をともないながら理解することができます。また、土作りの過程を知ることで、生命の不思議さや連続性についても気付いていくことができます。
- ・ 与えられた土ではなく、自分で土から準備をするということから、今まで以上に愛着をもって植物の栽培を行っていくことが期待できます。

*** 生活の内容（7）「動植物の飼育・栽培」**

➡ 自分が消費する（作品にする）

③ 堆肥場めぐり、牛のえさやり体験

牛ふん堆肥場

野菜くず堆肥場

④ 土作り体験

土調べ、土づくり体験の学びの可能性

- 牛ふん堆肥や生ゴミ堆肥について、さらに詳しく学んだり、実際に堆肥づくりを行ったりする活動を、農家の工夫や努力に関連付けて学習を構成していくならば…
- * 小学校5年社会の内容 「我が国の農業や水産業（食料生産）の様子と国民生活との関連」**
- * 小学校3・4年社会の内容 「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」**
- ・ 家庭から持ち寄った野菜くずを細かくしてEMを利用するなど、微生物を利用した土作りを行うこともできます。
- そのほか、循環型の農業などをテーマに学習活動を構成するならば**総合的な学習の時間**として、課題設定や追究活動の場面などに、活動を位置付けていくことができます。

実践例 「そうだったの！土のひみつ」

1 関連する単元名 小学校1年 生活 「すてきなお花をさかせましょう」（13時間）

2 関連する単元の目標

- 花を育てる活動を通して、それらの育つ場所、変化や生長の様子、生命をもっていることに気付くとともに、大切に育てる気持ちをもつことができるようにする。
- がんばって世話を続けてきた自分に気付き、自分の成長を実感することができる。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) お花をそだてよう（1時間）

- 知っているお花、育てたいお花について話し合う。（種から育てる）

(2) さあ、そだてるぞ（5時間）

- 育てたい花を決め、種や育て方を調べる。
- 元気なよい花を育てるために、必要な作業や条件について経験等をもとに考えたり予想したりして、学習課題をつくる。
- 花の先生に教わりに行くことを知る。

学習課題例

きれいなお花がたくさん咲くための土は、どんな土だろうか。

アグリパークでの体験学習 <3時間>

①よい土調べ→②よい土クイズ ③堆肥場めぐり、牛のえさやり体験→④土作り体験

まとめのメモ例

「すきまがたくさんあって、水、くうき、ひりょうがたくさんはいつているふかふかの土。」
「うしのふんやなまゴミをつかったたいひが入っている。だんだんたいひになっていく。」

- アグリパークで教わったこと、確認したこと（土に関することなど）をカードにまとめる。
- アグリパークで自分で配合して作った土に、花の種を播いたり、種から育てた花の苗を植える。

(3) 大きくそだて（5時間）

- 花の世話をし、その様子をカードに書いたり報告し合ったりする。
※朝の時間を使って一言観察日記を付ける。そして、週末の生活の時間に、一言観察日記をもとに、1週間前の様子との違いや感じていることをカードや作文にして残す。
- 花（植物）も自分と同様に生長することや生命があること、がんばって世話を続けてきた自分のことについて、お花の世話カードに書いてきたことなどをもとに整理する。

(4) 終わった土を自分たちで元気に（2時間）

- 球根を植えるために、今まで花を育てるために使ってきた土を元気な土にすることを知る。

アグリパークスタッフによる出前授業による体験学習 <1時間>

- 春にアグリパークで教わった土のことを思いだすクイズを行う。
- 家からもってきた野菜くずを細かくし、EMぼかしを混ぜるなどして土作りを行う。

- 3日目、1週間後、2週間後、3週間後、1か月後の様子を観察したり、土を混ぜるなどの作業をしたりする。
- 1か月後、チューリップなどの球根を植える。
※3日後、1週間後の観察時、土を混ぜる作業時には、アグリスタッフからも来てもらい支援を受ける。
※春にアグリパークに行っていない場合、(4)の本小単元からの活動も一部クイズなどの活動を変更することで、実施可能。お花の世話カードに書いてきたことなどをもとに整理する。

4 本時のねらい

- どのような土が花を育てていくのに適するのか分かる。
- 自分が育てる花の準備を土作りから行うことで、自分の花を育てるという思いをもつことができる。

5 本時の展開例（135分＝3時間）

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①学習課題を確認する (10分)	T:学習課題を確認し、インストラクターを紹介する。 I:主な活動、活動場所、注意事項を説明する。	・図や表などを使い、活動の流れ等を示し、見通しをもたせる。
②様々な土を観察し、花作りに適した土は、どのような土かを考える (15分) ※団粒構造の土→粒と粒の隙間が大きく、保水性・通風性に優れた土。 ※単粒構造の土→空気や水の通りにくい土。	I:花が元気に生育していくために必要なものを考えさせる。 C:太陽、水、土、全部できたよ。電気の光は？ C:肥料もやったことあるからいるよ。 I:ふかふか(団粒構造)の土とふかふかでない(単粒構造)土の二つを提示して子どもに観察させ、どの土が植物を育てるのによい土かを問う。 C:土のつぶが細かいからこっちな。でもグラウンドの土みたいだから違うかな。 C:ふかふかしている土がいいような気がする。	・においや手触りも可能な限り体感できるようにする。 ・口に含むことのないように、そばに指導員や教師等の大人が付くようにする。 ・さわった後に手洗いでできるように配慮する。
③「よい土クイズ」に答え、よい土の条件を知り、ふかふかの土を体感する (15分)	I:それぞれの土の性質について、通気性、排水性、保水性、保肥性の点から作成してある〇×クイズをしながら説明し、花を育てるに適した土について整理する。 C:土の中に、空気がいくことも大事なのか。 C:粒が細かい土だと水が流れないのか。グラウンドの水たまりのところがそうなのか。 C:やはり、栄養も大事だね。この土は、肥料をやらなくてもいいくらい栄養が入っているのか。 I:ふかふかの土を体感させる。 C:こっちは土は、ふかふかして水が土の中にスーと入っていったよ。	・〇×クイズなどの形式をとって、みんなが考えられるようにする。 ・よい土の性質について、人間の住まいや食事にたとえながら、説明したり、視覚的にも分かるように図表を用意したりする。 ・水はけの違いがはっきり分かる土を準備する。
④アグリパークで作っている堆肥(牛糞堆肥、生ゴミ有機用土)置き場の見学や牛のえさやりを行う (50分)	I:牛糞堆肥、生ゴミ堆肥の場所に案内し、作り方、牛へのえさやりについて説明する。 C:堆肥が少しあったかい。発酵というだね。 C:堆肥ができるまで時間がかかるんだね。 C:このわらを牛さんが食べて、うんちになるんだね。	⑤動物への配慮事項や安全・衛生のための注意等を確認する ・においや手触りも可能な限り体感できるようにする。 ・さわった後に手洗いでできるように配慮する。
⑤土作りを行い花をうまく育てる最初の準備について知る (45分)	T:今日の学習活動を振り返りながら、土作りに必要な物を確認し、まとめのメモを書かせる。作業の仕方、苗植えまでの大事なことを説明する。 C:栄養があるだけでなく、ふかふかな感じに土をつくるんだね。 C:花芽がたくさんつくための栄養があるんだね。 C:たくさん、きれいなお花が咲くのが楽しみだな。 T:学習をまとめ、インストラクターへお礼を述べる。	・今日の学習したことを質問し、何を何のために入れるかを確認しながら作業の仕方を説明する。 ・混ぜ合わせるものの具体や量が分かるように、実物や図などを使って説明する。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
生活への関心・意欲・態度	・元気なよい花を育てるために必要な事柄について興味をもって話を聞いたり、観察や作業をしたりしている。	活動の様子 振り返りカード
活動や体験についての思考・表現	・動物の排泄物等が土作りに役立つものになる過程の観察や土作り作業で感じたことや不思議に感じたことを話したり、絵や文で表現している。	活動の様子 振り返りカード
身近な環境や自分への気付き	・自分の花を咲かせるために、必要なことや、そのための準備ができた自分についてしっかりと振り返りをしている。	活動の様子 振り返りカード

②おやさいマジック (命の源, 土作り編)

- ・ 未来へのストーリー ★★★★★
- ・ 命のストーリー ★★★★★
- ・ 郷土愛のストーリー ★★

・ 実施期間	4月下旬～6月中旬
・ 1班最大人数	30人
・ 費用	30円/人

が魂 自分がかかわる (世話する・見学調査する)

野菜が元気に育つ土はどんな土かな。
野菜が元気に育つ土には、どんなひみつがあるのかな。

①よい土調べ体験(1) ②よい土調べ体験(2)

1年生の時、ほどよく水はけがいいこと、空気が入ること、栄養があることを勉強したよ。

第◇問「水が流れやすい方がいいでしょうか？水を保ちやすい方がいいでしょうか？」

水が流れていってらなくなって困るから、保ちやすい方かな。

ふかふかしているこの土が水はけもよさそうだよ。

正解は…実は、どちらもなんです！水はけのちょうどいい土とよくない土の様子をみてみましょう。

学習指導要領上の位置付け 確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校1・2年：生活

- ・ 植物の育つ場所の根本である土の条件について、体験をともないながら理解することができます。また、土作りの過程を知ることで、生命の不思議さや連続性についても気付いていくことができます。
- ・ 与えられた土ではなく自分で土から準備をするということから、今まで以上に愛着をもって植物の栽培を行っていくことが期待できます。

* 生活の内容 (7) 「動植物の飼育・栽培」

➡ 自分が消費する (作品にする)

③堆肥場めぐり, 牛のえさやり体験

くさいにおいがしないね。

牛ふん堆肥場

わらを食べてうんちになって…。

野菜くず堆肥場

野菜くずもよい土に役立つんだね。家でもできそうだわ。

④土作り体験

必要なものをまぜて、自分でよい土を準備するよ。「気持ちいい度」チェックも忘れずにしましょう。

土調べ, 土作り体験の学びの可能性

○牛ふん堆肥や生ゴミ堆肥について、実際に堆肥作りを行ったりする活動を、農家の工夫や努力に関連付けて学習を構成していくならば…

* 小学校5年社会の内容「我が国の農業や水産業(食料生産)の様子と国民生活との関連」 小学校3・4年社会の内容「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」

- ・ 家庭から持ち寄った野菜くずを細かくしてEMぼかしをまぶし、栽培し終えた鉢の土に混ぜ、上手く発酵・分解させる一からの土作りを行うこともできます。

○そのほか、循環型の農業などをテーマに学習活動を構成するならば総合的な学習の時間として、課題設定や追究活動の場面などに、活動を位置付けていくことができます。

実践例 「おやさいマジック (命の源, 土作り編) 」

1 関連する単元名 小学校2年 生活 「わたしたちのやさいばたけ」(18時間)

2 関連する単元の目標

- 野菜を育てる活動を通して、それらの育つ場所、変化や生長の様子、生命をもっていることに気付くとともに、野菜を大切に育てる気持ち、ありがたいたくさく気持ちをもつことができるようにする。
- 友達と自分の役割を果たしたり協力をしたりしながら仲良く活動することができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

	(1)	やさいをそだてよう(1時間) ・知っている野菜, 育てたことのある野菜, 育てたい野菜について話し合う。
体験の前に	(2)	さあ, そだてるぞ(5時間) <ul style="list-style-type: none"> 個々に育てる野菜を決め, 野菜栽培への気持ちや思いをカードに書く。 品質のよい野菜を作るために, 必要な作業や条件について経験等をもとに考えたり予想したりしながら学習課題をつくり, 苗を植えるにあたり最初に何をするとよいか, 野菜の先生に教わりに行くことを知る。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">学習課題例</p> <p style="border: 1px solid red; padding: 2px;">野菜が元気に育つ土はどんな土かな。</p> <p style="border: 1px solid red; padding: 2px;">野菜が元気に育つ土には, どんなひみつがあるのかな。</p> <p style="text-align: center;">アグリパークでの体験活動 <3時間></p> <p style="text-align: center;">①よい土調べ → ②よい土調べ → ③堆肥めぐり, 牛のえさやり体験 → ④野菜作りのための土作り</p> <p style="text-align: center;">まとめのメモ例</p> <p>「やさいがよくそだつ土は, ふかふかの土。すきまがたくさんあって, 水, 空気, ひりょうがたくさん入っている」</p> <p>「かちくのふんや生ゴミはきんの力でやさんがよくそだつたいひにかわっていく。」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> アグリパークで教わったこと, 確認したこと(土に関する事など)をカードにまとめる。 アグリパークで自分で配合したて作った土に, 花の種を播いたり, 種から育てた花の苗を植えたりする。
体験の後に	(3)	おいしくそだて(5時間) <ul style="list-style-type: none"> 野菜の世話をし, その様子をカードに書いたり報告し合ったりする。 野菜(植物)も自分と同様に生長することや生命があることを, 野菜の世話カードに書いたことをもとに整理する。 野菜の世話, 病気や虫など野菜の心配事等について「野菜の先生」に聞くことをまとめる。
体験の前に	(4)	アグリパークでやさいを見よう, 食べよう(6時間) ※詳細は, 「おやさいマジック(パーティー編)」参照 <ul style="list-style-type: none"> 収穫が一層よくなることを学習するためにアグリパークへ行くことなどを知る。 自分たちが作っている野菜をもとに, ピザ作りの班を決め, 役割や手順を知る。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">アグリパークでの体験活動<4時間></p> <p style="text-align: center;">①野菜の観察(1)(2) ②野菜の収穫体験 ③調理食味体験 ④えさやり体験</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> アグリパークで教わったこと, 確認したこと(よりよい育て方, 仲良く活動する秘訣等)をカードにまとめる。
体験の後に	(5)	できた, わかった, もっとやってみたい(1時間) <ul style="list-style-type: none"> 表現してきたものをもとに, 活動を振り返り, がんばってきたこと, できるようになったこと, 分かったこと, もっとやってみたいことなどを話し合う。 → 秋植え野菜の栽培へつなげる。

4 本時のねらい

- 野菜作りに適した土には, 肥料が入るといいことが分かる。
- 野菜の種や苗の植え方を知り, 自分の植木鉢に植えることができる。

5 本時の展開例(135分=3時間)

学習活動	教師(T)・指導員(I)・子ども(C)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ(10分)	T:学習課題を確認し, インストラクターを紹介する。 I:主な活動, 活動場所, 注意事項を説明する。	・図や表などを使い, 活動の流れ等を示し, 見通しをもたせる。
②用土, 土壌改良材, 肥料を観察し, どのような土がよい土かを考える(20分)	I:ふかふか(団粒構造)の土とふかふかでない(単粒構造)の土, 栄養分が少なくなった土を提示して子どもに観察させ, どの土が植物を育てるのによい土かを問う。 C:土のつぶが細かくて, 水や空気が通りにくそうだよ。 C:肥料がありそうなこっちの土がよさそうだな。 C:ふかふかしている土がいいから, この土がいいよ。 C:水をかけてみると分かるよ。	・1年生の時の学習の状況に応じて学習活動を進める。 ・においや手触りも可能な限り体感できるようにする。 ・口に含むことのないように, そばに指導員や教師等の大人が付くようにする。 ・さわった後に手洗いできるように配慮する。
③「よい土クイズ」に答え, よい土の条件を知り, ふかふかの土を体感する(15分)	I:それぞれの土の性質について, 通気性, 排水性, 保水性, 保肥性の点から作成してある〇×クイズをしながら説明し, 花を育てるに適した土について整理する。 C:土の中に, 空気がいくことも大事なのか。 C:粒が細かな土だと水が流れないのか。グラントの水たまりのところがそうなのか。 C:やはり, 栄養も大事だね。この土は, 肥料をやらなくてもいいくらい栄養が入っているのか。 I:ふかふかの土を体感させる。 C:こっちの土は, ふかふかして水が土の中にスーと入っていったよ。	・〇×クイズなどの形式をとって, みんなが考えられるようにする。 ・よい土の性質について, 人間の住まいや食事にたとえながら, 説明したり, 視覚的にも分かるように図表を用意したりする。 ・水はけの違いがはっきり分かる土を準備する。
④アグリパークで実際に作っている堆肥(牛糞堆肥, 生ゴミ有機用土)の場所を見学したり, 牛にえさをやる(50分)	I:牛糞堆肥, 生ゴミ堆肥の場所に案内し, 作り方, 牛へのえさやりについて説明する。 C:堆肥が少しあったかい。発酵というんだね。 C:生ゴミは何でもいいというわけではないのか。 C:堆肥ができるまで時間がかかるんだね。 C:このわらを牛さんが食べて, うんちになるんだね。牛のうんちは少しくさかったけど, 堆肥になるとくさくないね。	④動物への配慮事項や安全・衛生のための注意などを確認する。 ・においや手触りも可能な限り体感できるようにする。 ・さわった後に手洗いできるように配慮する。
⑤土作りを行い野菜をうまく育てる最初の準備について知る(40分)	T:今日の学習活動を振り返りながら, 土作りに必要な物を確認し, 作業の仕方, 苗植えまでの大事なことを説明する。 C:水はけ, 空気のとおり具合, 栄養, そして, 気持ちよさの度合いのどれも大事なんだね。いい土作ろう。 C:測定器で気持ちよく育つ度合いも調べよう。 C:自分たちで準備したよ。おいしい野菜がきっとできるね。楽しみだな。 T:まとめのメモを書かせ発表させた後, インストラクターへお礼を述べる。	・今日の学習したことを質問し, 何を何のために入れるかを確認しながら作業の仕方を説明する。 ・混ぜ合わせるものの具体や量が分かるように, 実物や図などを使って説明する。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
生活への関心・意欲・態度	・おいしい野菜を育てるために必要な事柄について興味をもって話を聞いたり, 観察や作業をしたりしている。	活動の様子 振り返りカード
活動や体験についての思考・表現	・動物の排泄物等が土作りに役立つものになる過程の観察や土作り作業で感じたことや不思議に感じたことを話したり, 絵や文で表現している。	活動の様子 振り返りカード
身近な環境や自分への気付き	・自分の野菜作りのために, 必要なことや, そのための準備ができた自分についてしっかりと振り返りをしている。	活動の様子 振り返りカード

③おやさいマジック (パーティー編)

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

・実施期間	6月中旬～7月下旬
・1班最大人数	30人(最大人数120人)
・費用	260円/人

魂 自分が育てる (収穫する・見学調査する)

おいしい野菜に育てるためには、どんな世話(工夫)をすればいいのか。(野菜の観察時)

①野菜観察その1

(自分が育てている野菜と同じ野菜)

②野菜観察その2

(野菜オリエンテーリング・収穫)

ぼくより、実が大きい。茎も太いし背が高い。肥料の違いかな? どうしてですか?

肥料だけでなく土を…。

おいしそうだな。私たちの班のピザにトッピングしましょうよ。

オクラ初めて見たよ。ツーンと上向いているよね。

体験活動

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校1・2年：生活

- ・自分たちの野菜とアグリパークの野菜を比較して違いを見付け、自分の野菜をもっと大きく育てる方法を考えることができます。また、自分が育てている野菜以外にも、多様な種類の野菜があること、その野菜の色や形、味など、観察や食する体験を通して、季節を感じ取っていきます。
- *生活の内容(7)「動植物の飼育・栽培」
- ・自分が栽培した野菜や収穫した野菜を使って、友達と協力してピザ作りをする体験を通して、がんばって育ててきた自分に気付いたり、友達と協力することができるようになった自分に気付いたりします。これにより、これからも意欲的に生活しようとする気持ちを高めていくことができます。
- *生活の内容(9)「自分の成長」

学習指導要領上の位置付け

自分が消費する (加工する・調理する・飲食する・作品にする・見学調査する・発表する)

おいしいピザをつくるには、どんな工夫をすればいいのか。(ピザづくり時)

③ピザづくり

〇〇さんの育てたピーマンを置いたら、次に。

私が〇〇を切っている?

仲良くピザ作れたし収穫したての〇〇も入れて美味しいね。

④お礼のえさやり

牛さんのミルクが、チーズになるんだね。おいしいピザが作れるのも牛さんのおかげだね。

牛さんありがとう!

農家の野菜の観察や収穫体験の学びの可能性

- 野菜を栽培していく際の農家の工夫や努力に関連付けて学習を構成していくならば…
- *小学校5年社会 (2)「我が国の農業や水産業(食料生産)の様子と国民生活との関連」ウ
- *小学校3・4年社会(2)「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」イ
- そのほか、循環型の農業などをテーマに学習活動を構成するならば総合的な学習の時間に、収穫、調理、えさやり、堆肥作りなど、一連の活動を追究の場面などに、活動を位置付けていくことができます。

実践例 「おやさいマジック (パーティー編)」

1 関連する単元名 小学校2年 生活 「わたしたちのやさいばたけ」(16時間)

2 関連する単元の目標

- 野菜を育てる活動を通して、それらの育つ場所、変化や生長の様子、生命をもっていることに気付くとともに、野菜を大切に育てる気持ち、ありがたくいただく気持ちをもつことができる。
- 友達と自分の役割を果たしながら仲良く活動し、意欲的に生活することができる。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) やさいをそだてよう(1時間)

- 知っている野菜、育てたい野菜について話し合う。

(2) さあ、そだてるぞ(3時間)

- 個々に育てる野菜を決め、野菜栽培への気持ちや思いをカードに書く。
- 野菜に詳しい人(「野菜の先生」)に教わりながら、土作りや畑の耕し作業を行う。
(※アグリパークで土作りを行う場合:「おやさいマジック(命の源、土作り編)」参照)
- 野菜の苗や種を植える。

(3) 大きくそだて(5時間)

- 野菜の世話をし、その様子をカードに書いたり報告し合ったりする。
- 野菜の世話、病気や虫など野菜の心配事について「野菜の先生」に話を聞く。
- 野菜(植物)も自分と同様に生長することや生命があることを、野菜の世話カードに書いたことをもとに整理する。

(4) アグリパークでやさいを見よう、食べよう(6時間)

- どうしたら一層よい野菜を育てることができるかという学習課題を作り、それを解決するためにアグリパークへ行って学習することなどを確認する。
- 自分たちが作っている野菜をもとに、ピザ作りの班を決め、役割や手順を確認する。

体験の前に

学習課題例

おいしい野菜に育てるためには、どんな世話(工夫)をすればいいのか。(野菜の観察時)

おいしいピザをつくるには、どんな工夫をすればいいのか。(ピザづくり時)

アグリパークでの体験活動 <4時間>

①学校産とアグリ産 → ②野菜オリエンテ → ③野菜の収穫体験 → ④調理食味体験 → ⑤えさやり体験の野菜食べ比べ → リング

まとめのメモ例

「トマトは水やりをやりすぎない。ナスは朝夕たっぷり水をあたえる。」(野菜の観察)
「やくめとじゅんばんをまもる。じゅんばんにきったやさいをおく。」(ピザづくり時)

体験の後に

- アグリパークで教わったこと、確認したこと(よりよい育て方、なかよく活動する秘訣等)をカードにまとめる。

(5) できた、わかった、もっとやってみたい(1時間)

- 表現してきたものをもとに、活動を振り返り、がんばってきたこと、できるようになったこと、分かったこと、もっとやってみたいことなどを話し合う。 → 秋植え野菜の栽培へつなげる。

4 本時のねらい

- よりよい野菜を収穫するための野菜の育て方を指摘することができる。
- 友達と協力し合ってピザを作ることができる。

5 本時の展開例(180分=4時間)

学習活動	教師(T)・指導員(I)・子ども(C)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ(10分)	T:学習課題を確認し、インストラクターを紹介する。 I:野菜畑の観察・収穫、ピザづくり、えさやりの活動の一連の活動と注意事項を説明する。	・活動の流れと目標を示し、活動に見通しをもたせる。
②自分が育てた野菜と同じ野菜を観察し、違いをとらえる(30分)	I:子どもたちに野菜を観察させ、アグリパークにある野菜と子どもたちが育てた野菜との違いについて問う。 C:ぼくのトマトは、こんなに大きくない。茎も太いし丈背も僕より高い。土の違いかな? C:わたしの実にはひびがあるけど、ここには全然ない。 I:児童の疑問に応じて、よりよい収穫のための世話の仕方を説明する。 C:なるほど、水のやり方や根っこを広がるように、工夫がいるんだね。肥料だけでないのか。	・多様な感覚を働かせて観察させるようにする。 ・同じこと、違うことを整理して表に示すなどの工夫をして、子どもたちがとらえたことを分かりやすくする。 ・野菜畑ごとに専門家を配置する。 ・疑問にすぐに答えるのではなく予想させたり考えさせたりする。
③アグリパークにある様々な野菜の種類や特徴をとらえる。ピザ作りに必要と思う新鮮な野菜を探して収穫する(30分)	I:野菜オリエンテーリングカードを配付し、クイズ等に答えながら、畑を巡ることを説明する。 C:このとげは何のためにあるのかな? C:まっすぐな形の方がおいしいのかな?それとも形は味に関係ないのかな。 C:とげは、動物とかに食べられないためなんだね。 C:新鮮でおいしい◇◇が、分かったよ。みんなでよく見て、一番いいのを採ろう。	・野菜畑ごとに専門家を配置し、児童の疑問に答えるとともに、クイズの回答、説明をできるようにする。 ④野菜をいためたり勝手にとったりしない、畑の中を走らないことなどを確認する。
④班で協力してピザを調理し食べる(60分)	ピザ作りのねらいや役割分担について説明する。 I:包丁など基本的な道具の扱い方や衛生面等についてしっかりと指導する。 C:初めてだけど注意しながら、ぼくにもできそうだ。 I:1個ずつ切った野菜を順番にトッピングするやり方はすごくいいね。 C:順番に置くやり方を発明してよかったなあ。 C:がんばって育ててきたから、おいしいね。	④安全の徹底のため、班ごとに補助者を付けたり、視覚的な教材を準備したりする。 ・協力して調理や後片付けをできるように支援したり、具体的にほめたりする。
⑤感謝の気持ちで、えさやりをする(50分)	I:肥料にかかわるサイクルについて説明し、野菜のお裾分けをして感謝することを確認して、エサやりを行わせる。 C:牛さん、ぼくの作った野菜食べてね。ありがとう。 T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターへお礼を述べる。	・「おやさいマジック(命の源、土作り編)」を実施していない学校は、⑤のえさやりを省略する。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
生活への関心・意欲・態度	・野菜に興味をもって観察したり、すすんで収穫したりしている。 ・野菜の生長に役立ってくれた牛や、お手伝いしてくれた人に感謝の気持ちをもって接している。 ・友だちと考えを出し合っておいしいピザを作る。	活動の様子 振り返りカード
活動や体験についての思考・表現	・ピザづくりに必要な量の野菜をよく観察しておいしそうなものを選び、収穫している。	活動の様子 振り返りカード
身近な環境や自分への気付き	・自分の野菜とアグリパークの野菜とを比べて生長や味の違いなどに気付く。 ・自分たちの育てた野菜を味わい、これまでがんばって育ててきた自分の良さや成長などに気付く。	活動の様子 振り返りカード

④まるごとかんじて ストロベリーデー!

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

・実施期間	2, 4, 5月
・最大人数	80人
・費用	160円/人

が 魂 自分が育てる (世話する・収穫する)

体験活動

どんなイチゴが、おいしいイチゴでしょうか。(イチゴ収穫食味の時)

①イチゴつみ, 食味体験

・ハウスの中は外より暖かいなあ。何度かな?
・あれ?ハチ?



・形の良い三角で、真っ赤なイチゴがおいしいと思う。
・上の方から赤くなると思う。

②受粉体験

私たちがハチさんになって、実ができるように花粉をつけよう。



学習指導要領上の位置付け

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校1・2年：生活

- ・視覚, 聴覚, 触覚, 味覚, 嗅覚などの諸感覚を高めることができます。また, 身近な自然と繰り返しかかわって学ぶことにより, 自然と一体になりながらその特徴や性質をとらえ, 四季の変化や生活の変化に気付いていくことができるようになります。
- *生活の内容(5)「季節の変化と生活」**
- ・イチゴを使ったお菓子作りを通して, 自分の成長を実感したり, 一緒に成長した友達と喜びを共有したりして, 意欲的に自分たちの生活を楽しくしていくことができます。
- *生活の内容(9)「自分の成長」**
- *生活の内容(5)「季節の変化と生活」**

自分が消費する (加工する・調理する・飲食する)

おいしいおかしを協力してつくるには、どんなことに気を付ければいいのか。(おかしづくり時)

③イチゴ大福作り体験

・自分でとったイチゴを使ってイチゴ大福を班で協力して作るよ。
・こね加減がむずかしいね。



・ぼくがとったイチゴだよ。新鮮だよ。食べて!
・〇〇が、おいしいイチゴだよ。
・イチゴ大福の作り方、簡単だから今度、家でも作ろうよ。



生のイチゴもおいしいけれど、大福もいいね。



イチゴ摘み体験, イチゴのお菓子作り体験の学びの可能性

- 受粉体験を中心に学習活動を構成していくならば…
 - *小学校5年理科 B(1)植物の発芽, 成長, 結実**
- イチゴ摘み体験を「越後姫」といったフードブランドや農業生産と関連付けて学習活動を構成していくならば…
 - *小学校5年社会の内容(2)「我が国の農業や水産業(食料生産)の様子と国民生活との関連」ウ**
 - *小学校3・4年社会の内容(2)「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」イ**
- 総合的な学習の時間に, イチゴ摘み体験, お菓子作り体験を新潟市の特産物を使ったアイデア商品作りの学習活動に向けた動機付け, 課題設定などの場として位置付けていくこともできます。

実践例 「まるごとかんじて ストロベリーデー！」

1 関連する単元名 小学校2年 生活 「じぶん大好き，明日へジャンプ」（17時間）

2 関連する単元の目標

- ・自分自身の成長に関心を持ち，振り返ることを通して，自分が成長してきたことや，成長の背景には多くの人の支えがあったことに気付かせるとともに，成長を支えてくれた人に感謝し，意欲的に未来に向かって生活しようとするができるようにする。
- ・自分の感じたこと，考えたことを豊かに表現することを通して，培ってきた様々な感覚（見る，聞く，嗅ぐ，触る，味わう）や感性（心）を一層高めることができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) できる ように なったこと (4時間)

- ・2年生になって，自分でできるようになったことや成長について振り返る。
- ・できるようになったこと等を発表し合い，自分自身や友達の成長やよさをまとめる。

(2) 小さい ころ ～「自分物語」～ (6時間)

- ・小さいころの印象的なできごとや成長に関するエピソード等を調べる。
- ・小さいころについて調べたことを「自分物語」として表現する。
- ・「自分物語」をお互いに発表し，自分自身や友達の成長のよさをまとめる。

(3) あしたへ ジャンプ (7時間)

- ・成長のよさをまとめ，「自分物語」，生活科の学習をもとに，様々な感覚や感性（よく見る，聞く，嗅ぐ，触る，味わう，心を観点とする）で，物事を豊かにとらえ，表現できるように成長したことを上記観点で整理しながら確認する。
- ・イチゴ摘みやお菓子（イチゴ大福）作りをして，成長した自分たちをお祝いしたり，さらに感覚や感性を高めたりして，3年生へ進級していくことを確認する。
- ・自分の感覚や感性を意識させて，体験学習に臨めるようにする。
- ・お菓子の作り方（イチゴ大福）を調べ，おいしいイチゴはどんなイチゴか，お菓子を協力し合って作るには，どんなことに気を付ければいいのかなどの学習課題を立てて体験学習に臨めるようにする。

●自分自身や友達の成長のよさをしっかりと実感して、体験学習へ臨めるようにする。

学習課題例

どんなイチゴが，おいしいイチゴでしょうか。(イチゴ収穫食味の時)

おいしいおかしを協力してつくるには，どんなことに気を付ければいいのか。(おかしづくり時)

アグリパークでの体験学習 <4時間>

①イチゴ摘み，食味体験→②受粉体験→③イチゴ大福づくり体験

まとめのメモ例

「まっ赤イチゴがあまい。上のほうから赤くなる。」(イチゴ収穫時)

「やくめとじゅんばんをまもったよ。こまった人を手伝ってあげたよ。」(おかしづくり時)

- 体験の後に
- ・体験の中で感じたことを発表し合い，観点を決めて整理し，自分の感覚や感性を確かめる。
 - ・体験したことを絵や文で表現し，発表し合って自分や友達の良い点や成長，仲間がいることのすばらしさを再度実感できるようにする。
 - ・単元全体の学習を振り返り，感謝をしなければならない人のこと，3年生になる期待や抱負について発表し合い，感謝，夢，希望等をテーマに作文，手紙などの表現活動をする。

4 本時のねらい

様々な感覚を使って，イチゴの生育を観察したり，イチゴを使ったお菓子を友達と協力して作ったりすることができる。

5 本時の展開例 (180分=4時間)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (10分)	T:学習課題を確認し，インストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的，注意事項を説明し，見通しをもって，安心，安全に活動に臨めるようにする。	・視覚情報を用いて説明し，どの子どもにも理解できるようにする。
②様々な感覚を使って，イチゴの観察をする	I:イチゴの生育環境について考えさせたり説明したりする。 C:ハウスの中は外より暖かいから30℃くらいかな。 C:石油ヒーターで外より暖かくしているんだね。 I:美味しいイチゴはどういうイチゴか，またどこから赤くなっているかについて，絵や言葉にかかせて予想させる。 C:色は真っ赤で，形はきれいな三角だと思う。 C:上の方から赤くなるのかな。	・ハウス内外の気温を体感的にとらえさせながら進める。 ㊦ハウス内は絶対に走らないことを確認する。 ・美味しいイチゴについて，児童の考えを整理していく際には，「五感+心」表を用い，多様な見方，考え方に気付かせる。
③様々な感覚を使って，イチゴ摘みや食味をする	I:美味しいイチゴや摘み方について話し，観察，イチゴの選択，食味を指示する。 C:赤ければ形はあまり関係ないみたい。 C:上の方が赤くなりかけているイチゴがある。 C:赤いイチゴは甘いし，いい香りがする。 C:ハチの体や足に黄色いものを見付けたよ。	・「越後姫」が新潟の特産物の一つであることを伝える。 ・摘んで食べるイチゴの個数を〇個と決めて美味しいイチゴを探させることで，深い観察となるようにする。 ㊦ハチの性質について注意をし，観察の仕方を確認する。
④ハチの観察，受粉作業をする (②～④の活動をあわせて90分)	I:ハチによる受粉やその他の受粉について話しをし，受粉の仕方を説明する。 C:黄色いものをお花に付けるんだね。 C:ぼくのミニトマトがなったのもハチさんのおかげ？	・児童の興味，関心に応じて，受粉，実，種等についても補足説明をする。
⑤収穫したイチゴを材料に，友達と協力してイチゴ大福をつくる (80分)	T:イチゴ大福つくりのねらいや，活動班，役割分担について説明をする。 I:イチゴ大福をつくる手順を説明する。 C:〇〇する時に気を付けよう。 C:コネコネしたときの手の感じがいいな。 C:みんなで作って食べてよかったね。 C:作るの簡単だから，お家でもつくってみよう。 T:まとめのメモを書かせ，発表させた後，インストラクターや農家の方にお礼を述べる。	㊦衛生面，調理器具取扱上等の確認をし，安全の徹底を図る。 ・協力して上手に調理していることをほめ，成長の自覚，自信につながるようにする。 ・「五感+心」表を用い，多様な見方，考え方に気付かせる。

6 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
生活への関心・意欲・態度	・楽しかったこと，気付いたことを家の人等に伝えたいと表現している。 ・今日の体験学習を家の人と一緒にしてみたいと表現している。	行動観察 振り返り作文
活動や体験についての思考・表現	・各体験学習の場で，体中（五感，心）で感じたこと，観察して気付いたこと，疑問に思ったことを自分なりの言葉で表現している。 ・確認したことに基いて，美味しいイチゴを考えながら探している。	行動観察 振り返り作文 記録カード
身近な環境や自分についての気付き	・自分が色々な感覚で物事をとらえ，成長していることに気付いている。 ・グループで仲よくイチゴを選んで収穫したり，イチゴ大福を作って食べたりできたことを自分やお互いの成長に関連付けてとらえている。	行動観察 振り返り作文 「五感+心」表

⑤・⑥かしこい消費者になろう

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

- ・実施期間 6月下旬～11月初旬
- ・1班最大人数 20人（直売所見学）
- ・費用 40円/人

魂 自分が育てる（見学調査する・収穫する）

収穫した野菜を販売する時には、どんなことに気を付けたらいいのだろうか。
農家の人が収穫した野菜は、どんなことに気を付けて販売されているのだろうか。

①直売所見学

- ・スーパーと並べ方が違うね。
- ・作った人の名前があるよ。



新鮮だね。いつ収穫したのかな。お店の人に聞いてみよう。

②収穫体験

- ・大根はこうやって作るのか。
- ・野菜を作るのは大変な仕事なんだね。



- ・土がふかふかしているよ。
- ・葉っぱが大きいね。大根も太くて重いよ。

魂 自分が消費する（飲食する・作品にする）

③試食体験

大根って甘いんだね。

たくさんの人に食べてもらいたいな。

④野菜の下処理・販売準備体験

- ・きれいに洗ってお店に並べよう。
- ・傷がつかないように丁寧に。
- ・水が冷たいけどがんばろう。

ぼくたちが収穫した野菜が売れるといいね。
学校ですてきな広告ちらしを作ろう。

※直売所が休みの場合は、本プログラムは実施できません。

収穫体験、直売所での販売準備の学びの可能性

○収穫体験を農業生産と関連付けて、農家の人々の工夫を中心に学習活動を構成していくならば…

*** 小学校5年社会（2）「我が国の農業や水産業（食料生産）の様子と国民生活との関連」ウ**

○そのほか**総合的な学習の時間**において、生産販売の仕事を中心にキャリア教育として位置付けたり、野菜の加工品・保存食・郷土食を中心に活動を構成し、食の学習や地域学習の動機付けや課題設定の場面に位置付けたりしていくこともできます。

実践例「かしこい消費者になろう」～畑から食卓へ、おいしい野菜をとどけたい～

1 関連する単元名 小学校3年 社会「見直そう わたしたちの買い物」 (14時間)

2 関連する単元の目標

- ・買い物調べやスーパーマーケットの見学を通して、よりよい生活を求める消費者の工夫や努力をとらえ、それらと関連付けながら、販売に携わる人々が様々な工夫や努力をしていることを理解させる。
- ・販売の仕事の工夫や努力、商品を通した他地域とのつながりをとらえ、販売の仕事が自分たちの生活を支えていることに気付くとともに、上手な買い物の仕方について考え、消費者としての意識を高めることができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 買い物調べをしよう (4時間)

- ・家庭の買い物について調べ、表やグラフにまとめる。
- ・よく買い物に行く店の様子や、そこで働く人の様子について、調べる意欲をもつ。

(2) 店を調べに行こう (4時間)

- ・スーパーマーケットの見学を通して、店では販売の工夫や努力を行っていることや、商品を通して自分たちの地域と他地域とがつながっていることに気付く。

(3) 上手な買い物をするために (1時間)

- ・これからの買い物の仕方について考え、買い物に対する意識を高める。

(4) アグリパークの野菜を収穫・販売しよう (5時間)

- ・これまでの学習で分かったことをもとに、直売所の準備や工夫、消費者ニーズ等の観点から学習課題を作る。
- ・アグリパークで体験した野菜を販売させてもらうためのちらしを作ることを知る。
- ・どのようなちらしを作りたいか考える。
- ・見学・体験上の諸注意を聞く。

体験の前に

学習課題例

収穫した野菜を販売する時には、どんなことに気を付けたらいいのだろうか。

アグリパークでの体験学習 <4時間>

- ①直売所の見学 → ②野菜の収穫体験 → ③取りたて野菜を → ④下処理と販売準備
- | | | | |
|---------------------|------------------------------|--------------------------|---------------------|
| (直売所の様子・
生産者のお話) | (旬の野菜の収穫
・新鮮な野菜の
見分け方) | 食べよう
(簡単な調理で
試食する) | (野菜の下処理
選別・袋詰め等) |
|---------------------|------------------------------|--------------------------|---------------------|

まとめのメモ例

「店に来た人が買いたくなるように、ていねいに仕事をする。」
「野菜を作った人の思いや大事にしていることが伝わるように、ポップを作る。」

体験の後に

- ・見学や体験したことをもとに、学習をふり返る。(見学カードのまとめ・作文)
- ・収穫した野菜について、広告のちらしを作る。
- ・生産者の思いや、選別した野菜の活用方法を考える。
- ・生産や販売の仕事が、自分たちの消費生活を支えていることを理解する。

※本実践例「かしこい消費者になろう」の本時の展開例(70ページ)は、小学校社会科3年の単元「見直そう わたしたちの買い物」(68ページ)と単元「調べよう ものを作る仕事」(69ページ)の二つの単元のうちどちらにでも位置付くように構成されています。そのため、展開例は一つでありながら、単元が二つ掲載されています。

実践例「かしこい消費者になろう」～畑から食卓へ、おいしい野菜をとどけたい～

1 関連する単元名 小学校3年 社会「調べよう ものを作る仕事」(13時間)

2 関連する単元の目標

- ・自分たちの市で行われている生産活動について、働く人たちの様子や生産のための工夫をとらえるとともに、原料や製品を通した他地域とのつながりに気付くことができるようにする。
- ・地域の生産活動の移り変わりや、地域の自然環境と社会環境との関係をとらえ、地域の生産活動と自分たちの暮らしとの結びつきについて考えを深めさせる。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 大根を作る仕事 (5時間)

- ・大根作りの仕事の様子を調べる。
- ・大根を作る農家の人の工夫や努力を理解する。
- ・農家の人の仕事と自分たちの生活とのかかわりを考える。

(2) アグリパークの野菜を収穫・販売しよう (5時間)

- ・これまでの学習で分かったことをもとに、直売所の準備や工夫・消費者ニーズ等の観点から学習課題を作る。
- ・アグリパークで体験した野菜を販売させてもらうためのちらしを作ることを知る。
- ・どのようなちらしを作りたいか考える。
- ・見学・体験上の諸注意を聞く。

体験の前に

学習課題例

農家の人が収穫した野菜は、どんなことに気を付けて販売されているのだろうか。

アグリパークでの体験学習 <4時間>

- ①直売所の見学 → ②野菜の収穫体験 → ③取りたて野菜を → ④下処理と販売準備
- | | | | |
|---------------------|------------------------------|--------------------------|---------------------|
| (直売所の様子・
生産者のお話) | (旬の野菜の収穫
・新鮮な野菜の
見分け方) | 食べよう
(簡単な調理で
試食する) | (野菜の下処理
選別・袋詰め等) |
|---------------------|------------------------------|--------------------------|---------------------|

まとめのメモ例

「店に来た人が買いたくなるように、調理の仕方が書かれている。」
「野菜を作った人の思いや大事にしていることが伝わるように、ポップを作っている。」

体験の後に

- ・見学や体験したことをもとに、学習をふり返る。(見学カードのまとめ・作文)
- ・収穫した野菜について、広告のちらしを作る。
- ・生産者の思いや、選別した野菜の活用方法を考える。
- ・生産や販売の仕事が、自分たちの消費生活を支えていることを理解する。

(3) パンフレットにまとめよう (3時間)

- ・これまでに調べたことやアグリパークでの体験を通して考えたことなどをパンフレットにまとめる。
- ・自分の消費生活や食生活をふり返る。

4 本時のねらい

店頭で販売される商品について、収穫体験や販売準備・生産者の話を聞く活動を通して、生産や販売と自分たちの生活とのつながりについて考えることができる。

5 本時の展開例（180分＝4時間）

学習活動	教師（T）・指導員・生産者（I）・子ども（C）	指導上の留意点
①学習課題をつかむ （10分）	T:学習課題を確認し、インストラクターを紹介する。	
②販売用野菜を収穫 するため、直売所の 見学をする （20分）	T:直売所を見学し、気付いたことや不思議に思ったことを まとめておくよう伝える。 C:スーパーの野菜と並べ方が違うね。 C:一つ一つに作った人の名前が書いてある。 C:葉っぱがピンとしているね。いつ収穫したのかな。 C:おいしい野菜はどこを見れば分かるのかな。 C:作った人のお話を聞いてみよう。 I:子どもの質問に答える。	⑮ハウス内は絶対に走らないこ とを確認する。 ・スーパーの様子と比べながら 見学させる。 ・生産者の方に直売所にいて いただき、質問に答えていただ く。
③販売を目的とした 野菜の収穫体験を する （55分）	I:野菜の種まきから収穫までの仕事や野菜の選び方を説 明する。 C:野菜を作るのは、大変な仕事なんだね。 C:葉っぱがとても大きいね C:学校の土とぜんぜん違うよ。どうしてだろう？ C:傷のあるものもあるよ。 C:これもお店に並べていいのかな。	・栽培暦や仕事の様子の資料を もとに説明する。 ・生産者に具体的に語っていただ く。 ・土作りの大切さにも目を向け させる。 ・販売に向かないものもあるこ とに気付かせる。
④販売するため野菜 を試食する （40分）	I:野菜の料理手順と気を付けることを説明する。 C:切り口がぬれているね。 C:食べたとき、ぱりぱりって音がするよ。 C:大根って甘いんだね。	⑯衛生面、調理器具の取り扱い 等、安全面に注意させる。 ・全員に作業を体験させる。 ・新鮮な野菜の様子、音や手触り にも目を向けさせる。
⑤買う人の立場に 立って販売準備を する （40分）	I:店頭で並べるまでの仕事を説明する。 T:これまでの学習を通して、買う人が安心して買ってもら うために必要なことや、ラベルに書く内容について確認 する。 C:泥がついていたら嫌だよ。きれいに洗おう。 C:傷つかないようにやさしく洗おう。 C:野菜って重いんだね。 C:ラベルはていねいに貼ろう。 C:ぼくたちの野菜が売れるといいね。 C:学校へ戻ったら、みんなが買いたくなるようなちらしを 作るよ。 C:今度お母さんと買いに来よう。	・洗浄、選別、袋詰め、ラベル 貼りなどの販売準備の説明 をする。 ・生産者の立場と消費者の立場 から、収穫したものを大切に 扱おうという気持ちをもた せる。 ・生産者の思いや収穫体験を生 かしたちらしを作ろうとい う気持ちをもたせる。
⑥まとめと振り返り をする （15分）	T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インスト ラクターへお礼を述べる。	

6 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
社会的事象への 関心・意欲・態度	・販売や生産の仕事に関心を持ち、見学したり体験したりしている。 ・調べたことや体験したことを、自分の生活に生かそうとしている。	行動観察 作文
社会的な思考・判 断・表現	・見学や体験したことをもとに、ちらしやパンフレットを作っている。 ・確認したことに基づいて、美味しいイチゴを考えながら探している。	ちらし パンフレット等
観察・資料活用の 技能	・体験したことや聞いたことから、必要な情報を選んでちらしやパン フレットに取り入れている。	ちらし パンフレット等
社会的事象につ いての知識・理解	・生産者、販売者の工夫や努力が分かる。 ・生産・販売の仕事が、自分たちの生活を支えていることが分かる。	見学カード 作文

「アグリ・スタディ・プログラム」改訂に寄せて

近年、食をとりまく環境の変化により、子どもたちの食生活においては、栄養の偏り、不規則な食事などが生じているほか、日常生活では食の生産現場を意識することが難しくなっています。

このような状況の下で、新潟市におかれましては公立教育ファームを開設し、今般は、教材である「アグリ・スタディ・プログラム」の改訂版を発行されました。このことは、食への関心や理解を増進し、自然の恩恵や食に関する人々の様々な活動への理解を深め、食に関する知識と判断する力を習得することに大きく貢献するものと期待しております。

農林水産省においては、平成27年10月に組織再編を行い、食育の事業は、和食の保護・継承、国産農林水産物の消費拡大、地産地消の推進の事業などとともに食料産業局食文化・市場開拓課に移管いたします。その中で、より効果的・効率的な食育の推進を図ることとしており、引き続き、教育ファーム等農林漁業体験を積極的に推進し、ともに食と農林漁業の理解を進めてまいりたいと思います。



農林水産省 消費・安全局 消費者情報官 道野 英司

「アグリ魂」に期待する

農業体験活動を学習に生かす「アグリ・スタディ・プログラム」は、新潟ならではの、地域性溢れる豊かな教育プログラムです。「アグリ・スタディ・プログラム」で大切にしている5つのことに、一層の期待が膨らみました。

農業体験における諸感覚を大切に、子どもが汗して働くことを位置付けています。そこでは、地域の専門家の教育力を活用し、学校のイメージを新潟市全体へと広げています。また、体験を確かな学びに高めるための言葉や対話を重視しています。

とりわけ大切だと思うのは、「アグリ魂」です。「育てる」と「消費する」とをつなぐ生産消費者の考えは、これからの社会に欠かせない重要な視点だからです。

こうして考えると「アグリ・スタディ・プログラム」には、未来社会を支える教育の視点が盛り込まれていることとなります。確かで豊かな実践によって、このプログラムに本物の魂が吹き込まれることを期待しています。



文部科学省 初等中等教育局 視学官 田村 学

⑦新潟おいしい果物物語

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

- ・実施期間 9月上旬～10月中旬
- ・1班最大人数 60人
- ・費用 370円/人

が魂
自分が育てる（見学調査する・収穫する）

私たちが予想した工夫により栽培すると、なぜおいしい梨が育つのだろうか。

① 梨園体験と聞き取り調査

・病気の予防や日焼けのために袋をかけているのか。
・風をよけたり、とりやすくしたりするために木の高さは低くなっているのか。

工夫の理由を考えよう！

・病気を予防するためや日焼け防止のために、袋をかぶせるんだよ。
・一日1000個も袋をかぶせるので大変なんだよ。

② 食味, クイズ 収穫体験

・おいしい梨は、大きい。○か×か。
・形が丸いほどおいしい。○か×か。
・甘いにおいがするのは、おいしい。○か×か。

学習指導要領上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校3・4年：社会

- ・梨農家を訪れ、梨栽培の観察や梨の収穫体験をしたり、農家の方と質疑応答をしたりすることを通して、梨農家がおいしい梨を工夫して栽培していることに気付くことができます。さらに、自分たちが気付いたことを書き込んでプレゼント用カードを作成することにより、相手意識をもって調べたことを表現する力を高めることができます。
- * 社会の内容(2)「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」ア, イ

➡ 自分が消費する（飲食する・作品にする）

・最高の果物をとるぞ。
・形がいいから、おいしそうだ。
・これは、大きいからうまそうだぞ。

③ プレゼントカードを作りラッピングしよう

・梨の棚が低くなって行って採りやすい工夫をしている。
・1000個も袋をかぶせて苦労して作った梨をとってきたよ。

果樹収穫、果樹のラッピング体験の学びの可能性

- 農家の人の工夫や努力を中心に学習活動を構成していくならば…
 - * 小学校4年社会の内容(6)「県の地形や産業、県内の特色のある地域」
 - * 小学校5年社会の内容(2)「我が国の農業や水産業(食料生産)の様子と国民生活との関連」
- 植物の受粉体験を中心に成長などで構成していくならば…
 - * 小学校5年理科の内容 B(1)「植物の発芽, 成長, 結実」
- そのほか、総合的な学習の時間に、果樹栽培の体験や収穫、お菓子作り、ラッピングなど、新潟市の果物を使ったお土産商品作りの学習活動の動機付け、課題設定などとして位置付けていくこともできます。

実践例「新潟おいしい果物物語」

1 関連する単元名 小学校3年 社会 「調べよう ものをつくる仕事」(8時間)

2 関連する単元の目標

- ・梨栽培する農家を見学することを通して、おいしい梨作りに取り組む人たちの様子や工夫、果物を通じた農家と地域とのつながり、作った果物を売するための努力などについてとらえることができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 新潟市の南区の果樹栽培を調べよう！(1時間)

- ・新潟市の白根で盛んに栽培されている様々な果樹を調べる。
- ・梨がどのような場所で、どのように栽培されているかを調べる。

(2) 果物農家(梨)の栽培の工夫を見つけよう！(6時間)

- ・写真や副読本「わたしたちの政令市新潟」をもとに、おいしい梨作りのために農家の人はどんな工夫をしているのか予想する。

体験の前に

木の高さが低くなっている
余分な枝を切る
つぼみをとる
手で花粉を付ける
余分な実をとる
袋を実にかける

- ・「予想した工夫により栽培すると、なぜおいしい梨が育つのだろうか」という学習課題をつくり、見学計画(質問事項など)を立てる。

学習課題例

私たちが予想した工夫により栽培すると、なぜおいしい梨が育つのだろうか。

アグリパーク・農家・観光農園での体験学習 <3時間>

- ①梨園探検と聞き取り → ②梨の食体験 → ③おいしい梨探し → ④カード制作とラッピング
- (みずみずしい、(おいしい梨クイズ、(「収穫してみて、分かったカード」作り、ラッピング)
- (袋かけ、棚の高さ、甘い、いい匂い) おいしそうな梨1個 収穫)

まとめのメモ例

「袋を掛けるのは、日焼けを防ぎ、病気がうつらないようにするため。」
「余分な枝やつぼみ、実をとるのは、栄養を均等に、大きな実をとるため。」

体験の後に

- ・おいしい梨を栽培する工夫を発表する。

袋を掛ける—病気・日焼けの防止
余分な枝・つぼみ・実をとる—栄養を均等に、大きな実をとるため
棚を低くする—風の防止、収穫しやすいように

(3) 白根の梨は一体どこに運ばれていくのかな！(1時間)

- ・白根で生産された梨が、どのようにしてどこに運ばれていくのかを調べる。
- ・地図などを使い、梨がどこに運ばれているのかを調べる。
- ・梨の生産地の新潟市南区(白根)と消費地のつながりを調べる。

4 本時のねらい

自分たちが予想した梨栽培の工夫について農家の人に確かめる活動を通して、果物作りに取り組む農家の工夫・努力(袋付け、摘果、棚の高さ等)、苦労などに気付くことができる。

5 本時の展開例(135分=3時間)

学習活動	教師(T)・指導員(I)・専門家(P)・子ども(C)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ(5分)	T:本時の学習課題を確認し、インストラクターと農家の方を紹介する。 I:学習の流れ及び施設や道具使用等についての注意事項を確認し、安全に活動できるようにする。	・学習の流れを示し、学習の見通しを持たせる。
②自分の予想と実際の梨園を比べる(20分)	T:実際の梨園が子どもが予想したようになっているか確かめさせる。 C:袋をかけているのは予想通りだ。 C:枝の高さが低くなっているのも予想通りだよ。	・児童が予想した袋かけ、棚の高さ等を確認させる。
③農家の人に確かめる活動を通して、おいしい梨作りの工夫に気付く(30分)	T:おいしい梨を栽培する工夫の理由を農家の人に確かめさせたり、何のための工夫なのかを質問させたりする。 P:質問に答えたり工夫を述べたりする。 C:病気や日焼け防止のために梨を袋に入れている。 C:風の防止や収穫しやすいように棚の高さを低くしている。 C:梨に栄養がいくために梨が均等になっている。 C:おいしい梨を作るために、一日1000個近く袋をかぶせなくてはいけなくて大変だ。	・まず、「農家の人に確かめたいこと」を発表させる。次に「何のための工夫なのか」を質問させる。最後に、児童から出てこない工夫を農家の人から説明してもらう。
④工夫して育てられた梨を試食する(15分)	I:いろいろな工夫をして作られた梨を試食させる。 C:みずみずしくておいしい。 C:甘くて、いいにおいがする。	・工夫の成果を味わわせるため、梨一切れを試食させる。
⑤自分がおいしいと思う梨を1個収穫する(25分)	I:おいしい梨をとるために、「おいしい梨クイズ」をする。 I:おいしそうな梨とは、大きい。○か×か。 C:○かな。 I:形が丸い梨ほどおいしい。○か×か。 C:×かな。 I:採るときに注意を説明する。 C:気を付けて、おいしい梨を採るぞ。	・インストラクターが安全な採り方を演示する。 ④上がる台などが動かないように配慮する。
⑥選んだ梨をそえる「収穫してみて、分かったことカード」を記入する(25分)	T:「収穫してみて、分かったカード」に、気付いた工夫を書かせてカードを完成させる。 C:おいしい梨を作るために、病気や日焼け予防に袋をかぶせていることが分かった。	・今日学習したことを確認するために、「分かった」カードに収穫を体験して分かった梨づくりの工夫をまとめさせる。
⑦まとめと振り返りをする(15分)	T:学習をまとめ、インストラクターや農家の方々に敬礼を述べる。	

6 体験学習の評価

観点	評価規準	評価方法
社会的事象への関心・意欲・態度	・おいしい梨を栽培するための工夫の理由や収穫のポイントについて、農家の人の話を意欲的に聞くことができる。	行動観察 ワークシート
社会的な思考・判断・表現	・「分かった」カードに、農家の人がおいしい梨を作るための工夫について書くことができる。	ワークシート 行動観察
観察・資料活用の技能	・梨の果樹園の工夫を予想したことを、果樹園に行き確認したり、新たな工夫の理由や苦労を見付けたりすることができる。	行動観察 ワークシート
社会的事象についての知識・理解	・おいしい梨を栽培するために袋掛けや摘果、棚の高さなどの工夫や農家の人の苦労に気付くことができる。	ワークシート 行動観察

⑧季節によって違うのですか？

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

・実施期間	5月中旬～11月下旬
・最大人数	120人
・費用	80円/人

が 魂
自分が育てる（見学調査する）

今この季節、何種類くらいの野菜が作られているのだろうか。

① 野菜探しクイズ体験

・今の季節は、何種類くらいの野菜が作られているのかな？

・どの季節が一番多く野菜を作られるの？

・暑い夏が一番？！

・寒いと育たない？！



② 生き物探し体験

・キャベツには、モンシロチョウの卵や幼虫がいるんだよね。食べるんだよ。

・他の野菜にも、昆虫の卵や幼虫はいるのかなあ？



・アグリパークの年間農作業スケジュールを見ながら、今、作られている野菜を調べよう。

・いつでも野菜を採れるように、工夫されているんだね。

・野菜の葉や花をヒントにすれば野菜を探せるね。

・おいしい野菜の見分け方って、あるのかな？

学 習 指 導 要 領 上 の 位 置 付 け

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校4年：理科

- ・身近な動物や植物を探したり育てたりして、季節ごとの動物の活動や植物の成長を調べることにより、それらの活動や成長と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようになります。
- ・例えば「農家の人たちは、季節を先んじて農地作りや農作物の栽培管理に努め、一年を通して野菜を収穫できるように工夫している」ことを体験すると、次のことが可能になります。
 - 季節に合った、その季節に育つ野菜があることに気付く。
 - 新潟の旬の野菜、季節の昆虫を実感できる。
 - 野菜と昆虫の共生を実感できる。

***理科の内容 B「生命・地球」(2)「季節と生物」**

➡ 自分が消費する（調理する・飲食する）

③ 季節の野菜料理体験

・農家にとっては、野菜の品質を悪くするから防除するのか。

・野菜と害虫の関係をもっと知りたい！



・野菜って、甘いんだね。

・シャキシャキしていて、おいしいよ。食べられる。

・生の野菜もいいけれど、スープもいいね。

・新潟の野菜料理が作りたい。

・家でも野菜を育ててみたい。

・今の季節からでも作られる野菜はあるのかなあ。

野菜探しクイズ体験、季節の野菜料理体験 の学びの可能性

- 野菜の成長を中心に学習活動を構成していくならば…
 - * 小学校5年理科 B(1)「植物の発芽、成長、結実」
- 季節の野菜料理体験を「女池菜」「赤塚大根」などフードブランドや農業生産と関連付けて学習活動を構成していくならば…
 - * 小学校5年社会(2)「我が国の農業や水産業(食料生産)の様子と国民生活との関連」ウ
 - * 小学校6年家庭 B(3)
- そのほか、総合的な学習の時間に「新潟市の農業」というキャリア教育に向けた動機付け、課題設定などの場として位置付けていくこともできます。

実践例 「季節によって違うのですか？」

1 関連する単元名 小学校4年 理科「季節と生きもののようす」(29時間)

2 関連する単元の目標

- 身近に見られる動物の活動や植物の成長を季節と関係付けながら調べ、見出した問題を興味・関心をもって追究する活動を通して、生物を愛護する態度を育てるとともに、動物の活動や植物の成長と環境とのかかわりについての見方や考え方を育てる。また、年間を通しての動物の活動や植物の成長と環境とのかかわりをとらえさせる。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 春の生きもののようすを調べよう(6時間) 4月

- 校庭や野原で見られる生きものの様子は、暖かくなるにつれどのように変わってきたか、気温と生きものの様子を調べる。
- 暖かくなるにつれ、植物はどのように育っていくか予想する。
- 水が必要か、空気が必要か、適当な温度が必要か調べる。

教科書の扱い

【植物】
サクラ
ヘチマ
ダイズ
【生き物】
アゲハ
ナナホシテントウ
アマガエル
オオカマキリ
ツバメ
<やってみよう>
自然の中のバード
ウォッチング

(2) 暑い季節(5時間) 6月下旬~7月上旬

- 春の頃と比べて、気温はどのくらい高くなったか、生きものの様子はどのように変わってきたか調べる。(観察している植物は、どのくらい育っているか調べる。)

(3) すずしくなると(6時間) 10月

- 夏の頃と比べて、気温や生きものの様子はどのように変わってきたか調べる。
- 気温が低くなってくると、植物の様子はどのように変わったか調べる。

(4) 寒さの中でも(6時間) 2月

- 秋の頃と比べて、気温や植物の様子はどのように変わってきたか調べる。
- 昆虫などの生きものは、死んでしまったのか調べる。

(2) or (3) の後 「アグリパークの野菜の成長を調べよう！」(6時間)

- 年間農作物一覧をもとに、アグリパークで育てている野菜と季節という観点で学習課題を作る。
- アグリパーク内を探検し、野菜当てクイズや生きものビンゴ、季節の野菜ジュース作りなど、体験的に学ぶことを確かめる。

学習課題例

今の季節、何種類くらいの野菜が作られているのだろうか。

アグリパークでの体験学習 <4時間>

①野菜当てクイズ探検 → ②季節の野菜料理作り → ③お礼の活動(除草&害虫駆除)

まとめのメモ例

「それぞれに合った温度や日の長さによって育てられている野菜がちがう。」
「ビニルハウスのように人工的に季節をつくと野菜の育ち方を調整することができる。」
「季節に合った旬の野菜はおいしい。」

- 野菜当てクイズ・生きものビンゴカードや写真などを見直し、自分が解決したかった課題についてアグリパーク新聞にまとめる。
- 体験活動での気づきや感想を発表し合い、理科の学習内容と関連付けノートに追記する。
- 「新潟の農作物」「季節の野菜」「アグリパークの生きもの」「農業・農家さんへの思い」など、体験を通して感じたことや考えたことを言語活動(新聞、発表会など)によって発信する。

★ アグリHPで確認...年間を通じて、いつでも野菜の成長の様子を観察できるようにする。

4 本時のねらい

アグリパークの年間農作業スケジュールを基にした野菜当てクイズ探検やビニルハウス見学、季節野菜の調理実習を通して、野菜の生育と季節とを関係付けてとらえることができる。

5 本時の展開例(180分=4時間)

学習活動	指導者(I)の働きかけと子ども(C)の反応	指導上の留意点
①学習課題をつかむ(10分)	T:本時の学習課題を確認しインストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって、安心、安全に活動に臨めるようにする。	・視覚情報を用いて説明し、どの子どもにも理解させる。
②アグリパークで育てている野菜について予想する	I:今の季節、アグリパークで育てている野菜の種類について予想させ、調べ方について説明する。 C:アグリパークの野菜は18種類です。HPの年間農作物一覧で調べてきました。早く見たいな。	・季節と関連付けて野菜を観察させることが重要となる。そこで年間スケジュールに合わせて、野菜の育つ様子を写真で紹介し、それぞれに成長する時期があることに着目させる。 ※工夫については、以下に示す。
③アグリパークで育てている野菜と害虫・益虫を調べる	I:年間農作業スケジュールを説明し、今、育てている野菜の種類・調べ方と、ワークシート<野菜当てクイズ>の記入方法を説明する。 I:害虫防除のための工夫※について説明する。野菜と益虫・害虫を探す指示をする。 C:野菜の葉や花をヒントにすればよいのか。 C:害虫ばかりじゃないんだ。野菜にとって、よい虫もいるんだな。頑張ってみよう！	【作物の守り方】 ・害虫や雑草は作物の収穫量を減らし、野菜の品質を悪くするので早めに防除する。 ・雑草は、病原菌や害虫を増やす原因となり作物の栄養もうばう。そのため、土作りも大切になる。 【ビニルハウスの温度・日照管理】 ・温度調節や日照時間の管理により生育季節を人工的にずらすことで商品価値を上げる。
④ビニルハウスで育てている作物と比較し、旬の野菜を収穫する(②③④の活動で70分)	I:ビニルハウスを案内し、外の畑で育てている作物と違いから、主に温度管理や日照時間管理によって季節を人工的に作り出している工夫※について説明し、旬の野菜を収穫させる。 C:芽を出し、育つためには、それぞれの野菜に合った温度や日の長さがあるんだね。	
⑤旬の野菜を調理する(80分)	T:旬の野菜を使った料理を作ることと、味の違いを比べることを確認する。 I:料理の作り方を説明する。 夏 【夏野菜のサラダ作り】(ジャガイモ・ブロッコリー・カボチャ・枝豆・ピーマン) 秋 【焼き芋 or 野菜ジュース or スープ作り】(サツマイモ・ニンジン・枝豆・ブロッコリー・ハクサイ) C:とれたての野菜っておいしい。栄養も濃いよ。 C:家でも農家のように作れたらいいだろうな。	⑤衛生面、調理器具取扱い上の確認をし安全の徹底を図る。 ・班員の協力が重要であることを強調する。 ・旬の野菜の栄養素について説明し、季節を意識させる。
⑥畑の雑草をとる(20分)	I:除草と害虫駆除の作業内容と役割分担を説明する。 C:しっかり草をとるから、元気に大きく育つね。 T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターや農家の方々にお礼を述べる。	・野菜作りは、根気強い管理が大切なことを再確認し、感謝を込めて活動することを約束する。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
自然事象への関心・意欲・態度	・野菜の種類や成長の様子、農家の野菜や農地の管理への思いや工夫を知り、農家への尊敬の言葉を実感の伴った言葉で表現している。	行動観察 新聞
科学的思考・表現	・野菜の栽培と気候との関係について、捉え直している。(体験活動と事前学習事項を照らし合わせて表現する。)	新聞
観察・実験の技能	・農家が季節ごとに工夫している野菜の管理について記録している。 ・野菜の種類を的確に調べ記録している。	行動観察 ワークシート
自然事象についての知識・理解	・野菜の葉・花・実などの姿と野菜名を結び付けて理解している。 ・季節を追いかけてながら、農地や野菜を管理していることが分かる。	新聞

⑨昔の泥田に入ろう

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

・実施期間	5月初旬～5月中旬（田植え） 9月末～10月中旬（稲刈り）
・最大人数	70人
・費用	未定

魂 自分が消費する（見学調査する）

➡ 自分が育てる（植える・収穫する）

昔の田んぼと今の田んぼでの田植えや稲刈りには、どんな違いがあるか。

① 昔の農具調査



どうして農業に舟を使うのかな？

くもの足みたいなのは、足に付けるんだよ。

私も昔のまえかけを付けて稲刈りをしてみたいなあ。

② 泥田（田植え・稲刈り）体験



こんな泥んこの水田を、どうやって今のような水田に作り変えたのだろうか？

冷たい。長い時間は水田に入っていられないよ。

体が泥のために、思うように動かないよ。これでは、時間がかかりすぎるよね。

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校4年：社会

- ・「地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働き」の単元において、実感を伴った学習を進めることができます。
- ・「新潟市社会科指導計画」の単元「昔から今へと続くまちづくり」の亀田郷開発、新川開削、福島潟開発のいずれもが低湿地の開発単元です。これら単元の学習で、白根郷の泥田を再現したアグリ学校田で、子どもが低湿地での稲刈りを体験し、低生産性の湿田がどのように開発されていったという問題意識を強くもつことができます。

*** 社会の内容（5）「地域の古い道具、文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人の具体的事例」**

昔の泥田に入ろう体験の可能性

○自然の中で人間関係などの在り方についての望ましい体験を積むという視点で学習活動を構成していくならば…

*** 小学校3～6年 特別活動〔学校行事〕遠足・集団宿泊行事**

- ・春の泥田での田植え体験や秋の泥田での稲刈り体験、稲刈り以後の泥田でのサッカーゲームなど、昔の農業体験や昔の子どもの遊び体験において、農業の根源である泥や土と接することができます。
- ・宿泊体験の場合は、泥田体験後に大浴場を活用することができます。
- ・日帰り利用でこの体験学習を実施する場合は、アグリパークに相談ください。

1 関連する単元名 小学校4年 社会 「地図にない湖～亀田郷と栗ノ木排水機場」(15時間)

2 関連する単元の目標

- 昔の亀田郷で生活する人々は、水に苦しめられながらも工夫して土地改良を続けてきたことを理解させ、これからのまちづくりについて自分なりの見方、考え方をもつことができるようにする。
- 亀田郷の土地改良の様子を知るため、体験学習、聞き取り調査、写真や地図の活用等に進んで取り組もうとする態度を育てる。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 昔の亀田郷を調べよう (3時間)

- 亀田郷の土地の様子を地図(高低別の色ぬり)で確かめる。
- 亀田郷の低い土地の洪水の危険性について予想する。
- 資料集やビデオで亀田郷の農業の様子を予想し、確かめる。

(2) 泥田をどうやって現在のような水田に変えていったのだろうか (9時間)

- 泥田を体験する計画を立てる。
- 泥田に入って田植えや稲刈りするグループ分けを行う。

体験の前

学習課題例

昔の田んぼと今の田んぼでの田植えや稲刈りには、どんな違いがあるか。

アグリパークでの体験学習 <4時間>

- ①昔の農具調査 → ②泥田での田植え・稲刈り体験
- 田舟, 田かんじきなどの農具の用途調べ
 - 田舟などを使った田植えや稲刈り
 - 乾田での機械植え・機械刈りの見学

まとめのメモ例

「昔の人の稲刈りは、水が多くて動きづらく、機械も使えないので、とても大変だ。」
 「今の田んぼは、昔と比べて水が少ない。機械も使えるので稲刈りは、速いし、楽だ。」
 「どうやって今のような田んぼになったのかな。」

体験の後

- 泥田での田植え・稲刈りと乾田での機械による田植え・稲刈りを比較する。
- 泥田の動きにくさと大変さ、泥田だと機械が入らないことなどに気付く。
- こんな泥田をどうやって乾田化していったのだろうかという問題意識をもつ。
- よりよい生活を目指して土地改良を進めてきたことを理解する。

(3) 新しいまちづくりにむけて (3時間)

- 近年の洪水などに対して排水機場を設置するなど、新しいまちづくりが現在も続いていることに気付く。
- 新しいまちづくりに向けて、自分たちの考えをまとめ、新聞により発信する。

4 本時のねらい

泥田での田植えや稲刈りを体験することにより昔の米作りの苦労を体感するとともに、泥田をどのようにして機械が入る現在のような水田に変えていったのかという問題意識をもつことができる。

5 本時の展開例<稲刈りを選択した場合の例> (180分=4時間)

学習活動	教師(T)・指導者(I)・子ども(C)	指導上の留意点
①泥田で使われた農具を調べ、学習課題をつかむ (30分)	T:田舟, 田げた, 田かんじき等の農具に触れさせ、どのように使用されたかを予想させて学習課題を設定する。 C:忍者が水面をわたる道具みたいだよ。 C:この道具を使って、どうやって稲刈りをしたのだろうか。 C:この道具で本当に泥田で稲刈りができるのだろうか。 T:昔の人々が道具を使ってどのように稲刈りをしたか、実際にやってみようと呼び掛け、作業グループに編成する。	・田舟, 田げた, 田かんじきのレプリカや特長のゴム靴を子どもが使えるよう用意しておく。
②昔の農家の人になったつもりで泥田の稲刈り作業を行う (80分)	I:インストラクターが泥田での稲刈りを実演する。 I:特長のはき方, 田げた・田かんじきの付け方, 田舟の使い方を知らせた後、グループごとに順番に稲刈りを行わせる。 C:大変だ。足が動かない。体の向きも変えられないよ。 C:昔の稲刈りは、とっても時間がかかるよ。 C:昔の農作業は、とても体力がいるよ。 C:昔の農家の人は、大変な苦勞をして、お米をそだてたんだね。	④足が抜けなくても慌てずに教師やインストラクターに伝えることを徹底しておく。 ・足が抜けなくなることを想定して、救助の準備をしておく。
③機械での稲刈りを見学し、二つの稲刈り作業を比較する (40分)	I:機械を使った現代の稲刈りを見学させる。 T:泥田での稲刈りと現代の水田での稲刈りの違いを挙げさせる。 C:泥田は作業が遅くなるし、体力も使うね。 C:泥田だと、泥にうまって機械が入れないんだ。 C:機械は速いし楽だ。服が汚れない。冷たくない。 C:泥田を浅い水田にすれば、機械も入れるよ。	・子どもたちが稲刈りした泥田と等しい面積の水田をコンバインで稲刈りし、比較しやすいようにする。
④まとめとふりかえりをする (30分)	T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、「どのようにして泥田を現在のような機械が入る水田に変えたのだろうか」という学習課題にまとめ、インストラクターにお礼を述べる。	・次時の学習課題を作らせる。

●泥田で田植えや稲刈りをするという強烈な体験活動をもとに、どのようにして現在のような機械も入れる水田に変えていったかという強い問題意識をもたせる。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
社会的事象への関心・意欲・態度	・田げた, 田舟などの使い方について意見を述べている。	行動観察
社会的な思考・判断・表現	・水田の機械化のためには、水田の水の高さを変える必要があることに気付くことができる。 ・泥田の稲刈りの難しさを新聞に表すことができる。	意見発表 新聞
観察・資料活用の技能	・亀田郷や西蒲原, 福島潟周辺の地形と南区の地形を関連付けて、同じような泥田が広がっていたことに気付くことができる。	レポート 意見発表
社会的事象についての知識・理解	・泥田の農作業のために農家の人々が田げた, 田舟などの農具を発明したことを理解する。	ノート記述

⑩果樹園はどんな場所？

- ・ 未来へのストーリー ★★★★★
- ・ 命のストーリー ★★★
- ・ 郷土愛のストーリー ★★★★★

・ 実施期間	9月上旬～10月中旬
・ 1班最大人数	60人
・ 費用	370円/人

が魂 自分が育てる（収穫する）

体験活動

① 梨もぎ体験

これが南区の特産物だね。

梨畑って、こうなっているのね。おもしろい。

学習指導要領上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校4年：社会

- ・ 地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きを考える単位において、実感を伴った学習を進めることができます。
- ・ 白根郷（南区）は、江戸時代から条件のよい場所を水田と畑に、水田にできない場所を果樹園に開発することによって、被害を最小限に抑えるなど、工夫を重ねて果樹園地帯を形成してきた様子を学ばせることができます。

*** 社会の内容（5）「地域の古い道具，文化財や年中行事，地域の発展に尽くした先人の具体的事例」**

自分が消費する（見学調査する）

みなさんが収穫した梨の畑は、どんな地形に作られているか調べてみよう。

② 梨畑の地形調べ

大きな川のそばに、梨畑があるよ。どうして川のそばなのかなあ？

水害が来たら大変。どうして、こんな危ない場所に作ったのかなあ？

「梨もぎ」体験の可能性

- 植物の受粉体験を中心に成長に関することなどで構成いくならば…
 - * 小学校5年理科の内容 B（1）「植物の発芽，成長，結実」
- 農家の人の工夫や努力を中心に学習活動を構成していくならば…
 - * 小学校5年社会の内容（2）「我が国の農業や水産業（食料生産）の様子と国民生活との関連」
 - * 小学校3・4年社会の内容「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」

「梨畑の地形調べ」体験の可能性

- 総合的な学習の時間で、地域の人々の努力を中心に「横断的・総合的な課題」により探究的な学習を行うならば、例えば「フルーツ王国南区の秘密を探せ」等の単元を構成することができます。

実践例 「果樹園はどんな場所？」

1 関連する単元名 小学校4年 社会 「白根郷の果樹園開発」(16時間)

2 関連する単元の目標

- 昔の白根郷で生活する人々は、水に苦しめられながらも工夫して果物を植えてきたことを理解させ、これからのまちづくりについて自分なりの見方、考え方をもちることができるようにする。
- 体験学習、聞き取り調査、写真や地図の活用等に進んで取り組もうとする態度を育てる。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 昔の白根郷を調べよう(3時間)

- 白根郷の現在の土地利用を地図、資料集やビデオで確かめ、白根郷の農業の様子を予想する。
- 連続堤で囲まれた白根郷の洪水の危険性について予想する。

(2) 水害にあいやすい場所がなぜ果樹園になっているのだろうか(7時間)

- 見学する果樹園の地形図を見て、果樹園の様子を予想し、学習課題をつくる。
- 白根郷の特産物である梨もぎ体験や梨畑の地形調査の計画を立てる。

学習課題例

みんなが収穫した梨の畑は、どんな地形に作られているか調べてみよう。

農家ファームでの体験学習 <2時間>

①梨もぎ体験

- 白根の特産物・梨の収穫体験
- 梨の原木やルレクチェの古木の見学

②梨畑の地形調べ

- 川から梨畑までの距離測定
- 梨畑・桃畑の標高や桃畑から川までの距離について話を聞く
- 果樹園開発前の様子について聞く

まとめのメモ例

「梨を収穫した畑の近くに、川が近くにある。渦もあった。」
 「洪水になった時、梨の木どのあたりまで水が来るのかな。」
 「どうして水害にあいやすい場所に梨畑をつくったのかな。」

●川から果樹園までの距離や果樹園の標高から、なぜ水害にあいやすい場所に果樹園が作られているのかという課題をもって追究に向かう。

- 水害で土砂や水が押し寄せても大丈夫な梨や桃などの背の高い果樹を植えるなど、工夫して農業を営んできたことを理解する。

(3) 白根郷の果樹園の歴史を調べよう(3時間)

- 白根郷では条件のいい場所を水田に、水田にできない場所を果樹園にして、水害に備えながら開発を進めてきたことや、時代の嗜好にあう品種を植え、近年はルレクチェ等で好評を得ていることを知る。
- 大河津分水や関屋分水の建設、河川改修や排水機の設置などにより、安定的な農業を行うようになったことを理解する。

(4) 新しいまちづくりにむけて(3時間)

- 近年の洪水に対して排水機場を設置するなど、新しいまちづくりは現在も続いていることに気付く。
- 果樹園の歴史や新しいまちづくりについて、自分たちの考えをまとめ、新聞により発信する。

4 本時のねらい

梨の収穫体験、梨畑や河川の様子を見学を通して、なぜ水害にあいやすい場所に果樹園が作られているのかという問題意識をもつことができる。

5 本時の展開例(90分=2時間)

学習活動	教師(T)・指導者(I)・子ども(C)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ(10分)	T:学習課題を確認し、インストラクターを紹介する。 I:梨畑は大切な畑であること、強く踏んだり走ったりすると梨の根を傷つけることを知らせ、梨にやさしい行動をするよう注意を促す。	・梨に優しく、自分たちにも危険がないよう注意して行動することを徹底する。
②おいしい梨を200年前と同じ方法で収穫する(20分)	I:白根の特産物のおいしい梨を200年前と同じ方法で収穫しようと呼び掛け、収穫方法を説明する。 C:大きいのがいいなあ。 C:梨の木が高くて台の上には上がらないととれないよ。 C:大人にとっては、ちょうどよい高さなのかなあ。 C:昔の人もこうやってもいんだな。	・全員が収穫し終えたら、いったん梨をしまわせる。
③果樹園の地形を調べたり、白根郷全体の果樹園がどんな場所にあるのか考えたりする(50分)	T:みんなが収穫した梨の畑は、どんな地形に作られているか調べてみようと呼び掛け、梨畑の周りを見学させて分かったことを発言させる。 C:平らな場所に梨が植わっているよ。 C:川の堤防が見えるよ。川のそばにあるんだね。 T:川から梨畑までの距離を測定させる。 C:〇〇メートルあるよ。 T:白根郷全体の果樹園地図や、上空から撮影した梨畑と川が写っている写真を示し、河川のそばか、渦があった周辺にあることに気付かせるとともに、開発以前は水害の多い場所であったことを理解させる。 C:ここだけじゃなくて、ほとんどの果樹園が川のそばにあるよ。 C:どうして川のそばなんだろうか。 C:川のそばは水害にあいやすいって勉強したよ。 C:どうしてそんな危険が場所を梨畑にしたのだろうか。	④果樹園の周りは道路が巡らされ、車の通行が多いので左右確認を徹底させる。 ・距離測定器を準備する。 ・収穫した果樹園の平面図、果樹園の場所を示した白根郷全体地図の2枚(両方とも河川、渦の跡を明示)を用意する。 *現在、大郷地区の信濃川沿いにある梨畑の梨の木は、川によって運ばれた土砂の上に植えられた。川沿いに植えられた理由として、水害に強い他、肥沃な土砂であったこと、収穫した梨や肥料などを船を使って運ぶのに適していたためである。
④まとめと振り返りをする(10分)	T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、「なぜ水害にあいやすい場所に果樹園が作られているのか」という次時の学習課題にまとめるとともに、インストラクターにお礼を述べる。	・次時の学習課題を作らせる。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
社会的事象への関心・意欲・態度	・おいしそうな梨を選定しようとする。	行動観察
社会的な思考・判断・表現	・白根郷の果樹園の位置と河川・渦跡の場所を関連付けて考える。 ・梨の棚の高さと洪水の水の高さ関連付けて考える。 ・水害の危険がある場所が果樹園になっているという疑問を指摘する。	意見発表
観察・資料活用の技能	・白根郷の土地利用図を見て、河川・渦跡周辺に果樹園が広がっていることを指摘する。	意見発表
社会的事象への知識・理解	・水害の危険がある場所が果樹園になっていることを理解する。	ノート記述

⑪～⑬「ふるさとにいがた」お米No.1!

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

・実施期間	5月初旬～10月初旬
・最大人数	100人
・費用	10円/人(田植え編, 草取り編, 稲刈り編それぞれ)

が魂 自分が育てる(植える・見学調査する)

手植えから機械植えに変えると、どのようなよさ、問題点があるのだろうか。

①手植えで田植え体験 ②機械植えの見学

この姿勢は疲れるな。腰が痛くなってきたよ。

根気がいるね。一人では大変。

機械だと予想より早くて、20分くらいで終わりそうだな。

あの機械はいくらくらいするのかな？100万円？

学習指導要領上の位置付け **確かな学び**
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校5年：社会

- ・手植え体験後、機械植えを見学し、田植えの苦労を実感するとともに、手植え、機械植えのそれぞれのよさや問題点を考えることができます。
- ・田の草取りを体験し、その大変さを知るとともに、有機農法や減農薬等の様々な農法を多面的に考え、自分なりの考えをもつことができます。
- ・手刈り、はさがけ、千歯こきによる脱穀体験により、農業が自然環境と深い関係をもって営まれてきたこと、お米を口にするまでに様々な過程があり、機械による効率化が図られてきたことなど実感することができます。

***社会の内容(2)「我が国の農業や水産業(食料生産)の様子と国民生活との関連」ウ**

➡ 自分が消費する(飲食する)

自分が農家だったら、どの農法で米を作るか。

手作業からコンバインに変えると、どのようなよさ、問題点はあるのだろうか。

③除草体験 ④稲刈り・はさがけ・脱穀体験

すごく大変な作業。一人でこんな広い所できないよ。

刈るだけでも大変。

取った草は、田にもぐせば、栄養になるし、土に酸素を入れられるよさはあるけど、大変。減らしつつ薬をまいている農家もあります。

お日様の力でおいしくなるんだね。

田植え体験、草取り体験、稲刈り体験の学びの可能性

- 稲作体験を、「スーパーコシヒカリ」といったフードブランドや農業生産と関連付けて学習活動を構成するならば…
 - *小学校3・4年生 社会(2)「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」イ
- 稲の観察体験を中心に学習活動を構成するならば…
 - *小学校5年生 理科 B(1)植物の発芽、成長、結実
- そのほか、総合的な学習の時間に、米を使った地域おこしやアイデア商品作りの学習、安心安全な食についての動機付け、課題設定などの場として位置付けていくこともできます。

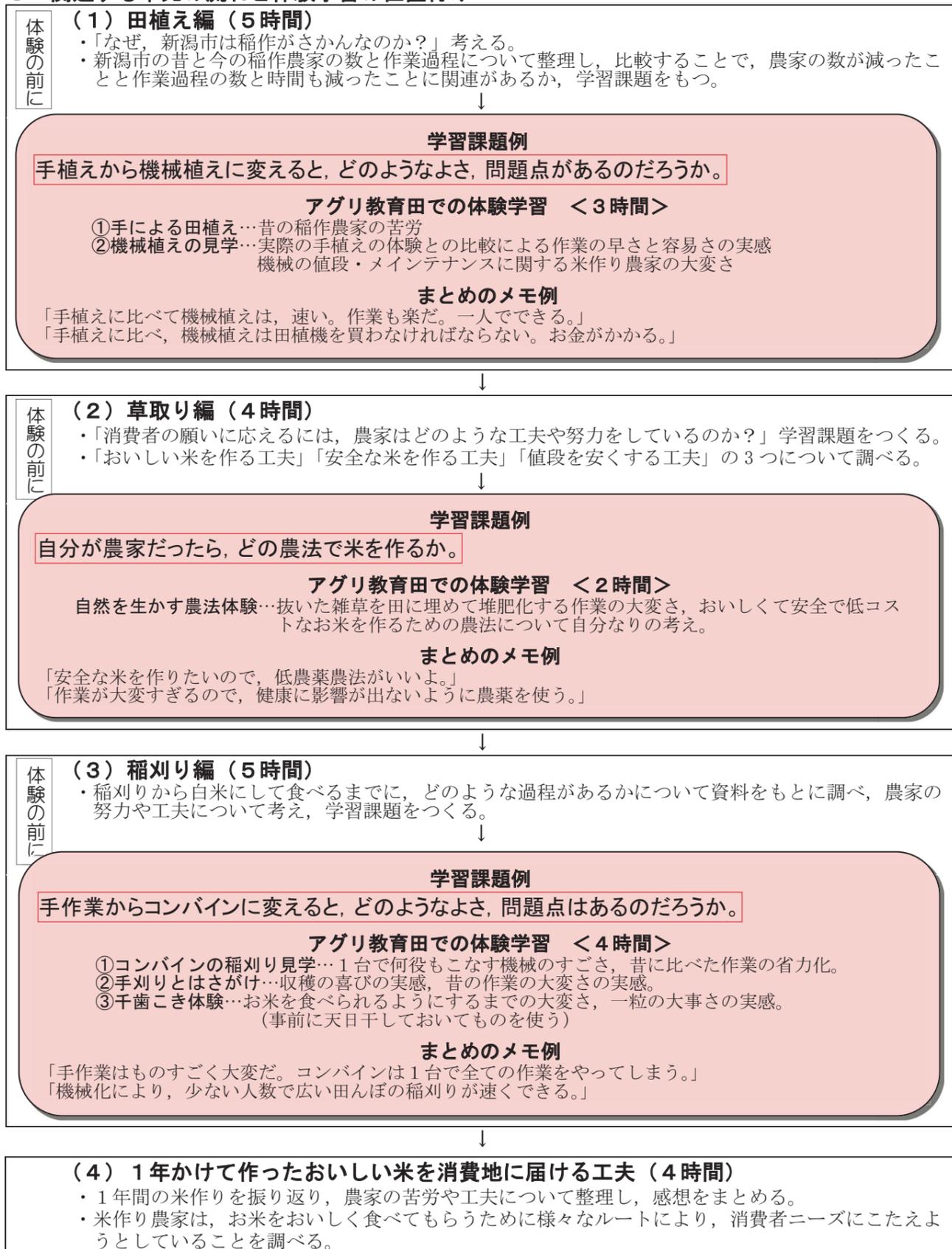
実践例「ふるさとにいかたお米No.1! (田植え編)」

1 関連する単元名 小学校5年 社会「わたしたちの食生活を支える米づくり」(18時間)

2 関連する単元の目標

- ・稲作体験を通して、米づくりに従事する人々が、自然環境を生かしながら、消費者の願いに応えるおいしくて安全な米を生産するために、いかに工夫や努力を重ねて改良を進めて取り組んでいるかを、実感を伴って理解することができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け



<1>田植え

4 本時のねらい

手植えを体験したり機械植えの様子を見たりして、米作りの苦労や工夫等を理解することができる。

5 本時の展開例 (135時間=3時間)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・専門家 (P)・子ども (C)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (15分)	T:学習課題を確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって、安心、安全に活動に臨めるようにする。	・視覚情報を用いて説明し、どの子どもにも理解できるようにする。
②手植えで田植えを体験し、昔の人の知恵や大変さをとらえる (70分)	P:下記の内容を問いながら、手植えのやり方を説明し、田植えを体験させる。 ・田植枠印に田植えをすると、どういうよさがあるか。(日照、風通し、除草能率等) ・何本の苗を一カ所に植えるといいか。 C:枠の間隔にも知恵が込められているんだね。 C:田植えの姿勢は疲れるね。一人では大変だね。	・乱雑植え、正条植えの収穫量の比較や田植えの歴史にも触れる。 ④畦を壊さないように田んぼに出入りさせる。
③機械植えの様子を見学するとともに、手植えと比較してそれぞれの、長所、短所をとらえさせる (35分)	I:機械による田植えの様子を見学前に、手植えと機械植えの作業時間を問うクイズを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">この田んぼ(10a)を80人のみなさんと、約1時間かかりました。もし1人だったら80時間、寝ないで約4日間かかります。では、トラクター(機械)を使って田植えをすると、どれくらいの時間で、できるでしょうか? ①10分 ②20分 ③30分 ④60分 ⑤120分</div> C:手植えは1時間かかった。半分の30分かな。 I:機械植えの様子を見せ、正解を告げる。 C:たった1人で10分。すごい。 C:端も機械で上手くできるんだね。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0; text-align: center;">身支度の整理及び休憩</div> T:手植えと機械植えのよさと問題点を表に整理し、機械化の進んだ現在の稲作について考えをまとめさせるようにする。 C:手植えにも機械植えにも、よさや大変さがある。 C:農家の数が減ったけど、生産量が増えたのは機械化も関係していそう。	・作業能率を視覚的にもとらえられるような資料を用意する。 ・子どもの状況に応じて、教師が既習内容を想起させさせたり資料を提示したりするなどの働き掛けを行い、体験活動と関連付けられるようにする。
④まとめと振り返りをする (15分)	T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターへお礼を述べる。	

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
社会的事象への関心・意欲・態度	・米や稲作に関心を持ち、進んで調べたり観察や記録したりしている。 ・安全に気を付けて、観察したり作業したりしている。	観察カード 振り返り作文
社会的な思考・判断・表現	・機械化と作業時間とを関連付けて、農家のかかえる問題の解決について考えることができる。	観察カード 振り返り作文
観察・資料活用の技能	・手植えと機械植えのよさや問題点等をまとめることができる。	観察カード 記録カード
社会的事象についての知識・理解	・安心して安全な米を、安定して生産するために必要な工夫や努力、機械化によるよさや問題点などについて理解することができる。	観察カード

<2>「草取り」

4 本時のねらい

消費者にニーズである安全でおいしいお米を作るためには、どのような農法がよいか、草取り体験やその他の資料をもとに、自分なりに考えることができる。

5 本時の展開例（90分＝2時間）

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・専門家 (P)・子ども (C)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (5分)	T:学習課題を確認しインストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもち、安全に、安心して活動に臨めるようにする。	・視覚情報を用いて説明し、どの子どもにも理解できるようにする。
②稲作の様々な農法の目的や、やり方をとらえる (15分)	T:稲作における様々な農法について確認し、自分が農家だったらどの農法でやるかについて考えをもたせる。 ※Tとの打合せで既習農法等を確認する。 C:ぼくは、○○だから◇◇農法でやるかな。	・児童が調べてきた農法やその他の学習してきたことを引き出しながらすすめる。
③草取りを体験し、低農薬農法の作業について実感する (40分)	P:低農薬農法の一つである手で雑草を取るやり方を説明するとともに、下記3点について考えさせたり教えたりして確認する。 ＜なぜ雑草を取るのか？＞草を取ってやらないと、土の中の養分を雑草に取られてしまい稲が生長できないから。 ＜手で雑草を取るとよいことは何か？＞手で草を取るときに、土の中に酸素を入れてあげたり、稲が元気かどうか見たりすることができること。 ＜雑草を防ぐ農薬があること＞いつ、どれくらいの量をまくか。健康への影響など。 I:人数に応じて効率的な作業体制を指示する。雑草を具体的に示し、作業を師範する C:雑草も埋めると、稲の栄養になっていいね。 C:低農薬に賛成の消費者のために自然環境を上手く取り入れて稲作をしている農家さんもいるんだね。でも大変だな。 I:身支度と休憩について指示	※あいがも農法、のごい農法、減農など ・作業中にも雑草の種類や作業の意味や効果について、説明する。 ④バランスを崩し転倒する子どもへの対応を準備しておく。
④草取り体験や今までの学習をもとに、稲作の農法について自分の考えをまとめる (20分)	T:草取り体験の感想を聞いたり、農薬と農法との関係を整理したりした上で、自分が農家だったらどの農法でやるかについて、再度考えさせ、自分の考えをメモさせる。 C:手間がかかって大変だけど、自然農法。 C:健康に影響ないなら減農でもいい。草取りはすごく大変。	・どの農法がよいかを教えるのではなく、自分なりの考えをもつことができるように、体験や様々な資料などをもとに考えられるようにする。
⑤まとめと振り返りをする (10分)	T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。	

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
社会的事象への関心・意欲・態度	・様々な農法に関心をもち、進んで調べたり観察したり記録したりしている。安全に気を付けて、作業している。	観察カード 振り返り作文
社会的な思考・判断・表現	・草取りや農薬、農法との関係等を手がかりに、自分が農家だとしたらどの農法でやるかを考えることができる。	観察カード 振り返り作文
観察・資料活用の技能	・農薬、その使い方、農法などについて、いろいろあることを資料をもとに整理することができる。	観察カード 記録カード
社会的事象についての知識・理解	・農薬を減らすなど、農家が消費者のニーズにこたえるため農法を工夫していることが分かる。	ノート 振り返り作文

<3>「稲刈り」

4 本時のねらい

コンバインなどの機械によって作業の手間が昔より楽になったことを手刈りやはさがけ、千歯こきによる脱穀体験により実感を通して理解することができる。

5 本時の展開例（180分＝4時間）

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・専門家 (P)・子ども (C)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (5分)	T:本時の学習課題を確認しインストラクターを紹介 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもち、安全に、安心して活動に臨めるようにする。	・視覚情報を用いて説明し、どの子どもにも理解できるようにする。
②コンバインによる稲刈りの様子をとらえる (15分)	P:コンバインによる稲刈りの様子や稲刈り後の粃やわらを見せ、どのような作業がコンバインで行われているかを問う。 C:稲を刈ること。機械は速いね。 C:一粒一粒になるね。まだ殻がついているよ。 I:手刈りと機械刈りの作業過程の対比表をみせ、手刈りと機械の場合の作業について考えさせたり教えたりする。 ①稲を起こす、②稲を刈る、③稲を運ぶ、④脱穀する、⑤ワラをきざむ、⑥田んぼにまく	・児童が調べてきた作業過程やその他の学習で学んできたことを引き出しながら進める。 ・一目でどの作業のことかわかるように、手刈りと機械刈りの作業過程対比表を示しながら行う。
③手で稲を刈り、束ね、運び、はさ掛けする体験を行い、昔の作業の大変さを実感する (85分)	C:1台のコンバインで6つも仕事をして、昔よりずっと楽になったと思うな。 I:手刈りにかかる時間について、予想させる。 ①30分 ②1時間 ③2時間 ④3時間以上 C:コンバインで12分だから、②1時間か③2時間。 C:90人もいるから、きっと②1時間だよ。 I:人数に応じて効率的な作業体制を指示する。稲刈りのやり方を具体的に示し、作業を師範する。 C:うまく切れないな。こしが疲れる。 I:身支度と休憩について指示。	稲刈り、はさがけ ⑤稲刈鎌で絶対してはいけないこと等を指導する。 ⑥刈った稲は、乾燥して縮んでもほどけないようにきつく縛るよう指示する。
④千歯こき、唐箕を用いた脱穀体験をし、昔の作業の大変さや食べるまでの手間を実感する (60分)	I:作業過程表をもとに脱穀について確認し、千歯こき、唐箕のやり方について、説明と注意をする。 C:足ぶみ式千歯こきは、すごい威力だ！ C:唐箕って、すごく考えられた道具だなあ。 C:コンバインってすごく便利な機械なんだな。	・事前に干していた稲を使うことを説明する。 ・みんなで、ちらばった稲わらなどを清掃するようにする。 ・脱穀しても、食べるまでに粃すり、精米過程があることも確認する。 (もみすり体験、精米体験は帰校後、実施)
⑤まとめと振り返りをする (15分)	T:課題に対する考えを共有し、まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。	

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
社会的事象への関心・意欲・態度	・稲刈りやコンバインに関心をもち、進んで調べたり観察したり記録したりしている。安全に気を付けて、作業している。	観察カード 振り返り作文
社会的な思考・判断・表現	・コンバインのお陰で、昔に比べて作業が楽になったことを、コンバインの仕組みと手刈り体験とを結び付けて考えることができる。	観察カード 振り返り作文
観察・資料活用の技能	・コンバインのお陰で、昔に比べて作業が楽になったことを、昔と今の作業数を対比させて整理することができる。	観察カード
社会的事象についての知識・理解	・米の生産を高めるために、自然条件を生かしながら生産技術の改良を行っていることを理解することができる。	振り返り作文

⑭おいしさの秘密を探せ～野菜と家畜から学ぶ生命の

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

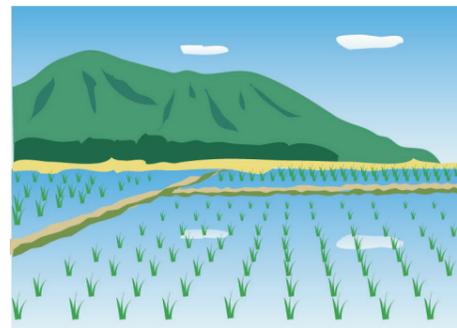
循環～

- ・実施期間 7月下旬～8月中旬
- ・最大人数 100人
- ・費用 40円/人

が魂 自分が消費する（見学調査する・飲食する）

おいしいトウモロコシには、どんな秘密があるのだろうか。

☆農地の観察



新潟市は、こんなに水田がたくさんあったんだね。



①野菜の食味体験



体験活動

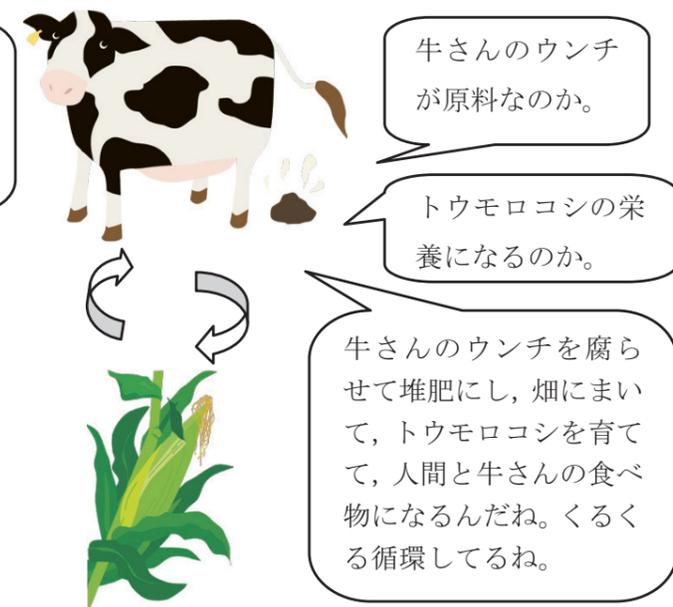


自分が育てる（世話する・見学調査する）

②堆肥観察体験



③堆肥搜索活動



学習指導要領上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校5年：社会

- ・農業単元の最初の学習として、農業というものを実感させるためにも、越後平野の水田を観察することが大切です。
- ・堆肥観察・搜索体験により、おいしい農産物の秘密が堆肥であることを発見し、それが循環型農業によって実現されていることをレクリエーション感覚で学習することができます。
- ・これからの農業の主役になる循環型農業が新潟市の農家の工夫と努力によって営まれていることに気付かせましょう。

*社会の内容(2)「我が国の農業や水産業(食料生産)の様子と国民生活との関連」ウ

野菜の食体験→堆肥観察・搜索活動の可能性

○野菜の食体験、堆肥観察・搜索活動を、特別活動における友達との協力という視点で学習活動を構成していくならば…

*小学校1～6年 特別活動〔学校行事〕遠足・集団宿泊的行事

- ・特にグループごとに行うオリエンテーリングのようなレクリエーションとして活用できます。

○小学校5年生の場合は、社会科の農業単元の学習を特別活動の集団宿泊的行事の一コマとして実施することも可能です。

実践例 「おいしさの秘密を探せ」～野菜と家畜から学ぶ生命の循環～

1 関連する単元名 小学校5年 社会「農業のさかんな地域をたずねて」(17時間)

2 関連する単元の目標

- 農業がさかんな地域の様子を具体的に調べ、食料生産に携わる人々の生産を高めるための工夫や努力を理解するとともに、生産や輸送に関する費用や価格にも目を向け、日本の農業の現状と課題をとらえることができるようにする。
- 食料生産に関する写真や地図、統計などの資料を収集・選択し、国民生活を支える食料生産の意味や、自然環境と深いかかわりがあることなど、多面的に考えることができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) アグリパークをたずねよう(4時間)

- アグリパークや周辺の水田・畑の写真、南区の土地利用図、アグリパークの地図などをもとに農業のさかんな南区がどのような地域かを話し合い、南区を訪ねる期待感をもつ。

学習課題例

おいしいトウモロコシには、どんな秘密があるのだろうか。

アグリパークでの体験学習 <2時間>

☆農地の観察 → ①野菜の食体験 → ②堆肥観察体験 → ③堆肥搜索活動
 (バスの中から南区の水田、畑の観察) (旬の野菜=トウモロコシ・アスパラガス等) (堆肥の温度・色・重さ・湿度の体感) (畜産→堆肥→施肥→飼料の循環の発見)

まとめのメモ例

「牛のウンチが堆肥となって、それが養分となり、おいしいトウモロコシができる。」
 「牛は、トウモロコシを食べてウンチを出す。」
 『堆肥→トウモロコシ→ウンチ』はつながっている。」

↓ *体験活動③の後に、オプション「堆肥づくりの活動」も活用できる

- アグリパークで撮影した畑や周辺の水田の写真をもとに話し合うことにより、実感をもって農業学習を進めようとする。
- アグリパークの平面図や写真などを見直して「おいしい野菜の秘密」という題でレポートを書く。それにより、農業が生命のサイクルという循環の考えに支えられていることに気付くとともに、これからの稲作学習を進めるために「工夫」という観点を獲得する。

(2) 稲作にはげむ人々(7時間)

- 自然条件を生かして生産を高めている稲作農家の工夫について調べる。
- 稲作農家が消費者のニーズにこたえる米作りを進めていることに気付く。
- 稲作農家が国民の食料確保という重要な役割を果たしていることを理解する。

(3) 国民の食生活と食料生産物の分布(6時間)

- 国民の食生活は我が国の農業や水産業、そして外国からの輸入により支えられていることを調べる。
- 食料生産物の分布や土地利用を調べ、我が国の農業や水産業の概要や特色を理解する。

4 本時のねらい

堆肥づくりの過程を調べる活動を通して、循環型の農業が行われていることに気付くことができる。

5 本時の展開例<トウモロコシを教材にした場合>(90分=2時間)

学習活動	教師(T)・指導員(I)・子ども(C)	指導上の留意点
①トウモロコシを食べる(15分)	T:アグリパークのトウモロコシを子どもに食べさせる。 C:甘くておいしいトウモロコシだ。	・おいしいトウモロコシが問題意識を醸成する。
②学習課題をもつ(15分)	T:トウモロコシがおいしい秘密は、ある物体(堆肥を提示)のお蔭であることを知らせ、秘密の物体をよく観察したり、触ったり、匂いをかいだりするよう促す。 T:秘密の物体がアグリパークの中にあることを知らせ、グループで探すよう促し、インストラクターを紹介する。	・感覚を使った観察を十分に行うことで、次の活動の見通しを持たせる。なめてはいけないことを注意する。
③「おいしさの秘密」を搜索する(45分)	I:「秘密の物体」を探しましょうと呼び掛け、5分間の作戦タイムを取り、地図で作戦を立てさせた後、搜索開始する。 C:色が似ているから、これかな? I:見つけたことを褒め(堆肥置き場)、地図に○を書かせ、秘密の物体がどこに運ばれるのか搜索させる。 C:トウモロコシ畑。 C:野菜畑にも運ばれるよ。 I:(畑に移動)トウモロコシの畑の土に混ぜられ、トウモロコシに栄養を与えることを説明し、地図に○を書かせ、堆肥置き場に戻る。 I:秘密の物体が、どこからきたのか考えさせる。その後、牛舎に移動する。 I:(牛舎に移動後)地図に○をつけ矢印の線で結ばせる。そして秘密の物体が何からできるのか問う。 C:ウンチを時間をかけて肥料にしているんだね。 I:ウンチの原料はえさであることを確認し、えさがトウモロコシであることを説明する。最後に地図の線が全部結ばれたことを確認する。 C:円になったよ。みんな線で結ばれるよ。 C:こうやってくりかえしているんだね。	・指導者は、テーマパークスタッフのように興味関心を高める。 ④搜索の際は、走らないこと、声を出さないことを約束する。 ・地図の牛舎と畑の○を線で結ぶことにより、堆肥→収穫→飼料のサイクルを発見させるのが、醍醐味である。しかし、子どもが気付かない場合は、指導者が教えてもよい。 ・最後に、線の軌跡が自分の動いた跡であり、自分の思考の跡でもあることを知らせる。
④まとめと振り返りをする(15分)	T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。	

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
社会的事象への関心・意欲・態度	・作戦タイムで、自分の仮説などをあげながら相談している。	行動観察
社会的な思考・判断・表現	・糞→堆肥→トウモロコシ→飼料のサイクルに関する文を書いている。 ・牛舎と畑を線で結ぶという意見を言うことができる。	レポート 意見発表
観察・資料活用の技能	・堆肥について、色・温度・湿度など様々な観点で調べようとしている。 ・アグリパークの地図上に正確に「○」と「→」を書き込んでいる。	行動観察 アグリパークの地図
社会的事象についての知識・理解	・地球にやさしい肥料づくりの工夫を理解している。	レポート

⑮畜産農家の工夫を探そう！

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

- ・実施期間 5月初旬～11月下旬
- ・1班最大人数 30人
- ・費用 70円/人

が 魂
自分が育てる（世話する・採取する）

酪農家は、どんな工夫や努力をしているのだろうか。

① ブラッシング体験



ブラッシングすると気持ちよさそうだ！

扇風機で、牛も涼しそうだよ！

耳の黄色いラベルは何だろう？

② 搾乳体験



搾乳すると牛が気持ちよさそうだよ！

機械でする搾乳は、速いね！

学 習 指 導 要 領 上 の 位 置 付 け

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校5年：社会

- ・牛の世話や搾乳を体験しながら、消費者のニーズにこたえる農家の工夫や努力に気付いていくことができます。特に消費者の安心安全な牛乳のニーズにこたえるための黄色いラベルや、牛を健康に育てる扇風機等の設備を実際に目にしながら、工夫に迫っていく体験ができます。
- ・牛を健康に育てるために、長い休日も取れない苦労話や、牛の赤ちゃんの飲み物を人間が分けてもらっている話などを、農業に携わる人から直接聞くことができます。

*** 社会の内容（2）「我が国の農業や水産業（食料生産）の様子と国民生活との関連」ウ**

➡ 自分が消費する（飲食する・見学調査する）

③ 聞き取り調査



ブラッシングや扇風機で牛に気持ちよくなってもらい、おいしい牛乳を出してもらうんだね。

工場で検査して、安全でなければ、製品にはならないんだね。

耳の黄色いラベルで、安全な牛だということが分かるんだね。だから、消費者も安心なんだ！

私たちは、牛の赤ちゃんが飲むものを分けてもらっているんだね。

ブラッシング体験、搾乳体験の可能性

○ブラッシング体験や搾乳体験を、特別活動において友達との協力という視点で学習活動を構成していくならば…

*** 小学校1～6年特別活動〔学校行事〕（4）遠足・集団宿泊的行事**

○ブラッシング体験や搾乳体験を、動物の呼吸・消化・循環などの働きを中心に学習を構成していくならば…

*** 小学校6年理科 B（1）「人の体のつくりと働き」**

実践例 「畜産農家の工夫をさがそう！」

1 関連する単元名 小学校5年 社会「農業のさかんな地域をたずねて」（17時間）

2 関連する単元の目標

- ・農業がさかんな地域の様子を具体的に調べ、食料生産に携わる人々の生産を高めるための工夫や努力を理解するとともに、生産や輸送に関する費用や価格にも目を向け、日本の農業の現状と課題をとらえることができるようにする。
- ・食料生産に関する写真や地図、統計などの資料を収集・選択し、国民生活を支える食料生産の意味や、自然環境と深いかかわりがあることなど、多面的に考えることができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 稲作にはげむ人々（7時間）

- ・自然条件を生かして生産を高めている稲作農家の工夫について調べる。
- ・稲作農家が消費者のニーズにこたえる米作りを進めていることに気付く。
- ・稲作農家が国民の食料確保という重要な役割を果たしていることを理解する。

(2) 酪農にはげむ人々（4時間）

- ・消費者は牛乳を生産する酪農家にどんなことを期待しているのかを調べる。
- ・「おいしくて安心できる牛乳を生産する」ことが消費者の期待であることに気付く。
- ・期待にこたえるために、酪農家はどんな工夫や努力をしているのだろうかという学習課題をつくる。

学習課題例

酪農家は、どんな工夫や努力をしているのだろうか。

アグリパークでの体験学習 <2時間>

①ブラッシング体験 → ②搾乳体験 → ③酪農家からの聞き取り体験
 （「安心」と「おいしさ」のヒント探し） （工夫・努力の話を聴く）

まとめのメモ例

「酪農家は、牛に愛情をもって世話をしている。」
 「消費者が安心しておいしい牛乳が飲めるように、検査をしたり、牛が気持ちよく過ごせるためのかかわりや畜舎の整備をしたりしている。」
 「これから、感謝して牛乳を飲みたい。」

●おいしくて安心できる牛乳を生産するための工夫・努力を探そうという課題が明確になっていくようにする。

- 体験の後に
- ・アグリパークで体験したり、農家の人から聴いたりしたことをもとに、次の二つについて話し合い、考えを深める。
 - ① 日本中のすべての牛が耳標（じひょう）により、生まれた日、育てられ方が記録されて、安全管理されている。畜舎には、健康な牛を育てるさまざまな設備が工夫されている。
 - ② 工場のていねいな検査等により、安全でない牛乳は処分される。

(3) 国民の食生活と食料生産物の分布（6時間）

- ・国民の食生活は我が国の農業や水産業、そして外国からの輸入により支えられていることを調べる。
- ・食料生産物の分布や土地利用を調べ、我が国の農業や水産業の概要や特色を理解する。

4 本時のねらい

ブラッシング体験・搾乳体験・聞き取り調査により、酪農家が消費者のニーズに応えるために工夫や努力をしていることに気付くことができる。

5 本時の展開例（90分＝2時間）

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・専門家 (P)・子ども (C)	指導上の留意点
①学習課題を確認する (5分)	T:学習課題を確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもち、安全に活動できるようにさせる。	・教師が確実に学習課題を確認する。
②牛のブラッシング体験をしながら、工夫や努力を探す (20分)	I:牛の世話や搾乳をしながら、農家の工夫や努力を見つけようと呼び掛け、まずブラッシングを体験させる。 C:ブラッシングすると、牛が気持ちよさそうだよ。 C:耳の黄色い物は何かな？ C:音楽が聞こえているよ。	④危険な行為は具体例を挙げて注意する。 ・待機児童に畜舎の内部で工夫や努力を探すよう促す。
③牛の搾乳体験や機械搾乳見学をしながら、工夫や努力を探す (30分)	I:搾乳を体験させる。 C:搾乳すると牛が気持ちよさそうだよ。 C:搾乳した牛乳はどうするのか？ C:扇風機がすずしいよ。 C:牛の背中に棒（カウトレーナー）が下がっているよ。 C:霧を出して涼しくしているよ。 C:機械搾乳は早いね。	④乳牛の足に注意しながら搾乳するよう指導する。
④自分が探した工夫や努力について農家の方に質問し、何のためにどのような工夫や努力をしているのか確認する (20分)	P:質問に答える。「牛の赤ちゃんの飲み物を人間が賞っていること」「牛の世話のため、農家の人は長い休みが取りにくいこと」は積極的に説明する。 ・ブラッシングで気持ちを落ち着けると良い乳が出る。 ・扇風機や音楽で気持ちよくなると、良い乳が出る。 ・背中棒の刺激でおしっこや糞から牛を清潔に保つ。 ・耳の黄色い札で、この牛がどこで生まれ、どのように育ったかが分かるので、消費者が安心できる。 ・牛乳が安全でなければ、検査や工場の検査で見えられ処分される。	・酪農家がいなかった場合は、インストラクターが答える。 ・答えの結論が、安全・安心・おいしい等消費者のニーズに結び付くように配慮する。
⑤まとめと振り返りをする (15分)	T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。	

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
社会的事象への関心・意欲・態度	・消費者のニーズに応える工夫・努力を見つけようと畜舎を観察したり、質問をしようとしている。	行動観察 質問発表
社会的な思考・判断・表現	・工夫・努力に関する質問を的確に行っている。 ・質問の答えを聞いて、より深い質問をしている。	質問発表
観察・資料活用 of 技能	・畜舎の内部を観察し、工夫・努力に結びつけた質問を行う。	質問発表
社会的事象についての知識・理解	・消費者のニーズに応える工夫・努力について、文章化している。	次時のノート記述

⑩ そうだったの！ めしべの秘密！

- ・ 未来へのストーリー ★★★★★
- ・ 命のストーリー ★★★★★
- ・ 郷土愛のストーリー ★★★

- ・ 実施期間 9月上旬～10月中旬
- ・ 1班最大人数 60人
- ・ 費用 440円/人

魂 自分が育てる（見学調査する・収穫する）

自分が消費する（見学調査する・飲食する）

体験活動

ヘチマの実と比べて、なしの実の似ているところやちがうところは、どんなところだろうか。

①ルーペで実の観察・収穫 **②スコープで実の観察**

ヘチマの実にあったような、めしべやがくの名残が、なしの底にもあるかな？

ヘチマは子房が大きくなって実になったから、なしの実も同じかな？

なしの、おしりの方に、何か枯れた細いのもソソとした何かがあるみたい。

スコープでよくみると、やはり、めしべみたいのと、たぶん、これはがくの茶色くなったのだな。めしべに受粉して実になったんだね。



③切って観察 **④食味・果樹農家のお話・種数え**

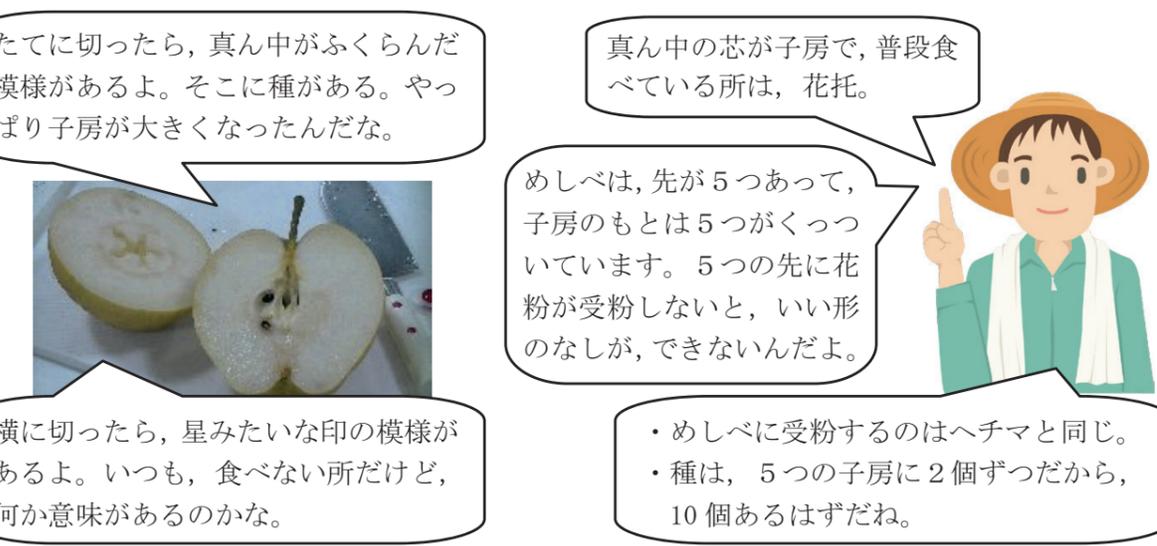
たてに切ったら、真ん中がふくらんだ模様があるよ。そこに種がある。やっぱり子房が大きくなったんだな。

横に切ったら、星みたいな印の模様があるよ。いつも、食べない所だけど、何か意味があるのかな。

真ん中の芯が子房で、普段食べている所は、花托。

めしべは、先が5つあって、子房のもと5つがついています。5つの先に花粉が受粉しないと、いい形のなしが、できないんだよ。

・ めしべに受粉するのはヘチマと同じ。
・ 種は、5つの子房に2個ずつだから、10個あるはずだね。



学習指導要領上の位置付け

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

梨の収穫、実の下部や中身・種子の観察の学びの可能性

○春の受粉体験から始まり、中間での果実の成長の観察、最後に収穫し実を観察するという一連の体験学習を構成するならば…

*** 小学校5年理科 B(1) 「植物の発芽、成長、結実」**

○消費者の需要にこたえ、新鮮で良質な物を生産し出荷するための努力や工夫、自然環境や社会的な条件を生かして生産を高める工夫について調べることを中心に構成していくならば…

*** 小学校5年社会の内容(2) 「我が国の農業や水産業（食料生産）の様子と国民生活との関連」**

○そのほか、総合的な学習の時間に、受粉・収穫体験やアイデア商品の開発や宣伝、実際の販売体験などの学習活動につなげていくこともできます。

○小学校5年：理科

- ・ 梨の収穫体験の際に、子どもたちに実の下部を観察する視点をもたせ、めしべと子房、受粉・結実を関連付けて考えさせます。
- ・ 実際に梨の実を縦・横に切って観察します。そして、学校で学習したヘチマの実と似ている点や異なる点を整理します。その結果、めしべの付け根の子房の部分や種子がどのように成長しているかを理解できます。
- ・ 梨の味見をしながら、自分たちが食べている部分は子房ではなく、花托という部分であることを知って驚き、他の果実への関心が高まります。

*** 理科の内容 B 生命・地球(1) 「実や種子の作り方」**

実践例 「そうだったの！ めしべの秘密！」

1 関連する単元名 小学校5年 理科「実や種子のできかた」(11時間)

2 関連する単元の目標

植物の結実までの過程を、それらにかかわる条件に目を向けながら調べ、見いだした問題を計画的に追究する活動を通して、生命を尊重する態度や生命の連続性についての見方や考え方を育てる。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置づけ

(1) 理科「実や種子のできかた」(9時間) (9~10月)

- ・受粉により実ができ、ヘチマのお花とめ花を使った実験から、実際に確かめる。
- ・受粉後のヘチマの継続的な観察を通して、実の中には種子ができていて、この種子が植物の次の世代につながり、生命を連続させているという見方や考え方をもち。

(2) 「そうだったの！ めしべの秘密！」 (2時間)

(9~10月の間で収穫可能)

体験の前に

- ・ヘチマの観察を通して、めしべ、おしべ等の基本的なつくりを学習する。
- ・ヘチマの実の縦断面や実の先にあるめしべやがくの痕跡の観察をしておく。
- ・受粉の実験をしたり、実や種子ができる部分(子房)の観察をしたりする。
- ・ヘチマの実に関する学習を振り返りながら、同じ実である梨の実につくりに関する学習課題を設定する。

●植物の受粉から結実の流れを理解し、生命の連続性へ意識を向かわせる。

学習課題例

ヘチマの実と比べて、なしの実の似ているところやちがうところは、どんなところだろうか。

(A) 果物農家での体験

①ルーペでの梨の実の下部の観察 → ②梨の実の収穫体験

バスで移動

<2時間うちバス移動30分>

(B) アグリパークでの体験学習

①実を縦、横に切ってつくりを観察 → ②食味・果樹農家のお話・種数え

まとめのメモ例

「ヘチマの実と同じように、なしの実もめしべの下部分がふくらんでできる。」
「ヘチマや桃、柿の実の子房がふくらんで実(※真果)になるが、なしやリンゴの実(※偽果)の子房は種子をかこむしんの部分で食べる部分は花托(かたく)と呼ばれている。」

体験の後に

- ・体験学習で実際に学んだことについて話し合い、ノートに整理する。

4 本時のねらい

収穫した梨の実の下部をルーペで見たり、実を縦・横に切ってつくりを観察したりし、ヘチマの実のつくりとの共通点や相違点を考えることを通して、植物の受粉と結実のしくみや生命の連続性についての理解を深めることができる。

5 本時の展開例(90分=2時間)

学習活動	教師(T)・指導員(I)・子ども(C)	指導上の留意点
①今日の学習課題をつかむ (5分)	T:学習課題を確認しインストラクターを紹介する。 I:活動の流れと注意事項を確認する。	・学習の流れを一覧表にして掲示し、活動の見通しをもたせる。
②ルーペで梨の実の下部(おしりの部分)を観察し、ヘチマとの共通点を考える (20分)	T:梨の実の下部にも既習のヘチマ同様の痕跡が残っていないかルーペで観察させる。 C:梨も実だし、きつめしべの下の実になるところ(子房)がふくらんでできたんじゃないかな。 C:ヘチマみたいに大きくはないけど、細長い物が何本か付いている。めしべかな、おしべかな。	・初めにヘチマの写真や図を提示し、実の下部にはがくやめしべが残っていることを確認し、なしの実の観察の視点をもたせる。
③実の下部を観察しながら梨を収穫する (15分) (バス移動でアグリパークへ) (20分)	I:収穫方法の注意点等を説明し、後で観察に使える実を収穫させる。 C:実のおしりの部分に、痕跡があるものにしよう。 T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、農家の方にお礼を述べる。	④木を傷めないようにする。また、道具を使う場合は、けがをしないようにする。 ・収穫は、おみやげに一人1個、次の学習用に班に2個準備。
④梨の実の下部のくぼみや縦断面・横断面の観察を通して、めしべと実のつくりの関連性を調べる。そして、梨とヘチマとの共通点を考え、植物の実のでき方についてワークシートにまとめる (30分)	T:梨の実の下部のくぼみの観察をさせ、めしべと実のつくりとの関連性について考えさせる。 C:実のおしりにおしべなどが残っていた。やはり実はめしべの下部分がふくらんでできたんだよ。 I:ヘチマの写真資料を提示し、梨の実を縦に切って観察させて、種子、子房などの共通点を考えさせる。食べる梨の部分は子房かどうか考えさせる。 C:梨もヘチマも中に種子ができていて同じだから、食べている所は梨もヘチマと同じ子房だ。 I:梨の子房は種子を囲む芯の部分だけで、食べている部分は花托(かたく)であることを説明する。 C:ええっ!梨の実の子房じゃなかったのか! I:梨の実を横に切らせ、めしべの形と比べさせて種子の数を予想させる。種子の数を調べさせる。 C:横に切ると5つの部屋の各に種が入っているよ。 I:梨のめしべの子房は5つの部屋があり、受粉の時に、各部屋に2つの花粉が確実に受粉するようにすること、そうでないと子房の育ちの違いによりいびつな形の実になってしまうことを説明する。 I:最後に梨の試食をさせる。 C:春の受粉がうまくできているからきれいなまん丸の形の梨の実になるんだね。 T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。	・写真や実物を拡大して大画面で提示できるように機器を準備する。 ・ヘチマと梨やその他植物の花や受粉、結実の図や写真等の資料を用意し、視覚的に理解し易くするように工夫する。 ④刃物を使い実を切る際には、けがをしないように十分に注意して行わせる。 ・梨とは違って子房がふくらむ桃や柿の実を紹介し対比する。(固さやさくさく感が違うことを確認) ・体験学習を通して学んだことをワークシートに記入させ、学校に戻ってからの理科学習でも継続して活用できるようにする。 ・可能であれば、直接、果物農家の方からお話をさせていただき、受粉の際にめしべに注意深く受粉していることを理解させる。

6 体験学習の評価例

観点	評価基準	評価方法
自然事象への関心・意欲・態度	・梨の実の観察や収穫体験に進んで取り組んでいる。	行動観察
科学的な思考・表現	・梨の実の下部や縦断面・横断面の観察を通して、ヘチマとの似ている点や異なる点について考えている。	行動観察、ワークシート
観察実験の技能	・インストラクターの注意点を理解し、正しい方法で梨を収穫したり、刃物で実を安全に切って観察したりしている。	行動記録、
自然事象についての知識・理解	・植物の受粉と結実、種子の形成について理解する。	話し合い

⑰ ありがとう・いただきます (理科編)

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★

・実施期間	6月上旬～8月下旬
・1班最大人数	30人
・費用	70円/人

が 魂
自分が育てる (世話する・見学調査する) ➡

➡ 自分が消費する (飲食する) ➡ 自分が育てる (世話する)

牛の呼吸や心臓の動き、消化管はどのようになっているのか。
(実際に見て、触って、感じて確かめよう)

① 家畜の世話と観察

牛の体って温かい。

呼吸に合わせて鼻が動いているよ。

牛の呼吸や心臓の音って、人間と似ているのかな。

牛は草だけ食べて、どうしてあんなに大きくなれるんだろう。

だ液や胃液の働きは人間と同じかな。

・4つの胃の働きは、すごいね。
・腸が60m!?長い!

・心臓はドクンドクンって音がしてる。回数は人間と比べて…。

② 搾乳体験と試飲 (加熱処理済み)

・牛のお乳はこんなに血管が浮いて見えるよ。
・血液の中の栄養分が牛乳になるんだね。
・1Lの牛乳をつくるために400Lの血液が必要な!?
・仔牛が飲むはずのものを人間が分けてもらってるんだね。

・牛乳は動物からの贈り物みたい。
・無駄にしたらいけないね。

③ 清掃体験

・おいしい牛乳を飲ませてくれてありがとう。
・お礼に掃除をさせてね。

学習指導要領上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校6年：理科 「人や動物の体」

- ・家畜の世話をしたり搾乳体験をしたりすることで、読み物資料の扱いで終わりがちな動物の体のつくりと働きについて、体験的に学ぶことができます。
- ・人の体と動物の体を比較することで呼吸、拍動、消化について実感を伴って理解を深めることができます。
- ・人も動物も生命をもっており、生命が他の生命を支えていることに気付くことが、生命を尊重する態度を養うことにつながります。

*** 理科の内容 B生命・地球 (1) 「人の体のつくりと働き」**

家畜の世話・搾乳体験、清掃体験の学びの可能性

○家畜の観察・搾乳体験を仔牛の誕生と絡めて学習活動を構成していくならば、単なる読み物教材を超えて、生命の連続性の面から…

*** 小学校理科5年 「魚のたんじょう」「人のたんじょう」**

○食肉加工体験を「白根ポーク」などのフードブランドや農業生産と関連づけて学習活動を構成していくならば…

*** 小学校5年社会の内容(2) 「我が国の農業や水産業(食料生産)の様子と国民生活との関連」**

○そのほか、中学校技術C「生物育成に関する技術」に直結させることや、命について考える「道徳」の体験の場とすることもできます。

実践例 「ありがとう・いただきます（理科編）」
～家畜から学ぶ、いのちのあたたかさとつながり

1 関連する単元名 小学校6年 理科「人や動物の体」（17時間）

2 関連する単元の目標

- ・人や他の動物の呼吸、消化、排出、循環などの働きに興味・関心をもち、自ら体の内部のつくりや働きを調べ、見いだした問題を多面的に追究し、人や他の動物の体についての問題を解決しようとするとともに、人や他の動物の体のつくりや働きに生命の巧みさを感じ、生命を尊重する態度を育てる。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 呼吸のはたらきを調べよう(4時間)

- ・気体検知管や石灰水などを使って吸気と吐気の違いを比べる。
- ・取り入れられた空気はどうなるか調べ、人の肺や魚のえらと関連付けて考える。

(2) 消化のはたらきを調べよう(3時間)

- ・唾液のはたらきを調べる。
- ・食べ物の運ばれる通り道や消化・吸収される仕組みを調べる。

(3) 血液のはたらきを調べよう(4時間)

- ・自分の脈拍や動物の血流・拍動を調べる。
- ・人の体の主な臓器とはたらきを調べる。
- ・養分の行方や余分な水分や不要物質の行方を調べる。

(4) アグリパークで動物を調べよう(6時間)

- ・呼吸や消化、血液の働きなどについて、自分が解決したい課題をもってアグリパークを訪れるようにする。
- ・牛の世話をしながら呼吸、拍動、消化管などについて体験的に学ぶことを確かめ学習課題をつくる。

体験の前に

●体験学習が控えていることに期待感を抱かせ、実際に五感で確かめることになり、あらかじめ準備しようという目的意識をもって事前の学習に臨ませる。
 ●アグリパークで解決したい自分の課題を見つける。

学習課題例

牛の呼吸や心臓の動き、消化管はどのようになっているのか。(実際に見て、触って、感じて確かめよう)

アグリパークでの体験学習 <3時間>

①牛の世話体験 → ②搾乳体験 → ③家畜小屋清掃

まとめのメモ例

「牛も人間と同じように心臓が動いている。」
 「牛乳のもと血液。1リットルの牛乳をつくるのに400リットルの血液を体中にじゅんかんさせている。」
 「牛は食べたえさを4つの胃を使って消化し、栄養を取り入れている。」
 「一度胃に入れたものをかみ直し(反すう)することによって、消化しやすくする。」

体験の後に

- ・記録カードや写真などを見直し、自分が解決したかった課題についてまとめる。
- ・体験活動での気付きや感想を発表し合い、項目ごとに整理して理科の学習事項と関連付ける。
- ・体験したことを基に、振り返り作文やアグリパーク新聞、ポスターなどの表現活動を取り入れ、言語活動によって学んだことや愛着を明確化させる。
- ・自分の生命は自然界のいのちによって支えられていることにつなぎ、「いただきます。」の意味を考えさせる。

4 本時のねらい

牛の世話をしたり搾乳体験をしたりすることで、呼吸や消化・血液に関する自己の課題を解決するとともに、家畜の呼吸、拍動、消化管の様子について実感を伴って理解することができる。

5 本時の展開例(135分=3時間)

学習活動	教師(T)・指導員(I)・子ども(C)	指導上の留意点
①今日の学習課題をつかむ (10分)	T:学習課題を確認し、インストラクターを紹介する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明し、見通しをもたせる。
②自分の課題を解決するために牛・豚の世話をする ・えさやり ・マッサージ ・心音を聴く	I:今日の活動の流れやえさの内容物と与え方、毛並みを整えるマッサージのやり方、聴診器で心音を聴く方法等を具体的に伝える。 C:こういうものを食べているのか。 C:こんなに長い舌でえさをまきとるんだね。 C:食べてない時もモグモグしているよ。 C:毛は結構固いけど、からだはとても温かい。 C:人間と同じくドキンドキンしている。回数は・・・	・飼料の匂い、手触り等から内容を予想させる。 ・反芻の様子や排泄物の観察から、消化管の特徴を考えさせる。 ・手触りなどで気が付いたことを発表し、友達と共有する。 ・心音を聴ける部位はどこか予想し、心臓に近い箇所を聴診器で聴く。
③血液の循環によって牛乳が作られていることを知り、搾乳をする (②と③の活動を合わせて95分)	I:血液の循環によって牛乳が作られていることを説明し、搾乳の仕方と注意事項を伝える。 C:乳房はすごく温かい。 C:こんなに血管が浮いて見えるよ。 C:400Lから1Lしかとれないなんて、牛さんは大変だ。 C:赤い血液が循環して白いお乳ができるなんて不思議。 C:仔牛が飲むものももらっているんだね。	・1日に牛が100Lの水を飲み、30L排泄することを伝え、残りの70Lがどのように利用されているか予想させる。 ・1Lの牛乳をつくるために400Lの血液を循環させ、血中の栄養分を乳に換えていることを説明する。 ・本来、仔牛のためにつくられるものを人間が利用していることを印象付ける。
④感謝の気持ちを込めて、牛・豚小屋掃除する (30分)	T:畜舎掃除のねらいを説明する。 I:掃除の方法、役割分担を説明する。 C:牛さん、豚さん今日はありがとう。 C:おいしいお肉を食べさせてくれてありがとう。 C:きれいにするから元気でいてね。 C:新しい敷き草が気持ちよさそうだね。 C:日曜日に家族とまた来るよ。 T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。	・今日の学習を振り返り、家畜への感謝の言葉を子どもから引き出し、心を込めて掃除ができるように導く。 ・また、訪れたいという気持ちをもたせるとともに、家族や知人に今日の学習の内容を伝える大切さを知らせる。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
自然事象への関心・意欲・態度	・動物の息づかいや温かさについて実感の伴った言葉を表現している。 ・動物の体のつくりや働きに生命の巧みさを感じ、生命の貴さや動物への愛着、感謝の言葉を表現している。	行動観察 振り返り作文
科学的な思考・表現	・観察結果と事前学習事項を照らし合わせ、自分の考えを表現している。 ・「いただきます」の意味をとらえ直している。	振り返り作文 給食時の様子
観察・実験の技能	・聴診器を安全に使って家畜の心音を調べている。 ・動物を観察し、呼吸、消化、排出、循環などの様子を的確に記録している。	行動観察 記録カード
自然事象についての知識・理解	・動物の呼吸、消化、排出、循環のはたらきについて理解している。 ・生命を維持する様々な臓器があることを理解している。	振り返り作文

⑱見つめて感じて ～動物となかよし～

- ・未来へのストーリー ★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

・実施期間	通年
・1班最大人数	30人
・費用	70円/人

が 魂
自分が育てる（世話する・見学調査する）

➡ 自分が消費する（作品にする）

動物の体はどうなっているのだろうか。どんな色かな、形かな。

①動物との触れ合い体験

・牛さんの心臓が人間と同じようにどきどきしているよ。

・牛さんの体は温かいなあ。人間よりも温かいかもしれないなあ。

・お腹も柔らかいよ。気持ちいいなあ。

・羊さんの頭って堅いんだよ。

・毛がふわふわだね。

・毛がいっぱいあって本当の体はずっと奥にあるよ。

・黒目が横に長いだね。私たちとは違うよ。



②動物の絵を描く

・牛さんはすごい大きかったよ。画用紙に大きくかこう。

・牛さんは暖かくって触ったら気持ち良かった。優しい顔でかきたいなあ。

・羊の毛はふかふかだったから、くるくるかこうかな。

・黒目が横向きって不思議だな。顔を大きくかこうかな。



・動物さんはかわいかったよ。なかよしになったから、また会いに行きたいなあ。

・お父さんやお母さんにも見せてあげたいな。触ると温かくって気持ちいいんだよ。

学 習 指 導 要 領 上 の 位 置 付 け
確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

動物とのふれあい活動や動物の絵を描く活動の可能性

○動物の餌やり体験を中心に学習活動を構成していくならば…

* 小学校6年理科の内容B（1）「人の体のつくりと働き」、
（3）「生物と環境」

○そのほか、国語作文単元などの題材としても取り上げることができます。また、生活の飼育単元で、他の動物との比較材料として取り上げ、生き物に関して気付きを深めることができます。

○小学校全学年：図画工作

- ・動物と直接触れ合うことで、間近に動物を見ることができます。そして、気付にくい動物の顔や体の細部のつくりにも気付くことができます。
- ・動物に触れることで動物の温かさを感じ、自分と同じ生命をもった生き物であることに気付き、愛着をもってスケッチをすることができます。
- ・餌やりや乳搾りなど、普段経験することのない活動を通して、動物を身近に感じることができ、体験したことを豊かに表現することができます。
- ・描画材や評価規準を学年に応じたものに変えることで、全学年に対応した活動が行えます。

* 図画工作の内容 A表現（2）

実践例 「見つめて 感じて」 ～動物となかよし～

1 関連する単元名 小学校全学年 図画工作 「見つめて、感じて」(9時間)

2 関連する単元の目標

- ・身の回りのものを見つめ、感じたことから表したいことを見つけ、絵に表すことができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 動物となかよし (4時間)

体験の前に

- ・アグリパークにいる動物について事前に調べたり、どんな活動を行うのか計画を立てたりする。
- ・描きたい動物、自分の関心、自分がやってみたい世話活動などを観点として学習課題をつくる。

●アグリパークでの動物との出会いに期待をもたせながら活動を行う。

↓

学習課題例

動物の体はどうなっているのだろうか。どんな色かな、形かな。

アグリパークでの体験学習 <3時間>

①動物のえさやり → ②牛の搾乳体験 → ③体験したことや感じたことを大事にして動物のスケッチをする。

まとめのメモ(スケッチしたい場面)例

「うしさんにえさをあげたら、ながいしたを出して食べてくれたよ。」

「おちちをしぼったら、あたたかかったよ。」

「ひつじさんにさわったら毛がふかふかだったよ。」

↓

体験の後に

- ・体験したことや自分が描いた絵をもとに、心に残っていることを思い出したり話し合ったりする。

(2) なかよし動物との思い出をかこう (4時間)

- ・アグリパークでの思い出を絵にかく。
- アグリパークでの絵の続きをかいいたり、新たに心に残っていることを絵にかく。その際、自分の思いに合わせて版画・絵の具・貼り絵など、多様な表現方法から選択して表現させる。
- 絵をかく場合、画用紙以外にも、木の板や段ボールなどを使ってイメージを広げるのもよい。

(3) なかよし動物園を見よう (1時間)

- ・みんなでかいた動物との思い出を見合う。
- ・友達の絵を見て、友達の絵のよさを話し合う。

4 本時のねらい

動物と触れ合い、生命の不思議さや温かさを感じる活動をとおして、表したい場面を考えて楽しく「なかよし動物」の絵を描くことができる。

5 本時の展開例(135分=3時間)

学習活動	教師(T)・指導員(I)・子ども(C)	指導上の留意点
①今日の学習課題をつかむ (10分)	T:学習課題を確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって安心・安全に活動に臨めるようにする。	・図や表などを使って説明し、児童が理解しやすくなるようにする。
②動物の心音を聞いたり、えさをやったり、乳搾りをしたりする (55分)	I:大型動物の特徴を簡単に説明し、心音を聞かせる。 C:人間と同じように心臓が動いているね。速さは、僕たちと同じくらいかな。比べてみよう。 I:動物のえさやりについて説明し、全員にえさやりを体験させる。 C:牛の食べ物って草なんだね。 C:長くてピンク色の舌だよ。 C:顔が大きいね。 C:頭をなでたら堅かったよ。 C:羊の体は毛がふかふかだったよ。 C:羊の目って黒目が横長だよ。人間とは違うんだね。 C:山羊は人なつっこいよ。えさを食べてくれたよ。 I:乳搾り体験について説明し、全員に搾乳させる。 C:おっぱいに触ったら温かかったよ。 C:いつも飲んでるミルクと同じだね。 C:体をさわったら柔らかかったよ。	・実物や図などを使って具体的に思い浮かべやすくなるようにする。 ・動物とのふれあいから得られる心情的なものを大切に絵をかかせるため、動物の特徴は簡単に説明する程度にする。 ⑬動物への配慮事項や安全・衛生のための注意などを確認する。 ・動物とのふれあいに十分に時間をとり、生きている動物の温かさや動きのおもしろさ不思議さなどを、多様な感覚を使って感じさせる。
③動物のスケッチをする (70分)	T:体感したことを発表させ、スケッチしたい場面を想起させる。 I:動物の絵をかくことができる場所について説明し、スケッチさせる。 C:牛が口を開けているところをかきたいな。もう一度えさをやりたいな。 C:羊が並んでいるところがかわいいな。 C:乳搾りをしているところがかきたいな。牛のおなかもしっかりかいておこう。 T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターへお礼を述べる。	⑭安全に配慮した場所でスケッチさせる。スケッチ中に気を付けることを確認しておく。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
造形への関心・意欲・態度	・自分の見た動物の姿を、絵に表すことを楽しんでいる。	活動の様子
発想や構想の能力	・自分の表したいことを見つけて、形や組み合わせ、色などを考えている。	活動の様子 作品
創造的な技能	・動物の形や色を見て、色を重ねて塗ったり、表し方を工夫したりしている。	活動の様子 作品

⑱まかせてね今日の食事～アグリ定食を作る

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

う～

- ・実施期間 9月下旬～12月初旬
- ・1班最大人数 64人
- ・費用 440円/人

が魂 自分が育てる（収穫する）

自分が消費する（調理する・飲食する・作品にする）

どうやったら調理する時に収穫した旬の野菜を全て使い切ることはできるだろうか。

①旬の野菜の収穫体験



・ニンジン葉っぱがふさふさしているよ。
・ゴボウの葉を初めて見た。

・土が学校の土より軟らかいね。
・堆肥が入っているからなんだ。

②調理体験



・土をきれいに洗おう。
・切り落とした葉は、捨てずに取っておく。

・ゴボウはさがさぎ。
・ニンジン葉は短冊とちょう切り。
・包丁の扱いに気を付けて。

③堆肥作り体験



・残った皮や葉は堆肥にしてリサイクル。ごみじゃないよ。
・次の野菜の肥料になるんだね。

・ニンジン葉の彩りがきれいだね。
・栄養バランスもばっちり。

・みんなで食べるとおいしいね。
・今度、家で作ろう。

材料を使いきって、残りが出ないようにすることも大切だね。

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校6年：家庭

- ・自分で収穫した野菜を使って調理することを通して、材料の分量や手順、材料の切り方や味付け、盛り付け、後片付けなどの調理の基礎を身に付けるとともに、調理器具の安全な取り扱いができるようになります。
- * 家庭の内容B「日常の食事と調理の基礎」(3)
- ・収穫を通して食材の選び方や地域食材の利用に目を向けるとともに、後片付けを通して野菜くずの堆肥としての利用や環境に配慮した生活の仕方を意識させていきます。
- * 家庭の内容D「身近な消費生活と環境」(2)

旬の野菜の収穫体験、調理体験、堆肥作りの学びの可能性

- 調理の内容を味噌汁、野菜炒めなどに変更することで、プログラム内容を変えずに、5・6年生の食に関する全単元に応用できます。
- * 小学校5年家庭の内容B「日常の食事と調理の基礎」(1)
- 収穫体験を地域の生産や販売活動と関連付けて学習活動を構成していくならば…
- * 小学校3・4年社会の内容(2)「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」イ
- 廃棄物を使った堆肥作りを中心に活動を構成するならば…
- * 小学校3・4年社会の内容「地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動」

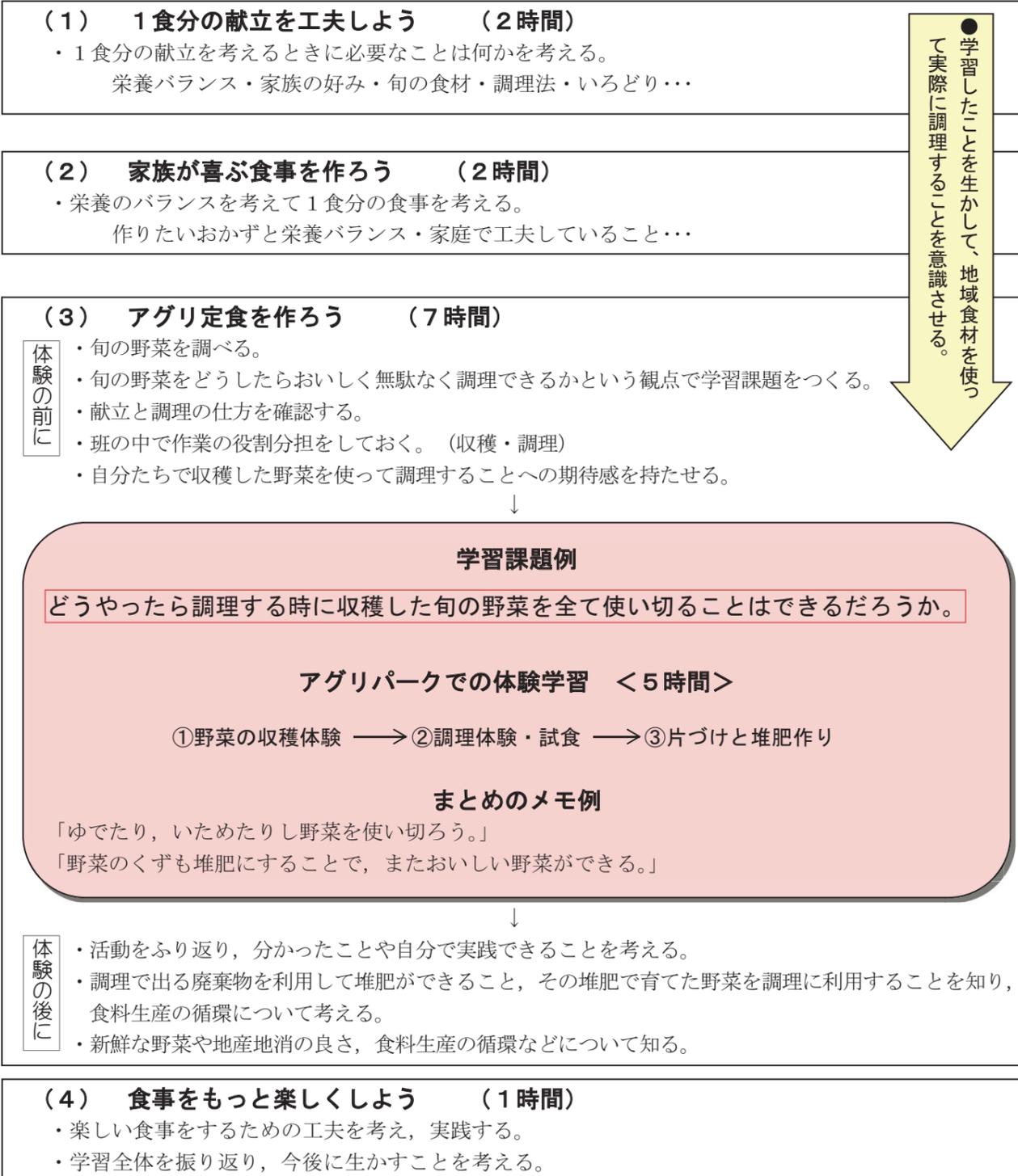
実践例「まかせてね今日の食事」～アグリ定食を作ろう～

1 関連する単元名 小学校6年 家庭「まかせてね今日の食事」(12時間)

2 関連する単元の目標

- ・ 日常の食生活や食品に関心を持ち、家族の一員として1食分の食事の用意ができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け



4 本時のねらい

旬の野菜を収穫し、複数の調理方法を用いた1食分の料理を作ることを通して、食材を無駄にしない循環型の調理や後片付けについて考えることができる。

5 本時の展開例 (225分=5時間)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (5分)	T:学習課題を確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れと体験の目的を説明する。 C:収穫した野菜は全部使うんだね。	・ 旬の大切な野菜を調理し、使い切ることを確認する。
②収穫する野菜の説明を聞く (10分)	I:収穫する野菜について説明する。(生産者) C:ニンジンとゴボウが旬なんだね。 C:旬の野菜だから収穫するんだね。	・ 旬の野菜と旬でない物を比較して、旬の野菜の良さを伝える。
③おいしそうな旬の野菜を収穫する (30分)	I:野菜の収穫の仕方を説明する。(生産者) C:ニンジンは葉っぱがふさふさしたものがいいと思うよ。 C:ゴボウの葉っぱを初めて見た。 C:ゴボウを収穫するのは大変だね。 C:土が学校の土より軟らかいね。	④ 収穫場所以外は入らないようにする。 ・ 野菜ごとによいものの選び方と収穫の仕方を説明する。 ・ 学校畑との土の違いにも注目させ、堆肥を使って土作りをしていることを知らせる。
④食材を無駄なく使って調理をする (120分)	T:旬の野菜を使った料理を作ることを説明し、無駄のない調理を呼びかける。 I:調理の仕方を説明する。 <材料を洗って切る> C:葉の付け根の土をきれいに落とそう。 C:ゴボウはさがさき。ニンジンは短冊。 C:葉っぱや皮は集めておくんだね。 <調理・盛り付けをする> C:硬いものから炒めよう。 C:火加減は強火から中火。 C:おいしそうに盛り付けよう。 <試食する> C:今度、家でも作ってみよう。	・ 作り方の手順や分量の確認、作業分担等をしておく。(学校で) ⑤ 衛生面、調理器具の取り扱い等、安全面に注意させる。 ・ 洗い方・切り方などを演示する。 ・ 野菜の葉や皮、へたの部分はごみではないことを説明する。 ・ 調理の仕方(ゆでる・炒める)味付け・盛り付けなど、補助をする。
⑤野菜くずを有効に使う堆肥作りをする (60分)	T:残った野菜くずを利用することができないか考えさせる。 I:堆肥の作り方と利用の仕方を説明する。 C:野菜くずも堆肥になり、捨てる場所はないよ。 C:一番栄養のあるところを捨てていたのか。 C:食べ残しがないようにすることも大事だね。 C:この堆肥で、またおいしい野菜ができるね。 T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターへお礼を述べる。	・ 野菜の皮や葉を堆肥にして使い切ることを説明する。 ・ アグリパークの中で循環していることに気付かせる。 ・ 自分の食生活をふり振り返り、地産地消や環境に配慮した調理について考える。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
家庭生活への関心・意欲・態度	・ 旬の地域食材やバランスの取れた献立に関心を持ち、おいしい食事を作ろうとしている。	行動観察
生活を創意工夫する能力	・ 旬の野菜を使って自分たちで調理できる2品以上のおかずを考えることができる。 ・ 目的にあった良い食材の選び方を考えたり、切り方や彩りを工夫したりする。	行動観察 学習のまとめ
生活技能	・ 学習したことを生かして安全に気を付けて調理している。	行動観察 調理の様子
家庭生活についての知識・理解	・ 2品以上のおかずの組み合わせと調理手順を考えることができる。 ・ 無駄のない調理や野菜くずのリサイクル等循環型の調理の仕方が分かる。	学習のまとめ

体験学習発 → 小学校6年「道徳」行き
⑳ありがとうございます・いただきます (道徳編)

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★

＜アグリパーク→学校＞

- ・実施期間 8月中旬～12月上旬
- ・1班最大人数 30人
- ・費用 無料 *事前の体験にかかる費用は必要です。

が魂 自分が育てる (見学調査する・採取する)

体験活動

温かい…

呼吸は…

心臓は…

同じ子牛でもオスや肉牛だと運命が違う…

学習指導要領上の位置付け

確かな学び
 プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校6年：道徳

- ・家畜の世話や搾乳体験をした子どもは、牛の生命を実感しています。また、肉牛と乳牛の子牛の扱われ方がかなり異なることを知って、切ない気持ちを抱いています。そうした子どもたちを酪農家の手紙に出会わせます。現実を直視した話によって子どもは自身の中にある感情を見つめ直し、これまでの自分の生活を振り返ることになります。
- ・生きるためには食べなければならないという現実を考えることで、自分の生命が他の生命に支えられていることを再確認し、生命を尊重する態度を養うことにつながります。

***道徳の内容項目 3-(2) (D-(20))**

自分が消費する (飲食する) 「道徳」の授業

自然愛、動植物愛護の「道徳」の授業
 中央酪農会議編『酪農体験学習ハンドブック』の抜粋資料による (次ページ参照)

「家畜は『かわいそう』? 『かわいそうではない』?」

農業体験活動から「道徳」授業に発展させる可能性

- 農業体験活動は子ども自身が道徳にひたるうえで、素晴らしい機会となります。子どもたちは農業体験活動をすることで、多くのことを感じ、多くのことを考えることができます。しかし、現行学習指導要領では、農業体験活動そのものをもって「道徳」の授業にすることはできません。そこで私たちは、理科や社会、総合的な学習の時間や特別活動の時間で子どもたちが行った農業体験学習をもとに、「道徳」の授業を構成することを提案します。
- 子どもは家畜と触れ合ったり、農家の人が愛情をもって育てた家畜を精肉にするという事実を知ったりする様々な体験を踏まえて、「道徳」の授業に臨みます。そして、子どもたちは家畜のぬくもりや息遣いを感じながら資料を読み込んだり、話し合いをしたりして、自らの道徳性を養っていくのです。

実践例 「ありがとう・いただきます（道徳編）」

1 主題名 小学校6年 道徳「命をつなぐ」～体験学習「ありがとう・いただきます」と関連させて～
3－（2）（D－（20））自然愛，動植物愛護（1時間）

2 主題設定の理由

（1）主題について

本主題は，第5学年および第6学年の内容項目3－（2）「自然の偉大さを知り，自然環境を大切にする。」を受けて設定した。この内容は，生命の大切さに関するものであり，人間も自然の中で生かされていることを考え，人間と自然や動植物との共存のあり方を積極的に考える児童を育てようとするものである。

（2）児童について

先にアグリパークでの体験学習を通じて，児童は牛の存在を諸感覚でつかみ，いのちを実感している。また，乳ができるまでの仕組みを知り，搾乳体験・試飲をしたことで，本来，仔牛が飲むべきものを人間が利用していることを再確認した。そこから，牛に感謝して飲食する心情も生まれている。また，乳牛と肉牛の仔牛を比べて見る機会を得たことで，肉牛がやがて迎える運命（乳牛よりも早期に食肉として処理される）に驚き，経済動物に対する漠然とした悲哀の念を抱いている。

（3）資料について

本資料は，「いのちの大切さ」を知り，「食べ物を大切にすること」という観点から「かわいそうと思うのではなく，みんなのために食べ物になってくれる牛に感謝し，無駄にしないように食べてあげることが大切」と，生産者の立場から人間の現実を述べたものである。生きていくためには食べなければならない。児童が漠然と感じている悲哀を越えて，自分の命が動植物の命に支えられていることを確認し，自身の食生活において「ありがとう。いただきます。」と，感謝することに導く内容となっている。

私たちが酪農家にとつてうれしい時とは，子牛が生まれた時です。子牛が生まれると牛乳がいつばい出るからです。逆に大変な時は，牛が病気になる時です。餌を与えても食べないと心配になります。朝牛舎に行つて，牛が死んでいたりするとすごいショックです。牛は本来十三，五年くらいの寿命があります。しかし，家畜として飼っている五，六年くらいのいのちで終わってしまいます。なぜなら，牛乳も出なくなるし，赤ちゃんも産めなくなるからです。ペットではないので，ずっと飼っているわけにはいけません。だから，飼っているうちは，牛を一生懸命育てるのです。そうすると牛もそれに応えてくれるし，おいしいミルクをいつばい出してくれます。逆に手を抜くと，牛もそれなりにしか応えてくれません。

みんなに聞きたいのですが，宝物をもっていますか？ おじさんは，一人必ず一個もつていると思います。それは何かというと，いのちです。他人にあげられない自分のいのち。しかし，それは人間だけではなく，牛もペットも鳥もみんなもつています。そして，そのいのちはお父さんやお母さんから受け継ぎ，子どもに受け継いでいくもので，決して自分だけのものではないのです。牛も同じようにいのちを受け継いでいます。ただ，人間と違うところは，経済動物なので，いのちを途中であきらめないといけないこともたくさんあるということです。それがわかっているからこそ，あきらめるまでは一生懸命飼います。だから，病気になると本当に悔しい。

そして，そのいのちは食べ物でつないでいきます。その食べ物もいのちでできています。牛や豚や鶏や米や野菜，みんな生きています。そのいのちをもらってみんなは生きています。食べ物，人間の力だけではつくれません。自然の力が必要です。だからこそ，食べ物に感謝しなくはないけません。みんなは食べないと生きていけないのだから，かわいそうと思うのではなく，みんなのために食べ物になってくれる牛に感謝し，無駄にしないように食べてあげることが大切です。

（中央酪農会議編『酪農体験学習ハンドブック』2005年より抜粋）

3 本時のねらい

牛の世話体験をもとに酪農家の考えに触れることを通して，人間が自然のつながりの中で生かされていることや，人間と動物との共存のあり方を考え，自分の生活を見直そうとする実践意欲をもつことができる。

4 本時の展開例（45分＝1時間）

学習活動	教師（T）・指導員（I）・子ども（C）	指導上の留意点
①肉牛の子牛やオスに対して友達はどうな意識をもっているか知る（5分）	T: 先日の体験学習の振り返り作文に「肉牛の子牛やオスはかわいそう」というものがたくさんありました。どうしてそういう風感じたのでしょうか。酪農家の人もそう考えているのでしょうか。	・振り返り作文で，肉牛の子牛やオス牛の運命に悲哀を感じている児童が多いことから資料への動機付けを図る。
②酪農家の手紙を読み，生産者の気持ちを考える（10分）	T: 資料を配付・朗読し，酪農家の喜びと苦勞，牛の寿命や世話の様子を確認する。（第一段落） C: 子牛の誕生が嬉しいだね。 C: 寿命と飼っている期間の長さは違うよ。 C: でも，飼っている間は一生懸命育てるんだ。 T: 受け継ぐ命の大切さと，牛が経済動物であることを確認する。（第二段落） C: いのちを受け継ぐのは人間も牛も同じだ。 C: 「経済動物」ってそういうことか。 C: 「いのちをあきらめる」場面はいろいろある・・・。	・内容をしっかりとらえられるようにキーワードを提示したり確認したりしながらゆっくと読む。（段落ごとに資料を提示する方法も考えられる。） ・先の体験活動との共通性をクローズアップする。 ・経済動物について説明する掲示物を用意し，自然界の動物や愛玩動物などとの違いを明示する。 ・命を途中であきらめる場面を具体的に想起させ，人の暮らしにつなぐ。
③家畜を「かわいそう」と思わず，感謝し，無駄にならないように食べようという酪農家の主張について考える（20分）	T: 「感謝し，無駄にしないように食べてあげる」意味をとらえるために，牛の幸せは何かについて考える。（第三段落） C: 生まれても食べられるのは，かわいそう。 C: 人間の勝手に命を奪って，かわいそう。 C: でも，食べないと生きていけないよ。 C: 病気で死ぬのと，食べられるために死ぬのは意味が違うんじゃないかな。 C: 食べられた命が，食べた人に引き継がれるなら，かわいそうじゃないかも。 C: 命が引き継がれるなら，死ぬことは無意味じゃないと思う。 C: 命をまっとうしたのと同じ，と言えるかも。 C: だから，私たちがちゃんと命を引き継がないといけない。	・考えを書くワークシートを用意する。 牛は「かわいそう」か，「かわいそうではない」か，という視点から話し合いを深めていく。 ・子どもの発言を共感的に受け止め，多様な考え方を引き出す。 ・同種の考えにも理由の違い（大小）がある。自分の思いを自分の言葉で語らせ，整理・類型化して板書する。 ・「食べられるなら，生まれてきても意味がない」と，「命をつなぐために食べられるなら生まれてきた意味がある」というように「意味」の質の対比から「かわいそう」かどうかに向ることが考えられる。
④毎日の食生活を振り返り，考えたことを書く（10分）	T: 家畜に宛てた手紙形式で，自分がこれからどのような食生活を送ろうと考えるか書かせる。 C: 「いただきます」って心を込めて言おう。 C: 好き嫌いで残さず食べるようにします。	・家畜への感謝の言葉を記した子ども数人に発表させ，余韻をもって終わるようにする。

5 本時の評価

自然のつながりの中で自分が生かされていることや，動物との共存について自分なりの意見を持ち，自分の生活を見直そうとしたか。

体験学習 小学校5年 総合的な学習の時間

②1 稲も家畜も、わたしたちのために

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

<アグリパーク>

・実施期間	通年
・1班最大人数	30人(最大人数60人)
・費用	390円/人

が 魂

自分が育てる（世話する・見学調査する）

家畜と私たちの生活には、どんな関係があるのだろうか。

① 家畜の観察・世話体験



家畜はこういうものを食べているんだね。

心臓はドクンドクンと音がしてる。

肉はステーキやハムになるね。
皮はバッグやベルトに変身するよ。
内臓もいろいろ利用されてるようだ。
骨も肥料になるのか。

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校5年：総合的な学習の時間

- ・家畜の世話や加工体験をすることで、生き物をとらえる感性や問題意識が揺さぶられ、探究的な学習を展開することができます。
- ・他者や自然、環境と共に生きる積極的な「開かれた個」（中教審答申）を育てるための協同的な作業・学習が展開できます。
- ・稲作と関連付け、自分の生活が様々な動植物の生命によって支えられていると気付くことで、自己の生き方を考えられるようになります。

* 総合的な学習の時間の学習課題：「横断的・総合的な課題」

自分が消費する（加工する・調理する・飲食する）

② 食肉加工体験

ソーセージは動物からの贈り物みたい。ありがたいね。

ソーセージにひき肉を詰めるのは難しいぞ。
ペアで息を合わせないとうまく肉が入っていかないよ。
家畜の腸がソーセージの皮だなんて、人間は工夫してるなあ。

せっかくのお肉だから無駄にはいけないね。

③ 清掃体験

おいしいお肉を食べさせてくれてありがとう。
お礼に掃除をさせてね。

家畜の世話・食肉加工体験の学びの可能性

○家畜の観察・搾乳体験を仔牛の誕生と絡めて学習活動を構成していくならば、単なる読み物教材を超えて、生命の連続性の面から…

* 小学校5年理科の内容B「動物の誕生」

○食肉加工体験を「白根ポーク」などのフードブランドや農業生産と関連づけて学習活動を構成していくならば…

* 小学校5年社会の内容(2)「我が国の農業や水産業（食料生産）の様子と国民生活との関連」

○そのほか、中学校技術C「生物育成に関する技術」に直結させることや、命について考える「道徳」の体験の場とすることもできます。

実践例 「稲も家畜も、わたしたちのために」

1 関連する単元名 小学校5年 総合的な学習の時間「稲も家畜も、わたしたちのために」(56時間)

2 関連する単元の目標

- ・稲を育てたり、家畜の世話をしたりする活動を通して、稲作や畜産に携わっている人々の工夫や願いを知るとともに、いのちを育てる食料生産やいのちを様々なかたちに変える食品加工に関する人間の知恵を知り、毎日の食事を感謝して食べるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 稲を育てよう (16時間) 4～6月

- ・新潟米の生産量・流通量の多さから、米が新潟の誇る食材であることをつかみ、なぜ、新潟米が高い評価を得ているか課題を設定するとともに、自分たちでも育ててみようとする意欲をもつ。〈課題設定〉
- ・米の種類や育て方、生産量が多い理由について調べる。(栽培方法、気候条件、収穫時期・方法等)〈情報収集〉
- ・学校田(or アグリ教育田)で田植えを体験し、稲の生育(変身)状況を観察して記録する。〈情報収集〉
- ・米の生産者にインタビューし、米づくりにかける願いや思いを知る。〈情報収集〉
- ・新潟米の特徴やよさについて整理し、PRしたいポイントをまとめる。〈整理・分析〉
- ・「にいがた米自慢リーフレット(春・夏編)」をつくり、アグリパークと生産者に届ける。〈まとめ・表現〉

(2) ソーセージをつくろう (10時間) 6～7月

- ・米と並んで「しろねポーク」が新潟の名産品として高い評価を得ていることをつかみ、飼育や食肉加工の工夫について調べようとする意欲をもつ。〈課題設定〉

学習課題例

家畜と私たちの生活には、どんな関係があるのだろうか。

アグリパークでの体験学習 <4時間>

- ①ブラッシングや餌やり体験をする。
 - ②家畜の身体の一部が、様々なものに「変身」し、無駄なく利用されていることを知る。
 - ③しろねポークの生産者にインタビューし、願いや思いを知る。
 - ④ソーセージづくりを体験し、試食する。
 - ⑤感謝を込めて、畜舎を掃除する。
- 〈情報収集〉

まとめのメモ例

「私たちは、家畜を無駄なく使って生活している。それは、人間が長い時間をかけて身に付けてきた知恵だ。」
 「私たちは、家畜の命をいただいて生きている。感謝する気持ちが大切だ。」

- ・しろねポークのおいしさの裏にある生産者の苦勞と工夫をまとめる。〈整理・分析〉
- ・各部位を無駄にせず変身させ、使い切る人間の知恵には命への感謝があることをまとめる。〈整理・分析〉
- ・「しろねポーク自慢リーフレット」をつくり、アグリパークと生産者に届ける。〈まとめ・表現〉

(3) 米をおいしく食べよう (18時間) 9月～11月

- ・稲が大きく成長し、収穫を待っていることに期待感をもち、収穫しようとする意欲をもつ。〈課題設定〉
- ・稲刈り、乾燥、脱穀、精米の一連の作業を体験し、米を炊いて食べる。〈情報収集〉
- ・米や稲わらの活用方法を調べ、おかきやわら細工をつくる。〈情報収集〉
- ・稲を様々なものに変身させ使い切る人間の知恵には命への感謝があることをまとめる。〈整理・分析〉
- ・「にいがた米自慢リーフレット(秋編)」をつくり、アグリパークと生産者に届ける。〈まとめ・表現〉

(4) 私の変身(心) (12時間) 11月～1月

- ・記録写真を見て、これまでの学習を振り返り、まとめの活動をする意欲をもつ。〈課題設定〉
- ・アグリパークで米粉ピザをつくり、米とブタ肉がおいしい食べ物に変身することを体験する。〈情報収集〉
- ・「変身」「人間の知恵」「命への感謝」という視点から、稲や家畜と人間とのかかわりをまとめる。〈整理・分析〉
- ・1年間の学習を通して、自分が食生活をどのように改善していこうと考えているか、「私の変身(心)」と題して作文にまとめる。〈まとめ・表現〉

4 本時のねらい

アグリパークで家畜の世話をしたり、生産者の話を聞いたり、食品加工をしたりすることを通して、家畜が様々なものに姿を変え、人間の生活を豊かにしていることに気付くことができる。命をいただいている観点から自分たちの食事を見直し、感謝して食べようとする気持ちをもつことができる。

5 本時の展開例 (180分=4時間)

学習活動	教師(T)・指導員(I)・子ども(C)	指導上の留意点
①今日の学習課題をつかむ (5分)	T:学習課題を確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって安全・安心に活動に臨めるようにする。	・学習対象;家畜(主にブタ、その他として牛、羊)加工食品。 ・学習内容;家畜の命、食品の加工方法と使い切る人間の知恵、感謝。
②家畜の世話をし、家畜の心音を聴く (25分)	I:えさの内容物と与え方、毛並みを整えるマッサージのやり方、心音マイクで心音を聴く方法を具体的に伝える。 C:こういうものを食べているのか。 C:毛は結構固いけど、とても温かい。 C:人間と同じくドキンドキンしている。	・飼料の匂い、手触り等から内容物を予想させる。 ・温かさや心音、呼吸の様子に注目させ、生きていることを実感させる。
③家畜の身体の一部がどんなものに変化するか考える (25分)	I:家畜がどんな風に人間の生活に役立っているか、パネルで説明する。 C:肉はステーキやハムになるよ。 C:皮はバッグやベルトに使われる。 C:内臓もいろいろなものになるね。 C:骨も肥料に使われるのか。 C:もったいないから無駄なく使うんだ。 C:命をもらうんだからね。	・図入りのパネルと、児童用ワークシートを用意し、各部位が何に加工されるか線で結べるようにする。 ・なぜ無駄なく使い切るのかを考えさせ、それが人間の知恵であり、命への感謝につながることを強調する。
④消化管であるケーシングを使ってソーセージづくりをする (90分)	I:ソーセージの作り方とともに、消化管のつくりについて説明する。 C:腸ってこんなに長いんだね。 C:ソーセージは「腸詰め」だったのか。 C:中膜だけ使うなんておもしろい。 C:いろいろな知恵が生かされているんだね。 C:ひき肉を詰めるのは難しいぞ。	・子ども全員にビニール手袋を装着させて、衛生管理を徹底する。 ・各テーブルに1名サブ・インストラクター又は食品加工ボランティアを配置して、子どもたちが大人の厳格な衛生管理のもとで作業できるようにする。
⑤感謝の気持ちを込めて、家畜小屋の掃除をする (20分)	I:家畜小屋掃除の目的や方法、役割分担を説明する。 C:おいしいお肉をありがとう。 C:きれいにするから元気でいてね。 C:新しい敷き草が気持ちよさそうだね。	・今日の学習を振り返り、家畜への感謝の言葉を子どもから引き出し、心を込めて掃除ができるように導く。
⑥まとめと振り返りをする (15分)	T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターへお礼を述べる。	

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
学習方法(収集・分析)	・家畜の育て方や加工食品とその作り方を調べ、体験活動への意欲をもつとともに、実践に役立てようとしている。	収集資料 行動観察
自分自身(自己理解)	・材料を無駄にせず、使い切る人間の知恵には命への感謝があることに気づき、自分の食生活を改善しようとしている。	振り返り作文
他者や社会とのかかわり(協同)	・他の児童と協力して、家畜の世話やソーセージ作りに取り組んでいる。	行動観察

②大豆は、ホントに大事な豆

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

・実施期間	通年 * (味噌が食べられるのは作った夏を越してから)
・最大人数	60人
・費用	140円 / 100g (大豆を持ち込む場合115円 / 100g)

が 魂 自分が育てる (植える) →

大豆を育て、味わうには、どんな工夫をすればよいのだろうか。
大豆からどんなふうに食品ができるのだろうか。

①畝作り・種まき

・堆肥は牛のウンチなんだね。
・あんまり匂わないよ。

・クワで耕すのは、初めてやったよ。力がいるね。
・この豆は来年の人が使うから、しっかり育てないと。
・土をやわらかくして、大豆がよく育つようにしよう。

一輪車だと運びやすいね。

豆作りの工夫はね…。

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校5年：総合的な学習の時間

- ・土作りから収穫，加工までの一連の作業を体験することで，食物を育てる喜びや人々の営みを知り，また食料問題を実感することで追究意欲が喚起され，探究的な学習を展開することができます。
- ・他者や自然，環境と共に生きる積極的な「開かれた個」（中教審答申）を育てるための協同的な作業・学習が展開できます。
- ・食料生産の工夫や食料問題を知ることによって，自身の食生活を振り返り，自己の生き方を考えられるようになります。

* 総合的な学習の時間の学習課題：「横断的・総合的な課題」

自分が消費する (加工する・調理する・飲食する)

②味噌作り

・この豆は昨年の方がつくってくれたものなんだって。(=リレープロジェクト)
・煮豆は納豆に似ているぞ。
・まずは、豆をよくつぶすんだね。

・米麴をまぜたら、だんだん硬くなってきたよ。
・耳たぶくらいの硬さだね。

・味噌がこんなふうに出て上がっているなんて知らなかった。
・人間は工夫してきたんだなあ。

③収穫・加工

<体験メニュー>

- ・大豆の脱穀
- ・豆がらの利用
- ・加工食品作り
- ・味噌おにぎり作り

大豆の栽培・収穫・加工体験の学びの可能性

- 自分たちの住む新潟市で作られている農産物に関心を持ち，それがどのように作られているか調べる学習活動を構成していくならば…
* 小学校3・4年社会の内容(2)「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」
- 農家の人たちの喜びや生きがい，食料自給率などの日本の食料生産の問題と関連づけて学習活動を構成していくならば…
* 小学校5年社会の内容(2)「我が国の農業や水産業(食料生産)の様子と国民生活との関連」
- 土作りや発芽の様子，種子のつくりと養分，肥料(堆肥)と成長の様子に関連付けて学習活動を構成していくならば…
* 小学校5年理科の内容B(1)「植物の発芽，成長，結実」

実践例 「大豆は、ホントに大事な豆」

1 関連する単元名 小学校3～5年 総合的な学習の時間「大豆は、ホントに大事な豆」(37時間)

2 関連する単元の目標

- 大豆を育てたり、味噌や豆腐を作ったりする活動を通して、大豆作りに携わっている人々の工夫や努力を知るとともに、食の安全・食料自給の問題について考え、豊かな食生活にすることができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 大豆を育てよう (13時間) 5～6月

- 体験の前**
- 新潟県民(市民)の豆の消費量を調べ、なぜ、新潟でたくさんの大豆が栽培され、消費されているかを調べるとともに、自分たちも育てようとする意欲をもつ。<課題設定>
 - 豆の種類や育て方について調べる。(栄養価、枝豆と大豆の違い、栽培方法、収穫時期・方法等)<情報収集>
 - 豆を利用した食物とその作り方について調べる。(豆腐、味噌、醤油、納豆等)<情報収集>
 - 大豆の生産が多い理由について調べる。(減反政策の現状、生産者と消費者の距離等)<情報収集>

学習課題例

大豆を育て、味わうには、どんな工夫をすればよいのだろうか。

アグリパークでの体験学習 <4時間>

- 堆肥を入れて土作りをする。大豆の種をまく。
- 大豆の生産者にインタビューし、願いや思いを知る。
- アグリ大豆で味噌をつくる。

まとめのメモ例

「大豆を育てるには、土に堆肥を入れ、ふかふかにするとよい。」
 「農家の人は、大豆の種まきの時に、鳥や虫に食べられないように工夫している。」
 「育てるために、私たちは、家畜の命をいただいて生きている。感謝の気持ちが大切だ。」

- 体験の後**
- 新潟の大豆作りの特徴やよさについて整理し、PRしたいポイントをまとめる。<整理・分析>
 - 自分たちの手で大豆をつくることよさや意義について整理し、まとめる。<整理・分析>
 - 「新潟の大豆自慢リーフレット」をつくり、アグリパークに届ける。<まとめ・表現>

(2) 大豆を中心に新潟と世界の食料事情について調べよう (12時間) 7～10月

- 新潟の大豆自給率と日本の大豆自給率を比べ、輸入に頼っている現状を知り、干ばつなどによって食料危機となる可能性があることから、さらに大豆について調べてみようとする意欲をもつ。<課題設定>
- 日本、世界の食糧事情や食料自給率を調べ、大豆が世界的に重要な農産物であることをつかむ。<情報収集>
- 米国、ロシア、ブラジルなどの干ばつが、食料危機を招きかねない現状を調べる。<情報収集>
- 遺伝子組み換えやポストハーベスト、残留農薬について調べる。<情報収集>
- 日本や世界と新潟の食料事情の現状を比較し、新潟がフードバレーと称される理由を整理する。<整理・分析>
- 世界が抱える食料問題と新潟の食料生産の状況を対比表にまとめる。<まとめ・表現>

(3) 大豆をおいしく食べよう (12時間) 11月～1月

- 体験の前**
- グループごとにつくる大豆の加工食品を決める。(豆腐、納豆、きな粉)<課題設定>

学習課題例

大豆からどんなふう食品ができるのだろうか。

アグリパークでの体験学習 <3時間>

- 大豆の脱穀と豆がらの利用
- 大豆の加工食品作り (豆腐、納豆、きな粉)
- 味噌おにぎりづくり

まとめのメモ例

「『にがり』や『納豆菌』などと大豆が出会うことで食品が変わるんだ。」

- 体験の後**
- 手作り、自給自足のよさを観念に体験学習を振り返る。<整理・分析>
 - アグリ味噌に貼るラベルの「自慢できること」を考える。<整理・分析>
 - アグリ味噌を宣伝するポスターやラベルを作る。<まとめ・表現>
 - 学んだことを自分たちの食生活にどう活かすか、作文にまとめる。<まとめ・表現>

<1>大豆を育てよう

4 本時のねらい

アグリパークで有機栽培の農作業をすることを通して、大豆生産のための仕事やその工夫・努力、生産者の思いや願いに気付くことができる。
 自分たちで味噌を作る活動を通して、大豆の加工食品や大豆のもつ力について関心をもつことができる。

5 本時の展開例 (180分=4時間)

学習活動	教師(T)・指導員(I)・子ども(C)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (5分)	T:学習課題を確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって安全・安心に活動に臨めるようにする。	・学習対象;大豆,堆肥,生産者,味噌 ・学習事項;栽培方法と工夫,味噌の加工方法と工夫,生産者の願い
②畑作りの方法を 知る (10分)	C:他校児童が育てた大豆で味噌を作らせてもらうかわりに次の作物の畑作りをすることを理解する。	・他校への責任を伴う活動であることを確認する。 ・堆肥を入れて有機栽培で作ることを意識させる。
③堆肥を畑に入れる 作業と耕起や畝作りをする (40分)	I:堆肥運びの方法を示範し、やり方と注意点を説明する。 C:堆肥は牛のうんちだね。 C:一輪車で運ぶとたくさん運べるね。 I:鍬で耕したり、畝を作ったりすることを説明し、実際にやってみせる。 C:初めてやるよ。難しいね。 I:耕耘機で堆肥と土が混ざる様子を見ましよう。 C:どんどん堆肥が土と混ざっていくね。	④スコップや一輪車の安全な扱い方を確認する。 ・堆肥の原料を説明するとともに、発酵することで単なる排泄物ではなくなることを説明する。 ⑤生産者が示範し、安全な使い方を確認する。 ・耕耘機による耕起、畝作りはデモのみ。
④大豆の種まきをする (40分)	I:大豆の種まきを実際にやって見せ、方法や注意点を説明する。 C:大豆の種は丸くて、堅いね。 C:水をあげようね。 C:早く芽が出るといいね。	・種は1カ所に3,4粒まいて、間引くことを伝える。 ・大豆は、生長の様子を観察し、10月に収穫、乾燥し、豆腐作りに使うことを伝え、見通しをもたせる。
⑤生産者にインタビューする (10分)	I:児童の質問に答える。 C:大豆づくりで工夫していることや大変なことはなんですか。	・生産量を上げる工夫に加えて、消費者とのつながり、新潟の食を代表する生産物の誇りを語る。
⑥味噌作りをする ・塩と米麴を混ぜる ・煮豆をつぶす ・塩、米麴、豆を混ぜ合わせる (60分)	I:味噌作りの手順を説明する。 C:煮豆は納豆みたいだね。 C:もう全部つぶれたかな。 C:米麴を混ぜたら堅くなってきたよ。 C:耳たぶくらいの柔らかさだね。 C:どんな味噌になるのかな。	・事前に学習した味噌の作り方を想起させる。 ・アグリ大豆を水に浸して煮ていたものであることを説明する。 ・うまく発酵させるために注意することを伝える。
⑦まとめと振り返りをする (15分)	T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターへお礼を述べる。	

6 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
学習方法 (収集・分析)	・大豆の育て方や加工食品とその作り方を調べ、体験活動への意欲をもつとともに、実践に役立てようとしている。	収集資料 行動観察
自分自身 (自己理解)	・農作業体験や加工体験を振り返り、自分の頑張りができたことに気付いたり、自分が農作物に恵まれた新潟に住んでいることに気付いている。	振り返り作文
他者や社会との かかわり (協同)	・他の児童と協力して、堆肥運び、畝作り、種まき、味噌作りに取り組んでいる。	行動観察

<2>大豆をおいしく食べよう

4 本時のねらい

大豆を使った食品加工をすることを通して、食品加工の仕事の工夫・努力、生産者の思いや願いに気付くことができる。

5 本時の展開例（135分＝3時間）

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①学習課題をつかみ、製品ごとのグループ分けを確認する (10分)	T:学習課題を確認し、製品ごとのグループを確認した後、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって安全・安心に活動に臨めるようにする。 C:面白そうだね。早くしたいね。	・学習対象；大豆，豆腐，納豆，きな粉 ・学習事項；大豆製品の加工方法と工夫，加工業者の願い
②大豆の脱穀と炊飯を行う (20分)	I:脱穀を示範し、やり方と注意点を説明し、作業させる。 I:ご飯の炊き方を知らせ、豆がらを使ってぬかに火を付けて炊飯させる。昔は、新年に豆がらをかまどに炊いて、息災を願ったことを知らせる。	・自分たちが蒔いた大豆を使用する。
③三つのグループに分かれて、豆腐、納豆、きな粉を作る (80分)	I:三つのグループに分け、それぞれのグループで作る方と注意事項を説明し、作業をサポートする。 <豆腐>ミキサーで粉砕→沸騰→豆乳ににがり投入→型入れ <納豆>大豆茹で→納豆菌投入→容器に収納→保温 <きな粉>大豆を炒る→皮と分離→粗めのふるいにかける→ミキサーで粉砕→細かいふるいにかける	・交代で炊飯の様子を見させる。 ・豆腐・納豆については、脱穀した大豆ではなく、前日から水に浸しておいたものを使用する。
④味噌おむすびを作る (15分)	I:おむすびの意味を知らせ、作り方を説明する。 I:アグリリレーで〇〇校の子どもが作った大豆で、自分たちが仕込んだ味噌であることを確認する。	・味噌は、時間を味方にしなければならぬことを知らせる。
⑤学習のまとめ (10分)	I:まとめのメモを書かせ、発表させる。	
⑥昼食の時間におむすびと豆腐を食べる	T:インストラクターにお礼を述べた後、自分たちが作った味噌、おにぎり、豆腐を味わって食べるように話す。 C:おいしいね。	・納豆ときな粉，味噌は分け合って持ち帰る。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
学習方法 (収集・分析)	・豆腐や納豆，きな粉の作り方を調べ、体験活動への意欲をもつとともに、実践に役立てようとしている。	収集資料 行動観察
自分自身 (自己理解)	・加工体験をふり返り、自分の頑張りやできたことに気付いたり、自分が農産物加工の盛んな新潟に住んでいることに気付いている。	ふり返り作文
他者や社会との かかわり (協同)	・他の児童と協力して、豆の脱穀，豆腐作り，納豆作り，きな粉作り，炊飯に取り組んでいる。	行動観察

「新潟発わくわく教育ファーム」のさらなる飛躍に期待して

このたびは、「アグリ・スタディ・プログラム」(改訂版)の策定、誠におめでとうございます。これもひとえに、日頃からの市長、教育長の熱心なご指導と関係各位のご尽力の賜物であり、心より敬意を表します。

さて、新潟市の教育ファームは「アグリパーク」の開園を期に本格的なスタートを切って以来、市内の小学生などが「アグリ・スタディ・プログラム」のもと、食育・農業体験学習を実際に行っているとのことであり、本件の構想段階から関わった者としては誠に感慨深いものがあります。

新潟市は政令市という大都市でありながら、市内に広大な農地を有し、そこで多様な農業が営まれております。新潟市のアイデンティティーの一つは間違いなく農業であり、食であります。それらの豊かな恵みを体験を通して、次世代を担う子どもたちに継承していく教育ファームは、新潟市だからこそ行っていく意義は大きいですし、フィールドとしても申し分ない場所です。

ただ、この教育ファームの検討にあたっては、「アグリパーク」や「いくとびあ食花」の施設建設と、体験プログラムの作成を同時並行で進めていく必要があった上、期限も限られていたことから、進捗管理が何よりも大変でした。

また、参考となる事例がフランスの教育ファームということで、市役所職員、学校の先生、PTA、農家、市民団体などの関係者で実際にフランスでの様子を勉強しに行きました。農業や社会情勢などがフランスと異なるなか、新潟市でどのような形の教育ファームを実現していくべきか、視察に行った関係者と毎晩のように語り合ったことを今でもよく覚えております。

このように、手探りで教育ファームの準備を進めていきましたが、幸いなことに市長の強いリーダーシップに支えられ、教育長のご理解、ご協力のもと、市役所の農林水産部と教育委員会とで問題意識を共有し、緊密に連携していくことで、「アグリ・スタディ・プログラム」をパッケージとして結実させることができたのだと思います。いわば、チーム新潟市の団結の結晶とも言うべきものです。このプログラムは体験だけに止まらず、その意義をきちんと理解して学習できるようにしてあるのが、最大の特徴ではないかと思います。

そして、学校の先生や職員、保護者、指導される農家の方々のそれぞれにとって、未知の世界であった、この教育ファームに対して、理念や方向性をご理解いただいた上で、取組をともに進めていただいております、その姿勢に改めて敬意を表します。

新潟市は大規模農業の改革拠点として国家戦略特区に指定され、農業の国際競争力強化に向けた新たな取組が始まっており、やがて全国に波及させていくことが期待されています。こうした中、全国初となる公立教育ファームを市内全域で展開しているのは誠に意義深いもので、特区同様、その一挙手一投足を全国が注目しております。

将来、この教育ファームで学んだ子どもたちが郷土への誇りを胸に、自分の子どもや孫たちに、農業や食の大切さを自身の体験を通して伝える日が来ることを楽しみにしております。

今後、関係各位の皆様とのより一層の連携のもと、「新潟発わくわく教育ファーム」がさらなる飛躍を遂げることを期待しております。

農林水産省農地資源課 課長補佐 小林 賢一
(元新潟市農林水産部長)



体験学習 小学校5年 総合的な学習の時間

②3 考えてみよう！米粉からお米のこと

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

<アグリパーク>

- ・実施期間 通年
- ・最大人数 60人
- ・費用 140円/人

が 魂
自分が育てる（加工する・調理する）

米粉でつくると、どんなふうにおいしいのかな。

①米粉作り



機械だと、あっという間に細かい粉になるね。



すり鉢では、なかなか細かくなかったよ。細かさによって、できる物も違ってるんだね。

②米粉・小麦粉比べ1（調理）



水にとくと、だまになる感じが、米粉と小麦粉では違うんだね。何が違うのかな。見た目は同じだけど…。

こっちはフワフワしているけど、こっちはパリパリしているように焼けた感じがするけど…。中は、どうなっているかな？味に違いはあるかな？

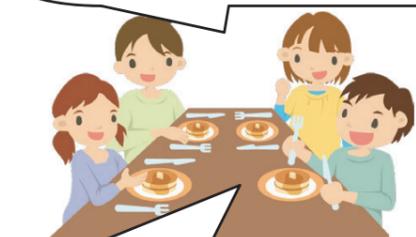


体 験 活 動

自分が消費する（飲食する・調査する）

③米粉・小麦粉比べ2（食味）

外はパリパリだけど、中はもちりしているよ。これは、これでいいけど、ぼくは、全体がふんわりがいいな。



米粉はもちもちしておいしいね。どちらの粉にも特徴があると思う。

④米粉開発関係者の話



米粉を開発するようになった理由は…。



米粉もいいけど、米そのもののよさを知って食べる人が増えないかな？

粉の特徴を生かすようにすればいいかな？！



学 習 指 導 要 領 上 の 位 置 付 け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校5年：総合的な学習の時間

- ・この学習を通して、米粉のいろいろな特徴を知るとともに、原料である米の生産や消費のあり方について考える際の様々な視点（嗜好、価格、フードマイレージ、加工性等）についても気付いていくことができます。
- ・協同的な作業・学習、様々な視点から考えていく学習活動を通して、他者や自然、環境と共に生きる積極的な「開かれた個」を育てていくことができます。
- ・食料生産、消費など食料問題を知ることで、自身の生活を振り返り、自己の生き方を考えられるようになります。

*総合的な学習の時間 学習課題：「横断的・総合的な課題」

米粉の学びの可能性

○米粉開発に携わる人の工夫を中心に学習活動を構成していくならば…

- * 小学校5年社会の内容「我が国の農業や水産業（食料生産）の様子と国民生活との関連」
- * 小学校4年社会の内容「地域生産や販売に携わっている人々の働き」

○育てたお米を使って、お米料理や米粉料理を協力し合って作り、楽しく会食することを中心に学習を構成していくならば…

- * 小学校5年特別活動【学校行事】（4）遠足・集団宿泊的行事

○そのほか、米粉にも様々な種類があるということ課題追究のテーマにし、米粉の種類に応じたお菓子作りやアイデア調理等に挑戦していくこともできます。

実践例 「考えてみよう！米粉からお米のこと」

1 関連する単元名 小学校5年 総合的な学習の時間「考えてみよう！米粉からお米のこと」(16時間)

2 関連する単元の目標

- ・米粉について調べたり、米粉と小麦粉とを比べたりする活動をとおして、米粉の様々な特徴に気付くことができる。
- ・米粉の活用、開発から見えてくる米の生産にかかわる様々な問題や米粉の可能性について追究活動を行い、自分なりの考えをもつことができる。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 新潟発R10プロジェクトって何？(2時間)

- ・米作りと並行して行ってきた「お米」をテーマにした新聞スクラップづくりやインターネット等で収集してきた資料をもとに、米粉を活用した様々な積極的な取組を調べる。〈情報収集〉
 - ・「新潟発R10プロジェクト」を中心に資料を整理し、米粉に関する興味・関心を高める。〈整理・分析〉
- ※新潟発R10プロジェクト…食料自給率の向上に向け輸入小麦の10%以上を国産米粉に置き換える運動

(2) 米粉について詳しく知ろう(6時間)

- ・「米粉とはどういうものか」米粉の種類など米粉について調べる。〈情報収集〉
- ・新潟発R10プロジェクトをもとに、米粉と小麦粉を比べることへの問題意識を高め、比べる観点を決める。(値段、フードマイレージ、調理上の扱い具合、食感等)〈課題設定〉
- ・米粉と小麦粉の比較等の観点から学習課題を設定する。〈課題設定〉
- ・自分たちで作ったお米をアグリパークで米粉にできること、米粉と小麦粉使用の調理比べができることを知り、調理内容や調理グループを決める(アグリパークと要相談)〈整理・分析〉

学習課題例

米粉でつくると、どんなふうにおいしいのかな。

アグリパークでの体験活動 <4時間>

- ①米粉作り → ②米粉、小麦粉使用の調理 → ③米粉、小麦粉の食味比べ → ④「米粉」開発にかかわる人の話
- 米粉製粉機の見学 (米粉、小麦粉使用の調理) ※子どもの調理体験と関連付けた
ミル等での手作り 米粉の特徴、活用に関する話

まとめのメモ例

「小麦粉でつくったものと、見た感じや食べた感じが違う。」
「米粉を使っているいろいろな料理ができそうだ。」

- ・調理、食味比べ、「米粉」開発にかかわる専門家の話をもとに、米粉の特徴をまとめる。〈まとめ・表現〉(食感、調理上の扱い具合の調理体験の結果から、成分や性質という観点からも整理する。)
- ・新潟発R10プロジェクトや米粉の活用について、自分なりの考えをまとめる。〈まとめ・表現〉

(3) お米について考えを深めよう(8時間)

- ・米粉の活用、開発から見えてきた米の生産にかかわる様々な問題や米粉の可能性等を出し合わせ、「お米」をテーマにした新聞スクラップづくりやインターネット等で収集してきた資料を再度整理しながら、興味・関心、問題意識に基づいて課題を設定し、追究する。〈課題設定〉〈整理・分析〉〈まとめ・表現〉
- ※追究課題の設定例
- ・「米の魅力、よさを探求する課題」・「お米の消費量を増やす策を探求する課題」・「米粉の特徴を上手く生かした料理に挑戦したり探究したりする課題」・「これからの日本のお米の生産や消費について、政策やいろいろな立場の人の考えを調べ整理し、自分なりの考えを探究する課題」

4 本時のねらい

米粉、小麦粉を使った調理や食味比べ、米粉開発にかかわる人の話を通して、米粉の特徴をとらえ、米粉の特徴をうまく生かした使い方をしていこうと考えることができる。
米にかかわる様々な問題や米粉の可能性などに興味・関心を高めることができる。

5 本時の展開例(180分=4時間)

学習活動	教師(T)・指導者(I)・子ども(C)・専門家(P)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ(5分)	T:学習課題を確認し、インストラクターを紹介する I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって、安心、安全に活動に臨めるようにする。	・視聴覚情報を用いて説明し、どの子どもにも理解できるようにする。
②持参したお米を米粉にする(60分)	I:食品加工センターの米粉製造器について、持参米を製粉しながら説明する。さらに、石臼やすり鉢、ミルによる製粉の仕方を説明する。 C:ミルでも細くなるけど、機械ほどではない。	・粉を細かくする技術の向上と商品開発が進んだことが関連付けられるような一覧表を示す。
③米粉、小麦粉を使った調理、食味比べを行う(70分)	I:米粉、小麦粉を使った調理の手順、注意事項を説明する。(ホットケーキ、だんご) T:観点に基づき、調理の段階、食味の段階で米粉と小麦粉を比べることを確認する。 C:米粉の方が、だまになりにくい。 C:小麦粉のケーキの方がふんわり感がある。 C:米粉のケーキは外がパリパリで中がもちもち。 小麦粉のホットケーキとは違う。 C:米粉のだんごの方がもちもちしておいしいね。	・米粉、小麦粉のそれぞれの特徴の出やすい調理を児童の実態に応じて決める。 ⑩児童の実態に応じて揚げ物については、インストラクターや教師等が揚げる。
④米粉開発にかかわる専門家の人の話を聞き、米粉のよさをまとめる(35分)	T:体験をもとに、観点に沿って整理する。 I:米粉開発にかかわる専門家を紹介する。 P:米粉の開発理由を話す。米粉の特徴について、調理等での児童の感想に基づき話す。 C:米粉の方が吸水しやすいからだまになりにくかったのか。 C:米粉はデンプンが熱と水で粘りがでるのか。 C:米粉の特徴を生かした料理をするといいね。 C:米粉もいいけど、米そのもののよさを考えて伝えることも大事じゃないかな。	・米粉、小麦粉のそれぞれの特徴が対比的に分かるように観点ごとに整理しながら一覧表にまとめる。 ・専門家の人の一方的な話にならないように、教師は子どもの調理や食味のときの気付きをうまく引きだし、関連させて考えられるようにする。
⑤まとめと振り返りをする(10分)	T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターや専門家の人にお礼を述べる。	

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
学習方法(収集・分析)	・調理や食味などの体験したことについて、観点に基づいて、気付いたことや分かったことを整理している。	行動観察 学習カード
自分自身(自己理解)	・米を米粉にして消費することの意味や米粉の特徴を生かした調理のあり方について考えを深めることができる。	行動観察 学習カード
他者や社会とのかわり(協同)	・他の児童と協力して、調理したり学習したことを整理したりしている。	行動観察 学習カード

②④ そうだったの！牛乳に秘められた命の恵み！

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

- ・実施期間 通年
- ・1班最大人数 30人
- ・費用 70円/人

が 魂 自分が育てる（見学調査する・採取する・収穫する） ➡

牛乳には、どんな秘密があるのだろうか。

①牛乳クイズ、畜産農家の話

乳牛ならオスもメスもお乳を出すんじゃないのかな？

・みなさんは、子牛が飲むお乳を分けてもらっているんですよ。そのために、乳牛は…。

子牛さんから分けてもらっていたなんて…。
※お乳が出なくなると…。

②搾乳体験・子牛とのふれあい

・搾乳練習機でやったときと違って、あたたかいし、やわらかいな。
・やさしく搾るね。みんなでしぼって、どれくらいの量になるかな。

自分が消費する（飲食する）

ふれあい

③牛乳の試飲、酪農農家の話

骨を作るのに確か…？

私は、牛乳クイズ上級編に挑戦しよう！

・子牛のギウちゃん、お乳を分けてくれてありがとう。
・バイバイ。たくさん飲んで大きくなってね。
・私もしっかり飲んで大きくなるね。

みんなが搾ってくれたお乳だよ。

いつもより、おいしく感じるな。しぼった後、どうなるかを、調べるんだ。

しぼった乳は、冷却保管して、あとから、ローリー車が集めに来て…。

学習指導要領上の位置付け

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校全学年：特別活動〔学級活動〕

・子牛が飲む乳を人間が分けてもらっていること、1年中、牛乳を得るために乳牛は、子牛を産むように人間によって管理されていること等から、牛の生命の営み（自然）の中から、牛乳という恩恵を得ていることを実感を伴って知り、感謝の気持ちをもつことに結び付けていきます。また、製品になるまでの過程、牛乳の栄養等を知ること、給食に携わる人への感謝や自分の食習慣への関心を高めていくことにも結び付けていきます。

* 特別活動〔学級活動〕共通事項(2)「日常の生活や学習への適応及び健康安全」キ「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」

搾乳体験、子牛とのふれあい体験の学びの可能性

○地形や気候などの自然条件とのかかわり、働く人の仕事の進め方、生産物の販売などの工夫を中心に学習を構成していくならば…

* 小学校3・4年社会の内容(2)「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」

○消費者の需要にこたえ、新鮮で良質な物を生産し出荷するための様々な努力や工夫、自然環境や社会的条件を生かした生産を高める工夫を中心に学習活動を構成していくならば…

* 小学校5年社会の内容(2)「我が国の農業や水産業（食料生産）の様子と国民生活との関連」

○搾乳や子牛とのふれあいで感じた気持ちを、表現する活動として、国語や図画工作の時間につなげていくこともできます。

実践例 「そうだったの！牛乳に秘められた命の恵み！」

1 関連する単元名 小学校全学年 特別活動〔学級活動〕
「そうだったの！牛乳に秘められた命の恵み！」（5時間）

2 関連する単元の目標

- ・アグリパークで、牛乳の生産にかかわる農家の人の話を聞いたり、搾乳や子牛とふれあったりする活動を通して、自然への恩恵、生産にかかわる人たちへの感謝の気持ちをもつとともに、給食などの自分の食習慣をよりよくしていくことができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 牛乳についての調べ学習（5時間）

- ・毎日食べている給食について、発達段階に応じて食育の観点から考えさせる。
- ・牛乳については、共通の課題として位置づけ、知りたいこと調べたいことを明確にして、アグリパークでの調べ学習、体験学習に臨めるようにする。

※遠足として位置付けて行う場合には、活動グループを決めたり、安全面の確認をしたりする。

学習課題例

牛乳には、どんな秘密があるのだろうか。

アグリパークでの体験学習 <3時間>

- ①牛乳に関する4択クイズ → ②搾乳体験 → ③牛乳をいただく → ④子どもたちが搾乳した牛乳に関する自然の恩恵に関する農家の人の話
- 牛乳の栄養、製造過程のクイズ
- 牛乳を飲む子牛の様子をみる

まとめのメモ例

「牛乳は、母牛が、子牛にあげるべき大切なお乳。」
「乳牛や牛乳に関する仕事をする人は、いろいろな工夫をして牛乳を作っている。」
「子牛を育てる牛乳には自分たちの体のためにも大切な栄養がたくさんある。」

- ・体験したことや農家の人の話、自分でその場で調べたことを基に、学習シートや振り返り作文などの表現活動によって、学んだことを食育の観点で明確にさせる。

- ・給食をはじめ、望ましい食習慣に向けて、今後、生活の中で実践する自分なりの目標を考えさせたり、実現に向けて話し合ったりさせる場をもつ。

4 本時のねらい

牛乳に関する自然の恩恵、様々な人のおかげで新鮮で安全な牛乳が給食に出ること、牛乳の栄養のことを知り、感謝の気持ちで牛乳をいただいたり、自分の体に良い食について考えたりすることができる。

5 本時の展開例（135分＝3時間）

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C) 専門家 (P)	指導上の留意点
①今日の学習課題をつかむ (15分)	T:学習課題を確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって安全・安心に活動に臨めるようにする。	・視覚情報を用いて説明し、どの子どもにも理解できるようにする。
②牛乳に関する4択クイズ、牛乳に関する自然の恩恵に関する話を聞く (20分) (畜舎学習室)	I:「私たちが飲んでいる牛乳は()が()のために出している」という文を提示し、()の言葉を考えさせる。 C:最初は「牛」次は「私たち」かな？ I:お乳を出してくれる牛は？①すべての牛②オスの牛③メスの牛④お母さんの牛 C:メスの牛かな、お母さんの牛かな？ C:ということは、赤ちゃんのために出しているのかな P:子牛に飲ませるための乳を人間が分けてもらっていること、1年中牛乳を得るために、乳牛は子牛を産むように人間によって管理されていることを子どもに話す。 I:一頭の牛さんから、1日にお乳はどれくらいとれるでしょうか。①みんなが飲む牛乳パック約10人分②約100人分③約1000人分？ C:100人分くらいかな？	④畜舎内では、大きな声を出さないことを確認する。 ・給食で飲んでいる牛乳と関連づけながら発達段階に応じたクイズを行い、牛や搾乳への関心を高める。 ※牛の生命の営み（自然）のなかから牛乳という恩恵を得ていることを実感をとまなわらせるように、酪農家から、発達段階に応じた内容で語ってもらう。 ・事前にこれから実際に絞る量と比べるよう促す。
③一人一人搾乳体験をする。子牛とふれあう (70分) (畜舎)	〈活動1〉搾乳のイメージをつかむ I:搾乳までの諸注意、手の消毒、しぼり方を練習させながら説明。 C:握り方はこうするのか。上手くお乳が出るかな。 〈活動2〉搾乳をする I:子どもの脇につき、注意や補助をする。 C:おっぱいは、温かいなあ。 C:ジューって出てきたよ。飲んでみたいなあ。 〈活動3〉子牛とふれあう。 C:かわいいなあ。お乳を分けてくれてありがとう。 〈その他活動例〉 ・機械による搾乳を見る ・牛の体しらべ、畜舎の道具、牛乳ができるまで等のクイズに取り組む	・自分が何搾乳できたか、みんなで合計どれだけ搾乳できたか分かるようにし、絞ったお乳を大切に扱う気持ちと結びつくようにする。 ・搾乳の本体験まで時間差が生じることから、関連するクイズを用意する。 ・発達段階に応じて、機械搾乳の様子を見せたり、牛乳ができるまでの課程や生産者の工夫がわかる資料を用意する。
④牛の飼育の仕方や牛乳の栄養、製造過程等について質問する。牛乳をいただく。乳を飲む子牛をみる。 (30分) (畜舎・学習室)	I:牛や牛乳に関する質問を受け答える。 C:しぼられたお乳は、どうなっていくのかな。 C:牛乳は体にどんないいことがあるのかな。 C:上級クイズに挑戦して、牛乳博士になるぞ。骨にいいって聞いたことあるな。あってるかな？ C:何か、今日の牛乳はおいしい感じがするね。 C:牛さんお乳を分けてくれて、ありがとう。これからは大切に飲むよ。 T:学習をまとめ、まとめメモを書かせ、インストラクターへお礼を述べる。	⑤試飲前に手洗いを徹底させる。 ・今日の学習を振り返り、母牛への感謝の言葉を子どもから引き出し、感謝の気持ちで牛乳が飲めるようにする。 ・子どもたちが絞った乳を子牛が飲む様子を見られるようにする。

6 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・乳牛や牛乳に関する仕事する人への感謝の気持ちをもつ。 ・栄養の視点から自分の食生活について考えようとする。	行動観察 振り返り作文
集団の一員としての思考・判断・実践	・牛乳のもつ栄養から、食品や食生活のことを考えることができる。	振り返り作文
集団活動や生活についての知識・理解	・牛乳に関する自然の恩恵のことが分かる。 ・牛乳の製品になるまでの課程や栄養についてが分かる。	行動観察 振り返り作文

②5 小学校アグリパーク・ツアーズ～日帰り編

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

～

・実施期間	通年
・費用	1メニュー 無料～440円/人

が
魂

自分が育てる（植える・世話する・採取する・収穫する・見学調査する）

ルールを守り、友達と協力してアグリパーク・ツアーズをやりとげよう。

体
験
活
動

①アグリ探検



新潟市は農業がさかんな地域
だったんだね。

②搾乳と試飲・世話

搾乳 →



牛乳の試飲（昼食時） →

家畜の世話



学
習
指
導
要
領
上
の
位
置
付
け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校全学年：特別活動〔学校行事〕

- ・新潟の農業に触れる体験を通して、見聞を広げて学校の学習活動を充実発展させたり、集団活動のあり方について学んだりすることができます。
- ・実際に農業体験を行ったり、農業に従事する人々と接したりすることにより、子どもたちに勤労の尊さと生産の喜びを体得させることができます。
- ・特別活動の内容〔学校行事〕（4）遠足・集団宿泊的行事
- ・特別活動の内容〔学校行事〕（5）勤労生産・奉仕的行事

自分が消費する（加工する・調理する・飲食する・見学調査する・作品にする）

*活動内容は、人数により様々な活動を組み合わせることができます。ここに示したのは一例です。

搾乳体験、家畜の世話の学びの可能性

- 上記のすべての活動を、社会の農業単元において知識の実感的理解という視点で学習活動を構成していくならば…
 小学校3・4年社会の内容（2）「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」
 小学校5年社会の内容（2）「我が国の農業や水産業（食料生産）の様子と国民生活との関連」
- 家畜の世話活動を、動物の呼吸・消化・循環などの働きを中心に構成していくならば…
 小学校6年理科の内容B「人の体のつくりと働き」
- ※そのほか、すべての活動をPTA行事、町内行事でそのまま活用できます。

実践例 「小学校アグリパーク・ツアーズ（日帰り編）」

- 1 関連する単元名 小学校全学年 特別活動〔学校行事〕
「アグリパーク・ツアーズ（日帰り編）」（7時間）

2 関連する単元の目標

- ・アグリパークで新潟の農業・農産物加工・食に触れる体験等の集団活動を通して見聞を広め、農業に親しむとともに、人間関係などの集団生活のあり方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行わせる。

3 関連する単元の流れ

（1）アグリパーク・ツアーズ～日帰り編～（7時間）

体験の前に

- ・新潟市南区の自然条件や地理・歴史、及びアグリパークの施設などを調べ、アグリパークに対する期待を高める。
- ・めあてを確認する。
- ・動物に接するうえでの注意事項を確認する。
- ・健康、安全面の確認事項を知る。



学習のめあて例

ルールを守り、友達と協力してアグリパーク・ツアーズをやりとげよう。

アグリパークでの体験学習（日帰り）＜5時間＞

①午前の学習活動

「活動の例示」（次ページ参照）から学校や学年の実情及び季節に応じて適切なものを選択して、児童に最適な学習を構成する。

②午後の学習活動

「活動の例示」（次ページ参照）から学校や学年の実情及び季節に応じて適切なものを選択して、児童に最適な学習を構成する。

まとめのメモ例

「新潟市の農業がすごいのは農家の人ががんばっているからだ。」
「友達と協力して収穫したり料理したりすると気持ちいい。」



体験の後に

- ・体験したことを基に、ファシリテーションを行ったり、振り返り作文やアグリパーク新聞、図画などの表現活動を行ったりして、学んだことを明確にし、学校生活に生きるようにする。
- ・アグリパークで学んだ協力の仕方、人間関係の作り方などを、学校生活に活かすには、どうするか考え、作文に書く。

「1行メモ」を重視する「アグリパーク・ツアーズ」

「アグリパーク・ツアーズ」では、それぞれの学習の最後に必ず「1行メモ」の言語活動を位置付けています。これは、活動で感じたことや、活動をして分かったことを言語化させることにより、自らの思考の跡を振り返らせ、何を学んだかを確認させるためのものです。学校へ帰ってから作文を書かせたり報告文を書かせたりする言語活動は重要ですが、活動直後の言語活動でしか得ることができないものがあります。私たちは、そのようなみずみずしい言語活動を大切にしていきたいと考えています。

児童の実態や活動の内容、教師の意図によっては、「1行メモ」だけでなく、「2行メモ」「3行メモ」「1文メモ」というように、変更して働き掛けてください。

4 活動の例示（学校の実態に応じて、この中から活動を選び、組み合わせます。）

＜1＞【入村式・退村式】

【1】入村式—めあてを確認し、思い出に残る行事にするため準備を整える。 10分

【2】退村式—アグリパークでの生活をふり振り返り、集団生活で大切にすべきことを再確認する。 15分

＜2＞【農業体験活動の例】

*①～④の料金は学校で資料を印刷する場合は無料です。

①アグリ探検隊—全員でまとまってパークを回り、「育てる—消費する」に関するクイズに答えながら農業と人間の関係について見聞を広げる。 45分 <10円> 人数制限なし

②アグリオリエンテーリング—グループで協力してパーク内を回り、「育てる—消費する」に関するクイズで点数を競いながら農業と人の関係について見聞を広げる。 90分 <1グループ10円> 人数制限なし

③循環型農業探検隊—全員でまとまってパークを回り、「育てる→消費する→育てる→」に関するクイズに答えながら農業と人間の関係について見聞を広げる。 45分 <10円> 人数制限なし

④循環型農業オリエンテーリング—グループでパーク内を回り、「育てる→消費する→育てる→」に関するクイズで点数を競い、農業と人の関係について見聞を広げる。 90分 <1グループ10円> 人数制限なし

⑤農業道場—自分が食べているものが、耕す—畝を作る—植える—世話するなど、どのような農業技術により作られたかを体験し、見聞を広げる。 45分～90分 <0円> 80人

⑥農業活性化研究センター見学—限定プログラムなので、計画段階でアグリパークに要相談。農業活性化研究センターを見学し、農業研究について見聞を広める。 45分 <0円> 30人

⑦搾乳と試飲・世話—搾乳して試飲した後、牛のブラッシング、餌やり、畜舎清掃等を行うことにより、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。 90分 <80円> 1班最大30人

⑧牛の世話と牛乳の試飲—牛のブラッシング、餌やり、畜舎清掃等を行った後、牛乳を試飲することにより、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。 45分 <80円> 1班最大30人

⑨トウモロコシの試食と堆肥ウオッチング・家畜のエサやり—堆肥ができるまでを観察し、その原料を生産してくれる家畜にお礼のエサやりを行うことにより、持続可能な循環型農業を理解する（堆肥のお土産付き）。 90分 <30円> 1班最大30人

⑩羊や牛の見学とウインナーソーセージ作り・試食—ケーシングの材料になる腸を持つ羊や牛を見学した後、ウインナーソーセージ作りを行うことにより、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。 200分 <390円> 60人

⑪搾乳・試飲とアイスクリーム作り・試食—牛や山羊の搾乳を行った後、試飲し、アイスクリームを作り、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に作った物を食べる楽しさを感じる。 145分 <210円> 1班最大30人

⑫搾乳・試飲とバター作り・試食—牛や山羊を搾乳した後、試飲し、バターを作りを行うことにより、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。 135分 <130円> 1班最大30人

⑬昔の農家の子どもになろう（野菜の収穫と試食）—昔の農家の子どもたしたように、畑でキュウリ、トマト等すぐにかぶりつける野菜を収穫し、豪快に試食する。 45分 <10円> 120人

⑭畑の耕起と収穫・簡単調理・試食—土起こし・畝作りなどを行った後、別の畑で収穫し、簡単な調理をして試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。 145分 <90円> 80人

⑬畑の種まきと収穫・簡単調理・試食—種まきなどを行った後、別の畑で収穫し、簡単な調理をして試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。145分 <90円> 80人

⑭野菜の世話と収穫・簡単調理・試食—水やりや草取り等の農作業を行った後、別の畑で収穫し、簡単な調理をして試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。145分 <90円> 80人

⑮野菜の収穫と調理・試食—野菜の収穫を行った後、調理を行い、試食することにより、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさに気付く。100分 <90円> 80人

⑯家畜の世話とスケッチ—家畜の世話や見学をしてからスケッチをすることにより、家畜に愛着を覚え、質感豊かな絵を描く。90分 <30円> 40人

⑰野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食（初級編）—収穫した野菜などを材料に石窯ピザを作り、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。90分 <250円> 40人

⑱野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食（上級編）—薪割り→火入れ→野菜収穫→石窯ピザ作り→試食により、どのようにして農産物からおいしい食べ物に変えてきたかに気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。
* 中学以上 135分 <250円> 40人

⑲野菜の収穫とあいもん団子作り・試食—アグリリレープロジェクト等での野菜を使って、あいもん団子を作り試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した物を食べる楽しさを感じる。180分 <290円> 40人

⑳枝豆収穫と試食—枝豆を収穫し、茹でて試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。90分 <30円> 80人

㉑雪下野菜収穫と調理・試食—雪の中から野菜を掘り出し、調理して試食することにより、自然の力に気付くとともに、友達と一緒に収穫した野菜を食べる楽しさを感じる。90分 <40円> 80人

㉒トウモロコシ収穫と焼トウモロコシ作り・試食—トウモロコシを収穫し、焼いて試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した物を食べる楽しさを感じる。100分 <40円> 80人

㉓野菜の収穫と生ジュース作り・試飲—野菜の収穫を行い、それを使ってジュースを作り、試飲することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した野菜のジュースを飲む楽しさを感じる。90分 <90円> 80人

㉔芋の収穫と焼き芋・試食—芋を収穫したり、アグリリレープロジェクトの芋を使ったりして、焼きいもを作り、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した物を食べる楽しさを感じる。90分 <40円> 80人

㉕野菜の収穫と鍋料理体験・試食（冬メニュー）—収穫した野菜やアグリリレーの野菜などを使って鍋料理を作り、みんなで鍋をつついて試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した物を食べる楽しさを感じる。90分 <250円> 80人

㉖野菜の収穫とカレー作り・試食—収穫した野菜を使って、カレーライスを作り、試食することにより、友達と一緒に調理したものを食べる楽しさに気付く。135分 <440円> 80人

㉗豆の見学と豆腐作り・試食—アグリリレープロジェクトの豆を使って、豆から豆腐を作り、試食することにより、友達と一緒に食品加工した物を食べる楽しさに気付く。135分 <120円> 40人

㉘麦の見学とパン作り・試食—麦の様子を見学した後、パン作りを行い、試食することにより、友達と一緒に食品加工したものを食べる楽しさに気付く。135分 <120円> 40人

㉙イチゴ摘みとイチゴ大福作り・試食—収穫したイチゴを使ってイチゴ大福を作り、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に加工したイチゴ大福を食べる楽しさを感じる。105分 <160円> 40人

㉚かまどの話とかまど米炊き・おむすびの試食—かまどをつかってご飯をたき、おにぎりを作って、試食することにより、昔の農家の生活を知るとともに、「同じ釜の飯」を食べる連帯感を感じる。135分 <130円> 80人

㉛お餅の話と餅つき・試食<宿泊メニュー>—アグリパーク周辺の水田のもち米で兔杵と臼を使って餅をつき試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に搗いた餅を食べる楽しさを感じる。180分 <150円> 40人

㉜笹団子の話と笹団子作り・試食<宿泊メニュー>—収穫したりアグリリレープロジェクトの作物等を使ったりして笹団子を作り、試食することにより、友達と一緒に食品加工した物を食べる楽しさを感じる。180分 <350円> 40人

㉝生ごみが奇跡を起こす！—自分たちが調理で出した生ごみを、微生物の働きですばらしいものに変化させる経験を通して、循環型農業に関心をもつとともに、持続可能な社会を作る重要性に気付く。45分 <40円> 人数制限無し

㉞わら細工に挑戦<冬メニュー>—昔の農民が夜仕事に行ったわら細工に挑戦し、昔の農業が、稲→わら→わら細工製品→<使用>→堆肥→水田→稲の循環により成り立っていたことに気付く。180分 <わら代など> 20人

<3> 【+αの農業体験活動の例】

時間に応じてそれぞれのプログラムに追加するとより効果的な学習が可能になります。

①野菜を調べて新潟の農業について知ろう！—「①アグリ探検隊」のプラスαプログラム <0円>

②ミニトマトの食べ比べ—⑬～⑰のプラスαプログラム <20円>

③アグリフォイル焼き—「⑰野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食（初級編）」及び「⑱野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食（上級編）」のプラスαプログラム <20円>

④専門家のお話—すべてのプログラムについて、専門家から話をさせていただき、農業や加工の意味づけを行うことができる。30分～100分 <0円>

⑤読み聞かせ—すべてのプログラムについて、活動に関係ある本の読み聞かせを聞く。25分～75分 <0円>

<4> 【食事】

食事 a—農家レストランが提供する食事

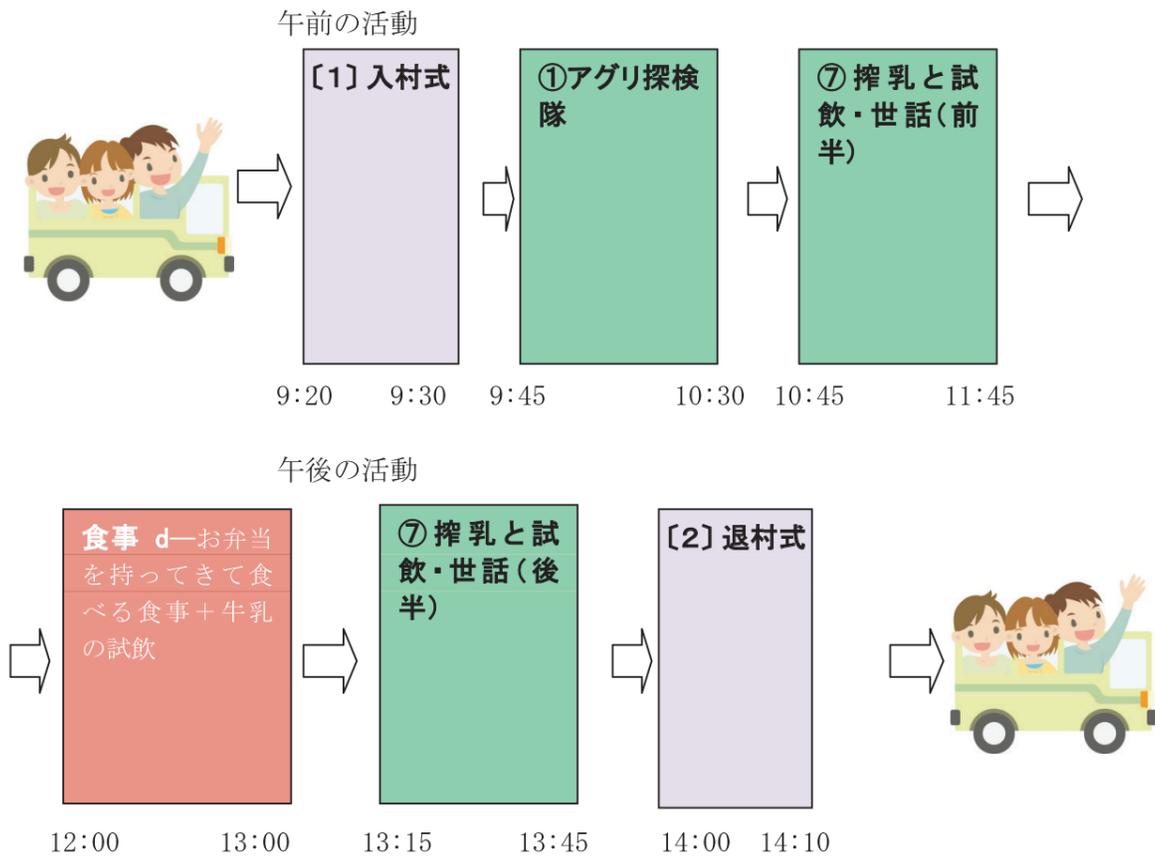
食事 b—子どもとレストランがそれぞれ調理する食事

食事 c—子どもが調理しクラブハウスや体験ハウスで食べる食事

食事 d—お弁当を持ってきて食べる食事

活動の時間はおよその目安です。実際は、人数や状況により異なりますので、打ち合わせの際に、インストラクターにご相談ください。たとえば、「40人で90分」となっている学習を70人で行いたい場合、時間を延ばして実施できるものと、時間を延ばしても実施できないものがあります。
また、プログラムの中には、野菜の生育状況等により、実施時期が変わったり、実施できなくなったりする場合がありますのでご了承下さい。

5 体験活動を選択し組み合わせた学習活動例



何だか汚そうだけど、これが肥料になるんだね。



牛さんのお乳は大きいね。だからたくさん牛乳を出してくれるんだね。



干草の中は、ほかほかだよ。牛さんもきっと気持ちいいんだね。



6 アグリパークでの日帰り体験学習の展開例

<1> 【入村式・退村式】

〔1〕 入村式

(1) 本時のねらい

入村式を通して課題やめあてを確認し、協力して思い出に残るような行事していこうとする気持ちをもつことができる。

(2) 本時の展開例 (10分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①入村式でアグリパークのめあてを確認し、期待をふくらませて自覚を強める (10分)	T: 「はじめの言葉」 園長 「アグリパーク園長のあいさつ」 ・アグリパークで児童に期待すること等を述べる。 児童代表 「児童代表の言葉」 ・アグリパークにおける集団宿泊のめあてや農業体験学習への期待等を宣言する。 T: 「終わりの言葉」	・入村式では、課題やめあて、期待などを、言葉で明確に表現させることが重要である。

〔2〕 退村式

(1) 本時のねらい

アグリパークでの活動を振り返り、新潟の農業のすばらしさなどを知るとともに、集団生活をする上で、協力することやルールを守ることが大切であることを再認識することができる。

(2) 本時の展開例 (15分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
○退村式を通してアグリパークの生活を振り返る。(15分)	T: 「はじめの言葉」 園長 「アグリパーク園長のあいさつ」 ・協力し合っていた児童、相手の立場に立っていた児童のすばらしい点をほめる。 ・次は家族で来園してほしい旨、伝える。 児童代表 (4人) 「児童代表の言葉」 ・アグリパークの感想、指導員等への感謝 T: 「終わりの言葉」 C: またアグリパークに来たいね。 C: 家族で来れるといいね。	・指導を含め、体験学習にかかわったスタッフは、できる限り退村式に参加し、人とかわる素晴らしさを実感させる。 ・児童の感想発表は、活動を振り返る上で重要である。事前に内容なるべく重複しないように、担任教員が調整する。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・アグリパークに興味をもち協力して楽しく取り組もうとしている。 ・アグリパークで経験を学校生活に生かそうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・どうしたら思い出に残る活動になるかを考えて意見を出している。 ・思い出に残る入村式・退村式にしようとして感想を述べている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・アグリパークのルール、公衆道徳について理解している。 ・アグリパークのルールを守ったかどうか言語化している。	行動観察

以下、<2>【農業体験活動の例】の指導略案については、実践例「アグリパーク・ツアーズ(宿泊学習編)」(P159~P207)をご覧ください。

②6 小学校アグリパーク・ツアーズ～宿泊編～

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

(1日目)

- ・実施期間 通年
- ・費用 1メニュー 無料～440円/人

が
魂

自分が育てる（採取する・見学調査する）

自分が消費する（飲食する）

体
験
活
動

ルールを守り、友達と協力して2日間のアグリパーク・ツアーズをやりとげよう。

*活動内容は、人数により様々な活動を組み合わせることができます。ここに示したのは一例です。

① アグリオリエンテーリング

② 搾乳と試飲・世話体験

③ アグリで肝試し

搾乳 → 牛乳の試飲

→ 家畜の世話



学
習
指
導
要
領
上
の
位
置
付
け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校4～6年：特別活動〔学校行事〕

- ・豊かな自然や農業文化に触れる体験を通して、学校の学習活動を充実発展させたり、人間関係など集団のあり方について学び、互いに協力し、思いやる態度を育てたりすることができます。
- *特別活動〔学校行事〕の内容（4）遠足・集団宿泊的行事
- ・実際に農業体験を行ったり、農業に従事する人々と接したりすることにより、子どもたちに勤労の尊さと生産の喜びを体得させることができます。
- *特別活動〔学校行事〕の内容（5）勤労生産・奉仕的行事

アグリオリエンテーリング、家畜の世話・搾乳体験、耕起・収穫体験、アグリ肝試しの学びの可能性

- 上記のすべての活動を、社会の農業単元において知識の実感的理解という視点で学習活動を構成していくなれば…
- 小学校3・4年社会の内容（2）「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」
- 小学校5年社会の内容（2）「我が国の農業や水産業（食料生産）の様子と国民生活との関連」
- 家畜の世話活動を、動物の呼吸・消化・循環などの働きを中心に構成していくなれば…
- 小学校6年理科の内容B「人の体のつくりと働き」
- ※そのほか、すべての活動をPTA行事、町内行事でそのまま活用できます。

②6アグリパーク・ツアーズ～宿泊編～

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

(2日目)

- ・実施期間 通年
- ・費用 1メニュー 無料～440円/人

自分が育てる（世話する・採取する・収穫する・見学調査する） ➡

自分が消費する（加工する・調理する・飲食する・見学調査する・作品にする）

ルールを守り、友達と協力して2日間のアグリパーク・ツアーズをやりとげよう。

*活動内容は、人数により様々な活動を組み合わせることができます。ここに示したのは一例です。

①朝飯前の活動 ②A畑の収穫と調理・試食

朝みんなで農作業すると気持ちいいね。

働くって気持ちがいいね。

収穫

②B野菜の収穫と石窯アグリピザ作り・試食

②Cトウモロコシの収穫と焼きトウモロコシ作り

調理・試食

みんなで協力して材料を集めて、調理して、みんなで食事すると、とっても美味しいね。

③生ゴミが奇跡を起こす！

野菜くずはゴミではないんだね！

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

牛の世話・搾乳、畑の収穫、調理活動、石窯ピザ作り、餅つき
体験の学びの可能性

○小学校4～6年：特別活動【学校行事】

- ・豊かな自然や農業文化に触れる体験を通して、学校の学習活動を充実発展させたり、人間関係など集団のあり方について学び、互いに協力し、思いやる態度を育てたりすることができます。
- *特別活動【学校行事】の内容（4）遠足・集団宿泊的行事
- ・実際に農業体験を行ったり、農業に従事する人々と接したりすることにより、子どもたちに勤労の尊さと生産の喜びを体得させることができます。
- *特別活動【学校行事】の内容（5）勤労生産・奉仕的行事

○牛の世話・搾乳、畑の収穫の活動を、社会の農業単元において知識の実感的理解という視点で学習活動を構成していくならば…

小学校3・4年社会の内容（2）「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」

小学校5年社会の内容（2）「我が国の農業や水産業（食料生産）の様子と国民生活との関連」

○調理活動、石窯ピザ作りを、献立作り、調理の基礎という視点から学習活動を構成していくならば…

小学校5・6年家庭B「日常の食事と調理の基礎」

※そのほか、すべての活動をPTA行事、町内行事でそのまま活用できます。

実践例 「小学校アグリパーク・ツアーズ（宿泊編）」

1 関連する単元名 小学校4～6年 特別活動〔学校行事〕
「アグリパーク・ツアーズ（宿泊編）」〈1泊2日〉

2 関連する単元の目標

- ・アグリパークで新潟の農業・農産物加工・食に触れる体験等を通して、学校における学習活動を充実発展させたり、集団活動を通して、教師と児童、児童相互の人間的な触れ合いを求めて楽しい思い出を作ったりするとともに、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いに思いやり、共に協力しあったりするなどの人間関係を築く態度を育てる。

3 関連する単元の流れと体験活動の位置付け

(1) アグリパーク・ツアーズ ～宿泊編～ (14時間)

- 体験の前に
- ・新潟市南区の自然条件や地理・歴史、及びアグリパークの施設などを調べ、アグリパークに対する期待を高める。
 - ・社会科農業学習に関連して、農業を体験する意味を考える。
 - ・集団宿泊行事のめあてを確認する。
 - ・宿泊班・オリエンテーリンググループ等、活動する班を編成し、役割を分担する。
 - ・参加する体験学習を選択し、グループ編成し、役割を決める。
 - ・健康、安全面の確認事項を徹底する。

学習のめあて例

ルールを守り、友達と協力して2日間のアグリパーク・ツアーズをやりとげよう。

アグリパークでの体験学習（1泊2日）〈12時間〉

■第1日

朝：学校集合 → バスで学校出発
午前：入村式 → 午前の活動 → 昼食
午後：午後の活動 → 入浴 → 夕食 → 夜の活動 → 就寝

■第2日

午前：朝飯前の活動 → 朝食 → 午前の活動 → 昼食
午後：午後の活動 → 退村式 → バスでアグリパーク出発 → 学校着

*各活動は次ページから選択して構成する。

まとめのメモ例

「農業体験学習も学校での生活も友達と協力することが大切。」
「自分たちで収穫し、自分たちで料理し、友達といっしょに食べるのは、気持ちいい。」

- 体験の後に
- ・体験したことを基に、ファシリテーションを行ったり、振り返り作文やアグリパーク新聞、ポスターなどの表現活動を行ったりして学んだこと明確にし、学校生活に生きるようにする。
 - ・「アグリパーク・ツアーズ」で学んだ協力の仕方、人間関係の作り方などを、学校生活に活かすには、どうするか考え、作文に書く。

「1行メモ」を重視する「アグリパーク・ツアーズ」

「アグリパーク・ツアーズ」では、それぞれの学習の最後に必ず「1行メモ」の言語活動を位置付けています。これは、活動で感じたことや、活動をして分かったことを言語化させることにより、自らの思考の跡を振り返らせ、何を学んだかを確認させるためのものです。学校へ帰ってから作文を書かせたり報告文を書かせたりする言語活動は重要ですが、活動直後の言語活動でしか得ることができないものがあります。私たちは、そのような瑞々しい言語活動を大切にしていきたいと考えています。

児童の実態や活動の内容、教師の意図によっては、「1行メモ」だけでなく、「2行メモ」「3行メモ」「1文メモ」というように、変更して働き掛けてください。

4 活動の例示（学校の実態に応じて、この中から活動を選び、組み合わせます。）

<1>【入村式・退村式】

【1】入村式～入室—めあてを確認し、思い出に残る行事にするため準備を整える。 35分

【2】退村式—アグリパークでの生活をふり返り、集団生活で大切にすべきことを再確認する。 15分

<2>【農業体験活動の例】

*①～④の料金は学校で資料を印刷した場合は無料です。

①アグリ探検隊—全員でまとまってパークを回り、「育てる—消費する」に関するクイズに答えながら農業と人間の関係について見聞を広げる。 45分 <10円> 人数制限なし

②アグリオリエンテーリング—グループで協力してパーク内を回り、「育てる—消費する」に関するクイズで点数を競いながら農業と人の関係について見聞を広げる。 90分 <1グループ10円> 人数制限なし

③循環型農業探検隊—全員でまとまってパークを回り、「育てる→消費する→育てる→」に関するクイズに答えながら農業と人間の関係について見聞を広げる。45分 <10円> 人数制限なし

④循環型農業オリエンテーリング—グループでパーク内を回り、「育てる→消費する→育てる→」に関するクイズで点数を競い、農業と人の関係について見聞を広げる。 90分 <1グループ10円> 人数制限なし

⑤農業道場—自分が食べているものが、耕す—畝を作る—植える—世話するなど、どのような農業技術により作られたかを体験し、見聞を広げる。 45分～90分 <0円> 80人

⑥農業活性化研究センター見学—限定プログラムなので、計画段階でアグリパークに要相談。農業活性化研究センターを見学し、農業研究について見聞を広める。45分 <0円> 30人

⑦搾乳と試飲・世話—搾乳して試飲した後、牛のブラッシング、餌やり、畜舎清掃等を行うことにより、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。90分 <80円> 1班最大30人

⑧牛の世話と牛乳の試飲—牛のブラッシング、餌やり、畜舎清掃等を行った後、牛乳を試飲することにより、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。 45分 <80円> 1班最大30人

⑨トウモロコシの試食と堆肥ウオッチング・家畜のエサやり—堆肥ができるまでを観察し、その原料を生産してくれる家畜にお礼のエサやりを行うことにより、持続可能な循環型農業を理解する（堆肥のお土産付き）。90分 <30円> 1班最大30人

⑩羊や牛の見学とウインナーソーセージ作り・試食—ケーシングの材料になる腸を持つ羊や牛を見学した後、ウインナーソーセージ作りを行うことにより、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。200分 <390円> 60人

⑪搾乳・試飲とアイスクリーム作り・試食—牛や山羊の搾乳を行った後、試飲し、アイスクリームを作り、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に作った物を食べる楽しさを感じる。 145分 <210円> 1班最大30人

⑫搾乳・試飲とバター作り・試食—牛や山羊を搾乳した後、試飲し、バターを作りを行うことにより、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。135分 <130円> 1班最大30人

⑬昔の農家の子どもになろう（野菜の収穫と試食）—昔の農家の子どもがしたように、畑でキュウリ、トマト等すぐにかぶりつける野菜を収穫し、豪快に試食する。45分 <10円> 120人

⑭畑の耕起と収穫・簡単調理・試食—土起こし・畝作りなどを行った後、別の畑で収穫し、簡単な調理をして試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。145分 <90円> 80人

⑮畑の種まきと収穫・簡単調理・試食—種まきなどを行った後、別の畑で収穫し、簡単な調理をして試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。145分 <90円> 80人

⑯野菜の世話と収穫・簡単調理・試食—水やりや草取り等の農作業を行った後、別の畑で収穫し、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。145分 <90円> 80人

⑰野菜の収穫と調理・試食—野菜の収穫を行った後、調理を行い、試食することにより、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさに気付く。100分 <90円> 40人

⑱家畜の世話とスケッチ—家畜の世話や見学をしてからスケッチをすることにより、家畜に愛着を覚え、質感豊かな絵を描く。90分 <30円> 40人

⑲野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食（初級編）—収穫した野菜などを材料に石窯ピザを作り、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。90分 <250円> 40人

⑳野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食（上級編）—薪割り→火入れ→野菜収穫→石窯ピザ作り→試食により、どのようにして農産物からおいしい食べ物に変えてきたかに気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。
*中学以上 135分 <250円> 40人

㉑野菜の収穫とあいもん団子作り・試食—アグリリレープロジェクト等での野菜を使って、あいもん団子を作り試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した物を食べる楽しさを感じる。180分 <290円> 40人

㉒枝豆収穫と試食—枝豆を収穫し、茹でて試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。90分 <30円> 80人

㉓雪下野菜収穫と調理・試食—雪の中から野菜を掘り出し、調理して試食することにより、自然の力に気付くとともに、友達と一緒に収穫した野菜を食べる楽しさを感じる。90分 <40円> 80人

㉔トウモロコシ収穫と焼トウモロコシ作り・試食—トウモロコシを収穫し、焼いて試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した物を食べる楽しさを感じる。100分 <40円> 80人

㉕野菜の収穫と生ジュース作り・試飲—野菜の収穫を行い、それを使ってジュースを作り、試飲することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した野菜のジュースを飲む楽しさを感じる。90分 <90円> 80人

㉖芋の収穫と焼きいも・試食—芋を収穫したり、アグリリレープロジェクトの芋を使ったりして、焼きいもを作り、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した物を食べる楽しさを感じる。90分 <40円> 80人

㉗野菜の収穫と鍋料理体験・試食（冬メニュー）—収穫した野菜やアグリリレーの野菜などを使って鍋料理を作り、みんなで鍋をつついて試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した物を食べる楽しさを感じる。90分 <250円> 80人

㉘野菜の収穫とカレー作り・試食—収穫した野菜を使って、カレーライスを作り、試食することにより、友達と一緒に調理したものを食べる楽しさに気付く。135分 <440円> 80人

㉙豆の見学と豆腐作り・試食—アグリリレープロジェクトの豆を使って、豆から豆腐を作り、試食することにより、友達と一緒に食品加工した物を食べる楽しさに気付く。135分 <120円> 40人

㊀麦の見学とパン作り・試食—麦の様子を見学した後、パン作りを行い、試食することにより、友達と一緒に食品加工したものを食べる楽しさに気付く。135分 <120円> 40人

㊁イチゴ摘みとイチゴ大福作り・試食—収穫したイチゴを使ってイチゴ大福を作り、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に加工したイチゴ大福を食べる楽しさを感じる。105分 <160円> 40人

㊂かまどの話とかまど米炊き・おむすびの試食—かまどをつかってご飯をたき、おにぎりを作って、試食することにより、昔の農家の生活を知るとともに、「同じ釜の飯」を食べる連帯感を感じる。135分 <130円> 80人

㊃お餅の話と餅つき・試食<宿泊メニュー>—アグリパーク周辺の水田のもち米で兎杵と臼を使って餅をつき試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に搗いた餅を食べる楽しさを感じる。180分 <150円> 40人

㊄笹団子の話と笹団子作り・試食<宿泊メニュー>—収穫したりアグリリレープロジェクトの作物等を使ったりして笹団子を作り、試食することにより、友達と一緒に食品加工した物を食べる楽しさを感じる。180分 <350円> 40人

㊅生ごみが奇跡を起こす！—自分たちが調理で出した生ごみを、微生物の働きですばらしいものに変化させる経験を通して、循環型農業に関心をもつとともに、持続可能な社会を作る重要性に気付く。45分 <40円> 人数制限無し

㊆わら細工に挑戦<冬メニュー>—昔の農民が夜仕事に行ったわら細工に挑戦し、昔の農業が、稲→わら→わら細工製品→<使用>→堆肥→水田→稲の循環により成り立っていたことに気付く。180分 <わら代など> 20人

<3>【+αの農業体験活動の例】

時間に応じてそれぞれのプログラムに追加するとより効果的な学習が可能になります。

①野菜を調べて新潟の農業について知ろう！—「①アグリ探検隊」のプラスαプログラム <0円>

②ミニトマトの食べ比べ—⑬～⑰のプラスαプログラム <20円>

③アグリフォイル焼き—「⑲野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食（初級編）」及び「⑳野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食（上級編）」のプラスαプログラム <20円>

④専門家のお話—すべてのプログラムについて、専門家から話をさせていただき、農業や加工の意味づけを行うことができる。30分～100分<0円>

⑤読み聞かせ—すべてのプログラムについて、活動に関係ある本の読み聞かせを聞く。25分～75分 <0円>

<4>【夜の活動の例】

①農家の夜語り—農家の方から農作業に関するお話や伝説を聞く。<0円>

②農業夜話—新潟の農業や農業の歴史について専門家の方から話を聞く。<0円>

③星空観察と農業話—星の運行と農作業についての話を聞き、星空観察をする。<0円>

④アグリで肝試し—通過儀礼として農村に伝わる肝試しを体験する。<0円>

<5>【朝飯前の活動の例】

1 家畜ブラッシング 30分<20円>

2 畜舎清掃 30分 <40円>

3 畑作物の水やり・草取り 30分<10円>

4 野菜の芽かき・葉かき 30分<10円>

<6>【食事】

食事a—農家レストランが提供する食事

食事b—子どもとレストランがそれぞれ調理する食事

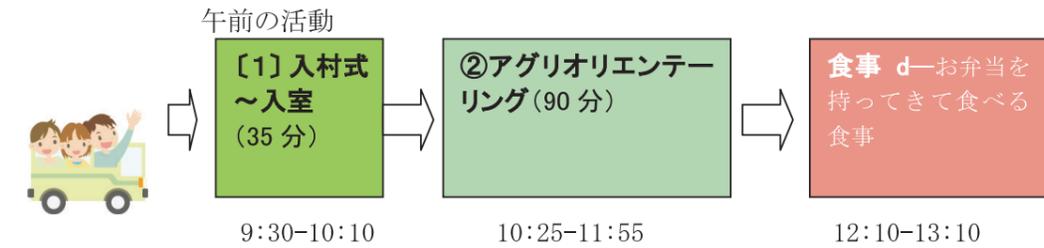
食事c—子どもが調理しクラブハウスや体験ハウスで食べる食事

食事d—お弁当を持ってきて食べる食事

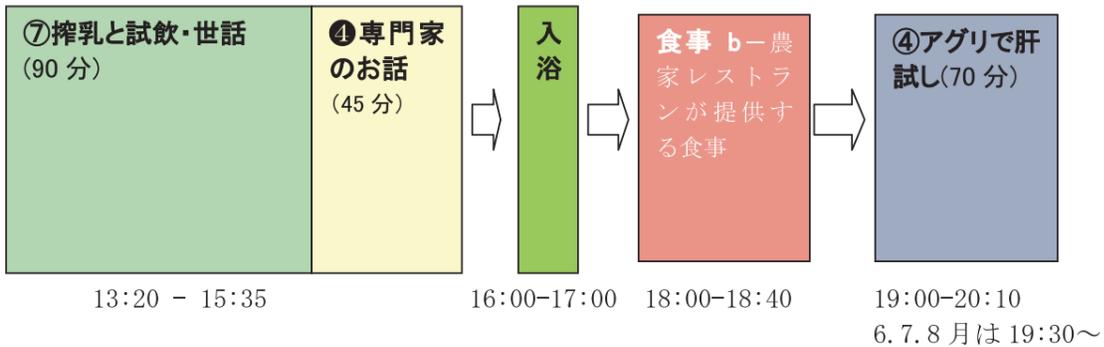
活動の時間はおよその目安です。実際は、人数や状況により異なりますので、打ち合わせの際に、インストラクターにご相談ください。たとえば、「40人で90分」となっている学習を70人で行いたい場合、時間を延ばして実施できるものと、時間を延ばしても実施できないものがあります。
また、プログラムの中には、野菜の生育状況等により、実施時期が変わったり、実施できなくなったりする場合がありますのでご了承下さい。

5 体験学習を選択し組み合わせた学習活動例

第1日

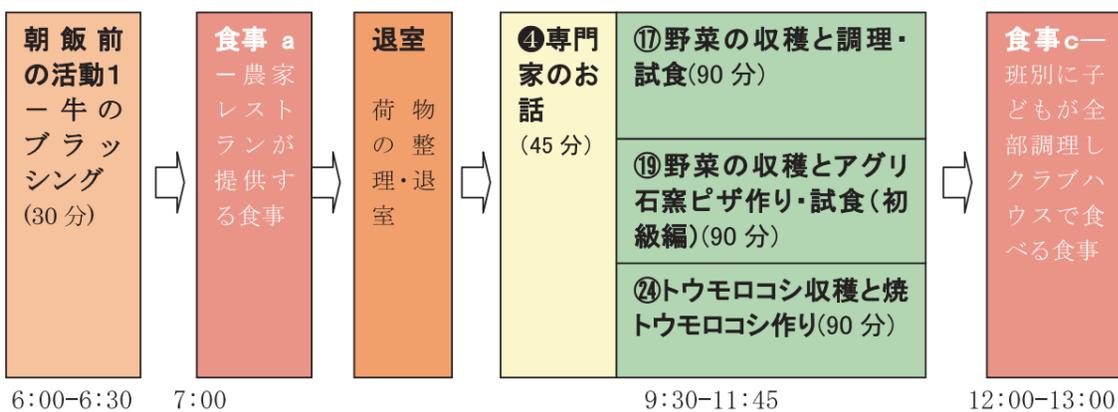


午後の活動

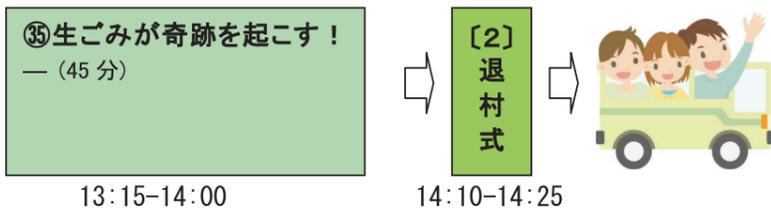


第2日

午前の活動



午後の活動



6 アグリパークでの宿泊体験学習の展開例

<1> 【入村式・退村式】

〔1〕入村式・オリエンテーション・コテージ入室

(1) 本時のねらい

入村式を通して課題やめあてを確認し、協力して思い出に残るような行事にしていこうとする気持ちを高めることができる。

(2) 本時の展開例 (35分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①入村式でアグリパークのめあてを確認し、集団宿泊学習への自覚を高める (10分)	T: 「はじめの言葉」 園長 「アグリパーク園長のあいさつ」 ・アグリパークで児童に期待すること等を述べる。 児童代表 「児童代表の言葉」 ・アグリパークにおける集団宿泊のめあてや農業体験学習への期待等を宣言する。 全員 「校歌斉唱」 ・アグリパークの動物や農作物にも聞かせるため大きな声で歌えるよう、あらかじめ学校で指導しておく。 T: 「終わりの言葉」	・入村式では、課題やめあて、期待などを、言葉で明確に表現させることが重要である。
②オリエンテーションで、アグリパークでのルール、生活の仕方、活動の仕方等を知り、どのように生活すればよいか考える (10分)	I: オリエンテーションで、ルール等を知らせる。 ・アグリパークで大切にしていること ・コテージの使い方 ・危険箇所 ・禁止事項 ・奨励事項 ・緊急事態のときの対処の仕方 ・アグリパーク内でのあいさつ など	・危険箇所等は視覚的に示し、徹底して指導する。 ・節電等のエコ活動については、その結果が目に見えるようにして、強い意識付けを行う。
③コテージに入室し、二日間の生活について、めあて・計画を確認したり、話し合ったりする (15分)	T: 集合時間を確認した後、これからのアグリパークでの活動について、グループごとにコテージで、話し合わせる。 C: なるべく電気を使わないように、協力しよう。 C: アグリのルールをもう一度確認しようよ。	・相談がある場合は、指導員がコテージ周辺を巡回しているので、声を掛けるように指示する。

(3) 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・アグリパークに興味をもち、コテージのグループで協力して楽しく取り組もうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・コテージのグループで、どうしたら思い出に残る活動になるかを考えて意見を出している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・コテージの使い方など、アグリパークのルール、公衆道德について理解している。	行動観察

〔2〕 退村式

(1) 本時のねらい

アグリパークの生活を振り返り、新潟の農業のすばらしさなどを知るとともに、集団生活をする上で、協力することやルールを守ることが大切であることを再認識することができる。

(2) 本時の展開例 (15分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①退村式を通してアグリパークの生活を振り返り、集団生活をする上で、協力することやルールを守ることの大切さ、新潟の農業のすばらしさなどを確認する (15分)	T:「はじめの言葉」 園長 「アグリパーク園長のあいさつ」 ・協力し合っていた児童、相手の立場に立っていた児童のすばらしい点をほめる。 ・協力した体験を学校生活に活かすことを考えてほしいと伝える。 ・農業に関して、今後の生活で大切にしてほしいことを伝える。 ・次は家族で来園してほしい旨、伝える。 児童代表 (4人) 「児童代表の言葉」 ・アグリパークの感想 ・アグリパークで得たもの (農業体験について) ・アグリパークで得たもの (集団活動について) ・指導員等への感謝 T:「終わりの言葉」 C:またアグリパークに来たいね。 C:家族で来れるといいね。	・指導を含め、体験学習にかかわったスタッフは、できる限り退村式に参加し、人と関わる素晴らしさを実感させる。 ・児童の感想発表は、活動を振り返る上で重要である。事前に内容なるべく重複しないように、担任教員が調整する。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・アグリパークでの生活を振り返り、協力することのすばらしさを、学校生活でも活かそうと感想を述べたり、それをうなずいて聞いていたりする。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・アグリパークでの生活を振り返り、この体験を学校へ帰ってからのように生かそうか考えている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・アグリパークでの生活を振り返り、協力したり、相手の立場になって考えたりすることが、様々な問題の解決につながることを知っている。	行動観察

<2>【農業体験活動の展開例】

①アグリ探検隊

(1) 本時のねらい

アグリパークの圃場、畜舎等の見学により見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (45分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてを確認する (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:探検についてのルールを説明し、危険な行動をとらないよう注意を与える。	・アグリパークの地図入りワークシートを配付する。
②指導員ごとのグループに分かれ、アグリパークのクイズに答えたり、指導員の説明を聞いたりしながら、アグリパークを見学する (35分)	I:圃場→農業体験ハウス→クラブハウス→体験畜舎→宿泊施設等の順に子どもを案内し、それぞれの場所でクイズを出しながら説明する。 C:いろいろな作物を作っているね。 C:野菜を洗うところがあるよ。ここで洗って出荷するんだね。 C:この牛さんが牛乳を出すんだね。お乳も大きいね。 C:羊さん、山羊さんもいるよ。 C:こんなコテージに泊まりたいな。	・クイズには、「育てる」ことに関するものと「消費する」ことに関するものを必ず入れ、「アグリ魂」の趣旨に添うよう構成する。 ・子どもが実際にアグリパークの動物や農作物を見てどんなことに疑問をもつかを想定しておく。
③アグリを探検した感想や分かったことをメモし、発表する (5分)	T:感想を1行メモさせ、発表させる。 C:人間が食べるための農作物を作る農業は広い場所を必要とするということが分かりました。 C:人が食べるものを育てる畑がきれいに手入れされていて、びっくりしました。 C:牛さんはあんなにたくさん餌を食べているから、おいしい牛乳になるのでしょうか。 T:学習をまとめ、インストラクターにお礼をいう。	・同じ感想や考えの子どもに挙手を促す。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・アグリ施設の設備の説明をメモしながら聞いている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・学年のみんなの思い出にするために、どのようなことに注意すればよいかを状況に応じて考え、実践している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・自分も友達もインストラクターの説明が聞こえるように、口を閉じて聞くことが大切であることを知っている。	行動観察

②アグリオリエンテーリング

(1) 本時のねらい

オリエンテーリングにより農業に関する見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (90分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてとルールを確認する (15分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:オリエンテーリングのルールを説明し、走らないこと、危険な行為をしないことなど注意を与える。	・アグリパークの地図入りワークシートを配付する。
②グループに分かれ、アグリパークのクイズに答えたり、指導員の説明を聞いたりしながら、オリエンテーリングを行う (55分)	I:状況に応じて、オリエンテーリングのポイントにインストラクターを配置し、質問に答えたり、スタンプを押したりする。 C:キュウリの花は何色かな？ C:私たちの食べている野菜は、こういうふう育てられているんだね。 C:牛のお乳の出っ張っているところ(乳頭)はいくつかな？ C:牛乳は、牛のおっぱいから出てくるんだね。 C:どれが、ジャガイモの花だろうか？ C:カボチャは、どのように育っているのだろうか？正解の絵はどれだろうか？	・季節ごとに、学年の発達段階にふさわしいクイズを用意しておく。 ・クイズには、「育てる」ことに関するものと「消費する」ことに関するものを必ず入れ、「アグリ魂」の趣旨に添うよう構成する。
③アグリオリエンテーリングの感想をメモし発表する (20分)	T:感想を1行メモさせ、発表させる。 C:たくさんの人々が食べるための食料を育てるのは、大切な仕事なんだね。 C:農家の人野菜を育てたり、牛を飼っていたりしてくれるから、みんなは生きていけるんだね。 T:学習をまとめ、インストラクターにお礼をいう。	・同じ感想や考えの子どもに挙手を促す。

(3) 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・実際の野菜や家畜などをよく見ながら、クイズに答えようとする。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・グループの人たちにとって、よい思い出にするために、どのようなことに注意すればよいかを状況に応じて考え、実践している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・自分も友達もインストラクターの説明が聞こえるように、口を閉じて聞くことが大切であることを知っている。	行動観察

③循環型農業探検隊

(1) 本時のねらい

循環型農業に関する圃場、畜舎等の見学により、持続可能な社会実現への取組について見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (45分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてを確認する (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:探検についてのルールを説明し、危険な行動をとらないよう注意を与える。	・アグリパークの地図入りワークシートを配付する。
②指導員ごとのグループに分かれ、循環型農業に関するクイズに答えたり、指導員の説明を聞いたりしながら、アグリパークを見学する (30分)	I:圃場→畜舎→堆肥製造場所→堆肥置き場→圃場の順に子どもを案内し、それぞれの場所で循環型農業クイズを出し、持続可能な社会実現のための取組について説明する。 C:畑で出来たものが、牛のエサになって、それが糞になって、肥料になるというのは、ぐるぐる回るようでおもしろいです。 C:野菜も糞も両方無駄にしていないね。 C:牛さんの糞から作られた肥料だから、安全なんだね。 C:こんなコテージに泊まりたいな。	・アグリパークの農業が循環型農業になっていることに気付かせ、これからの農業は、持続可能な地球を保つための産業でなければならぬことを具体的な農業の様子を見せながら説明する。 ・子どもが実際にアグリ動物や農作物を見てどんなことに疑問をもつかを想定しておく。
③アグリを探検した感想や分かったことをメモし、発表する (10分)	T:感想を1行メモさせ、発表させる。 C:野菜と牛がちゃんと結び付いて一つの農業になっているのが、すごいと思いました。 C:野菜とエサと牛と糞とで、ぐるぐる回っているの、無駄なく農業ができるんだと思いました。 C:他にも、循環型のものであれば、探してみようと思います。 T:学習をまとめ、インストラクターにお礼をいう。	・同じ感想や考えの子どもに挙手を促す。

(3) 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・アグリ施設設備の説明をメモしながら聞いている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・学年のみんなの思い出にするために、どのようなことに注意すればよいかを状況に応じて考え、実践している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・自分も友達もインストラクターの説明が聞こえるように、口を閉じて聞くことが大切であることを知っている。	行動観察

④循環型農業オリエンテーリング

(1) 本時のねらい

循環型農業に関するオリエンテーリングにより、持続可能な社会実現への取組について見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (90分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてとルールを確認する (15分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:オリエンテーリングのルールを説明し、走らないこと、危険な行為をしないことなど注意を与える。	・アグリパークの地図入りワークシートを配付する。
②グループに分かれ、循環型農業に関するクイズに答えたり、指導員の説明を聞いたりしながら、オリエンテーリングを行う (55分)	I:状況に応じて、オリエンテーリングのポイントにインストラクターを配置し、質問に答えたり、スタンプを押したりする。 C:このトウモロコシが牛のエサになって、牛の糞がトウモロコシの畑にまかれるのか？ 二つが協力しているみたいに見えます。 C:牛の糞を置いている場所がいくつもあるよ。段々、変化していつているようだよ。 C:どれが、ジャガイモの花だろうか？ C:ジャガイモにも、牛の糞が使われているのだろうか？	・アグリパークの農業が循環型農業になっていること、これからの農業は、持続可能な地球を保つための産業でなければならないことに気付くよう、オリエンテーリングの課題を決める。 ・子どもが実際にアグリパークの動物や農作物を見てどんなことに疑問をもつかを想定しておく。 ・季節ごとに、学年の発達段階にふさわしい課題を用意しておく。
③循環型農業オリエンテーリングの感想をメモし発表する (20分)	T:感想を1行メモさせ、発表させる。 C:エサと糞がぐるぐる回っていて、いろいろな農作物ができていたのだということが分かりました。 C:農家の人は、地球の環境のことまで考えて農業をしているというのが分かり、びっくりしました。 T:学習をまとめ、インストラクターにお礼をいう。	・同じ感想や考えの子どもに挙手を促す。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・実際の野菜や家畜などをよく見ながら、クイズに答えようとする。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・グループの人たちにとって、よい思い出にするために、どのようなことに注意すればよいかを状況に応じて考え、実践している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・自分も友達もインストラクターの説明が聞こえるように、口を閉じて聞くことが大切であることを知っている。	行動観察

⑤農業道場

(1) 本時のねらい

普段、自分が食べているものが、耕す一畝を作る一植える一世話するなどの農業技術により作られていることを知り、それを体験することにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (45分～90分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I) 専門家 (P)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてを確認する (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:取り上げる作物について説明し、その作物を育てる農業技術全体のうち、今日体験する農業技術はどの部分なのかについて概略を述べた後、専門家を紹介する。 *体験する農業技術は、耕す、畝を作る、植える、マルチシートを掛ける、水やりをする、除草するなどの中から学校の希望により選択する。	・実った作物の写真や、その作物を育てるための農業技術の全体を示す図を準備する。 ・このプログラムの専門家とは、アグリパークの農業従事者の方を指す。
②専門家ごとのグループに分かれ、専門家の師範を見たりや説明を聞いたりして、農業技術を体験する (30分～75分)	I:体験する農業技術が栽培全体の中で、どのような目的のために何をするのかを話した後、ポイントについて、専門家に話してもらおう。 P:子どもが体験する農業技術を示範する。 示範後、ポイント、コツを話す。 C:簡単そうだよ。私にもできそうだよ。 C:やってみると、うまくいかない。難しいよ。 C:こうするといいよ。 C:本当だ。ありがとう。	・10人1グループとして、それを越える場合は、グループ数を増やしていく。 ・体験させる農業技術の手順やコツをパネルに表し、視覚的にとらえられるようにする。 ・インストラクターと専門家が2人組みになり、インストラクターの進行で、専門家が示範したり、説明したりするというパターンでプログラムを展開する。
③農業技術を体験した感想や分かったことをメモし、発表する (10分)	T:感想を1行メモさせ、発表させる。 C:やる前は簡単そうだけど、やってみると簡単にいかないことが分かった。 C:プロの農家の人は、すごいと思った。 T:学習をまとめ、インストラクターにお礼をいう。	・同じ感想や考えの子どもに挙手を促す。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・農業技術についての説明をメモしながら聞いている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・学年のみんなの思い出にするために、どのようなことに注意すればよいかを状況に応じて考え、実践している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・インストラクターや専門家の説明が聞こえるように、口を閉じて聞くことが大切であることを知っている。	行動観察

⑥農業活性化研究センター見学（限定プログラム）

（１）本時のねらい

自分たちの食生活を支える新潟市の農業をよりすばらしいものにするため、農業活性化研究センターが研究を重ねていることを知り、見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

（２）本時の展開例（45分）

学習活動	教師 (T)・専門家 (P)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてを確認する (10分)	T:めあてを確認し、農業活性化研究センター職員 (P) を紹介する。 P:農業活性化研究センターの役割を具体的に説明した後、本日の見学ポイントについて、概要を述べる。	・農業活性化研究センターの平面図と、役割を図示した視覚的なパネル等を用いて説明する。
②農業活性化研究センターに関するクイズに答えたり、実験圃場の様子を見学したりする (25分)	P:農業活性化研究センターに関するクイズを出題したり、実験圃場を案内したりしながら、具体的にどのような研究を行い、どのように新潟の農業に役立っているか具体的に説明する。 C:農業というのは、理科や化学の実験のように面白そうだね。 C:農業は進歩していくんだね。 C:わたしたちが食べている農作物も、こうやって研究した結果、生まれたんだね。	・これからの新しい農業の形に触れ、子どもたちにとって、農業の可能性が明らかになっていくように、具体的な説明に心掛ける。 ・現在研究していることが完成すれば、現在の農業がどのように変わるのか具体的に子どもに分かるよう説明する。
③農業活性化研究センターの感想をメモし発表する (10分)	T:農業活性化研究センターの感想を1行メモさせ、発表させる。 C:新潟の農業のために作られたのが、農業活性化研究センターだということが分かりました。すごい研究をしていると思います。 C:新潟の農業がすごいのは、こういった研究のお蔭なんです。ね。 T:学習をまとめ、インストラクターにお礼をいう。	・同じ感想や考えの子どもに挙手を促す。

（３）体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・農業活性化研究センターの様子をよく見ながら、クイズに答えようとする。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・今回の見学をクラスの人たちのよい思い出にするために、どのようなことに注意すればよいかを状況に応じて考え、実践している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・自分も友達も農業活性化研究センターの研究員の説明が聞こえるように、口を閉じて聞くことが大切であることを知っている。	行動観察

※本プログラムは限定プログラムなので、農業活性化センターが受け入れ可能な場合のみ実施できます。詳しくはアグリパークにお問い合わせ下さい。

⑦搾乳と試飲・世話

（１）本時のねらい

牛の搾乳・世話・試飲を行うことにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

（２）本時の展開例（90分）

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてを確認する (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的をパネル等視覚情報により説明する。
②乳牛の話聞き、牛乳が出る仕組みを理解する (10分)	I:乳牛がどのように乳を出すのかを説明する。 子牛が飲む乳を人間がいただいているのだということを確認する。 C:子牛さん、お乳をもらって、ありがとう。	・パネル等を使って説明する。
③乳牛に優しい搾乳方法を考える (5分)	I:実際に搾乳をやって見せた後、どうすると牛さんが痛くないかを問う。 その後、搾乳方法を説明し、全員に搾乳の手つきを真似させる。 C:指で順番に搾ると、牛さんは痛くないんだね。	
④順番守って協力して搾乳体験をする (45分)	I:順番に子どもたちに搾乳をさせる。そばで子どもの搾乳補助をする。 C:指で順番に力を入れて握ると、うまくいくよ。	・先に搾乳した子どもが搾乳のコツを教えるなど、協力して搾乳ができるようにする。
⑤牛の世話をする (10分)	I:牛乳のお礼に牛の世話を呼び掛け、ブラッシングや畜舎の清掃、えさやりなどの演示を行う。	・状況に応じて、世話の活動を省略することもできる。
⑥牛乳を試飲する (10分)	I:アグリ牛乳が毎日、製乳会社に運ばれて、他の牛乳と混ぜて牛乳パックになることを知らせ、試飲を促す。	
⑦搾乳体験の感想をメモし発表する (5分)	T:感想をメモさせ、発表させる。 C:友達に教えてもらったら、うまかった。 T:学習をまとめ、インストラクターにお礼をいう。	・同じ感想や感想の子どもに挙手を促す。

（３）体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・ルールを守り、協力して農業体験をしようとしている。	行動観察 感想発表
集団の一員としての思考・判断・実践	・学年のみんなの思い出にするために、どのようなことに注意すればよいかを状況に応じて考え、実践している。	行動観察 感想発表
集団活動や生活についての知識・理解	・自分も友達もインストラクターの説明が聞こえるように、口を閉じて聞くことが大切であることを知っている。	行動観察

⑧牛の世話と牛乳の試飲

(1) 本時のねらい

牛の世話・牛乳の試飲を行うことにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (45分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてを確認する (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的を視覚情報により説明する。
②牛の世話のよりよい方法を考えたり、インストラクターから教えてもらったりする (5分)	I:ブラッシング、給餌、敷き草替えなどについて、どうすると牛さんなどにとってよいのかを問う。 C:ちょうどいい力でブラッシングするのかな。 C:餌はバランスよく混ぜるといいのかな。 C:敷き草はふかふかのほうがいいのか。 I:その後、具体的な世話活動の方法を知らせる。	・家畜への感謝の気持ちを表す行為であることを確認する。
③順番守って協力して牛が喜ぶ世話体験をする (25分)	I:子どもたちに順番に世話活動をさせる。 C:牛さんが喜んでるようだよ。 C:餌がお乳のみなもとなんだね。 C:新しい敷き草で、牛さんはうれしそうだよ。	・あらかじめ学校でグループ分けをして、世話活動をする順番を決めておく。
④牛乳を飲んだ後、牛の世話体験の感想や分かったことをメモし発表する (10分)	I:牛乳を配付する。 T:子どもが飲み終わった後、世話活動の感想を1行メモ・発表させ、学習のまとめとする。その後、インストラクターにお礼をいう。 C:牛さんのことを考えて世話をすると、牛さんも喜んでくれるよ。 C:牛さんがいつも健康でいるために、農家の人は毎日世話をしているんだね。 C:ブラッシングは牛のマッサージだね。 C:日曜日に、また家族と来たいと思います。	・同じ感想や考えの子どもに挙手を促す。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・牛への感謝を表すために、協力して農業体験をしようとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・学年のみんなの思い出にするために、どのようなことに注意すればよいかを状況に応じて考え、実践している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・自分も友達もインストラクターの説明が聞こえるように、口を閉じて聞くことが大切であることを知っている。	振り返り作文

⑨トウモロコシの試食と堆肥ウオッチング・家畜のエサやり

(1) 本時のねらい

堆肥の観察や家畜のエサやりを協力して行うことにより、見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (90分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①トウモロコシを食べる (15分)	T:インストラクターを紹介する。 I:アグリパークのトウモロコシを子どもに食べさせる。(茹でた半分のトウモロコシ)	・おいしいトウモロコシが問題意識を醸成する。
②めあてをつかむ (20分)	T:トウモロコシがおいしい秘密は、ある物体(堆肥を手で提示)のお蔭であることを知らせ、秘密の物体をよく観察したり、触ったり、匂いを嗅いだりするよう促す。 T:秘密の物体がアグリパークの中にあることを知らせ、グループで探すよう促す。	・感覚を使った観察を十分行うことで、次の活動の見通しをもたせる。なめてはいけないことを注意する。
③「秘密の物体」を探索する (45分)	I:「秘密の物体」を探しましょうと呼び掛け、5分間の作戦タイムをとり、地図で作戦を立てさせた後、グループで探索させる。 I:全グループが堆肥置き場に集まったら、堆肥置き場に行く。 I:見付けたことを褒め、地図上の堆肥置き場に○を付けさせる。さらに、「堆肥置き場からどこへ運ばれるのだろうか?」と呼び掛ける。 I:正解のトウモロコシ畑まで全員を引率する。 I:トウモロコシの畑の土に混ぜられ、トウモロコシに栄養を与えることを説明し、地図の畑の場所に○を書かせ、堆肥置き場の○と畑の○を線で結ばせる。その後、堆肥置き場に戻る。 I:秘密の物体がどこから来たのかを考えさせる。その答えである畜舎の堆肥製造場所に移動する。 I:「秘密の物体」は何からできているかを問い、ウンチから堆肥なるまでを説明する。地図上の堆肥製造所と畜舎の場所に○を付けさせ、堆肥置き場と線で結ばせる。 I:ウンチの原料はエサのトウモロコシであることを説明し、最後に地図の線が全部結ばれたことを確認する。 I:トウモロコシのエサやりを行わせ、飼料→ウンチ→堆肥→施肥→収穫のサイクルを完成させる。	④探索の際は、走らないこと、声を出さないことを約束する。 ・地図の畑・畜舎・堆肥置き場・を線で結ぶことにより、収穫→飼料→ウンチ→堆肥→施肥→収穫というサイクルを発見させるのが醍醐味である。しかし、子どもが気付かない場合は、インストラクター・教師が教えてもよい。 ・最後に、地図上の線の軌跡が自分の動いた跡であり、思考の跡であることを知らせる。
④感想をメモし発表する (10分)	T:感想を1行メモさせ、発表させる。 T:学習をまとめ、インストラクターにお礼を述べる。	

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・グループで協力して「秘密の物体」を探そうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・グループみんなが協力するためには、どのようなことに注意すればよいかを状況に応じて考え、実践している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・自分も友達も怪我をしないことが、大切なことを知っている。	行動観察

⑩羊や牛の見学とウインナーソーセージ作り・試食

(1) 本時のねらい

ウインナーソーセージ作りを協力して行うことにより、見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (200分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてを確認する (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的を視覚情報により説明する。
②畜舎で羊と牛を観察し、どの部分がソーセージになるのか考える (15分)	I:ソーセージには羊と牛のどこの部分が使われるかを問う。 C:肉? I:腸の部分が使われること、腸は非常に長いこと、牛・豚・羊の腸により、ソーセージの種類が別であることを知らせ、ウインナーソーセージ作りへの期待を盛り上げる。	・羊の腸→ウインナー=オーストリアの首都の名前から ・豚の腸→フランクフルト=ドイツの都市の名前から ・牛の腸→ボロニア=イタリアの地方の名前から
③ウインナーソーセージ作りを行う (75分)	I:ウインナーソーセージ作りの手順を演示する。 インストラクターやサポーターを適切に配置し、子どものソーセージ作りを支援する。 C:肉を出す人と腸を引く人のタイミングが悪いとうまくいかないね。 C:協力して作ったグループは、同じ太さになるね。	・あらかじめ学校でグループ分けをしておく。 ・ウインナーソーセージ作りは協力しないと、うまくいかない。どう協力するか、具体的に伝える。
④ウインナーソーセージを試食する (30分)	I:ウインナーソーセージを茹でる手順を説明し、子どもが茹でる活動を支援する。 I:茹で上がったウインナーソーセージの試食会を行う。 C:おいしい。	
⑤感想をメモし発表する (10分)	T:感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・昼食の時間につなげ、その時間も使って後片付け等を行う。

(3) 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・おいしいウインナーソーセージを作ろうと、友達と協力して食品加工体験をしようとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・グループのみんなのために、どのようなことに注意すればよいかを状況に応じて考え、実践している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・口を閉じてソーセージの作り方の説明を聞くことが、おいしいソーセージを作るために大切であることを知っている。	行動観察

⑪搾乳・試飲とアイスクリーム作り・試食

(1) 本時のねらい

アイスクリーム作りを協力して行うことにより、見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (145分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてを確認する (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的をパネル等視覚情報により説明する。
②子牛のために母牛が作った牛乳について知り、順番を守って協力して搾乳をした後、試飲する (60分)	I:クイズなどにより、牛乳は人間のためではなく、子牛のために母牛が体の中で作り、人間がそれをいただいていることを知らせ、示範した後、子どもたちに順番に搾乳をさせる。そばで子どもの搾乳補助をする。そして、試飲させる。 C:牛乳は人間のために作られていると思ってました。 C:指で順番に力を入れて握ると、うまくいくよ。 (体験ハウスに移動)	・先に搾乳した子どもが搾乳のコツを教えるなど、助け合って上手な搾乳ができるようにする。
③アイスクリームを作り、試食する (70分)	I:アイスクリーム作りの手順を演示する。 インストラクターやサポーターをテーブルに適切に配置し、子どもの活動を支援する。 I:味わって試食するよう促す。	
④搾乳・アイスクリーム作り体験の感想や分かったことをメモし発表する (10分)	T:感想をメモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・同じ感想や考えの子どもに挙手を促す。 ・昼食の時間につなげて、後片付け等を行う。

(3) 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・搾乳・アイスクリーム作りの方法などを教え合い、協力して体験活動をしようとしている。	行動観察 感想発表
集団の一員としての思考・判断・実践	・学年のみんなの思い出にするために、どのようなことに注意すればよいかを状況に応じて考え、実践している。	行動観察 感想発表
集団活動や生活についての知識・理解	・自分も友達もインストラクターの説明を聞くことがおいしいアイスクリームを作るために大切であることを知っている。	行動観察

⑫搾乳・試飲とバター作り・試食

(1) 本時のねらい

バター作りを協力して行うことにより、見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (135分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてを確認する (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的をパネル等視覚情報により説明する。
②子牛のために母牛が作った牛乳について知り、順番守って協力して搾乳をした後、試飲する (60分)	I:クイズなどにより、牛乳は人間のためではなく、子牛のために体の中で作っていて、人間がそれをいただいていることを知らせた後、示範し、子どもたちに順番に搾乳をさせる。そばで子どもの搾乳補助をする。そして、試飲させる。 C:牛乳は人間のために作られていると思ってました。 C:指で順番に力を入れて握ると、うまいくよ。	・先に搾乳した子どもが搾乳のコツを教えるなど、助け合って上手な搾乳ができるようにする。
③バター作りをする (60分)	I:バター作りの手順を演示する。 インストラクターやサポーターを適切に配置し、子どもの活動を支援する。	
④搾乳体験の感想や分かったことをメモし発表する (10分)	T:感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・食事の時間につなげ、その時間も使って後片付け等を行う。

(3) 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・搾乳・バター作りの方法などを教え合い、協力して体験活動しようとしている。	行動観察 感想発表
集団の一員としての思考・判断・実践	・学年のみんなの思い出にするために、どのようなことに注意すればよいかを状況に応じて考え、実践している。	行動観察 感想発表
集団活動や生活についての知識・理解	・自分も友達もインストラクターの説明をきちんと聞くことがおいしいバターを作るために大切であることを知っている。	行動観察

⑬昔の農家の子どもになろう (野菜の収穫と試食)

(1) 本時のねらい

野菜を収穫し、がぶりと豪快に食らいつくことを通して、昔の農家の子どもの気持ちを味わうなど見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (45分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (10分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・インストラクターは、昔の子どものような、半ズボン・ランニングシャツ・麦わら帽子のスタイルが望ましい。 ・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。 ・食べきれる大きさのものを収穫するよう確認する。
②協力して野菜を収穫し、片手を腰において、豪快に野菜にかぶりつき、昔の農家の子どもになりきる体験を行う (20分)	I:グループに分かれ、それぞれの場所でインストラクターが収穫の手本を見せた後、収穫活動を支援する。 C:ゆっくり抜くと、きれいにぬけるよ。 C:キュウリのいぼいぼが痛いから、気を付けて。 I:昔の子どもたちが自分の家の野菜収穫を手伝い、野菜を食べたことや、その頃の様子を知らせ、野菜を洗って食べるよう指示する。 C:何も付けない、生のままだけど、とてもおいしいよ。 C:昔の子どもたちは、新鮮な取れ立て野菜がおやつだったんだね。	・洗わなければならない野菜と、洗わないでもそのまま食べるのできる野菜があるので、きちんと区別してプログラムを進める。
③昔の農家の子どもになりきって、思ったこと、考えてことをメモし、発表する (15分)	T:昔の子どものように野菜を収穫し、豪快に食べてみて、どんなことを感じたか、どんなことを考えたか1行メモさせ、発表させる。発表が終わったら、インストラクターにお礼を述べる。	・同じ感想や考えの子どもに挙手を促す。 ・家へ帰ってから、おじいさんに子どものころの体験を聴くよう促す。

(3) 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・野菜の収穫など、協力して作業しようとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・学年のみんなの思い出にするために、どのようなことに注意すればよいかを状況に応じて考え、実践している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・自分も友達もインストラクターの説明が聞こえるように、口を閉じて聞くことが大切であることを知っている。	行動観察

⑭畑の耕起と収穫・試食（アグリ・リレー・プロジェクト）

（１）本時のねらい

耕起や収穫を協力して行うことにより、見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

（２）本時の展開例（145分）

学習活動	教師（T）・指導員（I）・子ども（C）	指導上の留意点
①今日のめあてをつかむ（5分）	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。 ・食べきれぬ量を収穫するよう確認する。
②協力して畑を耕す（60分）	I:グループに分かれ、それぞれの場所でインストラクターが耕起の手本を見せた後、子どもの活動を支援する。	・鍬だけがをしないよう、確実に指導を行う。
③協力して野菜を収穫する（30分）	I:グループに分かれ、それぞれの場所でインストラクターが収穫の手本を見せた後、収穫活動を支援する。 C:ゆっくり抜くと、きれいにぬけるよ。 C:キュウリのいぼいぼが痛いから、気を付けて。	・刃物を使う場合は、刃が友達に当たらない間隔を示し、互いに注意し合うように徹底する。
④協力して野菜サラダ等を作る（30分）	I:下処理後、グループごとにインストラクターが調理方法を説明し、料理活動を支援する。 ・季節の野菜を使った野菜サラダ等の簡単なもの。 C:包丁をもったままだと、危ないよ。 C:ふたを取るとき、やけどしないよう気を付けて。	・調理の手順を視覚情報を用いて説明する。 ・衛生のため、ていねいな手洗いを徹底させる。
⑤試食後、学習のまとめ・後片付けを行う（20分）+食事時間	T:「いただきます」の後、農作業は家族や地域の人々が協力をしないと良い農作物ができなかったお話を する。 T:感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・食事の時間につなげ、その時間も使って、試食・後片付け等を行うこともできる。

（３）体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・耕起の仕方、収穫の仕方、調理の仕方を教え合って、協力して作業をしようとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・出来上がり予定時刻に仕上げるために、お互いに段取りを考えながら、料理している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・それぞれが、受け持った作業をきちんと行うことが、協力であることを知っている。	行動観察

⑮畑の種まきと収穫・試食（アグリ・リレー・プロジェクト）

（１）本時のねらい

種まきや収穫を協力して行うことにより、見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

（２）本時の展開例（145分）

学習活動	教師（T）・指導員（I）・子ども（C）	指導上の留意点
①めあてをつかむ（5分）	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。 ・残量が出ず、若干不足するよう食材を用意する。
②協力して種まきをする（35分）	I:グループに分かれ、それぞれの場所でインストラクターが種まきの手本を見せた後、子どもの活動を支援する。	・鍬だけがをしないよう、確実に指導を行う。
③協力して野菜を収穫する（40分）	I:移動した後、グループに分かれ、それぞれの場所でインストラクターが収穫の手本を見せた後、収穫活動を支援する。 C:ゆっくり抜くと、きれいにぬけるよ。 C:キュウリのいぼいぼが痛いから、気を付けて。	・刃物を使う場合は、刃が友達に当たらない間隔を示し、互いに注意し合うように徹底する。
④協力して野菜サラダ等を作る（45分）	I:下処理後、グループごとにインストラクターが調理方法を説明し、料理活動を支援する。 ・季節の野菜を使った野菜サラダ等簡単なもの。 C:包丁をもったままだと、危ないよ。 C:ふたを取るとき、やけどしないよう気を付けて。	・調理の手順を視覚情報を用いて説明する。 ・衛生のため、ていねいな手洗いを徹底させる。
⑤試食し、学習のまとめ・後片付けを行う（20分）+食事時間	T:「いただきます」の後、農作業は家族や地域の人々が協力をしないと良い農作物ができなかったお話を する。 T:感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・食事の時間につなげ、その時間も使って、試食・後片付け等を行うこともできる。

（３）体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・種まきの仕方、収穫の仕方、調理の仕方を教え合って、協力して作業をしようとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・出来上がり予定時刻に仕上げるために、お互いに段取りを考えながら、料理している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・それぞれが、受け持った作業をきちんと行うことが、協力であることを知っている。	行動観察

⑩野菜の世話と収穫・調理・試食

(1) 本時のねらい

野菜の世話や収穫を協力して行うことにより、見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (145分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。 ・食べきれる量を収穫するよう確認する。
②協力して野菜の世話をする (40分)	I:グループに分かれ、それぞれの場所でインストラクターが野菜の世話の手本を見せた後、子どもの活動を支援する。	
③協力して野菜を収穫する (35分)	I:移動した後、グループに分かれ、それぞれの場所でインストラクターが収穫の手本を見せた後、収穫活動を支援する。 C:ゆっくり抜くと、きれいにぬけるよ。 C:キュウリのいぼいぼが痛いから、気を付けて。	・刃物を使う場合は、刃が友達に当たらない間隔を示し、互いに注意し合うように徹底する。
④協力して野菜サラダ等を作る (45分)	I:下処理後、グループごとにインストラクターが調理方法を説明し、料理活動を支援する。 ・季節の野菜を使った野菜サラダ等の簡単なもの。 C:包丁をもったままだと、危ないよ。 C:ふたを取るとき、やけどしないよう気をつけて。	・調理の手順を視覚情報を用いて説明する。 ・衛生のため、ていねいな手洗いを徹底させる。
⑤試食し、学習のまとめ・後片付けを行う (20分)+食事時間	T:「いただきます」の後、農作業は家族や地域の人々が協力をしないと良い農作物ができなかったお話を する。 T:感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・食事の時間につなげ、その時間も使って、試食・後片付け等を行うこともできる。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・野菜の世話の仕方、収穫の仕方、調理の仕方を教え合って、協力して作業をしようとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・出来上がり予定時刻に仕上げるために、お互いに段取りを考えながら、料理している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・それぞれが、受け持った作業をきちんと行うことが、協力であることを知っている。	行動観察

⑪野菜の収穫と調理・試食

(1) 本時のねらい

野菜の収穫と調理を協力して行うことにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (100分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。 ・食べきれる量を収穫するよう確認する。
②協力して野菜を収穫する (35分)	I:グループに分かれ、それぞれの場所でインストラクターが収穫の手本を見せた後、収穫活動を支援する。 C:ゆっくり抜くと、きれいにぬけるよ。 C:キュウリのいぼいぼが痛いから、気を付けて。	・刃物を使う場合は、刃が友達に当たらない間隔を示し、互いに注意し合うように徹底する。
③協力して調理する (45分)	I:下処理後、グループごとにインストラクターが調理方法を説明し、料理活動を支援する。 C:包丁をもったままだと、危ないよ。 C:ふたを取るとき、やけどしないよう気を付けて。	・調理の手順を視覚情報を用いて説明する。 ・衛生のため、ていねいな手洗いを徹底させる。
④試食し、学習のまとめ・後片付けを行う (15分)+食事時間	T:「いただきます」の後、農作業は家族や地域の人々が協力をしないと良い農作物ができなかったお話を する。 T:感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・食事の時間につなげ、その時間も使って試食・後片付け等を行うこともできる。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・グループで協力してみんなが食べるおいしい料理を作ろうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・出来上がり予定時刻に仕上げるために、お互いに段取りを考えながら、料理している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・それぞれが、受け持った作業をきちんと行うことが、協力であることを知っている。	行動観察

⑩家畜の世話とスケッチ

(1) 本時のねらい

家畜の世話を協力して行い、スケッチすることにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (90分 * 彩色する場合は135分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動のめあてを話させた後、危険な行為や家畜の嫌がる行為について説明し、安全を徹底する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。
②家畜の心音を聞いた後、ブラッシングなどの世話活動をする (20分)	I:大型動物の特徴を簡単に説明し、家畜の心音を聞かせる。 C:私と同じように心臓が動いているね。 I:家畜へのブラッシングを実演し、説明した後、順番に体験させる。 C:牛の舌は紫色なんだね。 C:頭をなでたら、堅かったよ。 C:羊の体はふかふかだよ。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。 ⑩動物への配慮事項や安全・衛生のための注意などを確認する。 ・ブラッシング時に、牛の手前の足で蹴り上げられる危険があるので、気を付けるよう確実に注意する。
③家畜をスケッチする (60分) (彩色する場合は105分)	T:家畜の絵を描くことができる場所について説明し、スケッチさせる。 C:羊が並んでいるところがかわいいな。 C:毛のつるつるした感じを出したいな。	⑩安全に配慮した場所でスケッチさせる。スケッチ中に気を付けることを確認しておく。
④自分の作品について感想をメモし、発表する (5分)	T:各グループ一人を指名し、自分の作品についての感想を発表させる。 C:羊のふわふわした毛をうまく表現できたので、うれしかった。 T:体験学習全体の感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	*学校で作品を仕上げた後、アグリパークで作品展を開催することを計画することも可能である。

(3) 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・自分の知っていることを友達に教えるなど、協力することを態度や言動で示している。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・どうすれば全員がいいスケッチができるか、時間や順序を考えながら、体験学習を行っている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・自分も友達もインストラクターの説明が聞こえるように、口を閉じて聞くことが大切であることを知っている。	行動観察

⑪初級編ー野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食

(1) 本時のねらい

野菜の収穫とピザ作りを協力して行うことにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (90分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:みんなで食べる石窯アグリピザを協力して作ることを確認し、手順・安全のための配慮事項などを説明する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。
②協力して野菜の収穫を行う (20分)	I:グループに分かれ、それぞれの場所でインストラクターが収穫の手本を見せた後、収穫活動を支援する。 C:ピザにのせるのは、どんな野菜がいいんだろうか。 C:きれいな彩りになるといいね。	
③協力してピザ作りを行う (45分)	I:ピザ生地の準備について実演を交えながら説明し、活動を支援する。 C:真ん中はあまり野菜をのせないようにするんだっかね。 I:温度管理や時間管理などに注意して、おいしいピザを焼く。 C:薪で窯を暖めるんだね。 C:こんなに早く焼けるんだね。	・手や手首を洗剤でよく洗ってから生地つくりに入る。 ・カッターで食べやすいよう一人前を切り分ける。
④試食し、学習のまとめ・後片付けを行う (20分)+食事時間	T:「いただきます」の後、各グループを回って、よく出来た点を褒め、協力した結果であることを言い添える。 T:感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・食事の時間につなげ、その時間も使って試食・後片付け等を行うこともできる。

(3) 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・グループで協力してみんなが食べるおいしいピザを作ろうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・時計係や温度計係、生地コネ係りなど自分の係の仕事、他の係との連携を考え、連絡調整しながらピザ作りを行っている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・おいしいピザを作りためには、それぞれが自分の役割をきちんと果たすことが大事だということを知っている。	行動観察

⑳上級編－野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食（中学以上の希望校）

（１）本時のねらい

薪割り・火入れ・野菜の収穫・ピザ作りなどを協力して行うことにより、見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

（２）本時の展開例（135分）

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:みんなで食べる石窯アグリピザを協力して作ることを確認し、手順・安全のための配慮事項などを説明する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。
②協力して石窯の準備を行う (45分) 窯の温度が上がるまでの時間を活用して野菜の収穫を行う	I:石窯の準備について実演を交えながら説明し、活動を支援する。 ・薪運び→薪割り→窯掃除→火入れ→営火→温度管理 C:薪割りに近寄ると危ないから、見ていて注意してあげるよ。	・薪割り時に周囲3メートルに立ち入らないことを徹底する。 ・薪割りは必ず指導員が一人付き添って実施する。
③協力してピザ生地づくりを行う (45分)	I:ピザ生地の準備について実演を交えながら説明し、活動を支援する。 ・米粉と小麦粉ねり→発酵→ガス抜き→形成→トッピング C:どのピザも同じ大きさ、同じ厚さにした方がいいから、よく比べて調整しようね。	・手や手首を洗剤でよく洗ってから生地づくりに入る。
④協力してピザを焼き盛り付ける (20分)	I:温度管理や時間管理などに注意して、おいしいピザを焼く手順を説明し、活動を支援する。 C:温度は私に任せてね。 C:盛り付けを工夫するとおいしそうに見えるよ。	・火傷しないように、かならずミットを着用させる。 ・カットローラーで食べやすいよう一人前を切り分ける。
⑤試食し、学習のまとめ・後片付けを行う (20分)+食事時間	T:「いただきます」の後、各グループを回って、よく出来た点を褒め、協力した結果であることを言い添える。 T:感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・食事の時間につなげ、その時間も使って試食・後片付け等を行う。

（３）体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・グループで協力してみんなが食べるおいしいピザを作ろうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・時計係や温度計係、生地コネ係り、ピザ焼き係など、自分の係の仕事を、他の係との連携を考え、連絡調整しながらピザづくりを行っている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・おいしいピザを作りためには、時間管理グループや温度管理グループなどが、きちんと役割を果たすことが大事だということを知っている。	行動観察

㉑野菜の収穫とあいもん団子作り・試食

（１）本時のねらい

野菜の収穫やあいもん団子作りを協力して行うことにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

（２）本時の展開例（180分）

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:あいもんだんごの材料等や活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。 ・食べきれぬ量を収穫するよう確認する。
②協力して野菜を収穫する (35分)	I:グループに分かれ、それぞれの場所でインストラクターが収穫の手本を見せた後、収穫活動を支援する。 C:どれがおいしそうかな。 C:ゆっくり抜くと、きれいにぬけるよ。	・刃物を使う場合は、刃が友達に当たらない間隔を示し、互いに注意し合うように徹底する。
③協力してあいもん団子を作る (120分)	I:下処理後、グループごとにインストラクターが調理方法を説明し、料理活動を支援する。 C:包丁をもったままだと、危ないよ。 C:ふたを取るとき、やけどしないよう気を付けて。	・調理の手順を視覚情報を用いて説明する。 ・衛生のため、ていねいな手洗いを徹底させる。
④あいもん団子を食べ、学習のまとめ・後片付けを行う (20分)+食事時間	T:「いただきます」の後、郷土食のあいもんだんごについてお話をする。 T:感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・昼食の時間につなげ、その時間も使って後片付け等を行う。

（３）体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・収穫の仕方、調理の仕方を教え合って、協力して作業をしようとしている	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・出来上がり予定時刻に仕上げるために、お互いに段取りを考えながら、料理している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・それぞれが、受け持った作業をきちんと行うことが、協力であることを知っている。	行動観察

②枝豆収穫と試食

(1) 本時のねらい

枝豆の収穫と調理を協力して行うことにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (90分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。
②協力して枝豆を収穫する (30分)	I:グループに分かれ、それぞれの場所でインストラクターが収穫の手本を見せた後、収穫活動を支援する。 C:ゆっくり抜くと、きれいにぬけるよ。 C:無理すると後ろに倒れるから気を付けてね。	・食べ切れる量を収穫するよう確認する。
③協力して枝豆をゆでる (45分)	I:下処理後、グループごとにインストラクターが調理方法を説明し、料理活動を支援する。 C:塩はいつ入れるのかな。 C:吹きこぼれるとやけどするから気を付けて。	・グループで協力しながら豆をもぐよう呼びかける。 ・衛生のため、ていねいな手洗いを徹底させる。
④試食した後、感想をメモし、発表する (10分)+食事時間	T:「いただきます」の後、農作業は家族や地域の人々が協力をしないと良い農作物ができないというお話をする。 T:感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・グループで協力して枝豆を収穫して調理しようとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・収穫時に危なくないよう、周りの友達に気を配って農作業をしている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・おいしい、できたての枝豆を食べるためには、それぞれがきちんと役割を果たすことが大事だということを知っている。	行動観察

③雪下野菜収穫と調理・試食

(1) 本時のねらい

雪下野菜の収穫と調理を協力して行うことにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (90分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。 ・食べきれぬ量を収穫するよう確認する。
②協力して雪下野菜を収穫する (20分)	I:グループに分かれ、それぞれの場所でインストラクターが収穫の手本を見せた後、収穫活動を支援する。 C:ゆっくり抜くと、きれいにぬけるよ。	・刃物を使う場合は、刃が友達に当たらない間隔を示し、互いに注意し合うように徹底する。
③協力して雪下野菜を使った料理を作る (45分)	I:下処理後、グループごとにインストラクターが調理方法を説明し、料理活動を支援する。 C:包丁をもったままだと、危ないよ。 C:ふたを取るとき、やけどしないよう気を付けて。	・調理の手順を視覚情報を用いて説明する。 ・衛生のため、ていねいな手洗いを徹底させる。
④試食し、学習のまとめ・後片付けを行う (20分)+食事時間	T:「いただきます」の後、雪下野菜は農家の人が野菜をおいしく食べる工夫であることを話す。 T:感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・食事の時間につなげ、その時間も使って試食・後片付け等を行うこともできる。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・グループで協力してみんなで雪下野菜を収穫し、料理を作ろうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・自分の係の仕事と他の係との連携を考え、連絡調整しながら調理を行っている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・おいしい料理作りのためには、それぞれがきちんと役割を果たすことが大事だということを知っている。	行動観察

㉔ トウモロコシ収穫と焼トウモロコシ作り

(1) 本時のねらい

トウモロコシの収穫と焼きトウモロコシ作りを協力して行うことにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (100分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。 ・食べきれぬ量を収穫するよう確認する。
②協力してトウモロコシを収穫する (30分)	I:グループに分かれ、それぞれの場所でインストラクターが収穫の手本を見せた後、収穫活動を支援する。 C:簡単にとれるね。	・刃物を使う場合は、刃が友達に当たらない間隔を示し、互いに注意し合うように徹底する。
③協力して焼きトウモロコシを作る (45分)	I:下処理後、グループごとにインストラクターが調理方法を説明し、料理活動を支援する。 C:火を使うときは、よく見ていないと危ないよ。 C:やけどしないよう気を付けて。	・調理の手順を視覚情報を用いて説明する。 ・衛生のため、ていねいな手洗いを徹底させる。
④試食し、学習のまとめ、後片付けを行う (20分)+食事時間	T:「いただきます」の後、各グループを回って、よく出来た点を褒め、協力した結果であることを言い添える。 T:感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・食事の時間につなげ、その時間も使って試食・後片付け等を行うこともできる。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・グループで協力してみんなが雪下野菜を収穫し、料理を作ろうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・自分の係の仕事と他の係との連携を考え、連絡調整しながら調理を行っている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・おいしい料理作りのためには、それぞれがきちんと役割を果たすことが大事だということを知っている。	行動観察

㉕ 野菜の収穫と生ジュース作り・試飲

(1) 本時のねらい

野菜の収穫や生ジュース作りを協力して行うことにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (90分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。
②協力して野菜を収穫する (30分)	I:グループに分かれ、それぞれの場所でインストラクターが収穫の手本を見せた後、収穫活動を支援する。 C:実を持って、ひねると、きれいにぬけるよ。	・食べ切れる量を収穫するよう確認する。 ・刃物を使う場合は、刃が友達に当たらない間隔を示し、互いに注意し合うように徹底する。
③協力して生ジュースを作る (45分)	I:下処理後、グループごとにインストラクターが調理方法を説明し、料理活動を支援する。 C:細かくしてジューサーに入れるとうまくできるよ。	・調理の手順を視覚情報を用いて説明する。 ・衛生のため、ていねいな手洗いを徹底させる。
④試食し、学習のまとめ・後片付けを行う (10分)+食事時間	T:「いただきます」の後、農作業は家族や地域の人々が協力をしないと良い農作物ができないというお話をします。 T:感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・グループで協力してみんながおいしいジュースを作ろうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・自分の係の仕事をきちんと行いながらジュースづくりを行っている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・おいしいジュース作りのためには、お互いがきちんと役割を果たすことが大事だということを知っている。	行動観察

②6芋の収穫と焼きいも・試食

(1) 本時のねらい

サツマイモの収穫と焼き芋作りを協力して行うことにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (90分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①今日のめあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。 ・食べきれる量を収穫するよう確認する。
②協力してサツマイモを収穫する (30分)	I:グループに分かれ、それぞれの場所でインストラクターが収穫の手本を見せた後、収穫活動を支援する。 C:簡単にとれるね。	・刃物を使う場合は、刃が友達に当たらない間隔を示し、互いに注意し合うように徹底する。
③協力して焼きいもを作る (40分)	I:下処理後、グループごとにインストラクターが調理方法を説明し、焼き芋作りを支援する。 C:火を使うときは、よく見ていないと危ないよ。 C:やけどしないよう気を付けて。	・調理の手順を視覚情報を用いて説明する。 ・衛生のため、ていねいな手洗いを徹底させる。
④試食し、学習のまとめ・後片付けを行う (15分)+食事時間	T:「いただきます」の後、各グループを回って、よく出来た点を褒め、協力した結果であることを言い添える。 T:感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・食事の時間につなげ、その時間も使って試食・後片付け等を行う。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・グループで協力してみんなでサツマイモを収穫し、焼き芋を作ろうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・自分の係の仕事と他の係との連携を考え、連絡調整しながら調理を行っている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・おいしい焼き芋作りのためには、それぞれがきちんと役割を果たすことが大事だということを知っている。	行動観察

②7野菜の収穫と鍋料理体験・試食

(1) 本時のねらい

野菜の収穫と鍋調理を協力して行うことにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (90分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。 ・食べきれる量を収穫するよう確認する。
②協力して野菜を収穫する (20分)	I:グループに分かれ、それぞれの場所でインストラクターが収穫の手本を見せた後、収穫活動を支援する。 C:ゆっくり抜くと、きれいにぬけるよ。	・刃物を使う場合は、刃が友達に当たらない間隔を示し、互いに注意し合うように徹底する。
③協力して野菜を使った鍋料理を作る (45分)	I:下処理後、グループごとにインストラクターが調理方法を説明し、料理活動を支援する。 C:包丁をもったままだと、危ないよ。 C:ふたを取るとき、やけどしないよう気を付けて。	・調理の手順を視覚情報を用いて説明する。 ・衛生のため、ていねいな手洗いを徹底させる。
④試食し、学習のまとめ・後片付けを行う (20分)+食事時間	T:「いただきます」の後、「同じ釜の飯を食べる」「同じ鍋をつつく」意味について話をする。 T:感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・食事の時間につなげ、その時間も使って試食・後片付け等を行う。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・グループで協力してみんなで野菜を収穫し、鍋料理を作ろうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・自分の係の仕事と他の係との連携を考え、連絡調整しながら調理を行っている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・おいしい料理作りのためには、それぞれがきちんと役割を果たすことが大事だということを知っている。 ・一緒に鍋をつつく経験が人と人を仲良くすることを知っている。	行動観察

㊸野菜の収穫とカレー作り・試食

(1) 本時のねらい

野菜の収穫とカレー作りを協力して行うことにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (135分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。 ・食べきれぬ量を収穫するよう確認する。
②協力して野菜を収穫する (30分)	I:グループに分かれ、それぞれの場所でインストラクターが収穫の手本を見せた後、収穫活動を支援する。 C:ゆっくり抜くと、きれいにぬけるよ。	・刃物を使う場合は、刃が友達に当たらない間隔を示し、互いに注意し合うように徹底する。
③協力して野菜を使ったカレー作る (80分)	I:下処理後、グループごとにインストラクターが調理方法を説明し、料理活動を支援する。 C:包丁をもったままだと、危ないよ。 C:ふたを取るとき、やけどしないよう気を付けて。	・調理の手順を視覚情報を用いて説明する。 ・衛生のため、ていねいな手洗いを徹底させる。
④学習のまとめ・後片付けを行う (20分)+食事時間	T:「いただきます」の後、「同じ釜の飯を食べる」意味について話をする。 T:感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・食事の時間につなげ、その時間も使って試食・後片付け等を行う。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・グループで協力してみんなで野菜を収穫し、カレーを作ろうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・自分の係の仕事と他の係との連携を考え、連絡調整しながら調理を行っている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・おいしい料理作りのためには、それぞれがきちんと役割を果たすことが大事だということを知っている。	行動観察

㊹豆の見学と豆腐作り・試食

(1) 本時のねらい

大豆畑見学や豆腐作りを協力して行うことにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (135分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。
②大豆畑の見学を行う (15分)	I:畑で大豆が植わっている様子を見せ、豆腐の原料であることを話す。 *大豆が植えられていない時期や荒天時に限り、グループごとに大豆を配り説明する。	・実際に大豆が植わっている様子を見せてから豆腐作りに入る事が極めて重要である。
③協力して豆腐作りを行う (95分)	I:下処理後、グループごとにインストラクターが調理方法を説明し、料理活動を支援する。 C:豆腐ってこういうふうにするのか。 C:だんだん固まってくね。	・調理の手順を視覚情報を用いて説明する。 ・衛生のため、ていねいな手洗いを徹底させる。
④試食し、学習のまとめ・後片付けを行う (20分)+食事時間	I:「いただきます」の後、各グループを回って、よく出来た点を褒め、協力した結果であることを言い添える。 T:感想をメモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・食事の時間につなげ、その時間も使って試食・後片付け等を行うこともできる。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・グループで協力してみんなで豆腐を作ろうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・自分の係の仕事と他の係との連携を考え、連絡調整しながら調理を行っている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・おいしい豆腐作りのためには、それぞれがきちんと役割を果たすことが大事だということを知っている。	行動観察

⑩麦の見学とパンづくり・試食

(1) 本時のねらい

麦畑見学やパン作りを協力して行うことにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (135分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。
②小麦畑の見学を行う (15分)	I:畑に麦が植わっている様子を見せ、豆腐の原料であることを話す。 *麦が植えられていない時期や荒天時に限り、グループごとに麦を配り説明する。	・実際に麦が植わっている様子を見せてからパン作りに入る事が極めて重要である。
③協力してパン作りを行う (95分)	I:下処理後、グループごとにインストラクターが調理方法を説明し、料理活動を支援する。 C:パンってこういうふうにするのか。 C:柔らかいパンにするにはどうすればいいのだろう？	・調理の手順を視覚情報を用いて説明する。 ・衛生のため、ていねいな手洗いを徹底させる。
④試食し、学習のまとめ・後片付けを行う (20分)+食事の時間	T:「いただきます」の後、各グループを回って、よく出来た点を褒め、協力した結果であることを言い添える。 T:感想をメモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・食事の時間につなげ、その時間も使って試食・後片付け等を行う。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・グループで協力してみんなでパンを作ろうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・自分の係の仕事と他の係との連携を考え、連絡調整しながら調理を行っている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・おいしいパン作りのためには、それぞれがきちんと役割を果たすことが大事だということを知っている。	行動観察

⑪イチゴ摘みとイチゴ大福作り・試食

(1) 本時のねらい

イチゴの収穫とイチゴ大福作りを協力して行うことにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (105分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①今日のめあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。
②イチゴの観察と収穫を行う (40分)	I:美味しいイチゴの選択について話し、観察、イチゴの摘み取り、食味を指示する。 C:真っ赤なイチゴが美味しいんだよ。 C:ゆっくり抜くと、きれいにぬけるよ。 I:イチゴ大福作りのためのイチゴ摘みを指示する。	・食味のための摘み取り個数と、イチゴ大福作りのための摘み取り個数を、それぞれ決めてから収穫させる。数を限定することで十分な観察と食味を促す。
③イチゴ大福を作る (40分)	I:イチゴ大福作りの調理方法を説明し、料理活動を支援する。 C:作るのが簡単だから、お家でも作ってみよう。	・調理の手順を視覚情報を用いて説明する。 ・衛生のため、ていねいな手洗いを徹底させる。
④試食し、学習のまとめ・後片付けを行う (20分)+食事の時間	T:「いただきます」の後、イチゴ大福は今から約30年間に作られた新しいお菓子であること、だれも思い付かなかった大福にイチゴを入れることを考え付いた人がいたこと、中東にある国の王様も大好きであること、みんなも新しいお菓子を発明できることを話す。 T:感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・食事の時間につなげ、その時間も使って試食・後片付け等を行うこともできる。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・グループで協力してみんなでイチゴを収穫し、イチゴ大福を作ろうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・自分の係の仕事と他の係との連携を考え、連絡調整しながら調理を行っている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・おいしいお菓子作りのためには、それぞれがきちんと役割を果たすことが大事だということを知っている。	行動観察

㉔かまどの話とかまど米炊き・おむすびの試食

(1) 本時のねらい

かまど炊きやおむすび作りを協力して行うことにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (135分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (10分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:みんなで食べるおいしいおむすびを作ることを確認し、一粒一粒の米から心を込めておむすびを作ろうと呼びかける。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。
②協力して米とぎを行う (45分) *水に浸す時間を含む	I:一粒一粒の米をよく調べてゴミや欠けた米、変色した米などをよけ、良い米を準備して洗米するなど、米を蒸かすまでの手順を説明し、活動を支援する。 I:水に浸す時間を活用して、米やかまどについて話す。 ・「米」という漢字について ・昭和の初め頃まで、かまどを使って煮炊きする家が多かったこと、 ・かまどの発明が人口増加につながったこと、 ・アフリカでは日本式のかまどが「カマド・ジコ」と呼ばれ、好評である ・「おむすび」と「おにぎり」の違いなど	・衛生のため、ていねいな手洗いを徹底させる。 ・話をする際は、フリップや紙芝居などを活用する。 ・活動と活動の間に待ち時間が生じた場合は、周辺の水田見学や、専門家の話を入れて、問題意識を継続させることが考えられる。
③協力してかまど炊きをする (45分)	I:子どもが薪をくべて、適正な火力で炊くことができるよう支援する。	・やけどに注意するため互いに気を配るよう促す。
④協力しておむすびを作る (25分)	I:おむすびの作り方を演示し、活動を支援する。 C:おいしそうにおむすびを作ろう。 C:両手で作っていると「おむすび」という意味が、よくわかるような気がします。	
⑤学習のまとめをする (10分) *試食は食事の時間に行う	T:各グループを回って、よく出来た点を褒め、協力した結果であることを言い添える。 T:感想をメモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・食事の時間につなげ、その時間も使って試食・後片付け等を行う。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・一つ一つの作業をていねいに行い、みんなが食べるおいしいおむすびを作ろうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・自分の係の仕事と他の係との連携を考え、連絡調整しながら調理を行っている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・みんなが気持ちを合わせ、ていねいに作業をすれば、心のこもったおいしいおむすびができることを知っている。	行動観察

㉕お餅の話と餅つき・試食<宿泊メニュー>

(1) 本時のねらい

お餅の話を聞いたり餅つきを協力して行ったりすることにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (180分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (10分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:「餅・魂・お年玉の話」(463ページ参照)をした後、みんなが食べるおいしい餅をつくることを確認し、一粒一粒の餅米から心を込めて餅つくりを行うよう呼びかける。	・餅は農村においては特別な食べ物であったことを伝える。 「餅・魂・お年玉の話」は、461ページ参照 ・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。
②協力して餅米等の準備を行う (1日目の作業) (20分)	I:一粒一粒の米をよく調べてゴミや欠けた米、変色した米などをよけ、良い米を準備して洗米するなど、米を蒸かすまでの手順を説明し、活動を支援する。	・衛生のため、ていねいな手洗いを徹底させる。
③協力して餅米を蒸かす (90分)	I:餅米を蒸し器に入れ、蒸気の具合や時間等を説明し、活動を支援する。 C:蒸し器をおさえているから、うまく入れてね。 C:蒸し器が傾いていないか見てね。	・蒸かしあがるタイミングは、児童に任せず、指導員がきちんと見極め、児童に指示する。
④協力して餅をつき、形を整える (50分)	I:兎杵は搗く人の呼吸を合わせなければ、おいしい餅を搗くことができないことを知らせる。インストラクターが米粒つぶしを行った後、兎杵の使い方を実演し、活動を支援する。 C:掛け声をかけると、意気があうよ。 C:意気が合うと、面白いね。 I:食べやすい大きさを実際に示し、形の整え方を説明した後、活動を支援する。 C:同じ大きさにした方が、きれいに見えるよ。	・米粒つぶしは指導員が確実に行う。
⑤感想をメモし、発表する。(10分) *試食は食事の時間に行う	T:感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・食事の時間につなげ、その時間を使って試食・後片付け等を行う。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・一つ一つの作業をていねいに行い、みんなが食べるおいしいお餅を作ろうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・兎杵をつかって、どうすれば呼吸を合わせられるかを考え、掛け声を掛け合うなどして、餅を搗いている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・みんなが気持ちを合わせ、ていねいに作業をすれば、心のこもったおいしいお餅ができることを知っている。	行動観察

③④笹団子の話と笹団子作り・試食<宿泊メニュー>

(1) 本時のねらい

笹団子のお話を聞いたり笹団子作りを協力して行ったりすることにより見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (180分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (10分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:みんなが食べるおいしい笹団子を作るよう呼びかける。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。
②協力して生地作りやもち草・笹の葉・茹でを行う<1日目の作業> (55分)	I:重曹を入れてもち草・笹の葉・すげを茹でる手順を説明し、活動を支援する。 C:緑色はもち草の色なんだね。 I:生地を一晚寝かせる意味を話し、冷蔵庫に入れさせる。	・衛生のため、ていねいな手洗いを徹底させる。
③協力して笹団子作りを行う (60分)	I:こねる→ちぎる→あんを包む→笹で包みすげで結ぶ→蒸すという手順を説明し、活動を支援する。 C:結び方を教えてあげるよ。 C:同じ大きさにするのが難しいよ。	
④協力して笹団子を蒸した後、感想をメモし、発表する (55分) *試食は食事の時間に行う	I:蒸している時間で、笹団子のお話をする。 C:殺菌作用があるなんて、びっくりした。 C:戦国時代の武士に関係あるので、男の子の節句に食べたのかな。 T:感想をメモ・発表させ、学習をまとめた後、インストラクターにお礼を述べる。	・笹団子は新潟県の特産であること、笹で包む意味、戦国時代に武士が保存食として携行したといわれていること、端午の節句のときに作る特別な食べ物であったことを伝える。 ・食事の時間につなげ、その時間も使って後片付け等を行う。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・一つ一つの作業をていねいに行い、みんなが食べるおいしい笹団子を作ろうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・自分の係の仕事と他の係との連携を考え、連絡調整しながら調理を行っている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・みんなが気持ちを合わせ、ていねいに作業をすれば、心のこもったおいしい笹団子ができることを知っている。	行動観察

③⑤生ごみが奇跡を起こす!

(1) 本時のねらい

野菜くずが菌ちゃん(微生物)の働きによりゴミではなく、すばらしいものになることを意識するなど見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (45分)

学習活動	教師 (T)・専門家 (P)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、専門家を紹介する。 P:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。
②野菜くずを観察し、まだエネルギーが残っていることを知る (10分)	P:(野菜くずを見せて)この野菜は何か問う。 P:キャベツの芯やニンジンなどのヘタの部分は、新しい葉や根が出てくる生長点であることを告げる。 C:今まで捨てていたけど、もったいないことをしていたんだね。 P:野菜くずを菌ちゃんにあげようと呼びかける。	・本当に栄養のある部分を捨てていたことを知らせることにより、多くの人々が野菜のすばらしさや不思議さを理解していないことに気付かせる。
③菌ちゃんを使った土作りを行う (30分)	P:私たちがご飯を食べるときに良く噛むように、足で踏み付けたり、木槌を使ったりして、菌ちゃんが食べやすいように小さくするよう呼びかける。 P:私たちが、つばを出してご飯をたべるように、「ぼかし」を入れるよう呼びかける。 P:手で「ぼかし」と野菜を混ぜてプランターに入れるよう指示する。 C:いつ変化が起きるのかな?やっぱり時間がかかるのかなあ。 P:ブルーシートを掛けて雨が入らないようにすることを指示する。 C:水分が多いと、腐っちゃうんだね。 P:次に、みんなで「菌ちゃん体験」をさせる。菌ちゃんは30分で子どもを産むことを告げ、「菌ちゃん体験」をした感想を書かせる。 C:菌ちゃんはバイ菌ではないんだね。 T:感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、専門家にお礼を述べる。	・「菌ちゃん体験」とは、子どもを菌ちゃんに見立てて、菌ちゃんが野菜くずを食べながら土を発酵させる現象を実感させる体験活動。この体験活動によって、発酵により熱が発生することを実感させることができる。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・菌ちゃんに関心を持ち、専門家の話をしっかり聞くことができる。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・菌ちゃんにあげるために、協力して野菜くずを細かくしようとしている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・みんなが気持ちを合わせ、ていねいに作業をすれば、すばらしい土づくりができることを知っている。	行動観察

㊦わら細工に挑戦しよう！

(1) 本時のねらい

昔の農民が夜仕事に行ったわら細工に挑戦し、昔の農業が、稲→わら→わら細工製品→<使用>→堆肥→水田→稲の循環により成り立っていたことに気付くなど見聞を広めるとともに、集団生活のあり方について望ましい体験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (180分)

学習活動	教師 (T)・専門家 (P)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、専門家を紹介する。 P:活動の流れを知らせ、具体例をあげて安全に気を付けるよう指導する。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。
②わら細工製品が昔の農民の生活に欠かすことのできないものであったことを知り、農業と生活が循環していたことに気付く (15分)	P: (わら細工製品を見せて) この原料は何か問う。 P:稲のわらで作られたものであることを知らせ、次のような話をする。 ・昔は生活に必要な物の多くをわらで作っていた。 ・使用して古くなったら、それで堆肥を作り、水田に敷き込んで稲を育てた。 ・その稲のわらを使って、新しいわら細工製品を作っていた。 C:使えなくなったわら細工の製品が、肥料になって稲を育てるんだね。 C:昔もリサイクルがあったんだね。	・なるべく多くのわら細工製品を用意し、昔の人々の暮らしにとって、わら細工製品は欠かすことの出来ないものであったことに気付かせる。
③わら細工に挑戦し、製品を作る (150分)	P:わら細工の示範を行い、パネル等の視覚資料を使って作り方を説明する。 C:難しそうだ。出来るかな。 *農業サポーターやインストラクターが各グループに付き、子どもたちのわら細工作りを支援する。 C:だんだん分かってきたよ。	・挑戦させるものは、アシナカ (長さが半分のぞうり) 等比較的簡単なものがよい。 ・出来あがった子どもから、それを実際にはいて、歩かせてみる。
④作品をもとに、感想をメモし、発表する (10分)	T:作品を作った感想を1行メモ・発表させ、学習をまとめた後、専門家等にお礼を述べる。	

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・わら細工に関心を持ち、専門家の話をしっかり聞くことができる。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・作り方が分からない友達のために、実際に作って見せてあげるなど、みんなが完成できるように実践している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・みんながよい作品を作り上げることが、クラスにとってよいことであることを知っている。	行動観察

<3>【+αの農業体験活動の展開例】

① 野菜を調べて新潟の農業について知ろう！ (①アグリパーク探検隊」の+αプログラム)

(1) 本時のねらい

ルールを守ってアグリパークの圃場を見学し、栽培されている野菜の種類の高さを理解するとともに、集団行動のあり方について望ましい経験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (90分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (10分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:野菜調べのルールを説明し、危険な行動をとらないように注意を与える。	・アグリパークの地図入りワークシートを用意する。
②アグリパークを見学しながら、どのような作物がどれだけ栽培されているか調査する (60分)	C:地図を見ながら園内を探検し、野菜の種類と名前を記録していく。 C:同じ枝豆だけど、こんなに名前がたくさんあるよ。似た形だけど、味は違うのかな。 C:トマトもいろんな形や大きさがあって、それぞれ名前がついているね。これ知ってる。 C:メロンが空中に浮いているよ。こんな栽培の方法もあるんだね。 I:圃場の要所に立って新潟で栽培されている野菜の特徴的な事柄について説明する。	・種類と品種、特徴をメモする欄を設け、重複したカウントにならないようにする。 ・説明を聞き、しっかりメモをとれたグループに敢闘賞を授与する。
③野菜調べをした感想やわかったことをメモし、発表する (20分)	I:○種類○品目の野菜が栽培されていることを発表する。最も正解に近かったチームに賞状を渡す。 I:圃場で指導員が説明したことについてクイズを出し、内容の理解を深める。 T:感想を1行メモさせ、数人の子どもに発表させる。 C:ものすごくたくさんの野菜が栽培されていることがわかりました。 C:同じ野菜でも名前が違っていて品種の多さにびっくりしました。 C:テレビのCMで、生野菜を一番食べているのが新潟県だって言っていたけど、種類の多さを見てそのとおりなのかなと思いました。 T:学習のまとめを行い、インストラクターにお礼を述べる。	・同じ感想や考えの子どもに挙手を促す。 ・新潟は誇るべき豊かな生産地であることを強調する。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・栽培されている作物について、丁寧にメモをとっている。 ・指導員の説明をメモしながら聞いている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・グループで正確に数えるためにどのようなことに注意をすればよいか、考えて行動している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・互いの記録を確認し合うことや、全員で静かに説明を聞くことが大切であることを知っている。	行動観察

② ミニトマトの食べ比べ（⑬～⑰のプラスαプログラム）

（１） 本時のねらい

様々なミニトマトを観察・収穫・食味することにより、一つの野菜でも多くの種類があることを理解するとともに、集団行動のあり方について望ましい経験を積むことができる。

（２） 本時の展開例（30分）

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (10分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:圃場の一角に多くの種類のミニトマト栽培されているゾーンがあることを説明し、諸感覚を使い、色、形、匂いを確かめ、味見をして品種ごとの違いを比べることを確認する。	・ミニトマトの品種名を予め示し、何種類を比較をするのか、把握させる。
②ミニトマトの収穫方法を知る (5分)	I:食べ頃で味のよいミニトマトの見分け方を説明し、記録の仕方と、もぎ方を伝える。 C:一つの品種ごとに一粒、採るんだな。 C:おいしそうなたマトをよく見て選ぶぞ。 C:いっしょにおいしそうなたマトをさがそうね。	・やみくもにもいで食べるのではなく、よく観察して最高の一粒を見つけるように促す。 ・グループで行動し、感想を確かめ合いながら活動することを確認する。
③ミニトマトの観察と味見をする (10分)	I:まずミニトマトを見比べながら特徴を記録し、最後に味見することを確認する。 C:同じミニトマトでも形がずいぶん違うよ。 C:色もずいぶんちがうよ。緑っぱいのもある。 C:さわってみるとかたさもちがいがあみたい。 C:皮の向こうからトマトの匂いがするよ。 C:赤いのがおいしいんだったよね。 C:赤いと甘いつて本当だ！ C:家で食べているトマトとちがう気がする。	⑯衛生のため、ハンカチで軽く拭いてから食べるようにする。
④観察と味見からわかったことや感想を発表する (10分)	T:感想を1行メモさせ、数人の子どもに発表させる。 C:ミニトマトはたくさん種類があって、形も匂いも味もちがうことがわかりました。 C:真っ赤なトマトはとても甘いということがわかりました。 C:買い物をするときも〇〇〇(品名)の赤いものを選びたいと思います。 T:学習のまとめを行い、インストラクターにお礼を述べる。	・同じ感想や考えの子どもに挙手を促す。

（３） 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・おいしそうなたマトの情報を教え合って、協力して収穫しようとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・楽しい思い出づくりとするために、どのようなことに注意すればよいかを状況に応じて考え、実践している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・友達と行動することでおいしいと感じ気持ちが高まることを知っている。	行動観察

③ 石窯アグリオイル焼き（「⑱野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食（初級編）」及び「⑳野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食（上級編）」のプラスαプログラム）

（１） 本時のねらい

様々な食材を石窯で焼いて食することにより、窯の発明により人間の食環境が大幅に進歩したことを理解するとともに、集団行動のあり方について望ましい経験を積むことができる。

（２） 本時の展開例（80分）

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①活動のめあてをつかむ (10分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:石窯アグリピザの余熱を使って余った野菜でオイル焼きをすることを確認し、手順・安全のための配慮事項などを説明する。	・余熱によって1～2時間ほど、焼き物が可能であることから、採れたての野菜をアルミホイルで包んで焼き、先につくったバターも使うことを伝える。
②協力して野菜を収穫する (20分)	I:グループに分かれ、それぞれの場所でインストラクターが手本を見せた後、収穫活動を支援する。 ・ジャガイモ、カボチャ、ナス、トウモロコシ、タマネギ、トマトなど C:おいしそうなたマトをよく見て選ぶよ。 C:ゆっくり引くと、きれいに抜けるよ。	・おいしい野菜の見分け方を伝え、よく観察してから収穫するように促す。 ⑳石窯ピザ用の野菜収穫を主とし、少し多めにとることとする。
③協力して野菜のオイル焼きをつくる (30分)	I:下処理のやり方をグループごとにインストラクターが説明し、料理活動を支援する。 C:皮ごと食べるからよく洗って土を落とそう。 C:アルミホイルは巻きすぎるとダメなんだね。 C:こんなに固い野菜が石窯だけでどんな風になるんだろう。 I:温度管理や時間管理などに注意して、おいしく焼く手順を説明し、活動を支援する。 C:石窯の中は燃えた木を取ったり避けたりして広くするんだね。 C:うわー、熱い。近付くだけで釜から熱が伝わってくるよ。気を付けて。	・衛生のため、丁寧な手洗いと食材洗いを徹底させる。 ㉑やけどをしないように、必ずミットを付けさせる。 ・付き添い指導員の指示で出し入れさせる。
④協力してアルミホイルを取り、食べた後、感想をメモし、発表する (20分)	I:焼きたてが一番おいしいことを伝え、やけどに気を付けながら食べられるように支援する。 I:感想を1行メモさせ、発表させる。 C:焼くだけでこんなに柔らかくて、おいしい！ C:バターを付けるとさらにおいしくなるよ。 T:学習のまとめを行い、指導員にお礼を述べる。	・数人の子どもに感想を発表させる。

（３） 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・収穫の仕方、調理の仕方を教え合って、協力して作業しようとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・余熱には時間の限りがあることから、互いに手際のよさを考えながら作業をしている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・おいしいオイル焼きをつくるためには、時間管理担当と温度管理担当の協力が大事だということを知っている。	行動観察 振り返り作文

④ 専門家のお話

*この+αメニューは、「アグリパーク・パークツアーズ」のすべての【農業体験学習の活動例】に、専門家のお話を加え、体験学習をより豊かなものにするため設定しました。

(1) 本時のねらい

専門家のお話を聞いて、体験で得たことをより豊かなものにするともに、集団行動のあり方について望ましい経験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (30分～100分)

学習活動	教師 (T)・専門家 (P)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:何についてお話してもらおうのかを子どもたちに伝え、指導員に専門家を紹介していただく。	・インストラクターは、あらかじめ専門家に対して、どの部分について話をしてもらうのか、教員と連絡をとって、あらかじめ明確に伝えておく。
② 専門家の話を聞き、自分の体験や自分の生活を見直す (15分) *内容によって、専門家の話を15分～85分まで設定できます	P:実物や絵を使い、子どもが体験で得たことを、別の視点で意味付けるような話をする。 例: <「⑩羊や牛の見学とウインナーソーセージ作り・試食」の場合、消費者の要望と生産という観点で見れば、用途により様々なソーセージが人々の知恵で創り出されてきたことや、それぞれの時代の人々の嗜好に応える形で、ソーセージ作りが進歩してきたことなどの話が考えられる。また、同じように見えるソーセージでも価格が全く違うという観点で見れば、安い原料を使い効率的に生産する大規模工場と、地産地消で厳選した原料を使い伝統的な工法で少量生産する小規模工場の違いについて話し、消費者はそれぞれの価値観でよく考え選択していく必要があることなどの話が考えられるので、このプログラムを活用するときは、教師、インストラクター、専門家のきめ細かな打ち合わせが必要である。>	・専門家の方の話しぶりが、子どもの発達段階に適合しないと感じたときは、積極的に教師が出ていって、子どもの実態を踏まえて、軌道修正したうえで、専門家に話を続けてもらう。
③ 専門家の話を聞いた感想や分かったことをファシリテーション等を活用して、話し合い、発表する (10分) *内容によって適宜設定できます	T:感想を書かせた後、ファシリテーションによりグループごとに話し合わせ、発表することを知らせる。 T:学習をまとめ、専門家にお礼をいう。	・ファシリテーションの経験がない子どもたちの場合は、②の専門家の話を25分間にして、③を15分に変えて、個人で感想文を書く時間にする。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・自分の生活に活かそうと、メモをとりながら専門家のお話を聴こうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・専門家のお話をもとに、グループごとに、自分の意見を出し合い、集団としての意見を深めようとしている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・専門家のお話をきちんと聞いたり、適切な質問をしたりすることが、大切なことだと知っている。	行動観察

⑤ 読み聞かせ

*この+αメニューは、「アグリパーク・パークツアーズ」のすべての【農業体験学習の活動例】で、活動に関する本の読み聞かせを聞くことにより、体験学習をより豊かなものにするため設定しました。

(1) 本時のねらい

読み聞かせのお話を聞いて、体験で得たことをより豊かなものにするともに、集団行動のあり方について望ましい経験を積むことができる。

(2) 本時の展開例 (25分～75分)

学習活動	教師 (T)・専門家 (P)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:何の本を読み聞かせてもらうかを子どもたちに伝え、読み聞かせの専門家を紹介する。	・インストラクターは、あらかじめ読み聞かせする方に対して、どのような活動に関する本なのか打ち合わせをしておく。
② 読み聞かせを聞き、自分の体験や自分の生活を見直す (15分～30分)	P:活動にかかわる本の読み聞かせを行う。 C:(無言で読み聞かせに聞き入る)	・専門家の方の話しぶりが、子どもの発達段階に適合しないと感じたときは、積極的に教師が出ていって、子どもの実態を踏まえて、軌道修正したうえで、専門家に話を続けてもらう。
③ 学習のまとめを行う (5分～40分)	T:学校と相談して、3種類の中から選んで、働き掛ける。 1 余韻を楽しむため、読み聞かせの方にお礼を述べてそのまま終わる。 2 感想文を書かせて、発表させる。 3 ファシリテーションを行い、発表させる。 T:専門家にお礼を述べる。	・ファシリテーションの経験がない子どもたちの場合は、③を15分にして個人で感想文を書くことも考えられる。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・興味をもって専門家のお話を聴こうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・専門家のお話をもとに、グループごとに、自分の意見を出し合い、集団としての意見を深めようとしている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・専門家のお話をきちんと聞いたり、適切な質問をしたりすることが、大切なことだと知っている。	行動観察

< 4 > 【夜の活動の例】

①農家の夜語り

(1) 本時のねらい

農家の方から、農業の苦労や工夫、農業のすばらしさなどの話を聞き、農業に関する見聞を広げることができる。

(2) 本時の展開例 (45分)

学習活動	教師 (T)・専門家 (P)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認するとともに、昔の農家の夜の過ごし方について話し、農家の方を紹介する。 ＜昔の農家の夜の過ごし方＞ 昔の農家では、夜になると、囲炉裏の周りに家族が集まり、おじいさんやおばあさんの話を聞いたり、近所の人の話を聞いて過ごしたりしたこと、それ自体が大切な学習だったことを述べる。	・プロジェクターに囲炉裏の火が燃える様子の写真等を映し出すなど、雰囲気作りを工夫する。
②農家の方から農業に関する話を聴く (30分)	P:農業に関する話をする。 ・昔の農作業の話 ・農業の苦労話 ・農作業の工夫に関する話 ・田畑を開発した話 ・昔の農民の生活に関する話 ・その他、農業に関する話 C:えー、そうだったのか。知らなかった。 C:すごく苦労して農業を続けてきたから、今があるんだね。	・教室形式よりも、農家の方を中心にして、取り囲むように座る形が望ましい。 ・インストラクターが、農家の方が話す内容について、農家の方からあらかじめ内容をお聞きし、子どもの発達段階に適合するかどうか精査しておく。
③質問をした後、感想をメモし、発表する (10分)	T:質問を受け付け、農家の方に答えてもらった後、1行感想をメモするよう促す。 T:数人の子どもに発表させる。 C:自然を相手にして働くのは、厳しいけれど、気持ちがいいという話が心に残りました。 C:農業が好きだということが伝わってきました。 C:昔の農家の方々が、工夫したり、苦労したりして農業を続けてきたから、私たちがおいしいものを食べることができるということが分かりました。 T:インストラクターにお礼を述べる。	・時間が許せば、グループごとに全員の感想を発表してもらうのがよい。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・農家の方の話を真剣に聞こうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・農家の方に失礼がないように、みんなできちんと耳を傾けようと互いに注意し合っている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・友達の感想と自分の感想とを比べると、新しいことを発見できていることを知っている。	行動観察

②農業夜話

(1) 本時のねらい

専門家の方から、農業に関する興味深い話や農業の歴史などの話を聞き、農業に関する見聞を広げることができる。

(2) 本時の展開例 (50分)

学習活動	教師 (T)・専門家 (P)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認するとともに、昔の農家では、書物で農業を学ぶことよりも、農業技術研究者や農業の研究者などの専門家から話を聞いて農業を学ぶことが多かったこと、そういう農業の専門家は昔、篤農家・地方巧者と呼ばれ尊敬されたことなどを知らせたい。専門家を紹介する。	・プロジェクターに囲炉裏の火が燃える様子の写真等を映し出すなど、雰囲気作りを工夫する。
②農家の方から農業に関する話を聴く (20分) *内容によって、時間を延長することもできます。	P:農業に関する興味深い話をする。 ・農業技術の発達に関する話 ・米や野菜の品種改良の苦労話 ・農業の歴史に関する話 ・新田開発技術等に関する話 ・用水、排水に関する話 ・農作物に関する楽しい話 ・その他、農業に関する話 C:えー、そうだったのか。知らなかった。 C:新潟の農業はすごいんだね。	・教室形式よりも、専門家を中心にして、取り囲むように座る形が望ましい。 ・インストラクターが、専門家が話す内容について、専門家からあらかじめ内容をお聞きし、子どもの発達段階に適合するかどうか精査しておく。
③専門家の話を聞いた感想や分かったことをファシリテーション等を活用して、話し合い、発表する (25分)	T:感想を書かせた後、ファシリテーションによりグループごとに話し合わせ、発表することを知らせる。 T:学習をまとめ、専門家にお礼をいう。	・ファシリテーションの経験がない子どもたちの場合は、②の専門家の話を30分間にして、③を15分に変えて、グループごとに全員の感想を発表してもらうのがよい。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・専門家の方の話を真剣に聞こうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・専門家の話をもとに、ファシリテーションにより、グループごとに自分の意見を出し合い、集団としての意見を深めようとしている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・友達の感想と自分の感想とを比べると、新しいことを発見できていることを知っている。	行動観察

③ 星空観察と農業の話

(1) 本時のねらい

星座の運行と農業の関係についての話を聴くとともに、星空観察を行うことにより、農業や天文についての見聞を広げることができる。

(2) 本時の展開例 (70分)

学習活動	教師 (T)・専門家 (P)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、昔は星空や山の様子、雪の消え方などを見て、農作業の段取りを決めていたことを知らせたうえ、専門家を紹介する。	
②専門家の方から農業と星空に関する話を聴き、天体観測をする (55分)	P:星座の運行と農業との関係について話をした後、天体観測をする。 C:えー、そうだったのか。知らなかった。 C:昔の人は、いろいろなことから農業の方法を考えたんだね。 C:農業は自然と一緒にだったんだね。	・教室形式よりも、専門家を中心にして、取り囲むように座る形が望ましい。 ・インストラクターが、専門家が話す内容について、専門家からあらかじめ内容をお聞きし、子どもの発達段階に適合するかどうか精査しておく。
③質問をした後、感想をメモし、発表する (10分)	T:質問を受け付け、専門家に答えてもらった後、1行感想をメモするよう促す。 T:数人の子どもに発表させる。 C:星の運行にそんな秘密があるとは知りませんでした。 C:農業と星の関係がよく分かりました。 T:専門家にお礼を述べる。	・時間が許せば、グループごとに全員の感想を発表してもらうのがよい。

(3) 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・専門家の方の話を真剣に聞こうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・ルールを守って天体観測をしようとしている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・友達の感想と自分の感想とを比べると、新しいことを発見できることを知っている。	行動観察

④ アグリで肝試し

(1) 本時のねらい

恐さを乗り越え、共に思いやり共に支えあう望ましい人間関係を築こうとする態度を表すことができる。

(2) 本時の展開例 (70分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:肝試しは、一人前の大人になるための度胸を試し、責任のある大人への成長を促す昔の農村の大切な行事であり、単なるゲームではなかったことを確実に教えた後、やり方・コース等を説明する。 ・2～4人組みで行う ・アグリ札(折り返し地点に置くカード)を持ち帰る	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。 ・単なるゲームではなく、農村のイニシエーション(通過儀礼)であることを強調する。
②南区(旧白根市)に関する怖い話を聞く (10分)	I:南区(旧白根市)に関する怖い話をする。(*資料461ページ参照) C:そんなに水害が多いところだったのか。 C:ここは、そんなに怖いところだったのか。	・白根地区、できれば、旧鷲ノ木村など、アグリパークに近い地域を舞台とした伝承(創作も含める)があれば、最もよい。
③友達と励ましあいながら肝試しを行う (50分)	I:一定時間ごとに、静かにスタートさせる。 危険な場所等には、あらかじめ引率者を配置してもらうようにしておく。 C:行くのいやだなあ。 C:励ましあって、がんばろう。	・コースの中に、真っ暗闇を設定し、昔の農村の闇夜を体験させる。
④連絡会に参加し、先の見通しを持つ (5分)	T:感想を1行メモさせ、発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。 T:これからの予定、「朝飯前の活動」や朝食等、明日の予定について確認し、解散する。 C:明日、早く起きた人が他の人を起こすことにしようよ。 C:私は目覚まし係だから、がんばろう。	

(3) 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・励ましあって、怖さを乗り越えようと、互いをかばう合う動作をしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・単に面白いこと、興味深いことをしようとするのではなく、みんなの思い出になるためにはどう行動すればよいかを考えながら実践している。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・肝試しの趣旨やルールを理解している。	行動観察

< 5 > 【朝飯前の活動の展開例】

①家畜ブラッシング

(1) 本時のねらい

朝飯前の活動を通して、勤労の大切さを自覚するとともに、協力してやりとげようとする態度を表すことができる。

(2) 本時の展開例 (30分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①朝の一仕事のめあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動のめあてを話させた後、危険な行為や家畜の嫌がる行為について説明し、安全を徹底する。	・朝飯前の活動は、農家の人々が明るい時間を農業のために有効にしようとする活動であり、日本では昔から「早起きは三文の得」と言われていたことを知らせる。
②牛、豚等家畜のブラッシングをする (20分)	I:豚や牛へのブラッシングを実演し、説明した後、順番に体験させる。 C:どうすれば牛さんは気持ちいいのかな。 C:前の人のやる様子を見てやるといいよ。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。 ・ブラッシング時に、牛の手前の足で蹴り上げられる危険があるので、気を付けるよう確実に注意する。
③朝飯前の活動の感想を発表する (5分)	T:感想を1行メモさせ、発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。 C:眠かったけど、気持ちいいなあ。	・終了後、そのまま朝食に行くことを連絡する。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・自分の知っていることを友達に教えるなど、協力することを態度や言動で示している。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・どうすれば全員がいい体験ができるか、時間や順序を考えながら、体験学習を行っている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・「朝飯前の活動」の意義について、理解している。	行動観察

②家畜のエサやり・畜舎清掃

(1) 本時のねらい

朝飯前の活動を通して、勤労の大切さを自覚するとともに、協力してやりとげようとする態度を表すことができる。

(2) 本時の展開例 (30分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①朝の一仕事のめあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動のめあてを話させた後、危険な行為や家畜の嫌がる行為について説明し、安全を徹底する。	・朝飯前の活動は、農家の人々が明るい時間を農業のために有効にしようとする活動であり、日本では昔から「早起きは三文の得」と言われていたことを知らせる。
②家畜のエサやり、畜舎清掃体験をする (20分)	I:まず示範し、仕事を分担して畜舎の清掃をするよう指示する。 C:牛さん等が気持ちいいようにするには、どんなふう に清掃すればよいか。 I:エサの種類やエサの生産地などについて説明した後、エサやりの示範をし、順番にエサをやるよう指示する。 C:よく食べる。すごい食欲だ。 C:一日にどれくらい食べるのだろうか。	・エサの種類などについて、えさの生産地などが書かれた地図などのボードを用意して示す。 ・また、なぜこのようにエサを配合してやるのかを説明する。
③朝飯前の活動の感想を発表する (5分)	T:感想を1行メモさせ、発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。 C:眠かったけど、気持ちいいなあ。	・終了後、そのまま朝食に行くことを連絡する。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・自分の知っていることを友達に教えるなど、協力することを態度や言動で示している。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・どうすれば全員がいい体験ができるか、時間や順序を考えながら、体験学習を行っている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・「朝飯前の活動」の意義について、理解している。	行動観察

③畑作物の水やり・草取り

(1) 本時のねらい

朝飯前の活動を通して、勤労の大切さを自覚するとともに、協力してやりとげようとする態度を表すことができる。

(2) 本時の展開例 (30分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①朝の一仕事のめあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動のめあてを話させた後、農業における水やりと草取りの意義を説明する。	・朝飯前の活動は、農家の人々が明るい時間を農業のために有効に使おうとする活動であり、日本では昔から「早起きは三文の得」と言われていたことを知らせる。
②畑作物の水やり・草取り体験をする (20分)	I:示範した後、水やりや草取りの区画を分担し、作業を行うよう指示する。 C:どうすれば均等に水をまけるのだろうか。 C:なかなか草が抜けないよ。手伝ってよ。 C:一、二の三で、草を抜こうよ。	・わざと抜けにくい草に挑戦させ、友達同士協力して草取りをするよう仕組んでおく。
③朝飯前の活動の感想を発表する (5分)	T:感想を1行メモさせ、発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。 C:眠かったけど、気持ちいいなあ。	・終了後、そのまま朝食に行くことを連絡する。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・自分の知っていることを友達に教えるなど、協力することを態度や言動で示している。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・どうすれば全員がいい体験ができるか、時間や順序を考えながら、体験学習を行っている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・「朝飯前の活動」の意義について、理解している。	行動観察

④野菜の芽かき・葉かき

(1) 本時のねらい

朝飯前の活動を通して、勤労の大切さを自覚するとともに、協力してやりとげようとする態度を表すことができる。

(2) 本時の展開例 (30分)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ。(5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動のめあてを話させた後、農業における芽かきや葉かきの意義を説明する。	・朝飯前の活動は、農家の人々が明るい時間を農業のために有効に使おうとする活動であり、日本では昔から「早起きは三文の得」と言われていたことを知らせる。
②野菜の芽かき・葉かき体験をする (20分)	I:示範した後、野菜の芽かき・葉かきの区画を分担し、作業を行うよう指示する。 C:どうすればうまくできるのだろうか。 C:なかなか芽がとれない。どうすればいいのかな。 C:ここに力を入れればいいんだよ。	・活動の流れと目的を視覚情報を用いて説明する。
③朝飯前の活動の感想を発表する (5分)	T:感想を1行メモさせ、発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。 C:眠かったけど、気持ちいいなあ。	・終了後、そのまま朝食に行くことを連絡する。

(3) 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・自分の知っていることを友達に教えるなど、協力することを態度や言動で示している。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・どうすれば全員がいい体験ができるか、時間や順序を考えながら、体験学習を行っている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・「朝飯前の活動」の意義について、理解している。	行動観察

「アグリ・スタディ・プログラム」への応援メッセージ

私はフランス、中部地方のトゥール市に在住し、大学で日本語の教鞭をとると共に、ジャパンセンター所長として日仏交流にかかわってきました。その一環として新潟市とも交流を持つ機会ができました。2006年、2007年、2012年と3回にわたり、新潟市の「フランス教育ファーム視察団」のアテンド、通訳をさせていただきました。ご一緒させていただき、印象に残ったことは、皆様が新潟市での教育ファーム建設に向けて多大な情熱とエネルギーを持っていられたことです。2007年には新潟市長もご同行され、市の思い出も強く感じとられました。



フランスの教育ファームは90年代から発展し当時は350ありましたが2007年にはその数は1,400まで増えました。しかしそのほとんどは個人農家の経営で、国立、公立教育ファームは数少ない状況です。新潟市アグリパークは日本で初の公立教育ファームと伺っています。新潟を心底愛しているスタッフが作成されるプログラムは子どもたちの心に長く残る体験を与えてくれることと確信しています。プログラムのご成功に遠くフランスから熱い応援を送ります。

元トゥール商業大学ジャパンセンター所長 レモン 洋子
(2006年、2007年、2012年フランス教育ファーム視察アテンド・通訳)

1 小学校編 (2) いくとぴあ食花

- ①めざせ！花いくミニマスター！（食育・花育センター）＜1・2年 生活＞ …… 210
- ②動物さんたち何をしているの？（動物ふれあいセンター, こども創造センター）
＜1・2年 図画工作＞ …… 214
- ③食育・花育センターの秘密 ＜3～6年 総合的な学習の時間＞ …… 218
- ④つくって学ぶ命（動物ふれあいセンター, 食育・花育センター, こども創造センター）
＜5年 総合的な学習の時間＞ …… 222
- ⑤めざせ！和食で“家庭遺産”@いくとぴあ（食育・花育センター）
＜5・6年 家庭＞ …… 226
- ⑥ペットの幸せ～動物愛護・ふれあいセンターの取組～
（動物愛護センター, 動物ふれあいセンター）＜6年 特別活動・道徳＞ …… 232
- ⑦卒業に向けて～台所でひとり立ち～（食育・花育センター）
＜6年 総合的な学習の時間＞ …… 238

①めざせ！花いくミニマスター！

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

・実施期間	通年
・最大人数	30人
・費用	無料

が 魂
自分が育てる（見学調査する・採取する・収穫する）

どんな草花があって、どんな遊びができるか、たくさん体験しよう。

①旬の草花クイズ **②草花あそび**

「よく見る」 「さわる」

「かぐ」 「聞く」

いろいろな形をみつけるぞ！

この茎をさわった感じが、がっちりしているから、きっと強いよ。

レモンのおいがするよ。

やった！音が出た！

この黄色い花、学校のおすみで見たよ。

花いくミニマスターを目指してがんばりましょう。
みなさんの学校の周りにある草花はどれですか？

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校1・2年：生活

- ・視覚，聴覚，触覚，味覚，嗅覚などの諸感覚を高めることができます。また，身近な自然と繰り返しかかわって学ぶ際に，自然と一体になりながらその特徴や性質を豊かにとらえ，四季の変化や生活の変化に気付いていくことができるようになります。
- ＊生活科の内容（5）季節の変化と生活
- ・身に付けた諸感覚を使って自然物をもとに遊びや遊びに使う物を工夫して作る活動を通して自然の面白さや不思議さに気付いていくとともに，自分の生活を楽しくする態度を培うことができます。
- ＊生活科の内容（6）自然や物を使った遊び

自分が消費する（作品にする）

③まとめ&草花専門家の話

<家で>

すごいね。案内してくれるのを楽しみにしてるね。

わたしね、花いくマスターに認定されたんだよ。

<学校で>

葉っぱあそびをしようよ！

〇〇が□□の形をしているのは、◇◇の役目があるからです。先生に確認して注意しながらですが「よく見る」「さわる」「かぐ」「聞く」を使うと今まで気付かなかった面白いことがわかるようになりますよ。

何となく見ていると気付かないね。

旬の草花観察. 専門家の人のお話を聞く等の学びの可能性

- バナナの木などにみられる様々な結実の様子を観察することを中心に学習活動を構成していくならば…
- ＊小学校5年理科の内容 「植物の発芽，成長，結実」
- 旬の草花調べや専門家のお話を新潟市特産のチューリップの生産と関連付けて学習活動を構成していくならば…
- ＊小学校3年社会の内容 「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」
- そのほか，総合的な学習の時間に，様々な草花を見たり調べたりする活動を「新潟市の気候と草花」，「新潟市特産の草花」などを学習テーマにした学習活動の動機付け，課題設定などの場として位置付けていくこともできます。

実践例 「めざせ！花いくミニマスター！」

1 関連する単元名 小学校1・2年 生活 「めざせ！花いくミニマスター」（8時間）

2 関連する単元の目標

- 様々な感覚を使って身近な草花などの自然と触れ合ったり、草花遊びをしたりして、季節の変化を感じ、自分の生活を楽しく豊かなものにしていこうとすることができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 学校の校庭や教材園、周辺をさんぽしよう (4時間)

- 体験の前に**
- 学校の教材園、畑、校庭、学校周辺に散歩に行き、草花の写真を撮ったり、絵に書いたりする。
 - 確かめたこと、気付いたことを写真や絵をもとにまとめたり、知っている草花遊びを紹介し合ったりして遊ぶ。
 - 食育・花育センターへ行き、草花について分からなかったことを聞くなど、より詳しく楽しい学習ができることを告げ、季節の草花にかかわる学習課題を立てる。

学習課題例

どんな草花があって、どんな遊びができるか、たくさん体験しよう。

食育・花育センターでの体験学習 <2時間>

- ①旬の草花クイズ → ②草花あそび → ③まとめ&草花の専門家の話
※「花いくミニマスター」を目指そうという前提で学習活動をすすめる。

まとめのメモ例

「レモンのかおりがするはっばがあるよ」「はっばの形でクイズをつくらう。」
「はっばで音が出せたよ」「ざらざらしているはっばがあったよ。」

(2) オリジナル草花あそびで楽しもう (4時間)

- 体験の後に**
- 体験して初めて知ったこと、驚いたこと、楽しかったことを絵や文で表現し、発表し合う。
 - 児童の発表に基づいて、食育・花育センターでの学習内容を整理し、草花の観察の仕方や楽しみ方を再度整理し、学校の教材園、畑、校庭、学校周辺に見られる草花で遊びを考え、みんなで遊ぶ。
 - 食育・花育センターでお世話になった人にお礼の気持ちとして、教わったことをもとに作ったオリジナルの草花遊びを紹介する手紙（レポート）を作成する。

※四季を通じたプログラムに参加し、「年間花いくミニマスター」に挑戦する。

4 本時のねらい

花育ミニマスターを目指し草花あそびをする活動を通して、様々な感覚を使いながら植物を観察する際の視点を身に付けることができる。

5 本時の展開例 (90分=2時間)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)・専門家 (P)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (5分)	T:本時の学習課題を確認しインストラクターを紹介。 I:花いくミニマスターを目指してがんばることを確認し一連の学習の流れと注意事項を説明する。	・活動の流れと目標を示し、活動に見通しをもたせる。
②旬の草花に気付くことのできるクイズや遊びをする (15分)	I:今の季節に身近に見られる草花にかかわるクイズや簡単なゲームなどをする。 C:学校の庭にもあったよ。 C:そういう名前だったのか。	・できる限り本物の草花を見たり触ったりできるようにする。 ・子どもの既習事項、生活経験を引き出すように教師も関わる。
③視覚、聴覚、触覚、聴覚を使って高めるような草花あそびや物作りをする (50分)	I:季節に応じた、見る(形、大きさ、色、構造など)、嗅ぐ(香り)、さわる(手触り)、聞く(音が出る)関係の草花あそびや物作りについて説明や指示をする。 C:どこにこんな形のはっばがあるかな?探すぞ! C:レモンの香りがするから、こっちが〇〇だ! C:ザラザラしているこっちが本物のはっばだ! C:やった!はっばで音が出せたよ! C:花育ミニマスターになれそうだな。	・4つのグループに分かれ、効率よく効果的な活動できるように活動の形態、順番、インストラクター、花育マスターなどの専門家の対応、学習カードなどの工夫をする。 ・季節に応じて、視覚、聴覚、触覚、聴覚(可能であれば味覚も)を使った遊びや物作りが行われるようにする。
④様々な感覚を使って草花などの自然にかかわっていくことのおもしろさに関する専門家のお話を聞く (10分)	P:おもしろい草花の例を示しながら、様々な感覚を使って観察することの大切さや方法、注意事項について話す。 C:ただ何となく見ていると気付かないんだな。 C:私は、においに興味があるな。 C:はっばの形でゲームができそうだな。 C:いろんな観察の仕方や調べ方がわかったぞ。	・酸性度の違いで、あじさいの花の色や雑草の種類が違ったり、農産物の育ちやすさも違ったりする点についてもふれる。 ・けが等をしないように、観察の際の注意もする。
⑤認定書をもらい、観察の仕方について振り返る (10分)	I:花いくミニマスター認定書を授与する。 C:やった!ミニマスターになれたよ。 C:観察の仕方がよくわかったよ。 T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターや専門家の人へお礼を述べる。	・草花あそびや物作りのときに使った学習カードを貼れるとともに、観察の際に使う様々な感覚のことが分かる認定書を用意する。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
生活への関心・意欲・態度	・様々な感覚を使って観察をしたり、オリジナルの遊びやゲームを作ったりして楽しく過ごそうとしている。	行動観察 振り返り作文
活動や体験についての思考・表現	・各体験活動の場で、体中(五感、心)で感じたこと、観察して気付いたこと、疑問に思ったことを自分なりの言葉で表現している。	行動観察 学習カード 振り返り作文
身近な環境や自分についての気付き	・前よりも自分が様々な感覚で物事をとらえて学習していることに気付いている。	行動観察 学習カード 振り返り作文

②動物さんたち何をしているの？

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

が 魂 自分が育てる（世話する・見学調査する） ➡

どんな様子のどんな動物をかこうか探そう。

①動物との触れ合い体験

ヤギさんの毛は、ヒツジさんの毛より、かたい感じがするよ。「言葉」メモに、ちゃんと書いておこう。

アルパカさんの毛はふわふわだね。

羊さんの毛は、もこもこだよ。



学 習 指 導 要 領 上 の 位 置 付 け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校1・2年：図画工作

- ・餌やりなど動物と直接触れ合うことで、間近に動物を見ることができます。間近に見ることで、気付きにくい動物の顔や体の細部のつくりにも気付くことができます。
- ・動物に接する体験を言語化して「言葉メモ」にし、それをもとに描くことにより、個性的な表現にすることができます。
- ・「パステル動物画」の技法を使うことにより、子どもが描きやすい質感を楽しみながら表現することができます。

*** 図画工作1・2年の内容 A表現(2)**

- ・実施期間 通年
- ・1班最大人数 35人
- ・費用 200円/人

自分が消費する（作品にする）

②動物の絵をかく

・アルパカさんは、草を歯でちぎって食べるところがカッコいいから、そこを描こう。

・うさぎさんの毛のピカピカしたところは、なかなかかくのが難しいね。

・ヤギさんが下を向いたところが、なかなかいいよ。

・「言葉メモ」をクレパスの線にするのが、けっこう面倒だよ。

子羊さんが仲良くすわっている様子をかきたいなあ。



動物とのふれあい活動や動物の絵を描く活動の可能性

- 普段と異なる環境の中で見聞を広めたり、公衆道徳について望ましい体験を積ませることを中心に学習活動を構成していくならば…
 - * 小学校全学年 特別活動[学校行事](4) 遠足・集団宿泊的行事**
- 動物の餌やり体験や観察を中心に学習活動を構成していくならば…
 - * 小学校6年理科の内容B(1)「人の体のつくりと働き」(3)「生物と環境」**
- そのほか、国語作文単元などの題材としても取り上げることができます。また、生活の飼育単元で、他の動物との比較材料として取り上げ、生き物に関して気付きを高める一般化が図れます。

実践例 「動物さんたち何しているの？」

1 関連する題材名 小学校1・2年 図画工作 「動物さんたち何しているの？」(4時間)

2 関連する題材の目標

- 動物たちの姿をじっくりと見つけ、すてきな動物たちの様子をかくことにより、動物たちを深く理解できるようにする。

3 関連する題材の流れと体験学習の位置付け

○動物さんたち何しているの？(4時間)

体験の前

- 動物ふれあいセンターとこども創造センターで、動物の絵をかくことを知る。
- ヤギ、カピバラ、アルパカ、ヒツジ、うさぎ、犬、猫、モルモットなどの動物がいることを知る。
- 動物をかく期待感をもつ。
- どんな様子のどんな動物をかきたいか動物ふれあいセンターへ行って探しましょうと呼びかける。

↓

学習課題例

どんな様子のどんな動物をかこうか探そう。

動物ふれあいセンターでの体験学習 <2時間>

① 動物ふれあいセンターとこども創造センタースタッフの話

- 観察のポイント
- 安全上のルールとマナー
- 「言葉メモ」のとり方

② 動物の観察、動物とのふれあい

- 詳しく観察
- えさやり
- なでる・触る
- 「言葉メモ」記録

まとめのメモ例(題材)

「やさしい目のアルパカ。」
「ちょこんとすわったヒツジ。」
「のんびり水にはいつているカピバラ。」

↓

体験の後

- 体験したことや自分の描いた絵をもとに、心に残っていることを話し合う。

4 本時のねらい

- 動物たちの姿をじっくりと見つけ、すてきな動物たちの様子をかくことにより、動物たちを深く理解できる。

5 本時の展開例(90分=2時間)

学習活動	教師(T)・指導員(I)・子ども(C)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ(5分)	T:「どんな様子のどんな動物をかきたいのか探そう」という学習課題を確認し、スタッフ(I)を紹介する。 I:活動の流れと安全上の注意事項を説明する。	㊦大きな声を出したり、走ったりして動物を怖がらせないように注意する。
②動物の観察の仕方や接し方等について、動物ふれあいセンターとこども創造センタースタッフの話聞く(10分)	I:動物ふれあいセンターにいる動物を紹介し、触れ合い方・えさのやり方など動物との接し方を説明する。 C:かわいい様子をかきたい。 I:動物に接して思ったこと、考えたことを言葉にしてメモする「言葉メモ」のとり方を説明する。 C:「やさしい目のアルパカ」を書こう。	・動物ふれあいセンタースタッフとこども創造センタースタッフが連携、協力して指導にあたるようにする。
③動物の観察、動物とのふれあい(25分)	I:動物ふれあいセンターにいる動物のところへ子どもたちを案内し、観察したり、えさをやったり、なでたりできるようにする。 C:ちょこんとすわった羊がかわいいね。 C:2匹で並んでいるのが楽しそうだね。 C:「言葉メモ」を書くのは、とても頭を使うよ。 C:えさをすごいスピードで食べていて、強そう。	㊦動物への配慮事項や安全・衛生のための注意などを再度確認する。
④動物の描き方についてこども創造センタースタッフの話聞く(15分)	T:自分の好きな動物やかきたい様子を確認する。 T:描きたい動物の様子を絵にするよう指示する。 I:「クレパス動物画」の技法について説明する。 ・画用紙を選び、クレパスを使って、はじめは白又は明るい色で輪郭線をかく。その後、好きな色で輪郭線が見えなくなるまで色付けする。 ・動物を観察したときの「言葉メモ」を良く見てかくよう確認する。 C:私はピンクの画用紙がいいわ。 C:うまくかけるかな?	・かき方の一つの方法として、「クレパス動物画」の技法を紹介する。この技法には5～8歳頃の図式期に適するものと、8～11歳頃の写実黎明期に適するものがあるので、こども創造センターに相談して、どちらかを選ぶこともできる。
⑤自分の描きたい動物を「クレパス動物画」の技法を使って描く(35分)	I:自分の好きな動物を選んで、かきたい様子を絵にするよう告げる。 C:白いクレパスが見えなくなるまで色を塗ったら、毛の感じが、本物そっくりになったよ。 C:描きたいようにかけて、うれしいな。 T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、スタッフにお礼を述べる。	・用がある場合は、スタッフ又は担任教諭を呼ぶよう話をする。 ・「言葉メモ」を見ながら描くよう、個別に呼び掛ける。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
造形への関心・意欲	・かきたい動物の様子を絵に表すことを楽しんでいる。	活動の様子
発想や構想の能力	・「言葉メモ」をもとに、絵を構想し、形や色などを考えている。	活動の様子 作品
創造的な技法	・「クレパス動物画」の技法などを使って、色を重ねて塗るなど工夫してかいている。	活動の様子 作品

※この学習を計画する場合は、こども創造センター(025-281-3715)に相談いただければ、こども創造センターと動物ふれあいセンターが連携して事前に学校との打ち合わせ会を設定することも可能です。

③食育・花育センターの秘密

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

・実施期間	通年
・最大人数	60人
・費用	無料

が
魂

自分が育てる（植える・見学調査する）

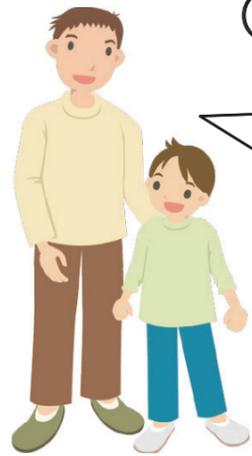


自分が消費する（見学調査する）

体
験
活
動

なぜ食育・花育センターに人々が集まるのだろうか。

①花栽培体験・聞き取り調査



県外から来ました。子どもたちにきれいな花を見せようと思います。

花と花の間隔もとるんだね。根が広く張るから、その分を考えなくちゃ。



センターに来られるお客様に喜んでもらえるよう心を込めて育てています。



学
習
指
導
要
領
上
の
位
置
付
け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校3～6年：総合的な学習の時間

- ・食育・花育センターという安全でコンパクトな場所で効果的に探究的な学習を行うことができます。
- ・「食」と健康とのかかわりや、「花」と心の健康とのかかわりについての学びを実現することができます。
- ・この探究的な活動により、「花」と「食」と人間のかかわり合いや、自分自身がどのように「食」や「花」と関わっていくのかを考えるきっかけを与えることができます。

* 総合的な学習の時間の学習課題：「横断的・総合的な課題」

②振り返りの活動

- ・センターに人が集まる理由で、今まで調べたものをあげてみよう。
- ・職員の人がお客さんのことを考えて、花栽培をしているのがヒントになりそう。

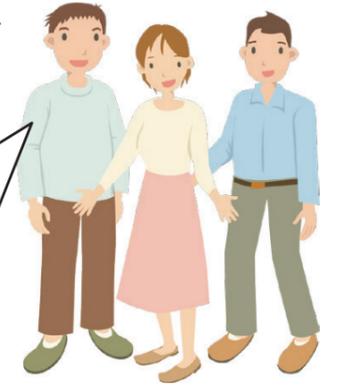


③花展示体験・聞き取り調査

私たちは中央区から来ました。花植えの講習会です。ここに来ると、花のいろいろなことを学ぶことができます。

新潟市は全国有数の花の生産・出荷地なんです。新潟市は、すごいでしょ。

- ・花を育てると、気持ちがいいよ。食花センターに集まるのも、みんな花が好きだからかな。
- ・人間はなぜか花に惹かれるんだよね。花は、いいよ。



花栽培・展示体験活動の学びの可能性

- 食育・花育センターの職員の仕事を、働くことの意義や職業調べを中心に学習を構成するならば…
 - * 中学校特別活動〔学級活動〕の内容（3）「学業と進路」
- 食育・花育センターの仕事を職業体験学習として構成するならば…
 - * 中学校1～3年：総合的な学習の時間
- 食育・花育センターの職員の仕事を、新潟県中学校長会編集「新しい生き方」2年「働くことの意義」の学習を構成していくならば…
 - * 中学校道徳の内容4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」－（5）資料「職場体験レポート」

実践例 「食育・花育センターの秘密」

- 1 関連する単元名 小学校3～6年 総合的な学習の時間
「食育・花育センターの秘密」(10時間)

2 関連する単元の目標

- 食育・花育センターになぜ人が集まるかを調査し究明する活動を通して、食育や花育に関わっている人々の願いや工夫を知るとともに、花や食にひかれる人間の根源的な特性に気づき、自分は食や花とどのようにかわればよいかを考えることができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) どうしてこんなに人が集まるの? (2時間)

- 体験の前**
- 食育・花育センターの入場者数が年間35万人ということを知り、なぜ人々は食育・花育センターに集まるのか、何に魅力を感じて集まるのかという課題を設定し、調べてみようとする意欲をもつ。<課題設定>
 - 食育・花育センターの場所や立地、作られた経緯、入場料、家族の評価等について調べる。<情報収集>
 - 調べたことをもとに分析を加え、自分なりの考えをもつ。<整理・分析>
 - 自分たちの考えをまとめるとともに、さらにくわしく調べるため、食育・花育センターへ行き、班ごとに調査する計画を立て、センターの方に依頼する。<まとめ・表現>

(2) さあ、食育・花育センターへ行って調べてみよう (3時間)

学習課題例

なぜ食育・花育センターに人々が集まるのだろうか。

食育・花育センターでの体験学習 <3時間>

- 来場者への聞き取り調査
- 食育・花育センター職員への聞き取り調査
- 食育・花育センターの職員の花作りの仕事体験
- 食育・花育センターの職員の食に関する仕事体験
- 食育・花育センターの施設調査
- 周辺施設(こども創造センター、動物ふれあいセンター)職員への聞き取り調査

まとめのメモ例

「自分で花を育てたり、花を見たりするのが好きという人が多いからだ。」
「毎日の食事と健康との関係について、知りたい人もたくさんいるからだ。」
「食育・花育センターの職員は、最新の情報を分かりやすく説明したり、展示したりできるように努力や工夫をしている。」

(3) 調べたことから、自分たちの考えを作ろう (4時間)

- 体験の後**
- 来場者の住所、性別、年齢、来場目的、来場回数等から集計し分析する。<整理・分析>
 - 食育・花育センター職員が考える、人が集まる理由を集計し分析する。
 - 食育・花育センター職員が工夫しながら、表に現れない、花の栽培や食に関する仕事など地道な仕事をしているからこそ、多くの来場者が満足し、より集客力が増していることに気付く。<整理・分析>
 - 図表、写真、絵を駆使しながら、伝わりやすいよう表現を考える。<まとめ・表現>
 - 食育・花育センター職員が大切に思っていること、心がけていることをまとめる。<まとめ・表現>
 - 人間は花や食というものに強くひかれる根源的な特性をもつことについてまとめる。<まとめ・表現>

(4) 食育・花育センターで発表しよう (1時間)

- どのような隊形で、どのような資料を、どのようにポスターセッションをすれば、多くの人に分かってもらえるかという課題意識をもつ。<課題設定>
- ポスターセッションに関する文献調査や聞き取り調査を行う<情報収集>
- 収集した情報により、実際にポスターセッションを行い、検討し合う。<整理・分析>
- 食育・花育センターでポスターセッションを行い、聴衆の感想アンケートを分析して、まとめとする。<まとめ・表現>

4 本時のねらい

なぜ食育・花育センターに人々が集まるかという課題を解決するために、食育・花育センターで調査や職員の仕事の体験活動を行うことを通して、職員の方々の工夫や努力、根源的に人引き付けてやまない「食」「花」の魅力などの情報を集めることができる。

5 本時の展開例 (135分=3時間)

学習活動	教師(T)・指導員(I)・子ども(C)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (10分)	T:学習課題を確認し、調査グループを確認する。仕事体験グループはインストラクターの指示に従い、それ以外の調査グループは教師の指示に従うことを告げる。 花栽培の仕事体験グループと食に関する仕事体験グループのインストラクターを紹介する。 I:仕事体験グループに対して、活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって安全・安心に活動に臨めるようにする。 T:仕事体験以外のグループに対して、活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって安全・安心に活動に臨めるようにする。	・聞き取り調査グループを教師が担当し、仕事体験グループをインストラクターが担当する。 ・聞き取り調査グループには、入場者へのマナー等について、事前学習したことを確認させる。 ④立ち入り禁止区域については、平面図により、確実に注意を与える。
②課題を解決するために、聞き取り調査をしたり、花作りや食に関する仕事の体験活動を行った (40分)	T:集合時刻を示し、その時刻になったら、集合するよう指示し、調査活動を行わせる。 C:お客さんに聞き取り調査をしよう。 C:西蒲区からいらしているのか。花の育て方を教えてもらうために来た。花が本当に好きだと言っていたよ。 I:花の栽培の仕事の手順を話しながら仕事の演示を行い、子どもに活動を促す。 C:同じ間隔で植えるのは、難しいね。 C:ちょうどいい水の量はどのくらいだろうか。	・常に課題を解決するための聞き取り調査・体験活動であることを意識させながら、活動を行わせる。 ・教師は食育・花育センター内を見回り、子どもの相談に応じたり、注意を与えたりする。
③活動を振り返り、調査の方向を修正したり、仕事体験して分かった解決の糸口について意見を述べたりする (30分)	T:聞き取り調査について、グループごとに途中結果を発表し合わせ、どんな人を中心に調査するかなど、後半の調査方法を修正するよう助言する。 C:お年寄りに聞いていないから、後半はお年寄り中心で調査しよう。 I:仕事体験をして分かったことが、課題解決のヒントになっているか質問し、課題への意識を強めさせる。 C:見やすいように高さにあわせて花を並べる工夫をしていたよ。だから、お客さんは気持ちよく花を見ることができんだ。そんな工夫をもっと体験してみたいな。	・聞き取り調査グループは教師が集め、活動の見直しを行わせる。仕事体験グループは、インストラクターが集め、体験して分かったこと、感じたことを記録させる。
④振り返り結果をもとに、聞き取り調査や、花の展示、食の啓発等に関する体験活動を行う (40分)	I:活動の振り返り結果をもとに、後半の聞き取り調査や花の展示等の仕事体験のチャレンジを促す。 C:人間って、本当に花が好きなんだね。花があるから、心が休まるんだね。家でも育てよう。 C:食事と健康の関係について知りたい人がたくさんいるんだね。	・自分の考えを確実に言語化させ、ノートに記述させる。
⑤まとめと振り返りをする (15分)	T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターへお礼を述べる。	

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
学習方法(収集・分析)	・来場者等の考えを調べたり、仕事体験をしたりして、調査活動や体験活動への意欲をもつとともに、実践に役立てようとしている。	行動観察
自分自身(自己理解)	・調査活動や体験活動を振り返り、自分と花・食との関わりに気付いたり、これからどのように花・食にかかわるか考えをもったりしている。	振り返り作文
他者や社会とのかわり(協同)	・他の児童と協力して、聞き取り調査に取り組んでいる。 ・食育・花育センターの職員の視点に立って、仕事体験に取り組んでいる。	行動観察

④ つくって学ぶ命

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

・実施期間	通年
・最大人数	40人
・費用	800円/人（ソーセージ材料費込み）

が 魂 自分が育てる（世話する） ➡

自分が消費する（加工する・調理する・飲食する・作品にする）

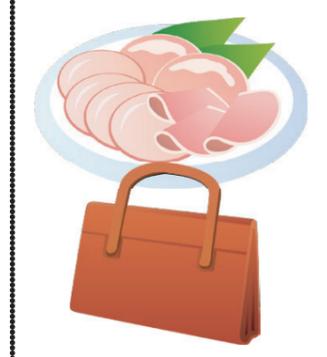
人間はなぜ、動物の土偶を作ってきたのだろうか。

①羊の世話体験 (動物ふれあいセンター)

からだがとても温かい。
心臓はドクンドクンと音がしてる。
羊さんはこういうものを食べているんだね。



・肉はステーキやハムに…。
・毛はセーターに…。
・皮はバッグやベルトに…。



②食肉加 (食育・花育

・ソーセージにひき肉を詰めるのは難しいぞ。
・ペアで息を合わせないとうまく肉が入っていかないよ。
・家畜の腸がソーセージの皮だなんて、人間は工夫してるなあ。

せっかくのお肉だから無駄にはいけないね。

工体験 センター)

ソーセージは動物からの贈り物みたい。ありがたね。



③動物の土偶づくり体験 (こども創造センター)

昔から、世界中で動物の土偶が作られてきました。そこに込められた人間の願いは、どんなものだったかという…。

おいしいお肉を食べさせてくれてありがとう。上手につくるからね。



学習指導要領上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校5年：総合的な学習の時間

- ・羊の世話，食肉加工体験，土偶作りといった活動をする中で，人はなぜ土偶を作ってきたのか探究的な学習を展開することができます。
- ・他者や自然，環境と共に生きる積極的な「開かれた個」（中教審答申）を育てるための協同的な作業・学習が展開できます。
- ・自分の生活が様々な動物の生命によって支えられていると気付くことで，自己の生き方を考えられるようになります。

*** 総合的な学習の時間の学習課題：「横断的・総合的な課題」**

羊の世話・食肉加工体験・土偶づくり体験の学びの可能性

- 感性を働かせながら，作りだす喜びを味わい，生命感や目に見えない心，美術文化などの点に焦点を当てるならば…
*** 小学校図画工作の内容A（1），中学校美術の内容のA（1）**
- 食肉加工体験を「白根ポーク」などのフードブランドや農業生産と関連づけて学習活動を構成していくならば…
*** 小学校5年社会の内容（2）「我が国の農業や水産業（食料生産）の様子と国民生活との関連」**
- そのほか，生命について考える「道徳」の体験の場とすることもできます。

実践例 「つくって学ぶ命」

1 関連する単元名 小学校6年 総合的な学習の時間 「つくって学ぶ命」(19時間)

2 関連する単元の目標

- 家畜に触れたり、加工食品を作ったり、動物の土偶を作ったりする活動を通して、古代人と現代人に共通する命に対する畏敬の念や人間の命を支えてくれる動物などの豊かな恵みへの願いを知り、今も様々な命をいただいて生きていることに感謝して生活できるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 日本の土偶や世界の土偶を調べよう (7時間) 4~5月

- 体験の前
- 社会の教科書の動物の土偶を手がかりに、古代人の願いや思いを調べようとする意欲をもつ。 <課題設定>
 - 日本の土偶や世界の土偶について調べる。 <情報収集>
 - 動物を素材としたその他の古い芸術作品を調べる。(例;ラスコー洞窟の壁画) <情報収集>
 - 動物の土偶や壁画に込められた人間の命を支えてくれる動物への感謝の念や願いについて話し合う。 <整理・分析>
- ・「つくる」活動を通して、古代人の追体験をしようとする意欲をもつ。 <整理・分析>

(2) 「ふれる・つくる」で命を感じよう (12時間) 6~7月

学習課題例

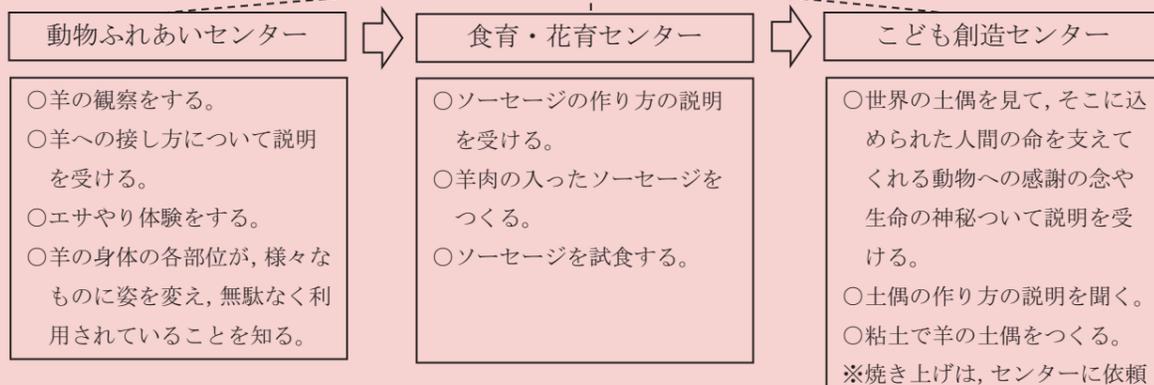
人間はなぜ、動物の土偶を作ってきたのだろうか。

いくとぴあ食花での体験学習 <5時間>

※いのちをいただくことへの「感謝」を「いくとぴあ食花」の3施設を貫いて学ぶ。

<学習課題例>

人間はなぜ、動物の土偶を作ってきたのだろうか。



まとめのメモ例

「私たちは、動物の命をいただいて生きている。感謝の気持ちから土偶を作ったからだ。」
 「世界のいろいろな所で土偶が作られた。動物に感謝する気持ちは、みんな同じなんだ。」

- 体験の後
- エサやり体験、ソーセージ作り、土偶作りで感じたことを書き出す。 <整理・分析>
 - 古代人と現代人を比較し、動物の命に関して共通すること、違うことという視点で整理する。 <整理・分析>
 - 「人間はなぜ、動物の土偶を作ってきたのか」について考える。 <整理・分析>
 - 活動の記録写真と土偶をレイアウトし、説明する言葉を添えて校内展示ゾーンをつくる。 <まとめ・表現>

4 本時のねらい

いくとぴあ食花の3施設で羊の世話をしたり、食肉加工体験をしたり、土偶づくりをしたりすることを通して、生きものが姿を変え、人間の生活を豊かにしていることに気付くことができる。命をいただいている観点から自分たちの食や生活を見直し、動物の命に感謝して生活しようとする。

5 本時の展開例 (225分=5時間)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C:)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (5分)	T:学習課題を確認し、インストラクター (I)を紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって、安全・安心に活動に臨めるようにする。	・学習対象;家畜(主に羊)加工食品、土偶 ・学習事項;家畜の命、食品の加工方法と使い切る人間の知恵、命に対する感謝
②羊の世話をする (20分)	I:えさの内容物と与え方、毛並みの整え方、聴診器で心音を聴く方法などを具体的に伝える。 C:こういうものを食べているのか。 C:毛がこんなに厚いし、とても温かい。 C:人間と同じくドキンドキンしている。	・飼料の匂い、手触り等から内容物を予想させ、友だちと共有させる。 ・温かさや心音、呼吸の様子に注目させ、生きていることを実感させる。
③羊の身体各部位がどんなものに変化するか考える (15分)	I:羊がどんな風に人間の生活に役立っているか、パネルで説明する。 C:毛はセーターやジャケットになるよ。 C:肉はステーキやハムになるよ。 C:皮はバッグやベルトに使われる。 C:骨も肥料に使われるのか。 C:もったいないから無駄なく使うんだ。 C:命をもらうんだからね。	・凶入りのパネルと、児童用ワークシートを用意し、各部位が何に加工されるか線で結べるようにする。 ・なぜ無駄なく使い切るのかを考えさせ、それが人間の知恵であり、命への感謝につながることを強調する。
④羊の腸と肉を使ったソーセージ作りをする (90分)	I:ソーセージの作り方とともに、消化管のつくりについて説明する。 C:腸ってこんなに長いんだね。 C:ソーセージは「腸詰め」だったのか。 C:腸はこんな風に層になっていたのか。 C:中膜だけ使うなんておもしろい。 C:いろいろな知恵が生かされているんだね。 C:ひき肉を詰めるのは難しいぞ。	・腸の仕組みやソーセージに使われる部位を具体的に示し、工夫してきた先人の知恵に気付かせる。 ・材料を無駄にしないことが、家畜への感謝であり、同時に上手な後始末に繋がることを体感させる。
⑤動物への感謝の念を表すため、土偶作りをする (80分)	I:世界の土偶を紹介しながら、そこに込められた人間の思い(命に対する畏敬の念、食料となる動物の恵みに対する感謝の念など)について説明する。 C:世界中で動物の土偶が作られていたのか。 C:いのちをもらっているから感謝するのが人間の自然な気持ちなんだな。 I:土偶のつくり方を説明する。 C:今日見た羊に似せて作るぞ。 C:「ありがとう」が表れるようにしたいな。	・写真を示し、世界各地で様々な動物の土偶が作られていたことに気付かせる。 ・土偶から読み取れる人間の願いや思いを説明する。 ・今日の学習を振り返り、羊への感謝の言葉を子どもから引き出し、心を込めて作ることができるように導く。
⑥まとめと振り返りをする (15分)	T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。	

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
学習方法 (思考・判断)	・土偶を作った古代人の考え方と自分の体験したことを比較したり、関連付けたりして考えている。	ワークシート 発言
自分自身 (自己理解)	・材料を使い切る人間の知恵や土偶作りには命への感謝があることに気付き、自分の食生活を改善しようとしている。	振り返り作文
他者や社会とのかかわり(協同)	・他の児童と協力して、羊の世話やソーセージ作りに取り組んでいる。	行動観察

⑤めざせ！和食で“家庭遺産”@いくと

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

自分が消費する(調理する・飲食する)

どのような手順, こつで作ると, おいしいみそ汁ができるだろうか。

①おだしをとってみそ汁をつくろう!



だしこそが命!



おいしいみそ汁に変身させてね!



確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校5・6年：家庭

- ・和食の基本の「だし」のことや, 新潟市で生産・漁獲される四季折々の食材を知ることにより, 和食や新潟の食材への興味や関心を高めることができます。その上で, 新潟の食材を使った栄養満点の和食メニューを考え, 栄養士の指導や助言をもらい, 学校での調理実習につなげていくことができます。
- *家庭の内容B(2)「栄養を考えた食事」**
- ・新潟の食材を使った栄養満点のメニューを考えます。旬の食材を生かした和食の基本的な1食分の献立を作ることで, 家庭で実践しようとする態度や郷土愛を育むことができます。
- *家庭の内容B(3)「調理の基礎」**

ぴあ

- ・実施期間 10月上旬～下旬
 - ・1班最大人数 40人(5人×8班)
 - ・費用 約100円/人(みそ汁材料実費)
- ※いくとぴあ食花団体体験プログラムを活用

自分が育てる(見学調査する・作品にする)

栄養バランス, 家族の好みを満たすのは, どんなメニューだろうか。

②食育ビンゴゲーム ③目指せ！満点食事バランス



野菜以外の新潟のすばらしい食材も使って献立をつくれませんか?

栄養のバランスはどうかな?



こんなにおいしそうな食材が生産されたり穫れたりしてるんだ!

郷土の食材を生かした和食作り体験の学びの可能性

○お米, 野菜, 魚介等の食材の生産等にさらに重点を置くならば…
小学校5年社会の内容(2)「我が国の農業や水産業(食料生産)の様子と国民生活との関連」ウ

※「総合的な学習の時間」で, 世界的に注目されている「和食のよさ」を追究する単元の導入として位置付けることもできます。

※野菜の収穫や堆肥作り体験を取り入れたい場合, 本誌P98「小学校編その1(1)アグリパーク⑩まかせてね今日の食事～アグリ定食を作ろう<6年 家庭>」を参照

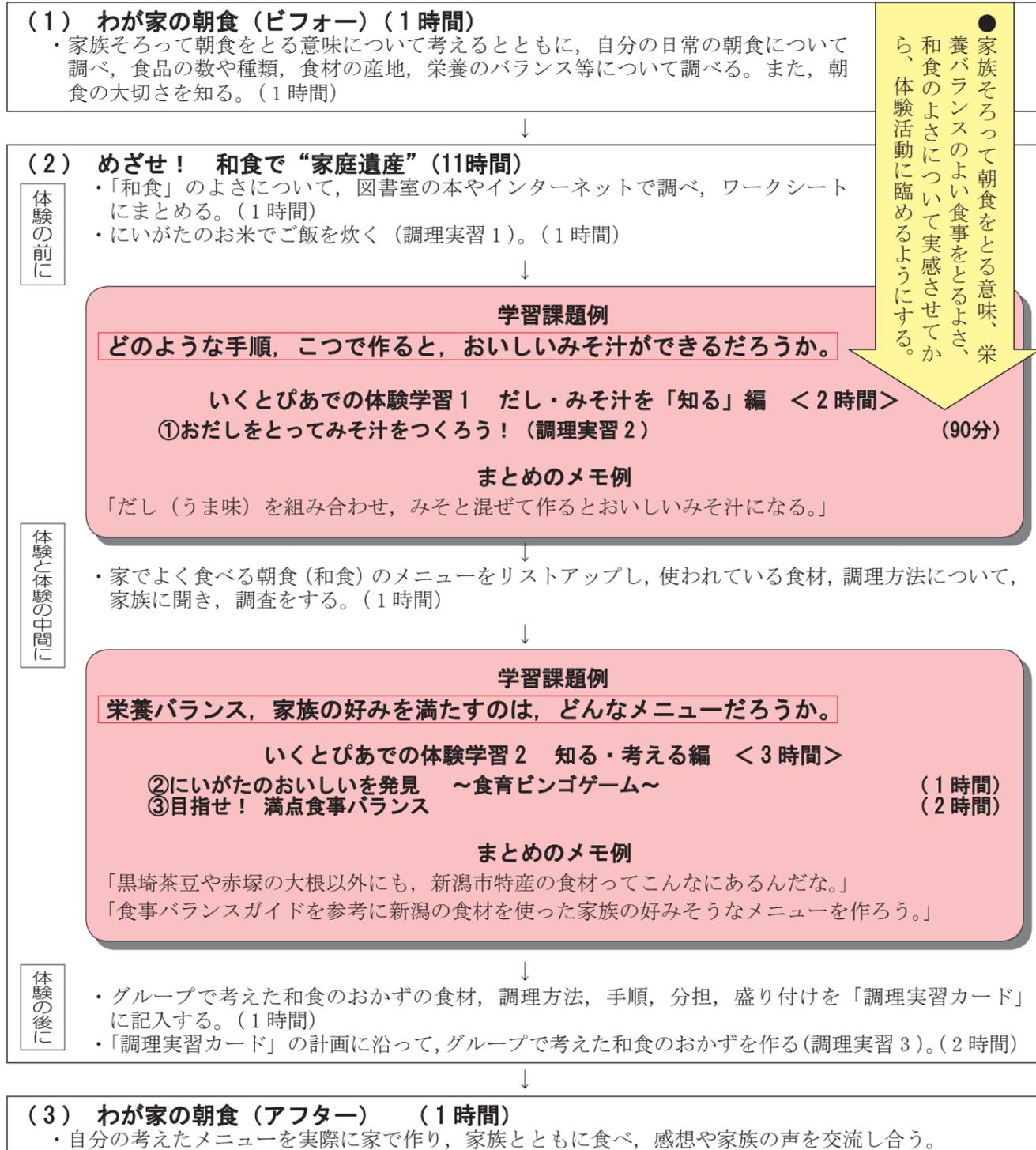
実践例「めざせ！和食で“家庭遺産”@いくとぴあ」

1 関連する単元名 小学校6年 家庭「家族そろって和食で朝ご飯」(13時間)

2 関連する単元の目標

- ・栄養のバランスを考えて、家族のための献立を進んで作り、日常生活の中で実践できるようにする。
- ・家族と食べるために必要な食材の分量が分かるとともに、自分で手順や方法を考えて調理することができるようにする。
- ・調理器具の安全な取り扱いができ、家族の好みや見た目の美しさを考えて、調理したり盛りつけたりできるようにする。
- ・朝食を家族と一緒に食べることで、家族の心の結び付きが深まることを知ることができるようにする。
- ・朝食を食べることと体の健康について知ることができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け



<1>だし・みそ汁を「知る」編

4 本時のねらい

家族で食べる朝食作りについて、だしをとったり、みそ汁を作ったりすることを通して、手順を知る。

5 本時の展開例(90分=2時間+試食・片付け)

学習活動	教師(T)・指導員(I)・子ども(C)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ(5分)	T:学習課題「どのような手順、こつで作ると、おいしいみそ汁ができるだろうか」を確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項、道具や食材の位置、調理コーナーの位置を説明し、見通しをもって、安心、安全に活動に臨めるようにする。	・視覚情報を用いて説明し、どの子どもにも理解できるようにする。 ⑩注衛生面、安全面に配慮する。
②だしのとり方の種類と手順について説明を聞く(30分)	I:出汁の種類について説明する。 ○だし=うま味 ○和食のだしの種類と適した料理、手順 ・煮干しだし ・昆布だし ・かつおだし ・実物の昆布、かつお節を見せる。 ・かつお節を削って見せる。 ・だしの飲み比べ (例)だしあり/なしのみそ汁 C:だしにはいろいろな種類があるんだな。 C:だしを組み合わせることで、おいしくなるんだな。	・家族で食べる朝食(和食)を作るというゴールを確認してから体験させる。 ・体験する日は給食を止め、家庭からおにぎりを持参するよう連絡しておく。 <準備> だしの種類やとり方を示した写真やスライド資料、味見用の実物、鍋、菜箸、おたま、皿、野菜用ボウル、ざる、台ふきん、子ども用包丁、ピーラー、まな板、まな板敷き、計量カップ、水切りネット、煮干し、味噌、旬の野菜、汁椀、手順を書いたプリント ・グループに1人ずつ補助者がつくことが望ましいが、無理なら学習ボランティアを依頼しておく。 ・完成した料理の写真を撮影しておく(T)。
③だしをとってみそ汁を作る(45分)	I:みそ汁の基本的な作り方を説明する。[デモ] ・煮干しだしの取り方 ・野菜の選び方、包丁の使い方、野菜に応じた切り方の種類 ・煮干し取り出し、野菜入れのタイミング ・みその溶き方、火加減 C:だしをみそと混ぜてから入れると溶けやすいな。 C:おいしそうにできた。家族に喜んでもらえそう。 I:後片付けの方法、手順を説明する。 T:試食後、後片付けを指示する。	
④まとめと振り返りをする(10分)	T:みそ汁作りの手順やこつをまとめる。振り返りでは、家族で食べる朝食作りについて、献立作りや調理の見通しなど、この活動を踏まえた自分の考えをまとめのメモに書くように指示する。	・次の活動に向けて、栄養士からみそ汁の栄養的なバランスを説明してもらおうとよい。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	説明をよく聞き、みそ汁を進んで作ろうとする。家族で食べる朝食の献立作りの見通しをもつことができる。	実習の行動観察 振り返りシート
創意工夫	準備や片付けの手順を考えて、材料の選び方、切り方等を工夫して調理することができる。	実習の行動観察
生活の技能	調理器具の安全な取り扱いができ、切ったり、加熱したりできる。	実習の行動観察
知識・理解	だしのとり方や野菜に合った調理方法・手順が分かる。	振り返りシート

<2>知る・考える編

4 本時のねらい

家族で食べる朝食作りについて、産地に関するゲームや栄養バランス調べを通して、新潟の食材への理解を深めるとともに、これらの食材を使った栄養バランスのよい和食メニューを考えることができる。

5 本時の展開例 (135分=3時間)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (5分)	T:学習課題を確認し、指導者を紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって、安心、安全に活動に臨めるようにする。	・視覚情報を用いて説明し、どの子どもにも理解できるようにする。
②新潟市で生産・漁獲された旬の食材がテーマのビンゴゲームをする (40分)	I:にいがた流食生活マニュアルの食材表を基に、旬の食材についてクイズを出題・答え合わせをした後、ビンゴシートに書かせる。(T:ICT機器操作) C:有名な黒埼茶豆や赤塚の大根以外にも、新潟の食材がたくさんあるな。 C:桃や梨、ブドウなどおいしい果物がたくさん穫れる。 C:カレイの養殖もしていたな。のどぐろは高級だぞ。 I:ビンゴゲーム後、新潟市特産の食材について説明する。	<準備> ビンゴセット、ビンゴ表(ワークシート)、ビンゴ賞、ホワイトボード、フェルト食材、にいがた食材シール ・スライド映像や実物を提示する。市内8区の地図で特産地が分かるようにする。
③朝食メニューの栄養バランスをチェックする (45分)	I:朝食メニュー調査をワークシートに書かせる。 C:ごはん、みそ汁、焼き鮭、卵焼き、ヨーグルト I:食事バランスガイドを基に栄養バランスについて説明し、食事バランスをチェックさせる。(栄養士) 【何を】黄…主食、緑…野菜、赤…魚・肉・卵・豆 紫…乳製品、青…果物 こまのひも…菓子・ジュース類 【量】1日の必要量は、年齢、性別等によって違う C:緑が少ない。野菜をもっと食べなきゃ。	<準備> 食事バランスガイドのパネル、ワークシート、満点バランスカード、まいかちゃんスタンプ、スタンプ台、実物大そのまんま料理カードまたはフードモデル
④新潟の食材を使った栄養満点のメニューを考え、メニューシートに絵と言葉でかく (35分)	I:新潟の食材、栄養バランス、家族の好みを満たすのはどんなメニューだろうかを問い、食事バランスガイドを参考に、ご飯、味噌汁に合う野菜料理、新潟らしい加工食品を使った料理、果物の3品の栄養満点のメニューをグループ毎に考え、メニューシートに書くよう指示する。 I:ゆでたり炒めたりできそうな旬の食材例、それに合った調理方法、栄養についての情報を提供する。 C:秋野菜で野菜炒めを作ろう。 C:ふろふき大根がいいな。 I&T:個別にメニュー作成について助言する。	・8つのグループで考える。 ・旬の食材レシピ例を4つの方法で提示する。季節に応じて更新する。 a:スライド(全体説明) b:模造紙(一覧) c:ラミネートしたカード d:PCで検索 ・SAT(フードモデルから1食分の食事を選んで食事バランスの診断ができるコーナー)も活用させる。
⑤まとめと振り返りをする (10分)	T:家族で食べる朝食作りのポイントをまとめる。振り返りとして、自分で朝食を作る時に大事にしたいことをまとめのメモに書くように指示する。	・実際に家でも朝食を作ってみようと思うようによい点を認め、励ます。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	家族のための食事メニューを進んで考えようとする。	メニューシート
創意工夫	新潟の旬の食材、栄養バランス、家族の好みを満たすメニューを考える。	メニューシート
生活の技能	観点に基づいて、学習シートに考えを整理することができる。	活動の様子
知識・理解	旬の食材、食材の栄養素とそのバランスが分かる。	体験の様子

*C'est avec plaisir que nous apprenons l'ouverture de la ferme pédagogique de la ville de NIAGATA.
Sur notre ferme pédagogique en France, près de la ville de Nantes, nous avons reçu 2 fois une délégation de la ville de NIAGATA en 2006 et en octobre 2012. Représentants de la ville, chargés des questions éducatives ou agricoles, et personnes de la société (parent d'élèves, agriculteur, etc.) ont pendant plusieurs années travaillé, échangé, et visité jusqu'en France (!) pour construire ce projet. C'est une belle démarche de construction.*

Nous sommes dans une région d'élevage et nous avons une exploitation agricole en production laitière avec un troupeau de 45 vaches. Nous y accueillons depuis 13 ans des classes d'enfants de 3 ans à 15 ans, de tous niveaux scolaires. Nous sommes donc à la fois agriculteurs et animateurs des visites, et nous articulons le travail agricole (traite et alimentation des vaches, cultures des champs, etc.) et l'activité d'animation pédagogique.

Une ferme éducative est un formidable moyen d'apprendre aux enfants l'origine de l'alimentation, de prendre conscience que ce que nous mangeons vient du monde animal ou végétal, d'apprendre à respecter l'environnement. C'est ce que nous avons fait découvrir aux 2 délégations que nous avons reçues. Nous avons pu échanger sur ces objectifs.

De chaque côté du monde, nous sommes heureux de partager ces objectifs d'éducation à l'alimentation avec les acteurs de la ferme éducative de NIAGATA. Nous leur transmettons tout notre soutien.



Isabelle et Jean-Paul
(Ferme de la Puillière)

新潟市のアグリパークが開園されたことは大変嬉しいことです。

私たちの教育ファームはナント市近郊にあり、2006年そして2012年10月に新潟市視察団をお迎えしました。市の職員の方、教育委員会の方、保護者代表の方、農業代表の方たちが数年にわたりこのアグリパーク開園のためにフランスまでいらっしやう、意見交換をし、教育ファームを訪問し、学びました。これはすばらしい建設的な行動と言えるでしょう。

私たちは家畜の盛んな地方に住み、45匹の乳牛を飼っています。13年前から3歳から15歳の子どものためのクラスを受け入れています。ですから農業を営む者として牛の世話、乳絞り、飼料生産をすると共に教育ファームの指導員としても活動しています。

教育ファームは子どもたちに、食物の源、そして食べ物は動物と植物の世界からきていること、そして環境を大事にすることを学んでもらうための素晴らしい手段です。そのことを新潟市からいらした視察団の方々にも分かって頂き、この目的に向かっての意見交換をすることができました。

お互いに世界のはしにいなながらも、新潟市の教育ファームの担当者と共に食育に関するこの目的を分かち合えることは幸せなことです。そして心からの応援を送ります。【レモン洋子氏訳】

ナント市近郊の農家教育ファーム「Ferme de la Puillière」 イザベルとジャンポール
(2006年、2012年フランス教育ファーム視察)



⑥ ペットの幸せ～動物愛護・ふれあいセン

- ・ 未来へのストーリー ★★★★★
- ・ 命のストーリー ★★★★★★
- ・ 郷土愛のストーリー ★★★★★

ターの取組～

・ 実施期間	通年
・ 1班最大人数	35人
・ 費用	無料

が 魂	自分が育てる(見学調査する) ➡
体 験 活 動	<p style="border: 1px solid red; padding: 2px;">ペットが幸せに暮らすために、私たちにできることは何だろうか。</p> <h3 style="text-align: center;">① 動物愛護センター見学・調査</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 迷子になった犬や猫が運ばれてきて、飼い主が現れるのを待っています。 ・ 飼えなくなってしまった犬や猫がやってくることもあります。 </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診察処置室には、診察台や治療器具があります。 ・ 譲渡会で新しい飼い主に出会うために、ケガや病気を治しておきます。 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>
学 習 指 導 要 領 上 の 位 置 付 け	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <h3 style="text-align: center;">確かな学び</h3> <p style="text-align: center;">プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <h3>○小学校6年：道徳</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動物愛護ふれあいセンター（特別活動）でペットや家畜の命に触れる体験をした子どもに、道徳の時間で、人間と自然や動植物との共存の在り方を積極的に考えさせ、自分にできることに取り組んで環境をよくしようとする態度を育むことができます。 ・ 命の誕生の喜びや死の重さ、生きることの尊さなどを考えることから自他の命を尊重し、生命に対する畏敬の念を育てることができます。 <p>* 特別活動〔学校行事〕 共通事項（4） 遠足・集団宿泊的行事 道徳の内容項目 3-（1）、3-（2）（D-（19）、（20））</p> </div>

自分が消費する(見学調査する)	
体 験 活 動	<h3 style="text-align: center;">② 動物ふれあいセンター見学・調査</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ これは新しい飼い主との暮らしに備えて、トレーニングをする部屋です。 ・ 家のリビングに似せたつくりになっています。 </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>・ 「この部屋に犬猫がいなくなるのは良いことでもあります」と書いてあるよ。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 譲渡会前の講習会で新しい飼い主に正しい知識をもってもらいます。 ・ 人も動物も幸せに暮らすためのポイントは…。 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">  <div style="width: 20%; border: 1px solid gray; padding: 5px; font-size: small;"> <p style="text-align: center;">犬・猫の入舎予定について</p> <p>新潟市動物ふれあいセンターに来る犬・猫は保健所に保護された飼い主の居ない犬・猫が対象になります。多くの方に見ていただき、新しい飼い主に出会えるようにより良い譲渡に向けたトレーニング等を行う部屋です。この部屋に犬猫が居なくなるのは良いことでもあります。すべての犬・猫が新しい飼い主に出会い、空室の場合もあります。ご了承ください。</p> <p style="text-align: right;">新潟市動物ふれあいセンター</p> </div>  </div>
学 習 指 導 要 領 上 の 位 置 付 け	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <h3 style="text-align: center;">ペットの幸せを考える学びの可能性</h3> <p>○調査した事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることに取り組んでいくなれば…</p> <p style="text-align: center;">※小学校6年国語 B 書くこと（2）ウ、エ（記述）</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>○家畜の世話体験との関連を強めて学習活動を進め、他の動物との比較材料として取り上げることで、生き物や命に関する気付きを深めることができます。</p> <p style="text-align: center;">※総合的な学習の時間の学習課題：「横断的・総合的な課題」 「稲も家畜も私たちのために」本書P122-125. 参照</p> </div>

実践例 「ペットの幸せ～動物愛護・ふれあいセンターの取組～」

1 主題名 小学校6年 特別活動・道徳 かけがえのない命（4時間）

2 ねらい

- ・生命がかけがえのないものであることを感じ取り、生命あるものすべてを大切にしようとする実践的な態度を育てる。(3-(1))
- ・自然の偉大さや不思議さに感動し、自然や動植物を尊重する実践的な意欲を育てる。(3-(2))

3 学習の流れと調査・体験活動の位置付け（特別活動&道徳）

【特別活動】（1時間）

（1）新潟市動物愛護・ふれあいセンターの取組を知り、関心をもつ

体験の前に
・「市報にいがた」※1に載っている「譲渡会」の記事やグラフ、新潟市動物愛護センターのチラシ（犬・猫の譲渡制度の紹介）を手がかりに、新潟市動物愛護・ふれあいセンターの見学で知りたいことを書き出す。

※1「市報にいがた 2451号」2014.2.1 動物と共に暮らせる社会を ～犬・猫へ 愛護の気持ちを大切に～

犬や猫などの適正な飼育や多頭飼育の届け出義務などを定めた「新潟市動物の愛護及び管理に関する条例」を昨年8月1日に施行してから半年が経過しました。本市では、毎年多くの犬と猫が収容され、譲渡対象とならない犬と猫は処分されています。動物愛護センターでは、収容数や処分数を減らすため、関係機関と連携して適正飼育の啓発や譲渡会などを行っています。…1匹でも多くの犬と猫が新たな家族に迎えてもらえるよう毎月譲渡会を行っています。譲渡会に参加するには、譲渡前講習会の受講が必要です。ペットを飼おうと考えている人は、同センターから迎えることも選択肢の一つにしてください。譲渡対象の犬と猫は随時、市ホームページに掲載します。

動物愛護センターには、所有者が分からない、飼い主の事情で飼えなくなったなどの理由で、毎年多くの犬と猫が収容されています。特に猫は、所有者が分からないことが多く、その収容数は犬に比べ多い状況です(グラフ)。同センターでは、譲渡に適する犬と猫については、新たな家族に迎えてもらえるよう譲渡を進めていますが、病気や人に危害を加える恐れがあるなど譲渡が困難な犬と猫は、やむを得ず処分しています。



（2）新潟市動物愛護センターと動物ふれあいセンターでの見学・体験活動

【特別活動】（2時間）→本時の展開例は、P235

①新潟市動物愛護センター見学→②動物ふれあいセンター見学→③質疑応答

学習課題例

ペットが幸せに暮らすために、私たちにできることは何だろうか。

（3）これからの自分の生き方を考える。【道徳】（1時間）→本時の展開例は、P236

体験の後に
・見学したり聞き取ったりしたことを整理して、動物愛護センター・動物ふれあいセンターの方々の願いや思い、努力をまとめる。
・新潟市動物愛護センターの取組を紹介した「市報にいがた新潟の記事」※2を読み、調査したことを思い出し、関連づける。
・資料の下線部分と関連付け、自分は「命」をどうとらえて、これからどう生きていきたいか考える。

まとめのメモ例

「命はかけがえのないものだ。実際に動物を見たりセンターの人から話を聞いたりして、強く思った。」
「人間の身勝手さは許されない。みんなで考えた動物の命を守るための方法をやってみたい。」

※2「市報にいがた 2485号」2014.10.12

動物ふれあいセンターにいる犬は、さまざまな事情で動物愛護センターに保護・収容された犬です。そのため、犬種や年齢、性格もさまざまです。動物ふれあいセンターでは、新しい飼い主が早く見つかるよう、犬の性格などをスタッフが見極め、トレーナーがしつけをし、獣医師などが健康管理をします。本来は新しい飼い主を探している犬が1頭もいないことが理想です。同センターに犬がいない時は、良かったと思ってください。

<1>動物愛護・動物ふれあいセンターでの調査・体験活動（特別活動）

4 本時のねらい

動物愛護センター・動物ふれあいセンターの訪問を通して、新潟市の動物をとりまく状況を把握するとともに、愛護のための取組や努力、働く人たちの思いや願いについて共感し、意欲的に調査したり体験したりすることができる。

5 本時の展開例（90分＝2時間）

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (10分)	T:めあてを確認し、センター所員を紹介する。 活動の流れと目的、注意事項を説明し、活動の見通しをもたせる。 I:二つの施設の設定の趣旨(条例など)と見学の心得(大声や感染に注意など)を一括で説明する。	・命の現場を見ることになるので、真剣な態度で臨むことを説く。 ・学習に先立ち、愛護センター大ホールにて両施設に共通する注意事項などを説明する。
②動物愛護センターを見学する (25分)	I:動物愛護センターの設立趣旨(条例)と見学の心得を確認しながら館内見学を引率し、各部屋の説明をする。 C:犬と猫の「飼育室」があるんだ。 C:「3/15 北区松浜 甲斐犬 ♂」と書いてあるよ。 もしかして迷子の犬かな?やっぱりそうか。 C:「診察処置室」って書いてある。中に動物病院みたいな台もあるよ。ケガや病気を治療するんだね。 C:「隔離室」は他の動物のためにも必要なんだね。 C:こんなにかわいいのに、どうしてここにいるんだろう。	・「新潟市動物の愛護及び管理に関する条例」について補足説明をする。 ・動物を刺激しないように静かに見学することや器具に触れないことを徹底させる。 ・限られた空間なので、質疑応答は後で行うことを伝える。
③動物ふれあいセンターを見学する (25分)	I:動物ふれあいセンターの設立趣旨と見学の心得を伝確認しながら館内見学を引率し、各部屋の説明をする。特に「譲渡制度」について詳しく説明する。 C:「犬の部屋」と「猫の部屋」で、人間と暮らす練習をしているなんて知らなかった。 C:譲渡活動を毎月開いているのか。たくさんの方が来るんだろうか。 C:みんな飼い主が見つかるといいね。 I:「犬の部屋」「猫の部屋」に動物がいないことが、実は動物にとっての幸せであることを説明する。	・リーフレットを基に「動物とのふれあいを通して、思いやりや優しい心を育み、動物への理解を深め、人と動物の関わりを学びます」というテーマを強調する。 ・譲渡会の実際について、写真などを用いて説明する。
④考えてきた質問をする (15分)	T:「市報にいがた」や「譲渡制度説明資料」、及び今日の見学から芽生えた質問をさせる。 C:飼い主はどうしてここにペットをもってくるのですか。 C:グラフを見ると収容数が減ってきていますが、何が理由と考えられますか。 C:新しい飼い主と暮らすために、どんな訓練をするんですか。 C:譲渡会にはたくさんの応募があるんですか。 C:譲渡会には誰でも申し込めるんですか。 C:どんな思いや願いをもってこの仕事をしていますか。 I:動物を飼うにあたり、大切なポイントを説明する。 ・最期まで命を預かる責任の自覚 ・しつけと健康管理の大切さ ・不妊、去勢措置の必要性 ・迷子にさせない努力 など	・人間の身勝手さで「命」を軽く扱ってはならないことを確認するとともに、動物だけでなく、命あるものすべてを大切にしてほしいことを強調する。 ・「動物とのふれあいを通して、思いやりや優しい心を育み、動物への理解を深め、人と動物の関わりを学びます」というテーマに立ち返り、今日の見学でどのように学べたか問い掛ける。
⑤まとめと振り返りをする (15分)	T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、所員の方に お礼を述べる。	・数人の子どもの感想を発表させる。

6 本時の評価

新潟市の動物をとりまく状況をつかみ、動物愛護のための取組や努力、働く人たちの思いや願いについて共感し、意欲的に調査・体験活動に取り組んでいる。

4 本時のねらい

調査・体験学習を振り返り、市報の記事資料や写真資料と関連付けることを通して人間と動物の共存や動物愛護のあり方を考え、自分たちの生活を見直そうとする実践意欲をもつことができる。

5 本時の展開例（45分＝1時間）

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①調査・体験学習を想起する（5分）	T:動物愛護センターと動物ふれあいセンターを見学した時の写真を提示し、どんなことが印象に残っているか発表させる。 C:かわいい動物の飼い主が早く見つかるといいな。 C:すて犬やすて猫がないようになってほしい。 C:無責任な飼い方をする人はやめてほしい。	・調査・体験学習の写真を投影する。 ・子どもの様々な感じ方を受容的に受け止め、率直に語り合える雰囲気をつくる。
②資料を読み、中核となるメッセージについて話し合う（10分）	T:「市報にいがた新潟」の資料（A＝前頁）と見学時の写真資料（B＝前々頁）を提示し、同じ意味の言葉があることを確認する。 C:「一頭もないことが理想」だって。 C:部屋に「犬猫が居なくなるのは良いこと」と書いてある。 C:確か、インストラクターの人もそう言っていたよね。 T:「一頭もないことが理想」「居なくなるのは良いこと」とは、どういうことを表しているか、問う。 C:捨てられる犬や猫がいなくなるといってこと。 C:つまり、捨てる人がいなくなるといいという意味だよ。 C:本当に、そうなるといいよね。	・「犬猫が居なくなる」という事象の背景には、どういう要因があるのか考えさせる。 ・結局、人の営みがもたらすものであることを子どもが発見できるように導く。
③ペットの幸せのために、自分たちができていることを考える（15分）	T:動物愛護センターや動物ふれあいセンターの願いに何か協力できることはないか考えさせる。 C:まずは、自分の飼っているペットを最後まで責任もって飼うことが大事だと思うよ。 C:動物愛護センターや動物ふれあいセンターの願いを学校のみならずにも知ってもらえるように呼びかけたい。 C:地域の人にも伝えたい。町内にチラシを配ろうか。 C:勉強したことを学校のHPで紹介しよう。	・自分の考えをまずワークシートに書かせ、その後、発表・交流活動をする。 ・願いは現在と未来の2つから整理される。＝「今いる動物がすべて譲渡できるとよい。」「持ち込まれる動物がいなくなるとよい。」
④呼びかけたい内容を整理する（10分）	T:「市報にいがた」や「譲渡制度説明資料」、各種リーフレットと関連づけながら、表現する際に必要となるキーワードや内容を選び出させる。 C:「最期まで命を預かる責任の自覚」は書くべき。 C:「しつけと健康管理の大切さ」も取り上げよう。 C:「不妊、去勢措置の必要性」。「迷子にさせない努力」。 C:「譲渡活動を毎月開いていること」も。 C:「センターにペットがないことが、実は動物にとっての幸せであること」も。	・人間の身勝手さで「命」を軽く扱ってはならないことを確認するとともに、動物だけでなく、命あるものすべてを大切にしたいことを全体のテーマとして加えるよう助言する。
⑤まとめと予告をする（5分）	T:よい考えがたくさん出たことを称揚し、今後の表現活動の見通しを説明する。	・表現活動は特別活動あるいは、総合、国語等の枠で行うこととする。

6 本時の評価

人間と動物の共存や動物愛護のあり方について自分なりの考えをもち、生活を見直そうとしたか。

Dans le système éducatif français, les élèves découvrent à leur entrée au collège (11/12 ans) une nouvelle matière, les Sciences de la vie et de la Terre (SVT). Tout au long de leur scolarité, au collège comme au lycée, l'alimentation humaine est l'un des sujets importants de cette matière.
Ainsi, dès leur première année au collège, comme le préconise le programme officiel, les élèves ont une première approche de ce thème, grâce à l'étude de « pratiques au service de l'alimentation humaine », étude axée sur deux chapitres : une culture ou un élevage ; une fermentation (comme le yaourt ou le pain).
J'ai fait le choix pédagogique de saisir l'opportunité de ce programme pour organiser une sortie à la journée dans une ferme pour tous les élèves de sixième de mon collège. Je suis à l'initiative et organisatrice de cette sortie, qui s'étale sur 3 jours, ainsi de que sa mise en œuvre pédagogique en lien avec les éleveurs .
Les objectifs que j'ai fixés sont multiples.
1- Tout d'abord, un bon nombre de mes élèves n'étaient jamais entrés dans une ferme et connaissaient bien vaguement le métier d'éleveur. Certains ne s'étaient pas posé la question de la production de nos aliments, dont le lait et le yaourt.
2- Même les élèves déjà familiarisés avec le monde agricole apprennent les méthodes et la rigueur des différentes pratiques à l'origine de la production (connaissances scientifiques et pratiques, techniques pour les cultures et l'alimentation des vaches, la traite, la reproduction et la sélection, la gestion des déchets, le respect des règles d'hygiène...). Ils finissent par dire : « il faut faire tout ça pour avoir du lait ! ». Ils ne pensaient pas que le fonctionnement d'une ferme était si complexe.
3- Je choisis de faire une sortie dès le début de l'année pour favoriser leur intégration dans la classe. Cela a donc pour effet de développer le contact entre eux, et avec les professeurs accompagnateurs (au nombre de trois par classe), ainsi qu'avec les éleveurs ; mais également avec les animaux (observation des vaches dans leur prairie, nourrissage des veaux et traite manuelle d'une vache).
4- Enfin, ils s'entraînent à une démarche d'investigation scientifique pour expérimenter la recette du yaourt et comprendre l'importance des différents paramètres de la fermentation, en les testant l'un après l'autre (présence de levures, chaleur...).
La ferme pédagogique de la Puillière se prête très bien à notre travail, puisque c'est une ferme fonctionnelle, en action (on voit même parfois passer le camion citerne de la laiterie). De plus, les éleveurs cultivent les céréales et les fourrages pour l'alimentation de leurs vaches : ainsi, les élèves bénéficient également de l'observation de cultures et de leurs transformations (farines, ensilages, balles de paille et foin...). Leur choix d'une agriculture raisonnée, sans intrants et dans le respect de leur environnement (une partie des prairies est en zone de marais protégée) permet bien sûr aux élèves de comprendre les enjeux du développement durable et son intérêt direct sur la qualité du lait pour notre santé. Enfin, des pratiques artisanales qui prennent en compte le développement humain, l'instauration de relations chaleureuses avec les élèves et professeurs, tout cela fait que les élèves passent une excellente journée, « mémorable » d'après les parents. Et le bon réinvestissement que l'on en fait tout au long de l'année le prouve aussi. C'est avec plaisir que j'ai partagé mon expérience des fermes pédagogiques avec la délégation de Niigata venue à la Toussaint 2012. J'espère garder le contact et pouvoir à nouveau échanger, cette fois-ci avec professeurs et élèves.

Aurélie SAGARRA
 (professeur de SVT au collège Rutigliano de Nantes)

フランスの教育システムでは中学校（11から12歳）に入学すると新しい教科＜生命と土地の科学＞が始まります。この教科は高校でも続き、＜人の食糧＞が重要なテーマの1つです。ですから中学校の1年から、文部省が奨励するように、生徒たちはこの教科の初めての体験をするわけです。＜人の食糧に関する実践＞テキストの中の2章＜栽培または飼育、発酵（ヨーグルトまたはパン）＞を先生たちは使用します。



私は私が働く中学校でこの教科の担当教師としてこのプログラムにのっとり、一年生全員の農家での一日体験を企画しました。3回にわたる一日体験と、飼育業者とも提携して教育内容を定めるこのプログラムの発起と共に企画を担当しています。

私が目標としたものは多数あります。

- 最初に、私の生徒たちの多数が農家に行ったことがなく、飼育業者の仕事をはっきり知らないこと。ある生徒たちは食糧 - 牛乳、ヨーグルト - の生産に関して質問も持たない。
- すでに農業になじみのある生徒でも生産活動に必要なさまざまな手段と規則（科学的認識と実践、飼料生産の技術と牛の飼料、搾乳作業、繁殖と選択、廃棄物の処理、衛生管理）を学びます。そして生徒たちは言うのです＜ミルクが作られるためにこれ全部をしなくては行けないの！＞。家畜業がこんなにたいへんであるとは思っていませんでした。
- 私はこの一日体験を新学期が始まってすぐに実行します。それは新しいクラスに溶け込ませる機会になるからです。生徒同士、同伴の先生（1クラスに3人）そして農家の人、さらには動物たち（草地での牛の観察、子牛の飼料与え、手での牛の乳絞り）とも親交が持てる機会になります。
- そして最後に、科学的研究の一環としてヨーグルト生産に挑戦します。発酵が持つ様々な要因の重要性を（たとえば、酵母菌があるか、温度の違い）、1つ1つ試しながら理解させます。

<la Puillière>の教育ファーム*はこの教科を実践するにはとても適したところです。と言うのはこのファームは機能的で（時にはミルクタンカーがミルク収集に来ているときにであうこともある）ある上、乳牛用の飼料として穀類、まぐさを栽培し、生徒たちは栽培だけでなくその加工（粉、サイロ貯蔵、わらの荷、干草の束）も観察できます。このファームの、化学肥料は使わず、環境に優しい農業方法（草地の一部は保護湿地帯）は生徒たちに継続的發展がいかに大事なことで、私たちの健康のためにミルクの質がいかに重要かも理解してもらえます。

そして最後に、物を手作りすることは人間を成長させること、生徒、先生の間で暖かい関係が持てること、このすべてが保護者によると素晴らしい一日、＜忘れがたい一日＞となるようです。またこの体験は教室でも一年中応用され、それを証明しています。

2012年には新潟市視察団のかたがたと私の教育ファームの体験を分かち合えたことは喜びです。これからは新潟の先生、生徒たちとも交流ができますことを期待しています。【レモン洋子氏訳】

ナント市 Rutigliano 中学校 - 命と土地の科学教科 教師 オレリー サガラ
 (2012年フランス教育ファーム視察)

※ <la Puillière>の教育ファームは、P231 参照

⑦卒業に向けて～台所でひとり立ち～

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

- ・実施期間 11月～3月
- ・1班最大人数 40人
- ・費用 約400円/人

魂 自分が育てる（見学調査する） ➡

手軽で、栄養バランスのよいおかずは、どうやってつくればよいだろうか。

- ① 直売所で安全な食材を ② おかずをつくろう
買おう



彩りきんぴらやポテトサラダの材料以外に色々な野菜が売っているね。

買ってきたものを使って、調理手順に沿って、彩りきんぴらとポテトサラダを作ってみよう。



体験活動

学習指導要領上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校6年：総合的な学習の時間

・家族に感謝の気持ちを表すために、弁当を作り上げていく活動は、まさに諸感覚を総動員したな探究的な体験学習です。さらに、友達の料理に触発されたり保護者の協力を得たりしながら行われる活動は協同的な学習となります。このように、食べることを考え実践することは、「自分が生きていく」ということを学び、弁当を作る体験を通して子どもは、保護者や家族への感謝をもって自立へと向かっていくのです。

* 総合的な学習の時間の学習課題：「横断的・総合的な課題」

自分が消費する（加工する・調理する・飲食する）

③ お弁当に一品を

「お弁当の日」には、自分でつくった一品を入れて持てきましょう。



④ バージョンアップ弁当を作ろう

⑤ お弁当でもてなそう



卒業の日まで大切に育ててくれてありがとうございます。お弁当をつくってみると、当たり前に食べさせてもらっていたことが、当たり前前のごじやないって気付きました。これから…

弁当づくりの学びの可能性

○調理の内容をみそ汁、野菜炒めなどに変更することで5・6年生の食に関する全単元につながることができます。

* 小学校5年家庭の内容B「日常の食事と調理の基礎」(1)

○弁当作りをしながら家族への感謝の思いに焦点付くように展開するならば…

* 小学校5・6年道徳の内容 4 (5) (C(15))

「父母・祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。」

実践例 「卒業に向けて ～台所でひとり立ち～」

1 関連する単元名 小学校6年 総合的な学習の時間

「卒業に向けて ～台所でひとり立ち～」(23時間)

2 関連する単元の目標

- ・弁当を自作する活動を通して、栄養のバランスや将来のための身体作りを考えたり、これまで育ててくれた親に感謝し、健康な食生活を送ることができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

①「弁当」について調べよう 11月 (4時間)

- ・日本に伝わる様々な弁当を調べる。(行楽弁当、宅配弁当、駅弁、コンビニ弁当、日の丸弁当、花見弁当、松花堂弁当等) <情報収集>
- ・コンビニ弁当や菓子パンだけの食事等を例に、栄養バランスや将来への影響等を知る。<情報収集>
- ・弁当の目的(労働の弁当、行楽の弁当、おもてなしの弁当)や栄養バランス等を分析する。<整理・分析>
- ・卒業を控えて、お世話になった家族に感謝の気持ちを込めてバランスよい食材でおいしい弁当を作って食べてもらおうという意欲をもつ。<課題設定>

②おかずをつくらう 12月 (6時間) …いくとぴあ食花での体験活動

- ・賢い買い物や健康的なおかずの作り方を知り、実際に作ってみようとする意欲をもつ。<課題設定>
- ・買い物計画を立て、いくとぴあ食花で買い物・調理をし、基本的なおかずの作り方を学ぶ。<情報収集>

体験の前に

学習課題例

手軽で、栄養バランスのよいおかずは、どうやってつくればよいらうか。

いくとぴあ食花での体験学習<6時間>

- ①直売所で安全な食材を買おう → ②おかずをつくらう
- おかずの決定 買い物計画立案 調理 試食
- 買い物

まとめのメモ例

「安全で栄養のある野菜を運ぶことが大切だ。」
「その野菜にあった方法で調理することも大切だ。」

体験の後に

- ・次の活動「おかずを一品お弁当に入れよう」に役立てたいポイントをまとめる。<整理・分析>
- ・気付いたことや感想を振り返りシートに記入する。<まとめ・表現>

※冬休みの課題として、料理に挑戦した記録を書く。

③おかずを一品つくってお弁当に入れよう 1月～2月 (4時間) …家庭との連携学習

- <課題設定> 親の作ってくれるお弁当に自分が作った一品を入れるとしたら、何がよいか考える。
- <情報収集> 必要な材料や作る手順について調べる。
- <整理・分析> 購入物品や作る品物について保護者へのお願いの文章を書く。何時に起きて台所に立ち、どんな手順で作るかを整理する。
- <まとめ・表現> 保護者と一緒に台所に立ち、おかずを一品作る。(可能なら複数品) 弁当を学校に持参し、紹介し合う。(給食停止)

④バージョンアップ弁当を作ろう 2月～3月 (4時間) …家庭との連携学習

- <課題設定> 友達のお弁当を紹介しあった後、栄養満点で、家族がおいしく食べられるお弁当を作る意欲をもつ。
- <情報収集> 家族の嗜好を調査し、必要な材料や量について調べる。
- <整理・分析> 必要な材料や量について整理し、購入計画を立てる。
- <まとめ・表現> ・保護者とともに材料の買い出しに行く。
・当日のスケジュールを確認する。
・作業手順を確認する。
・試作品を何回か作り、改善点を考える。
・家族の感想や自分の気付いたことなどを振り返りシートにまとめる。

⑤お弁当でもてなそう 2月～3月 (5時間)

- <課題設定> 卒業の日の昼食に、手紙を添えた手作りのお弁当を渡し、家族に感謝の気持ちを伝える意欲をもつ。
- <情報収集> 感謝の気持ちを伝えるためのお弁当の内容と作り方について調べる。
- <整理・分析> 材料の購入計画と作成手順についてまとめる。
- <まとめ・表現> 保護者の手を借りずに弁当を作る。卒業を祝う会で保護者に手作り弁当と手紙を渡し、6年間の感謝の気持ちを伝え、一緒に食べる。

4 本時のねらい

いくとぴあ食花の施設を利用した弁当作りを通して、食事の栄養バランスを考えたおかずの作り方を理解するとともに、自分の食事を作り続けている人に対する感謝の気持ちをもつことができる。

5 本時の展開例 (270分＝6時間)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①学習課題を確認する (5分)	T:学習課題を確認しインストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、活動の見通しをもたせる。	・学習の流れを視覚的に表したボード等を示して見通しを持たせる。
②手軽に作れて、栄養バランスのよい料理について知る (10分)	I:栄養も豊富なレシピ (食花スペシャル彩りきんぴら、ポテトサラダ) について紹介する。 C:どんな野菜が入っているのかな?	・実物 (写真でも可) を提示する。
③野菜の買い物計画をたてる (20分)	T:きんぴらとポテトサラダの材料をいくとぴあ食花で買う計画を立てること告げ、安全で栄養のある野菜を選ぶためにどうすればいいか問う。 C:野菜に付いている表示を見ればいいよ。 C:表示を見て自分が納得できるものを買おう。 C:どのくらいの量を買えばいいのかな?	・買い物メモの用紙を配布する。
④いくとぴあ食花で食材を吟味して実際に買う (50分)	I:いくとぴあ食花に引率して材料を買いに行く。 C:江南区の農家の人が作ったジャガイモだよ。 C:このくらいの量がちょうどいいよ。	・表示をよく見てからカゴに入れているかチェックする。
⑤料理作りに挑戦する (115分)	I:グループごとに手順・安全のための配慮事項を確認し、調理を支援する。 C:油を多すぎないようにね。 C:どのくらい火を通すと栄養面でいいのかな?	・各グループに一人の体験補助員を置く。
⑥持参したおにぎりと合わせて試食し、後始末をする (55分)	I:出来具合を話題にしながら食べるように指示する。 C:思ったよりおいしくできたよ。 C:これなら家でもできそうだ。 C:違うメニューもお母さんに聞いてみよう。	・家でも作ってみたい! という気持ちをもたせるような雰囲気づくりに努める。
⑦活動のまとめと振り返りをする (15分)	T:今日の活動で気付いたことや感想をシートに書かせ、数人に発表させる。 C:今日やったことを生かして家でも作ってみたい。他のメニューもやってみたい。 C:家の人がお弁当や料理を作るのは簡単なことじゃないな。感謝しないとイケない。 T:学習のまとめを行い、指導員にお礼を述べる。	・作ってくれる人への感謝の気持ちを書いた子どもを意図的に取り上げ、共有させる。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
学習方法 (収集・分析)	・料理の本やインターネット、家人などから情報を集め、実践するために必要なことを考えている。	収集・整理資料 行動観察
自分自身 (自己理解)	・自分の身体の成長に必要な栄養を考え、望ましい食生活について考え、行動しようとしている。	振り返り作文
他者や社会とのかわり (協同)	・料理を作ってくれる人の苦労や願いを感じ取り、感謝して食べようとしている。	振り返り作文 行動観察

感謝の心と生きる力を育てる教育ファーム

一生懸命生きている地球の生き物たち。
それを食べることで、その生きる力が自分たちの中に入ってくる…

「かわいそうだなあ…でも食べないと自分が死んでしまう…」
「ごめんね。あなたのいのち、いただきます！」
日本人の持つ「いただきます」のころとはこんな感じなのかもしれません。
「美味しいなあ…」と味わいながら、自分たちが地球の大きないのちの循環の中で生かされていることを実感していたのだと思います。



子どもたちは素直です。
生ごみ（食べきれなかった食べ物さん）からスタートして、土の菌ちゃんを育て、菌ちゃんの力で野菜を育てる…
このいのちの循環を通した菌ちゃん野菜作りを体験させると、子どもたちから、とってもピュアであたたかい、いろんな言葉やエピソードが出てきて、私たち大人の心が洗われてくるんです！

1日3回、心の底の方で、ありがとうって思いながら食事ができる子は、とっても健康で、優しく、幸せな人生をおくれる人になるに違いありません。

そんな思いが浮かぶためには、自分で食べ物を作って料理することしかない気がします。
食卓に並ぶまでの食べ物さんの人生を想像できること。
人のために料理を作ってあげられる喜びを知ること。
これこそ、幼児～子ども時代に体験すべき大切な大切なものだと思います。

新潟市のこの取組が大成功して、日本中に広がっていくことを、待ちに待った思いで、はらはらしながら、これからも応援させてください。

NPO法人大地といのちの会 理事長 吉田 俊道
(菌ちゃんリサイクル元気野菜づくり考案者、平成25年度新潟市教育ファーム実践セミナー講師)

1 小学校編 (3) 近隣農家

- | | | |
|-----------------------|---------|-----------|
| ① そうだったの！冬咲きチューリップの秘密 | <3年 社会> | …………… 244 |
| ② おいしい柿づくりのひみつ | <3年 社会> | …………… 248 |

① そうだったの！冬咲きチューリップの

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

秘密

- ・実施期間 10月中旬～1月中旬
- ・1班最大人数 40人
- ・費用 100円程度/人

魂 自分が育てる（見学調査する） ➡

どうやって冬にチューリップを咲かせるのだろうか。

①ビニルハウス調べ **②農家の人へ質問**

早く花を咲かせるための工夫を見つけるぞ。

ビニルが2重になっているのは、暖かさを保つためです。

中は、思ったほど暖かくないけどやっぱり暖かい。

ストーブのようですが、これで中を暖めているのですか？

ハウスのビニルは2重になってるよ。

そのとおりです。ビニルの筒のトンネルに暖かい風を送っています。

学習指導要領上の位置付け

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校3年：社会

- ・ビニルハウスの見学，農家の人へのインタビュー，冬咲きチューリップの栽培等の活動を通して，新潟市の農家の工夫や努力について気付いていくことができます。
- ・栽培での体験をもとに，新潟のチューリップの特徴やよさをまとめ，PRする活動を通して，ふるさと新潟のすばらしい面に気付かせていくことができます。

*** 社会の内容（2）「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」イ**

自分が消費する（見学調査する） ➡ 自分が育てる（植える）

③農家の人からのお話

球根を植える前に，ある特別な場所に入れます。ここにはないので写真を見せませす。どこだと思いますか？

冷蔵庫だ！中に入れて冷やすということは…

冷蔵庫で冷やすことは，どういう理由かな？

冷やして，寒くして冬と思わせるんだ！季節をかえるのが農家の人々の工夫なんだね。

④栽培活動

みんなで冬咲きチューリップ栽培に挑戦しよう！

⑤PR活動（食育・花育センターにて）

冬咲きチューリップ栽培の学びの可能性

- お世話になって人たちを招いての感謝の会（6年生を送る会，地域の人を招いての会）で，冬咲きチューリップをプレゼントすることを目的に，栽培活動を行っていくなれば…
- * 小学校1～5年特別活動〔学級活動〕**
- チューリップの球根や切り花を収穫し，きれいに包装し，販売するなどの活動も取り入れ，社会で学習したことも生かしていくように学習活動を構成していくなれば，総合的な学習の時間として位置付けていくこともできます。

実践例 「そうだったの！冬咲きチューリップの秘密」

1 関連する単元名 小学校3年 社会「チューリップ農家の人の仕事」(18時間)

2 関連する単元の目標

- ・わたしたちの地域には農産物の生産にかかわる仕事があり、自分たちの生活を支えていることや、これらの仕事に見られる特色、他地域とのかかわりを理解するとともに、農家の仕事と自分たちの生活との関わりを考えることができるようにする。
- ・地域の農家の仕事について、観察・調査したり、表現したりすることを通して、仕事の特色や他地域との関わり、仕事に携わる人々の工夫を具体的に考えることができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 新潟市で生産される花木を調べよう(10月 2時間)

- ・新潟市の農産物の特色を調べ、野菜のほか球根や切り花の生産が盛んであることや、特にチューリップは広い畑で球根用の栽培、ハウスでは切り花用の栽培が行われていることを知る。

(2) 冬咲きチューリップの秘密を探って育てよう(11月 9時間)

- ・春咲きチューリップと冬咲きチューリップの栽培暦を示し、なぜ冬に切り花チューリップを出荷するのか、どのように冬に咲かせるのかについて問題意識を高め、予想を立てる。
- ・冬用の栽培の工夫と一般的な栽培の工夫とを整理して、質問やインタビューの準備をする。

体験の前

学習課題例

どうやって冬にチューリップを咲かせるのだろうか。

花農家での体験学習 <2時間>

①ハウス内外工夫探し→②工夫等についての確認インタビュー、農家の人の話

- ※②の工夫については、ハウスの二重構造、温風ヒーター、温度センサー、冷蔵室等による季節の操作の工夫を中心に行う。
- ※子どもが体験活動の中で気付かなかった工夫については、すぐに説明をするのではなく、もう一回現場に行ったり、実物や写真を見せたりして、考えさせた上で行う。

まとめのメモ例

「球根を冷蔵庫に入れたり、ビニルハウスをあたたかくしたりして、チューリップが育つようにしている。」

体験の後

- ・冬用のための栽培に関する工夫と一般的な栽培に関する工夫とを整理して、学習のまとめを行う。
- ・学んだことをもとに、学校で冬咲きチューリップ栽培に挑戦する。

(3) 冬咲きチューリップはどんな地域に出荷されるか調べよう(12月 2時間)

- ・新潟の冬咲きチューリップは、どこにどのようにして出荷されるのかを調べる。
- ・地図等を使い、出荷地域地図を作成する。
- ・チューリップの生産地である新潟市と消費地のつながりを調べる。

(4) 冬咲きチューリップを展示・PRしよう(1月 5時間)

- ・新潟のチューリップ応援隊として、学習したことをもとに農家の人の願いやチューリップを育てるための工夫を消費地に向けたPRポスターにまとめる。
- ・食育・花育センターで、自分たちで育てた冬咲きチューリップや農家で収穫した切り花チューリップを展示するとともに、作成したPRポスターで新潟のチューリップをPRする。
- ・お世話になった農家の人に、一連の活動で学んだことや感想を含めたお礼の手紙を書く。

4 本時のねらい

ビニルハウスでの調べ学習や農家の人への質問などを通して、チューリップを早く咲かせるための農家の人の工夫や苦勞に気付くことができる。

5 本時の展開例(90分=2時間)

学習活動	教師(T)・指導者(I)・子ども(C)・専門家(P)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (10分)	T:学習課題を確認し、農家の人を紹介する。 T:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって、活動に臨めるようにする。	・視覚情報を用いて説明し、どの子どもにも理解できるようにする。
②ビニルハウスの周りや外を調べたり農家の人の話を聞いたりして早く咲かせるための工夫を探る (60分)	T:農家の人とハウス周りや中を案内し、予想してきた工夫を確かめさせたり、その他の工夫を探させたりする。 C:少し暖かいけど思ったほどでないな。 C:ハウスのビニルが二重になっているぞ。 C:植え方が、くっつき過ぎでないのかな。 T:調べて気付いたこと等を農家の人に聞いて確かめられるような場を設定する。 C:ビニルハウスが二重になっていたのは暖かくしておくためですか。 C:ストーブみたいのを見付けましたが、ハウスの中を暖めていますか？ C:農家の人が言っていた植える前に球根を入れておく特別な場所はどこかな。写真を見ると冷蔵庫かな。 P:子どもの問題意識に沿いながら、教師とともに冬咲きチューリップ栽培の秘密を説明をする。 C:冷蔵庫に入れて冬と思わせるんだね。 C:暖かくして冬なのに春と思わせるんだね。	④ハウス内は走らないこと、農家の人に確認することなく物品にさわらないことを約束する。 ・その場の子どもの質問と教室の授業での子どもの疑問もうまく引き出しながら進める。 ・キーワードで工夫に関する学びを視覚的にとらえられるように整理しながら進める。 ・子どもが体験活動の中で気付かなかった工夫については、もう一回現場に行ったり、実物や写真を見せたりして、考えさせた上で行い、農家の人の一方的な説明にならないように教師は補助する。
③まとめと振り返りをする (20分)	T:まとめのメモを書かせ、発表させる。 C:季節を操作することを書いておこう。 C:教室は暖かいから冬咲きチューリップを栽培できるね。やってみよう。 T:学習をまとめ、農家の人にお礼を述べる。	・冬咲きチューリップの球根植えを学習のまとめ後、農家の人から指導を受けながら実施する。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
社会的な事象への関心・意欲・態度	・チューリップを早く咲かせるための工夫について調べたり、農家の人の話をしっかりと聞くことができる。	行動観察 学習カード
社会的な思考・判断・表現	・調べ活動や農家の人の話をもとに、チューリップを早く咲かせるための工夫や苦勞についてまとめることができる。	行動観察 学習カード
観察・資料活用 の技能	・チューリップを早く咲かせるために、ビニルハウスの中を暖かくしたり、温度調節をしたりしている工夫を見付けることができる。	行動観察 学習カード
社会的な事象についての知識・理解	・チューリップを早く咲かせるために、農家の人が季節を操作する工夫をしていることが分かる。	行動観察 学習カード

②おいしい柿づくりのひみつ

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

- ・実施期間 10月～11月
- ・1班最大人数 40人
- ・費用 要相談

自分が育てる(収穫する・見学調査する) ➡

農家は、おいしい柿づくりのためにどんな工夫をしているのだろうか。

① 柿農家への聞き取り調査と収穫体験

・この柿は、地元の農家で作られているんだよ。

・こんなに大きくて甘い柿をつくるにはどんな工夫をしているんだろう。

・知りたいことをまとめよう。

・栄養満点の土づくりをしています。

・枝を上手に切ると実の付きがよくなるよ。

・余計な実をもいで栄養を集中させます。



こんなにずっしりした柿がとれたよ。

・規格ごとに細かく分けられるんだね。

・うわ、渋い！これが甘くなるの？

・焼酎で変化するなんて不思議。

自分が消費する(見学調査する・発表する)

② 選果場での聞き取り調査



・大きな機械で包み、二酸化炭素で渋抜きをするんだね。

・規格ごとに分けて、全国各地に出荷されているよ。

・地元の人々が働いているんだね。

③ 発表会をしよう



土作り、枝の剪定、摘果等の手間をかけて甘くて大きな柿を育てています。

・山形では庄内柿、佐渡ではおけさ柿、新潟では八珍柿。その平核無柿（ひらたねなしかき）の原木は、新潟市にあります。

・新潟は柿のふるさとと言えそうですが、知っていましたか。

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校3年：社会 「調べよう ものをつくるしごと」

・柿農家を訪れ、柿栽培の観察や柿の収穫体験をしたり、農家の方と質疑応答したりすることを通して、柿農家がおいしい柿を工夫して栽培していることに気付くことができます。さらに、選果場を訪ねることで、大がかりな渋抜きの方法や地元でつくられた柿が全国各地へ出荷されている様子等を実感を伴ってつかむことができます。さらに、柿農家や保護者に向けて発表会を行うことで、相手意識をもって調べたことを表現する力を高めることができます。

*** 社会の内容(2)「地域の生産や販売に携わっている人々の働き」イ**

柿の収穫体験、柿選果場見学の学びの可能性

○ ここでは柿農家の多い地域(秋葉区)の実践例を取り上げていますが、各地域の生産物の実態に即して学習活動を展開することができます。例えば、以下のような代表的な生産物を扱うことが考えられます。

北区	東区	中央区	江南区
トマト	ネギ, 食用菊	女池菜	梅, イチゴ, 梨
秋葉区	南区	西区	西蒲区
柿	梨, 桃	スイカ・大根	柿

実践例 「おいしい柿づくりのひみつ」

1 関連する単元名 小学校3年 社会 「調べよう ものをつくるしごと」 (15時間)

2 関連する単元の目標

- 柿づくりで働く人たちの様子や生産のための工夫、柿の出荷を通じた他地域とのつながりについて理解することができるようにする。
- 柿づくりの仕事の様子に関心をもち、働く人たちの努力や工夫、苦労について意欲的に見学したり調査したり体験したりすることができるようにする。
- 地域の自然環境や社会環境と生産活動との関係をとらえ、地域の生産活動と自分たちの暮らしとの結び付きについて考えることができるようにする。
- 生産活動や出荷作業の様子や工夫について調べたことや考えたことを分かりやすく新聞などに書き表すことができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) おいしい柿を生産する農家 10月 (2時間)

- 柿を見たり触ったり食べたりしながら、諸感覚を使っておいしい柿のひみつを予想する。
- 農家の方の顔写真、柿の木や畑の様子を撮影した写真、サイズを計るスケール、選別の観点表などを基に、見てきたいこと、調べたいこと、もっと知りたいことを書き出す。

(2) 「おいしい柿を生産する農家の工夫を探そう！」 10~11月 (5時間)

- 柿生産農家に行き、見てきたいこと、調べたいこと、もっと知りたいことを発表し合う。
- 発表したことがらを比較しながら、柿農家見学で解決できるものを整理して、見学時の学習課題を作る。
- 学習課題をもとに、見学計画をつくる。

体験の前に

学習課題例

農家は、おいしい柿づくりのためにどんな工夫をしているのだろうか。

柿農家での体験学習<3時間>

①柿仕分け作業見学 → ②柿の収穫体験 → ③農家の人からの聞き取り調査

まとめのメモ例

「農家は、おいしい柿をつくるために、土作り、余分な枝切り、実を大きくするために小さな芽を取ることをしている。」
 「農家は、消費者においしい柿を柿を食べてもらいたいという強い思いをもっている。」

体験の後に

- 観察したり聞き取ったりしたことを整理して、農家の人の柿作りの工夫をまとめる。

(3) 「柿はどこに運ばれていくのだろう」 11月 (4時間)

- 農協に出荷されるたくさんの柿は、そこからどのようにしてどこへ運ばれていくかという課題意識をもつ。
- 柿選果場を訪ね、働いている人に話を聞き、渋抜きをする様子やサイズごとに箱詰めされていく過程を調べる。
- 自分たちの地域から遠く離れた場所へも出荷されている様子を調べる。
- 地図を活用して、他の市町村や都道府県とのつながりを感じ取る。
- 観察したり聞き取ったりしたことを整理して、選果場の人々の工夫をまとめる。

(4) 「柿農家の工夫や柿の行方を発表しよう！」 12月 (4時間)

- 柿栽培の仕方の工夫や柿農家の努力や思い・願い、柿選果場で働く人や作業の様子、出荷先となる他地域とのつながり等について情報を整理・分析して新聞にまとめる。
- 学習参観日に見学でお世話になった方も招き、ワークショップ型の発表会を開く。

4 本時のねらい

柿農家を訪ね、働く人たちの様子や生産のための工夫、努力や苦労について、意欲的に見学したり調査したり体験したりすることができる。

5 本時の展開例 (135分=3時間)

学習活動	教師 (T)・柿の生産者 (P)・子ども (C)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (10分)	T:学習課題を確認し、生産者を紹介する。 活動の流れと目的、注意事項を説明し、活動の見通しをもたせる。	・柿は商品であることを確認し生産者の迷惑にならないようにすることと、自分たちも安全に気を付けることを確認する。
②収穫された柿の仕分け方について知る (20分)	T:柿の仕分けについてPに説明を促す。 P:規格表と柿のカゴを示しJAの厳密な規格によって流通することを説明する。 C:色々なサイズに分けられるんだね。 C:色や形、病気も見分けるポイントなんだね。 C:ハネられた柿は、もったない気がするなあ。 T:柿の試食と渋抜きの説明を農家の方に促す。 P:渋柿と甘柿を味見させ、渋抜きの方法について説明する。 C:うわ、渋い！なんでこれが甘くなれるの？ C:焼酎や二酸化炭素で変化するなんて不思議だ。	・規格表を用意し、柿の実物と比較させる。 ・渋柿と甘柿を剥いておく。 ・糖度計によって甘柿の糖度の高さをつかませる。
③柿畑を見学し、柿の収穫体験をする (20分)	T:柿畑の見学を農家の方に促す。 P:大きく甘い柿をつくるために工夫していることを柿の木の下で説明する。 C:土作りをしているから足下がフカフカなんだね。 C:余計な枝を切って世話をしているんだね。 C:栄養が集中するようにいらない実をもぐのか。 T:収穫体験を農家の方に促す。 P:はさみの扱い方と枝を切るポイントを説明し、収穫させる。 C:どの実にしようかな。 C:こんなにずっしりした柿がとれたよ。	・土作り、剪定、摘果など年間を通じた世話について説明する。 ・収穫する柿の実はひとつに限定し観察を促す。
④考えてきた質問をする (70分)	T:質疑応答の進行をする。 P:子どもの質問に答える。 C:柿づくりで一番大変なことは何ですか。 C:この仕事のやりがいや楽しいことは何ですか。 C:お店にはどうやって運ばれるんですか。 C:ハネられた柿はどうなるんですか。 T:ハネ物の行方に関連させて出荷先について農家の方に説明を求める。 P:選果場や出荷先について説明する。 C:農協(選果場)から、日本全国に出回るんだね。 C:お店に直接出すこともあるのか。 C:宅急便での直送もあるなんて知らなかった。 T:平核無柿(ひらたねなしがき)の原木についての説明を農家の方に促す。 P:平核無柿の原木は小須戸にあることを説明する。 C:新潟は隠れた柿の名産地だったんだ。	・予想した答えと比較しながら聞くように促す。 ・選果場は、次の見学場所であることを確認する。 ・個人的な注文があることを宅急便のシートで説明する。 ・平核無柿は、山形では庄内柿、佐渡ではおけさ柿、新潟では八珍柿とよばれる。
⑤まとめと振り返りをする (15分)	T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、生産者の方にお礼を述べる。	・数人の子どもに感想を発表させる。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
社会的事象への関心・意欲・態度	・おいしそうな柿を選定しようとする。 ・疑問を解決しようとする積極的に質問をしている。	行動観察 意見発表
社会的な思考・判断・表現	・柿作りの工夫と柿の実のでき具合に関連付けて考える。	意見発表
観察・資料活用 の技能	・柿の規格表や宅急便のシートから流通・販売の様子をつかむ。	意見発表
社会的事象についての知識・理解	・柿作りのために生産者が様々な工夫をしていることが分かる。	シート記述

教育ファームの向こう側

「きょうの授業で習ったことをお家の人に話す」「朝、みそ汁を作って登校する」。児童に、こうした宿題を課しているのが、長崎県南島原市の福田泰三教諭である。

例えば、食育授業で子どもが栄養について学んだとする。だが、それによって家庭の食事が何か変わるとは思えない。なぜなら、買い物するのも食事を作るのも、たいていの場合は親。せいぜい冷蔵庫にドアで学校から持ち帰ったプリントを貼るぐらいが関の山で、児童の知識が親に伝わる働きかけや、児童自らが実践する場がないからだ。だから、福田教諭は、児童が主体的に関わりつつ、授業で得た学びが家庭に伝わるような「響育」を展開するのである。

これを教育ファームに置き換えるとどうだろう。子どもは賢くなった。だが、そこで終わっていいのか。その学びを家庭にも広げる手だてはないか。

目の前にいる児童の向こう側には、家庭があり、地域がある。画期的な取組である教育ファームを「響育ファーム」にしてほしいと願っている。



西日本新聞社 編集委員 佐藤 弘
(平成24年度 新潟市教育ファームキックオフセミナー講師、
平成25年度新潟市教育ファーム実践セミナーコーディネーター)

アグリパーク開設にあたり

この度、貴市並びに貴教育委員会におかれましては、日本初の公立教育ファームである「アグリパーク」を開設され、市内全小学校において「アグリ・スタディ・プログラム」をもとに農業体験学習を実施されたこと、心からお喜び申し上げます。また、今回「アグリ・スタディ・プログラム」改訂版を策定され、プログラム内容が一層充実したことは、子どもたちの活動の幅が今まで以上に広がり、学校の実情に応じ内容の充実した農業体験ができることと存じます。このように、基幹産業である農業資源を教材化し、ダイナミックに教育活動を展開することは、これからの時代を生きる子どもたちに生きる力を育むものと期待されるところであります。



また貴市は、「食と花の政令市にいがた」をキャッチフレーズに全国有数の食や花の生産地であることを生かした各種取組を展開し、特に近年、食育と花育を一体的に推進することで、「市民の健康づくり、ひとづくり、まちづくり」を進めておられます。昨年度、本市と「新潟市との花でつながる観光交流宣言」が結ばれました。

本市においても、平成19年4月より3つの小学校で「小学校農業科」の授業がはじまり、現在は17校すべての小学校で実施しており、今年で5年目を迎えました。「小学校農業科」は3年生から6年生までが、「総合的な学習の時間」70時間のうち半分の35時間にそれぞれの学年が目的を持って取り組んでおります。

貴市と本市が農業を通じた学習で、教育交流の可能性も期待されるところでありますので「アグリ・スタディ・プログラム」を柱とした教育ファーム事業が充実発展されますようご祈念申しあげ、あいさついたします。

福島県喜多方市教育委員会 教育長 芳賀 忠夫
(農業を教科に取り入れた「喜多方市小学校農業科」)

1 小学校編 (4) 学校教材園

- ①教材園に今日行く、明日行く、共に育（ヘチマ栽培） <4年 理科> …… 254
- ②SVカレー de おもてなし in 学校教材園 <6年 総合的な学習の時間> …… 264
- ③伝統野菜を、育てて・食べちゃおう！ <6年 総合的な学習の時間> …… 268
- ④生ごみが奇跡を起こす！ごみはごみじゃない！ <6年 理科> …… 272

①教材園に今日行く，明日行く，共に育

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

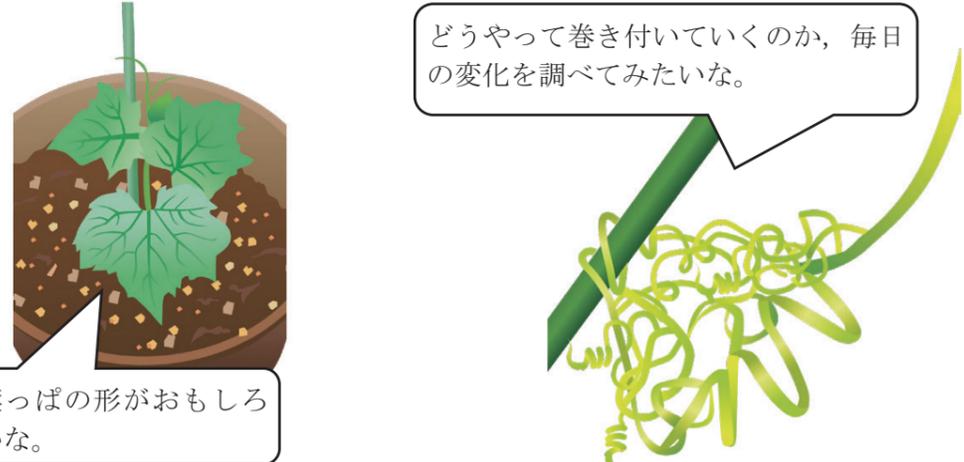
(ヘチマ栽培)

- ・実施期間 4月上旬～10月中旬
- ・1班最大人数 40人
- ・費用 種代のみ

魂 自分が育てる(植える・世話する・見学調査する) →

あたたかくなるにつれて，ヘチマはどのように育っていくだろうか。

① 種まき・植えかえ (4～5月) ② 芽・茎・葉・つるの観察 (4～7月 継続)



どうやって巻き付いていくのか，毎日の変化を調べてみたいな。

葉っぱの形がおもしろいな。

学習指導要領上の位置付け

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校4年：理科

・4年生理科の定番のヘチマ。春に種をまき，芽が出て葉が3～5枚になったら教材園へ植えかえます。茎の長さや葉の大きさを定期的に計測し，継続的に観察し，写真を撮ったり，絵や文でかいたりして，「ヘチマ日記」「ヘチマ新聞」「ヘチマ・ポートフォリオ」などにまとめていきます。夏にはつるの巻き付き方，秋には花の様子や実や種子のつき方を観察・記録します。最後には，たわし作り，ヘチマコロン作りなどにも取り組みます。

*理科の内容 B生命・地球(2)イ「植物の成長」

自分が消費する(加工する・作品にする)

あつくなるにつれて，ヘチマはどのように育っていくだろうか。 涼しくなると，ヘチマはどのように育っていくだろうか。

ヘチマの花はみな同じだろうか。

③ 花の観察(8～9月) ④ 実・種子の観察・たわし作り (9～10月)



めばなとおばながあるんだな。
めしべの花粉がおしべの先につくと実ができるって本当かな。確かめてみよう。(5年)

実の中はどうなっているのかな。
たわしやヘチマの化粧水がうまくできるかな。

年間を通した継続的なヘチマの観察体験の学びの可能性

- 植物が生命をつなげる仕組み(受粉)に重点を置くならば…
小学校5年理科の内容 B生命・地球(1)「植物の発芽，成長，結実」エ
※ 本プログラム「小学校編 (1)アグリパーク⑩ そうだったの！めしべの秘密！」(P102)の果樹農家における観察体験の前の学習として位置付けられます。
- 図画工作**で，ヘチマの葉，つる，花，実を観察しているところをかく生活画，ヘチマのつるや実につかまって遊ぶ様子をかく想像画の題材としても位置付けられます。

実践例「教材園に今日行く、明日行く、共に育(ヘチマ栽培)」(春:種まき編)

1 関連する単元名 小学校4年 理科「あたたかくなって～植物の育ち方を調べよう」(6時間)

2 関連する単元の目標

- ・暖かくなった季節の変化を校庭や野原で見られる草木や昆虫、鳥等を探したり育てたりしながら調べ、生き物がどのように成長・変化していくのか興味・関心をもつようにするとともに、生物を愛護する態度を育てる。
- ・身近な植物を育てる中で、暖かくなるに伴いどのように成長していくのか、気温調べの結果とも関係付けてとらえられるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

体験の前に	(1) 春の生き物の様子を調べよう (2時間) ・温度計を使って気温の変化を調べる (1時間) ・校庭や野原で、虫めがねを使って昆虫や鳥、草むらの様子などを調べる。(1時間)	● 気温の変化と動物の活動、植物の成長の関連について予想させてから、体験活動に臨めるようにする。
体験の後に	(2) ヘチマの種をまいて成長の様子を調べよう (2時間) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">学習課題例</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid red;">あたたかくなるにつれて、ヘチマはどのように育っていくだろうか。</p> <p style="text-align: center;">教材園での体験学習1<1時間></p> <p>① 育苗ポットに種をまく。 ② 芽が出て葉が3～5枚になったら、教材園に植えかえる。</p> <p style="text-align: center;">まとめのメモ例</p> <p>「気温が高くなるにつれて、どんどん伸びていこう。」</p> </div> <p>・1週間ごとに茎の長さを測り、グラフに記録する。支えの棒に目盛りを付けておく。 ・「ヘチマ日記」「ヘチマ新聞」などにまとめる。 ・茎の伸び方と気温の関係について考える。 ・休み時間などを使って、継続的に観察する。 ・写真も撮影しておく。</p>	
体験の後に	(3) 観察計画を立てよう (2時間) ・これから1年間、どのようなことを継続して観察していくのか計画を立てる。(1時間) <ol style="list-style-type: none"> ① 気温の測定・記録 測る時刻、場所、分担、記録方法を定める。 ② 昆虫や鳥などの活動の様子を観察・記録 活動の様子が季節によってどのように変わるのか記録していく。 ③ 教材園のヘチマ、校庭の草木・花の観察・記録 育ち方が季節によってどのように変わるのか記録していく。 ・「春の自然新聞」を作る。(1時間)	

4 本時(ヘチマの種まき・植えかえ)のねらい

植物の成長と気温との関係に興味をもちながらヘチマを継続して栽培し、調べようという意欲をもつことができる。

5 本時の展開例(45分=1時間)

学習活動	教師(T)・指導員(I)・子ども(C)	指導上の留意点
①年間の学習課題をつかむ (10分)	T:学習課題「あたたかくなるにつれて、ヘチマはどのように育っていくだろうか」を確認する。 T:年間の栽培活動の流れと目的、記録の仕方を説明し、見通しをもって、栽培、観察、記録に臨めるようにする。 C:ヘチマが大きく育って、たくさんの実がなるといいな。	・ヘチマ栽培の年間スケジュールを提示する。
②ヘチマについて知っていることを発表し合う (5分)	T:ヘチマについて知っていることを問う。 C:去年4年生が育てていた。 C:黄色い花が咲くよ。 C:大きな実がなる。たわしにもなる。	・前年の教材園のヘチマの写真を提示し、自分たちも大きく育てたいという意欲をもたせる。
③ヘチマの種をまく (10分)	T:ヘチマの種を観察させ、まき方を説明する。 C:育苗ポットに種をまく。	・種は子どもの数より多めに準備し、鉢や育苗ポットに記名させておく。
※発芽のようす、成長のようすを継続観察する。		
④ヘチマの植えかえをする (20分)	T:植えかえの仕方を説明する。 C:根をいためないように、土ごと植えかえよう。 C:支えの棒を立て、目盛りを付けておこう。 C:葉っぱが大きくなってきたな。 T:茎の長さ、気温の記録の仕方を説明し、今後の成長の仕方について予想させる。 C:もっと大きくなると、棚が必要になるよ。 C:つるがどんどん伸びていくよ。 T:自分の予想を加えた「ヘチマ絵日記」をかこうよう指示する。 C:植えかえたときの茎の長さは○cmと書いておこう。 C:葉の模様(葉脈)をよく見てかいておこう。	・本葉が3～5枚になったら教材園に植えかえさせる。 ・教材園は事前に朝の活動や休み時間などを使って耕しておく。 ・「ヘチマ絵日記」はファイルに綴じて、ポートフォリオとして記録していく。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	ヘチマの成長と気温の関係に興味・関心をもち、栽培や観察に取り組もうとする。	発言・行動観察
科学的な思考・表現	ヘチマの成長は、季節によってどのように変わっていくか予想し、表現している。	ヘチマ日記 ヘチマ新聞
観察・実験の技能	ヘチマの実・種子を観察し、図や文で記録することができる。	ヘチマ日記
知識・理解	ヘチマの成長の様子が変わることを理解している。	ヘチマ日記

実践例 「教材園に今日行く，明日行く，共に育（ヘチマ栽培）」
 (夏:茎・葉・つる花編)

1 関連する単元名 小学校4年 理科「暑い季節～植物の育ち方を調べよう」(6時間)

2 関連する単元の目標

- 身近な植物の成長や，昆虫や鳥等の動物の活動の様子を，季節の推移に伴う気温の変化と関係付けながら調べ，春から夏への気温の上昇とともに植物は著しく成長し，動物の活動は活発になってきたことをとらえられるようにする。
- 夏から秋にかけて，動植物はどのように成長変化していくか予想させ，今後の見通しや成長への期待感をもたせるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

体験の前に	<p>(1) 夏の生き物の様子を調べよう (2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 気温を測り，春の記録と比べる。(1時間) 校庭や野原で昆虫や鳥などの様子を調べ，生き物の種類・数・姿を春の様子と比べる。(1時間) 	●春と比べて茎の長さ・太さ・様子の大きさや枚数・色・手触り等がどのように変化しているか予想させるから，体験活動に臨めるようにする。
体験の後に	<p>(2) ヘチマの育ち方を調べよう (2時間)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">学習課題例</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid red;">あつくなるにつれて，ヘチマはどのように育っていくだろうか。</p> <p style="text-align: center;">教材園での体験学習 2 < 1時間 ></p> <p>① ヘチマ全体の様子や葉の育ち方，つるの巻き付き方を観察したり，茎の長さや太さを測ったりする。</p> <p style="text-align: center;">まとめのメモ例</p> <p>「気温が高くなったら，くきもぐんと伸びてきた。」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 1週間ごとに茎の長さを測り，グラフに記録する。 「ヘチマ日記」「ヘチマ新聞」などにまとめる。 春の頃と比較し，茎の伸び方と気温の関係について考える。 休み時間などを使って，継続的に観察する。 写真も撮影しておく。 	
体験の後に	<p>(3) 春の記録と比べてみよう (2時間) 夏休み前</p> <ul style="list-style-type: none"> 今までの記録をまとめ，春の頃と比べ，生き物の育ち方や活動の様子，気温がどのように変わったか話し合う。 秋になっていくにつれて，気温や生き物の様子がどのように変わっていくか予想させる。 「夏の自然新聞」を作る。(1時間) 	
体験の後に	<p>(4) ヘチマの花を調べよう 夏休み明け (1時間)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">学習課題例</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid red;">ヘチマの花はみな同じだろうか。</p> <p style="text-align: center;">教材園での体験学習 3 < 1時間 ></p> <p>② ヘチマの花びらの大きさ，色，形を観察したり，めばなとおばなの違いを見付けたりする。</p> <p style="text-align: center;">まとめのメモ例</p> <p>「めばなの，めしべの先がべたべたしている。」 「めばなは，めしべの下が少しふくらんでいるみたいだ。これがヘチマの実になるのかな。」 「おばなの方が数が多い。おしべに花粉がたくさんついている。」</p> </div>	

<1>茎・葉・つるの観察

4 本時(6月下旬～7月上旬)のねらい

ヘチマの育ち方の変化を，春の頃と比べながら観察し，記録することができる。

5 本時の展開例(45分＝1時間)

学習活動	教師(T)・指導員(I)・子ども(C)	指導上の留意点
①年間の学習課題を確認し，春の頃と比べてヘチマがどのように変化しているか予想する(10分)	<p>T:学習課題「あたたかくなるにつれて，ヘチマはどのように育っていくだろうか」を確認する。</p> <p>T:春の頃と比べて茎の長さ・太さ・様子，葉の大きさ・枚数・色・手触り等がどのように変化しているか，花や実があるか等について予想させる。</p> <p>C:茎は長く太くなっているはずだ。</p> <p>C:葉っぱは青々として大きいと思う。</p> <p>C:花はまだ咲いていなかったみたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 春に提示したヘチマ栽培の年間スケジュールを再提示する。
②教材園のヘチマを観察する(20分)	<p>T:全体の様子，茎の長さ・太さ・様子，葉の大きさ・枚数・色・手触り，つるの巻き付き方等を観察するよう指示する。</p> <p>C:棚の上まで届いている!</p> <p>C:葉っぱが大きくなった。</p> <p>C:アサガオと似ているような，違うような…。</p> <p>T:くきの長さを測るよう指示する。</p> <p>C:ここ1週間でぐんぐん伸びている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漠然と観察するのではなく，「何cm」「何枚」等，具体的な数値にも着目させる。 巻きひげの先端ではなくくきの先端を測らせる。 数日おきにヘチマの伸びた長さを気温とともに計測させ，春の頃の伸びと比較させてもよい。 支柱に目印を付けておくほか，巻き尺も使用させる。
③ヘチマの育ち方は何に関係があるのか考える(15分)	<p>T:春のヘチマの観察記録と比較させる。</p> <p>C:茎が2か月で〇cmも伸びた。</p> <p>C:一番大きい葉っぱが5月には〇cmだったのに，今は〇cmまで大きくなった。</p> <p>T:春と夏の違いから，ヘチマの育ち方に何に関係しているかを問う。</p> <p>C:気温が違う。気温が高くなったら，くきもぐんと伸びてきた。</p> <p>C:気温が低くなる秋になると，どうなるんだろう?</p> <p>T:これからの成長の予想を加えた「ヘチマ日記」を書くよう指示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「ヘチマ絵日記」はファイルに綴じて，ポートフォリオとして記録していく。

6 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
関心・意欲・態度	ヘチマの成長と気温の関係に興味・関心をもち，観察に取り組もうとする。	発言・行動観察
科学的な思考・表現	ヘチマの成長は，季節によってどのように変わっていくか予想している。	発言・行動観察
観察・実験の技能	ヘチマの様子や成長を観察し，変化の過程を図や文で記録することができる。	行動観察 ヘチマ日記
知識・理解	ヘチマの成長の様子が変わることを理解している。	ヘチマ日記

<2>花の観察

4 本時（8月下旬～9月上旬）のねらい

ヘチマの花を観察し、おばなとめばながあることに気付くことができる。

5 本時の展開例（45分＝1時間）

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①年間の学習課題を確認し、夏休み前と比べてヘチマがどのように変化しているか予想する（5分）	T:学習課題「あたたかくなるにつれて、ヘチマはどのように育っていくだろうか」を確認する。 T:夏休み前と比べて茎の長さ・太さ・様子、葉の大きさ・枚数・色・手触り等がどのように変化しているか、花や実があるか等について予想させる。 C:茎はもっと伸びたはずだ。 C:昨日見たときに花が咲きそうだった。	・春に提示したヘチマ栽培の年間スケジュールを再提示する。
②教材園のヘチマを観察する（15分）	T:全体の様子を観察し、茎の長さを測るよう指示する。 C:夏休み前よりさらに伸びている。 C:葉っぱが生い茂っている。 T:夏休み前のヘチマの観察記録と比較させる。	・「ヘチマ絵日記」はファイルに綴じて、ポートフォリオとして記録していく。
③ヘチマの花を観察し、図や文で記録する（25分）	T:ヘチマの花はみな同じだろうかと問い、ヘチマにはおばなとめばながあることに気付かせ、花をよく見て観察するよう指示する。 また、これからどのように変化するか予想させ、絵日記にまとめさせる。さらに、観察を続けるように指示する。 C:めばなは、めしべの下が少しふくらんでいるみたいだ。これがヘチマの実になるのかな？ C:めしべの先はねばねばしている。 C:おばなの先のおしべには花粉がたくさんついている。 C:めばなよりおばなの方が多い。どうしてだろう。	・朝学習や休み時間等を使って数日間継続観察させ、花は1日でしぼんで落下するが、次から次へと新しい花が咲くことに気付かせる。 ・アサガオのように一つの花にめしべとおしべがある植物とヘチマのようにめばなとおばながある植物（単性花）があることを説明する。 ※詳しくは5年理科「実や種子のき方」で学習する。

6 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
関心・意欲・態度	ヘチマの花に興味・関心をもち、花のつくりを観察しようとする。	発言・行動観察
科学的な思考・表現	おばなとめばなの役割について予想することができる。	発言・行動観察
観察・実験の技能	ヘチマの花を観察し、図や文で記録することができる。	ヘチマ日記
知識・理解	ヘチマの花には、めばなとおばながあることが分かる。	ヘチマ日記



ヘチマのおばな



ヘチマのめばな



ヘチマの実の育つ様子



ヘチマの種



大きくなったヘチマの実

実践例 「教材園に今日行く，明日行く，共に育（ヘチマ栽培）」
（秋：実・種子編）

1 関連する単元名 小学校4年 理科「すずしくなると」（7時間）

2 関連する単元の目標

- ・気温が下がってくると植物が枯れ，それを食べる昆虫が減ったり，活動が鈍くなったり，暖かい地方に移動したり，産卵したり，さなぎや卵などそれぞれに適した姿で越冬状態になったりするものが多いことをとらえられるようにする。
- ・秋にはヘチマの実が大きく成長し，熟した実の中にたくさんの種子を作って枯れることをとらえられるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

体験の前	<p>(1) 秋の生き物の様子を調べよう (2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気温を測り，春や夏の記録と比べる。(1時間) ・校庭や野原で昆虫や鳥などの様子を調べ，生き物の種類・数・姿を春や夏の様子と比べる。(1時間) 	<p>●春や夏と比べて茎の伸び方，葉や茎の色，花の数，実の様子等がどのように変化しているか予想させながら，体験活動に臨めるようにする。</p>
体験の後に	<p>(2) ヘチマはどれくらい育っているか (3時間)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p style="text-align: center;">学習課題例</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid red;">涼しくなると，ヘチマはどのようになっていくだろうか。</p> <p style="text-align: center;">教材園での体験学習 4 < 2時間 ></p> <p>① ヘチマの茎，葉，花，実を観察する。(30分)</p> <p>② 種取りをする。(30分)</p> <p>③ ヘチマの実でたわしを作る。(30分) ※下準備のみ</p> <p style="text-align: center;">まとめのメモ例</p> <p>「気温が低くなったら，くきが伸びなくなった。葉の色が茶色になってかてきた。」</p> </div>	
	<p>(3) 春や夏の記録と比べてみよう (2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの記録をまとめ，春や夏の頃と比べ，生き物の育ち方や活動の様子，気温がどのように変わったか話し合う。 ・冬になっていくにつれて，気温や生き物の様子がどのように変わっていくか予想させる。 ・「秋の自然新聞」を作る。(1時間) 	

4 本時のねらい

ヘチマの様子を観察し，春や夏の頃と比較しながら，成長の変化を気温の変化と関係付けて考えることができる。

5 本時の展開例 (90分=2時間)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①年間の学習課題を確認し，春や夏と比べてヘチマがどのように変化しているか予想する (5分)	T:年間を通した学習課題「涼しくなると，ヘチマはどのようになっていくだろうか」を確認する。 T:これまでの「ヘチマ日記」「ヘチマ新聞」を基に春から夏のヘチマの変化を振り返らせる。 C:気温が高くなるにつれて，くきや葉が成長してきた。 C:夏休み明けには花も咲いた。 T:今のヘチマの様子について，茎の伸び方，葉や茎の色，花の数，実の様子などの観点から予想させる。 C:涼しくなってきた，枯れてきている。 C:実が大きくなっている。	・以前提示したヘチマ栽培の年間スケジュールを再提示する。 ・夏までの学習課題は，「あたたかくなるにつれて，ヘチマはどのように育っていくだろうか」。季節の変化に応じて修正する。
②教材園のヘチマを観察する (25分)	T:茎の伸び方，葉や茎の色，花の数，実の様子などの観点から観察するよう指示する。 C:茎は伸びていない。花はないし，葉も少なくなった。 C:緑色のときより実が軽くなった。枯れて水分がなくなったから？	・継続観察し，熟す前の緑色の実の重さと熟した後の実の重さの違いを手にとって体感させるとよい。
③ヘチマの種取りをする (30分)	T:一つの実にいくつ種が入っているか予想させる。 C:2,000個くらい？ T:手分けをして種取りをさせる。 C:一つの種がこんなにいっぱいになるんだ。すごい生命力だ。 C:ヘチマは枯れても，生命はつながっていくんだね。	・熟す程度が違う数本の実を縦や横に切って，種のでき具合を観察させる。 ・元の一つの種から育ったヘチマ一つの実からたくさんの種がとれることを確認する。
④ヘチマの実でたわしを作る準備をする (30分)	T:ヘチマたわしの作り方を説明する。 ・熟したかどうか見極める (表皮堅く黄色)。 ・つるから切り取って7~10日間水に浸ける。 ・腐った皮，果肉 (種) を取り除く。 ・よく水洗いする。 ・天日で乾かす。 C:お風呂で使ってみたいな。汚れがよく落ちそう。 C:ヘチマの化粧水はだれにプレゼントしようかな？ T:気温との関係に着目させ，「ヘチマ絵日記」にまとめさせる。	・教材池，ビオトープの川などで流水に浸しておけばなおよい。 ※ヘチマの様子を見ながら，他の単元と同時進行で，体験活動①②③を3回に分けて実施してもよい。

6 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
関心・意欲・態度	ヘチマの実や種子に興味・関心をもち，進んで観察しようとする。	発言・行動観察
科学的な思考・表現	ヘチマの成長変化について気温の変化を関連付けて予想し表現している。	ヘチマ日記
観察・実験の技能	ヘチマの実・種子を観察し，図や文で記録することができる。	ヘチマ日記
知識・理解	ヘチマの成長は季節の変化に伴っていることを理解している。	ヘチマ日記

体験学習 小学校6年 総合的な学習の時間
②SVカレー de おもてなし in 学校教材

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★★

<学校教材園>



- ・実施期間 通年
- ・費用 苗代（時価）

が
魂
自分が育てる（植える・世話する・採取する・収穫する）

SVカレーの材料を育てよう。苗はどうすると大きくそだつのだろうか。

①畝作り・苗植え

土をふか
ふかにしよ
う。



・ニンジンの苗は
初めて見たよ。
・間引いた後の土
寄せもポイント
だね。



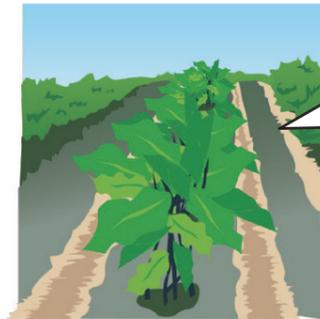
②野菜の世話



・水のやり過ぎに注意す
るんだね。
・わき芽を上手に摘もう。



・わき芽をつんで、三本
仕立てにしよう。
・水をたっぷりやろう。



体
験
活
動

学
習
指
導
要
領
上
の
位
置
付
け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校6年：総合的な学習の時間

- ・土作りから収穫，調理，会食までの一連の作業を体験することで，食物を育てる喜びを知り，また感謝の気持ちを伝えることを目的に据えることで追究意欲が喚起され，探究的な学習を展開することができます。
 - ・協同的な作業・学習を展開することで，他者や自然，環境と共に生きる積極的な「開かれた個」（中教審答申）を育てることができます。
 - ・食べるものを自分でつくることで，自身の食生活を振り返り，自己の生き方を考えられるようになります。
- *総合的な学習の時間の学習課題：「横断的・総合的な課題」



自分が消費する（加工する・調理する・飲食する）

③調理と会食（お世話になった方々への感謝の会）



・畑作りを教えていただいて，ありがとうご
ざいました。
・おかげで，よい野菜ができました。

<卒業謝恩会>

- ・お世話になった方々を招待しよう。
- ・自家製野菜でつくったカレーでおもてなしをしよう。

手作り野菜だと，
なんだか味が違
う気がするね。



みんなのお手伝いがで
きて，私も楽しかったよ。



手作り野菜たっぷり
SVカレーのできあがり
(学校野菜カレー)

野菜の栽培・収穫・加工体験の学びの可能性

- ジャガイモの葉に日光があたるとデンプンができるかどうかを調べる学習活動を構成していくならば…
- * 小学校理科6年の内容B（2）「植物の養分と水の通り道」
- 雄花・雌花，おしべ・めしべに注目させ，受粉と実や種子のでき方に関連させて学習活動を構成していくならば…
- * 小学校5年理科の内容B（1）「植物の発芽，成長，結実」
- 調理計画や気持ちを伝える計画作りに関連付けて会食を中心に学習活動を構成していくならば…
- * 小学校5・6年家庭の内容B「日常の食事と調理の基礎」

実践例 「SV (School Vegetable)カレーde おもてなし in 学校教材園」

1 関連する単元名 小学校6年 総合的な学習の時間「卒業感謝の会で感謝の気持ちを伝えよう」(34時間)

2 関連する単元の目標

- 卒業謝恩会に向けて野菜を育てたりや材料を作ったりする活動を通して、心を込めて作ることのよさや喜びを知り、それらの作物や材料を調理したもてなしでお世話になった人々に感謝の気持ちを伝えることができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

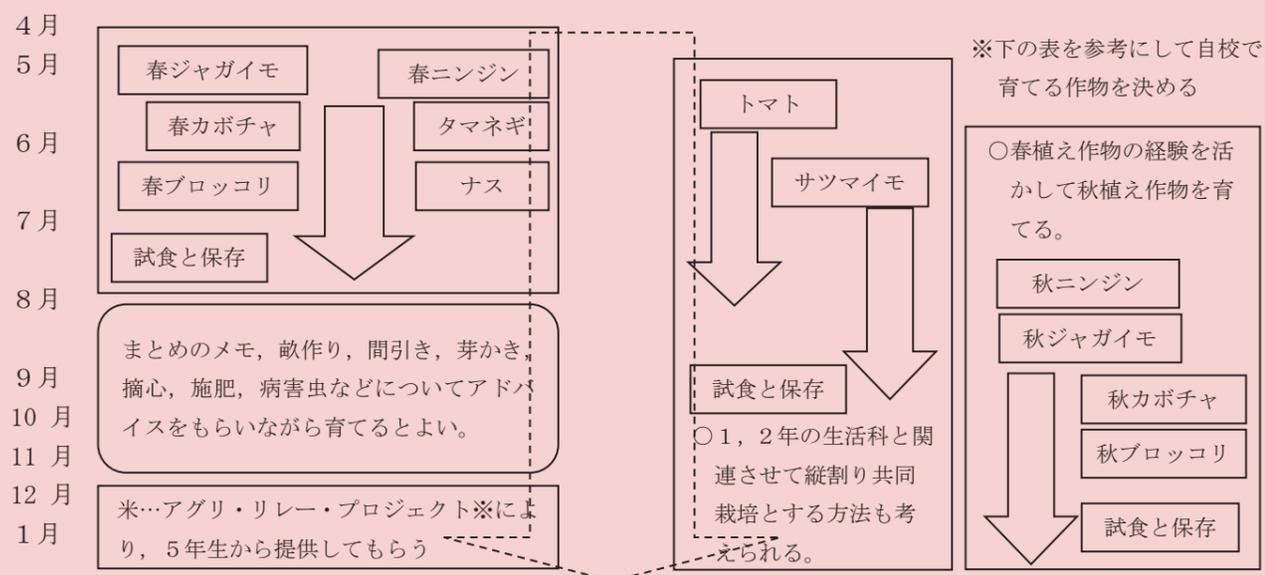
(1) 卒業謝恩会で感謝の気持ちを伝える方法を考えよう(4月 6時間)

- 体験の前
- 家庭の教科書の単元を手がかりに、一年間かけて準備をしようとする意欲をもつ。〈課題設定〉
 - おもてなしにふさわしい手作りの料理について調べる。〈情報収集〉
 - SVカレー(学校野菜カレー)に必要な野菜や材料、準備作業について調べる。〈情報収集〉
 - どの時期に、何を、どれくらいつくればよいか話し合い、整理する。〈整理・分析〉
 - 一年間の活動予定表をつくる。〈まとめ・表現〉

(2) 野菜を育てて、おもてなしをしよう(5~2月 22時間)

学習課題例

SVカレーの材料を育てよう。苗はどうすると大きくそだつのだろうか。



(3) おいしいSVカレーを作って、お世話になった方々をもてなそう(2月 6時間)

- 体験の後
- 栽培と観察、試食の記録を蓄積する。〈情報収集〉
 - 適切な保存方法について調べる。〈情報収集〉
 - 感謝の気持ちが表れる謝恩会にする方法を話し合う。〈整理・分析〉
 - 栽培と観察の記録を振り返り、謝恩会で紹介したいエピソードをまとめる。〈整理・分析〉
 - お世話になった方々をSVカレーでもてなす感謝の会を開催する。〈まとめ・表現〉

※アグリ・リレー・プロジェクト：他校や他学年が作ったものを自分たちが利用させてもらうとともに、自分たちが作ったものを他校や他学年に利用してもらうという、農作業・農作物の継続スタイルのこと。

4 本時のねらい

- 地域在住の畑の先生などからアドバイスをもらうことを通して、自分たちの栽培計画を見直したり、土作りや畝作り、植え付けのポイントを理解したりすることができる。
- 作物の世話を継続して適切に行おうとする意欲をもつことができる。

5 本時の展開例(90分=2時間)

学習活動	教師(T)・子ども(C)・専門家(P)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ(5分)	T:学習課題を確認し、専門家を紹介する。 T:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって、安全・安心に活動に臨めるようにする。	・学習対象；春植えの野菜、堆肥等 ・学習事項；土作りや畝作りの方法、栽培に適した季節、植えてからの世話の方法
②畑作りの方法を知る(10分)	T:堆肥運びの方法を示範し、やり方と注意点を説明する。 C:堆肥は牛の糞だね。 C:一輪車で運ぶとたくさん運べるね。	・堆肥を入れて有機栽培で育てることを意識させる。 ・スコップや一輪車の安全な扱い方を確認する。
③堆肥を畑に入れる作業と耕起や畝作りをする(30分)	P:耕耘機で堆肥と土が混ざる様子を見せる。 C:混ぜた土の色が変わるね。 P:鍬で耕したり、畝を作ったりすることを説明し、実際にやってみせる。 C:初めてやるよ。難しいね。 C:ふかふかの土になるように頑張ろう。	・堆肥の原料を説明するとともに、発酵することで単なる排泄物ではなくなることを説明する。 ・耕耘機による耕起はPによるデモンストレーションのみとする。 ・鍬についてはPが示範し、安全な使用方法を確認する。
④春植え野菜の苗を植える(25分)	P:ジャガイモ、ナス、タマネギ、トマト、カボチャ、ブロッコリの苗植えを実際にやって見せ、方法や注意点を説明する。 C:ニンジンやナス、タマネギ、ブロッコリの苗は初めて見たよ。 C:間隔を上手に空けよう。 C:水をたっぷりあげようね。	・苗の成長に適切な間隔を知らせる。 ・苗を初めて見る子どもが多いと思われるので、植える前に観察を十分にさせ、特徴について気付いたことを発表させる。 ・ポットから出すときに根を傷めないよう注意する。
⑤今後の世話について説明し、活動のまとめと振り返りをする(20分)	P:今後の育て方について芽かき、摘心、施肥、土寄せ、虫除けなどを説明する。 C:芽かきは2年生の時にもやったよね。 C:大きくするために余分な枝を取って養分を集中させるんだな。 C:土を寄せるタイミングを間違えないように。 C:虫や病気が付いてるかどうか、観察を忘れてはいけないよ。 T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、専門家にお礼を述べる。	・図入りのパネルと、児童用ワークシートを用意し、作物ごとにいつどんな作業が必要になるか一覧できるようにする。 ・今日の学習を振り返って栽培への意気込みを子どもに語らせ、心を込めて栽培活動に取り組むことができるように導く。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
学習方法(思考・判断)	・それぞれの苗を育てるために共通すること(土作り、畝作り、施肥など)や、個々に配慮すべきこと(芽かき、摘心など)について情報を比較したり、関連付けたりして考えている。	ワークシート 発言
自分自身(自己理解)	・作物の育てることについて自分の取組計画を決め、継続的に世話をしようとしている。	計画表 振り返り作文
他者や社会とのかわり(協同)	・他の児童と協力して、土作りや畝作り、苗植えに取り組んでいる。	行動観察

③伝統野菜を、育てて・食べちゃおう

- ・ 未来へのストーリー ★★★★★
- ・ 命のストーリー ★★★★★
- ・ 郷土愛のストーリー ★★★★★

- ・ 実施期間 4月上旬～11月下旬（雪が降る前）
- ・ 1班最大人数 100人
- ・ 費用 約500円/人（種・肥料代など）

が 魂
自分が育てる(調べる・植える) →

伝統野菜を上手に育てるポイントは何だろうか。

①伝統野菜を育てよう

「伝統野菜」を育てるために、どんな工夫をしなければならないだろう。

苦労はあるけど、おいしい伝統野菜を作って、いろんな人に食べてもらいたい。

まず土作りが大切だ。
牛のうんちを堆肥にして土とよく混ぜて作るといいよ。

土作りや種のまき方も工夫しなければいけないんだな。
野菜がよく育つためには、大変な苦労があるんだな。

学習指導要領上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校6年：総合的な学習の時間

- ・ 地域の伝統野菜を、自分たちの手で育て、収穫し、給食の献立として提案する学習活動である。栽培活動では、調べ学習だけでは分からない部分を地域の農家の人に教わりながら活動を進めることで、人とのつながりを深めていくことができる。また、給食のメニュー作り・染め物などの学習活動においては、児童の様々なアイデアを生かし、実現に向けて主体的に問題を発見し解決策を見いだしていくことが期待できる。

*** 総合的な学習の時間の学習課題：「横断的・総合的な課題」**

!

自分が消費する(調理する・飲食する)

②伝統野菜の食料事情を調べよう

昔から伝わっているかぶのつけものを作ってみよう。
・ 他のかぶと味くらべをしてみよう。

苦労して作った野菜を、全校のみんなにも食べてもらいたいね。

③伝統野菜をおいしく食べよう

普通は生で食べるけど、スープの具にしてみよう。

伝統野菜ってとってもおいしい。

伝統野菜を題材として扱うことの可能性

○伝統野菜を使ったフードブランドや農業生産と関連付けて学習活動を構成していくならば…

小学校5年社会の内容(2)「我が国の農業や水産業(食料生産)の様子と国民生活との関連」ウ

※「総合的な学習の時間」で、染物に活用することでゴミを出さないところに焦点を当てることで、「循環」をテーマにしたごみを出さない持続可能な社会作りを考える学習活動に向けた動機付け、課題設定などの場として位置付けていくこともできる。

実践例 「伝統野菜を、育てて、食べちゃおう！」

1 関連する単元名 小学校6年 総合的な学習の時間 「伝統野菜を、育てて、食べちゃおう！」
(40時間)

2 関連する単元の目標

- ・伝統野菜を育てたり、伝統野菜を使った料理を作ったりする活動を通して、伝統野菜作りに携わっている人々の工夫や努力を知るとともに、伝統野菜の今後について考え、自分にできることを実践しようとする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 伝統野菜を育てよう (15時間) 5～7月

- 体験の前に
- ・どんな伝統野菜が新潟県(市)で栽培されているか、なぜ広く流通しないのかを調べるとともに、自分たちも育てようとする意欲をもつ。<課題設定>
 - ・地域に伝わる伝統野菜の種類や、なぜ、伝統野菜となったのか原因を予想し、調べる。(広く栽培されている同品種との違い、栽培の難しさ、収量の少なさ、消費者の求める嗜好の変化、気候の変化への対応の難しさ等) ※伝統＝地域の特色を生かしたor収穫量が少なくなりつつある<情報収集>
 - ・伝統野菜の生産者にインタビューし、願いや思いを知る。<情報収集>
 - ・地域のフードブランドを確立するために、伝統野菜を自分たちで育てる方法を考える。(栽培方法、収穫時期・方法等)<情報収集>

学習課題例

伝統野菜を上手に育てるポイントは何だろうか。

学校園での体験学習<3時間> ※次ページ参照

① 堆肥を入れて土作りをする。→② 伝統野菜の種をまく(苗を移植する)。

まとめのメモ例

「伝統野菜を育てる一番のポイントは、土作りだ。」
「土に堆肥を混ぜて、耕すことが大切だ。」

- 体験の後に
- ・生産者の願いから、自分たちの手で伝統野菜を作る意義について整理し、まとめる。<まとめ・表現>
 - ・自分たちの地域の他にも、どのような伝統野菜があるのか調べてマップにかき、他の地域での伝統野菜の栽培の取り組みについて興味・関心をもつ。<整理・分析>

(2) 伝統野菜を中心に、食料事情について調べよう (13時間)

- ・黒埼茶豆の生産量を調べ、農業の近代化や食料の輸入などによって絶滅しつつあった伝統野菜が生産量を増やしている現状から、さらに伝統野菜について調べてみようとする意欲をもつ。<課題設定>
- ・地産地消や農産物を使った地域活性化の取組を調べ、伝統野菜が地産地消や地域活性化に重要な農産物であることをつかむ。<情報収集>
- ・伝統野菜の何が地産地消を広めたり、地域を活性化させたりしていたのか、つながりを整理し、伝統野菜の価値を分析する。<整理・分析>
- ・新潟県(市)で注目を集めている伝統野菜や復活を期待されている伝統野菜をまとめる。<まとめ・表現>

(例) 女池菜、関屋かぼちゃ、寄居かぶ、大形のじゃがいも、笹山のやきなす 等

(3) 伝統野菜をおいしく食べよう (12時間)

- 体験の前に
- ・伝統野菜を利用した料理について調べる。(地域に伝わる料理、地域の飲食店のメニュー地域の学校給食のメニュー等)<情報収集>
 - ・育てた伝統野菜を使って、グループごとに料理を決める。<課題設定>

調理実習体験活動 (A, Bから選択)

- A 伝統野菜と共に歩んできたその地域に伝わる郷土料理作り
B 伝統野菜を使った新しい料理を参考にした料理作り

- 体験の後に
- ・郷土に受け継がれる、新しいものを作る等の視点から、体験学習を振り返る。<整理・分析>
 - ・作った料理の「自慢できること」を考える。<整理・分析>
 - ・地域に伝わる伝統野菜の特徴やよさについて整理し、PRしたいポイントをまとめる。<整理・分析>
 - ・学んだことを自分の生活や地域にどう活かすか作文にまとめたり、伝統野菜を使った給食のメニューを作ったりする。<まとめ・表現>

4 本時のねらい

専門家の話や思いを聞きながら、土作りや種(苗)植えをするとともに、活動を通して育てる苦勞を知り、伝統野菜を自分たちで育てることの意義を実感することができる。

5 本時の展開例 (135分＝3時間)

学習活動	教師(T)・子ども(C)・専門家(P)	指導上の留意点
①今日の学習課題をつかむ (5分)	T:学習課題を確認し、専門家を紹介する。 P:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって安全・安心に活動に臨めるようにする。	・学習対象;伝統野菜、堆肥、生産者 ・学習事項;栽培方法と工夫、生産者の願い
②土作りが重要であることを知る (5分)	T:「優れた農家は()を作る」の()に当てはまる言葉を考えさせる。 C:野菜? T:答えは「土」と教え、農作物作りは土作りが重要であることを伝える。 P:堆肥運びの方法を示範し、やり方と注意点を説明する。 C:堆肥は牛のうんちだね。 C:一輪車で運ぶとたくさん運べるね。 P:鍬で耕したり、畝を作ったりすることを説明し、実際にやってみせる。 C:力の加減が難しいね。 P:耕耘機で堆肥と土が混ざる様子を見ましょう。 C:こうやって堆肥と土を混ぜることで、よい土になるんだね。	・よい土作りは堆肥を混ぜることが重要であることを意識させる。 ⑬スコップや一輪車の安全な扱い方を確認する。 ・堆肥は、発酵することで排泄物ではなくなることを説明する。 ⑭専門家が示範し、安全な使い方を確認する。 ・耕耘機による耕起、畝作りも見られるようにする。
③堆肥を畑に入れる作業と耕起・畝作りをする (65分)		
④伝統野菜の種をまく(苗を移植する) (40分)	P:種まき(移植)を実際にやって見せ、方法や注意点を説明する。 C:同じ品種の種とあまり変わらないね。 C:根を切らないように、優しく持たないとね。 C:早く芽が出ないかなあ。 P:児童の質問に答える。 C:私たちが調べたことについて、助言をお願いします。 C:伝統野菜作りで私たちが調べたこと以外で工夫していることや大変なことは何ですか。	・種は1か所に3粒まき、間引くことを伝える。 ・生長の様子を観察し、7月に収穫したら、料理をすることを伝え、見通しをもたせる。 ・専門家に事前に自分たちで調べた伝統野菜について伝えておく。
⑤専門家にインタビューする (10分)		
⑥まとめと振り返りをする (10分)	T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、専門家へお礼を述べる。	

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
学習方法(収集・分析)	・伝統野菜の育て方や伝統野菜を使った料理とその作り方を調べ、体験活動への意欲をもつとともに、実践に役立てようとしている。	収集資料 行動観察
自分自身(自己理解)	・農作業体験や調理実習を振り返り、自分の頑張りやできたことに気付いたり、自分の身近な地域に根ざした野菜があることに気付いたりしている。	振り返り作文
他者や社会とのかわり(協同)	・他の児童と協力して、堆肥運び、畝作り、種まき(移植)、調理実習に取り組んでいる。	行動観察

④生ごみが奇跡を起こす！ごみは、ごみじゃな

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

い！

- ・実施期間 4月中旬～9月上旬
- ・1班最大人数 20人程度（1グループあたり）
- ・費用 約100円/人

魂 自分が育てる（採取する） ➡ 自分が消費する（作品にする）

➡ 自分が育てる（植える）

野菜くずをごみにしない方法があるのだろうか？

野菜くずから作った土で野菜を育てよう。どんなことに気を付ければよいだろうか。

①持参した野菜くずの観察 ②野菜くずを使った土作り

③野菜づくり ④慣行栽培との比較

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

元気でおいしい野菜を目指した土作り体験、持続可能な社会を考える学びの可能性

○生ごみで作った堆肥を使った「元気でおいしい野菜」といった、フードブランドや農業生産と関連付けて学習活動を構成していくならば…
小学校5年社会の内容（2）「我が国の農業や水産業（食料生産）の様子と国民生活との関連」ウ

○環境に配慮した生活の工夫と関連付けて学習活動を構成していくならば…
小学6年家庭の内容 D「身近な消費生活と環境」（2）ア「自分の生活と身近な環境との関わり」に気付き、物の使い方などを工夫できること」

※「総合的な学習の時間」で、「生ごみで土作り」から始めた野菜の栽培をすることで、「循環」をテーマにしたごみを出さない持続可能な社会作りを考える学習活動に向けた動機付け、課題設定などの場として位置付けていくこともできます。参考「環境コミュニケーション科」（新潟市立新潟小学校）

○小学校6年：理科

ごみ問題に焦点を当て、生ごみを肥料にすることの価値に気付くことを通して、生物と環境の関わりを推論する能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、環境を保全する態度を育て、生物と環境との関わりについての見方や考え方をもちることができます。

また、生ごみをリサイクルして作った土で野菜を栽培することにより、土がいかに植物にとって大切か、また、「虫に食べられている野菜とそうでない野菜」とを比較することを通して、生物と環境の関わりについて興味・関心をもって追究することができます。

***理科の内容B生命・地球（2）生物と環境**

実践例 生ごみが奇跡を起こす！ごみは、ごみじゃない！

1 関連する単元名 小学校6年 理科 「人と環境」(6時間)

2 関連する単元の目標

- ・人が生きていくために必要な植物との関わりについて興味・関心や調べる意欲をもたせる。
- ・人との活動と環境とを関係付けながら調べ、見出した問題を多面的に追究する活動を通して、人と環境との関わりについての見方や考え方を育てるとともに、持続可能な社会への課題と身近な暮らしを結び付け、新たな価値観や行動についての見方や考え方を育てる。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 身近なごみ問題からごみ減量作戦を考える(3時間)

体験の前に

- ・新潟市民が出すごみの量や割合について学ぶ。
- ・約4割の生ごみをどのように有効活用すれば良いかを考える。
- ・生ごみから美味しい野菜ができることを知り、生ごみリサイクル元気野菜づくりにつなげる。
- ・家庭から出る野菜くずを持ってくる(持ってくる際の注意点は394ページを参照)。

学習課題例

野菜くずをごみにしない方法があるのだろうか？

主な体験学習活動<1時間>

- ①持参した野菜くずの観察(野菜の種類、皮のバリア) → ②野菜くずを使った土作り(野菜くずを細かくし、ぼかしを混ぜ、土に入れる)や生長点の発見

まとめのメモ例

「菌ちゃん(微生物)の働きによって野菜くずが発酵し、再び野菜がよく育つ土になっていく。」

体験の後に

- ・土作りをした土がどうなるかを想像する。
- ・土作りの専門家からポイントになる時に来てもらう。(朝または夕方)
- ①3日後、プランターから土を広げて混ぜる。(10分)
 - 菌ちゃんを見る(白カビ有用菌)、つかむ、においをかぐ。温かさを感じる。
- ②7日後、再度混ぜる。(10分)
 - ほとんど野菜くずが無くなっている。(たくさん入れた生ごみがもうない！誰が食べたの?)
- ③14日後、さらに混ぜる。(10分)
 - 固いもの以外の野菜くずが無くなっている。
- ④1か月後、生ごみ臭くなければ、カキ殻石灰を混ぜて完成。(15分)

(2) 野菜づくり,持続可能な社会を考える(3時間)*適宜,昼休みや放課後の世話活動を行う

体験の前に

- ・どんな野菜を作るかを考える。
- ・野菜づくりの栽培計画を立てる。
- ・慣行栽培の野菜との違いを予想する。

学習課題例

野菜くずから作った土で野菜を育てよう。どんなことに気をつければよいだろうか。

主な体験学習活動<1時間>

植え付け
(土の表面を5~10cmの草で覆うと雑草を抑え、乾燥を防ぎ、土中にミネラルを補給する)
(植え付けの後の数日間は水をやらない⇒若いうちに少し我慢させると、強く美味しくなる)

まとめのメモ例

「育てる野菜に合わせ、植える間隔、水やり、芽かき、摘心、土寄せ、虫よけなどをしっかりやっ
ていこう。」

体験の後に

- ・朝や放課後も活用して、専門家の指導を受けながら、水やりなどの世話をする。
- ・できた野菜を収穫して食べて、慣行栽培の野菜との違いを学ぶ。
- ・「土作り」「野菜の栽培」「消費」「野菜くず」の一つ一つを線で結ぶとサイクル(循環)になることに気が付き、「野菜くずを使って野菜作りをすること」は、「ごみが出ない社会システムになる」ことが分かる。
- ・植物の生長には土が大切であることを知り、土が良ければ元気な野菜ができることが分かる。

<1>野菜くずを使った土作り

4 本時のねらい

野菜くずが菌ちゃん(微生物)の働きによりゴミではなく、すばらしいものになることを意識することができる。菌ちゃんによる土作りを通して、野菜くずがどのように変化していくかに興味・関心をもつことができる。

5 本時の展開例(45分=1時間)

学習活動	教師(T)・子ども(C)・専門家(P)	指導上の援助・留意点
①学習課題をつかむ(5分)	T:学習課題を確認し、専門家を紹介する。 T:学習の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって、安全・安心に活動に臨めるようにする。	・活動の流れを示し、見通しをもたせる。
②野菜くずを観察し、まだエネルギーが残っていることを知る(10分)	P:(野菜くずを見せて)この野菜は何かを問う。 P:キャベツの芯やニンジンなどのヘタの部分は、新しい葉や根が出てくる生長点であることを告げる。 C:今まで捨てていたけど、もったいないことをしていたんだね。 P:野菜くずを菌ちゃんにあげようと呼びかける。 C:菌ちゃんは、ほんとに野菜くずを食べてくれるのだろうか？	・本当に栄養のある野菜の部分を捨てていたことを知らせることにより、多くの人々が野菜のすばらしさや不思議さを理解していないことに気付かせる。
③菌ちゃんを使った土作りを行う(30分)	P:私たちがごはんを食べるときに良く噛むように、足で踏み付けたり、木槌を使って菌ちゃんが食べやすく小さくするよう呼びかける。 P:私たちがつばでご飯を食べるように、ぼかしを入れるよう呼びかける。 C:米ぬかの中に菌ちゃんが入っているんだね。 C:菌ちゃんの正体は微生物だよ。 P:手でぼかしと野菜を混ぜてプランターに入れるよう指示する。 C:いつ変化が起きるのかな？やっぱり、時間がかかるのかなあ。 P:ブルーシートをかけて雨が入らないようにすることを指示する。 C:水分が多いと、腐っちゃうんだね。 P:次に、みんなで「菌ちゃんを体験」させる。菌ちゃんは約30分で子どもを産むことを告げ、「菌ちゃんを体験」した感想を書かせる。 C:菌ちゃんはバイ菌ではないんだね。 P:菌ちゃんがどう育っていくか記録していくように、指示する。 T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、専門家にお礼を述べる。	・食べ物を踏むことが菌の代わりになることを伝える。 ・ぼかしのにおいを臭いと思わせないようにする。また、子どもが感じたにおいを褒める。 ・「菌ちゃん=バイ菌」ではなく、良い菌であることを意識させる。 *「菌ちゃんを体験」とは、子どもを菌ちゃんに見立てて、菌ちゃんが野菜くずを食べながら土を発酵させる現象を実感させる体験活動。この体験活動によって、発酵により熱が発生することを実感させることができる。 ・菌ちゃんが順調に成長するかどうか期待をもたせて授業を終わる。

6 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
自然事象への関心・意欲・態度	・ゴミをゴミでなくする工夫について、実際にやってみようとして、専門家の話をしっかりと聞くことができる。	行動観察
科学的な思考・表現	・「菌ちゃんを体験」について、自分なりの説明を文章化できる。	感想作文
観察・実験の技能	・ぼかしと野菜くずを均等になるように混ぜている。	行動観察
自然事象についての知識・理解	・菌ちゃん(微生物)が野菜くずを分解して、野菜を育てるためによい土を作っていくことを理解している。	行動観察 記録カード

< 2 > 植え付け

4 本時のねらい

専門家などからアドバイスをもらうことを通して、自分たちの栽培計画を見直したり、植え付けのポイントを理解したりすることができる。

作物の世話を継続して適切に行おうとする意欲をもつことができる。

5 本時の展開例 (45分 = 1時間)

学習活動	教師 (T)・子ども (C)・専門家 (P)	指導上の援助・留意点
①学習課題をつかむ (5分)	T:学習課題を確認し、インストラクターを紹介する。 T:学習の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって、安全・安心に活動に臨めるようにする。 C:いよいよ菌ちゃんの土に、種をまくんだね (苗を植えるんだね)。 C:本当に菌ちゃんの土で栽培する野菜は、おいしくなるのだろうか。	・活動の流れを示し、見通しをもたせる。
②野菜の種または苗の植え付けをする (25分)	P:実際にやって見せ、方法や注意点を説明する。 C:●●の種や▲▲の苗は初めて見たよ。 C:土がふかふかしてるよ、きっとこれが植物にいいんだね。 C:間隔を上手に空けよう。 C:水をたっぷりあげようね。	・野菜の生長に適切な間隔を知らせる。 ・種や苗を初めて見る子どもが多いと思われるので、植える前に観察を十分にさせ、特徴について気付いたことを発表させる。
③今後の世話について説明し、活動のまとめをする (15分)	P:今後の育て方について、水やり、芽かき、摘心、土寄せ、虫除けなどを説明する。なぜ、そのような育て方をするのかを問う。 C:植え付け後にあまり水をやらないのは、我慢させることで強くて美味しい野菜になるんだね。 C:土の表面に雑草を敷くことで、日光を遮って雑草が生えず、しかも土にミネラルが補給されるんだね。 C:芽かきは2年生の時にもやったよね。 C:大きくするために余分な枝を取って養分を集中させるんだな。 C:土を寄せるタイミングを間違えないように。 T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、専門家にお礼を述べる。	・図入りのパネルと、児童用のワークシートを用意し、作物ごとにいつどんな作業が必要になるか一覧できるようにする。 ・今日の学習を振り返って栽培への意気込みを子どもに語らせ、心を込めて栽培活動に取り組むことができるように導く。 ・菌ちゃんの土で作る野菜は、どんなふうにつくのか問題意識を継続させる。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
自然事象への関心・意欲・態度	・菌ちゃんの土で野菜はどのように育つか意識して活動している。	行動観察
科学的な思考・表現	・土の表面に雑草を敷くなどの具体的な世話が、どのように作用し、どのような効果をあげ、工夫になっているのかを考えることができる。	授業中の発言
観察・実験の技能	・適切な間隔を維持しながら、種まきや苗植えを行っている。	行動観察
自然事象についての知識・理解	・植物は水と空気が何よりも大切であり、それに関する世話活動が大切であることを知っている。	行動観察 記録カード

2 中学校・中等教育学校編 (1) アグリパーク

- ①食素材の力を活かし、付加価値を高める ～新潟食農ブランド作り～
 <1年 技術・家庭〔家庭分野〕>… 278
- ②協力し合い 苦手野菜を克服しよう！ <1年 特別活動〔学級活動〕>… 282
- ③ Agrish Cooking！ ～英語で郷土料理 in Agri～
 <2年 外国語> …… 286
- ④ザ・野菜作り！ ～アグリで体験 生物育成と食材の調理～
 <全学年 技術・家庭〔技術分野〕〔家庭分野〕>… 290
- ⑤農業が感動に変わる職場体験学習！ <全学年 総合的な学習の時間>… 294
- ⑥新潟農業ヒストリー ～乾田化で都市化～ <全学年 総合的な学習の時間>… 300
- ⑦アグリビジネスを体験しよう！ ～仮想株式会社で起業体験学習～
 <全学年 総合的な学習の時間>… 304
- ⑧新潟はスイーツ王国だ！！ ～地場産野菜の魅力を生かして～
 <全学年 特別活動〔生徒会活動〕>… 308
- ⑨中学校アグリパーク・ツアーズ ～日帰り編～
 <全学年 特別活動〔学校行事〕>… 312
- ⑩中学校アグリパーク・ツアーズ ～宿泊編～
 <全学年 特別活動〔学校行事〕>… 320

「アグリ・スタディ・プログラム」の中学校・中等教育学校編を作成するにあたっては、学習指導要領に基づき、教科等の授業時間の中で、これからの社会を生き抜くために必要な力を子どもたちに培うことを一番に考えました。特に、自分の未来を構想する力を培うキャリア教育を重要な視点として、学習課題—まとめ・振り返りを中心としたアクティブ・ラーニングの中で、農業体験活動を農業体験学習に高めることができるようプログラムを構成しました。

①食素材の力を活かし、付加価値を高める～新潟食農ブランド作

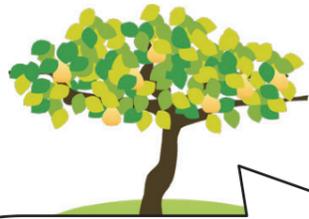
- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

魂 自分が育てる（見学調査する・収穫する） ➡

食素材の力を活かし、生鮮食品や加工食品などの付加価値を高めるには、どのようにしたらよいだろうか。

1日目

①アグリパーク内や近郊の果樹園を見学体験



新潟市南区は、果樹園が多いんだなあ。西洋梨のルレクチェは、南区茨曾根地区が日本発祥の地だったんだ！明治時代にフランスから持ってきた古木が今も1本大切に育てられているよ。

②食味体験

・生の果物はおいしいけれど、旬の時期しか食べられないね。
・加工されたジャム、コンポート、ドライフルーツ等になると、香り、舌触り、見た目はどうなるのかな？



体験活動

学習指導要領上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○中学校1年：技術・家庭〔家庭分野〕

- ・アグリパーク内外で収穫されている新潟市の旬の生鮮食品を学び、旬のおいしさを五感で味わいます。また、生産者や加工業者、販売者の思いを知り、生産から流通までの流れと、販売者、消費者の立場での商品価値を学びます。
- ・食糧資源を有効利用する方法を学びます。さらに、B級品が特級品以上の付加価値を高める方法を知り、消費者が求める食品への価値と持続可能社会を目指す食糧事情について学びます。

- * 技術・家庭〔家庭分野〕の内容
- B「食生活と自立」(3)イ
- D「身近な消費生活」(1)イ

り～

- ・実施期間 4月中旬～2月下旬
- ・1班最大人数 60人
- ・費用 110～210円/人

自分が消費する（作品にする）

(数週間後) 2日目

③「中学生Cafe」模擬体験

④レシピコンペ体験

私たちでもできる加工調理として、スムージーを作って「中学生Cafe」として模擬店販売体験をしてみよう。



このスムージーいくらで売ろうかな？

フルーツスイーツレシピを考え、「農家レストラン」に提案しよう。



食材や商品の付加価値を高める学びの可能性

○農産物、果物加工品の商品パッケージデザインやアグリパークイベント情報のポップやポスターデザインを考え、新潟食農ブランドとして、発信するメッセージ力を高める学習の課題設定等の場として、位置付けていくならば…

* 中学校2年美術の内容A「表現」(2)

例：「ポスターデザイン」「パッケージデザイン」

○アグリパークや近郊の食材を利用した地産地消をメインテーマに「Niigata soul food 中学生レストランメニュー」を提案し、アグリパーク内の「農家レストラン」で、期間限定メニューとして、日帰り客、宿泊客に提供するならば…

* 中学校1・2年技術・家庭〔家庭分野〕の内容B「食生活と自立」(2)

例：「1日分の献立づくり～中学生レストランメニューコンテスト～」

実践例 「食素材の力を活かし、付加価値を高める」～新潟食農ブランド作り～

1 関連する単元名 中学校技術・家庭〔家庭分野〕「地域の食材と調理, 地域の食文化」(10時間)

2 関連する単元の目標

- ・生鮮食品の品質を見分け, 品質を損なった生鮮食品も食糧資源としての有効活用を考えて, 加工することで付加価値が高まることを, 生産者・販売者・消費者の立場から多面的に考えることができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 「生鮮食品」「加工食品」の長所, 短所をまとめよう (1時間)

- ・データやグラフの数値を根拠に生鮮食品の旬, 栄養含有量, 鮮度の見分け方を調べる。

(2) 食品表示やマークの意味を読み取ろう。(1時間)

- ・自宅で食品表示やマークを集め, その表示されている内容と意味を調べる。

(3) 食に関する五感を働かせよう。(8時間)

- ・自然の中で収穫される野菜・果物を観察する観点や視点を確認する。(季節, 温度, におい, 形, 固さ, 音, 触感, 食感等)
- ・ルレクチェの活用, 新潟食農ブランドの確立, 付加価値を高めるなどの観点で学習課題をつくる。
- ・生産者の思いを知るために学習課題に沿ったインタビューを用意する。

体験の前

学習課題例

食素材の力を活かし, 生鮮食品や加工食品などの付加価値を高めるには, どのようにしたらよいただろうか。

アグリパークでの体験学習 <5時間>

①産地見学ツアーと生産者の方々へインタビュー

- 4～12月 果樹園見学ツアー (イチゴ, 桃, ぶどう, 梨, りんご等)
- 10月～12月 限定見学ツアー (日本のルレクチェ発祥の地の古木・石碑見学)

②収穫した生鮮野菜, 果物と加工食品の食べ比べをする

③果樹園内仮想店舗「中学生青空アグリC a f e」による6次産業文化模擬体験

- ・販売側スムージーの名前を考え, 提供するカップデザインを選択し, 客に提供する。
- ・消費者側スムージーが提供されるまでの時間, 対応, カップの注ぎ方, 量をチェックする。

④開発商品の価格決定体験

- ・東京都内の有名フルーツパーラーと仮想店舗での提供価格と, 消費者の購入限度額について, 理由に基づき決定する。

⑤アグリパーク内のレストランで実際に提供できる果物を使ったメニューを提案し, コンペをする。

まとめのメモ例

- 「希少価値の高いルレクチェをできるだけ高く売りたい」(生産者)
- 「希少価値の高い食材でも, できるだけ安いほうがいい」(消費者)
- 「B級選別のものを使い加工して商品化する」(販売者側)

体験の後

- ・ファシリテーションを用いて, 自分や仲間の考えを言葉やイラストで表現し, 視覚化してまとめ, 発表しあう。
- 話し合うテーマ……① 生産者の思いをどう受け止めたか?, ② 生鮮食品, 加工食品の価値について, ③ 新潟食農ブランドについて, ④ 「中学生青空アグリC a f e」の経営について (販売者側, 消費者側), ⑤ 果物を使った新メニュー提案について

4 本時のねらい

B級に選別された生鮮食品 (地元特産品ルレクチェ) を利用した加工技術を実習することを通して, 食品の素材を活かし, 消費者, 販売者の視点からさらに商品としての付加価値を上げるための方法や仕組みを考え, 新潟食農ブランドを売り出す方法をまとめることができる。

5 本時の展開例 (250分=5時間)

学習活動	教師(T)・指導者(I)・子ども(S)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (5分)	T:学習課題を確認し, インストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的, 注意事項を説明し, 見通しをもって, 安心, 安全に活動に臨めるようにする。	・視覚情報を用いて説明し, どの生徒にも理解できるようにする。
②ルレクチェの古木を見学する ・果物栽培・出荷・流通等に関する話を果樹園農家から聞く (120分) (果樹園にて)	I:ルレクチェの古木や日本西洋梨発祥の地の石碑へ引率し, 現地の果樹園の方から説明してもらう。 S:ルレクチェの歴史や栽培の難しさと新潟県産ブランドを生産する農家の方のやりがいを聴く。 T:ルレクチェの最盛期は, 1か月の短命である。新潟ブランドとして, 多くの消費者に購入してもらう方法を提案させる。 S:ルレクチェを使った素材を商品化して, さらに宣伝したらいいんじゃないかな。 S:B級品以下のもも活用したらいい。	〈バスで移動〉 ・石碑, 看板に書かれている説明文を読み取らせる。 ・ルレクチェと他の品種の洋梨の出荷量の比較から, ルレクチェの希少価値を知らせる。 〈バスで移動〉
③生のルレクチェをむき, コンポート等の加工されたものと食べ比べる (30分)	I:簡単にできる加工をし, ジャム, コンポート, スムージーと生食の食べ比べをさせる。(香り, 形, 固さ, 音, 触感, 食感等) I:仮想店舗「中学生 青空アグリC a f e」をオープンさせ, 販売側と消費者側で体験をさせる。 S:生は, おいしいけれど, スムージーもいいね。 T:「今あなたが作ったスムージーはいくらの価格で販売をしますか?」「また, 買う立場なら, いくらなら買いますか?」と問い, 値段の理由も考えて, 自分の意見と班の仲間の意見をまとめさせる。 S:購入するなら安い方がいいな。 S:希少価値が高いルレクチェを高く売りたいな。	・生鮮食品と加工食品の長所, 短所を考えさせる。 ・販売する商品のネーミング, 接客の仕方等を示す。 ・販売者側, 消費者側の立場をどちらも経験させる。 ・東京都内「有名フルーツパーラー」での相場を知らせる。 ・商品への付加価値の高め方を様々な視点から考えられるようにする。 ・新潟市のルレクチェをおいしく食べてもらえる新レシピを考案させ, コンペでベスト3を決める。
④ルレクチェスムージーを商品として, 模擬販売体験をする (35分)	I:パッケージのイメージ, 販売している場所によっても価格は変動することを資料等で示す。 I:アグリパーク内のレストランで実際に提供できる果物を使ったメニューを提案し, コンペをさせる。 S:スムージーに角切りルレクチェとミントをのせるのもいいね。(〇〇中案レシピ)	
⑤各立場からの価格設定とその理由を考える (20分)		
⑥果物レシピを使ったレシピを考える (30分)		
⑦学びをまとめる (10分)	T:新潟が食農ブランド力をさらにアップするにはどのようにしたらよいただろうか?生産者, 消費者, 販売者の視点からそれぞれまとめさせ, メモさせる。 T:まとめのメモを書かせ, 発表させた後, インストラクターにお礼を述べる。	・消費について多面的に考えられるよう様々な立場から述べるようにする。

6 体験学習の評価例

観 点	評 価 規 準	評価方法
生活や技術への関心・意欲・態度	・ルレクチェ栽培の果樹園農家の方々の説明を意欲的に聞き, ルレクチェ栽培の工夫や流通等について積極的に質問ができる。	行動観察 レポート
生活を工夫し, 想像する能力・思考・判断	・ルレクチェの付加価値が高まる方法を仲間と話し合うことができる。	ホワイトボード
生活の技能・表現	・仮想カフェで販売者として, 誠意を尽くして, 客側に対応できる。 ・ルレクチェを用いたレシピを考案することができる。	模擬体験 レポート
生活や技術についての知識・理解	・生産者, 販売者, 消費者の立場から新潟食農ブランドの付加価値を高める方法を述べるようにする。	レポート, ファシリテーション

②協力し合い 苦手野菜を克服しよう!

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

・実施期間	6月上旬～12月中旬
・最大人数	120人
・費用	440円/人

が 魂 自分が育てる（収穫する）	自分が消費する（調理する・飲食する）
----------------------------	--------------------

友達が苦手な野菜をおいしく食べられるようになるために、どんな工夫ができるだろうか。

①苦手な野菜の収穫体験

元気な野菜の条件と照らし合わせながら、友達と協力して、新鮮な野菜を収穫しよう。

苦手な野菜がたくさんあるぞ。今日は、みんなで協力して、苦手な野菜を美味しく食べられるようにしよう。

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○中学校1年 特別活動〔学級活動〕

- ・協力して野菜の収穫、調理、試食を行うことを通して、他人に共感し他者へ思いやる心を育てるとともに、連帯感や協力心を育むことができます。
- * 特別活動〔学級活動〕(2)「適応と成長及び健康安全」オ「望ましい人間関係の確立」
- ・元気な本物の野菜を友達と工夫を凝らしながら食べることで、今まで苦手だった野菜の美味しさを実感するとともに、みんなで協力すれば食生活も改善できようという自信をもたせることができます。
- * 特別活動〔学級活動〕(2)「適応と成長及び健康安全」キ「心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成」

②調理体験

野菜の甘さを生かしたり、苦みが分からないようにするための調理の仕方を、友達と一緒に工夫したりしながら取り組もう。

③食味体験

苦手な野菜だったのに、友達が「美味しい」って言うてくれた。やったー!

苦みのある野菜を協力して刻んで入れたら、とても食べやすく美味しかった。ありがとう。

野菜の収穫体験、苦手な野菜を美味しく食べる調理体験の学びの可能性

○野菜の栄養素の種類と働き及び調理についての基礎的・基本的な知識・技術の習得を中心に学習活動を構成していくならば…

* 中学校技術・家庭〔家庭分野〕B「食生活と自立」

○そのほか、総合的な学習の時間に、環境に優しく経済的な料理や調理法について考え、調理によって出されるゴミをなるべく少なくし、エネルギーを効率よく使って調理しようとしたり、残さず食べたりしようとするなど、自分たちの食事を見つめ、日常生活の在り方を見直す場として位置付けていくこともできます。

実践例 「協力し合い 苦手野菜を克服しよう！」

1 関連する単元名 中学校1年 特別活動「学級の友達とチャレンジ！」(7時間)

2 関連する単元の目標

- ・他人に共感し他者を思いやる心を育て、連帯感や協力心をはぐくむとともに、望ましい円滑な人間関係を形成する力を高める。
- ・生涯を通じて積極的に健康の保持増進を目指す態度を育成するとともに、自らの健康状態についての理解と関心を深め、望ましい生活態度や習慣の形成を図る。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 自分の体調の変化と食生活との関係を探ろう(1時間)

- ・自分の体調について、「風邪を引きやすい」「疲れやすい」「やる気がでない」「寝付きにくい」「朝起きにくい」「あまり学習に集中できない」「いらいらする、怒りやすい」などの症状が見られないか、体調チェックシートをもとに振り返る。
- ・このような症状には、日頃の食生活が大きくかかわっていることを知る。特に、新鮮な野菜のもつ「命の力＝ファイトケミカル(植物が紫外線や病害虫などから自分を守るために作る成分:抗酸化力や免疫力をアップ)」を摂取することが、症状の改善に大きな効果があることを知る。
- ・「虫がつく野菜は新鮮か?」という問いから、新鮮な野菜の見分け方を学ぶ。例として、アグリパークで栽培した野菜とスーパーで購入した野菜とを比較することを通して、元気な旬の野菜は手間がかかるが、「甘い、腐らない、虫が付かない」ことを知る。

(2) 自らの食生活を見つめよう(1時間)

- ・アグリパークで栽培している野菜の中で、好きな野菜・苦手な野菜の種類、好きな理由・苦手な理由(味、舌触り、香り、見た目)について、一人一人に調査する。その調査結果をもとに、好きな野菜、苦手な野菜の共通点を探る(甘い、苦い、みずみずしい、パサパサしている等)。
- ・苦手な野菜を美味しく食べるための調理方法について、一人一人がアイディアを出し合う。

(3) 苦手な野菜を美味しく食べるための調理方法を工夫しよう(5時間)

- ・苦手な野菜を美味しく食べるためのプロジェクトチームを編成する。(例:ナス・ピーマンプロジェクト、ニンジン・タマネギプロジェクト)
- ・苦手な野菜を美味しく食べるための調理方法について友達が出したアイディアをもとに、プロジェクトチームで協力して工夫し合いながら新鮮な野菜の力を生かした調理方法を検討する。
- ・決定した調理方法をもとに、友達と協力し合いながら調理計画を立てる。

学習課題例

友達が苦手な野菜を美味しく食べられるようになるために、どんな工夫ができるだろうか。

アグリパークでの体験学習 <3時間>

①苦手な野菜の収穫体験 → ②調理体験 → ③食味体験

まとめのメモ例

「友達と協力して元気な野菜を選んで、栄養素を生かした調理方法を工夫するとおいしく食べられる。」

- ・プロジェクトチームごとに、調理する時に工夫した点や苦労した点を発表し合うことを通して、互いの努力の成果を認め合う。
- ・苦手な野菜の料理を食べた感想を述べるとともに、工夫して調理してくれた友達へ感謝の気持ちを伝えていくことを通して、友達と協力し合いながら取り組むことの素晴らしさを実感する。
- ・今回の体験を、今後の自分の生活にどのように生かしていきたいか交流し合う。

4 本時のねらい

友達と協力し合いながら、苦手な野菜を食べやすいように工夫して調理する体験を通して、互いに思いやり感謝したりするとともに、連帯感を深めていくことができる。

5 本時の展開例(150分=3時間)

学習活動	教師(T)・指導者(I)・子ども(S)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:「苦手な野菜がたくさんあるぞ。今日は、みんなで協力して、苦手な野菜を美味しく食べられるようにしよう。」と呼びかける。	・体験目的「アグリパークで苦手な野菜を克服する」を明確にして、取り組ませる。
②協力し合いながら、野菜を収穫する (25分)	I:元気な野菜の見分け方、収穫の仕方について説明する。 S:キュウリは、くびれたものでなく太さが均一で表面のトゲをさわると痛いぐらいのものがよかったな。 S:長ネギは、白い部分が長くてつややかで柔らかいものを選ぼう。 S:ピーマンは、緑色が濃くつやがあり、張りのあるものを探そう。	・事前に元気な野菜の選び方・数を記載したものを準備させておき、それを確認しながら収穫できるようにする。 ・収穫が初めての野菜もあるので、事前に適切な収穫の仕方を知らせておく。
③教え合い、助け合いながら、調理する (80分)	T:調理のめあてを確認する。 I:野菜のファイトケミカル(植物栄養素)を生かした調理方法を確認し、調理させる。 S:トマトの赤い皮の部分には、ファイトケミカルが豊富だから、皮のままオリーブオイルで炒めると油に溶けやすいので炒めよう。 S:新鮮なニンジンはそのままで十分甘いので、ジュースにしよう。 S:長ネギは火を通すとより一層甘くなるので、ミネストローネやオニオングラタン風スープにしよう。 S:役割分担を決めて、協力して調理しよう。	・あらかじめ各プロジェクトで計画を立てた調理方法を確認させる。 ・植物の有するファイトケミカルが、生活習慣病予防やアンチエイジング、免疫力強化、アレルギー対策、アルツハイマー予防など、様々な健康への良い影響があることを、再度確認する。
④互いに工夫した点を認め合いながら、調理した野菜を味わう (40分)	I:調理の仕方について工夫した点を踏まえて、試食させる。 S:トマトってこんなに甘かったんだ。 S:生のニンジンや長ネギが甘いのでびっくり。 S:本物の野菜の力ってすごいなあ。 S:〇〇さんのアイデアのおかげでおいしく食べられた。 T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。	・食味体験の前に各々の料理を撮影しておき、後日、ふり返りの場面で使用する。 ・調理で工夫や苦労した点、料理を食べた時の感想について記述させておく。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・「苦手な野菜を克服する」という課題に関心をもつ。 ・積極的に野菜のよさを生かそうと友達と協力し合いながら活動に取り組んでいる。	ワークシート 行動の観察
集団の一員として思考・判断・実践	・「苦手な野菜を克服する」ためのよりよい調理方法について工夫を凝らしている。 ・友達と一緒に考え、協力し合いながら実践している。	ワークシート 調理計画用紙 行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・好き嫌いせずに野菜を摂取する大切さや実践の仕方を理解している ・友達とともに協力して取り組むことの大切さを理解している。	ワークシート

③ Agrish Cooking! ～英語で郷土料理 in Agri～

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

・実施期間	10月上旬～1月下旬
・1班最大人数	60人
・費用	230円/人

魂 自分が育てる（採取する・収穫する）

ゲストの国の郷土料理と対比し、新潟の郷土料理「のっぺ」に用いる食材や調理法をゲストに説明するには、どの表現をすとうまく伝わるだろうか。

体験活動

① 郷土料理のパンフレット作成のため野菜を収穫しよう



和食がユネスコ無形文化遺産に登録されたから、新潟の郷土料理「のっぺ」も、パンフレットにして世界に発信しよう。うまく伝えるには、どうすればいいかな。

② 留学生と一緒に郷土料理体験



留学生の方と話しながらの収穫は楽しいね。ゴボウは難しいけれど、ニンジンはずすぐ抜けるよ。



留学生の方と互いの郷土料理について作り方を説明し合い、一緒に調理しましょう。

学習指導要領上の位置付け

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちを学校の先生たちから

○中学校2年：外国語〔英語〕

- ・教科書本文（「NEW CROWN 2」LESSON 4 Enjoy Sushi）の郷土料理のよさを伝える内容を踏まえ、新潟県の郷土料理である『のっぺ』を、新潟に住む外国の方に伝えるパンフレットを作成します。その際、単に教科書本文を真似て『のっぺ』のことを記述するのではなく、実際に食材を収穫、調理したり、試食したりします。これにより得た自分の考えや気持ちを踏まえて記述することで、英語を用いることの有効性を実感することができます。
- *外国語2年の内容（1）言語活動 ア「聞くこと」（エ）（オ） イ「話すこと」（イ） エ「書くこと」（エ）

自分が消費する（加工する・調理する・飲食する・作品にする）

③英語で郷土料理を説明する郷土料理会食



基本的な英単語を用いて、紹介するぞ！外国の郷土料理も食べ比べしたいね。

学校でパンフレット作り



外国の料理との共通点・相違点を記述すると分かりやすいね。

単にレシピを英訳するのではなく、実体験から分かったこともパンフレットに記述しましょう。パンフレットは、留学生のいらっしゃる大学だけでなく、アグリパークにも置いてもらいましょう。

Agrish Cooking!～英語で郷土料理 in Agri～の可能性

- 郷土料理が新潟の気候風土と食材に影響されて作られてきていることや地域、家庭によっても異なる郷土料理文化を家庭科の学習として行うならば…
- * 中学校技術・家庭〔家庭分野〕の内容B（3）イ、ウ
- 「なぜ『のっぺ』が新潟の郷土料理になったのか？」という問題意識をもたせ、伝統的な食文化や、地域農業、他地域との交流等とのかかわりを追究させようとするならば…
- * 総合的な学習の時間の学習課題：「横断的・総合的な課題」

実践例 「Agrish Cooking!」～英語で郷土料理 in Agri～

1 関連する単元名 中学校2年 外国語
「Agrish Cooking!」～英語で郷土料理 in Agri～ (13時間)

2 関連する単元の目標

- 身近な地域の名所・名物を紹介する英文を書くことを通して、日本の各地域の食文化について関心を高めるとともに、There is(are)～、や動名詞の意味・用法を理解し、新潟の郷土料理「のっぺ」のすばらしさを外国の人に紹介するパンフレットを作成することができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 目標言語材料(There is, are～と動名詞)を用いて、教科書本文のように、新潟の特産品について説明しよう!(5時間)

- 新潟の特産品を複数挙げ、目標言語材料を用いて、教科書本文にならって記述してみる。

例) There are many farmers in Niigata. It is famous for its delicious rice.
There are many vegetable gardens here. There are many fresh vegetables.
We enjoy cooking and eating them.

(2) 新潟の郷土料理を調理してみよう!(6時間)

- 英語で書かれたのっぺのレシピをあらかじめ参照し、調理行程を確認しておく。
- 留学生の国の煮物料理(韓国のスジェビ、イタリアのミネストローネ等)について理解しておく。
- 基本的な食材(ゴボウ a burdock, サトイモ a taro, ニンジン a carrot 等)や調理法に関する基本的な単語(切る cut, 煮る boil, 焼く bake, 炒める fry, 蒸す steam 等)の発音を確認しておく。
- 「新潟と海外の郷土料理に関する表現を用いて情報収集する」という観点から学習課題をつくる。

体験の前に

学習課題例

ゲストの国の郷土料理と対比し、新潟の郷土料理「のっぺ」に用いる食材や調理法をゲストに説明するには、どの表現をすとうまく伝わるだろうか。

アグリパークでの体験学習 <4時間>

①野菜収穫体験→②郷土料理調理体験→③留学生との会話

まとめのメモ例

「調理の時は、材料を示す名詞と、調理の仕方を示す動詞をはっきりと使い分ける。」
「There is(are)～、動詞 ○○ing～という表現がリーフレットに使える。」

体験の後に

- 班ごとに調理した物を見せ、料理の名前、用いた材料等について簡単に英語で説明し合う。
- 「のっぺ」と各国の代表的な煮物料理と一緒に試食し、留学生から感想を聞いたり、食べ比べてみたりすることで、後のパンフレット作成の際に必要な情報をメモする。

(3) 新潟の特産品について説明し、パンフレットとしてまとめよう!(2時間)

- 県内在住の外国の方に新潟の郷土料理を紹介するパンフレットを作成する。
教科書本文で用いられている言語材料を使い、アグリでの収穫、調理、試食の体験を踏まえ、記述する。

例) Noppe is from Niigata. There are many vegetables in it, so it is colorful. You can see carrots, burdocks, green onions, a shiitake mushroom, boiled fish paste, taro, konnyaku, salmon roe and so on. There are many boiled dishes in the world. They use their area's local products to cook them. So we use our area's local products such as burdocks, carrots and taro to cook noppe. And Murakami City is famous for its salmon. So we use salmon roe too. It takes us only 30 minutes to cook it.

When you travel in Niigata, try tasting noppe. And why don't you try cooking it? It's delicious!

※ 下線部は教科書本文と同じ語、語句

4 本時のねらい

海外の留学生と新潟の郷土料理「のっぺ」や海外の煮物料理を調理することを通して、それぞれの特徴を述べたり、パンフレットとしてまとめるための情報を収集したりすることができる。

5 本時の展開例(200分=4時間)

学習活動	教師(T)・指導者(I)・子ども(S)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ(5分)	T:学習課題を確認し、インストラクターを紹介する。 Today we will cook local food "Noppe" and international food with our guests. We will make a leaflet of noppe. Let's get a lot of information to make a leaflet. We have some guests today. Please introduce in each group. S:Hello. Nice to meet you. My name is～. Let's cook delicious food together.	・学習の流れを示し、学習の見通しをもたせる。 ・ローマ字表記の名札用意
②食材を収穫する(30分)	I:収穫の仕方を説明する。 S:(留学生と会話しながら収穫する)	
③調理法の説明を聞き、留学生と一緒に会話して意思を通じあわせながら調理する(90分)	T:We will cook Noppe and your guests' home country food. First, let's listen to the instructor and check the recipe of Noppe. I:のっぺの調理法をひと通り説明する。 T:Please share the recipes. S:「のっぺ」と海外の煮物料理の調理法を確認する。	・「のっぺ」と海外の煮物料理の調理法について説明し合う。
④互いに作った料理を適切な英語を使って紹介し合う(15分)	T:Let's introduce the food to each other. S:We cooked with ○○san. He is from Korea. We made "Sujebi". We used potatoes, radishes, onions, pumpkins and so on. We mixed flour and water to make Sujebi. It looks like rice cake! It looks delicious. I:「のっぺ」の食材について、場所や季節といった観点から説明する。	・写真を撮り、パンフレット作成の資料とする。 ・「のっぺ」についても、同様に紹介する。 ④Sujebiは韓国のすいとんに似た料理
⑤会話しながら一緒に試食する(45分)	T: Please ask your guests about the taste. You can tell them about the taste of their home country food.	・留学生に感想等を尋ねる。
⑥まとめと振り返りをする(15分)	T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。	

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	・「のっぺ」や海外の代表的な煮物料理の食材の収穫、調理、試食を通して、一緒に作業した海外の留学生の話に関心をもって聞いている。	行動観察
外国語表現の能力	・「のっぺ」の食材の収穫、調理、試食を通して、作業工程を英語で適切に伝えることができる。 ・「のっぺ」が新潟の郷土料理となった理由を地場野菜や旬の食材という観点から、正しく英語で伝えることができる。 ・海外の代表的な煮物料理の調理や食材について、「のっぺ」と対比し、パンフレットを作る上で、必要な情報を聞き出すことができる。	行動観察 ワークシート
外国語理解の能力	・海外の代表的な煮物料理の調理方法等についての説明を聞き、話されている内容を正しく理解することができる。	行動観察 ワークシート
言語や文化についての知識・理解	・必要なつなぎ言葉や相づちをうつ表現などを用いている。 ・「のっぺ」と関連させ、海外の食文化について理解している。	行動観察

④ザ・野菜作り！～アグリで体験 生物育成と食材の

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

- ・実施期間 4月中旬～11月中旬
- ・最大人数 120人
- ・費用 440円/人

が 魂 自分が育てる（世話する・採取する・収穫する）

調理～ 自分が消費する（調理する・飲食する・作品にする）

さまざまな野菜の栽培管理技術は、なぜ必要なのだろうか。

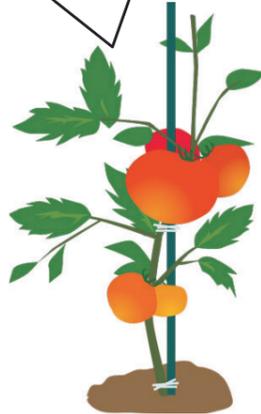
地域の食材や季節の野菜を使った調理には、どのような良さがあるのだろうか。

体 験 活 動

①野菜の管理技術体験

②収穫体験

トマトのわき芽ってこれかな？手でもいでもいいのかな？



これがわき芽だよ。でも、どうして取るのかな？ピーマンやナスも摘芽するのかな？大きくておいしい野菜を育てるためには、手間がかかるんだな。



トマト、ピーマン、ナスは同じナス科なのに、実の付き方や収穫の仕方にも違いがあるのね。



③季節の野菜を使った夏野菜カレー作り体験

自分たちで収穫した季節の野菜を使って、カレー作りに挑戦しましょう。みんなで仕事を分担するよ。



枝豆入りの豆ご飯もつくろう。豆はさやから出して混ぜ込もう。



野菜以外の材料も、アグリパークでとれたものなんだ。豆ご飯とカレーって合うね。

とれたての季節の野菜は最高においしいね。



学 習 指 導 要 領 上 の 位 置 付 け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○中学校全学年：技術・家庭

・学校では体験できない露地栽培やハウス栽培といった本格的な野菜の栽培技術を体験的に学習することができます。気象・土壌・作物の特性や生育の規則性などを考慮した、野菜の管理技術体験を体験的に学ぶことができます。

*技術・家庭〔技術分野〕C「生物育成に関する技術」

内容（1）ア 生物育成の条件と育成環境の管理方法

・アグリパークで収穫できる季節の野菜を用いた調理を通して、地域でとれる季節の野菜を利用することのよさを学習できます。

*技術・家庭〔家庭分野〕B「食生活と自立」

内容（3）イ 地域食文化についての理解

野菜作り体験の学びの可能性

○季節の野菜の受粉体験（イチゴ・トウモロコシ）や花のつくり（イチゴ・サヤエンドウ）、発芽（トウモロコシ（単子葉類）・枝豆（双子葉類））、根（ニンジン・大根の間引き（主根と側根）、トウモロコシ（ひげ根））の観察などを中心に学習活動を構成していくなれば…

*中学校1年理科〔第2分野〕の内容（1）「植物の生活と種類」

○この活動を学級の中の小集団で協力して行い、教師と生徒及び生徒相互の人的なふれあいや信頼関係を築くとともに、集団生活のきまりや公衆道徳についての体験の場とするならば…

*特別活動〔学校行事〕（4）旅行・集団宿泊的行事

実践例 「ザ・野菜づくり」 ～アグリで体験 生物育成と食材の調理～

- 1 関連する単元名** 中学校1～3年 技術・家庭科（10時間）
 [技術分野] 「本格的な野菜の栽培管理技術を体験しよう」
 [家庭分野] 「地産の季節の野菜を使った調理のよさを体験しよう」

2 関連する単元の目標

- ・生物の育成に適する条件や育成環境を管理する方法を体験的に知ることができるようにする。
- ・地域の季節の食材を生かした日常食の調理を通し、地域の季節の食材の良さを体験的に理解することができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 人・生物・環境のかかわりについて知ろう（技：1時間）

- ・生物を育てる目的を知る。
- ・生物を育てる技術とは何かを考えることができる。

(2) 植物を育てる技術を知ろう（技：1時間）

- ・植物を育てるための管理技術を知る。
- ・植物が育つ環境条件を調整する技術を知る。

(3) 食生活に関心を持ち、食事の役割を知ろう（家：2時間）

- ・自分の食生活を振り返る。
- ・食事の役割を知り、健康によい食習慣を考える。

●アグリパークで体験したり、指導者に質問をしたりして、学校で学んだことを確かめることができます。
 ●どんなことを確かめたいのかをリストアップするなどして準備しておきましょう。

(4) アグリパークで野菜の管理技術を学び、収穫した野菜を使って調理を体験しよう（6時間）

- ・アグリで育てられている野菜のうち、1品種の生育の特徴を調べておく。
- ・栽培に必要な条件から自分が確かめたいテーマを決め、学習課題を決定する。

体験の前

学習課題例

さまざまな野菜の栽培管理技術は、なぜ必要なのだろうか。
 地域の食材や季節の野菜を使った調理には、どのような良さがあるのだろうか。

アグリパークでの体験学習 <4時間>

①野菜の管理体験 → ②野菜の収穫体験 → ③加工・調理体験

摘芽・摘芯・誘引・支柱立て
 除草・土寄せ・間引き・追肥
 害虫・害獣対策・灌水など

トマト、なす、
 枝豆、ピーマン

夏野菜カレーづくり
 豆ご飯づくり

まとめのメモ例

「それぞれの野菜によって適した管理技術、育成条件、収穫時期がある」
 「旬の収穫したての野菜は最高においしい。地産の食材を使った新潟らしい食生活を進めていくことが大切だ」

- ・自分がテーマとした栽培に必要な条件について、アグリで体験したことや調べたことをもとにまとめる。
- ・まとめた内容をもとに、自校での生物育成を進める。
- ・地域で収穫される季節の食材を使った調理のよさを確認し、食文化に関心を持つ。

4 本時のねらい

野菜栽培の管理技術、収穫の仕方を体験を通して理解するとともに、収穫した野菜を用いて適切な方法で調理することができる。

5 本時の展開例（200分＝4時間）

学習活動	教師(T)・指導者(I)・子ども(S)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (10分)	T:学習課題を確認し、インストラクターを紹介する。	・自分の栽培計画や、野菜の栽培に必要な条件を確認する。
②野菜の管理技術を体験する (50分)	I:野菜の栽培管理技術のうち、今現在アグリパークで体験できる管理技術を、4班に分かれて体験させる。 S:これがトマトのわき芽だな。残さず摘み取ろう。でもどうしてとるのかな。 S:枝豆は、先っちょの芽を摘み取るんだって。摘芯ていうんだ。どんな効果が? S:ナスやピーマンも摘芽や摘芯するのかな?支柱の立て方も違うみたいだね。	・それぞれの管理技術がなぜ必要なのか、何のために行うのかを考えさせる。 ・野菜の種類による生育の特徴や実、側枝、葉の付き方などの規則性があることを知らせ、その野菜に適した管理技術や育成条件について考えさせる。
③野菜の収穫を体験する (30分)	I:野菜の収穫の説明を行う。 S:ナスの収穫適期はどこで判断するの? S:枝豆の収穫はまだだけど、小さい花が咲いているものもあるよ。 S:ヘタがとれたり、傷ついたりしたものは、どう扱われる。	・収穫の喜びを味わせるとともに、それまでの育成にかかわる苦労を考えさせる。 ・どのような状態が収穫に適した状態なのかを知らせ、収穫適期に収穫する必要性について考えさせる。
④食品加工・調理体験をする (110分)	T:今日収穫した野菜、アグリパークで生産された食材を使って、夏野菜カレーづくりに挑戦させる。 I:調理の仕方を説明する。 S:枝豆はご飯に混ぜて豆ご飯にしよう。 S:季節の野菜は最高においしいね。 S:これからも新潟産の食材を使って新潟らしい食生活を進めていこう。 T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。	・収穫したての野菜のおいしさを実感させ、地域の食材や季節の野菜を調理に使うよさを認識させる。 ・新潟産の食材を使った調理体験を、新潟の食文化への関心と理解に反映させる。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
生活や技術への関心・意欲・態度	技：野菜の栽培技術に関心を持ち、学習活動に取り組もうとしている。 家：調理や、献立に関心をもって学習活動に取り組もうとしている。	・活動の様子 ・事前準備の取組
生活を工夫し創造する能力	技：野菜の育成に必要な条件を明確にし、野菜の成長に適した管理作業などを工夫している。 家：調理方法を調べたり、役割分担をするなど課題解決に向けて工夫している。	・育成計画 ・調理計画 ・作業の工夫
生活の技能	技：適切な資材や用具を用いて、合理的に管理作業をすることができる。 家：調理に関する基礎的な技術を身に付けている。	・作業の様子 ・栽培記録 ・調理記録
生活や技術に関する知識・理解	技：生物育成に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響について説明できる。 家：調理や、食品の選び方と1日分の献立に関する基礎的な知識を身に付けている。	・学習のまとめ ・発表内容

⑤農業が感動に変わる職場体験学習!

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

- ・実施期間 5月中旬～2月下旬
- ・1班最大人数 3～5人程度(体験場所による)
- ・費用 無料

が魂 自分が育てる(見学調査する・植える・世話する・採取する・収穫する)

アグリパークで働くことの意義とはなんだろう。

①アグリパーク探索体験



アグリパークを運営するためには、どんな仕事があるのかな？アグリパークで働いている方々から仕事内容を教えてもらおう。

②職場体験

農作業体験

生産者が何を大切にしているか、知っていますか？一緒に農業体験をしよう！





学習指導要領上の位置付け

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○中学校全学年：総合的な学習の時間

- ・職場体験活動やもの作り、生産活動などの体験活動を通して、働くことの意義を考え、農業に携わり、教えてくださった人へ感謝をするとともに、これからの自らの生き方について、見つめ直し、進路選択の糧としていくことができます。
- ・**総合的な学習の時間の学習課題：「横断的・総合的な課題」**
- ・職業や自己の将来に関する学習では、問題解決的な探究活動を積極的に行います。

➡ 自分が消費する(見学調査する)

直売所体験

新潟特産の新鮮な野菜や果物を売ってみよう！



③働く方々へインタビュー



アグリパークで働くやりがいは何だろう？この仕事への誇りは何だろう？これからどのような農業や施設運営を目指したいのだろうか？

宿泊施設管理体験

お客様が、気持ちよく過ごせるように管理しよう。



職場体験の学びの可能性

- 働くことの意義や職業調べを中心に学習を構成するならば…
 - * 特別活動【学級活動】(3) 学業と進路
- 新潟県中学校長会編集『新しい生き方』2年生「働くことの意義」の学習を構成していくならば…
 - * 道徳 4-(5) 資料「職場体験レポート」
- 付加価値をつけてブランド力を高める仕組みとその価格の在り方を関連付けて学ぶ「消費者教育」の学習活動を構成していくならば…
 - * 中学校技術・家庭【家庭分野】B「食生活と自立」
- そのほか「美術」では、農産物、果物加工品の商品パッケージデザインやポップやポスターデザインを考え、新潟食農ブランドとして、日本、世界へ伝え、発信するメッセージ力を高める学習の課題設定等の場として、位置付けていくこともできます。

実践例 「農業が感動に変わる職場体験学習！」

1 関連する単元名 中学校全学年 総合的な学習の時間（キャリア教育）「アグリ職場体験学習」（5日間実施の場合37時間）

2 関連する単元の目標

- ・アグリパークの仕事にかかわる人の話を聞きながら農業体験や食品加工、直売所の職場体験学習を行うことを通して、生産や販売、流通にかかわる人たちから働くことの意義や仕事への誇りについて学ぶとともに、これからの自らの生き方について見つめ直し、よりよい進路選択ができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1)「何のために職場体験学習を行うのか」「何を明らかにしたいのか」追究テーマを決めよう(1時間)
 ・「なぜ、働くのか」「農業生産者として、大切にしていることは何か」など、『働く意義』について体験前の自分の考えや仲間の考えを話し合い、記録する。(体験前の考え)

(2) アグリパークの施設や運営内容を知り、体験先を決定しよう(1時間)
 ・農業、畜産、加工、販売店員、宿泊等のアグリパークの職業について調べ、働きたい職種を決める。

(3) 働く方々へのインタビューをまとめよう(1時間)
 ・働く喜びや誇り、困難なこと、目指す事などのインタビュー結果を職場体験学習日誌に記録する。

(4) アグリパークで職場体験活動をしよう
 ・仕事に一所懸命取り組むことが、「働くことの意義」を実感することであることを意識して、活動に取り組む。
 ・自分の将来、働く意義、働く喜びなどの観点で学習課題をつくる。
 ・接客では挨拶、明瞭な返事、さわやかな態度を心がける
 ・服装、安全面、緊急の遅刻、欠席連絡の方法や職場体験活動日誌の記録の仕方等を確認する。

学習課題例

アグリパークで働くことの意義とはなんだろう。

アグリパークでの体験学習＜6時間 ほか休憩60分＞

『3日間やれば、仕事の楽しさがわかる 5日間やれば、本当の仕事の大切さと厳しさがわかる』
【緊張の1日目】職場の人や仕事を知ろう
 ①自己紹介・あいさつ→②職場体験実施の注意事項の確認→③農地、加工所、販売所等の施設見学、昼食（職場に慣れよう、職場の人と話してみよう）→④仕事の方法について、説明→⑤職業実習（働くことを実感しよう）→⑥1日の振り返り・まとめを日誌に記録
【仕事を覚える2日目】仕事を積極的に覚えよう
 ①あいさつ・本日の仕事の確認→②職業実習（働くことを実感しよう）→
 昼食（職場の人に、農業について聞いてみよう）→③職業実習（働くことを実感しよう）→④1日の振り返り・まとめを日誌に記録
【仕事に慣れる3日目】自ら動こう、①～④は同様
 昼食（「なぜ農業の道を選んだのか」「仕事に関する考え」等の質問をしよう）
【考える4日目】創意工夫して働こう、①～④は同様
 昼食（「生き方」「人生への考え」「中学校時代は、何を考えていたか」「農業の未来について」「新潟の農業ブランド力について」等の質問をしよう）
【感動の5日目】教えていただいた方々に感謝しよう
 ①～④は同様
 昼食（「自分の将来」や「悩み」等について話してみよう）
 ⑤体験活動終了のお礼（今後の予定等の連絡）

まとめのメモ例

「働く中で、自分のよさを生かしたり苦手なことに挑戦したりすることで、達成感がある。」
 「自分の夢を実現するには、日頃の学習や学校生活が大切だ。」

(5) 職場体験活動をまとめよう(4時間)

- ・体験後と体験前の考えを比較し、考えの変化と理由をまとめる。
- ・ファシリテーションを用いた事後発表会などを開催する。

<1>農業に関する職場体験学習

4 本時のねらい

新潟市が誇る農業を守ることの大切さを知り、農業体験を通して、働くことの意義や仕事に関する意見をまとめ、仲間に伝えることができる。

5 本時の展開例（1日目の場合）（300分＝6時間 ほか休憩60分）

学習活動	教師(T)・指導者(I)・子ども(S)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ(5分)	S:挨拶と自己紹介をする。 T:本時の学習課題を確認し、職場体験学習の内容を説明する。	・視覚情報を用いて説明し、どの生徒にも理解できるようにする。
②アグリパーク内の施設を見学する(30分)	I:アグリパーク内を引率し、農地、畜舎、加工工場、直売所、宿泊施設を紹介する。 I:新潟市が出荷している農作物を春・夏・秋・冬の出盛り期ごとに紹介する。	・畜舎内では、大きな声を出さないことを確認する。 ・生産量や出荷先、フードマイレージなどの情報をデータで示す資料を用意する。
③生産されている農作物に関する話を聞く(20分)(学習室)	S:新潟市では、何が多く生産されているのかな 春:イチゴ、小松菜 夏:ナス、トマト、キュウリ 秋:ニンジン、ブドウ、冬:ルレクチエ、長ネギ等	・新潟市食と花の銘産品27品目を紹介する。 (ここまでは職場体験生徒共通)
④体験する仕事内容の概略を聞く(5分)	I:生産量、出荷先、栽培の工夫、新潟市食と花の銘産品である新潟市南区特産の「ルレクチエ」「越後姫」西区特産の「えだまめ」等の説明をする。 I:農業、畜舎、直売所、宿泊施設の担当者がそれぞれの仕事内容を簡単に説明し、現場に引率する。	
⑤農作業をする(午前120分)	<活動1>農作業内容を知る I:作業の方法、諸注意をする。	・同学校生徒は一つの部署と一緒ににならないように分ける。
⑥昼食・休憩時(指導員へ用意したインタビューをする)(60分)	<活動2>実習をする S:耕す、害虫駆除、受粉、ネットかけ、運搬、収穫、選別、梱包等の作業をする。 <活動3>職場の方々へのインタビュー S:「なぜ農業の道を選んだのか」「仕事に関する考え」「生き方」「人生への考え」「農業の未来について」「新潟の農業ブランド力について」等	・作業器具の扱い、作業内容の説明、安全面についての指導を具体的な動作で指導する。 ・昼食・休憩時に生徒のインタビューに応じる。指導者自身の自分の生き方や中学時代の重要性、学習の大切さも答えるようにする。
⑦インタビュー結果を生かして農作業をする(午後100分)	<活動4>実習をする。活動2と同様	
⑧学習のまとめと振り返りを記録する(20分)	T:1日を振り返らせまとめを日誌に記録させる。 I:日誌を発表させる。 S:インストラクターに終了の挨拶をする。	・振り返り活動に指導者からコメントをする。(マナー、礼儀、作業への取組について)

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
人間関係形成・社会形成能力	・施設の指導者との関わりを大切にし、挨拶や言葉遣いなど、コミュニケーションスキルを習得している。 ・一緒に作業等をする人と協力し合いながら仕事をしている。	行動観察 日誌
自己理解・自己管理能力	・農作業を指導された手順で効率的かつ、安全に行うことができる。 ・農作業を通して、自分の得手、不得手等を考え、自分に必要なことや大事にしていくことをとらえることができる。	レポート
課題対応能力	・農作業業務に関する自分の課題に積極的に取り組み、主体的に解決しようとしている。	行動観察、発表
キャリアプランニング能力	・農業の社会的役割等を理解し、自己の生き方を考える参考としている。	日誌、ファシリテーション

<2>農作物直売所に関する職場体験学習

4 本時のねらい

新潟市が誇る農業を守ることの大切さを知り、農作物の直売所販売体験を通して、働くことの意義や仕事に関する意見をまとめ、仲間に伝えることができる。

5 本時の展開例（1日目の場合）（300分＝6時間 ほか休憩60分）

学習活動	教師(T)・指導者(I)・子ども(S)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (5分)	S:挨拶と自己紹介をする。 T:本時の学習課題を確認し、職場体験学習の内容を説明する。	・視覚情報を用いて説明し、どの生徒にも理解できるようにする。
②アグリパーク内の施設を見学する (30分)	I:アグリパーク内を引率し、農地、畜舎、加工工場、直売所、宿泊施設を紹介する。	・畜舎内では、大きな声を出さないことを確認する。
③農作物に関する話を聞く (20分) (学習室)	I:新潟市が出荷している農作物を春・夏・秋・冬の出盛り期ごとに紹介する。	・生産量や出荷先、フードマイレージなどの情報をデータで示す資料を用意する。
④作業の内容の概略を聞く (5分)	I:生産量、出荷先、栽培の工夫、新潟市食と花の銘産品である新潟市南区特産の「ルレクチエ」「越後姫」西区特産の「えだまめ」等の説明をする。 I:農業、畜舎、直売所、宿泊施設の担当者がそれぞれの仕事内容を簡単に説明し、現場に引率する。	・新潟市食と花の銘産品27品目を紹介する。 (ここまでは職場体験生徒共通)
⑤直売所の体験をする 午前(120分)	<活動1>直売所の仕事内容を知る I:作業の方法、諸注意をする。	・同学校生徒は一つの部署に一緒にならないように分ける。
⑥昼食・休憩時 指導員へ用意したインタビューをする (60分)	<活動2>接客マナー、商品管理、清掃等の講習 S:挨拶、接客マナーの講習を受ける。 S:商品管理方法や清掃の仕方を習う。	・接客と商品管理について、作業内容の説明、安全面について具体的な動作で、指導する。
⑦インタビュー結果を生かして作業をする 午後(100分)	<活動3>実習をする。 S:各部署で、在庫管理、商品パック詰め作業、ラベル貼り作業、棚卸し、レジ打ち等の作業をする。 <活動4>職場の方々へのインタビュー S:「なぜ農作物販売を選んだのか」「仕事に関する考え」「生き方」「人生への考え方」「農業の未来について」「新潟の農業ブランド力について」等 <活動5>実習をする。活動3と同様	・昼食・休憩時に生徒のインタビューに応じる。 指導者自身の自分の生き方や中学時代の重要性、学習の大切さも答えるようにする。
⑧学習のまとめと振り返りを記録する (20分)	T:1日を振り返らせまとめを日誌に記録させる。 I:日誌を発表させる。 S:インストラクターに終了の挨拶をする。	・振り返り活動に指導者からコメントをする。(マナー、礼儀、作業への取組について)

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
人間関係形成・社会形成能力	・施設の指導者との関わりを大切に、挨拶や言葉遣いなど、コミュニケーションスキルを習得している。 ・一緒に作業等をする人と協力し合いながら仕事をしている。	行動観察 日誌
自己理解・自己管理能力	・商品管理、接客販売を通して、自分の得手、不得手等を考え、自分に必要なことや大事にしていくことをとらえることができる。	レポート
課題対応能力	・販売業務に関する自分の課題に積極的に取り組み、主体的に解決しようとしている。	行動観察、発表
キャリアプランニング能力	・農業や販売者の社会的役割等を理解し、自己の生き方を考える参考としている。	日誌、ファシリテーション

<3>宿泊施設管理に関する職場体験学習

4 本時のねらい

宿泊施設管理体験を通して、働くことの意義や仕事に関する意見をまとめ、仲間に伝えることができる。

5 本時の展開例（1日目の場合）（300分＝6時間 ほか休憩60分）

学習活動	教師(T)・指導者(I)・子ども(S)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (5分)	S:挨拶と自己紹介をする。 T:本時の学習課題を確認し、職場体験学習の内容を説明する。	・視覚情報を用いて説明し、どの生徒にも理解できるようにする。
②アグリパーク内の施設を見学する (30分)	I:アグリパーク内を引率し、農地、畜舎、加工工場、直売所、宿泊施設を紹介する。	・畜舎内では、大きな声を出さないことを確認する。
③農作物に関する話を聞く (20分) (学習室)	I:新潟市が出荷している農作物を春・夏・秋・冬の出盛り期ごとに紹介する。	・生産量や出荷先、フードマイレージなどの情報をデータで示す資料を用意する。
④作業の内容の概略を聞く (5分)	S:新潟市では、何がよく生産されているのかな 春:イチゴ、小松菜夏:ナス、トマト、キュウリ 秋:ニンジン、ブドウ、冬:ルレクチエ、長ネギ等 I:生産量、出荷先、栽培の工夫、新潟市食と花の銘産品である新潟市南区特産の「ルレクチエ」「越後姫」西区特産の「えだまめ」等の説明をする。 I:農業、畜舎、直売所、宿泊施設の担当者がそれぞれの仕事内容を簡単に説明し、現場に引率する。	・新潟市食と花の銘産品27品目を紹介する。 (ここまでは職場体験生徒共通)
⑤宿泊施設管理の体験をする 午前(120分)	<活動1>宿泊施設管理の仕事内容を知る I:作業の方法、諸注意をする。	・同学校生徒は一つの部署に一緒にならないように分ける。
⑥昼食・休憩時 指導員へ用意したインタビューをする (60分)	<活動2>接客マナー、商品管理、清掃等の講習 S:挨拶、接客マナーの講習を受ける。 S:物品管理方法やハウスキーピングの方法を習う。	・接客と商品管理について、作業内容の説明、安全面について具体的な動作をで、指導する。
⑦インタビュー結果を生かして作業をする 午後(100分)	<活動3>実習をする。 S:各部署に分かれ、フロント業務等の作業をする。 <活動4>職場の方々へのインタビュー S:「アグリパークでの仕事のやりがい」「仕事に関する考え」「生き方」「人生への考え方」等 <活動5>実習をする。活動3と同様	・昼食・休憩時に生徒のインタビューに応じる。 指導者自身の自分の生き方や中学時代の重要性、学習の大切さも答えるようにする。
⑧学習のまとめと振り返りを記録する (20分)	T:1日を振り返らせまとめを日誌に記録させる。 I:日誌を発表させる。 S:インストラクターに終了の挨拶をする。	・振り返り活動に指導者からコメントをする。 マナー、礼儀、作業への取組について、指導・助言をする。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
人間関係形成・社会形成能力	・施設の指導者との関わりを大切に、挨拶や言葉遣いなど、コミュニケーションスキルを習得している。 ・一緒に作業等をする人と協力し合いながら仕事をしている。	行動観察 日誌
自己理解・自己管理能力	・宿泊施設にかかわる仕事を通して、自分の得手、不得手等を考え、自分に必要なことや大事にしていくことをとらえることができる。	レポート
課題対応能力	・宿泊施設の業務に関する自分の課題に積極的に取り組み、主体的に解決しようとしている。	行動観察、発表
キャリアプランニング能力	・宿泊施設にかかわる仕事の社会的役割等を理解し、自己の生き方を考える参考としている。	日誌、ファシリテーション

⑥新潟農業ヒストリー～乾田化で都会化～

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

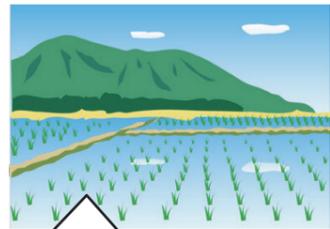
- ・実施期間 5月中旬～9月中旬
- ・最大人数 70人
- ・費用 130円/人

が
魂

自分が育てる（見学調査する）

乾田化に取り組んだ農家は、どんな工夫、努力、苦勞をしたのだろうか。

①乾田化の歴史を知ろう



- ・以前は、なんでこんなに水田に水があったのだろうか。
- ・水田の姿が大きく変わったのは、なぜだろうか。

工夫の理由を考えよう！



- ・海水面より低い土地で水が集まっていたんだよ。
- ・排水機場の建設で現在の姿になってきたんだよ。

②芦沼体験



- ・芦沼で使われていた農機具には、工夫がたくさんあります。
- ・芦沼で農作業をするとどんな苦勞が考えられますか。

体
験
活
動



自分が消費する（加工する・調理する・飲食する）

③米とぎ・おにぎりづくり体験



- ・農家の苦勞と工夫のおかげで今の私たちの生活があるんだね。
- ・これまでの歴史をまとめてみましょう。

・苦勞して作ったお米は大切にしなければいけないね。
・今まで自分でおにぎりを作ったことなんてなかったなあ。



何気なく食べていたお米も一粒一粒が気になるようになったよね。

学
習
指
導
要
領
上
の
位
置
付
け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○中学校全学年：総合的な学習の時間

- ・亀田郷の乾田化の歴史を探究することにより、それらの仕事に携わってきた人々の工夫や努力やこれからのまちづくりについて考えることができます。

*総合的な学習の時間の学習課題：「横断的・総合的な課題」

(テーマに合わせて1日の学習をはめ込むことができます。)

- ・課題解決力：先人の工夫や苦勞を学ぶことで、目の前の課題に向かうときの考え方や精神を学ぶことができます。
- ・コミュニケーション力：お互いに話し合ったり、施設の関係者の方に質問したりすることで、言語技術を向上させることができます。

農業の歴史学習の学びの可能性

- 米食と米食に合う郷土料理を中心に学習活動を構成していくならば…
* 中学校2年家庭「わたしたちの食生活 地域の食文化を知ろう」
地域の食材を活かすなどの調子を通して、地域の食文化について理解することができます。
- 乾田化への歴史を中心に構成していくならば…
* 中学校3年公民の内容(4)イ「よりよい社会を目指して」
持続可能な社会を形成するという観点から、わたしたちがよりよい社会を築いたいくために解決すべき課題を探究させ、自分の考えをまとめさせることができます。
- そのほか、「道徳」で、地域社会の一員としての自覚をもって、郷土を愛し、社会に尽くした先人に尊敬と感謝の念を深める学習活動を行うことができます。

実践例 「新潟農業ヒストリー」 ～乾田化で都会化～

1 関連する単元名 中学校全学年 総合的な学習の時間「田園都市新潟の農業史を学ぼう」
(10時間)

2 関連する単元の目標

- ・亀田郷の乾田化の歴史を調べることを通して、新潟市の農家の発展に努力してきた人たちの姿を主体的、協同的に学ぶことで、自らの生き方について考える力を身に付けることができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 亀田郷の乾田化の歴史を知ろう！(1時間)

- 体験の前**
- ・防災地図から新潟市は、海拔より低い土地が多いことを知る。〈情報収集〉
 - ・亀田郷の芦沼で水につかりながら稲作をする様子を写真で見る。〈情報収集〉
 - ・「地図にない湖が乾田化したのは、どうしてだろうか」という学習課題を作り、体験計画(質問計画)をつくる。〈課題設定〉

(2) 乾田化に挑戦するかつての農家の人たちの姿を知ろう！(6時間)

〈情報収集〉〈整理・分析〉

学習課題例

乾田化に取り組んだ農家は、どんな工夫、努力、苦勞をしたのだろうか。

アグリパークでの体験学習 <6時間>

①亀田郷の歴史(講義) → ②芦沼体験 → ③米とぎ・炊飯(おにぎりづくり食事) → ④排水機場見学

まとめのメモ例

「安定して米を収穫することは、農家の強い願いだった。排水の機能を強くすることで、乾田化できた。」

「芦沼での作業は大変だ。かまどで米を炊いてみたが、昔の人の苦勞がわかった。」

※「亀田郷の歴史(講話)」の中で、「芦沼体験」での農具の使い方を聞き、芦沼で使われていた道具は、どんな工夫がされているかを知る。

※芦沼が乾田化したことで、どんないいことがあったかを考えながら体験学習に臨む。

※アグリパークでの体験学習後に、アグリバスで鳥屋野潟排水機場で見学学習を行う。

・栗の木排水機場・親松排水機場・大秋排水機場など排水機場の歴史を知る。〈情報収集〉

・排水機場がなかったらどうなるのかを予測する。〈整理・分析〉

(3) 亀田郷を乾田化できたのは、なぜだろうか！(3時間)

- 体験の後**
- ・体験したことや見学してきたことをグループで話し合う。〈整理・分析〉
 - ・「地図にない湖」のころの農家の生活について発表する。〈まとめ・表現〉
 - ・どうして乾田化することができたのか、自分の考えをまとめる。〈整理・分析〉
 - ・今後、どんなことが知りたいかを考える。〈整理・分析〉
 - ・グループで考えたことをリーフレットにまとめて発表する。〈まとめ・表現〉
 - ・現在の新潟市は、乾田化の歴史なくしてありえないことを理解する。〈整理・分析〉
 - ・今後、心配されることは何かを考える。〈整理・分析〉

4 本時のねらい

自分たちが予想した乾田化の工夫について施設の方に確かめる活動を通して、乾田化に取り組んだ農家の工夫・努力、苦勞などに気付くことができる。

5 本時の展開例(300分=6時間)

学習活動	教師(T)・指導者(I)・子ども(S)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ(5分)	T:学習課題を確認し、インストラクターや講師の方を紹介する。 I:芦沼の写真と現在の写真をスライドで紹介する。	・学習の流れを示し、学習の見通しを持たせる。
②芦沼のころと現在を比較する(50分) ・「地図にない湖」と言われていたころの米作り ・どうして現在は水がなくなったのか ・佐野藤三郎さんのことを知る ・「鳥屋野潟排水機場」での質問を考える	I:芦沼の頃と現在では、何が違うかを考えさせる。 S:今は、田んぼに水がない。農作業が大変そう。 I:スライドを見て何をしているのかを考えさせる。 S:首まで水に浸かって稲刈りをしてるよ。 I:今のまちの姿を見てなぜ、水がなくなったのかを考えよう。 S:信濃川に田んぼにある水を流した。 I:栗の木排水機場などの排水機場の建設とその成果について説明する。 I:湿田の米と乾田の米の違いを示す。(米の品種改良の歴史も紹介) I:佐野藤三郎さんの功績を紹介する。 I:「質問カード」に、質問を書かせる。 S:排水機場の建設には大変な苦勞があった。	・水田の水の量の違いに気付かせる。 ・まず、「農家の人が何をしているのか」を確認させる。 ・農家の人の苦勞を説明してもらおう。 ・海拔でいうとどれくらいなのかを紹介する。 ・亀田郷の歴史を伝えるマンガ本を紹介する。
③米とぎ体験をする(30分)	I:釜でご飯を炊く方法を教える。 S:今まで米を研いだことはなかったなあ。	・水加減に注意させる。 ※その後、芦沼に移動
④芦沼体験をする(50分) ・芦沼体験コーナーで代表が体験する	I:芦沼に入って農具を動かした感想を聞く。 S:水の中で動くのは難しく、かなり力がある。 S:おぼれる危険がいっぱいあるんじゃないか。	・キツオ舟 ・谷内下駄 ・箱下駄 ※体験後、パークへ
⑤おにぎりづくり体験をする(75分)	I:おにぎりを握る強さに注意するよう指導する。 S:電気釜に入れれば炊けるので、昔はどうやって炊いていたのか考えたこともなかった。 T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。	・あえて塩だけでおにぎりを握って食べる。
⑥排水場見学を行う(90分)	T:排水機場の役割の大切さについて説明する。 S:排水機がないと市内はどうなりますか。 T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、排水機場の人にお礼を述べる。	※バスで移動する。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
学習方法(収集・分析)	・芦沼で農業をするための苦勞や排水機場建設の様子について、講師の話をもとにポイントをおさえることができる。 ・「質問カード」をもとに、見学先で質問をしたり、資料を調べたりして必要な情報を得ることができる。	行動観察 学習カード
自分自身(自己理解)	・調査活動や体験活動を振り返り、現在、何気なく食べているお米や機械で効率よく行われている稲作についての考えを深め、これからの自分の食生活や農業の在り方等について真剣に考えた行動したりすることができる。	振り返り作文
他者や社会とのかわり(協同)	・他の児童と協力して、聞き取り調査や調理活動に取り組んでいる。 ・排水機場の大切さと、これまでの農家の努力と苦勞に気付くことができる。	行動観察

⑦アグリビジネスを体験しよう！

～仮想株式会社で起業体験学習～

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

- ・実施期間 5月中旬～10月下旬
- ・最大人数 120人
- ・費用 アグリパーク利用 120円/人

が
魂

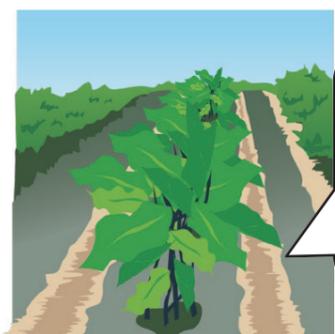
自分が育てる（採取する・収穫する）



自分が消費する（加工する・調理する・飲食する・作品にする）

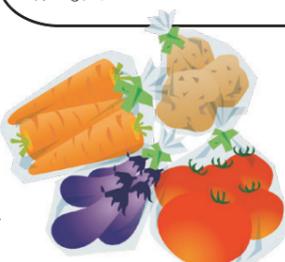
市場の会場や商品の陳列，接客の仕方について，お客様を気持ちよく迎えるためには，どのような工夫をすればよいのだろうか。

①野菜の収穫



「学校貸し農場」でできた野菜をみんなでいよいよ収穫だね！こんなに実っているよ。どれが食べ頃なのかな？

野菜を袋詰めして値段をつけて，市場で販売するよ！

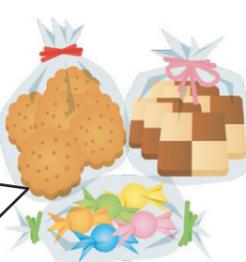


②食品加工



野菜のお菓子作りかんばるぞ！おいしくできかな？

お客様を気持ちよく迎えるためには，どんな工夫をすればよいだろうか？



③市場を開いて商品販売



いらっしゃいませ！おいしい無農薬野菜はいかがですか！



お買い上げありがとうございます。他にもどうですか？

農場でとれたポップコーンも販売してま～す。



体
験
活
動

学
習
指
導
要
領
上
の
位
置
付
け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○中学校全学年：総合的な学習の時間

・キャリア教育の視点に立ち，職業や自己の将来に関する学習として起業体験学習を位置付け，問題解決や探究活動に取り組むことを通して，自己を理解し，将来の生き方を考えるなどの学習活動を行っていきます。また，問題解決や探究活動の過程で，他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や，もの作り，生産活動などの体験活動，発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れていきます。

* 総合的な学習の時間の学習課題：「横断的・総合的な課題」

アグリビジネスを体験～起業体験学習～の学びの可能性

- 貸し農場での野菜作りを中心に学習活動を構成していくならば…
 - * 中学校技術・家庭科〔技術分野〕C「生物育成に関する技術」(2)
- アグリパークの野菜＝地域の素材を使った調理を中心に学習活動を構成していくならば…
 - * 中学校技術・家庭科〔家庭分野〕B「食生活と自立」(3)イ
- 商品の販売体験を通し，消費生活や経済活動に目を向けさせ，市場経済や生産と金融の仕組みや働きを理解させたり，企業の役割と責任について考えさせたりしていくならば…
 - * 中学校社会〔公民的分野〕(2)「私たちと経済」ア

実践例 「アグリビジネスを体験しよう！」～仮想株式会社で起業体験学習～

1 関連する単元名 中学校全学年 総合的な学習の時間 (キャリア教育)
「アグリビジネスを体験しよう！」～仮想株式会社で起業体験学習～ (20時間)

2 関連する単元の目標

- ・仮想株式会社を経営するという探究的な学習を通して、社会の中で得る勤労体験の尊さや金銭感覚を学ばせ、自己の生き方や進路選択に生かすことができるようにする。また、会社経営に関するさまざまな役割を、いくつかの課に分かれて担当するなど、仲間との協同を通して、自分の生き方をとらえ、自分の考えを実践していく力を育てる。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 株式会社について知ろう (2年時2時間)

- ・会社、株式会社のしくみや会社経営に必要な組織、具体的な仕事内容を知ることにより、課題を設定する。〈課題設定〉

(2) 仮想株式会社を起業しよう (3年時5月頃4時間)

- ・学年で野菜を栽培し、収穫した野菜やその加工品などを販売する仮想会社を立ち上げ、様々な業務を担当するいくつかの課に分かれて仕事を分担する。
- ・各課の目標や仕事内容を考え、計画を立てて実践する。〈整理・分析〉

(3) 第1回株主総会を開催しよう (6～7月頃6時間)

- ・会社の概要や目標、各課の活動目標や業務内容を説明する。〈まとめ・表現〉
- ・来場者(保護者や地域の皆様)から株主を募り、会社説明の後に株券販売を行う。〈まとめ・表現〉

(4) 市場を開催し、商品を販売しよう!～アグリパークで収穫祭!～(9～10月頃8時間)

- ・市場の開催案内を制作し、地域や保護者、アグリパーク来場者に配布する。〈整理・分析〉〈まとめ・表現〉
- ・商品のラッピング方法や値段の決定、値札の作成を行う。〈整理・分析〉〈まとめ・表現〉

体験の前に

学習課題例

市場の会場や商品の陳列、接客の仕方について、お客様を気持ちよく迎えるためには、どのような工夫をすればよいのだろうか。

アグリパークでの体験学習 <5時間>

- ①野菜の収穫とラッピング → ②加工食品の調理・ラッピング → ③商品の販売
- ・生鮮野菜の収穫と袋詰め
 - ・野菜を使った焼き菓子
 - ・野菜コーナー
 - ・芋類やカボチャの袋詰め
 - ・野菜を使った団子、もち
 - ・加工食品コーナー
 - ・値段付け
 - ・ラッピング、値段付け
 - ・関連グッズコーナー

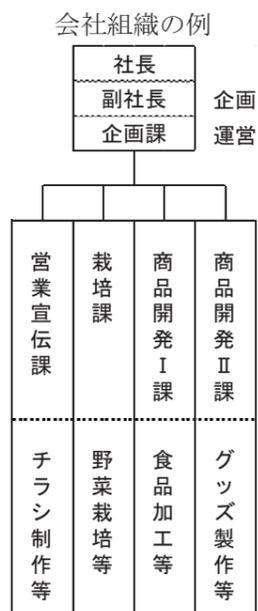
まとめのメモ例

「各課の役割をきちんと果たすように仕事を確実に進めることが大切だ。」
「お客さんの立場になって考えることは、どの課でも同じだ。」

- ・売り上げの決算を行い、収支報告書を完成させる。
- ・各課の活動で、どのくらいの利益が生み出されたのかを振り返り、自分たちの活動の評価をする。
- ・第2回株主総会を開催し、株主や地域、保護者の皆様に活動報告と決算報告を行う。
- ・株券の元金と配当金の払い戻し作業を行う。〈整理・分析〉〈まとめ・表現〉

4 本時のねらい

市場の開催に向け、各課の役割を理解し、目標に向かって協力して準備を進めることができる。接客や販売に関する工夫やマナーの大切さや、金銭の取り扱いの重要性に気付くことができる。



5 本時の展開例 (250分=5時間)

学習活動	教師(T)・指導者(I)・子ども(S)	指導上の留意点
①学習課題を確認する (5分)	T:学習課題を確認し、インストラクターを紹介する。 I:各課毎に活動の流れと注意事項を説明し、見通しを持って安全に活動できるようにする。	・各課の活動場所や作業の安全に関する注意事項を確認する。
②各課ごとに、市場での販売活動に向けた準備をする (90分)	I:企画課・営業宣伝課の生徒に、会場準備に必要な説明をする。 S:(企画課):机や椅子などを設置し、販売ブース等の設置や会場の飾り付け等をしよう。 S:会場に流すプレゼンやDVDの準備もやろうよ。 S:(営業宣伝課):販売用のPOP等を作成し、各ブースに掲示しよう。 I:栽培課の生徒に貸し農場で育てた野菜の収穫の仕方やラッピングの仕方、注意点などを説明する。 S:(栽培課):ナス・枝豆・カボチャ・さつまいもなどの収穫やラッピングをしよう。 I:商品開発Ⅱ課の生徒に、調理器具・用具の使用について説明をしたり、アドバイスをしたりする。 S:(商品開発Ⅱ課):学校園やアグリ園の貸し農場で収穫された野菜を利用した焼き菓子や団子などの調理を行い、盛りつけやラッピングをする。	・会場レイアウトや備品の収納場所などを、平面図を利用して視覚的に分かりやすく説明する。 ・効果的なPOPの書き方などをアドバイスする。 ⑩ラッピング用具や機器の使用上の注意を確認する。 ・商品開発Ⅰ課は、製作してきた関連グッズのラッピングと値段付けを行う。 ・収穫の時に、実の付き方の特徴や収穫適期の見分け方などを説明する。 ⑪調理機器や用具の使用に際し、作業の安全に配慮する。 ・美味しそうな盛りつけやラッピングのポイントを示す。
③各課の商品を販売ブースに並べ、お客様を迎える準備をする (40分)	I:各ブース担当生徒に、商品の陳列方法やお客様への対応の仕方、代金やおつりの扱い方など、接客マナーについて説明する。 S:商品に合わせた見やすい陳列方法や接客マナーを学び、お互いに練習し合おうよ。	・接客マナーとして、挨拶や言葉遣い、笑顔の大切さを実践を交えて体得させる。
④市場を開催し、商品を販売する (100分)	I:各ブースの接客についてアドバイスをする。 S:声を出して商品のPRをしたり、丁寧な言葉と笑顔でお客様に商品を販売しよう。 S:代金とおつりの管理に気を配り、しっかりと記録をとりながら、金銭の受け渡しをしよう。	・接客の様子を見守りながら、必要に応じて支援する。 ⑫金銭の取扱には特に慎重を期す必要があることを確認する。
⑤まとめと振り返りをする (15分)	T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。	

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
人間関係形成・社会形成能力	・施設の職員やお客様との関わりを大切にし、挨拶や言葉遣いなど、コミュニケーションスキルを習得している。 ・小グループ毎に、リーダーを中心に支え合いながら仕事をしている。	活動の様子 学習記録 学習のまとめ
自己理解・自己管理能力	・計画に基づき、適切な資材や用具により、合理的な管理作業ができる。	学習のまとめ
課題対応能力	・よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見いだしていくことの大切さを理解している。 ・課題に積極的に取り組み、主体的に解決しようとしている。	学習計画 学習記録 活動の様子
キャリアプランニング能力	・農業の社会的役割等を理解し、自己の生き方を考える参考としている。 ・起業体験の必要性や大切さを理解している。	学習のまとめ 活動の様子

⑧新潟はスイーツ王国だ！！

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

・実施期間	5月中旬～10月下旬
・1班最大人数	60人
・費用	50円/人

魂 自分が育てる（見学調査する・収穫する）

おいしいトマトをつくるためどんな工夫をしているのだろうか。

① 栽培の工夫を確かめよう

病気の予防や形の良さのためにどんな工夫があるのかな。

② 食体験&収穫体験

おいしいトマトは、大きい。○か×か。
 形が丸いほどおいしい。○か×か。
 甘いにおいがするのは、おいしい。○か×か。

③ 体験の共有

「『ファシリテーション』で共有しよう！」
 ・○○の工夫があった。
 ・△△の苦労に気が付いた。

学習指導要領上の位置付け

確かな学び
 プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○中学校全学年：特別活動〔生徒会活動〕

・異年齢集団による健康によいスイーツ作りの活動を通して、共によりよい集団生活や社会生活を築こうとする態度を育てることができます。また、全校に提案したり、アグリパークのレストランのメニューにしたりすることを目指して活動する中で、集団や社会の一員として話し合いによる問題解決をしようとする態度を育てることができます。

*特別活動 〔生徒会活動〕

自分が消費する（加工する・飲食する・作品にする）

④ 「トマト」を使ったスイーツを作ろう

お互いに協力して、手際よく完成させよう。

トマトを使ったスイーツって、他にどんなものがあるのかな。
 ・自分なりのトマトのスイーツを作ってみたいな。

提案

SPECIAL PROGRAM in AGRI-PARK&いくとぴあ食花

- ・ レストラン担当者から試食していただく。
- ・ 期間限定レストランメニューに加えていただく。
- ・ 館内に活動の様子等を掲示していただく。

収穫・食・調理体験の学びの可能性

○調理技能等を中心に学習活動を構成していくならば
 * 中学校技術・家庭科〔家庭分野〕B「食生活と自立」

○地域の素材を中心に学習活動を構成していくならば
 * 中学校総合的な学習の時間：学習対象「総合的・横断的な課題」

○特別活動〔生徒会活動〕の場合でも、季節や地域の実態に応じて素材等を変更することが考えられます。
 トマト → 枝豆, サツマイモ

・ 単独校の委員会としても実施できますし、区内の各校、市内の各校で連携して、合同の生徒会活動としても実施できます。

実践例 「新潟はスイーツ王国だ!」～地場産野菜の魅力を生かして～

1 関連する単元名 中学校全学年 特別活動〔生徒会活動〕(給食委員会・保健員会等)
「新潟はスイーツ王国だ!」～地場産野菜の魅力を生かして～(6時間)

2 関連する単元の目標

- ・異年齢集団による活動を通して、他者を尊重し、共によりよい集団生活や社会生活を築こうとする開かれた人間関係を形成し、集団や社会の一員として話し合いによる問題解決力、学校や地域社会の生活の向上に積極的に関わる態度を育てる。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 「〇〇中スイーツコンテスト」の企画をしよう!(1時間)※定例委員会の時など

- ・「〇〇中スイーツコンテスト」の企画をするため、次の3つを分担して調べ、結果を共有する。

- ①新潟市で盛んに栽培されている様々な野菜。
- ②全国消費量上位の、新潟市のトマトがどのような場所で、どのように栽培されているか。
- ③トマトの栄養価等。

(2) 地場産野菜の魅力を生かしたスイーツをつくろう!(5時間)

- ・写真等、資料を基に、おいしいトマト作りのために農家の人はどんな工夫をしているのか予想する。
- ・学習課題を作り、見学計画(質問事項、役割分担など)を立てる。

体験の前に

学習課題例

おいしいトマトをつくるためどんな工夫をしているのだろうか。

アグリパークでの体験学習 <4時間>

- ①菜園探検と聞き取り調査 → ②トマト収穫と食体験 → ③体験の共有(3年生がリーダーシップを発揮するファシリテーション活動) → ④トマトを使ったスイーツ作り

(委員会活動日・休業日・週休日に活動。休憩・移動時間を含む。)

まとめのメモ例

「農家の人の土づくり、温度管理、摘芯、害虫対策などの日頃の管理の工夫、努力により、おいしいトマトが作られる。」

体験の後に

- ・生徒朝会・委員会報告等で全校生徒に活動内容を報告する。
- ・トマトの魅力を発信し、「〇〇中学校スイーツコンテスト」の作品募集を委員会活動として行う。
- ・地場産野菜のスイーツ活用例についても紹介する。

(オプション) <<SPECIAL PROGRAM in アグリパーク & いくとぴあ食花>>

- ・レストラン担当者から試食していただく。
- ・期間限定レストランメニューに加えていただく。
- ・館内に活動の様子等を掲示していただく。

4 本時のねらい

自分たちが予想した栽培の工夫について農家の人に積極的にかかわり、確かめる活動を通して、野菜作りに取り組む農家の工夫・努力、苦労などに気付くことができる。

自分が収穫した作物を使って、自らの役割を自覚して、仲間と協働して作品を作ることができる。

5 本時の展開例(200分=4時間)

学習活動	教師(T)・指導者(I)・子ども(S)・専門家(P)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ(5分)	T:学習課題を確認し、インストラクターと農家の方を紹介する。 I:学習の流れ及び施設や道具等についての注意事項を確認し、安全に活動できるようにする。	・学習の流れを示し、学習の見通しをもたせる。
②自分の予想と実際の菜園を比べる(10分)	I:菜園が予想通りになっているか確かめさせる。 S:間隔をあけて植えている。土を盛り上げている。	・予想した日当たり、水やり、土壌等を確認させる。
③農家の人に確かめる活動を通して、おいしいトマト作りの工夫に気づく(20分)	I:おいしいトマトを栽培する工夫の理由を農家の人に確かめさせたり、何のための工夫なのかを質問させたりする。 S:病気の予防には…。 S:風通し、日当たりの工夫は…。 S:甘みと酸味のバランスのためには…。 P:生徒の質問に答える。	・まず、「農家の人に確かめたいこと」次に「何のための工夫なのか」を質問させる。最後に、農家の人から説明してもらう。
④工夫して育てられたトマトを試食する(15分)	I:いろいろな工夫をして作られたトマトを食べてみようと呼びかける。 S:みずみずしくておいしい。いいにおいがする。	・工夫の成果を味わわせるため、トマトを試食させる。
⑤おいしいと思うトマトを1個収穫する(20分)	I:おいしいトマトをとるために、「トマトクイズ」をする。 I:採るときの注意を説明する。 S:気をつけて、おいしいトマトを採るぞ。	・インストラクターが安全な採り方を演示する。
⑥「収穫してみて分かったこと」をふせんに記入し、グループで共有する(40分)	I:ふせんに、気づいた工夫を書かせ、グループごとにファシリテーションを行わせる。 S:苦労や工夫についてグループワークシートで共有する。 T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターや農家の方々にお礼を述べる。	・今日学習したことを確認するために、ワークシートに収穫を体験して分かった工夫をまとめさせる。
⑦グループに分かれてスイーツ作りを行う(90分)	I:既製の「トマトを使ったスイーツ」の作り方を示す。 S:作業手順に従い、自分が収穫したトマトを使って作品を作る。 S:グループ内で完成した作品の試食会を行う。 S:ワークシートに感想をまとめる。 T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。	・ナイフの使い方や指の位置など、安全に留意する。 ・ワークシートに、作ってみたいの感想等をまとめさせる。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・農家の人やインストラクターと意欲的に関わることができる。 ・仲間と協働して作品を作ることができる。	行動観察 ワークシート
集団の一員としての思考・判断・表現	・確認したり、発見したりしたことについて、仲間の考えに耳を傾けながら、ワークシートに整理することができる。 ・グループ活動において、自分の役割を理解し、作業に参加できる。	ワークシート 行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・ファシリテーションのやり方を理解している。 ・おいしいトマト栽培のための工夫や苦労に気付くことができる。	ワークシート 行動観察

体験学習 中学校全学年 特別活動
⑨中学校アグリパークツアーズ～日帰り編～

＜アグリパーク＞

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

- ・実施期間 通年
- ・費用 1メニュー 無料～440円/人

アグリ魂

自分が育てる（植える・世話する・採取する・収穫する・見学調査する）➡

よりよい集団になるために、ルールを守り、友だちと協力してアグリパーク・ツアーズをやりとげよう。

① 循環型農業探検隊



新潟市の農業は、本当はすごいかもしれない。

② 畑の耕起と収穫



耕起
 収穫
 鋤を使うのは、難しいね。

自分が消費する（加工する・調理する・飲食する・見学調査する・作品にする）

* 活動内容は、人数により様々な活動を組み合わせることができます。ここに示したのは一例です。

試食



③ 生ゴミが奇跡を起こす！



野菜くずはゴミではないんだね！

学習指導要領上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○中学校全学年：特別活動〔学校行事〕

・新潟の農業に触れる体験を通して、見聞を広げて学校の学習活動を充実発展させたり、集団活動のあり方について学んだりすることができます。

* 特別活動の内容〔学校行事〕（4）旅行・集団宿泊的行事

・実際に農業体験を行ったり、農業に従事する人々と接したりすることにより、子どもたちに勤労の尊さと生産の喜びを体得させることができます。

* 特別活動の内容〔学校行事〕（5）勤労生産・奉仕的行事

農業体験学習の学びの可能性

○中学校では、特別活動学校行事の旅行・集団宿泊的行事として、日帰りでアグリパークを活用する学習が考えられます。この場合、アグリパークで行われる活動は単に旅行・集団宿泊的行事のねらいだけでなく、学級指導のねらいとも密接にかかわって学習成果をあげることができます。さらに、総合的な学習の時間と組み合わせたり、技術・家庭の〔技術分野〕「C生物育成に関する技術」や〔家庭分野〕「B食生活と自立」などと関連付けたりすることにより、郷土新潟の教材を中心に地域に根差した学習を実現することが可能となります。

実践例 「中学校アグリパーク・ツアー（日帰り編）」

1 関連する単元名 中学校全学年 特別活動〔学校行事〕
「アグリパーク・ツアー（日帰り編）」（7時間）

2 関連する単元の目標

- ・アグリパークで新潟の農業・農産物加工・食に触れる体験等の集団活動を通して見聞を広め、農業に親しむとともに、人間関係などの集団生活のあり方や自分の生き方、公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行わせる。

3 関連する単元の流れ

（1）アグリパーク・ツアー～日帰り編～（7時間）

体験の前に

- ・新潟市南区の自然条件や地理・歴史、及びアグリパークの施設などを調べ、アグリパークに対する期待を高める。
- ・めあてを確認する。
- ・動物に接するうえでの注意事項を確認する。
- ・健康、安全面の確認事項を知る。

学習のめあて例

よりよい集団になるために、ルールを守り、友達と協力してアグリパーク・ツアーをやりとげよう。

アグリパークでの体験学習（日帰り）＜5時間＞

- ①午前の学習活動 → ②午後の学習活動
- 「活動の例示」（次ページ参照）から学校や学年の実情及び季節に応じて適切なものを選択して、生徒に最適な学習を構成する。

まとめのメモ例

「新潟市の農業が全国的に高い評価を得ているのは、過去から現在までの農家の方々が工夫を続けてきたからです。」
「助け合って農業体験をすると、他人の立場に立つということが分かったような気がした。」

体験の後に

- ・体験したことを基に、ファシリテーションを行ったり、振り返り作文やアグリパーク新聞、図画などの表現活動を行ったりして、学んだことを明確にし、学校生活に生きるようにする。
- ・アグリパークで学んだ協力の仕方、人間関係の作り方などを、学校生活に活かすには、どうするか考え、作文に書く。

「1行メモ」を重視する「アグリパーク・ツアー」

「アグリパーク・ツアー」では、それぞれの学習の最後に必ず「1行メモ」の言語活動を位置付けています。これは、活動で感じたことや、活動をして分かったことを言語化させることにより、自らの思考の跡を振り返らせ、何を学んだかを確認させるためのものです。学校へ帰ってから作文を書かせたり報告文を書かせたりする言語活動は重要ですが、活動直後の言語活動でしか得ることができないものがあります。私たちは、そのような瑞々しい言語活動を大切にしていきたいと考えています。

生徒の実態や活動の内容、教師の意図によっては、「1行メモ」だけでなく、「2行メモ」「3行メモ」「1文メモ」というように、変更して働き掛けてください。

4 活動の例示（学校の実態に応じて、この中から活動を選び、組み合わせます。）

＜1＞【入村式・退村式】

【1】入村式—めあてを確認し、思い出に残る行事にするため準備を整える。 10分

【2】退村式—アグリパークでの生活をふり返り、集団生活で大切にすべきことを再確認する。 15分

＜2＞【農業体験活動の例】

*①～④の料金は学校で資料を印刷した場合は無料です。

①アグリ探検隊—全員でまとまってパークを回り、「育てる—消費する」に関するクイズに答えながら農業と人間の関係について見聞を広げる。 45分 <10円> 人数制限なし

②アグリオリエンテーリング—グループで協力してパーク内を回り、「育てる—消費する」に関するクイズで点数を競いながら農業と人の関係について見聞を広げる。 90分 <1グループ10円> 人数制限なし

③循環型農業探検隊—全員でまとまってパークを回り、「育てる→消費する→育てる→」に関するクイズに答えながら農業と人間の関係について見聞を広げる。45分 <10円> 人数制限なし

④循環型農業オリエンテーリング—グループでパーク内を回り、「育てる→消費する→育てる→」に関するクイズで点数を競い、農業と人の関係について見聞を広げる。 90分<1グループ10円> 人数制限なし

⑤農業道場—自分が食べているものが、耕す—畝を作る—植える—世話するなど、どのような農業技術により作られたかを体験し、見聞を広げる。 45分～90分 <0円> 80人

⑥農業活性化研究センター見学—限定プログラムなので、計画段階でアグリパークに要相談。農業活性化研究センターを見学し、農業研究について見聞を広める。45分 <0円> 30人

⑦搾乳と試飲・世話—搾乳して試飲した後、牛のブラッシング、餌やり、畜舎清掃等を行うことにより、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。90分 <80円> 1班最大30人

⑧牛の世話と牛乳の試飲—牛のブラッシング、餌やり、畜舎清掃等を行った後、牛乳を試飲することにより、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。 45分 <80円> 1班最大30人

⑨トウモロコシの試食と堆肥ウオッチング・家畜のエサやり—堆肥ができるまでを観察し、その原料を生産してくれる家畜にお礼のエサやりを行うことにより、持続可能な循環型農業を理解する（堆肥のお土産付き）。 90分 <30円> 1班最大30人

⑩羊や牛の見学とウインナーソーセージ作り・試食—ケーシングの材料になる腸を持つ羊や牛を見学した後、ウインナーソーセージ作りを行うことにより、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。200分 <390円> 60人

⑪搾乳・試飲とアイスクリーム作り・試食—牛や山羊の搾乳を行った後、試飲し、アイスクリームを作り、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に作った物を食べる楽しさを感じる。 145分 <210円> 1班最大30人

⑫搾乳・試飲とバター作り・試食—牛や山羊を搾乳した後、試飲し、バターを作りをする事により、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。135分 <130円> 1班最大30人

⑬昔の農家の子どもになろう（野菜の収穫と試食）—昔の農家の子どもたしたように、畑でキュウリ、トマト等すぐにかぶりつける野菜を収穫し、豪快に試食する。45分 <10円> 120人

⑭畑の耕起と収穫・簡単調理・試食—土起こし・畝作りなどを行った後、別の畑で収穫し、簡単な調理をして試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。145分 <90円> 80人

⑮畑の種まきと収穫・簡単調理・試食—種まきなどを行った後、別の畑で収穫し、簡単な調理をして試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。145分 <90円> 80人

⑯野菜の世話と収穫・簡単調理・試食—水やりや草取り等の農作業を行った後、別の畑で収穫し、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。145分 <90円> 80人

⑰野菜の収穫と調理・試食—野菜の収穫を行った後、調理を行い、試食することにより、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさに気付く。100分 <90円> 80人

⑰家畜の世話とスケッチ—家畜の世話や見学をしてからスケッチをすることにより、家畜に愛着を覚え、質感豊かな絵を描く。90分 <0円> 40人

⑲野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食（初級編）—収穫した野菜などを材料に石窯ピザを作り、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。90分 <250円> 40人

⑲野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食（上級編）—薪割り→火入れ→野菜収穫→石窯ピザ作り→試食により、どのようにして農産物からおいしい食べ物に変えてきたかに気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。
*中学以上 135分 <250円> 40人

⑳野菜の収穫とあいもん団子作り・試食—アグリリレープロジェクト等での野菜を使って、あいもん団子を作り試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した物を食べる楽しさを感じる。180分 <290円> 40人

㉑枝豆収穫と試食—枝豆を収穫し、茹でて試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。90分 <30円> 80人

㉒雪下野菜収穫と調理・試食—雪の中から野菜を掘り出し、調理して試食することにより、自然の力に気付くとともに、友達と一緒に収穫した野菜を食べる楽しさを感じる。90分 <40円> 80人

㉒トウモロコシ収穫と焼トウモロコシ作り・試食—トウモロコシを収穫し、焼いて試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した物を食べる楽しさを感じる。100分 <40円> 80人

㉓野菜の収穫と生ジュース作り・試飲—野菜の収穫を行い、それを使ってジュースを作り、試飲することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した野菜のジュースを飲む楽しさを感じる。90分 <90円> 80人

㉓芋の収穫と焼きいも・試食—芋を収穫したり、アグリリレープロジェクトの芋を使ったりして、焼きいもを作り、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した物を食べる楽しさを感じる。90分 <40円> 80人

㉔野菜の収穫と鍋料理体験・試食（冬メニュー）—収穫した野菜やアグリリレーの野菜などを使って鍋料理を作り、みんなで鍋をつついて試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した物を食べる楽しさを感じる。90分 <250円> 80人

㉔野菜の収穫とカレー作り・試食—収穫した野菜を使って、カレーライスを作り、試食することにより、友達と一緒に調理したものを食べる楽しさに気付く。135分 <440円> 80人

㉕豆の見学と豆腐作り・試食—アグリリレープロジェクトの豆を使って、豆から豆腐を作り、試食することにより、友達と一緒に食品加工した物を食べる楽しさに気付く。135分 <120円> 40人

㉕麦の見学とパン作り・試食—麦の様子を見学した後、パン作りを行い、試食することにより、友達と一緒に食品加工したものを食べる楽しさに気付く。135分 <120円> 40人

㉖イチゴ摘みとイチゴ大福作り・試食—収穫したイチゴを使ってイチゴ大福を作り、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に加工したイチゴ大福を食べる楽しさを感じる。105分 <160円> 40人

㉖かまどの話とかまど米炊き・おむすびの試食—かまどをつかってご飯をたき、おにぎりを作って、試食することにより、昔の農家の生活を知るとともに、「同じ釜の飯」を食べる連帯感を感じる。135分 <130円> 80人

㉗お餅の話と餅つき・試食<宿泊メニュー>—アグリパーク周辺の水田のもち米で兎杵と臼を使って餅をつき試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に搗いた餅を食べる楽しさを感じる。180分 <150円> 40人

㉗笹団子の話と笹団子作り・試食<宿泊メニュー>—収穫したりアグリリレープロジェクトの等を使ったりして笹団子を作り、試食することにより、友達と一緒に食品加工した物を食べる楽しさを感じる。180分 <350円> 40人

㉘生ごみが奇跡を起こす！—自分たちが調理で出した生ごみを、微生物の働きですばらしいものに変化させる経験を通して、循環型農業に関心をもつとともに、持続可能な社会を作る重要性に気付く。45分 <40円> 人数制限無し

㉘わら細工に挑戦<冬メニュー>—昔の農民が夜仕事に行ったわら細工に挑戦し、昔の農業が、稲→わら→わら細工製品→<使用>→堆肥→水田→稲の循環により成り立っていたことに気付く。180分 <わら代など> 20人

<3>【+αの農業体験活動の例】

時間に応じてそれぞれのプログラムに追加するとより効果的な学習が可能になります。

①野菜を調べて新潟の農業について知ろう！—「①アグリ探検隊」のプラスαプログラム <0円>

②ミニトマトの食べ比べ—⑬～⑰のプラスαプログラム <20円>

③アグリフォイル焼き—「⑲野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食（初級編）」及び「⑲野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食（上級編）」のプラスαプログラム <20円>

④専門家のお話—すべてのプログラムについて、専門家から話をさせていただき、農業や加工の意味づけを行うことができる。30分～100分 <0円>

⑤読み聞かせ—すべてのプログラムについて、活動に関係ある本の読み聞かせを聞く。25分～75分 <0円>

<4>【食事】

食事 a—農家レストランが提供する食事

食事 b—子どもとレストランがそれぞれ調理する食事

食事 c—子どもが調理しクラブハウスや体験ハウスで食べる食事

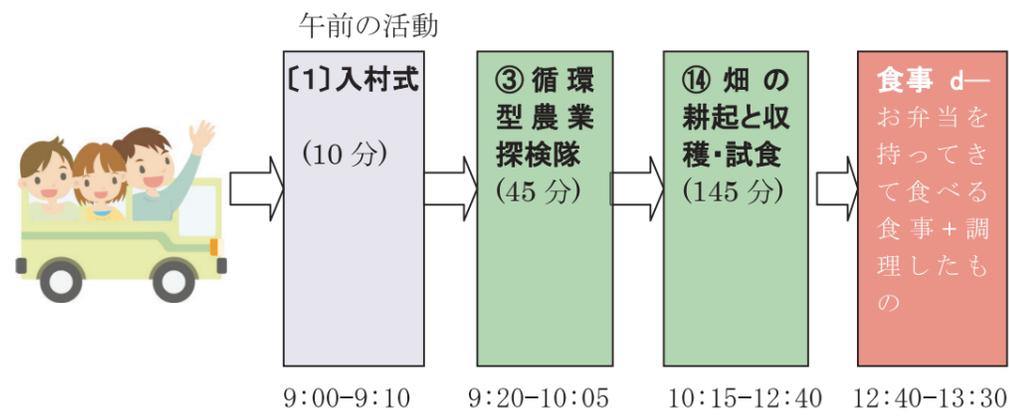
食事 d—お弁当を持ってきて食べる食事

活動の時間はおよその目安です。実際は、人数や状況により異なりますので、打ち合わせの際に、インストラクターにご相談ください。たとえば、「40人で90分」となっている学習を70人で行いたい場合、時間を延ばして実施できるものと、時間を延ばしても実施できないものがあります。

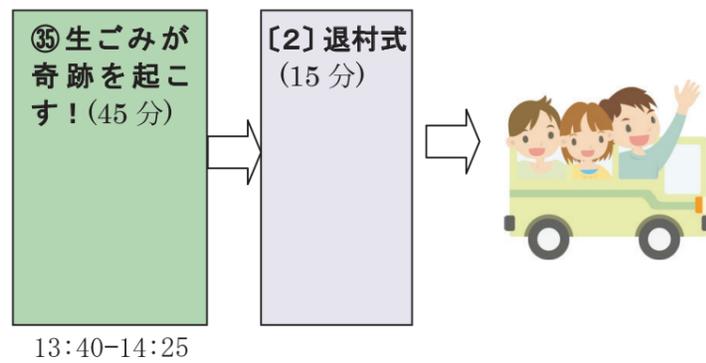
また、プログラムの中には、野菜の生育状況等により、実施時期が変わったり、実施できなくなったりする場合がありますのでご了承下さい。

5 アグリパークでの日帰り体験学習の展開例

展開例については、「<1>【入村式・退村式】」は実践例・小学校「アグリパーク・ツアーズ（日帰り編）」(P147)を、「<2>【農業体験活動の例】」および「<3>【+αの農業体験活動の例】」は、実践例・小学校「アグリパーク・ツアーズ（宿泊編）」(P159～P207)をご覧ください。



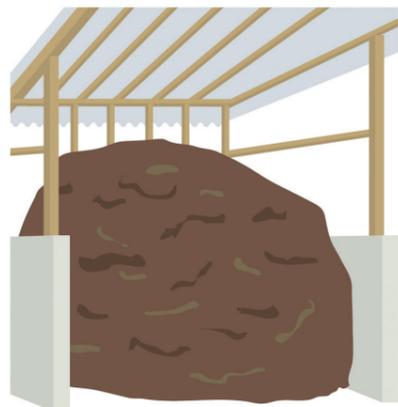
午後の活動



何だか汚そうだけど、これが肥料になるんだね。

畑を耕すのは、大変だね。こんな広い場所は何時間かかるのだろうか？

ゴミだと思ったのに、違ったよ。これがあるから、野菜がおいしいんだね。



教育ファーム応援メッセージ

この度、アグリ・スタディ・プログラムの改訂の情報をお聞きしました。新潟市すべての子どもたちに農業体験や食育・花育等、画期的な政策を推進しておられる新潟市の取組に敬意を表します。児童生徒、各学年の指導計画を作成しての資料には貴市の取り組みの本気さと充実度が伺えます。



子どもたちに一次産業の素晴らしさと大切さを理解させ、安全安心な食材や農家の苦勞に感謝し、体験と実践を推進する活動は本村の目標でもあります。

今帰仁村は、沖縄本島北部の人口9,500人程の村ですが、基幹産業は農業です。農家の子息も多にいる中、農業体験や農業の大切さ、安全安心な食材を感謝していただく等、我々が意識して取り組む必要があると感じている所です。

昨年、貴市の教育ファーム事業を研修する機会がありました。本村でも是非取り入れたいと思い、貴市のアグリ・スタディ・プログラムを参考に、本村の小学校5年生全員に教育ファーム事業を立ち上げました。

幸い、本村には廃校となった小学校跡に「あいあいファーム」という農業体験研修施設があります。そこを活用して、農業体験や六次産業の加工品づくり等の宿泊体験学習を毎年、継続して実施していきます。

教育ファーム事業などのキャリア教育で将来を担う子どもたちの夢を育み、地域貢献・社会貢献できる人材を育成する事が本村の教育施策の柱です。

今回の貴市のアグリ・スタディ・プログラムの改訂が、先駆者としての役割を担い、全国へ発信して頂く事が、我々の励みにもなり、将来の日本の食料自給率や地場産業の育成に繋がるものと確信致します。

今後、大きな期待と先進地域としての貴市の背中を追いかけ少しでも近づけることができるよう、頑張ります。新潟市の益々のご活躍を期待し、沖縄より応援致します。

沖縄県^{なまきじん}今帰仁村教育委員会 教育長 新城 敦

⑩中学校アグリパーク・ツアーズ～宿泊編

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

～ (1日目)

- ・実施期間 通年
- ・費用 1メニュー 無料～440円/人

自分が育てる (植える・世話する・採取する・収穫する・見学調査する) ➡

自分が消費する (加工する・調理する・飲食する・見学調査する・作品にする)

よりよい集団になるために、ルールを守り、友だちと協力してアグリパーク・ツアーズをやりとげよう。

*活動内容は、人数により様々な活動を組み合わせることができます。ここに示したのは一例です。

体験活動

① 循環型農業オリエンテーリング

② 農業道場

③ A 搾乳と試飲・搾乳・世話

③ B 野菜の収穫とアグリ石釜ピザ作り・試食(上級編)

野菜の収穫

牛のつめは二つに割れていることが分かったよ!

世話

牛乳の試飲

④ 農業夜話

ピザ作り・試食

農業で生きるというのは大変だけど、生きがいがあるねー。

学習指導要領上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○中学校全学年：特別活動〔学校行事〕

- ・豊かな自然や農業文化に触れる体験を通して、学校の学習活動を充実発展させたり、人間関係など集団のあり方について学び、互いに協力し、思いやる態度を育てたりすることができます。
- *特別活動〔学校行事〕の内容(4) 旅行・集団宿泊的行事
- ・実際に農業体験を行ったり、農業に従事する人々と接したりすることにより、子どもたちに勤労の尊さと生産の喜びを体得させることができます。
- *特別活動〔学校行事〕の内容(5) 勤労生産・奉仕的行事

アグリパークでの宿泊農業体験の学びの可能性

- 年度初めの学級づくり、学年づくりのための効果的な手立てとして宿泊農業体験学習を活用することができます。いわゆる「同じ釜の飯を食う」という活動を野菜の収穫・調達、下処理、調理、会食、後片付けを共同で行うことにより、学級・学年の一員としての人間関係を作るための大切な経験とすることができます。さらに、夏休み明けなど人間関係に不適応を起こしやすい時期に、生徒自身が学級及び学年の人間関係を見直し、自分の在り方を再確認するためには、共に汗を流して農業体験、食品加工体験をしたり、共に食卓を囲んだりする活動は非常に大切なものとなります。
- *中学校全学年特別活動〔学校行事〕(4) 旅行・集団宿泊的行事

⑩中学校アグリパーク・ツアーズ～宿泊編

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

～ (2日目)

- ・実施期間 通年
- ・費用 1メニュー 無料～440円/人

が
魂

自分が育てる (植える・世話する・採取する・収穫する・見学調査する) ➡

自分が消費する (加工する・調理する・飲食する・見学調査する・作品にする)

よりよい集団になるために、ルールを守り、友だちと協力してアグリパーク・ツアーズをやりとげよう。

* 活動内容は、人数により様々な活動を組み合わせることができます。ここに示したのは一例です。

体
験
活
動

① 朝飯前の活動

② A 野菜の収穫と調理

野菜の収穫

② B 野菜の収穫とカレー作り

野菜の収穫

③ 生ゴミが奇跡を起こす！



朝みんなで農作業すると気持ちいいね。



作る調理にあわせて、野菜を収穫するというのが、本当のご馳走の意味なんだね。

調理



カレー作り

みんなで協力して材料を集めて、調理して、みんなで食事すると、とっても美味しいね。



野菜くずはゴミではないんだね！

学
習
指
導
要
領
上
の
位
置
付
け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○中学校全学年：特別活動〔学校行事〕

・豊かな自然や農業文化に触れる体験を通して、学校の学習活動を充実発展させたり、人間関係など集団のあり方について学び、互いに協力し、思いやる態度を育てたりすることができます。

* 特別活動〔学校行事〕の内容 (4) 旅行・集団宿泊的行事

・実際に農業体験を行ったり、農業に従事する人々と接したりすることにより、子どもたちに勤労の尊さと生産の喜びを体得させることができます。

* 特別活動〔学校行事〕の内容 (5) 勤労生産・奉仕的行事

アグリパークでの食材の調達、下処理、調理、会食体験の学びの可能性

○中学校技術・家庭の「B食生活と自立」の学習を、アグリパークの宿泊農業体験学習として実施することも可能です。栄養素に注意して1日3食の献立を作り、食材を直売所から調達し、日常食の調理を行い、会食をするという一連の活動を通して、自分の食生活を見直したり、食生活に関心をもったりすることができます。また、専門家の方を講師に招いた講演を聴くことにより、新潟や日本全体の食文化を見直し、自分の食と健康、そして食文化について自分なりに考えていこうとするきっかけにすることができます。

* 中学校技術・家庭〔家庭分野〕B食生活と自立

実践例 「中学校アグリパーク・ツアーズ（宿泊編）」

- 1 関連する単元名 中学校全学年 特別活動〔学校行事〕
「アグリパーク・ツアーズ（宿泊編）」〈1泊2日〉

2 関連する単元の目標

- ・アグリパークで新潟の農業・農産物加工・食に触れる体験等を通して、学校における学習活動を充実発展させたり、集団活動を通して、教師と児童、児童相互の人的な触れ合いを求めて楽しい思い出を作ったりするとともに、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、自分自身を見直すとともに、互いに思いやり、共に協力し合ったりするなどの人間関係を築く態度を育てる。

3 関連する単元の流れと体験活動の位置付け

(1) アグリパーク・ツアーズ ～宿泊編～ (14時間)

体験の前に

- ・新潟市南区の自然条件や地理・経済・歴史、及びアグリパークの施設などを調べ、アグリパークに対する期待を高める。
- ・キャリア教育の観点から農業を体験する意味を考える。
- ・集団宿泊行事のめあてを確認する。
- ・宿泊班・オリエンテーリンググループ等、活動する班を編成し、役割を分担する。
- ・参加する体験学習を選択し、グループ編成し、役割を決める。
- ・健康、安全面の確認事項を徹底する。

学習のめあて例

よりよい集団になるために、ルールを守り、友達と協力してアグリパーク・ツアーズをやりとげよう。

アグリパークでの体験学習（1泊2日）〈12時間〉

■第1日

朝：学校集合 → バスで学校出発
午前：入村式 → 午前の活動 → 昼食
午後：午後の活動 → 入浴 → 夕食 → 夜の活動 → 就寝

■第2日

午前：朝飯前の活動 → 朝食 → 午前の活動 → 昼食
午後：午後の活動 → 退村式 → バスでアグリパーク出発 → 学校着
*各活動は次ページから選択して構成する。

まとめのメモ例

「新潟市の農業が全国的に高い評価を得ているのは、過去から現在までの農家の方々が工夫を続けてきたからです。」
「助け合って農業体験をすると、他人の立場に立つということが分かったような気がした。」

体験の後に

- ・体験したことを基に、ファシリテーションを行ったり、振り返り作文やアグリパーク新聞、ポスターなどの表現活動によって学んだこと明確にしたりして、学校生活に生きるようにする。
- ・アグリパークで学んだ協力の仕方、人間関係の作り方などを、学校生活に活かすには、どうするか考え、作文に書く。

「1行メモ」を重視する「アグリパーク・ツアーズ」

「アグリパーク・ツアーズ」では、それぞれの学習の最後に必ず「1行メモ」の言語活動を位置付けています。これは、活動で感じたことや、活動をして分かったことを言語化させることにより、自らの思考の跡を振り返らせ、何を学んだかを確認させるためのものです。学校へ帰ってから作文を書かせたり報告文を書かせたりする言語活動は重要ですが、活動直後の言語活動でしか得ることができないものがあります。私たちは、そのようなみずみずしい言語活動を大切にしていきたいと考えています。

生徒の実態や活動の内容、教師の意図によっては、「1行メモ」だけでなく、「2行メモ」「3行メモ」「1文メモ」というように、変更して働き掛けてください。

4 活動の例示（学校の実態に応じて、この中から活動を選び、組み合わせます。）

<1>【入村式・退村式】

【1】入村式～入室—めあてを確認し、思い出に残る行事にするため準備を整える。 35分

【2】退村式—アグリパークでの生活をふり振り返り、集団生活で大切にすべきことを再確認する。 15分

<2>【農業体験活動の例】

*①～④の料金は学校で資料を印刷した場合は無料です。

①アグリ探検隊—全員でまわってパークを回り、「育てる—消費する」に関するクイズに答えながら農業と人間の関係について見聞を広げる。 45分 <10円> 人数制限なし

②アグリオリエンテーリング—グループで協力してパーク内を回り、「育てる—消費する」に関するクイズで点数を競いながら農業と人との関係について見聞を広げる。 90分 <1グループ10円> 人数制限なし

③循環型農業探検隊—全員でまわってパークを回り、「育てる→消費する→育てる→」に関するクイズに答えながら農業と人間の関係について見聞を広げる。 45分 <10円> 人数制限なし

④循環型農業オリエンテーリング—グループでパーク内を回り、「育てる→消費する→育てる→」に関するクイズで点数を競い、農業と人との関係について見聞を広げる。 90分 <1グループ10円> 人数制限なし

⑤農業道場—自分が食べているものが、耕す—畝を作る—植える—世話するなど、どのような農業技術により作られたかを体験し、見聞を広げる。 45分～90分 <0円> 80人

⑥農業活性化研究センター見学—限定プログラムなので、計画段階でアグリパークに要相談。農業活性化研究センターを見学し、農業研究について見聞を広める。 45分 <0円> 30人

⑦搾乳と試飲・世話—搾乳して試飲した後、牛のブラッシング、餌やり、畜舎清掃等を行うことにより、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。 90分 <80円> 1班最大30人

⑧牛の世話と牛乳の試飲—牛のブラッシング、餌やり、畜舎清掃等を行った後、牛乳を試飲することにより、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。 45分 <80円> 1班最大30人

⑨トウモロコシの試食と堆肥ウオッチング・家畜のエサやり—堆肥ができるまでを観察し、その原料を生産してくれる家畜にお礼のエサやりを行うことにより、持続可能な循環型農業を理解する（堆肥のお土産付き）。 90分 <30円> 1班最大30人

⑩羊や牛の見学とウインナーソーセージ作り・試食—ケーシングの材料になる腸を持つ羊や牛を見学した後、ウインナーソーセージ作りを行うことにより、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。 200分 <390円> 60人

⑪搾乳・試飲とアイスクリーム作り・試食—牛や山羊の搾乳を行った後、試飲し、アイスクリームを作り、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に作った物を食べる楽しさを感じる。 145分 <210円> 1班最大30人

⑫搾乳・試飲とバター作り・試食—牛や山羊を搾乳した後、試飲し、バターを作りを行うことにより、家畜が人間の生活に大切な役割を果たしていることに気付く。 135分 <130円> 1班最大30人

⑬昔の農家の子どもになろう（野菜の収穫と試食）—昔の農家の子どもたしたように、畑でキュウリ、トマト等すぐにかぶりつける野菜を収穫し、豪快に試食する。 45分 <10円> 120人

⑭畑の耕起と収穫・簡単調理・試食—土起こし・畝作りなどを行った後、別の畑で収穫し、簡単な調理をして試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。 145分 <90円> 80人

⑮畑の種まきと収穫・簡単調理・試食—種まきなどを行った後、別の畑で収穫し、簡単な調理をして試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。 145分 <90円> 80人

⑯野菜の世話と収穫・簡単調理・試食—水やりや草取り等の農作業を行った後、別の畑で収穫し、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。 145分 <90円> 80人

⑪野菜の収穫と調理・試食—野菜の収穫を行った後、調理を行い、試食することにより、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさに気付く。100分 <90円> 80人

⑩家畜の世話とスケッチ—家畜の世話や見学をしてからスケッチをすることにより、家畜に愛着を覚え、質感豊かな絵を描く。90分 <30円> 40人

⑬野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食（初級編）—収穫した野菜などを材料に石窯ピザを作り、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。90分 <250円> 40人

⑭野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食（上級編）—薪割り→火入れ→野菜収穫→石窯ピザ作り→試食により、どのようにして農産物からおいしい食べ物に変えてきたかに気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。
*中学以上 135分 <250円> 40人

⑲野菜の収穫とあいもん団子作り・試食—アグリリレープロジェクト等での野菜を使って、あいもん団子を作り試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した物食べる楽しさを感じる。180分 <290円> 40人

⑳枝豆収穫と試食—枝豆を収穫し、茹でて試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫したものを食べる楽しさを感じる。90分 <30円> 80人

㉑雪下野菜収穫と調理・試食—雪の中から野菜を掘り出し、調理して試食することにより、自然の力に気付くとともに、友達と一緒に収穫した野菜を食べる楽しさを感じる。90分 <40円> 80人

㉒トウモロコシ収穫と焼トウモロコシ作り・試食—トウモロコシを収穫し、焼いて試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した物を食べる楽しさを感じる。100分 <40円> 80人

㉓野菜の収穫と生ジュース作り・試飲—野菜の収穫を行い、それを使ってジュースを作り、試飲することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した野菜のジュースを飲む楽しさを感じる。90分 <90円> 80人

㉔芋の収穫と焼きいも・試食—芋を収穫したり、アグリリレープロジェクトの芋を使ったりして、焼きいもを作り、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した物を食べる楽しさを感じる。90分 <40円> 80人

㉗野菜の収穫と鍋料理体験・試食（冬メニュー）—収穫した野菜やアグリリレーの野菜などを使って鍋料理を作り、みんなで鍋をつついて試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に収穫した物を食べる楽しさを感じる。90分 <250円> 80人

㉘野菜の収穫とカレー作り・試食—収穫した野菜を使って、カレーライスを作り、試食することにより、友達と一緒に調理したものを食べる楽しさに気付く。135分 <440円> 80人

㉚豆の見学と豆腐作り・試食—アグリリレープロジェクトの豆を使って、豆から豆腐を作り、試食することにより、友達と一緒に食品加工した物食べる楽しさに気付く。135分 <120円> 40人

㉛麦の見学とパン作り・試食—麦の様子を見学した後、パン作りを行い、試食することにより、友達と一緒に食品加工した物食べる楽しさに気付く。135分 <120円> 40人

㉞イチゴ摘みとイチゴ大福作り・試食—収穫したイチゴを使ってイチゴ大福を作り、試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に加工したイチゴ大福を食べる楽しさを感じる。105分 <160円> 40人

㉟かまどの話とかまど米炊き・おむすびの試食—かまどをつかってご飯をたき、おにぎりを作って、試食することにより、昔の農家の生活を知るとともに、「同じ釜の飯」を食べる連帯感を感じる。135分 <130円> 80人

㊳お餅の話と餅つき・試食<宿泊メニュー>—アグリパーク周辺の水田のもち米で兎杵と臼を使って餅をつき試食することにより、農業の果たす役割に気付くとともに、友達と一緒に搗いた餅を食べる楽しさを感じる。180分 <150円> 40人

㊴笹団子の話と笹団子作り・試食<宿泊メニュー>—収穫したりアグリリレープロジェクトの等を使ったりして笹団子を作り、試食することにより、友達と一緒に食品加工した物を食べる楽しさを感じる。180分 <350円> 40人

㊵生ごみが奇跡を起こす！—自分たちが調理で出した生ごみを、微生物の働きですばらしいものに変化させる経験を通して、循環型農業に関心をもつとともに、持続可能な社会を作る重要性に気付く。45分 <40円> 人数制限無し

㊶わら細工に挑戦<冬メニュー>—昔の農民が夜仕事に行ったわら細工に挑戦し、昔の農業が、稲→わら→わら細工製品→<使用>→堆肥→水田→稲の循環により成り立っていたことに気付く。180分 <わら代など> 20人

<3>【+αの農業体験活動の例】

時間に応じてそれぞれのプログラムに追加するとより効果的な学習が可能になります。

①野菜を調べて新潟の農業について知ろう！—「①アグリ探検隊」のプラスαプログラム <0円>

②ミニトマトの食べ比べ—⑬～⑰のプラスαプログラム <20円>

③アグリフォイル焼き—「⑬野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食（初級編）」及び「⑭野菜の収穫とアグリ石窯ピザ作り・試食（上級編）」のプラスαプログラム <20円>

④専門家のお話—すべてのプログラムについて、専門家から話をいただき、農業や加工の意味づけを行うことができる。30分～100分<0円>

⑤読み聞かせ—すべてのプログラムについて、活動に関係する本の読み聞かせを聞く。25分～75分 <0円>

<4>【夜の活動の例】

①農家の夜語り—農家の方から農作業に関するお話や伝説を聞く。<0円>

②農業夜話—新潟の農業や農業の歴史について専門家の方から話を聞く。<0円>

③星空観察と農業話—星の運行と農作業についての話を聞き、星空観察をする。<0円>

④アグリで肝試し—通過儀礼として農村に伝わる肝試しを体験する。<0円>

<5>【朝飯前の活動の例】

①家畜ブラッシング 30分<20円>

②家畜のエサやり・畜舎清掃 30分<40円>

③畑作物の水やり・草取り 30分<10円>

④野菜の芽かき・葉かき 30分<10円>

<6>【食事】

食事a—農家レストランが提供する食事

食事b—子どもとレストランがそれぞれ調理する食事

食事c—班別に子どもが調理しクラブハウスや体験ハウスで食べる食事

食事d—お弁当を持ってきて食べる食事

活動の時間はおよその目安です。実際は、人数や状況により異なりますので、打ち合わせの際に、インストラクターにご相談ください。たとえば、「40人で90分」となっている学習を70人でやりたい場合、時間を延ばして実施できるものと、時間を延ばしても実施できないものがあります。
また、プログラムの中には、野菜の生育状況等により、実施時期が変わったり、実施できなくなったりする場合がありますのでご了承下さい。

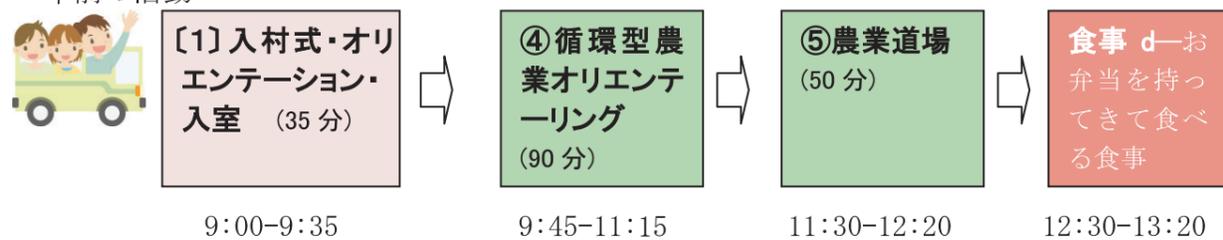
5 アグリパークでの宿泊体験学習の展開例

展開例については、実践例・小学校「アグリパーク・ツアーズ（宿泊編）」(P159～P207)をご覧ください。

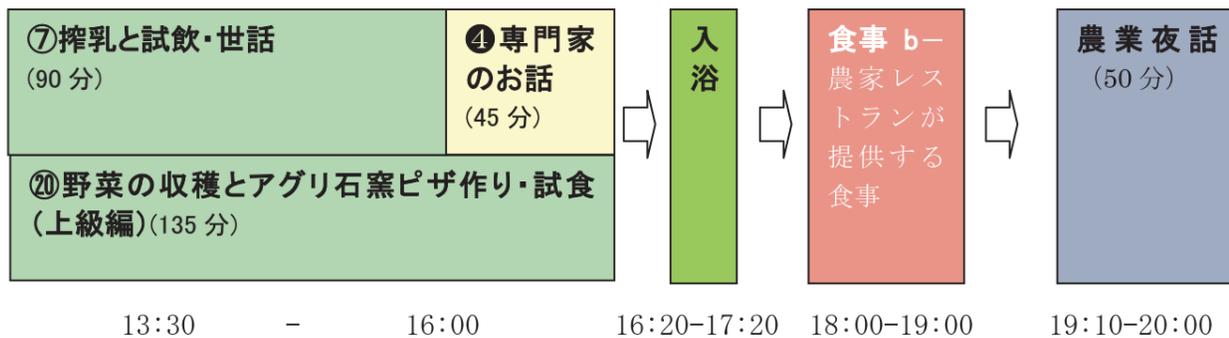
6 体験活動を選択し組み合わせた学習活動例

第1日

午前の活動

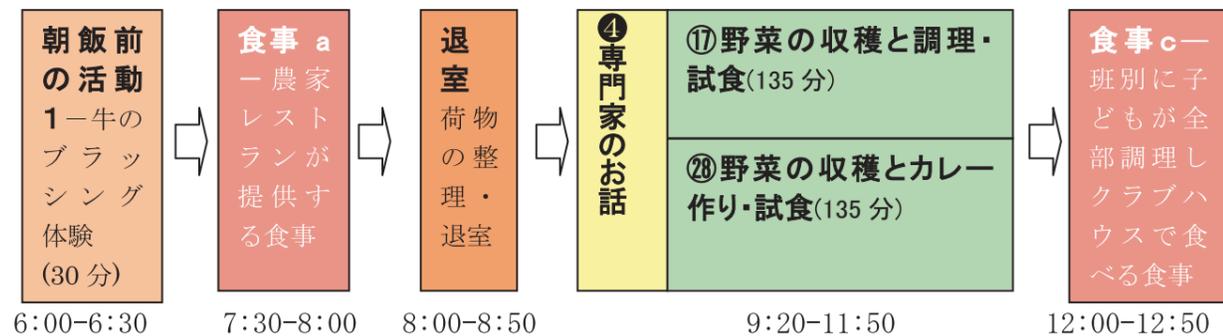


午後の活動

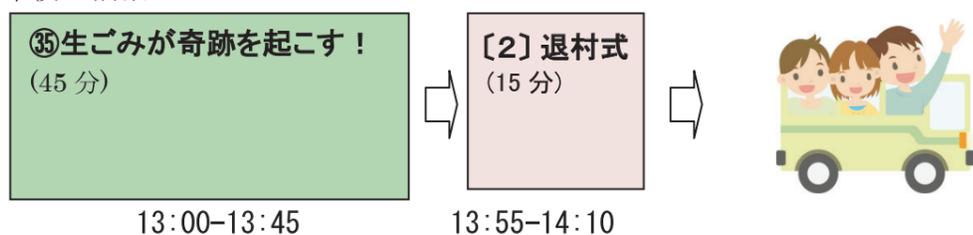


第2日

午前の活動



午後の活動



2 中学校・中等教育学校編 (2) いくとぴあ食花

①食花ハローワーク

<全学年 総合的な学習の時間>…………… 330

①食花ハローワーク

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

- ・実施期間 4月～3月 (雨天でも可能)
- ・最大人数 20人程度
- ・費用 無料

魂 自分が育てる(見学調査する) →

職場体験活動で「なりたい自分」を表そう。

①仕事の内容の説明を受ける

積極的に自分から仕事ができるようになりたいな。

職場体験を通して、明るくあいさつができる人になりたいな。

・あいさつは、大きな声で自分から。
・何をすればいいかわからないときは、自分から聞く。

学習指導要領上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○中学校全学年 総合的な学習の時間

- ・いくとぴあ食花での職場体験を通して、施設の仕事に携わっている人々の工夫や努力について考えるようにする。
- ・***総合的な学習の時間の学習課題:〔職業や自己の将来にかかわる課題〕(キャリア教育として数日の学習を設定することができる。)**
- ・課題解決力:働くなかでの工夫や苦勞を学ぶことで、自分自身の生き方の課題に向き合うことができる。
- ・コミュニケーション力:お互いに協力したり、施設の関係者の方に質問したりすることで、言語技術を向上させることができる。

自分が消費する(発表する)

②職場体験

<食育・花育センター>
園内の手入れ
<こども創造センター・動物ふれあいセンター>
自作のイベント実施

③職場体験のお礼と振り返り

・体験して自分が身に付けたことをお礼の手紙に書きましょう。
・手紙の書き方も勉強しようね。

・笑顔で大きな声が出せるようになったよ。
・自分から何をすればいいのかわかるようになったよ。

職場体験の学びの可能性

○働くことの意義や職業調べを中心に学習を構成するならば…

- ・***特別活動〔学級活動〕(3)学業と進路**

○新潟県中学校長会編集「新しい生き方」2年生「働くことの意義」の学習を構成していくならば…

- ・***道徳 4-(5) 資料「職場体験レポート」**

○付加価値をつけてブランド力を高める仕組みとその価格の在り方に関係づけて学ぶ「消費者教育」の学習活動を構成していくならば…

- ・***中学校技術・家庭〔家庭分野〕B「食生活と自立」**

○流通のはたらきの学習を構成していくならば…

- ・***社会3学年公民「生産と消費をつなぐもの」**
市場のメカニズムについて職場体験を通して考えさせる。

実践例 「食育ハローワーク」

1 関連する単元 中学校 総合的な学習の時間「職場体験を通して自分をみつめよう」 (1～5日)

2 関連する単元の目標

- ・いくとぴあ食花での職場体験を通して、働いている人たちの姿を主体的、協同的に学ぶことで、自分自身の人間性の向上や自らの生き方について考える力を身に付けることができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 自分の性格も含めた「なりたい自分」について考える！(1時間)

- ・自分の長所や短所は、なんだろうか。どんなことが苦手なのだろうか。職場体験のねらいを考える。
＜課題設定＞

(2) いくとぴあ食花の施設や運営内容を知り、体験先を決めよう！(1時間)

- ・いくとぴあ食花の仕事の一般的な内容を調べ、体験先を決める。＜情報収集＞
※申し込みは、一括こども創造センターに電話で一報(025-281-3715) → その後FAXを送る。

(3) いくとぴあ食花での体験活動を企画しよう！(1時間)

- ・働く喜びや誇り、困難なこと、目指すことなどのインタビュー内容を考える。＜整理・分析＞
・施設訪問者へ参加を促すイベントを企画する。(ミニコンサート・ワークショップなど)＜整理・分析＞

(4) いくとぴあ食花で職場体験活動をしよう！(6時間)

- ・学習課題「職場体験活動で『なりたい自分』を実現するためには、どのように行動すればよいのか」を設定する。＜課題設定＞
- ・接客のマナーについて、事前指導を受ける。＜情報収集＞
- ・服装、安全面、仕事の手順、困ったときの対処法などについて、事前に確認する。＜情報収集＞

体験の前に

学習課題例

職場体験活動で「なりたい自分」を表そう。

いくとぴあ食花での体験学習＜4時間＞

- ①自己紹介、あいさつ ②職場体験実施の注意事項の確認 ③仕事の説明
- ④職場実習(「なりたい自分」を意識して働く)・企画したイベントを行う。
- ⑤1日のふり返り(日誌記録)
- ※1日単位で行う仕事の打合せを行って、2日～5日間実施可能か確認する

まとめのメモ例

「自分の得意なことについては『なりたい自分』が表れると思っていた。でも、実際にやってみると、難しい面もあった。」
「少し苦手なことについては、心を強くして一歩前に出たら『なりたい自分』に近づくことができた。」

(5) 職場体験活動をふり返ろう！(1時間)

- ・体験前と体験後の自分の姿を見つめ、自分自身の変化を文章にまとめる。＜整理・分析＞＜まとめ・表現＞
- ・それぞれの職業について、職場紹介カードにまとめる。＜まとめ・表現＞
- ・職場紹介カードを掲示できるように完成させる。＜まとめ・表現＞

体験の後に

4 本時のねらい

「なりたい自分」を意識しながら体験活動を行うことを通して、働くことの意義や自分自身の適性について考えることができる。

5 本時の展開例(200分＝4時間)

学習活動	指導者(T)の働き掛けと子ども(S)の反応	指導上の留意点
①学習課題をつかむ(5分)	S:あいさつと自己紹介をする。 T:本時の学習課題を確認し、職場体験学習の内容を説明する。	・学習の流れを示し、学習の見通しをもたせる。
②体験する仕事内容の概略を聞く(20分)	I:それぞれの職場での具体的な仕事内容を説明する。 食育・花育センターでの園内の装飾・植物の管理・館内の案内など、季節に応じた仕事。こども創造センターや動物ふれあいセンターでの仕事。 S:聞いたことはしっかりメモして間違えないようにしよう。 S:「なりたい自分」常に意識するようにこころがける。	・声の大きさや表情について確認する。 ・職場紹介カードに何を書くか確認する。
③職場体験をする(訪問者に向けたイベントを実施する班もある)	I:現場で実際の動きを確認しながら、任せるようにする。 S:注意事項を思い出しながら、お互いに声を掛け合っ てやる。 S:「なりたい自分」を意識しているか確認しながら体験する。 S:職場紹介カードに書く内容を考えながら仕事を進める。	・「なりたい自分」を客観的に評価する。 ・職場紹介カードを意識しているか確認する。 ・具体的なイベント内容については、可能かどうか事前にセンターの方と打合せをする。
④昼食・休憩時 ・用意したインタビューをする	S:こども創造センターや動物ふれあいセンターでは、自分たちが考えたイベントを行う。 S:「仕事に就いて、自分で変わってきたと思うことは何ですか。」「仕事をしていて心掛けがけていることは何ですか。」「大変だと思うことは何ですか。」	
⑤インタビュー結果を生かして体験活動を行う(③～⑤155分)	T:学習のまとめをする時間と場所を指示する。 S:1日のふり返り・記録を日誌に記述する。 S:職場の人に感想を含めたあいさつをして終了する。	・振り返り活動に指導者からコメントをもらう。(マナー、礼儀、仕事への取組など)
⑥学習のまとめと振り返りを記録する(20分)		

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
学習方法(収集・分析)	・職場の周りの方との協力することの大切さ、あいさつや言葉遣いなど、コミュニケーションスキルを意識することができる。 ・体験先で「職業カード」記述する内容について質問する。	行動観察 学習カード
自分自身(自己理解)	・「なりたい自分」に近づこうと自分自身の行動を意識しながら働くことができる。	行動観察
他者や社会とのかわり(協同)	・職場紹介カードに記述する内容を意識しながら働くことができる。 ・インタビューで多くの情報を得ようと努力して、明るい笑顔で聞き取ることができる。	行動観察 学習カード

大地の恵みから見えるものは

新潟市の子どもさんたちが食と農を通し、命の大切さや食と健康のかかわりを学び、ふるさとの大切さを知って生きる力を育てる。農の新たな創生への挑戦として、全国最先端の教育ファームの展開は全国から注目されているかと存じます。新たな取り組みの第一歩を踏み出されたことに、子ども世代だけではなく、大人社会に向けても農、食を見つめ直すきっかけとなることに、農にかかわる者として、大いに期待しているところです。



又、貴市における循環教育の一環として、家庭から排出される有機素材（野菜残渣など）を廃棄することなく、ダンボールコンポストなどを活用しリサイクル化を行ない、ゴミ減量、大地の蘇生、食、命と併せ、環境循環社会へと命の次代を築きあげていかれるものと信じております。

人は、四季を体感し、旬の収穫物を食することで、体の本能や五感が活性化されると言われています。体験型の教育ファームでの活動が新潟市全体の発展に繋がって行くことを願いつつ、新潟の山々のミネラルが大河渡り、豊かな大地を育み、光輝く農畜産物の創出と先進教育が、全国に誇る命を守り心も育てる新潟発循環型農業教育と発展するよう、心よりお祈り致します。

JA 糸島経済部資材課考査役 古藤 俊二
(平成26年度 第1回新潟市経営助言懇話会講師)

くらしと農業がつながる「教育ファーム」

校区に田んぼも畑も全くない場所で生活する小学5年生の子どもたちと、教育ファームに取り組みました。生産の現場に触れることなく生活している子どもたちは、食べられることは当然のこととっていました。



しかし、教育ファームで農業に触れると、子どもたちの見方は一転。農業の豊かさを知り、一方で自分たちの無力さを感じ始めました。「食べ物を作っていない自分に、できることは何か。」子どもたちは、自らの生活を振り返りました。

そして、考えたことをきっかけに、それまでのくらしを少しだけ変えてみる動きを始めました。食べ残しをなくしたり、自分でみそ汁を作ったり、弁当を作ったり。「いただきます」の意味を理解した子どももいました。

くらしと農業がつながることで、教育ファームの価値は、さらに上がりました。便利な生活が、当然の時代に生きている子どもたち。教育ファームは、子どもたちが自らのくらしと向き合う大切な場だと思います。

福岡市立舞鶴小学校 教諭 稲益 義宏
(平成27年度 アグリパーク教員宿泊体験研修会講師)

2 中学校・中等教育学校編 (3) 近隣農家

- ①日本で一番！アート新潟園芸 <全学年 総合的な学習の時間>…………… 336
- ②世界にプレゼン！ブランド新潟米 <全学年 総合的な学習の時間>…………… 340

①日本で一番！アート新潟園芸

- ・未来へのストーリー ★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

- ・実施期間 4月～10月 (雨天でも可能)
- ・最大人数 40人
- ・費用 約500円/人 (鉢植え代)

魂 自分が育てる(見学調査する) ➡

自分が育てる(植える) ➡ 自分が消費する(作品にする)

園芸に「芸」という漢字がついているのは、どうしてか。

① 芸の歴史インタビュー

② 植物園見学

体験活動

・新潟市は、食と花が素晴らしいというけど花が素晴らしい理由はなんだろうか。
・花の歴史は、どうだったのだろうか。

・新潟市は昔から優秀な園芸職人がいることで有名なんだよ。
・チューリップの商業生産は新潟で始めたんだよ

・新潟の園芸職人の技術力の高さは、全国でも有名です。
・園芸の芸術は、何が素晴らしいと思いますか。

③ 園芸農家で鉢植え体験

④ 体験したことの振り返り

・花によって土の作り方が違うんだね。
・花にとって土がどんなに大切かがわかったよ。

・園芸はわたしたちの心を癒す生きた芸術なんだね。
・これまでの歴史をまとめてみよう。

学んだことをパンフレットにまとめて紹介しよう。

学習指導要領上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○中学校全学年 総合的な学習の時間

- ・新潟市の園芸の歴史を学ぶことを通して、それらの仕事に携わってきた人々の工夫や努力について考えるようにする。
- *総合的な学習の時間の学習課題：〔職業や自己の将来にかかわる課題〕（テーマに合わせて1日の学習を設定することができる。）
- ・課題解決力：先人の工夫や苦労を学ぶことで、目の前の課題に向かうときの考え方や精神を学ぶ。
- ・コミュニケーション力：お互いに話し合ったり、施設の関係者の方に質問したりすることで、言語技術を向上させることができる。

園芸の歴史学習の学びの可能性

- 園芸生産の工夫や努力を中心に学習活動を構成していくならば…
中学校2年技術「生物の育成計画を立てよう」
生物を育てる目的を考えて、成長に合わせて育成計画を考えることができる。
 - 園芸生産の歴史を中心に構成していくならば…
中学校3年公民「よりよい社会を目指して」
持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ、自分の考えをまとめさせる。
- *そのほか、「道徳」で、地域社会の一員としての自覚をもって、郷土を愛し、社会に尽くした先人に尊敬と感謝の念を深める学習活動を行う。

実践例 「日本で一番！ アート新潟園芸」

1 関連する単元 中学校 総合的な学習の時間「生産日本一の新潟園芸史を学ぼう」（8時間）

2 関連する単元の目標

- 新潟市の園芸の歴史を調べることを通して、日本の園芸文化の発展に努力してきた人たちの姿を主体的、協同的に学ぶことで、自らの生き方について考える力を身に付けることができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

（1）新潟市で生産されている花の品種を知ろう！（1時間）

- 新潟市で品種改良された花の種類が多いことを知る。＜情報収集＞
- チューリップ・ボタン・アザレア・クリスマスローズ・ヤブコウジを写真で見る。＜情報収集＞
- 食と花が新潟の誇るべき文化だというのが花の歴史がいつから始まったのかを調べてまとめる。＜整理・分析＞

（2）品種改良に挑戦するかつての園芸農家の人たちの姿を知ろう！（5時間＋移動・昼食）

- 「園芸に芸の漢字がついているのは、どうしてだろうか」という学習課題を設定し、質問計画や体験計画をつくる。＜課題設定＞
- 県立植物園で講義を聞き、新潟市の全国に誇る技術、生産力を学習する。＜情報収集＞
- 新潟市の園芸のすばらしさは、どんな点にあるのか説明できるようにする。＜整理・分析＞＜まとめ・表現＞
- 園芸農家の苦労や楽しさは、どんなことにあるのかを考えながら体験学習に臨めるようにする。

体験の前に

学習課題例

園芸に「芸」という漢字がついているのは、どうしてか。

県立植物園で講義及び見学学習＜2時間＞

①江戸時代から続く全国に誇る新潟市の園芸の歴史を知る。



②園芸になぜ「芸」がついているのかを予測する。

移動・昼食（1時間）



園芸農家での体験学習＜1時間＞

③鉢植え体験：さまざまな土を混ぜたり重ねたりすることを学ぶ。

※ 鉢は、学校に持ち帰り学級で育てる。（美しさを鑑賞・植え替えない鉢との比較）

まとめのメモ例

『芸』という漢字には、これまで携わった方々の技術や思いが積み重なっている。それを次の世代に伝えていくことも大切だ。園芸には、こうした歴史と伝統がある。」

体験の後に

- 体験したことや見学してきたことをグループで話し合う。※帰校後リーフレットにまとめる。＜まとめ・表現＞
- 「園芸に芸がついている理由」について各グループで発表する。＜情報収集＞＜まとめ・表現＞
- どうして新潟市は花で有名なのか、自分の考えをまとめる。＜整理・分析＞＜まとめ・表現＞
- 今後、どんなことが知りたいかを考える。

（3）園芸に芸がついている理由をまとめよう！（2時間）

- グループで考えたことをリーフレットにまとめて発表する。＜まとめ・表現＞
- 現在の新潟市園芸は、江戸時代からの技術力の継承なくしてありえないことを理解する。
- 今後、心配されることは何かを考える。
- * 植え替えた鉢の花と上得ない鉢の花を比較して観察する。

4 本時のねらい

自分たちが予想した園芸に芸という漢字がつく理由について体験活動を通して、気付くことができる。

5 本時の展開例（150分＝3時間）＋移動・昼食1時間

学習活動	指導者 (T)・指導員 (I)・子ども (S)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (5分)	T:本時の学習課題（「園芸に芸という漢字がついているのは、どうしてだろうか」）を確認し、園芸農家の方を紹介する。 T:園芸農家の方の普段のお仕事を紹介する。	・学習の流れを示し、学習の見通しをもたせる。
②園芸の歴史と現在を学ぶ (90分) ・江戸時代から続く園芸の歴史 ・現在でも市としては生産高日本一 ・説明を受けた植物の見学	T:植物園の方を紹介し、園芸の歴史の説明を促す。 I:園芸の歴史についてスライドなどで説明する。 S:そんな昔から続いていたのか。昔人気だったのはどんな花？ I:現在の園芸についてスライドなどで説明する。 S:新潟市が日本一なんて知らなかった。 S:新潟市の園芸農家の技術力に感動した。 I:施設見学をさせる。説明をうけた植物を実際に見せる。 T:学習のまとめを行い、植物園の方にお礼を述べる。 <u>植物園から園芸農家に移動</u>	・パンフレットづくりを意識して情報を聞き取るように学習カードを工夫する。 ・小規模園芸家の多さに着目する。
③土作りの説明 (15分) ・鉢植えには、どんな土をつかっているのか ・花によって、土が違うのはなぜか ・生産している実物の花を紹介する	T:鉢植えて工夫されていることは、何かを考えさせる。 S:土はきっとなんでもいい訳ではない。 T:鉢の中の土を見てそれぞれの特徴を考えさせる。 S:粒の大きさや色が全然違う土がたくさんあるなあ。 T:花によって土は同じだと思うかどうかを考えさせる。 S:きっと花にも好き嫌いがあるに違いない。 T:土の違いの重要性について、農家の方に説明を求める。 I:ボタンとアザレアの土の特徴と花が好む土を紹介する。 I:生産している花とその特徴を紹介する。 S:花の特徴の違いは、あまり意識したことがなかった。	・鉢の中には入る土の違いに気付かせる。 ・まず、「鉢の中に何が入っているのか」を確認させる。 ・農家の人に土の違いを説明してもらう。 ・花の特徴を紹介する。 ・1年間の生産サイクルを紹介する。
④鉢植え体験 (25分) ・グループで土づくりを工夫して鉢植えをする	I:目の前の鉢と土と花について説明する。鉢植えをする際の注意事項を話す。 S:この花の場合は、どんな土づくりをすればよかったかな。 S:土の重ね方も考えなければいけないよね。 I:グループの鉢植えに問題がないか助言する。 S:中が見えないから予想しながらやらないといけねえ。 S:植え替えない鉢と植え替えた鉢の花を比較してみよう。	・4人グループに分かれ、協力しながら鉢植えをする。 ・土づくりはグループで考える。
⑤まとめと振り返りをする (10分)	T:まとめのメモを書かせ、発表させた後、農家の方にお礼を述べる。	

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
学習方法 (収集・分析)	・園芸の歴史と伝統について、講師の話をもとにポイントをおさえることができる。	行動観察 学習カード
自分自身 (自己理解)	・体験したり、講義で聞いたりしたことや見てきたことについて、パンフレットのかたちでまとめることができる。	パンフレット作成
他者や社会とのかわり (協同)	・新潟市の園芸のすばらしさと、これまでの園芸農家の努力と工夫に気付くことができる。	行動観察

②世界にプレゼン！ブランド新潟米

- ・未来へのストーリー ★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

- ・実施期間 5月～9月
- ・最大人数 100人（学校教育田の規模による）
- ・費用 無料

魂 自分が育てる（植える・見学調査する） ➡

新潟米の良さは、どんな点にあるのだろうか。

春

①農家の方へのインタビュー

②手植えの田植え体験

米には、一等米、二等米という言い方があるけど、どうやって決めるのだろうか？
・米づくりに違いがあるのか？

・米の品質の善し悪しは、何の違いなのですか？
・一等米と二等米では、値段が違うのか？

・苗は何本ずつ植えるといいのかな？
・どれくらいの深さに植えれば、いい米ができるのかな？

学習指導要領上の位置付け

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○中学校全学年 総合的な学習の時間

- ・米の品質の善し悪しについて学ぶことを通して、それらの仕事に携わっている人々の工夫や努力について考えるようにする。
- ・総合的な学習の時間の学習課題：〔職業や自己の将来にかかわる課題〕（テーマに合わせて1日の学習を設定することができる。）
- ・課題解決力：新潟米の美味しさを世界に紹介することで、目の前の課題に向かうときの考え方や精神を学ぶ。
- ・コミュニケーション力：新潟米の良さの紹介を考えることで、言語技術を向上させることができる。

自分が育てる（収穫する・見学調査する） ➡ 自分が消費する（作品にする）

秋

③稲刈り体験

④英文パンフレットを付けたおいしいお米を外国の方にプレゼントしよう

・粒の大きさは、どのくらいだろうか？
・他の田んぼで取れた米と比較して見ると何か違いがあるのだろうか？

・美味しい米の選び方をまとめよう。
・米の美味しい加工品を紹介しよう。
・丁寧に繊細な米づくりを紹介しよう。

・英語で紹介できれば、英文も書いてみよう。
・英文のパンフレットを作ってみよう。

米作り体験の学びの可能性

- 流通システムを中心に学習活動を構成していくならば…
- ・* 中学校3年公民「生産と消費をつなぐもの」
米の生産から始まって、米の世界市場や加工食品の流通についても考えることができる。
- 国語での体験作文を中心に構成していくならば…
- ・* 中学校国語全学年 「作文」
米作りを体験して、今まで何も気にせず、当たり前前に食べてきた米の大切さについて、考えたことを作文にまとめてコンクールに参加する。
- 中学校技術・家庭〔技術分野〕
- ・* 中学校技術3年 「生物の育成計画を立てよう」
生物を育てる目的を考え、生物の成長に合わせた育成計画を立てることができる。

実践例 世界にプレゼン！ブランド新潟米

1 関連する単元 中学校 総合的な学習の時間「新潟の米を世界に向けて紹介しよう」(11時間)

2 関連する単元の目標

- ・農家へのインタビューや米づくり体験をもとに新潟米の良さを世界に発信する活動を通して、体験や知識を結び付けたり、調べたことを再構成したりして、分かりやすくまとめ伝えることができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 新潟市で生産されている米の品質の違いを知ろう！(1時間)

- ・新潟市で生産された米の善し悪しは、何の違いからくるのかを予測してみる。<課題設定>
- ・米の発芽から始まって、収穫するまでの品質管理の工夫の仕方を学ぶ。<情報収集>
- ・おいしいお米がどんなお米だと思うか、仲間と考えたり調べたりしてみる。<情報収集>

(2) 田植えを体験することで食べ物を生産することの大切さを知ろう！(4時間)

- ・手で田植えをするときの支度と準備するものを確認する。
- ・学習課題「新潟米の良さは、どんな点にあるのだろうか」を設定し、インタビュー内容を確認する。どんな米がいいのか？どうするとそんな米になるか？どんな品種か？なぜその品種を植えるのか？等<課題設定>

体験の前に

学習課題例

新潟米の良さは、どんな点にあるのだろうか。

学校教育田での体験学習(田植え)<2時間>

①農家の方へのインタビュー → ②田植え体験

まとめのメモ例

「農家は苗作り、水管理、土作り、苗植えを工夫している。だから新潟米の品質は高い。」

体験の後に

- ・インタビューや田植え体験をして分かったことをまとめる。<整理・分析><まとめ・表現>
- ・田植えで品質の管理で工夫していることは何かを整理する。<整理・分析>
- ・新潟の丁寧な米作りについて、意見を出し合う。<まとめ・表現>

(3) 稲刈りを体験することで食べ物を生産することの大切さを知ろう！(4時間)

- ・これまでの稲作について、写真などにより経過を把握する。
- ・手で稲刈りをするときの支度と準備するものを確認する。
- ・学習課題「新潟米の良さは、どんな点にあるのだろうか」を確認し、インタビュー内容を記述しておく。<課題設定>

体験の前に

学習課題例

新潟米の良さは、どんな点にあるのだろうか。

学校教育田での体験学習(稲刈り)<2時間>

①農家の方へのインタビュー → ②稲刈り体験 → ③コンバインによる稲刈り見学

まとめのメモ例

「農家は、米粒の大きさ、色、つや、稲の刈り方、感想の仕方を工夫している。だから、新潟米の品質は高い。」

体験の後に

- ・インタビューや稲刈り体験をして分かったことをまとめる。<整理・分析><まとめ・表現>
- ・稲刈りで品質の管理で工夫していることは何かを整理する。
- ・新潟の丁寧な米作りについて、意見を出し合う。<まとめ・表現>
- ・米の美味しい加工品を調べる。

(4) ブランド新潟米を世界に発信しよう！(2時間)

- ・新潟米の美味しい食べ方を海外の人に伝える文章を考える。
- ・新潟米を使ったおいしい加工品を海外の人に伝える文章を考える。
- ・丁寧で繊細な米作り、海外の人に伝える文章を考える。
- ・ALTなどの外国の方にパンフレットを付けたお米をプレゼントする。

<まとめ・表現>

<1>田植え

4 本時のねらい

田植えの体験活動を通して、米の品質管理の工夫や新潟米の良さについて気付くことができる。

5 本時の展開例 (100分=2時間)

学習活動	教師(T)・専門家(P)・子ども(S)	指導上の留意点
①今日の学習課題をつかむ(5分)	T:本時の学習課題(「新潟米の良さは、どんな点にあるのだろうか」)を確認し、農協の方や農家の方を紹介する。	・学習の流れを示し、学習の見通しをもたせる。
②農家の方へのインタビュー、田植えの説明を聴く(10分)	T:田植えの前に、新潟米がなぜすばらしいのかなどについて、用意してある質問を専門家にしてみようと呼び掛ける。 S:一等米と二等米は、何が違うのですか? T:自分たちの米は何等米になるか予測させる。 S:一等米であってほしいけど、二等米くらいじゃないかな。 P:植える苗の本数、苗の間隔、植えるスピードなど演示しながら、生徒に田植えのやり方を説明する。	・大きな声で質問できるように練習しておく。 ・質問の回答は全員で聞き取れることを確認しておく。
③田植え体験と田植え機による田植えを見学する(75分)	P:生徒に順番に田植えを体験させる。 T:様子を見て、田植えをする生徒を交代させる。 S:足がぬるぬるした泥に埋まっていく。すばらしい米作りには、土も関係あるのかな。 S:植える苗の本数と稲を植える間隔は、関係がありそうだな。 T:時間を見て機械植えの見学を稲作農家の方に促す。 P:田植え機で田植えを行う。 T:機械の苗をつかむ部分の動きを見て気づいたことを問う。 S:手で植えるような動きを再現している。すごく速い。 S:手と同じような動きだから機械でも品質が落ちないの。 P:田植え機は、手で植えるように苗を傷つけず品質を維持するように作られていること、スピードは格段に速くなっていることを説明する。	・田植えが終わった後に足を洗う場所を確保する。
④田植え体験をもとに新潟米の品質の良さについてまとめ、振り返りをする(10分)	T:苗作り、水管理、土作りなど様々な観点から、米の品質管理の工夫や新潟米の良さについてまとめのメモを書かせ、発表させた後、農家の方にお礼を述べる。	・体験後、生徒の考えをメモさせておくことが大切である。詳細な記述は、次時に行う。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
学習方法(収集・分析)	・新潟米の良さについてお互いの考えを出し合うことができる。	学習カード
自分自身(自己理解)	・新潟米やその加工品の良さを文章にまとめて書くことができる。 ・一等米と二等米の違いを、自分なりに予測することができる。	学習カード
他者や社会とのかわり(協同)	・米作りで体験したことやこれまでの生活経験をもとに、新潟の米作りについて、専門家の方に向けたメッセージを書くことができる。	行動観察 学習カード

< 2 > 稲刈り

4 本時のねらい

稲刈りの体験活動を通して、米の品質管理の工夫や新潟米の良さについて気付くことができる。

5 本時の展開例 (100分 = 2 時間)

学習活動	教師 (T)・専門家 (P)・子ども (S)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (5分)	T:本時の学習課題(「新潟米の良さは、どんな点にあるのだろうか」)を確認し、農協の方や農家の方を紹介する。	・学習の流れを示し、学習の見通しをもたせる。
②農家の方へのインタビュー、稲刈りの説明を聴く (10分)	T:稲刈りの前に、新潟米がなぜすばらしいのかなどについて、用意してある質問を専門家にしてみようと呼び掛ける。 S:品質を上げるため、稲刈りで気をつけていることは何ですか。 S:刈り取ってから、品質を維持するため、どのくらい乾燥するのですか。 P:鎌の使い方と稲の刈り方、稲の束ね方を確認する。	
③稲刈り体験とコンバインによる稲刈りを見学する (80分)	P:生徒に順番に稲刈りを体験させる。 T:様子を見て、稲刈りをする生徒を交代させる。 S:葉っぱだけだったのに、こんなに実がつまっているのか。 P:米粒が大きく、白い色で、ぴかぴかしているのがいい米です。粳にすきまなくつまっているのもいい米です。 T:時間を見て機械刈りの見学を稲作農家の方に促す。 P:コンバインで稲刈りを行う。 T:コンバインが刈り取る動きを見て気づいたことを問う。 S:人が鎌で刈るような動きを再現している。すごく速い。 S:手と同じような動きだから機械でも品質が落ちないのね。 P:稲刈り機は、手で刈るように稲を傷つけず品質を維持するように作られていること、スピードは格段に速くなっていることを説明する。	・一株の米粒の色や数をまわりの株と比較する。
④稲刈り体験をもとに新潟米の品質の良さについてまとめる (5分)	T:米粒の大きさ、色、つや、乾燥の仕方など様々な観点から、米の品質管理の工夫や新潟米の良さについて簡単にまとめるのメモを書かせ、農家の方にお礼を述べる。	・体験後、生徒の考えをメモさせておくことが大切である。詳細な記述は、次時に行う。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
学習方法 (収集・分析)	・稲刈りの体験をもとに、学習課題解決のための情報を収集する。 ・情報をもとに、新潟米の良さについてお互いの考えを出し合う。	行動観察 学習カード
自分自身 (自己理解)	・新潟米やその加工品の良さ、それを維持するための工夫などについて自分の考えを決め、それを文章にまとめて書くことができる。	学習カード
他者や社会とのかかわり (協同)	・海外の人たちに新潟米の良さ、新潟米の品質維持の苦労・苦勞を理解してもらうための問題点などについて考えることができる。	行動観察 学習カード

3 特別支援学校編 (1) アグリパーク

①あいにいこう!『HOTほっと』あにまるZOO!!
 <小学部全学年 生活> 346

②うれしいな!みんなと一緒に野菜作り!
 <中学部全学年 特別活動〔学校行事〕> 350

③アグリツアーを成功させよう!(日帰り編)
 <中学部全学年 特別活動〔学校行事〕> 356

④アグリツアーを成功させよう!(宿泊編)
 <中学部全学年 特別活動〔学校行事〕> 362

「アグリ・スタディ・プログラム」の特別支援学校編を作成するにあたっては、個に応じることを重要な視点とし、子どもの興味・関心、その他様々な実態に応じて活動を選択して活動に取り組めるように構成しました。

また、旅行・集団宿泊的行事に関するプログラムについては、1日の活動のなかで様々なねらいを達成させていくという考えから、1日を通した学習活動の展開例を示し、評価の場面を随所に位置付けるようにしました。

①あいにこう! 『HOTほっと』 あにまるZOO!!

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

・実施期間	通年
・1班最大人数	30人
・費用	160円/人

が魂

自分が育てる（見学調査する・世話する）

アグリパークには、どんな動物のお友達がいるか会いに行ってみよう。なかよくなるう。

①コースを選んだり組み合わせたりする活動

わくわくコース
(見る)



てくてくコース
(散歩する)



ドキドキコース
(触れる)



もぐもぐコース
(えさをやる)



ぬりぬりコース
(絵をかく)



体験活動

学習指導要領上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○特別支援学校小学部全学年：生活

・アグリパークにいるような大型畜産動物（牛・羊・山羊）との触れ合いは、今や家庭でも学校でも意図的に機会を設けない限り難しくなりました。本単元では、無理なくほのぼのとした触れ合いから、身近な自然や生き物に興味や関心をもったり恩恵にあずかっていると感じたりすることができます。

***生活 1段階（10）身近な自然の中で、教師と一緒に遊んだり、自然や生き物に興味や関心をもったりする。**

・各学校の指導形態に合わせて、「遊びの指導」「生活単元学習」や「特別活動」などで、内容を総合的に取り扱います。



自分が消費する（飲食する・作品にする）

②アイスクリームの試食・振り返り

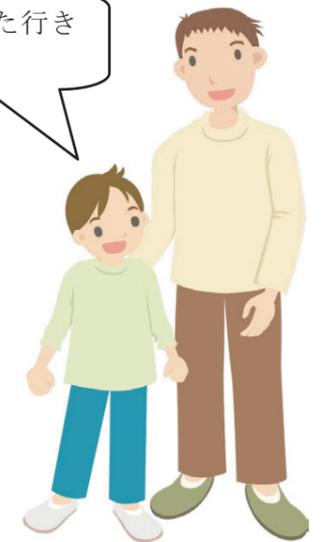


アイスだいすき！
牛のおかあさんあ
りがとう！！



みんなでアグリパークの人
たちにお礼状を書こう！

一緒に、また行き
たいな！



動物(牛・羊・山羊)とのふれあい体験の学びの可能性

○動物との触れ合いで感じた気持ちや思いを表現する活動を中心に学習活動を構成していくならば…

***小学部1～6年 図画工作 A表現(2)**

***中学部1～3年 美術 A表現(1)**

○また、牛乳をはじめアイスクリームやチーズ、バターなどを試食し、おいしさや楽しさを共有することで人間関係づくりやコミュニケーション力を育むことができるので、「自立活動」の時間として位置付けていくこともできます。

実践例 「あいにいこう！『HOTほっと』あにまるZOO！！」

1 関連する単元名 特別支援学校小学部全学年 生活
「あいにいこう！『HOTほっと』あにまるZOO！！」（3時間）

2 関連する単元の目標

- 1 段階の児童 身近な自然の中で教師と一緒に遊び、自然や生き物に興味や関心をもつことができるようにする。
 <職員と一緒に>職員と一緒に公園などで遊び、自然の事物や事象に触れ、生き物などに興味・関心をもつことができるようにする。
- 2 段階の児童 身近な自然の中で遊んだり、動植物を育てたりして自然や生き物への興味や関心を深めることができるようにする。
 <職員の支援を受けながら>木の実拾い、落ち葉拾いなどをしながら、自然の事物や事象に触れ、自然の移り変わりや動物の動きに興味をもつことができる。
- 3 段階の児童 身近な自然の事物・現象に興味や関心を深め、その特徴や変化の様子を知ることができるようにする。
 <できるだけ自分一人で>草木、木の実、落ち葉などを集めたり、形や色などの特徴をつかんだりしながら、自然を利用して遊んだり動物と触れ合ったりすることができる。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

○「あいにいこう！『HOTほっと』あにまるZOO！！」（3時間）

・「遊びの指導」「生活単元学習」の時間に発達段階に応じて、紙芝居や絵本の読み聞かせ、劇遊び、動物鳴き声クイズなど、アグリパークにいる動物に興味関心をもつことができる学習を行う。
 ※「遠足」「校外学習」「親子体験学習」など特別活動として行う場合には事前学習を行い、施設の様子、体験学習の内容、動物の写真などを工夫して提示する。

↓

学習のめあて例

アグリパークには、どんな動物のお友達がいるか会いに行ってみよう。なかよくなろう。

アグリパークでの体験学習 <1時間>

児童の実態に応じて、事前に体験学習コースを選んだり、組み合わせたりして活動する。

わくわくコース（見る）

どきどきコース（触れる）

てくてくコース（散歩する）

ぬりぬりコース（絵をかく）

もぐもぐコース（えさをやる）

感想の例

「牛さんはおおしくてこわいけど、さわってみるとあったかい。」
 「ひつじさんはふわふわしているなあ。」
 「やぎさんは、力があるよ。」

↓

・体験したことを写真や掲示物にして振り返り、アグリパークへお礼状などを作成する。

4 本時のねらい

アグリパークにいる動物に興味・関心を持ち、自分なりの方法で動物と触れ合うことができる。

5 本時の展開例（45分=1時間） ※「てくてくコース」「どきどきコース」の2コースを選択した場合

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (5分) (学習室)	T:学習のめあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって、安心、安全に活動に臨めるようにする。	・畜舎脇の学習室に荷物を置き、トイレを済ますなど支度を行う。 ・学校で事前学習した教材(アグリパークより資料提供)で、視覚・聴覚的支援を行い、どの子どもにも理解できるようにする。
②てくてくコース (散歩する)を体験する (10分) (牧場～畜舎)	I:牛や羊、山羊さんを見に行くことを告げ、見学の注意を与える。 C:放牧されている動物を見ている。 C:鳴き声や大きさに驚く。 C:職員と一緒に、牧場にいる動物もしくは畜舎に戻る動物と歩く。	⑩安全に活動に臨めるように、無理に動物に近づけることはしないで柵を隔てて一緒に歩くようにする。 ・畜舎内では、大きな声を出したり騒いだりしない。
③どきどきコース (触れる)を体験する (10分) (牧場、畜舎)	I:牛に触ることやブラッシングをすることを呼びかけ、順番に体験させる。 C:はい！いっしょにやってみよう！ I:子どもの脇について補助する。 C:おおきくてこわいけど、さわってみるとあったかい！ブラッシングで気持ちよくなってね！ C:羊さんはフワフワしているなあ。	・友達の様子を見たり自分の順番を待つよう言葉掛け等で支援する。 ・さわるのが難しい児童は、動物のぬいぐるみを準備しておく。 ・希望児童が体験できるようにし、必ずその児童の脇に付き添う。 ・さわったりブラッシングなどお世話をしたりできるように準備しておく。
④手洗いをして、アイスクリームを試食する (20分) (学習室)	T:アイスクリームを食べることを知らせ、アイスクリームが何からできているのかを問う。 I:アイスクリームが牛のおかあさんからもらった牛乳でできていることを知らせ、アイスクリームを食べさせる。 C:わーい！おいしい！！ T:今日やったことや感想を発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。	・試食前の手洗いを徹底する。 ・アイスクリームが牛乳からできていることが分かるように、搾乳の様子などをVTRで見せる。 ・時間をみて感想を発表してもらう。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
生活への関心・意欲・態度	・アグリパークにいる動物に興味・関心をもつことができる。	行動観察
活動や体験についての思考・判断・表現	・アグリパークの体験学習でがんばったことや楽しかったことなどを発表する。	行動観察
技能・知能・理解	・友達の様子を見たり自分の順番を待ったりして、体験学習を行うことができる。	行動観察

体験学習 特別支援学校中学部全学年 特別活動

②うれしいな！みんなと一緒に野菜作り

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

<アグリパーク>

!

- ・実施期間 「苗植え・水やり編」 4月下旬～10月上旬
「収穫・調理・販売編」 7月上旬～12月下旬
- ・1班最大人数 60人
- ・費用 80円/人

が
魂

自分が育てる（植える・世話する・収穫する・見学調査する）



自分が消費する（調理する・飲食する・作品にする）

大きなサツマイモができるように、みんなで協力して苗植えや水やりをしよう。

協力して、大きなさつまいもを掘ろう

協力して、おいしいさつまいもを食べよう

(1) 春・夏の活動

(2) 夏・秋の活動

① 苗植え

② 水やり

大きなサツマイモをつくらう！友達や先生と一緒に苗植え、楽しいね。

サツマイモ大きくなってるかな？

苗植えが終わったら水をあげるよ！はやく大きくなあれ！

②のA 調理コース

簡単な調理体験

① 収穫

②のB 販売コース

協力して、さつまいもをたくさん売ろう

パーク内で販売体験

地域の人に喜んでもらってうれしいな！

私たちの作ったサツマイモ、おいしいなあ！うれしいな！

体
験
活
動

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○ 特別支援学校中学部全学年 特別活動〔学校行事〕

- ・農業体験を通して、人間関係などの集団のあり方について学び、互いに協力して思いやる態度を育てることができます。
- ・農業体験を行い、収穫して食べたり、販売してお客さんに喜んでもらったりすることによって、勤労の喜びを体得させることができます。

* 特別活動〔学校行事〕の内容 (4) 旅行・集団宿泊的行事

* 特別活動〔学校行事〕の内容 (5) 勤労生産・奉仕的行事

畑での種まき体験、水やり体験、収穫体験、調理体験の学びの可能性

○農業体験を通して、働くための基礎的な技能や知識を身に付けることや収穫した野菜を調理し、家庭生活に必要な基礎的な知識と技能を身に付けることを中心に学習活動を構成していくならば…

* 中学部 「職業・家庭」の内容

「職業に関する基礎的な知識」「道具・機械等の取扱いや安全・衛生」「産業現場等における実習」「家庭に関する基礎的な事項」

○そのほか総合的な学習の時間に、キャリア教育の機会としてアグリパークの職員と一緒にいる農作業や、販売活動などの体験を位置付けたりすることができます。

また、土や植物に触れることで、気持ちの安定を図ることができるので、「自立活動」の時間として位置付けていくこともできます。

学
習
指
導
要
領
上
の
位
置
付
け

実践例 「うれしいな！みんなと一緒に野菜作り！」

1 関連する単元名 特別支援学校 中学部全学年 特別活動〔学校行事〕（7時間）

2 関連する単元の目標

- ・アグリパークで教師やアグリパークの職員、友達と一緒に農作業をすることで、人間関係などの集団の在り方について学び、互いに協力して思いやる態度を育てるとともに、収穫して食べたり、販売して売れたりすることによって、勤労の喜びを体得することができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

（1）春・夏の活動（3時間）

体験の前に

- ・サツマイモができるまでの様子を知る。・行き先やアグリパークの施設を知る。
- ・集団旅行行事のめあてを確認する。・当日の予定を知る。当日の役割を確認する。

学習のめあて例

大きなサツマイモができるように、みんなで協力して苗植えや水やりをしよう。

アグリパークでの体験学習 <1時間>

①苗植え体験 → ②水やり体験 → ③お礼の言葉

感想の例

「自分の仕事（穴あけ、苗を差す、土をかける）をしっかりとやったよ」
「友だちと声をかけあって、苗の根もとに水をあげたよ」

体験の後に

- ・体験したことを写真や掲示板にして振り返る。・楽しかった活動やがんばった活動を発表する。
- ・アグリパークへのお礼状を作成する。

- (1)と(2)の間
- ・月に1回インターネットやメール等を使って生育状況を知る。
 - ・直接アグリパークに行き生育状況を見たり、草取りをしたりする活動を入れてもよい。

（2）夏・秋の活動（4時間）<収穫調理コース・販売コース>（選択）

体験の前に

- ・サツマイモができるまでの様子を再確認する。・サツマイモの生育状況を知る。
- ・生活単元学習で、調理器具を使った調理の仕方を学習する。（調理体験学習の場合）
- ・生活単元学習や作業学習で、お金の扱い方や販売のやり方を学習する。（販売体験学習の場合）
- ・集団旅行行事のめあてを確認する。・当日の予定を知る。・当日の役割を確認する。

学習のめあて例

協力して、大きなさつまいもを掘ろう（収穫時）
協力して、おいしいさつまいもを食べよう（調理時）

アグリパークでの体験学習 <2時間> <収穫・調理>

①収穫体験 → ②のA 調理体験
※調理は、茹でたり焼いたりする簡単なもので、可能な限り野菜のそのままの姿を見られるもの。

感想の例

「ていねいに土の中をさがしたら大きなさつまいもがいっぱいとれたよ」（収穫時）
「イモを洗う仕事をがんばって、おいしいさつまいもを食べることができたよ」（調理時）

体験の後に

- ・体験したことを写真や掲示板にして振り返る。・楽しかった活動やがんばった活動を発表する。
- ・アグリパークへのお礼状を作成する。

学習のめあて例

協力して、大きなさつまいもを掘ろう（収穫時）
協力して、さつまいもをたくさん売ろう（販売時）

アグリパークでの体験学習 <2時間> <収穫・販売>

①収穫体験 → ②のB 販売体験
（※呼び込み、商品やお金の受け渡し）

感想の例

「みんなでいっしょにツルをひっぱって大きなさつまいもをいっぱいとれたよ」（収穫時）
「呼び込みの仕事をがんばって、たくさんサツマイモを売ることができたよ」（販売時）

<1>春・夏の活動<苗植え・水やり編>

4 本時のねらい

自分の役割を知り、職員や友達と一緒に協力して苗植えや水やりをすることができる。

5 本時の展開例（50分＝1時間）

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (S)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (15分) (学習室)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって、安心、安全に活動に臨めるようにする。	・学習室に荷物を置き、トイレをすますなど、支度を行う。 ・学校で事前学習した教材で視覚的支援を行い、どの子どもでも理解できるようにする。 ④初めての活動場所であるアグリパークの施設について丁寧に紹介する。
②苗植え体験・水やり体験をする (30分)	・畑へ移動する。(5分) I:苗の植え方や水のやり方、注意事項を説明する。 S:サツマイモは斜めに植えるんだね。 S:苗と苗の間隔は60cmもあけるのか。 S:水は根もとに掛けるんだね。 T:役割分担は〇〇です。みんなで協力してサツマイモの苗を植えたり水をやったりするよう指示する。 S:〇〇さん、一緒にやろう。 S:〇〇さん、ここに苗をさしてね。 S:〇〇さん、土を掛けてくれてありがとう。 T:みんなで協力してサツマイモを植えることができたことを賞讃する。	・生徒が活動に参加できるよう、支援具を工夫する。 ・体験をする前に役割分担を発表し、協力して活動をしていることを意識付ける。 ・苗植えでは、「畝に穴をあける」・「苗を差す」・「土をかける」などの活動を分担したり、教師を介したりして、可能な範囲で協力して活動を行う場面を設定する。 ・協力してできたときは賞賛をする。 ・「畝の間を広くする」・「地盤を整備する」など、車いすでも活動できるように配慮する。 ④生徒に実態に合わせて、苗植えや水やりなどの活動を組み合わせたり、適宜休憩を取る。
③まとめと振り返りをする (5分)	T:今日やったことや感想を発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。	・体験終了後、トイレ・休憩・水分補給をする。その後、アグリパークで昼食をとったり、パーク内を散策したりするのよい。 ・必要に応じて着替えを行う。

6 体験学習の評価例

観点	評価基準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・友達、職員と一緒に楽しく苗植えや水やりをしようとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断	・苗植えの方法や水やりの方法が分かり行動している。	行動観察
集団活動や生活についての技能・知識・理解	・自分なりのやり方で協力して苗植えや水やりをしている。	行動観察

<2>夏・秋の活動<収穫・調理編>（選択1）

4 本時のねらい

自分の役割を知り、職員や友達と一緒に協力して収穫したり、調理したりすることができる。

5 本時の展開例（100分＝2時間）

学習活動	教師（T）・指導員（I）・子ども（S）	指導上の留意点
①めあてをつかむ （10分） （学習室）	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって、安心、安全に活動に臨めるようにする。	・学習室に荷物を置き、トイレを済ますなど、支度を行う。 ・学校で事前学習した教材で視覚的支援を行い、どの子どもでも理解できるようにする。
②協力して収穫体験をする （50分）	・畑へ移動する。（5分） I:収穫のやり方や注意事項を説明する。 S:サツマイモはこうやって収穫するのか。 S:みんなで一緒に引っ張ろう。 S:よいしょ！よいしょ！よいしょ！ S:わー。たくさんとれた。 S:こんな大きいサツマイモがとれたよ。 S:とったサツマイモはここに置いてね。 S:籠にサツマイモをいれよう。 S:先生やインストラクターの人、友達と一緒にできて楽しかった。 T:みんなで協力してたくさんサツマイモを収穫することができました。ご苦労様でした。	・生徒が活動に参加できるよう、支援具を工夫する。 ・体験前に役割分担を発表し、協力して活動することを意識付ける。収穫では、ツルを協力して引っ張らせたり、「サツマイモをとる」・「籠に入れる」等の分担する活動や、協力する活動の場面を設定したりする。 ・協力してできたときは賞賛する。 ・「畝の間を広くする。」・「地盤を整備する。」など、車いすでも活動できるように配慮する。 ㊦生徒に実態に合わせて、適宜休憩を取らせたりする。
③協力して調理体験をする （30分）	・調理室へ移動（5分） T:取ったサツマイモを調理することを話し、めあてや役割を確認する。 I:サツマイモの調理の仕方や注意事項を説明する。 S:ぼくはお芋を洗うよ。 S:ぼくは電子レンジでチンをするよ。 S:うれしいな。おいしそうなサツマイモができた。 S:ぼくが育てたサツマイモおいしかった。 T:「みんなで協力してとったサツマイモはおいしいですね。」と呼びかけ、協力したことへの自覚を強めさせる。	㊦調理前に丁寧な手洗いをする。 ・準備や後片づけの役割分担を発表し、協力して活動していることを意識づける。 ・生徒の実態にあった方法で調理する。 ・協力してできたときは賞賛する。 ・生徒の実態により、適宜休憩を取る。 ㊦火傷など、安全に配慮する。
④お礼の言葉を述べる （10分）	T:今日やったことや感想を発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。	・体験終了後、トイレ・休憩・水分補給をする。その後、アグリパークで昼食をとってもよい。 ・必要に応じて着替えを行う。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・友達、職員と一緒に楽しく収穫や調理をしようとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断	・収穫の方法や調理のやり方が分かり行動している。	行動観察
集団活動や生活についての技能・知識・理解	・自分なりのやり方で協力して収穫や調理活動をしている。	行動観察

<3>夏・秋の活動<収穫・販売編>（選択2）

4 本時のねらい

自分の役割を知り、職員や友達と一緒に協力して、収穫したり、販売したりすることができる。

5 本時の展開例（100分＝2時間）

学習活動	教師（T）・指導員（I）・子ども（S）	指導上の留意点
①めあてをつかむ （10分） （学習室）	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって、安心、安全に活動に臨めるようにする。	・学習室に荷物を置き、トイレを済ますなど、支度を行う。 ・学校で事前学習した教材で視覚的支援を行い、どの子どもでも理解できるようにする。
②協力して収穫体験をする （35分）	・畑へ移動する。（5分） I:収穫のやり方や注意事項を説明する。 S:サツマイモはこうやって収穫するのか。 S:みんなで一緒に引っ張ろう。 S:よいしょ！よいしょ！よいしょ！ S:わー。たくさんとれた。 S:とったサツマイモはここに置いてね。 S:先生やインストラクターの人、友達と一緒にできて楽しかった。 T:みんなで協力してたくさんサツマイモを収穫することができたことを賞賛する。	・体験前に役割分担を発表し、協力して活動していることを意識付ける。収穫では、ツルを協力して引っ張ったり、「サツマイモをとる」・「籠に入れる」等の分担で活動したりして、協力して活動をする場面を設定する。 ・協力の行為を賞賛する。 ・「畝の間を広くする。」・「地盤を整備する。」など、車いすでも活動できるように配慮する。 ㊦生徒に実態に合わせて、活動を組み合わせたり、適宜休憩を取らせたりする
③協力して販売準備・体験する （50分）	・直売所へ移動する。（5分） T:取ったサツマイモを販売することを話し、めあてや役割を確認する。 I:販売の方法や注意事項を説明する。 S:みんなで協力して準備しよう。 S:ぼくが商品を渡すよ。 S:私がお金をもらおうよ。 S:役割を交代しよう。 S:みんなで協力してこんなに売れた。うれしいな。 S:お客さんが喜んでくれた。うれしいな。	・準備・後片づけ、販売での役割分担を発表し、協力して活動していることを意識付ける。 ・可能な範囲で役割分担を交代したり、声を掛け合う場面を設定したりする。 ・協力の行為を賞賛する。 ・実態に合わせて、活動を組み合わせたり、適宜休憩を取ったりする。 ㊦教員がお金を確認する。
④お礼の言葉を述べる （5分）	T:自分のやったことや感想を発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。	・体験終了後、トイレ・休憩・水分補給をする。 ・必要に応じて着替えを行う。

6 体験学習の評価例

観点	評価の規準	観点
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・友達、職員と一緒に楽しく収穫や準備、販売活動をしようとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断	・収穫のやり方や販売のやり方が分かり行動している。	行動観察
集団活動や生活についての技能・知識・理解	・自分なりのやり方で協力して収穫や販売活動をしている。	行動観察

③アグリツアーを成功させよう！（日帰り編）

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

・実施期間	通年
・1班最大人数	30人
・費用	10～210円/人

が魂 自分が育てる（植える・世話する・採取する・収穫する・見学調査する・発表する）

➡ 自分が消費する（加工する・調理する・飲食する・作品にする・見学調査する・発表する）

みんなで仲よく農業体験学習をしよう。

①アグリ探検

アグリパーク内はどんなふうになっているのかな？



②体験学習

生徒の実態に合わせて体験活動を1つ選択する

- ・搾乳→エサやり→畜舎清掃→試飲
- ・搾乳→試飲→アイスクリーム作り
- ・バター加工体験 ・野菜収穫→食味
- ・野菜収穫→フレッシュジュース作り

牛って大きいね。牛のお乳からバターが作れるんだって！いろいろな物を自分で作るって楽しいね～！



③昼食



アグリパークでとれた食材を使ったメニューだよ。残さず食べようね。

④買い物

直売所や売店などでお土産やアイスなどを買えるんだよ！



また一緒に来ようね！

学習指導要領上の位置付け

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○特別支援学校中学部全学年 特別活動

- ・アグリパークでは、みんなと協力し合って活動に取り組むことを通して、様々な人たちと交流したり、進んで他者とかかわろうとしたり、自分の気持ちを伝えようとする力を身に付けることができます。

***特別活動 【学校行事】（4）旅行・集団宿泊的行事**

様々な体験学習の学びの可能性

- 様々な体験のなかでアグリパークの職員等に疑問点を質問したり、難しい場面をお願いしたりする活動に重点をおくならば、「**自立活動**」の時間として位置付けていくことができます。また、食材や動物に直接接触れることにより、情緒の安定を図ったり、様々な感覚へ働き掛けたりすることができる点からも、「**自立活動**」の時間として位置付けていくことができます。
- 親子体験学習として取り組む場合は、保護者はアグリ探検でのクイズを考えたり、笹団子等の加工体験でインストラクター役を担ったりして生徒とかかわることで、充実した学習活動を行うことができます。

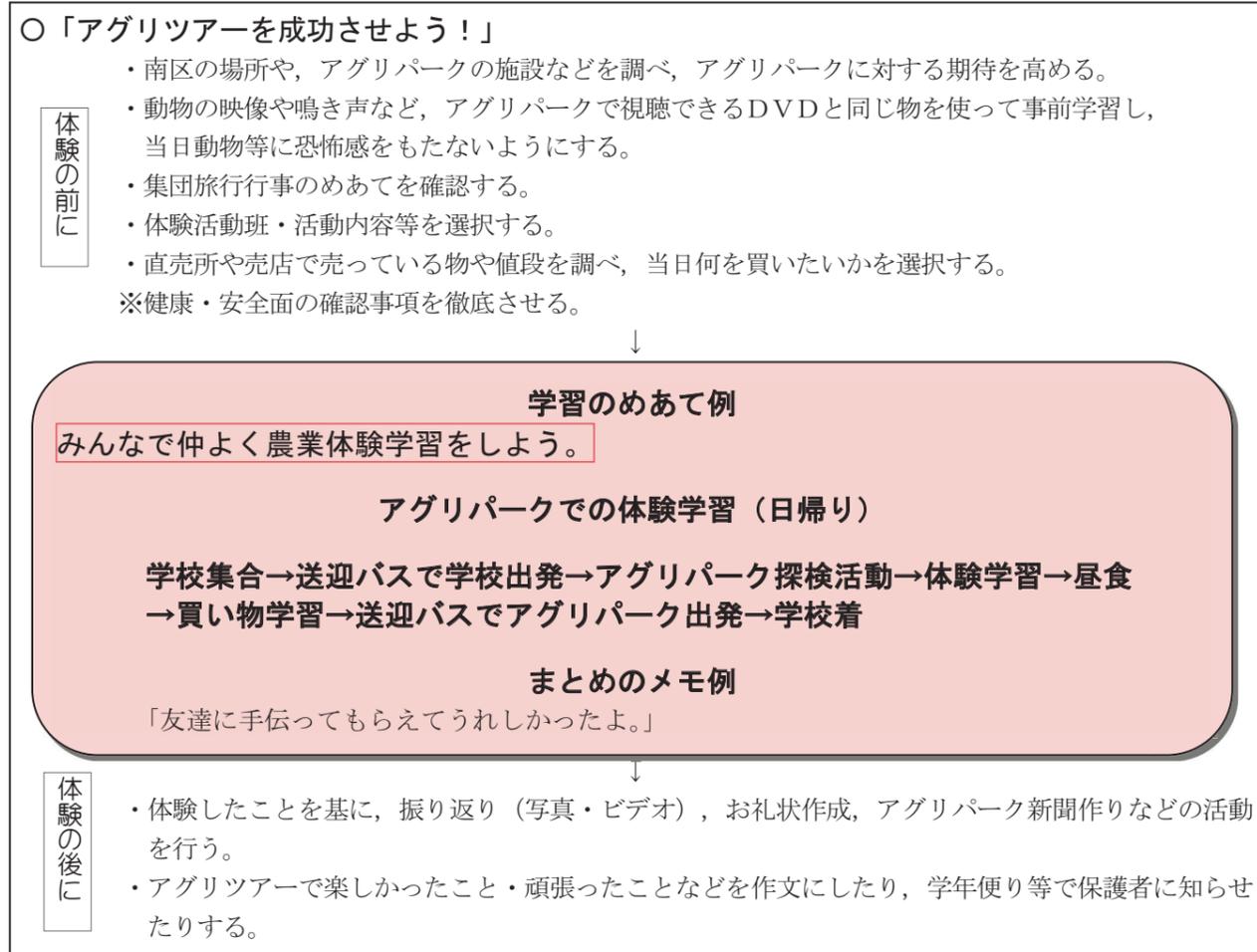
実践例 「アグリツアーを成功させよう！（日帰り編）」

1 関連する単元名 特別支援学校中学部全学年 特別活動〔学校行事〕
「アグリツアーを成功させよう！」（日帰り編）（6時間）

2 関連する単元の目標

- ・アグリパークで新潟の農業、農産物加工、食に触れる体験を通して、学校における学習活動を充実させたり、集団活動を通して、教師と生徒、生徒相互の人間的な触れ合いを求めて楽しい思い出をつくったりするとともに、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いに思いやり、共に協力しあったりするなどの人間関係を築く態度を育てる。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け



4 本時のねらい

友達や職員（親子体験行事の場合は保護者も）と様々な体験活動を行うことを通して、基本的な生活習慣や集団生活における自分の役割を確認することができる。

施設の利用や、集団生活におけるマナーやルールを身に付けるとともに、活動場面で、互いに協力し合うことができる。

農作物や動物等に興味をもち、体験活動に取り組むことができる。

※特別支援学校においては、短いスパンで評価するより長いスパンで評価する方が児童・生徒の実態に適していると考えられるため、小学校や中学校の体験学習とは異なり、1日単位で評価するような学習を構成してあります。

5 本時の展開例（300分＝6時間）

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (S)	指導上の留意点
①今日のめあてを確認する (10分)	T: 今日のめあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I: 活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって、安心、安全に活動に臨めるようにする。	・登校時に、健康観察を行う。 ・視覚情報を用いて説明し、どの子どもにも理解できるようにする。
②オリエンテーションでアグリパークでのルールや活動の仕方等を知る (15分)	I: 「はじめの言葉」 ・所長が生徒たちに期待することなどを述べる。 S: 今日はいろいろな体験を通して、農作物や動物について知りたいと思います。特に搾乳体験が楽しみです。よろしくお願いします。 S: よろしくお願いします。 I: 「終わりの言葉」 I: オリエンテーションで、ルール等を知らせる。 ・アグリパークで大切にしていること ・危険箇所 ・禁止事項 ・奨励事項 ・緊急時の対応の仕方 ・パーク内でのあいさつ など T: 日程やグループを確認する。 S: 今日は探検活動や体験活動をするんだね。 S: 私は〇〇さんと一緒のグループだよ。	・めあてや頑張りたいことを言葉やカード等で表すようにする。 ・内容をできるだけ簡単な絵や図などの視覚的ツールを用いて伝える。 ・日程等を示した掲示物やしおりを使って確認する。
③「アグリ探検」活動を体験する (50分)	T: アグリパークの方に教えてもらいながら活動に取り組む事を伝える。 I: これからパーク内を探検し、いろいろな場所に行くこと、後でクイズを出すのでしっかり見学することを伝える。 S: パーク内にはどんな施設があるのかな？ S: どんな物を栽培しているのかな？ S: 動物もいるんだね。触ってみたいな～。	・事前学習時にアグリパーク内の地図などを配付する。質問したいこと等もあらかじめまとめておく。
④選択した体験活動をする ・搾乳→エサやり→畜舎清掃→試飲 ・搾乳→試飲→バター加工 ・野菜収穫→食味 ・野菜収穫→フレッシュジュース作り ・搾乳→試飲→アイスクリーム作り など (70分)	T: アグリパークの方に教えてもらいながら活動に取り組むことを伝える。 I: 体験活動について説明をする。 S: 初めて牛に触るよ～。怖くないかな。 S: 牛乳からどうやってバターを作るのかな？ S: 難しいところは教えてもらおう。 S: 今度はお母さんと来たいな！ T: 学習をまとめ、インストラクターにお礼を述べる。	・事前に体験したい活動を選択しておく。 ・食品については、持ち帰り可能かどうかを確認しておく。 ・必要に応じて、手順写真カードなどのツールを用意する。 ・それぞれグループごとに学習の内容や感想を生徒に聞く。

<p>⑤昼食場所に集合し、昼食を食べる (60分)</p>	<p>I:今日のメニューには、アグリパークで収穫した材料も使われていることを説明する。 T:生徒ができるだけいろいろな物を食べられるように、言葉掛けなどの働き掛けをする。 S: さっき畑で見た野菜が入ってるね。〇〇は苦手だけど、頑張って食べよう！ S: みんなで食べるとおいしいね。 S: この野菜はとっても甘いね。 S: 残さず食べたよ！</p>	<p>㊦アレルギーの有無を前日までに確認し、当日も再確認する。アレルギー対応が必要な生徒がいる場合はチェックカードを用いて十分確認する。 ・服薬の有無をチェックカードで確認する。服薬が必要な生徒がいる場合は、忘れずに確認する。</p>
<p>⑥買い物学習をする (35分)</p>	<p>T:これから直売所(売店)で買い物をすることを伝える。購入する物を写真カード等で再確認させる。 S: 牛乳を使ったジェラートが楽しみだな。 S: お母さんへのお土産にしよう！ S: 練習したようにちゃんとレジでお金が払えるかな？ (持ち帰り可能な物は持ち帰りとする)</p>	<p>・必要に応じて、購入する物の写真カードなどツールを用意する。 ・「これください」「ありがとうございます」など、店員さんとかかわれるように声掛けやカードを提示する。</p>
<p>⑦アグリパークでの感想を発表する (25分)</p>	<p>I:「はじめの言葉」 ・所長が生徒たちに体験終了について述べる。 S: 今日はいろいろな体験ができてよかったです。牛は思ったよりも大きかったです。 S: 今日苦手な〇〇を少しだけ食べることができました！ S: 今日は1日ありがとうございました。 I:「終わりの言葉」 T:学習をまとめ、インストラクターや職員にお礼を述べる。</p>	<p>・頑張ったことや楽しかったことを言葉やカード等で表す。</p>
<p>⑧送迎バスでアグリパークを出発する (35分)</p>	<p>T:今日の活動について簡単に感想を聞く。 後日、アグリパークでの思い出をまとめたり、お礼状を作成したりすることを伝える。 S: 今日は楽しかったね！ S: 牛に触れたよ！ S: アグリパークにまた来たいね！</p>	<p>・学校到着後または後日に、感想等をしおりに記入する。</p>

価値を共有する教育ファーム

アグリ・スタディ・プログラムが改訂されたことをとても喜ばしく思います。

私は、以前から保育園、小学校などで農業体験の指導を行ってきました。それは、農業をより楽しく、より身近に感じてもらうことで、農業を理解してもらい、安全で美味しい農作物を食べて欲しいからです。

今の世の中は、お金を出せば何でも買えます。インターネットで調べれば様々な情報が溢れ、欲しいものがすぐに手に入ります。しかし、値段や産地だけの情報で物の価値を判断してよいのでしょうか。

私は、農業体験のほか、新潟でいち早く直売所を立ち上げ、自宅を開放して自分が育てた農作物を使った農家レストランを運営してきました。私が大切にしていることは、生産者と消費者が交流を通じて互いを理解し合い、価値を共有することです。

有機栽培という概念がまだほとんど浸透していなかった頃から土づくりに力を入れ、できるだけ有機質の肥料を用いることで、農薬の使用を抑えてきました。しかし、その取組は、できた農作物からだけではわかりません。消費者との交流を通じ、なぜ有機栽培なのか、有機栽培の良さは何なのかを伝えることで、初めてその価値を理解してもらうことができます。

教育ファームはまさに価値の共有です。新潟市が本格的に教育ファームに取り組むことになり、是非お手伝いしたいと思いました。「新潟市教育ファーム市民交流会議」は、農業者、農業に関連する企業・団体、ボランティア団体などが集まり、新潟市の取組を応援していくために設立したものです。

その教育ファームの中で、農業体験と学校の授業を結びつけた「アグリ・スタディ・プログラム」は、農業“を”教えるだけでなく、農業“で”教えることもできる画期的な取組です。

また、子どもの頃から農業の価値を学ぶということは、新潟市の基幹産業である農業を支えるためにとても大切なことであり、食育の面でも有効な手段です。

新潟市の教育ファームが永年にわたり続いていけるように、当会議が中心となって応援していきたいと考えています。

新潟市教育ファーム市民交流会議 会長 諸橋 弥須衛
(教育ファーム応援市民団体)



6 体験学習の評価例

観 点	評価規準	評価方法
<p>集団活動や生活への関心・意欲・態度</p>	<p>・アグリパークや施設利用に、興味をもったり期待感をもったりしている。 ・協力し合いながら、体験活動を行おうとしている。</p>	<p>行動観察</p>
<p>集団の一員としての思考・判断・実践</p>	<p>・自分の役割を理解し、みんなのために役割を果たそうとしている。</p>	<p>行動観察</p>
<p>集団活動や生活についての知識・理解</p>	<p>・めあてを意識したり、ルール・マナーを守りながら活動することの大切さを意識したりしようとしている。 ・教師や友達に、がんばったことや楽しかったことを伝えようとしている。</p>	<p>行動観察 しおり記入</p>

④アグリツアーを成功させよう！1日目（宿泊編）

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

- ・実施期間 通年
- ・1班最大人数 25人
- ・費用 1メニュー 無料～440円/人

自分が育てる（植える・世話する・採取する・収穫する・見学調査する・発表する）

自分が消費する（加工する・調理する・飲食する・作品にする・見学調査する・発表する）

ルールを守り、みんなで仲よくアグリツアーをやりとげよう。

①入村式・オリエンテーション



アグリパークでの決まりや日程を確認するよ。

②体験学習

荷物は学習室に置いておこう！3時にチェックインだよ。

<収穫体験>
畑から材料を収穫しよう。
<買い物学習>
直売所で材料を購入しよう。






昼食は農家レストランで食べよう。

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○特別支援学校中学部全学年 特別活動

・アグリパークでは、みんなと協力し合って活動に取り組むことを通して、様々な人たちと交流したり、進んで他者とかかわろうとしたり、自分の気持ちを伝えようとする力を身に付けることができます。また、学校や自宅以外の場所で宿泊する活動を通して、集団生活のルールやマナーを学ぶことができます。

***特別活動【学校行事】の内容（4）旅行・集団宿泊的行事**

③調理活動・食事・片付け



みんなで協力し合って、おいしい夕食を作ろうね！

④入浴



マナーを守って入浴しよう。

⑤レクリエーション



星空観察って楽しそうだね。カラオケもいいね。肝だめしもいいかな～。

⑥就寝



明日も楽しみ・・・おやすみなさい！

畑作物の収穫体験・調理体験・宿泊体験等の学びの可能性

○総合的な学習の時間に、自分たちで食べ物を作る一連の学習として、事前にアグリパークの職員と一緒に畑の種まき体験や世話体験を位置付けることで、目標や期待感をもたせながら、収穫体験、調理体験を行っていくこともできます。

また、土や動物に直接触れることにより、情緒の安定を図ったり、様々な感覚への働きかけをしたりすることができるので、「自立活動」の時間として位置付けていくことができます。

さらに、宿泊施設を利用しながら、生活リズムや日常生活に必要な基本動作を身に付けることができるので、この点からも「自立活動」の時間として位置付けていくことができます。

アグリツアーを成功させよう！2日目（宿泊編）

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

- ・実施期間 通年
- ・1班最大人数 25人
- ・費用 1メニュー 無料～440円/人

ガリ魂 自分が育てる（植える・世話する・採取する・収穫する） ➡

ルールを守り、みんなで仲よくアグリツアーをやりとげよう。

①起床・身支度・朝食前の活動

おはようございます。今日もいろいろ体験しよう！



*生徒の実態に応じて、適宜休憩時間を設けながら次の活動に移る。



朝食の前にひと仕事！「牛のお世話」だよ。

②朝食・コテージ片付け



農家レストランで朝食を食べたら、コテージを掃除しよう！

体験活動

自分が消費する（加工する・調理する・飲食する・作品にする）

④調理活動・食事

みんなで協力し合って、石窯アグリピザを作ろうね。



⑤午後の活動



みんなで後片付けをしよう。忘れ物もないように確認しようね！

⑥退村式

楽しかったね。また来たいね！牛に触ったよ。カレーも上手にできたよ。



学習指導要領上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○特別支援学校中学部全学年 特別活動

・アグリパークでは、みんなと協力し合って活動に取り組むことを通して、様々な人たちと交流したり、進んで他者とかかわろうとしたり、自分の気持ちを伝えようとしたりする力を身に付けることができます。また、学校や自宅以外の場所で宿泊することを通して、集団生活のルールやマナーを学ぶことができます。

* 特別活動 【学校行事】の内容（4）旅行・集団宿泊的行事

調理体験・宿泊体験等の学びの可能性

○総合的な学習の時間に、自分たちで食べ物を生産、加工・調理するという一連の学習として、本学習の前にアグリパークの職員と一緒に畑の種まき体験や世話体験を位置付けることで、目標や期待感をもたせながら、収穫体験、調理体験を行っていくこともできます。

また、土や動物に直接触れることにより、情緒の安定を図ったり、様々な感覚への働きかけをしたりすることができるので、「自立活動」の時間として位置付けていくことができます。

さらに、宿泊施設を利用しながら、生活リズムや日常生活に必要な基本動作を身に付けることができる点からも「自立活動」の時間として位置付けていくことができます。

実践例 「アグリツアーを成功させよう！（宿泊編）

1 関連する単元名 特別支援学校中学部全学年 特別活動〔学校行事〕
「アグリツアーを成功させよう！」（宿泊編）＜1泊2日＞

2 関連する単元の目標

- ・アグリパークで新潟の農業、農産物加工、食に触れる体験を通して、学校における学習活動を充実させたり、集団活動を通して、教師と生徒、生徒相互の人間的な触れ合いを求めて楽しい思い出をつくり出すとともに、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、互いに思いやり、共に協力しあったりするなどの人間関係を築く態度を育てる。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

○「アグリツアー」を成功させよう！

- ・南区の場所や、アグリパークの施設などを調べ、アグリパークに対する期待を高める。
 - ・動物の映像や鳴き声など、アグリパークで視聴できるDVDと同じ物を使って事前学習し、当日動物等に恐怖感をもたないようにする。
 - ・集団宿泊行事のめあてを確認する。
 - ・宿泊班・体験活動班・活動内容等を選択し、役割を分担する。
 - ・調理実習に必要な材料や作り方を調べ、事前に調理実習する。（必要に応じて買い物学習も事前に行う）
- ※健康・安全面の確認事項を徹底させる。

体験の前に

学習のめあて例

ルールを守り、みんなで仲よくアグリツアーをやりとげよう。

アグリパークでの体験学習（1泊2日）

<第1日>

午前：学校集合→送迎バスで学校出発→入村式・オリエンテーション→昼食
午後：午後の活動（体験活動）→調理活動→夕食・片付け→入浴→夜の活動→就寝

<第2日>

午前：起床→身支度→朝食前の活動→朝食→部屋の片付け→調理活動・昼食
午後：午後の活動→退村式→送迎バスでアグリパーク出発→学校着

まとめのメモ例

「みんなで協力して作ったカレーは、とてもおいしかったよ。」

体験の後に

- ・体験したことを基に、振り返り（写真・ビデオ）、お礼状作成、アグリパーク新聞作りなどの活動を行う。
- ・アグリツアーで楽しかったこと・頑張ったことなどを作文にする。

※体験活動の選択に当っては、生徒の実態に応じてインストラクターとていねいに打ち合わせを行う中で、「育てる」⇔「消費する」という観点で適切に選んで組み合わせる。

4 本時のねらい

友達や職員と宿泊することを通して、基本的な生活習慣や集団生活における自分の役割を確認できる。施設の利用や、集団生活におけるマナーやルールを身に付けるとともに、調理活動や清掃活動の場面で、互いに協力し合うことができる。農作物や動物等に興味をもち、体験活動に取り組むことができる。

※特別支援学校においては、短いスパンで評価するより長いスパンで評価する方が児童・生徒の実態に適切だと考えられるため、小学校や中学校の体験学習とは異なり、1日単位で評価するような学習を構成してあります。

<1>1日目

5 展開例

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (S)	指導上の留意点
① 2日間のめあてを確認する (10分)	T: 2日間のめあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I: 活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって、安心、安全に活動に臨めるようにする。	・登校時に、健康観察を行う。 ・視覚情報を用いて説明し、どの子どもにも理解できるようにする。
② 入村式でアグリパークにおけるめあてを確認し、期待を膨らませる (10分)	I: 「はじめの言葉」 ・所長が生徒たちに期待することなどを述べる。 S: 今日はいろいろな体験をして、農作物や動物について知りたいと思います。また、みんなで協力して活動に参加します。よろしくお願いします。 S: コテージに泊まるのが楽しみです。 I: 「終わりの言葉」	・めあてや頑張りたいことを言葉やカード等で表す。
③ オリエンテーションでアグリパークでのルール、生活の仕方、活動の仕方等を知り、どのように生活したらよいか考える (10分)	I: オリエンテーションで、ルール等を知らせる。 ・アグリパークで大切にしていること ・危険箇所 ・禁止事項 ・奨励事項 ・緊急時の対応の仕方 ・パーク内でのあいさつ など T: 日程やグループを確認する。 S: 今日は収穫体験や買い物学習などの活動や、調理活動をするんだね。 S: 私は〇〇さんと一緒のグループだよ。 S: コテージで泊まるのが楽しみだな。	・内容をできるだけ簡単な絵や図などの視覚的ツールを用いて、ルールを分かりやすく提示する。 ・2日間の日程等を示した掲示物やしおりを使い確認できるようにする。
④ 荷物の整理や役割分担等を再確認する (20分)	T: 荷物を学習室に運ぶよう伝え、昼食の集合時間を確認したり、体験活動の準備をさせたりする。 S: 活動に必要な道具を準備しよう。 S: 調理活動はカレー担当だったわ。	・コテージチェックインは15時。 ・薬やその他必要な物をチェックし、食事場所に移動させる。 ・適宜休憩を取らせる。
⑤ マナーを守って昼食場所に集合し、昼食を食べる (60分)	I: 今日のメニューには、アグリパークで収穫した〇〇や△△が材料に使われていることを説明する。 T: 生徒ができるだけいろいろな物を食べられるように、言葉掛けなどの働き掛けをする。 S: できるだけ好き嫌いせず食べよう。 S: 〇〇は苦手だけど、頑張って食べよう！ S: みんなで食べるとおいしいね。 S: この野菜はとっても甘いね。 S: 残さず食べたよ！	④ アレルギーの有無を前日までに確認し、当日も再確認する。アレルギー対応が必要な生徒がいる場合はチェックカードを用いて十分確認する。 ・服薬の有無をチェックカードで確認する。服薬が必要な生徒がいる場合は、忘れずに飲ませる。
⑥ 休憩したり、協力して午後の体験活動の準備をしたりする (40分)	T: 午後の体験活動開始時刻や、個々の分担を確認させる。 S: 必要な道具を用意しよう。 S: 私は収穫体験だったわ。 S: 僕は直売所で〇〇を買うよ。	・しおりで確認するよう促す。

<p>⑦協力して「収穫体験」「買い物学習」のどちらかを体験する (50分)</p>	<p>T:アグリパークの方に教えてもらいながら活動に取り組むことを伝える。 収穫体験 I:これから畑に行って〇〇を収穫すること、収穫のやり方は畑で教えることを伝える。 S:上手に収穫できるかな? S:たくさんとれるといいな。 *何種類か収穫する場合もあり 買い物体験 T:直売所で、あらかじめ分担された物を購入することを伝える。購入する物を写真カード等で再確認させる。 S:私は〇〇と△△を買うんだっけ。 S:練習したようにちゃんとレジでお金が払えるかな?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に夕食・昼食メニューに必要な材料を調べさせておき、畑から収穫する物と直売所で購入する物が分かるようにする。 ・必要に応じて、購入する物の写真カードなどのツールを利用する。 ・「これください」「ありがとうございます」など、店員さんとかかわれるように声掛けやカードを提示する。
<p>⑧休憩後、学習室より荷物をコテージに移動させる。その後調理活動に必要な道具を持たせ、調理活動の場所に移動させる (30分)</p>	<p>T:調理活動の開始時間や、個々の分担を確認させる。 S:エプロンやマスクが必要だね。 S:私は野菜の皮むきが担当だわ。 S:〇〇は僕が買った野菜だよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・しおりで確認するよう促す。
<p>⑨夕食(カレー)作りを行う ・ご飯炊き ・カレー作り ・サラダ作り など (120分)</p>	<p>T:これからみんなでカレーを作ることを伝える。 I:必要に応じてグループを回り、調理活動を支援する。 S:調理手順カードを見ながらできるだけ自分の力で頑張ろう! S:米研ぎは任せて! S:畑でとった野菜は新鮮でおいしそうだね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いや消毒を徹底する。 ④ 刃物などの扱いややけど等に十分気を付けるよう注意を促す。 ・調理手順を確認できるカードを準備する。
<p>⑩盛りつけ後、マナーを守って夕食を食べる (60分)</p>	<p>I:(または T):みんなが協力し合って夕食作りに取り組んだことを称賛する。 S:指導員さん、今日はいろいろ教えて下さってありがとうございます。 S:野菜が甘くておいしいね。 S:お代わりしようかな～。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ④ アレルギーの有無を前日までに確認し、当日も再確認する。アレルギー対応が必要な生徒がいる場合はチェックカードを用いて十分確認する。 ・服薬の有無をチェックカードで確認する。服薬が必要な生徒がいる場合は、忘れずに確認する。
<p>⑪協力して後片付けをする ・食器洗い ・食器収納 ・調理室の掃除 (40分)</p>	<p>T:みんなで協力し合って片付けをすることを伝える。 S:片付けも協力し合って頑張ろう! S:学校や家でもやっているから掃除は任せて! T:学習をまとめ、インストラクターにお礼を述べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、片付け手順カードなどのツールを用意する。

<p>⑫ルールを守って入浴する (40分)</p>	<p>T:これからお風呂に入ることを伝える。 S:よく身体を洗ってから湯船に入るんだっけ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーを守って入浴するよう促す。 ・事前の検温により、入浴の実施を決定する。
<p>⑬ルールを守ってレクリエーション ・肝試し ・星空観察 ・ダンス など (50分)</p>	<p>T:夜の活動を始めることを伝え、指導員から説明をしてもらう。 I:今日は〇〇を行うことや、けがなどしないよう、みんなで楽しく活動しようということを伝える。 S:〇〇はとっても楽しみ! T:学習をまとめ、インストラクターにお礼を述べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時期や天候を考慮し、屋内でも屋外でもできる活動を選んでおく。 ・体調が悪い生徒や疲れが見える生徒は屋内活動に取り組みさせる。または部屋で静養させる。
<p>⑭身支度をし、就寝する (10分)</p>	<p>T:今日の活動で楽しかったことなどをしおりに記入するよう伝える。記入が終わったら、着替え、歯磨き、排せつをすることも伝える。 S:今日は〇〇が楽しかったな～。 S:カレー作りが上手にできてよかった!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で記入できない生徒は、教師が代わりに記入する。 ・服薬の有無をチェックカードで確認する。就寝前の服薬が必要な生徒がいる場合は、忘れずに確認する。

6 1日目の評価例

観 点	評価規準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・アグリパークや施設利用に、興味をもったり期待感をもったりしている。 ・協力し合いながら、体験活動や調理活動を行おうとしている。 	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割を理解し、みんなのために役割を果たそうとしている。 	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを意識したり、ルール・マナーを守りながら活動することの大切さを意識したりしようとしている。 ・教師や友達に、頑張ったことや楽しかったことを伝えようとしている。 	行動観察 しおり記入

<2> 2日目

5 展開例

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (S)	指導上の留意点
①起床・身支度をする (30分)	T:起きて支度をするよう伝える。 S:ぐっすり眠れたよ。 S:今日は何をするのか楽しみだな。 T:支度が終わったら朝食前の活動の準備をするよう伝える。	・しおりで、自分がどの活動に取り組むのかを確認させる。
②協力して「朝食前の活動」を体験する 「牛の世話体験」 ・ブラッシング ・餌やり ・牛小屋清掃 「果物収穫」など (60分)	T:アグリパークの方に教えてもらいながら活動に取り組むことを伝える。 牛の世話体験 I:これから牛舎に行って世話をすること,やり方は牛舎で教えることを伝える。 S:牛って大きいよね。触れるかな。 S:DVDで見たのと同じ大きさかな。 S:乳搾り楽しみだな。 果物収穫体験 I:〇〇(果物)を収穫すること,朝食に出すので頑張ってお手伝いしようということを伝える。 S:いちご摘みならやったことあるよ。 S:今日は何んな果物を収穫するのかな。 S:みんなに喜んでもらえるといいね。	・内容をできるだけ簡単な絵や図などの視覚的ツールを用いる。 ・体調が悪い生徒や疲れが見える生徒は部屋で静養させる。
③朝食場所に集合し、マナーを守って朝食を食べる (60分)	I:今日のメニューには、アグリパークで収穫した〇〇や△△が材料に使われていることを説明する。 T:生徒ができるだけいろいろな物を食べられるように、言葉掛けなどの働き掛けをする。 S:仕事をした後の御飯っておいしいね。 S:この果物は〇〇さんがとった物だって！おいしそうだね。 S:残さず食べたよ！	④アレルギーの有無を前日までに確認し、当日も再確認する。アレルギー対応が必要な生徒がいる場合はチェックカードを用いて十分確認する。 ・服薬の有無をチェックカードで確認する。服薬が必要な生徒がいる場合は、忘れずに確認する。
④コテージにもどり、協力して荷物の整理や清掃活動を行う (30分)	T:昼食を食べたら学校に戻ること,その前に荷物を整理したり部屋の掃除をしたりすることを伝える。 S:忘れ物がないように確認しながら片付けようね。掃除も頑張ろう。 S:布団もちゃんと直そうね。 T:昼食作りの準備をさせ、調理場所に移動させる。	・忘れ物や、荷物の間違いがないか記名を確認しながらチェックする。荷物は学習室に移動させる。(チェックアウト10時) ・必要に応じて、掃除手順カードなどのツールを用意する。 ・薬やその他必要な物は持たせて、調理場所に移動させる。
⑤協力して昼食(野菜ピザ)作りを行う ・生地のはし ・野菜切り ・トッピング など (60分)	T:みんなで協力し合ってピザを作ることを伝える。 I:必要に応じてグループをまわり,調理活動を支援する。 S:私は野菜を切る係だわ。手を切らないように気を付けて作業しよう。 S:ピザ作りは初めてだから、楽しみだな。 S:石窯でピザが焼けるんだね。	④手洗いや消毒を徹底する。 ④刃物などの扱いややけど等に十分気を付けるよう注意を促す。 ・調理手順を確認できるカードを準備する。

⑥焼き上がり後、マナーを守って昼食を食べる *焼けた順に食べる場合もあり (50分)	I(またはT):みんなが協力し合ってピザ作りに取り組んだことを称賛する。 S:指導員さん,今日もいろいろ教えて下さってありがとうございます。 S:おいしそうだね。いただきます! S:石窯で焼くとすぐに焼けるんだね。 S:野菜を焼くと甘くなるね。	・アレルギーの有無を前日までに確認し、当日も再確認する。アレルギー対応が必要な生徒がいる場合はチェックカードを用いて十分確認する。 ・服薬の有無をチェックカードで確認する。服薬が必要な生徒がいる場合は、忘れずに確認する。
⑦退村式でアグリパークでの感想を発表する (10分)	I:「はじめの言葉」 ・所長が生徒たちに体験終了について述べる。 S:2日間で、いろいろな体験ができてよかったです。牛の世話を頑張りました! S:調理活動が楽しかったです。家でも作ってみたいです。 S:2日間,ありがとうございました。 I:「終わりの言葉」 T:学習をまとめ,インストラクターや職員の方にお礼を述べる。	・頑張ったことや楽しかったことを言葉やカード等で表すようにさせる。
⑧送迎バスでアグリパークを出発する (50分)	T:2日間のアグリパークでの思い出や感想を聞く。後日,思い出をまとめたり,お礼状を作成したりすることを伝える。 S:アグリパークって楽しいところだね。いろいろな動物もいたね。 S:野菜の収穫が楽しかったな。 S:アグリパークの人にいろいろ教えてもらえてよかったね。 S:みんなと泊まれてうれしかった! S:アグリパークにまた来たいね!	・学校到着後または後日に,感想等をしおりに記入させる。

6 2日目の評価例

観 点	評価規準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・アグリパークや施設利用に慣れ,落ち着いて過ごそうとしている。 ・協力し合いながら,体験活動や調理活動を行おうとしている。 ・自分からアグリパークの職員にかかわろうとしている。	行動観察
集団の一員としての思考・判断・実践	・自分の役割を理解し,みんなのために役割を果たそうとしている。	行動観察
集団活動や生活についての知識・理解	・野菜や果物,動物等について知ろうとしている。 ・めあてを意識したり,ルール・マナーを守りながら活動することの大切さを意識したりしようとしている。 ・教師や友達に,頑張ったことや楽しかったことを伝えようとしている。	しおり記入

新潟市の未来を農業が開く！

改訂版の作成おめでとうございます。第一版から一年数か月ということで、この事業の順調なスタートと関係者各位の意気込みを感じております。

このプログラム自体、時間をかけ、関係者の熱意で作成されたところですが、オープンから市民はもとより、様々な方々の訪問を受けていることと思います。とりわけ、日本初の本格的な教育ファームとして、これからも注目度は増していくでしょう。このプログラムが設計図ならば、エンジンを動かすのはスタッフでしょうか。実際に、体験をしてみますと、スタッフの理解度と熱意が伝わってきました。研修や視察を通して、よりスキルを磨いていただけたら幸いです。

市長が、＜フランスのシティーファームを新潟市に＞でスタートしたアグリパークは、農業体験を通して農業に対する理解をより深め、未来を創造できる場として、内外から認知されることを期待しております。



フジタファーム 代表取締役 藤田 毅
(地域交流牧場全国連絡会 監事)

「農業」という仕事にチャレンジ！！

皆さん、お米や野菜は誰が作っているかわかりますか…？

「農家」が愛情をこめて育てています。が「農家」と言う仕事の事を知っているでしょうか？お米や野菜が出来るまでには様々なストーリーがあります。

土作りや種まきや生育の管理そして収穫。を想像する人は沢山いると思いますが今の農家はそれだけではありません。収穫したものを加工したり、自分でお客様に直接販売したり、農家自らがレストランをしたり…。

農業という職業は一次産業です。しかし、一次産業だからこそ二次、三次と…どんどん幅が広く色んな産業の核となっています。農業があるからそれ以外の職業が成り立っていると言っても過言ではありません。是非、「農業」という職業をもっと理解してください。そして今だからこそ農業という職業にチャレンジしてください！

皆さんがこれから学ぶ事が少しでも職業として「農業」と向き合える時間になることを願っています。そして、ここから農家になる人が一人でも生まれることを願っています。



大越農園 代表 大越 正章
(全国農業青年クラブ連絡協議会 顧問)

3 特別支援学校編 (2) いくとぴあ食花

①植物にふれよう・つくろう ～花びらが大変身！～（春編）（食育・花育センター）
＜中学部全学年 生活＞ 374

②植物にふれよう・つくろう ～花びらが大変身！～（秋編）（食育・花育センター）
＜中学部全学年 生活＞ 378

①植物にふれよう・つくろう～花びらが大変身

- ・未来のストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

！（春編）～

- ・実施期間 5月連休明けごろ
- ・1班最大人数 20人
- ・費用 約300円/人

が魂 自分が育てる（収穫する・見学調査する） ➡

春の花を体全体で感じたり，これからやってみたいことを見つけたりしよう。

①花の観賞

同じ花だけど、この色が好きだな。

いいにおいがするわ。



②花びらの収穫

花びらって、さわるとふわふわでやわらかいね。

赤い花びらは、赤色ができるのかな？



体験活動

学習指導要領上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○特別支援学校中学部全学年

生活単元学習

- ・季節の花を観賞したり，花びらを使った創作活動をしたりしながら「新潟市の花（チューリップ）」について学習することができます。
- ・活動手順を教えてもらったり，疑問点を質問したりする中で，人とかかわりも深めることができます。

*生活単元学習 「栽培を中心とした単元」

自分が消費する（加工する・作品にする）

③花びらで染め物体験

- ・チューリップの花びらで染め物ができるなんてふしぎだな～。
- ・チューリップは新潟市の花なんだって！



昼食



染め物は，楽しかったな。

今度は家族と来たいな。

花に関する体験学習の学びの可能性

○花や野菜の特徴，生長について，見たり調べたりすることを中心に学習活動を構成していくなれば・・・

*理科「身近な生物の特徴」

○花びらから抽出した液で染色することを中心に学習活動を構成していくなれば・・・

*美術「表現」

○植物に直接触れることにより情緒の安定を図ったり，身近な材料を操作し様々な感覚へ働き掛けたりするならば・・・

*自立活動

実践例 「植物にふれよう・つくろう～花びらが大変身！～（春編）」

1 関連する単元名 特別支援学校中学部 生活単元学習（5時間）

2 関連する単元の目標

- ・季節の花を觀賞したり、新潟市の花（チューリップ）について植え方や花の咲く時期などを調べたりすることを通して、植物への興味や関心をもたせることができる。
- ・花を觀賞した後に、花びらを材料とした染め物作品を作り、花への思いを形として残すことができる。
- ・いくとぴあ食花の施設を利用する際のマナーやルールを身に付けることができる。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 「新潟市の花」について知ろう（4時間）

- 体験の前に
- ・チューリップの球根を、地域ボランティアと一緒に植える。(12月)
 - ・チューリップが咲いた様子を見て、美しさを感じたり、チューリップを使った活動への興味・関心をもたせたりする。(4月下旬)
 - *花絵プロジェクトへ参加 (*希望が通った場合、PTA行事として活動する)
 - ・いくとぴあ食花の場所や施設等を調べさせ、いくとぴあ食花での活動に興味をもたせる。
 - ・季節の草花について、学校周辺を散策したり視覚的教材を使ったりして事前学習させ、いくとぴあ食花で実際に確認できるようにする。
 - ・染め物活動への興味・関心をもたせる。必要に応じて事前練習を行う。
 - ・いくとぴあ食花の施設利用のマナーやルールを確認する。

学習のめあて例

春の花を体全体で感じたり、これからやってみたいことを見つけたりしよう。

いくとぴあ食花での体験学習〈3時間〉

①花の鑑賞 → ②花びら収穫 → ③花びらを使った染め物体験

感想の例

「〇〇の花がいいにおいがしたよ」
「チューリップの花びらで染め物ができるなんて不思議だな」

(2) 家族へプレゼントしよう（1時間）

- 体験の後に
- ・体験したことを基に、振り返り（写真・ビデオ）、作文・お礼状作成等の活動を行う。
 - ・いくとぴあ食花で楽しかったこと、頑張ったこと、ためになったことなどを作文にしたり、学年便り等で保護者に知らせたりする。
 - ・チューリップ染めで制作した物（コースター）を鑑賞し合い、上手にできた所や難しかった所などをお互いに評価しあう。
 - ・家族へプレゼントとし、自分が作った物を使ってもらい喜びを感じる。

4 本時のねらい

- ・館内に展示されている様々な季節の植物を觀賞したり、「新潟市の花・チューリップ」について学習したり、チューリップの花びらを使った染物活動をしたりすることを通して、植物への興味・関心をより深めることができる。
- ・染め物活動で手順や疑問点を質問したり、制作した物を日頃お世話になっている人へ感謝の気持ちとして渡したりすることを通して、人とのかかわりをより深めることができる。

5 本時の展開例（150分＝3時間）

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (S)	指導上の留意点
①学習課題をつかむ (10分)	T:今日の学習のめあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって、安心・安全に活動に臨めるようにする。	・登校時に、健康観察を行う。 ・いくとぴあ食花に到着後、トイレをすませる。 ・視覚的ツールを用いて説明し、どの子どもにも理解できるようにする。
②いくとぴあ食花におけるめあてを確認し、期待をふくらませる (10分)	I:「はじめの言葉」 ・所長（インストラクター）が学習課題や生徒に期待することなどを述べる。 I:「終わりの言葉」	・めあてや頑張りたいことを言葉やカード等で表すようにさせる。
③館内の植物を觀賞する体験を行う (50分)	I:花の種類、色、においにも気をつけながら觀賞するよう伝える。 T:觀賞する場所や順番を確認後、觀賞を始める。 S:〇〇の花がいいにおいがするから好きなんだ。	・活動内容やルールを視覚的ツールを用いて分かりやすく提示する。 ・事前学習時に、調べたいことや聞きたいことをまとめさせておく。 ・鑑賞後トイレ休憩、水分補給を行う。
④染め物体験活動を行う (65分)	T:活動グループを確認する。 I:染め方の手順や材料の花を紹介する。活動中の注意事項を確認する。 S:チューリップの花びらで染め物ができるなんて不思議だな。	⑩熱湯などを使用する場合は、やけどに十分気を付けるよう注意を促す。 ・適宜休憩を取らせる。
⑤いくとぴあ食花での感想を発表し、まとめと振り返りを行う (15分)	I:「はじめの言葉」 T:この時期の新潟市の花の觀賞や、制作活動を通して、感じたことや考えたこと、これからやってみたいことを発表させ、共通理解できたことをまとめる。 I:「終わりの言葉」 T:学習の感想を発表させ、インストラクターや職員の方にお礼を述べる。	・学校に戻ってから、振り返りとして、思い出をまとめたり、お礼状を作成したりすることを伝える。 <昼食について> ⑪アレルギーの有無を前日までに確認し、当日も再確認する。 ・服薬の有無をチェックカードで確認する。服薬が必要な生徒がいる場合は、忘れずに確認する。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	・展示の植物等に興味をもったり期待感をもったりしている。 ・「新潟市の花」について自分なりに知ろうとしている。 ・協力し合いながら、体験活動を行おうとしている。	行動観察
思考・判断・表現	・気付いたことや疑問を教師等に聞こうとしている。	行動観察
技能・知識・理解	・普段何気なく見ている花を利用して作品ができることを知り、興味をもって制作活動に取り組もうとしている。 ・めあてを意識したり、ルール・マナーを守りながら活動することの大切さを意識したりしようとしている。 ・頑張ったことや楽しかったことを伝えようとしている。	行動観察 振り返り作文

②植物にふれよう・つくろう～花びらが大変身

- ・未来のストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

！（秋編）～

- ・実施期間 10月ごろ
- ・1班最大人数 20人
- ・費用 約300円/人

が 魂 自分が育てる（収穫する・採取する・見学調査する） ➡

秋の花を体全体で感じたり，これからやってみたいことを見つけたりしよう。

①花の観賞

②花びらの採取

同じ花だけど、色の濃さが違うね。

甘い香りがする葉っぱもあるわ。

チューリップのときみたいに、色染めができるんだって。

コースターに染めるといいね。押し花も使ってすてきなコースターを作りましょう。



③花びら染めのコースター作り

- ・コスモスの花びらでコースターが染められるなんてびっくり！
- ・おうちの人に、すてきなお土産ができて、うれしいな。



家で

きれいでしょ。みんな使ってね



いいお土産、ありがとうね。

体験活動

学習指導要領上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○特別支援学校中学部全学年

生活単元学習

- ・学校周辺に咲いていない季節の花を観賞したり，花びらを使った創作活動をしたりしながら，いろいろな植物に興味・関心をもたせることができます。
- ・活動手順を教えてもらったり，疑問点を質問したりする中で，人とかかわりも深めることができます。

*生活単元学習 「栽培を中心とした単元」

花に関する体験学習の学びの可能性

○花や野菜の特徴，生長について，見たり調べたりすることを中心に学習活動を構成していくならば・・・

*理科「身近な生物の特徴」

○花びらから抽出した液で染色することを中心に学習活動を構成していくならば・・・

*美術「表現」

○植物に直接触れることにより情緒の安定を図ったり，身近な材料を操作し様々な感覚へ働き掛けたりするならば・・・

*自立活動

実践例 「植物にふれよう・つくろう～花びらが大変身！（秋編）」

1 関連する単元名 特別支援学校中学部 生活単元学習（5時間）

2 関連する単元の目標

- ・季節の花を鑑賞したり、植え方や花の咲く時期などを調べたりすることを通して、植物への興味や関心をもたせることができる。
- ・花を鑑賞した後に、花びらを材料とした染め物作品を作り、花への思いを形として残すことができる。
- ・いくとびあ食花の施設を利用する際のマナーやルールを身に付けることができる。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 「季節の花」について知ろう（4時間）

体験の前に

- ・いくとびあ食花の場所や施設等を調べ、いくとびあ食花での活動に興味をもつ。
- ・季節の草花について、学校周辺を散策したり視覚的教材を使ったりして事前学習し、いくとびあ食花で実際に確認しようとする。
- ・染め物活動への興味・関心をもつ。必要に応じて事前練習する。
- ・いくとびあ食花の施設利用のマナーやルールを確認する。
- ・学習課題「秋の花を体全体で感じたり、これからやってみたいことを見つけたりしよう。」を作る。

学習のめあて例

秋の花を体全体で感じたり、これからやってみたいことを見つけたりしよう。

いくとびあ食花での体験学習〈3時間〉

①花の鑑賞 → ②花びら収穫 → ③花びら染めのコースター作り

感想の例

「学校にさいっていない花がたくさんあったよ」「いろいろな色の〇〇があったよ」
「コスモスの花びらで染め物をしたり、押し花を作ったりしよう」

(2) 家族へプレゼントしよう（1時間）

体験の後に

- ・体験したことを基に、振り返り（写真・ビデオ）、作文・お礼状作成等の活動を行う。
- ・いくとびあ食花で楽しかったこと、頑張ったこと、わかったことなどを作文にしたり、学年便り等で保護者に知らせたりする。
- ・コスモス染めで制作した物（コースター）を鑑賞し合い、上手にできた所や難しかった所などをお互いに発表し合い、認め合う。
- ・家族へプレゼントとし、自分が作った物を使ってもらう喜びを感じる。

4 本時のねらい

- ・館内に展示されている様々な季節の植物を鑑賞したり、色やにおいの違いなどに注目したり、コスモスの花びらを使った染物活動をしたりすることを通して、植物への興味・関心をより深めることができる。
- ・染め物活動で手順や疑問点を質問したり、制作した物を日頃お世話になっている人へ感謝の気持ちとして渡したりすることを通して、人とのかかわりをより深めることができる。

5 本時の展開例（150分＝3時間）

学習活動	教師（T）・指導員（I）・子ども（S）	指導上の留意点
①学習課題を確認する（10分）	T:今日の学習のめあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:活動の流れと目的、注意事項を説明し、見通しをもって、安心・安全に活動に臨めるようにする。	・登校時に、健康観察を行う。 ・到着後、トイレをすませる。 ・どの子どもにも理解できるよう視覚的ツールを用いて説明する。
②いくとびあ食花におけるめあてを確認し、期待をふくらませる（10分）	I:「はじめの言葉」学習課題「秋の花を体全体で感じたり、これからやってみたいことを見つけたりしよう。」を含めたお話をする。 I:「終わりの言葉」	・めあてや頑張りたいことを言葉やカード等で表すようにさせる。
③館内の植物を鑑賞する体験を行う（50分）	I:どんな花が咲いているか、色やにおいにも気をつけながら鑑賞するよう伝える。 T:鑑賞する場所や順番を確認後、始める。 S:学校に咲いていない花もたくさんあるよ。 S:同じ花なのになぜ色が違うのですか？	・視覚的ツールを用いて分かりやすく提示する。 ・聞きたいことや書きたいことのメモを用意させる。 ・トイレ休憩、水分補給を行う。
④染め物体験活動を行う（65分）	T:事前に決めた活動グループを確認する。 I:染め方の手順や材料となる花を紹介する。 活動中の注意事項を確認する。 S:コスモスで染め物ができるなんて不思議。 S:押し花もきれいだね。 S:作ったらお母さんにあげたいな。	⑩熱湯など使用する場合は、やけどに十分気を付けるよう注意を促す。 ・適宜休憩を取らせる。
⑤いくとびあ食花での感想を発表し、まとめと振り返りを行う（15分）	I:「はじめの言葉」 T:感じたことや考えたこと、やってみたいことを発表させ、共通事項をまとめる。 S:いいにおいがしたよ。花びらで染め物ができて良かったです。 S:いくとびあ食育の人に手紙を書きたいね。 S:家族に今日の楽しい活動を伝えたい。 I:「終わりの言葉」 T:学習の感想を発表させ、インストラクターや職員の方にお礼を述べる。	・学校に戻ってから、思い出をまとめたり、お礼状を作成したりすることを伝える。 <昼食について> ⑩アレルギーの有無を事前に確認し、当日再確認する。 ・服薬の有無をチェックカードで確認する。服薬が必要な生徒がいる場合は、忘れずに確認する。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	・植物等に興味をもったり期待感をもったりしている。 ・協力し合いながら、体験活動を行おうとしている。	行動観察
思考・判断・表現	・気付いたことや疑問を教師等に聞こうとしている。	行動観察
技能・知識・理解	・普段見ている花が作品になることを知り、興味をもって制作活動に取り組もうとしている。	行動観察
	・めあてを意識したり、ルール・マナーを守りながら活動することの大切さを意識したりしようとしている。 ・頑張ったことや楽しかったことを伝えようとしている。	振り返り作文

「みんながいい関係に」

学校で育てたミニトマトを家にもち帰った時、お母さんが「すごいね。」とえ顔でほめてくれました。そして、レタスのまわりにきれいにかざって、家ぞく4人で、「おいしいね、おいしいね。」と言いながら食べました。
一生けんめいに育てれば育てるほど、おいしい野さいになり、みんなのえ顔がふえるなんて、野さい作りにはすごいパワーがあると思いました。



今年、生活科でミニトマトの苗を育てた2年生のAさんの作文です。子どもは野菜に水をやりながら「大きくなあれ。」と言って、野菜といい関係ができる。クラスでそれぞれが好きな野菜を育て、成長の仕方や実のでき方の違いを話し合ったりして、友達といい関係ができる。そして、家庭ではみんなが笑顔になってくれる家族のいい関係ができる。この「いい関係づくり」こそが、にいがた流教育ファームのねらいであると考えます。



新潟市小学校長会 会長 逢坂 健太郎
(新潟市立白山小学校 校長)

「生きる力」を高める教育ファーム

新潟市アグリパークが開園以来、市内の小中学校のみならず、県内外の多くの方の来園を得て賑わっていることを嬉しく思います。新潟市アグリパークは、日本初の公立教育ファームとして民放の人気情報番組「シューイチ」でもUSJと並んで取り上げられ、注目度の高さを感じています。今年度より農業体験指導専門の教員が常駐配置されるとともに、今秋、「アグリ・スタディ・プログラム」が改訂されます。現場のニーズに応え、プログラムとともに施設設備もより使いやすいものになっていると聞いています。体験をした学校では、新潟の豊かな食材を使った窯焼きピザやソーセージ、アイスクリーム作りが人気のようです。宿泊した学校からは、羽釜で炊いたご飯がとても美味しかったという生徒の感想を聞いています。新潟市が誇る農業や食に対する理解が深まり、古里への愛情や誇り、生きる力を高めるとともに地域産業の担い手を育む拠点の一つとしても大いに期待しています。



新潟市中学校長会 会長 高居 和夫
(新潟市立小針中学校 校長)

3 特別支援学校編 (3) 学校教材園

①サツマイモを育てよう・おいしく食べよう < 中学部全学年 生活 > 384

①サツマイモを育てよう・おいしく食べよう

- ・未来のストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

- ・実施期間 5月～11月
- ・1班最大人数 20人
- ・費用 約300円/人

魂 自分が育てる(植える・世話する・収穫する)

おいしい、大きなサツマイモを作るためにどんな工夫をすればよいのだろうか。

おいしい、大きなサツマイモを作るためにどんな苗の植え方をすればよいのだろうか。

①畑作り (5月)

おいしい大きなサツマイモが食べたいな。どうすればいいかな。だれに聞けばいいかな。

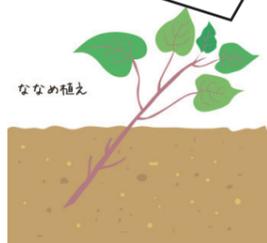


・みんなと協力して畑を作ろう。
・マルチシートをかぶせると草取りが楽なんだ。



②苗植え (5月)

・寝かせるように植えるのがコツだね。
・農家の人はこうやって育てているんだ。



体験活動

学習指導要領上の位置付け

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○特別支援学校中学部 生活単元学習

- ・畑作り、苗植え、収穫、調理活動までの一連の活動に取り組む中で、みんなと協力し合っ活動に取り組むことの大切さや、食物を育てることの大変さに気付いたり、おいしく食べられることへの感謝の気持ちをもったりすることができます。
- ・地域の方から技術指導を受けることを通して、人とのかかわりも深めていくことができます。

*生活単元学習 「栽培を中心とした単元」

➡ 自分が消費する(加工する・調理する・飲食する・作品にする)

協力して、おいしくて大きなサツマイモを掘ろう。

おいしいサツマイモスイーツを作って、収穫までにお世話になった地域の方と一緒に食べよう。

③収穫 (10月)

・大きなサツマイモがとれたよ。
・サツマイモを使ってみんなでおいしいものを作りたいな。



④調理 (10～11月)

・おいしいスイーツを作ろう。
・お世話になった方を招いてパーティーをしよう。



様々な体験学習の学びの可能性

- 畑作りや苗植え、収穫時において、農業の知識や技能を身に付ける活動を中心とするならば・・・
 - * 中学部「理科」の内容 「生物」「自然」
- 収穫した野菜での調理活動を中心とするならば・・・
 - * 中学部「職業・家庭」の内容 「道具・機械等の取り扱いや安全・衛生」「役割」「家庭に関する基礎的な事項」
- また、土や植物などに直接触れることにより、情緒の安定を図ったり、様々な感覚へ働き掛けたりすることができるので「自立活動」の内容を位置付けることもできます。

実践例 「サツマイモを育てよう・おいしく食べよう」

1 関連する単元名 特別支援学校中学部 生活単元学習

「サツマイモを育てよう・おいしく食べよう」(15時間)

2 関連する単元の目標

- ・畑作りから調理までの一連の活動に見通しをもち、意欲的に取り組むことができるようにする。
- ・地域の方を講師に招き、畑の耕し方や苗の植え方、世話の仕方、収穫、調理の仕方などを教えてもらうことを通して、人とのかかわりを学ぶことができるようにする。
- ・一連の活動を通して、教師と生徒、生徒相互の人間的な触れ合いを求めて楽しい思い出をつくとともに、互いに思いやり、共に協力しあったりするなどの人間関係を築く態度を育てることができるようにする。
- ・収穫物を材料とした様々なメニューや作り方を学び、家庭での調理活動(職業・家庭)にもつなげることができるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

(1) 畑作り・苗植えの活動(4時間)

- 体験の前に
- ・昨年度のサツマイモの収穫や食べる活動の記録を見せて、おいしい大きなサツマイモを育てたいという意欲を持たせる。
 - ・畑の耕し方やサツマイモの植え方、世話の仕方について、調べる方法を考えたり教えてもらったりして、収穫までの活動に見通しをもたせる。

学習のめあて例

おいしい、大きなサツマイモを作るためにどんな工夫をすればよいだらうか。(畑作り時)
 おいしい、大きなサツマイモを作るためにどんな苗の植え方をすればよいだらうか。(苗植え時)

学校での体験学習〈各1時間〉

①畑作り → ②苗植え体験

地域の方や教師、友達と一緒に協力して畑の土を耕したり畝を作ったり苗植を植えたりする。

感想の例

「役目をきめてみんなで協力して畑をたがやしたよ」「農家の人は大変なんだな」(畑作り時)
 「寝かせるように植えるのがこつだよ」「水やりの当番を決めて世話をしていこう」(苗植え時)

- 体験の後に
- ・体験したことを基に、振り返り(写真・ビデオ)、地域の方へのお礼状作成などの活動を行う。
 - ・頑張ったことなどを作文にしたり、学年便り等で保護者に知らせたりする。

(1)と(2)の間に適宜、水やり、草取り等を行う。

(2) 収穫・調理の活動(11時間)

- 体験の前に
- ・サツマイモができるまでの様子を再確認する。サツマイモの生育の状況を知る。(③)
 - ・おいしく食べるためのメニュー作りを行ったり、お礼のための収穫パーティーの計画を立てたりする。(④)

学習のめあて例

協力して、おいしくて大きなサツマイモを掘ろう。(収穫時)
 おいしいサツマイモスイーツを作って、収穫までにお世話になった地域の方と一緒に食べよう。(調理時)

学校での体験学習〈③1時間〉〈④2時間〉

③収穫 → ④調理

感想の例

「ていねいに土の中をさがしたら大きなサツマイモがいっぱいとれたよ」(収穫時)
 「みんなで協力しておいしいサツマイモスイーツができたよ」(調理時)

- 体験の後に
- ・収穫後、雑草が生えないように花を植える。
 - ・体験したことを基に、振り返り(写真・ビデオ)、地域の方へのお礼状作成などの活動を行う。
 - ・頑張ったことなどを作文にしたり、学年便り等で保護者に知らせたりする。

4 本時のねらい

- ・自分の役割を知り、職員や友達と協力して学校教材園を耕したり苗を植えたりすることができる。
- ・地域の方に畑の耕し方や苗の植え方、世話の仕方、収穫の仕方、調理の仕方などを教えてもらうことを通して、人とのかかわりを学ぶことができる。

<1>畑作り

5 本時の展開例(50分=1時間)

活動	教師(T)・農家の方(P)・子ども(S)	指導上の留意点
①畑に集合し、本時の学習課題を確認する(5分)	T:学習のめあて「おいしい、大きなサツマイモを作るための工夫」を確認し、地域の方を紹介する。 I:畑の耕し方や注意事項を説明し、見通しをもって安心・安全に活動に臨めるようにする。	・長靴・軍手・帽子・タオル・水筒を準備し、学級から畑に移動させる。 ・視覚的ツールを用いて理解を促す。
②畑を耕し、畝を作る(20分)	I:スコップやシャベルを使って、土を掘り起こすことを伝え、実際にやって見せる。 S:おいしい大きなサツマイモを作るには、いろいろ準備が大変なんだね。農家の人はすごいね。	・鍬での掘り起こしは、事前に職員が行う。 ・学級・学年で作業に取り組ませる。 ・適宜休憩を取らせる。
③畝の仕上げを行う(15分)	I:頑張って畑を耕したことへの称賛、これから畝の仕上げや、マルチシートを貼り、苗を植える準備をすることを伝える。 S:マルチシートを貼ると草取りが楽になるんだね。 S:〇〇さん、マルチシート貼り頑張ってね。	・絵や図などの視覚的ツールを用いて、手順を分かりやすく提示する。 ・マルチシートの役割について伝える。
④片付け・感想発表(10分)	T:無事に苗を植える準備ができたことへの称賛、次回はサツマイモの苗を植えることを伝える。今日お世話になった地域の方へお礼と感想も伝えることを確認する。 S:初めて畑を耕しました。疲れたけど、農家の方の大変さがよく分かってよかったです。 I:生徒たちへあいさつをする。	・使った道具を片付け、集合するよう伝える。 ・教室へ戻ったら、手洗い・うがい、水分補給をしっかり行うことを伝える。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	・農作業に興味をもち、畑作業に意欲的に取り組もうとしている。 ・協力し合いながら、体験活動を行おうとしている。	行動観察
思考・判断・表現	・役割や指示内容を理解しながら活動に取り組もうとしている。 ・畑作業で困ったことや疑問に思ったことをインストラクターや教師に聞こうとしている。	行動観察
技能・知識・理解	・サツマイモを作るための準備の大切さや、作業の大変さに気付いている。 ・教師や友達に、頑張ったことや楽しかったことを伝えようとしている。	行動観察 振り返り作文

< 2 > 苗植え

5 本時の展開例 (50分 = 1時間)

活動	教師 (T)・農家の方 (P)・子ども (S)	指導上の留意点
①畑に集合し、学習課題を確認する (5分)	T:学習のめあて「おいしい大きなサツマイモを作るための苗の植え方の工夫」を話し、地域の方と一緒に苗植えをすることを伝え、紹介する。 I:苗の植え方や注意事項を説明し、見通しをもって、安心・安全に活動に臨めるようにする。 S:今日はよろしくお願ひします。	・長靴・軍手・帽子・タオル・水筒を準備し、学級から畑に移動させる。 ・視覚的ツールを用いて理解を促す。
②学級ごとに割り当てられた畝に苗を植える	I:マルチシートの穴に1本ずつ苗を植えることを伝える。 S:寝かせるように植えるのがコツだね。 S:家族と苗を植えたことがあるよ。 T:個々の生徒が頑張っている場面をとらえ、称賛する。	・視覚的ツールを用いて理解を促す。 ・学級・学年ごとに作業に取り組ませる。 ・適宜休憩を取らせる。
③水まきをする ②と③で (30分)	I:頑張っていることを称賛し、これから苗にたっぷり水をあげることを伝える。 S:上手に植えることができたね。 S:水やり当番が必要だね。 S:早く収穫したいな。	・順番に水まきをすること、まいている生徒をよく見ていることを確認する。 ・植えた苗を踏まないように気を付けさせる。
④後片付けとまとめ、振り返りを行う (15分)	T:苗植えができたこと、サツマイモが大きく育つまで水やりや観察をすることを確認する。 お世話になった地域の方へお礼と感想も伝えることを確認する。 S:上手に植えることができました。早く大きくなるといいです。 T:学習をまとめ、農家の人へお礼を述べる。	・使った道具を片付け、集合するよう伝える。 ・専門家への質問を受け付ける。 ・教室へ戻ったら、手洗い・うがい、水分補給をしっかり行うことを伝える。

* < 1 > と < 2 > の活動を同じ日に行う場合は、畑作り→苗植えを続けて行う。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	・農作物に興味をもち、畑作業に意欲的に取り組もうとしている。 ・協力し合いながら、体験活動を行おうとしている。	行動観察
思考・判断・表現	・自分の役割や、指示された内容を理解しながら活動に取り組もうとしている。 ・畑作業で困ったことや疑問に思ったことをインストラクターや教師に聞こうとしている。	行動観察
技能・知識・理解	・めあてを意識したり、ルール・マナーを守りながら活動することの大切さを意識したりしようとしている。 ・教師や友達に、頑張ったことなどを伝えようとしている。	行動観察 行動観察・作文

< 3 > 収穫

5 本時の展開例 (50分 = 1時間)

活動	教師 (T)・農家の方 (P)・子ども (S)	指導上の留意点
①畑に集合し、本時の学習課題を確認する (5分)	T:学習のめあて「協力して、おいしくて大きなサツマイモを掘ろう」を話し、地域の方と一緒にサツマイモの収穫をすることを伝え、紹介する。 I:収穫の仕方や注意事項を説明し、見通しをもって、安心・安全に活動に臨めるようにする。	・長靴・軍手・帽子・タオル・水筒を畑に移動させる。 ・視覚的ツールを用いて理解を促す。
②学級ごとにサツマイモを収穫する (30分)	I:サツマイモが折れたり傷ついたりしないように、ていねいに収穫することを伝える。 S:ていねいに土の中を探さないと、いもが見つからないね。 T:おいしいそうな大きなサツマイモがいっぱい収穫できたことを確認する。	・視覚的ツールを用いて理解を促す。 ・学級・学年ごとに作業に取り組ませる。 ・適宜休憩を取らせる。
③後片付けとまとめ、振り返りを行う (15分)	T:無事に収穫ができたお礼や感想を、地域の方へ伝えることを確認する。 S:サツマイモを植えたり収穫したりする活動はとて大変でしたが楽しかったです。 I:畑作りから今日の収穫まで頑張ったことを称賛する。また、収穫したサツマイモは、新聞紙をひろげた上に保管するとよいことを伝える。 T:今後、収穫したサツマイモを使った調理活動を行う事を伝える。	・使った道具等を片付けるよう伝える。 ・内容をできるだけ簡単な絵や図などの視覚的ツールを用いて、ルールを分かりやすく提示する。 ・教室へ戻ったら、手洗い・うがい、水分補給を行うことを伝える。

6 体験学習(収穫)の評価例

観点	評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	・収穫作業に期待感をもって意欲的に取り組もうとしている。 ・協力し合いながら、体験活動を行おうとしている。	行動観察
思考・判断・表現	・自分の役割や、指示された内容を理解しながら活動に取り組もうとしている。 ・畑作業で困ったことや疑問に思ったことをインストラクターや教師に聞こうとしている。	行動観察
技能・知識・理解	・めあてを意識したり、ルール・マナーを守りながら活動することの大切さを意識したりしようとしている。 ・教師や友達に、頑張ったことや楽しかったことを伝えようとしている。	行動観察 行動観察 振り返り作文

< 4 > 調理

5 本時の展開例 (100分 = 2時間)

活動	教師 (T)・農家の方 (P)・子ども (S)	指導上の留意点
①調理室に集合し、学習課題を確認する (10分)	T:学習のめあて「サツマイモの収穫までにお世話になった地域の方と一緒に、おいしいサツマイモスイーツを食べよう」を話し、ゲストを紹介する。 I:収穫したサツマイモの感想や、一緒に調理活動することへの期待感を伝える。 S:おいしいサツマイモのスイーツを作るぞ。	・エプロン・三角巾・マスクを準備する。 ・視覚的ツールを用いて理解を促す。
②事前に分担した活動に取り組む (30分)	T:係分担を確認する。また、調理活動の際に気を付けることも確認する。 S:私は〇〇の係だよ。 S:〇〇さんに喜んでもらいたいな～。	・手指、道具の消毒を徹底する。 ⑨刃物などの扱いややけどに気を付けるよう注意を促す。 ・手順確認のカードを準備。
③会食 (収穫パーティー) (30分)	T:みんなで協力して、配膳をするよう言葉掛けをする。 S:お皿やコップの数を確認しよう。 S:〇〇さんのテーブルです。どうぞ座ってください。	・地域の方の座席などを確認し、図など掲示し、生徒たちに誘導させる。
④後片付け (15分)	T:協力して、片付けをするよう言葉掛けをする。 S:自分の役割は〇〇だ。	・役割分担を・視覚的ツールを用いて提示する。
⑤まとめと振り返りを行う (15分)	T:担当の生徒にお礼や感想を発表するよう伝える。 S:おいしい大きなサツマイモができるまでにいろいろな仕事があることがわかってよかったです。 S:今日やった調理を、家でもやってみたいと思います。 I:招いてもらったお礼、協力し合ってお菓子作りができたことへの称賛などを伝える。	・片付けが終了したら、集合するよう伝える。 *記念撮影などを行う。 ・教室へもどり、お礼状作りをすることを伝える。

6 体験学習 (調理) の評価

観点	評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	・調理作業に期待感をもって意欲的に取り組もうとしている。 ・協力し合いながら、調理活動を行おうとしている。	行動観察
思考・判断・表現	・役割や指示内容を理解しながら活動に取り組もうとしている。 ・調理作業で困ったことをインストラクターや教師に聞こうとしたり、手伝って欲しいことをお願いしたりしている。	行動観察
技能・知識・理解	・調理のめあてや、ルール・マナーを守りながら活動することの大切さを意識したりしようとしている。 ・教師や友達に、頑張ったことや楽しかったことを伝えようとしている。 ・お世話になったことや学習したことなどを、言葉や文字で表そうとしている。	行動観察 行動観察 振り返り作文

4 幼稚園・保育園編 (1) アグリパーク

①菌ちゃんはお友達 ～野菜くずでリサイクル元気野菜作り～ <環境> 392

②大豆の変身 ～味噌の不思議～ <環境> 396

③牛さん ありがとう <環境> 400

「アグリ・スタディ・プログラム」の幼稚園・保育園編を作成するにあたっては、園児が自然の不思議さを感じながら、分かりやすく、楽しく学べる活動になるように努めました。

また、アグリパークだけでなく、園においても園庭やプランターなどを活用すれば、継続的に取り組めたり、親子で活動したりできるようにしました。

①菌ちゃんはお友達～野菜くずでリサイクル元気

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★

野菜作り～

- ・実施期間 4月中旬～12月中旬
- ・1班最大人数 20人
- ・費用 40円/人

が
魂

自分が育てる（見学調査する）



自分が消費する（飲食する）

今日のお話は「菌ちゃん」が登場します。菌ちゃんの活躍をみんなでみてみよう。

①持参した野菜くずの観察 ②プランターによる土作り

野菜の皮や「生長点」に栄養がたくさんあるよ。今日はみんなが食べられないから、菌ちゃんに食べてもらおう！



私たちがつばでご飯を食べるように、ぼかしを入れるよ。ぼかして〇〇のにおいがするね。



私たちがごはんを食べるときに良く噛むように、菌ちゃんが食べやすく小さくするよ。



③菌ちゃんの土の野菜とそうでない土の野菜との比較



菌ちゃんからパワーをもらった野菜は腐りにくくて、生命力があふれているね。

④幼稚園にプランターを持って帰って、土作りと野菜作り



体
験
活
動

幼
稚
園
教
育
要
領
・
保
育
所
保
育
指
針
上
の
位
置
付
け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○幼稚園・保育園：環境

・ゴミになるはずの野菜くずを使った野菜づくりを通して、子どもは自然の不思議さや命がつながっていることに感動することができます。そして、子ども自身がリサイクルによる野菜作りに参加することにより、環境に優しい人になろうとする気持ちを育むことができます。

* 環境の内容

- (1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- (3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く
- (5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり大切にしたりする。
- (6) 身近な物を大切にする。

菌ちゃんリサイクル野菜作りの学びの可能性

- 菌ちゃんリサイクル野菜作りの活動を、友達との協力という観点で構成するならば
 - * 小学校特別活動〔学校行事〕遠足・宿泊的行事の1メニューとして位置付けることができます。
- 「土が菌ちゃん（微生物）といっぱいになると、野菜がここまで元気になれるんだ」という動機付けを行った後、「私たちの体は、中からも外からも微生物に守られている。元気野菜が大地の微生物の力で元気になるように、小腸（おなか畑）の微生物を元気にする食べ方をして、元気野菜のように元気になろう！」という食生活の改善という観点で構成するならば…
 - * 小学校特別活動〔学級活動〕(2)「日常の生活や学習への適応及び健康安全 キ「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」

実践例 「菌ちゃんはお友達」～野菜くずでリサイクル元気野菜作り～

1 関連する領域名 幼稚園・保育園 環境

2 ねらい

- 野菜くずを活用した土作りや野菜を育てる体験を通して、菌と土の不思議さに気付き、自然の事象に興味や関心をもつことができるようにする。

3 関連する領域の流れと体験の位置付け

(1) 野菜くずでリサイクル野菜作りのための土づくりをしよう

- 家庭から出る野菜くずを持ってくる。

※最高の生理活性物質が濃縮されている野菜の皮、芯、へた、サヤ、タネなどをより多く確保する。特にキャベツの芯は、大きい生長点がたくさんついていて、子どもたちが観察しやすいので、ぜひ入れたい。また玉ねぎの皮にはビタミンやミネラル、ファイトケミカルが特に多いので、あれば望ましい。生ごみは、新鮮でなければならない。腐って臭いがきつい生ごみは、浄化が大変遅いので使えない。暑くて腐りやすい季節は当日の生ごみが一番よい。前日集めた生ごみは日に当たると熱さで腐る場合があるので、数日前のものでも冷蔵庫で保管しておく。

体験の前

めあての例

今日のお話は「菌ちゃん」が登場します。菌ちゃんの活躍をみんなでみてみよう。

アグリパークでの体験学習 <2時間>

- | | | |
|--------------------------------------|--|---|
| ①持参した野菜くずの観察
(野菜の種類、皮のバリアや生長点の発見) | ②プランターによる土作り
(野菜くずを細かくし、ぼかしを混ぜ、土に入れる) | ③慣行栽培との比較
(アグリ内で育てている作物の観察、見てわかる元気の比較) |
|--------------------------------------|--|---|

感想の例

「菌ちゃんの野菜くずが入った土にはパワーがあるよ。」
「菌ちゃんの入った土で作った野菜はおいしいよ。」
「菌ちゃんの入った食べ物を食べると、元気になるよ。」

体験の後

- 体験のおさらいをする（皮のバリア、生長点、病気を引き起こす菌だけではない など）。
- 菌ちゃんとはどういうものかを想像する。
- 土作りをした土がどうなるかを想像する。
- プランターを園に持って帰る。

(2) 土作り（約1ヵ月間）

- 3日後、プランターから土を広げて混ぜる
→ 菌ちゃんを見る（白カビ有用菌）、つかむ、においをかぐ。温かさを感じる。
- 7日後、再度混ぜる
→ ほとんど野菜くずが無くなっている（たくさん入れた生ごみがもうない！誰が食べたの？）
- 14日後、さらに混ぜる
→ 固いもの以外の野菜くずが無くなっている
- 1ヵ月後、生ごみ臭くなくなれば、カキ殻石灰を混ぜて完成

(3) 野菜づくり、収穫・食味

- 植え付け → 土の表面を5～10cmの草で覆うと雑草を抑え、乾燥を防ぎ、土中にミネラルを補給する
- 栽培 → 植え付けの後の数日間は水をやらない⇒若いうちに少し我慢させると、強く美味しくなる。
- 収穫・食味 → 「明日も生きたかったお野菜さん、ごめんね、ありがとう！菌ちゃんありがとう！地球の生きる力を自分の命につなぐ」・・・この食べる本質が幼児にもわかる。

4 本時のねらい

野菜くずが菌ちゃん（微生物）の働きによりゴミではなく、すばらしいものになることを意識することができる。菌ちゃんによる土作りを通して、野菜づくりへの興味や関心をもつことができる。

5 本時の展開例（90分＝2時間）

活動の内容	教師 (T)・指導者 (I)・子ども (C)	指導者の援助・留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:学習の流れ及び施設や道具等についての注意事項を確認し、安全に活動できるようにする。	・活動の流れを示し、見通しを持たせる。
②野菜くずを観察し、まだエネルギーが残っていることを知る (10分)	I:(野菜くずを見せて)この野菜は何かを問う。 I:キャベツの芯やニンジンなどのへたの部分は、新しい葉や根が出てくる生長点であることを告げる。 I:「野菜くずを菌ちゃんにあげよう」と呼びかける。	
③菌ちゃんを使った土作りを行う (45分)	I:私たちがごはんを食べるときに良く噛むように、足で踏みつけたり、木槌を使って菌ちゃんが食べやすく小さくするよう呼びかける。 I:「私たちがつばでご飯を食べるように、ぼかしを入れよう」と呼びかける。 C:ぼかしは〇〇のにおいがする。 I:手でぼかしと野菜を混ぜてプランターに入れるよう指示する。 I:ブルーシートをかけて雨が入らないようにすることを指示する。 I:次に、みんなで「菌ちゃんを体験」させる。菌ちゃんは30分で子どもを産むことを告げ、菌ちゃんが増えるとどんな感じがするかを問う。 C:おしくらまんじゅうしているみたいで、熱いし、息苦しい！ I:菌ちゃんは熱くて息苦しくなるから、定期的に空気を入れるよう指示する。	・食べ物を踏むことが菌の代わりになることを伝える。 ・ぼかしのにおいを臭いと思わせないようにする。また、子どもが感じたにおいを褒める。 ・菌ちゃん＝バイ菌ではなく、良い菌であることを意識させる。 ・「菌ちゃん体験」とは、子どもを菌ちゃんに見立てて、菌ちゃんが野菜くずを食べながら土を発酵させる現象を実感させる体験活動。この体験活動によって、発酵により熱が発生することを実感させることができる。
④菌ちゃんの土で育てた野菜とそうでない土で育てた野菜を比較する (20分)	I:1か月経って土ができたなら、「この土で野菜を作ってみよう」と呼びかける。「菌ちゃんがたくさんいる土で作った野菜は何が違うか実際に野菜を食べ比べてみよう」と呼びかける。 C:こっちの方がおいしい。 I:菌ちゃんの野菜と、そうでない野菜を切ってそのままにしておくかどうか写真で提示し、菌ちゃんからパワーをもらった野菜は腐りにくくて、生命力があふれていることを説明する。 I:「野菜が元気になるように、みんなも菌ちゃんが入った食べ物を食べることで元気になることを告げ、菌ちゃんが入った食べ物って何かがあるかを問う。 C:納豆！味噌！ヨーグルト！ I:「菌ちゃんが入ったものをたくさん食べて元気になろうね」と呼びかける。	・どちらが菌ちゃん野菜かを教えずに食べてもらう。 ・写真で腐りにくい様子を見せる。
⑤感想を交流する (10分)	T:感想を発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。	

6 体験の評価例

- 野菜くずはゴミではなく、新しい野菜を育てるエネルギーを持っていることに気付いたか。
- 野菜作りをして、興味・関心をもつことができたか。

②大豆の変身～味噌の不思議～

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

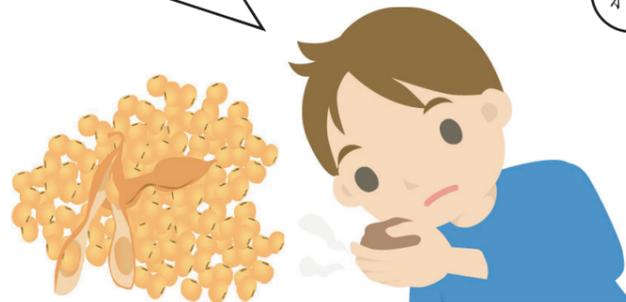
- ・実施期間 通年
- ・最大人数 30人(4・5歳児)
- ・費用 140円/100g
(大豆を持ち込む場合115円/100g)

魂 自分が育てる(見学調査する) ➡ 自分が消費する

大豆を使って味噌を作ってみよう。

①大豆の観察

大豆をかわかしておくと茶色の大豆になるんだね。茹でた大豆はいいにおいがするね。



②味噌作り

豆が柔らかくなって、美味しいにおいがするよ。菌ちゃん(麹)を入れるんだね。



(加工する・調理する・飲食する)

③完成品の味噌と比べる

こっちはおみそしるや味噌のにおいがするね。

色が濃くなって茶色になっているね。



④親子クッキング

焼きおにぎりや豚汁も、おいしそうだね。



体験活動

幼稚園教育要領・保育所保育指針上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと園の先生たちから

○幼稚園・保育園：環境

・大豆を育てていく中で、植物の生長の不思議さなどに直接触れる体験を通して豊かな感性、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われ自然とのかかわりを深めることができます。

*環境の内容

- (1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- (3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
- (5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったりかわいがったりする。
- (6) 身近な物を大切にする。

味噌作りから体験を広げる可能性

○親子で伝統の料理・食材に興味をもち味わう機会をすることを中心に学習活動を構成していくなれば…

*幼稚園 健康の内容

- (4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
- (5) 先生や友達と食べることを楽しむ。

○発酵してできる身近な食べ物を知る機会になるとともに、野菜くずで肥料作りをしたり、出来た肥料で野菜を育てたり、その野菜を再び味噌漬けにすることができれば、自然の不思議さや大切にしようとする気持ちをさらに高めることができます。

実践例 大豆の変身～味噌の不思議～

1 関連する領域名 幼稚園・保育園 環境 大豆の変身～味噌の不思議～

2 題材のねらい

- 大豆の発酵により食べ慣れている味噌ができる不思議と、菌の存在に興味や関心をもてるようにする。

3 題材の流れと体験学習の位置付け

(1) 大豆の種をまこう

- 大豆ができるまで

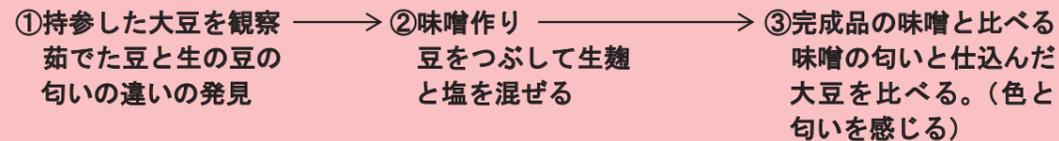
体験の前に

- ※ 蒔く場所の環境を整える。(石拾い・草とり等)
- 色々な豆を見る(色・形・大きさを比べる)
- それぞれの豆で出来る料理を見たり聞いたり味わったりする。
- 蒔いた種の生長に心を寄せる、収穫を喜ぶ。

めあての例

大豆を使って味噌を作ってみよう。

アグリパークでの体験学習(2時間)



感想の例

「菌ちゃんのパワーで味噌を作ることができるよ。」

体験の後に

- 体験のおさらいをする。(麴はどんなものか)
- 豆が味噌になる事はどういうものか想像する。
- 仕込んだ味噌を保育園に持ち帰る。

(2) 味噌になるまで(幼稚園・保育園で)

- 味噌の袋をあけて変化を見る(色・におい) 天地返し(2ヵ月後)
- 大豆はどんなふうにか変わったか
- 熟成(3ヶ月間)夏を越す

(3) クッキング

- 味噌を使った料理を考える。(焼き味噌おにぎり・味噌汁・魚の味噌焼き等)
- 親子で身近な食材でクッキングを楽しむ。
- 大豆から味噌が出来ることを親子で確認する。

4 本時のねらい

味噌を作る活動を通して、大豆が変化していくことを手触りや色、においで確かめ、発酵の不思議さに気付くことができる。

5 本時の展開例(90分=2時間)

活動の内容	教師・保育士(T)・指導者(I)・子ども(C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ(10分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:体験の流れ及び施設や道具等についての注意事項を確認し、安全に活動できるようにする。	・活動の流れを示し、見通しを持たせる。
②味噌作りをする(55分)	I:味噌作りの流れを話す。 I:茹でた豆の匂いを嗅いで、知っている食品が無いか聞きながら興味をもたせる。 C:いいにおい。 C:大豆っておいしそう。 I:ビニール袋に入れてつぶすよ。 C:やわらかい 指ではさんでもつぶせるよ。 C:おいしそう。 I:豆をつぶして生麴と塩を混ぜさせる。 C:耳たぶぐらいの固さになるまでよくまぜよう。 C:指がすっと入るぐらいになったよ。 I:団子にして容器につめさせる。 C:容器に入れるために、作った味噌を団子にしよう。できた団子をつめていこう。	・園で育てた大豆を水に浸して煮ておいたものであると説明する。 ・事前に色々な豆についての話をしておいたことを思い出すように言葉をかける。 ・仕込んだ後、どのようになるかを話し、見通しを持つるようにする。
③完成品の味噌と比べる(15分)	I:仕込んだばかりの味噌と完成した味噌を比べさせる。 C:色が濃くなって茶色になっているね。 C:家で食べているおみそするや味噌のにおいがする。 I:菌ちゃんが味噌に変身させたんだ。おいしい味噌になるまでどのぐらいかかるかな。 C:100日(約3ヵ月)以上かかるのか。 C:長い時間かけて変身するんだね。 I:「菌ちゃんのパワーでみんなが食べる味噌を作ることができるんだ。菌ちゃんが入ったものをたくさん食べて元気になろうね」と呼びかける。	・完成した味噌との色や匂いの違いを比べさせる。 ・菌ちゃんのおかげで味噌に変わったこと、時間がかかることを説明する。 ・他にも菌ちゃんのパワーで変身するものを紹介してもよい。
④感想を交流する(10分)	T:感想を発表させ、指導者にお礼を述べる。	

6 体験学習の評価例

- 味噌作りの活動に意欲的にかかわり、仕込んだばかりのものと、完成した味噌との色やにおいの違いに気付いたか。
- 味噌作りの体験活動を通して味噌の原材料に気付いたか。

③牛さん ありがとう

- ・未来のストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

- ・実施期間 通年
- ・最大人数 30人(3・4・5歳児)
- ・費用 210円/人

魂 自分が育てる(世話する・採取する) →

自分が消費する(加工する・調理する・飲食する)

牛さんのこと、たくさん知って、ふれあって、なかよしになりましょう。

①牛と牛乳のクイズ ②牛とのふれあい・搾乳

おっぱいを出すのは、お父さん牛、お母さん、それとも子どもの牛かな？

わあ、牛さんのおっぱいは、やわらかいし、あったかーい。

給食の牛乳よりもおいしく感じるね。

③餌やり(干し草をやる) ④アイスクリーム作り

子牛にあげるための牛乳を分けてくれてありがとう。

牛さんからもらった牛乳で、アイスクリームを作るよ。

わあ固まってきたね。いいにおいがするよ。やったー！できたー！

幼稚園教育要領・保育所保育指針上の位置付け

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと園の先生たちから

搾乳体験、子牛とのふれあい体験の学びの可能性

○先生や友達と牛乳を試食したり、アイスクリームを作って食べたりすることで人間関係づくりやコミュニケーション力を育むことができます。

***幼稚園 健康の内容**

(4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。

(5) 先生や友達と食べることを楽しむ。

○牛乳が製品になるまでの過程や、栄養等を知ること、給食に携わる人への感謝や自分の食習慣を高めていくことに結び付けることができます。

***小学校全学年:特別活動[学級活動]共通事項(2)「日常の生活や学習への適応および健康安全」キ「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」**

○幼稚園・保育園：環境

・牛の世話をしている人たちの話を聞いて、ふだん飲んでいる牛乳への関心を高めることができます。さらに、子牛が飲む牛乳を人間が分けてもらっていることに気づき、感謝の気持ちをもたせることができます。

***環境の内容**

(1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。

(3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。

(5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気づき、いたわったり大切にしたりする。

(6) 身近な物を大切にす。

実践例 「牛さん ありがとう！」

1 関連する領域名 幼稚園・保育園 環境 「牛さん ありがとう！」(7時間)

2 題材の目標

- ・牛と触れ合い、搾乳や餌やりなどの体験を通して、牛からお乳をもらっていることに気付いて感謝の気持ちをもてるようにする。

3 題材の流れと体験学習の位置付け

○牛さんありがとう(7時間)

体験の前に

牛乳はどこから来るの?(1時間)

- ・給食で飲んでいる牛乳はどこからくるのか、クラスで話し合っただけで考える。
- ・牛の大きさはどのくらいか、想像する。
- ・牛乳から作られている食べ物を考える。
- ・アグリパークで牛の餌やりや乳搾りをする事を知り、楽しみにする。

めあての例

牛さんのこと、たくさん知って、ふれあって、なかよしになりましょう。

アグリパークでの体験学習<4時間>

①畜産体験(搾乳体験・餌やり) → ②アイスクリーム作り

感想の例

「牛は、大きいなあ。」「乳しぼり、うまくできたよ。」「みんなで力を合わせてアイスクリームを作ったよ。」

体験の後に

楽しかったことを伝え合おう(2時間)

- ・体験を通して楽しかったこと、おもしろかったこと、びっくりしたことなど、気付いたことや感じたことをクラスで話し合う。
- ・体験を振り返り、牛から大事なお乳をもらっていることに気付かせ、感謝の気持ちをもてるようにする。
- ・楽しかったこと、感動したことを、自分なりに絵で表現する。
- ・クラス便りを通して、おうちの方へ体験のねらいや内容、子どもの様子、アイスクリームの作り方などを伝えて共通理解を図り、家庭と連携していく。

4 本時のねらい

- ・牛を見たり餌をやったりして触れ合い親しみをもつことができる。
- ・牛から大事なお乳をもらっていることを知り、感謝したり命の大切さを感じたりすることができる。
- ・牛のお乳を使い、友達と力を合わせてアイスクリーム作りを楽しむことができる。

5 本時の展開例(180分=4時間)

活動の内容	教師・保育士(T)・指導者(I)・子ども(C)	指導上の留意点
①畜産体験に期待感をもつ(10分)	T:牛の搾乳や餌やりをすることを伝え、「牛はどこにいるかな?何を食べているかな?」など興味をもてるよう話し、インストラクターを紹介する。 I:牛についてクイズや話をする。 「牛乳はどんな牛が出すのかな。牛乳は1日にどのくらいの量出すのかな。」	・パネルや牛乳パックなど視覚教材を使い、子どもの興味をもてるよう話をしていく。
②牛の搾乳をして、牛乳を飲む(60分)	I:牛を紹介し、搾乳のやり方を確認する。 手の動かし方を知らせ、やってみる。牛を優しく撫でてあいさつをしてから搾乳するよう伝える。一人一人に応じて援助していく。 C:ぼくより背が高いよ。 C:あったかい! C:おっぱい やわらかいね。 T:牛のお乳をもらったことを伝え、みんなで心を込めて「いただきます。」をする。 C:いつもよりおいしい。 C:甘いね。	・畜舎内では大きな声を出さないことを話す。 ・「指をOKの形にするよ。」など子どもに分かりやすいよう話す。 ・一人一人に応じてやり方を伝えたり、子どもに手を添えたりする。 ・試飲前にしっかり手洗いをすることを伝える。
③牛の餌やりをする(20分)	I:牛のお乳をもらったお礼に餌(干し草)をあげることを話す。 C:いっぱいおっぱいを出すから草をいっぱい食べるね。長いペロで食べるんだね。	・「どんな匂い?」等、五感で感じられるよう言葉をかけていく。
④アイスクリームの作り方を聞き、役割を分担しながら作る(60分)	I:アイスクリームの作り方を説明する。 C:混ぜる順番決めようよ。 C:ぼくがこっちを押さえているね。 C:次は、ぼくが回すよ。 C:わあ〜固まってきたよ。 C:いい匂いがする。	・材料の混ぜ方や容器の回し方を見せながら説明し、グループで作ることを伝える。 ・適宜、混ぜ方を知らせたり手伝ったりする。
⑤できたアイスクリームを食べる(20分)	T:お乳からみんなで協力して作ったことを伝え、心を込めて「いただきます。」をする。 C:やった〜できた! C:おいしいね!	・みんなで協力して出来た達成感を感じられるよう声を掛けていく。
⑥感想を交流する(10分)	T:感想を発表させ、インストラクターにお礼を述べる。	

6 体験学習の評価例

- ・牛の餌やり・搾乳体験などを通して牛に親しみを感じることができたか。
- ・牛からお乳をもらっていることに気づき、感謝の気持ちをもつことができたか。
- ・順番や役割を守り、友達と力を合わせてアイスクリーム作りをすることができたか。

次期学習指導要領を見据えた「アグリ・スタディ・プログラム」

私は、平成22年から5年間、学校支援課で教育行政の仕事に携わらせていただきました。この5年間は、小・中学校において現行学習指導要領が全面実施となった時期でもあり、思考力・判断力・表現力等の育成が重視されるなど、授業において学びの質の転換が求められました。

時を同じにして、「アグリ・スタディ・プログラム」の開発が進められました。このプログラムのよさは、学習指導要領に基づく学校のカリキュラムと連動させた農業体験学習が可能であること、併せて知識と体験とを結び付けた学びが実現できるようになっている点です。また、それぞれの学校・地域等の実態に応じて、柔軟な活用ができる工夫がされていますので、各学校のカリキュラムの編成・実施と連動させて、プログラムの自校化を進めていくことも容易であるにとらえています。

次期学習指導要領の概要も見えてきました。正解のない課題に向き合い、他者と力を合わせて解決していく中で、創造的な発想力や企画力、コミュニケーション能力、多様性を受容する力などを高めていくことが求められています。こうした力をはぐくむための実践例は、すでに「アグリ・スタディ・プログラム」に掲載されており、自校の教育課程の見直しと併せて、一層の活用を図っていきたいと考えています。

新潟市立東新潟中学校 校長 高橋 恒彦
(前新潟市教育委員会学校支援課長)



食育教育を新潟から

新潟市南区にアグリパークが開園して、1年が経ちました。プログラムの作成に少し関わった者として大変喜んでます。

全国初の公営のアグリパーク、新潟市の児童生徒にとっては、実際に触れて、見て、体験出来ることは知識の定着はもちろんのこと生涯においても貴重な経験だと思います。

また、動植物に対する敬う気持ちも重ねて育むことが出来ると確信しております。

ハード面とソフト面（アグリ・スタディ・プログラム）が両輪となり新潟の食育教育を牽引していくことと思います。

今後の更なる発展と新潟の全国の食育教育の要になることを期待して応援メッセージといたします。

新潟市小中学校PTA連合会 会長 大宮 一真



4 幼稚園・保育園編 (2) いくとぴあ食花

①朝ごはん元気いっぱい	<健康>	406
②植物の不思議 ～いろいろなものに変身～	<環境>	410
③楽しく食べよう！～おいしく食べよう 朝ご飯～	<健康>	414

①朝ごはんは元気いっぱい

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

魂 自分で育てる（見学調査する）

朝ごはんの大切さを考えてみよう。

①朝ごはんの大切さを知る

早起きをして朝ごはんをちゃんと食べると、元気に遊べるんだね。

今日の朝ごはんの元気モリモリ度をチェックしてみよう。

幼稚園教育要領・保育所保育指針上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと園の先生たちから

○幼稚園・保育園：健康

- ・朝ごはんについての体験プログラムを通して、子どもたちはその大切さを知るとともに食に対する興味・関心を高めます。そして、親子でおかず作りに挑戦し、自分で作ったものを食べることで、食べることの楽しさや喜びに気付かせることができます。

* 健康の内容

- (5) 先生や友達と食べることを楽しむ。
- (6) 健康な生活のリズムを身につける。
- (9) 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。

※子どもと保護者が一緒に参加するプログラムです

- ・実施期間 通年
- ・最大人数 30組（4・5歳児＋保護者）
- ・費用 約200円／人

自分で消費する（加工する・調理する・飲食する）

②親子で朝ごはん作りに挑戦

お母さんや友達と一緒に作ったご飯は、とてもおいしいね。

③おうちでもやってみよう

わたしが作った朝ごはん、おいしいでしょう。

朝ごはんは元気いっぱいの学びの可能性(連続性)

- 食べ物の名前や、食べ物に興味をもち、さらに食への関心を高めることにつながります。次年度の料理体験活動につながります。
- 食を通じて、素材に目を向け、素材にかかわり、素材を調理することに関心意欲をもつことにつながります。
- 体験学習を通じて、保護者にすばらしい影響を与えることができます。ぜひ、このような活動を保護者と共に行うことにより、家庭に継続的に働き掛けてください。
- 親子で体験学習をすることにより、家庭での親子の会話の内容が多様になり、一層深まりをもったものにすることができます。

実践例 「朝ごはんは元気いっぱい」

1 関連する領域名 幼稚園・保育園 健康（6時間）

2 題材の目標

- ・「とっても大切朝ごはん」の活動で朝ごはんの大切さを知ることができるようにする。
- ・親子でおかず作りに挑戦することを通して、食事への興味や関心を高め、進んで食べようとする意欲をもつことができるようにする。

3 関連する領域の流れと体験の位置付け

○食べ物について知ろう＜6時間＞

体験の前に

○毎日の食育指導を通して、食事の役割や栄養について知る。＜1時間＞

- 「3色の食品」（3つの食育群のお話）
- 「野菜のはたらき」（野菜を食べることの大切さ）
- 「おやおやもったいない」（食事は残さず、バランスよく食べよう。）
- 「牛乳のお話」（カルシウムの不足が体に与える影響）
- 「ご飯のお話」（米の持つ栄養）



めあての例

朝ごはんの大切さを考えてみよう。

食育・花育センターでの体験学習＜4時間＞

- ①「とっても大切朝ごはん」（エプロンシアターを見た後、朝ごはんのモリモリ度をチェックする） → ②朝ごはん作りに挑戦（百点満点の食材を使った、手軽にできるおかず作りを親子グループで行う） → ③試食と確認（できあがった朝食の栄養バランスを確認し、食べてみる）

感想の例

「朝ごはんを食べると元気にすごせるよ。」「栄養のバランスも大切だよ。」



体験の後に

- ・休日を利用して、家庭で朝ごはんを作り挑戦する。
- ・家族みんなで朝ごはんを食べる。
- ・「私の家の朝ごはん紹介カード」を親子で作成する。
- ・カードを園内に掲示したり、園だよりで活動の趣旨や様子を紹介したりして、ほかの学年の親子にも活動を働き掛ける。

4 本時のねらい

- ・体験プログラム「とっても大切朝ごはん」で朝食の役割やバランスのよい食事について知ることができる。
- ・おかず作りを体験することで、食事への興味や関心、食べることへの意欲をもつことができる。

5 本時の展開例（180分＝4時間）

活動の内容	教師・保育士（T）・指導者（I）・子ども（C）	指導上の留意点
①「エプロンシアター」を見る（15分）	T:活動内容を確認し、インストラクターを紹介する。 I:早寝・早起き・朝ごはんの大切さをエプロンシアターで知らせる。 C:朝ごはんを食べると元気に遊べるんだね。 C:朝ごはんをしっかり食べられるようにするには、早寝・早起きが大事だね。	・「エプロンシアター」とは、早寝・早起き・朝ごはんの大切さを幼児にも分かりやすいように食育・花育センターの職員がプロジェクターや資料を使いながら演じるものです。
②「食事バランストークキング」で、朝ごはんのバランスを考える（15分）	I:「食事バランストークキング」で理想的な朝食と問題のある朝食を比較させたり、食品の栄養素についてのクイズを行ったりする。さらに、各家庭の朝食について、バランスがとれているか、親子にチェックさせる。 C:どんなおかずだとバランスがいいのかな。 C:よい朝食は、いろいろな色の栄養がきちんと入っているよ。 C:私の家の朝ごはんは、満点だったよ。	・「食事バランストークキング」とは、どのような朝食がよい朝食なのか、栄養バランスはどうなのかなどを、幼児にも分かりやすいように食育・花育センターの職員がプロジェクターや資料を使いながら演じるものです。
③季節の野菜を使って手軽にできるおかず作りをする（80分）	T:幼児と保護者を○組ずつのグループで分ける。 I:ご飯を炊いたり豚汁を作ったりする手順を説明する。 C:ご飯はお米をといでから炊くんだね。 C:お米をといだら水が白くなったね。 C:わたしは大根の皮むきに挑戦しよう。 C:野菜は食べやすい大きさに切るんだね。 C:味付けはお母さんお願いね。 C:できあがったら茶碗とお皿に盛りつけよう。	・子どもが包丁を持ったり、煮炊きしたりするなど、どの程度調理に参加するかは、保護者が子どもの実態に応じて決め、実践してもらおう。
④できあがった朝食の栄養バランスを確認し、試食する（60分）	I:ワークシートを配付し、できあがった朝食の栄養バランスをチェックするよう指示する。 T:「いただきます」の声を掛ける。 C:炊き立てのご飯はとってもおいしいね。 C:野菜もみんな食べられたよ。もっとおかわりしたいな。 I:後片付けを指示する。	・栄養バランスのチェックの仕方を説明する。
⑤感想を交流する（10分）	T:感想を発表させ、インストラクターにお礼を述べる。 I:「ぜひおうちにも、朝ごはん作りにチャレンジして、家族みんなで楽しく食べてみてくださいね。」と働き掛ける。	

6 体験学習の評価例

- ・朝ごはんの大切さについて知ることができたか。
- ・保護者や友達と一緒に進んで調理に取り組み、残さず食べようとしているか。

②植物の不思議 ～いろいろなものに変身～

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

魂 自分で育てる（見学調査する） →

稲を使っているいろんなことをしてみよう。

①稲を育てる・近所の田んぼを見せてもらう

稲って小さい時はこんななんだね。どんなふうに大きくなるのかな。



大きくなるとこんな風になるんだね！稲の穂についてのお米は食べられるけど、残った藁はどうするのかな。



幼稚園教育要領・保育所保育指針上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと園の先生たちから

○幼稚園・保育園：環境

- ・普段、身近にある植物や花は見て楽しむだけでなく、いろいろなものに変身するという事を知り、子どもたちは植物や花に、より興味をもって接することができます。自分が育てた植物を紙にする体験をすることで物を大切にする心・「なんで・どうして」と不思議に思い考える力の素を育てます。

* 環境の内容

- (1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- (2) 生活の中で様々なものに触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。
- (4) 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。
- (5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。

- ・実施期間 5月中旬～3月下旬
- ・最大人数 30～60人（4・5歳児）
- ・費用 100円/人（動物のえさ代）

自分で消費する（作品にする）

②藁を使ってお絵かき体験



藁にはこんな使い方もあるんだね！稲ってよくみるとこんな風になってるんだね。

③動物と触れ合う



動物は野菜だけでなく、藁も食べるんだね。藁はベッドにもなるんだね。

植物の不思議からの学びの可能性

- 自然の恵みとしての食材や、それを育て、調理し、食事を整えてくれた人への感謝の気持ち、命を大切にする気持ちなどを育むことができます。また、子どもの活動のバランスに配慮し、進んで食べようとする気持ちを育み、食と命の関わりなどを実感したり、体験したりすることにつながります。
- （5歳）児が幼稚園の畑で栽培しているサツマイモや大根等、この季節ならではの野菜をおかずの材料として利用することで、幼児は、それらの野菜に親しみを感じるとともに、次年度（年長）に行う栽培活動への意欲をもちます。

実践例 「植物の不思議～いろいろなものに変身～」

1 関連する領域名 幼稚園・保育園 環境「植物の不思議～いろいろなものに変身～」

2 ねらい

- ・稲を育て、自分で世話し触れる経験や、稲を使った活動を通して、稲に興味・関心をもつことができるようにする。稲への興味を通じて、動物の生活にも興味をもち、触れ合って楽しむことができるようにする。

3 関連する領域の流れと体験の位置付け

(1) 稲を育てて観察しよう

- ・幼稚園・保育園でバケツを使用し、稲の栽培をする。
※稲の苗をバケツに植え、大きくなる様子を観察する。
- ・近所の田んぼを見せてもらい、幼稚園・保育園のバケツ栽培の稲と比較する。
※自分たちが育てていることで、より興味を持って田んぼの稲を見ることができる。
自分たちの育てている稲との違いや、色が変わっていく様子を、散歩をしながら観察する。

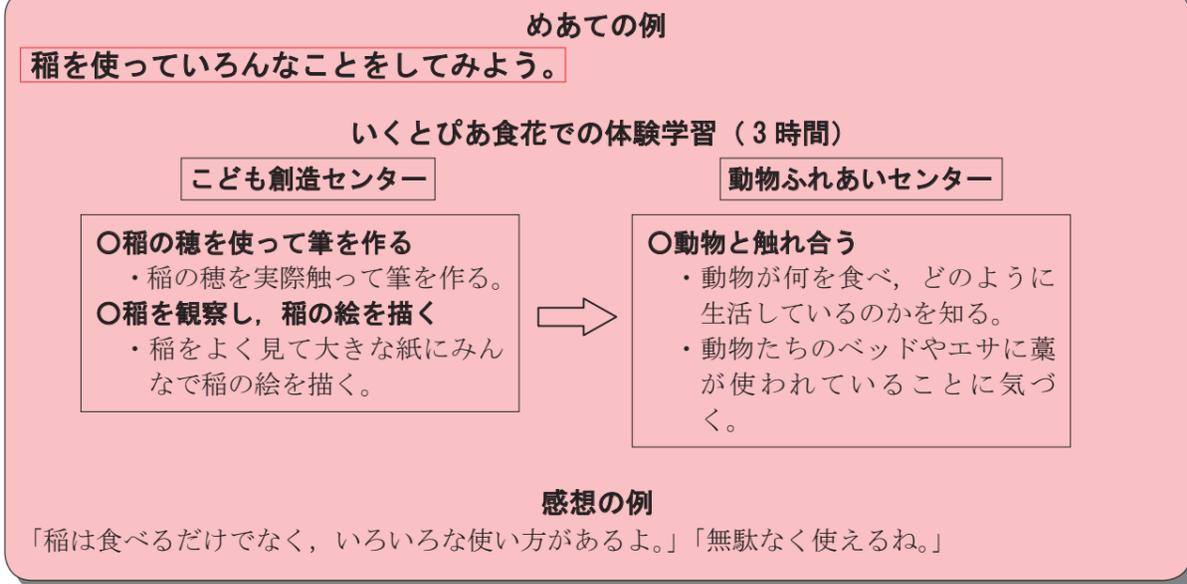
(2) 稲の収穫

- ・稲の穂が膨らみ、収穫できる天気の良い日に、稲を収穫する。
- ・とった穂はビンに入れて、割り箸でもみがらを入れ脱穀する。
- ・藁は風通しの良い所に乾かし、保存する。
※藁は乾燥させて、こども創造センターでの体験時に持って行く。

(3) 植物を変身させよう (5時間)

- ・稲を観察し穂が実ったら、米は収穫、残った稲藁は乾燥させて保存しておく。
- ・収穫した稲は脱穀し、実際食べる経験をする。

体験の前に



体験の後に

- ・体験のおさらいをする。
(稲はどのようにになっているのか・何色だったか・どんな触り心地だったか)
(動物はどのようにして生活をしているのか・どんなものを食べ、ベッドにしていたか)
(稲はどのように形を変えて私たちの身の回りで役に立っているのか)

4 本時のねらい

- ・普段口にしてのお米は、どのように育っているのかを知り、興味をもつことができる。
- ・稲の穂の部分(お米)だけでなく、他の部分も無駄なく使うことができると知り、実際体験することで、お米や稲により興味をもつことができる。

5 本時の展開例 (135分=3時間)

活動の内容	教師・保育士(T)・指導者(I)・子ども(C)	指導上の援助・留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:学習の流れ及び施設や道具等についての注意事項を確認し、安全に活動できるようにする。	・活動の流れを示し、見通しをもたせる。
②稲を観察し、その特徴や仕組みについて理解する (15分)	I:稲の構造や、生え方、姿に関するクイズを行い、稲の特徴に気付かせる。 C:「こんな風になってる。」(身体で表そうとする。) I:稲の穂の部分は何に使うか問いかける。 C:「お米!ごはん!」 I:藁の部分も何かに活用できないか問いかけ、植物の命を無駄なく使うことの大切さに気付かせる。	・稲について考えることができるように声をかける。 ・穂の部分がお米になることは知っているが他の部分(稲藁やもみ殻)がどうなるのか
③稲を使って絵を描く (60分)	I:今から藁を使ってお絵かきをすることを園児に伝える。 C:稲の穂を使った筆を作り、稲を観察しながら茎の部分を使って絵を描く。 I:蛍光絵の具で作画し、完成後ブラックライトを当て、沢山の稲穂が光り田んぼのようであることを楽しむ。 C:「きれい!」「緑色や黄色に光っているよ!」 I:お絵かき体験から、稲の穂の使い方に気付く。稲の穂の他の使い方があるか問う。 I:動物も稲の穂を使っていることを伝え、どのように使っているのか想像させる。 C:食べているんじゃないかな。	・稲はどのようにになっているのか観察しながら楽しんで活動することができるようにする。 ・加工することに興味をもてるようにする。
④動物ふれあったり、動物にエサをやったりする (45分)	I:園児に今朝何を食べたかを問いかける。 C:「パン」「ごはん」など答える。 I:動物が何を食べているのかを問う。 C:「野菜」など知っていることを答える。 I:エサやり体験をする。体験の際に動物が何を食べたか注目させる。普段どんな場所で寝ているのかを聞いて、動物はどんな寝床で寝ているかを想像させる。 C:動物に触れたり、エサやりをしながら動物の様子を観察する。 I:動物が野菜や草を食べていること、ベッドには藁を使っていたことを確認する。 C:藁はいろいろなところに使っているんだね。 I:稲は上の部分(穂の部分)はごはんにして食べられ、下の部分(藁)は動物はベッドにしたり、食べていることを確認する。もみがらも、トイレに使うことができ、稲は残す所なく使えることを伝える。	・自分の生活と比べて動物はどのように生活しているのか考えてたり、触れ合ったりすることができるように声をかける。 ・生活を見るだけでなく、動物に触れて、身近に感じることができるようにする。 ・動物を怖い・臭いと思わないよう、保育士や指導者が動物と関わる姿を見せ、一緒に触れてみるなどする。
⑤感想を交流する (10分)	T:感想を発表させ、インストラクターにお礼を述べる。	

6 体験学習の評価例

- ・稲にはいろいろな使い方があり、余すことなく使うことができると気付くことができたか。
- ・稲の特徴をよく観察し、楽しみながら活動することができたか。
- ・動物と触れ合いながら、動物の生活や食べ物に興味をもつことができたか。

③楽しく食べよう！ ～おいしく食べよう朝ご飯

- ・ 未来へのストーリー ★★★★★
- ・ 命のストーリー ★★★★★
- ・ 郷土愛のストーリー ★★★

～

- ・ 実施期間 通年（焼成のみ、後日お渡し）
- ・ 1班最大人数 20人程度（1グループあたり）
- ・ 費用 200円/人

が 魂
自分で育てる（見学調査する）

自分が消費する（飲食する・作品にする）

朝ごはんの大切さを考えてみよう。

①「とっても大切朝ごはん」 ②箸の使い方を知る

エプロンシアターを見て朝ごはんの大切さを知ろう！私たちの朝ごはんはバランスがとれているかな？

箸の上げ下ろしの仕方、わかるかな？こうやって持つとカッコよく食べられるね。

③オープン粘土で箸置きづくり

どんな箸置きを作ろうかな？

④家庭で箸置きを使って食事をする→家庭での食育の実践へとつなげていく。

幼稚園教育要領・保育所保育指針上の位置付け

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと園の先生たちから

○幼稚園・保育園：健康

- ・ 「とっても大切朝ごはん」のプログラムを体験し、食物と体とのつながりについて学ぶことができます。また、オープン粘土で箸置きを作り、食事への期待感を高め、箸の使い方や、簡単な食事のマナーについて知ることができます。

* 健康の内容

- (4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
- (6) 健康な生活のリズムを身に付ける。
- (7) 身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分でする。

楽しく食べようの学びの可能性

- バランスのとれたよい食事をとることが、自分の健康な身体を作ることになることを理解することができます。また、そのような観点で自分の家の食事を見直すことができます。
- 自分のための箸置きを作り、それを使うことにより、日本人が昔から食べることや食べるための礼儀を大切にして生活してきたことに気付くことができます。
- 箸を自宅（または園）から持参することにより、箸置き作りや箸の使い方を学ぶことに対する期待感と意欲を高めます。また、家族への意識付けにもつながり、家庭との連携が生まれます。

実践例 「楽しく食べよう！」～おいしく食べよう朝ごはん～

1 関連する領域名 幼稚園・保育園 健康

2 ねらい

- ・「とっても大切朝ごはん」のエプロンシアターで、朝食をとることの大切さを知る。
- ・オープン粘土での箸置き作りを楽しみ、箸の使い方や食事のマナーについて学ぶ。
- ・自宅または園で使用している箸を持参することで、体験後の家庭での食育の実践につなげる。

3 関連する領域の流れと体験の位置付け

(1) 朝ごはん、何食べてる？ (4・5時間)

体験の前に
・朝食べてきたものをワークシートに書き出し、絵で描いてみる。ワークシートはいくとびあでの体験学習時に持参する。

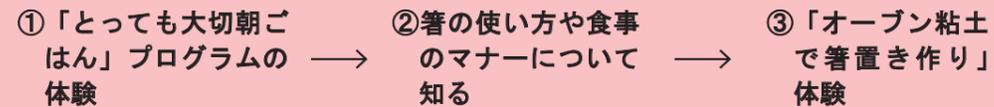
※「朝ごはんを食べてこないと、元気に遊べるかな?」「こんな朝ごはんだったら、元気が出るかな? (例・菓子パンとジュースなど)」と問いかけてみる。

※「自分の箸を使って上手に食べているかな?」「箸を上手に使えるかな?」と問いかけてみる。いくとびあで自分の箸に合う箸置きを作り、箸の使い方や食事のマナーについて勉強することを伝える。

めあての例

朝ごはんの大切さを考えてみよう。

いくとびあ食花での体験学習<2.5時間>



感想の例

「朝ごはんを食べると元気に過ごせるよ。」「箸置きのできあがりを楽しみだ。」「箸を使うのがまだ難しいけど、がんばりたい」

体験の後に

- ・体験のおさらいをする。
- ・朝ごはんの大切さについて学んだことを友達と一緒に振り返る。
- ・箸置き作りの感想、箸の使い方や食事のマナーについて、友達と話し合う。

(2) 箸置きを使って食事をする

- ・和食献立の日を選び、自分たちで作った箸置きを使って、給食を食べる。
- ・箸の使い方や食事のマナーについて習ったことを振り返り、正しく箸を使う。
- ・料理を並べる場所(主食、副菜、汁物など)を確認しながら、楽しく食事をする。

(3) 家庭との連携

- ・朝ごはんの大切さについて、子どもたちが学んだことを知らせ、バランスのとれた食生活を家庭でも心がけてもらえるようにする。
- ・作った箸置きを家庭に持ち帰り、食事の際に使ってもらうようにする。手作りの箸置きを使い、家族と食卓を囲むことで、豊かな食生活につなげていく。

4 本時のねらい

- ・朝ごはんの大切さについて知り、食物と体との関係について学ぶことができる。
- ・「オープン粘土で箸置き作り」を体験することにより、箸の使い方や食事のマナーについて知ることができる。

5 本時の展開例 (90分=2時間)

活動の内容	教師・保育士 (T)・指導者 (I)・子ども (C)	指導上の援助・留意点
①めあてをつかむ (10分)	T:めあてを確認し、指導者を紹介する。 I:学習の流れ及び施設や道具等についての注意事項を確認し、安全に活動できるようにする。 C:今日は何が出てくるのだろう。	・活動の流れを示し、見通しをもたせる。
②「とっても大切朝ごはん」のエプロンシアターを見る (15分)	I:エプロンシアターを行う。「早寝・早起き・朝ごはん」のシナリオを参考にすすめる。 I:2種類の食事(朝食一食分のそのまま料理カード)を見せ、どちらが元気モリモリになれる朝食だと思うか聞いてみる。 C:「ごはんを食べたほうが元気モリモリになる。」「いろいろなものを食べたほうがいい。」 C:僕の家はどっちのごはんかな? I:2種類の食事バランスがどうか、☆の数で示す。	・正しい生活習慣を身につけることや朝ごはんの大切さをエプロンシアターなどで分かりやすく伝える。 ・バランスのよい食事、よくない食事について紹介し、自分の朝ごはんのバランスをチェックできるようにする。
③箸の使い方や食事のマナーなどについて知る (20分)	I:「めざせ!はし使い名人」プログラムを幼児向けにして、わかりやすく説明、実施する。箸置きの使い方についても知らせ、完成を楽しみにできるようにする。 C:自分で作った箸置きを早く使ってみたいな。 C:箸置きの上に箸を置くと、大人になったみたいでカッコいいよ。 C:箸の使い方がやっぱり難しいよ。 C:練習して絶対にうまくなろう。	・箸や箸置きの使い方など、食事の簡単なマナーについて実際に見せながら、分かりやすく知らせる。 ※作った箸置きの当日持ち帰りは原則できない
④「オープン粘土で箸置き作り」を行う (35分)	I:「いい朝ごはん」「元気モリモリのごはん」がわかったら、今度は正しい箸の使い方や食事のマナーがあることを子どもたちに知らせ、箸置き作りの導入をする。箸置きを使用する意味を説明する。 C:お箸の持ち方って、とっても難しいよ。いつもお母さんに教えてもらっているよ。 C:ぼくは、ちゃんと箸を持てるよ。 C:箸置きがあると、箸の先が汚れたりしないから、いいね。 T:自分の分だけでなく、家族の分も作れることを伝える。(家族の人数分、各個人で等分してから制作に入る) C:箸置きは、持っていないよ。早く作りたいな。 C:うまできそうだよ。	・箸をきちんと使って、きちんと置くための箸置きを作ろう。 ・箸置きの役割を伝える。 ・箸置きは、古くから日本で使われていたことを知らせる。 ・オープン粘土の手触りを楽しみながら、イメージしたものを形にできるようにする。
⑤感想を交流する (10分)	T:感想を発表させ、指導者にお礼を述べる。 I:できあがったら先生に取りに来てもらうので、楽しみに待っていてね。	※約1週間で完成

6 体験学習の評価例

- ・朝ごはんの大切さについて知ることができたか。
- ・オープン粘土での箸置き作りを体験して、箸の使い方、食事のマナーなどについて学ぶことができたか。

農業特区効果を活かした教育ファーム

全国初の公立教育ファームである「アグリパーク」をはじめ、「いくとぴあ食花」や地域の農家などにおいて、本市の子どもたちの農業体験学習（アグリ・スタディ・プログラム）が実践され、この取り組みを指導・サポートする市民ボランティアによる活動が広がっています。

昨年、農業特区に指定された新潟市のもう一つ魅力は、「新潟発 わくわく教育ファーム」推進事業です。

国内外の子どもたちから、東アジア文化都市交流をはじめ、学校・園などでの様々な行事や交流の機会を通して、本市の誇る食と農の素晴らしさを知っていただき、興味・関心を高めていただきたい。

こうしたなか、「アグリ・スタディ・プログラム」（改訂版）の発行により、プログラムが充実され、学校や園などの実践に応じた選択が広がり、ふるさと新潟の魅力がさらに創出されます。

また、農業特区効果も活かし、地域の農家自ら取り組む「民間教育ファーム」へと繋がるものと期待しています。



前新潟市食育・花育センター所長 大谷 善秋

アグリ・スタディ・プログラムの活用、そして個性化へ

この度の改定版の発行、誠にありがとうございます。プログラム策定委員をはじめ関係者の御努力に敬意を表します。

改定版の完成により平成27年度から各学校の取組がより深まり活発化されていくものと期待しています。

このプログラムが主に実施されるアグリパークは全国初の公立教育ファームであり、そこで活用されるアグリ・スタディ・プログラムはこれも全国初と言える取組で、丁寧な実践と検証を重ねながら体系的に策定されたものです。

この二つの実績は田園型政令市を標榜する本市の誇りとなるものでしょう。

さて、改定版が完成したことにより、市内の全ての保育園・幼稚園、小中学校、特別支援学校などでは、プログラムの選択の幅も広がり、今まで以上に農業体験学習～私たち人間は他の動植物から命を頂いて生きているということを実感できる～に取り組んでいただき、体験を通じて子どもたちに「命の大切さ」を学んでいただけるものと思います。

今後は、各学校と教育ファーム関係者などで地域の風土にあった各学校独自の個性的なアグリ・スタディ・プログラムを開発、編成し、そのプログラムの実践に繋いでいくことが考えられます。そのプログラムで農業体験学習した子どもたちが増えていくことは、食と農を通じた人づくりと農業活性化という本市の目指す方向により結びついていくものと確信しています。



元新潟市教育ファーム推進担当ディレクター 佐藤 信幸

4 幼稚園・保育園編 (3) 園庭

①サツマイモ大好き	<環境>	420
②菌ちゃんで元気な野菜づくり	<環境>	424
③何ができるのだろう？みんなで野菜づくり！	～野菜で漬物づくり～		
	<環境>	432

① サツマイモ大好き

- ・未来のストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

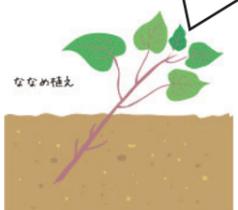
・実施期間	5月上旬～10月中旬
・1班最大人数	30人(3・4・5歳児)
・費用	約300円/人

が魂 自分が育てる(植える・世話する・収穫する)

みんなで芋掘りをしよう。

① 畑で苗植え ② 世話と観察 ③ 収穫

大きなサツマイモを育てよう！
畑を耕し、サツマイモの苗を植えよう
穴をあけて斜めに苗を差し込むよ。



水やり，草取りをしながら大切に育てよう。
水や肥料はやりすぎないようにね。
土の中でどんなふうにいるか楽しみだね。



ツルをひっぱってみよう。
いろいろな形や大きさのサツマイモがあるね。
大きいイモがとれたよ。



体験活動

幼稚園教育要領・保育所保育指針上の位置付け

確かな学び

プログラムを考えた専門家の人たちと園の先生たちから

○幼稚園・保育園：環境

・サツマイモの栽培，収穫をすることで，自然の力の大きさ，不思議さなどに直接触れる体験ができます。その体験を通して，幼児の心が安らぎ，豊かな感情，好奇心，思考力，表現力の基礎を培うことができます。

*環境の内容

- (1) 自然に触れて生活し，その大きさ，美しさ，不思議さなどに気付く。
- (3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く
- (5) 身近な動植物に親しみをもって接し，生命の尊さに気付き，いたわったり，大切にしたりする。
- (6) 身近な物を大切にする。

➡ 自分が消費する(調理する・飲食する)

みんなでサツマイモを使った料理を作ろう。

④ サツマイモを使ってお料理しよう ⑤ みんなでおいしく食べよう

サツマイモをおいしく食べる方法を聞いたり，相談したりしよう。
茎も食べられるよ。きんぴらを作ろう。



同じサツマイモで，いろいろな味を楽しもう。
サツマイモのツルはどんな味がするか食べてみよう。



サツマイモの収穫体験・調理体験の学びの可能性

○サツマイモの調理体験を通して，和やかな雰囲気の中で教師や他の幼児と食べる喜びや楽しさを味わったり，様々な食べ物への興味・関心や進んで食べようとする気持ちを育てることができます。それが，望ましい食習慣の形成につながり，健康な心と体を育てていくという観点で構成するならば…

* 幼稚園・保育園 健康

ねらい

○健康，安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。

内容

- 様々な活動に親しみ，楽しんで取り組む。
- 先生や友達と食べることを楽しむ。

実践例 「サツマイモ大好き」

1 関連する領域名 幼稚園・保育園 環境 「サツマイモ大好き」

2 題材のねらい

- 身近な食べ物の一つであるサツマイモを掘ることで収穫の喜びを味わい、また掘ったサツマイモで調理体験することで食への興味・関心が高まるようにする。

3 題材の流れと体験学習の位置付け

(1) 幼稚園の畑のサツマイモを収穫しよう

- 春にサツマイモの苗や夏野菜の苗を畑に植えて育てながら、その生長を観察する。
- 絵本や図鑑などを見たり、サツマイモ畑の変化に気付いたりしながら生長に期待をもつ。
- 収穫したサツマイモの形や大きさ、ツルや葉の様子をよく観る。

(2) サツマイモをおいしく食べよう

- 収穫したサツマイモをみんなで美味しく食べる方法を考える。
- サツマイモを使った料理を調べたり、聞いたりしながらどんなものをつくりたいか相談する。
- みんなで、蒸かしイモ等でサツマイモの味を楽しむ。
- 年少年中児にふるまい、収穫の喜びをみんなで感じ合う。

(3) 芋掘りをしよう

- 畑へ行ってみんなでサツマイモ掘りに期待をもつ。
- 農家の人にサツマイモについて教えてもらおう。

体験の前に

めあての例

みんなで芋掘りをしよう。

幼稚園・保育園での体験学習（その1）＜2時間＞

- ①サツマイモクイズ…おいもはどこにどんなふうには生長しているのか教えてもらったり確認したりする。水や肥料について知る。
- ②サツマイモ掘り体験…手で土やサツマイモの感触を感じながら収穫する。
- ③サツマイモ比べ…なかよし畑のサツマイモと農家の人が作ったサツマイモをくらべる。よりよい世話の仕方について教えてもらったり、確認したりする。
- ④サツマイモの美味しい食べ方について教えてもらったりする。

感想の例

「お芋がたくさんとれたよ。」「お芋を使って料理してみたいな。」「農家の人が作ったお芋は大きいな。」

(4) 調理・味見体験

- 絵本を見たり、友達と話をしたりしながら様々なサツマイモの食べ方に興味をもつ。
- サツマイモの甘い味を生かしてお料理が作れることを聞いて、自分たちが何を作りたいかを話し合い期待感を高める。
- 5～6人のグループになり、グループごとに作る物の見通しをもつ。

体験の前に

めあての例

みんなでサツマイモを使った料理を作ろう。

幼稚園・保育園での体験学習（その2）＜2時間＞

- ① スイートポテト、茎のきんぴら、石窯焼きいもを作る。
- ② 作り方や手順をよく聞いて役割を分担しながら安全に作業をすすめる。
- ③ 出来上がった料理をみんなで見合い、分け合って楽しく食べる。
- ④ 食べた後の感動や味わいを言葉にして伝え合う。

感想の例

「皮をむくのが大変だったけど、おいしくできたよ。」「家でもやってみよう。」

<1>芋掘りをしよう

4 本時のねらい

サツマイモ畑の自然と土に親しむことができる。サツマイモの育ちを学び、収穫の喜びを感じることができる。

5 本時の展開（90分＝2時間）

活動の内容	教師・保育士 (T)・専門家 (P)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかみ、芋掘りに期待感をもつ (10分)	T:芋掘りをすることを話し、農家の方を紹介する。 T:サツマイモ〇×クイズをだすよ。 T:農家の方への質問を聞く。 P:質問できたことをほめ、子どもの質問に答える。	・元気にあいさつをして、期待感をもって活動に入れるようにさせる。 ・疑問や不思議に思ったこと聞き、よりサツマイモに興味関心がもてるようにする。
②芋掘りの準備をする (10分)	T:畑での注意事項と掘り方を確認する。 T:大切なお芋を傷つけないようにね。	・傷つけないよう丁寧に掘り、大切に扱うよう言葉掛けをする。
③芋掘りをする (40分)	C:なかなか抜けないね。 C:茎が切れちゃったよ。	・全員が協力して芋掘りができるように、子どもを観察する。
④掘ったサツマイモの様子を見る (10分)	T:すごいね。いろいろなお芋があるね。 C:大きいおいも見つけた。 C:小さなおいももあったよ。	・収穫した芋を互いに見せ合い、大きさ、形、重さ、数などにも興味、関心をもてるようにする。
⑤美味しいサツマイモの食べ方を聞く (10分)	P:甘さを引き出す方法について話をする。 T:今度はこのサツマイモを使っておいしいお料理をしようね。	・自分たちで掘ったサツマイモを自分たちで調理することに期待がもてるように話をする。
⑥感想を交流する (10分)	C:手が黒くなっちゃった。 T:手が黒くなった人は、がんばった証拠だね。 C:早く食べたいな。 T:感想を発表させる。	・土やアクを石鹸を使ってよく洗うように声を掛ける。 ・農家の方に感謝の気持ちをもてるようにお礼を言って終わる。

<2>調理・味見体験

4 本時のねらい

自分たちで収穫したサツマイモを調理し、食材への関心と食べ物を大切に作る気持ちをもつことができる。

5 本時の展開（90分＝2時間）

学習活動	教師・保育士 (T)・専門家 (P)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:みんなで掘ったサツマイモを使って料理をしようと呼び掛ける。	・期待感をもって、活動に入れるようにさせる。
②サツマイモで様々な料理ができることを知る (5分)	T:自園で可能な調理を紹介する。 C:私はスイートポテトを作るよ。 C:私は茎のきんぴらを作るよ。 C:ぼくは石窯焼き芋をつくるよ。	・事前に子どもたちと約束について話し合い、調理器具を安全に使う調理が進められるようにする。
③作り方や手順を聞いて、役割を分担しながら作業をすすめる (70分)	T:約束を守って調理しようと呼び掛ける。 C:サツマイモを切るよ。 C:茎の皮むきは大変だね。 C:サツマイモを新聞紙に包んで水で濡らすんだ。	・作業の進行具合を見て、他のグループの作業を手伝うように促す等調整を図る。また、他のグループにも目を向け、興味・関心が広がるように声を掛ける。
④みんなで食べ、感想を交流する。 (10分)	T:素晴らしい料理ができたことを賞賛し、分けて食べるよう促す。 T:サツマイモがいろいろなお料理に変身したね。 C:自分でお料理すると、なんだかすごくおいしくなるね。 T:感想を発表させる。	・様々な料理になったことが分かり、十分に味わって食べられるように言葉掛けをする。 ・子どもたちが気付いたこと、感じたことなどを、楽しく会話しながら食事を楽しみ、食への喜びが味わえるようにする。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
自己発揮	思ったこと、感じたことを表しながら芋掘りや調理体験を楽しむことができたか。	行動観察
人や遊びとのかわり方	友達と一緒に、様々なものに興味・関心をもつことができたか。	行動観察
集団における規範意識	話をよく聞いて、約束を守りながら芋掘りや調理体験ができたか。	行動観察

②菌ちゃんで元気な野菜作り

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★

- ・実施期間 4月上旬～7月下旬
- ・最大人数 40人
- ・費用 約2,700円(1クラス分)

が魂 自分が育てる(見学調査する・植える) →

菌ちゃんの力で土づくりをしよう。

①持参した野菜くずの観察

野菜の皮や「生長点」に栄養がたくさんあるよ。今日はみんなが食べられないから菌ちゃんに食べてもらおう!



②土作り

菌ちゃんのごはんは野菜くず。野菜くずにはすごいパワーがあるんだよ。みんなで野菜くずを小さくして菌ちゃんが食べやすいようにしましょう。



幼稚園教育要領・保育所保育指針上の位置付け

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと園の先生たちから

○幼稚園・保育園：環境

・ゴミになるはずの野菜くずを使った野菜づくりを通して、子どもは自然の不思議さや命がつながっていることに心動かされます。そして、子ども自身がリサイクルによる野菜づくりに参加することにより、環境に優しい人になろうとする気持ちを育むことができます。

*環境の内容

- (1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- (3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
- (5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり大切にしたりする。
- (6) 身近な物を大切にす。

自分が消費する(加工する・調理する・飲食する)

菌ちゃんの土を使って野菜の苗を植えてみよう。 野菜を収穫して料理をつくろう。

③野菜づくり

大きくなっておいしい野菜ができるといいね! どのような世話をすればいいのかな?



④野菜の収穫・食味

おいしそうな野菜がたくさんできたよ。みんなで食べてみよう! 味噌汁にもできるかな。



菌ちゃんリサイクル野菜作りの可能性

- 野菜の生長を楽しみにして育てるという観点で
毎日様子を見たり、水やりなどのお世話をしたりして、自分たちが育てた喜びと、小さな苗がどんどん大きくなっていく命の不思議さを感じていけるようになります。
- 子育て支援という観点で
保護者からも菌ちゃんの土作りに参加してもらい、元気な土で作る野菜の良さやおいしさを知ることによって、子どもたちの普段の食生活を見直すなど食育に興味をもってもらうことができます。また、元気な土の野菜づくりを通して、親子で生長を楽しみにしたり、食べることを喜んだりすることで、触れ合いの機会をつくることができます。

実践例 「菌ちゃんで元気な野菜づくり」

1 関連する領域名 幼稚園・保育園 環境 菌ちゃんで元気な野菜づくり

2 題材のねらい

- 野菜くずを活用した土づくりや野菜を育てる体験を通して、菌と土の不思議さに気付き、自然の事象に興味や関心をもつことができるようにする。
- 子育て支援の視点から、保護者からも参加してもらい、菌ちゃんの土づくりを通して、食育に興味をもたせるようにする。

3 題材の流れと体験学習の位置付け

(1) 土づくり (5時間)

- 体験の前に
- 家庭から出る野菜くずを持ってくる。
 - ※野菜の皮、芯、へた、サヤ、タネなどをより多く確保する。特にキャベツの芯やカボチャの種は、大きい生長点がたくさんついていて、子どもたちが観察しやすい。生ごみは、新鮮でなければならない。腐っている生ごみは使えない。暑くて腐りやすい季節は当日の生ごみが一番よい。前日集めた生ごみは日に当てると熱さで腐る場合があるので、数日前のものでも冷蔵庫で保管しておく。
 - ※保護者に対して事前に説明をし、協力してもらうようにする。野菜くずを細かくして、元気土を作る際にも子どもたちと一緒に参加してもらうようにする。

めあての例

菌ちゃんの力で土づくりをしよう。

幼稚園・保育園での体験学習 <5時間>

- ①持参した野菜くずの観察 (野菜の種類、皮のバリアや生長点の発見) → ②幼稚園の畑による土づくり (野菜くずを細かくし、ぼかしを混ぜ、土に入れる)

感想の例

「菌ちゃんの力はすごいな。」「いい土ができそうだよ。」

- 体験の後に
- 体験のおさらいをする (皮のバリア、生長点、病気を引き起こす菌だけではない、など)。
 - 菌ちゃんとはどういうものか、土づくりをした土がどうなるかを想像する。
 - 土がどのように変化していくのか体感する (菌ちゃんを見る、土のあたたかさを感じる、など)。

(2) 土づくりのお世話 (体験の前後省略)

めあての例

菌ちゃんを見てみよう。

幼稚園・保育園での体験学習 <1時間>

- ①1回目の土混ぜ (3日後) → ②2回目の土混ぜ (7日後) → ③3回目の土混ぜ (14日後) → ④カキ殻石灰混ぜ (1か月後)

感想の例

「菌ちゃんの力で野菜くずがなくなったよ。」「くさくないよ。」「さらさらだ。」

(3) 野菜づくり (体験の前後省略)

めあての例

菌ちゃんの土を使って野菜の苗を植えてみよう。

幼稚園・保育園での体験学習 <1時間>

- ①苗を植える → ②苗のお世話をする

感想の例

「さわってみたら、チクチクしたよ。」「いいにおいだよ。」「苗が大きく育つように世話しよう。」

(4) 野菜の収穫・食味 (体験の前後省略)

めあての例

野菜を収穫して料理をつくろう。

幼稚園・保育園での体験学習 <2時間>

- ①収穫する → ②調理する → ③調理したものを食べる

感想の例

「大きな実ができたよ。」「おいしい料理ができたよ。」「菌ちゃんの力はすごいな。」

<1>土づくり

4 本時のねらい

野菜くずが菌ちゃん (微生物) の働きによりゴミではなく、すばらしいものになることを意識することができる。

菌ちゃんによる土づくりを通して、野菜づくりへの興味や関心をもつことができる。

5 本時の展開例 (45分=1時間)

活動の内容	教師・保育士 (T)・子ども (C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	T:めあてを確認し、活動の流れ及び施設や道具等についての注意事項を確認し、安全に活動できるようにする。	・活動の流れを示し、見通しをもたせる。 ・子どもたちが興味・関心をもてるように視覚的に分かりやすい教材を用意する。
②野菜くずを観察し、まだエネルギーが残っていることを知る (5分)	T:(野菜くずを見せて) この野菜は何かを聞く。 T:キャベツの芯やニンジンなどのヘタの部分は、新しい葉や根が出てくる生長点であることを告げる。 T:野菜くずを菌ちゃんにあげようと呼びかける。	
③菌ちゃんを使った土作りを行う (30分)	T:私たちがごはんを食べるときに良く噛むように、足で踏みつけたり、木槌を使って菌ちゃんが食べやすく小さくしたりするよう呼びかける。 T:私たちがつばでご飯を食べるように、ぼかしを入れるよう呼びかける。 C:ぼかしは〇〇のにおいがする。 T:手でぼかしと野菜を混ぜて畑の土に入れるよう話を する。 T:雨が入らないように、ブルーシートをかけることを話す。 T:菌ちゃんが30分で子どもを産むことを告げ、増えるとどんな感じがするかを問う。(「菌ちゃん体験」) C:おしくらまんじゅうしているみたいで、熱いし、息苦しい! T:菌ちゃんは熱くて息苦しくなるから、定期的に空気を入れるように話す。	・食べ物を踏むことが菌の代わりになることを伝える。 ・ぼかしのにおいを臭いと思わせないようにする。また、子どもが感じたにおいを褒める。 ・菌ちゃん=バイ菌ではなく、良い菌であることを意識させる。 ・子どもが活動をする際に、保護者も同じ活動ができるように呼び掛ける。
④菌ちゃん育てた野菜がどんな味がするの想像し、交流する (5分)	T:1か月経って土ができたなら、この土で野菜をつくってみようと呼び掛ける。できた野菜はどんな味がするの問い掛け、想像できるようにする。 C:甘い味がする。 T:感想を発表させる。	・写真で腐りにくい様子を見せる。

6 体験学習の評価例

- 「菌ちゃん」の存在を知り、興味をもって土作りに参加したか。
- 野菜くずが菌ちゃんの働きによりゴミではなく、すばらしいものになることを意識することができたか。

<2>土づくりのお世話

4 本時のねらい

「菌ちゃん」を見たり、土に触れたりして、土が変化してきていることに気付くことができる。

5 本時の展開例 (45分=1時間)

活動の内容	教師・保育士 (T)・子ども (C)	指導上の留意点
① 3日後、ブルーシートの中を確認する (5分)	T:「菌ちゃんいるかな?」と子どもたちに投げ掛け、「菌ちゃん」を探せるようにする。 C:少し白くなってる! T:子どもたちが発見した「白い部分」が「菌ちゃん」であることを伝え、より興味をもてるようにしていく。 C:野菜がまだある。 T:「菌ちゃんたくさん食べてがんばってね!」と教師が「菌ちゃん」に話し掛けたりして、子どもたちが「菌ちゃん」により興味をもてるようにしていく。	・菌ちゃんが出始めていることを子どもたちが気付けるように、教師自身も発見したことを喜んだり伝え合ったりしていく。
② 1週間後、エアレーションを行う (15分)	T:教師が積極的に土に触り、子どもたちも触れるようにする。 C:土があったかいよ。 C:野菜が少なくなってる! T:子どもたちの気付きを認め、残っている野菜くずの種類にも気付けるように発信していく。「タマネギの皮が残っているね。菌ちゃんも苦手なものがあるのかな?」	・野菜くずがほとんどなくなってきたこと、土があたたくなくなっていることに子どもたちが気付けるように教師自身が土を触ったり、感じたことを伝えたりする。
③ 1週間に1回、定期的にエアレーションを行う (15分)	T:野菜くずがなくなったことを確認させ、感想を言わせる。 C:土がさらさらになってる! T:子どもたちの気付きを受け止め、土の変化を一緒に驚いたり、発見を喜んだりして子どもたちの関心が向くようにしていく。 T:畑の端の土で、だんごなどを作れるようにして、より土の変化を子どもたちが体感できるようにする。	・引き続き菌ちゃんの様子を観察したり、土に触れたりして、土の様子が変わっていくことを感じられるようにする。
④ 1か月後、カキ殻石灰を混ぜて完成させる (10分)	T:完全にいやなにおいがしないかどうか、確認させる。 C:いやなにおいはまったくしないよ。 C:この前よりもさらさらになっているよ。 T:カキ殻石灰を混ぜて、菌ちゃんの土づくりが完成したことを告げる。 C:わー、完成したんだね。 T:感想を発表させる。	・菌ちゃんによる土づくりがみんなの力でできた喜びを交流する。

6 体験学習の評価例

- ・「菌ちゃん」の存在に気付き、「菌ちゃん」が増えていることや野菜くずが減っているなど土の変化に興味をもったか。

<3>野菜づくり

4 本時のねらい

自分たちで野菜の苗を植えて、興味をもって関わろうとし、苗が生長する様子を喜びながら、自分たちで育てようとする気持ちをもつことができる。

5 本時の展開例 (45分=1時間)

活動の内容	教師・保育士 (T)・子ども (C)	指導上の留意点
① 苗を選ぶ (10分)	T:子どもたちから知っている野菜を聞く。 C:ニンジン、トマト、ナス、キュウリ T:季節ごとにおいしくなる「旬の野菜」があることを知らせ、夏野菜の中から子どもたちが選択できるようにする。 T:グループで一苗植えられるようにし、グループで相談するように伝える。 C:トマトがいいよ。ナスもいいよ。	・「菌ちゃん」が元気いっぱいになり、元気土の準備ができたことを知らせ、子どもたちにどうしたいかを投げ掛ける。 ・旬の野菜を用意して、子どもたちが育てて、食べるところまで体験できるようにする。
② 苗を植える (20分)	T:用意した苗を見せながら、葉っぱの形や茎の太さ、においなどがそれぞれの野菜によって違うことに気付かせる。 C:チクチクするよ。いい匂いだよ。 T:苗の種類ごとに場所を決め、間隔を空けて植えられるようにする。	・子どもたちが野菜により興味をもてるように、実際に苗に触れられるようにする。
③ 苗のお世話をする (15分)	T:どのように苗の世話をしたらいいのか投げ掛ける。 C:お水をあげる。草取りも大事だよ T:子どもたちの意見を取り上げながら、「自分たちで世話をしよう」という気持ちをもてるようにする。 C:苗の丈が伸びたり、葉っぱが大きくなったり、花が咲いたりすることに気付く。 T:教師自身も気付いた変化を子どもたちに伝えていく。 T:実が大きくなり、カラスなどの被害を受けるようになったとき、どのような対策をしていくか、子どもたちが考えられるように投げ掛ける。 T:感想を発表させる。	・子どもたちが水やりに行きやすいように、子どもたちの目に触れたり、手に届くところに人数分のじょうろを用意しておく。 ・教師自身が畑に足を運ぶように心掛け、子どもたちが野菜に興味を向けられるようにしていく。 ・子どもの気付きをクラス全体の気付きにしてより興味をもてるように、クラスで発表する場などを設けていく。 ・野菜の生長していく様子をより身近なものに感じたり、子どもたちが気付いたことや感じたことを、すぐに絵に描いて表現したりできるように紙を用意しておく。 ・絵本などを活用し、自分たちのしていることを振り返らせ、世話することに意識がいくようにしていく。

6 体験学習の評価例

- ・子どもたちが興味をもって畑に足を運び、自分から水やりなどの世話をしようとしていたか。
- ・苗の様子の変化に気付き、気付いたことを教師や友達に伝えていたか。

< 4 > 野菜の収穫・食味

4 本時のねらい

自分たちで育てた野菜の収穫の喜びを感じ、食べることを喜ぶことができる。

5 本時の展開例 (90分＝2時間)

活動の内容	教師・保育士 (T)・子ども (C)	指導上の留意点
①収穫する (20分)	T:子どもたちが、野菜が大きくなったり、色づき始めたりしていることに気付き始めるので、子どもたちの「収穫したい」という気持ちを受け止めて収穫をしていく。 C:どれを収穫しようかな？ T:どれを収穫したらいいのか教えたり、子どもと一緒に考えたりしながら収穫していく。	・収穫しながら、「おいしそう。」などの言葉をつぶやきながら、子どもたちの意識が食べる方に向くようにしていく。 ・自分たちがお世話したことで大きくなったということを子どもが感じられるように言葉を掛けていく。
②調理する (40分)	T:火や調理器具を使うので、安全面を考慮して行う。 T:子どもたちから出てきたアイデアを集約し、メニューを決めていく。子どもたちができる部分(野菜を洗う、野菜を手でちぎる、ヘタを取るなど)を大切に、「自分たちで調理した」という気持ちをもてるようにしていく。	<メニュー例> 夏野菜カレー、味噌汁、サラダ、浅漬け、野菜炒め、ピザ
③調理したものを食べる (30分)	T:子どもたちに食べた感想を聞いていく。 C:「おいしい。」や「いつもの野菜と違う気がする。」などを話す。 T:「菌ちゃん」の元気土で作ったことを思い出せるように、「菌ちゃんの畑で作ったもんね。」と話したり、子どもたちが一所懸命世話をしておいしくなったことを感じられるようにしていく。 T:感想を発表させる。	・後片付けをきちんとさせる。

6 体験学習の評価例

- ・子どもたちは喜んで野菜を食べていたか。
- ・自分たちが育てたという自覚をもって、食べることを楽しんでいたか。

子どもたち一人一人の確かな学びのために

私は、アグリ・スタディ・プログラムの作成に、初期のころから関わらせていただきました。そのおかげで、私自身、体験をともなう学習のあり方について、多くのことを作成委員会の場で学ばせていただき、深く感謝しています。

このプログラムの最大の特徴は、「体験プログラム」ではなく、「体験学習プログラム」であるということです。つまり、体験によって、子どもがそれぞれに感じたり気付いたりした何かがあればよいというのではなく、プログラムで明示した学習指導要領に基づく教科等の内容を、どの子どもにも確実に身に付けさせることを目指しているということです。

そのため、プログラムの作成においては、実感のともなった確かな学びができるように、体験を十分に味わうことが、どのプログラムでも必須とされました。また、体験そのものがもつ魅力や影響力の大きさに、逆にねらいとした教科等の学びが薄らいでしまうことも危惧し、その視点からの検討もなされました。とくに、食べて「おいしい」、動物とふれあい「かわいい」と感じるプログラムにおいてです。どんなに、子どもがよい気付きをしても、結局「おいしい」「かわいい」しか残らなかった子どもの姿を、プログラムの試行時に見たからです。

一連の学習活動のどこで食べたり、ふれあったりする活動を行うことが効果的かについて議論されるとともに、すべてのプログラムにおいて、学習課題の設定やまとめを必ず位置付けることの必要性も確認されました。

このようなことから、私は次の二つのことがプログラムによる学習の充実に重要なことではないかと考えます。

一つは、プログラムを活用する側のことです。活用する側は、学習課題を明確にし、子どもたちに課題をしっかりと意識させて体験に臨ませたり、まとめなどを適切なタイミングで行ったりすることに、心がけるということです。

二つ目は、プログラムを提供する側のことです。提供する側には、ねらいに即した学びが達成されるように、体験によってもたらされる子どもの意識や思考を常に検証し、体験の内容や順番について吟味し続けていただきたいということです。さらに、円滑でわかりやすい学習が行えるように、視覚的な教材やキーワードを示した教材などの充実に努めていただければありがたいと思っています。

本プログラムによる教育活動がますます充実し、一人でも多くの子どもが確かな学びをしていくことを切に願っています。

新潟市立新津第三小学校 校長 岩崎 道郎
(前新潟市教育委員会学校支援課教育ファーム担当指導主事)



③何ができるのだろう？みんなで野菜作り！

～野菜で漬け物づくり～

- ・未来へのストーリー ★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★★★★

- ・実施期間 8月下旬～12月下旬
- ・最大人数 40人（4・5歳児）
- ・費用 約2,000円（1クラス分）

が 魂 自分が育てる（植える・世話する・採取する・収穫する） ➡

農家の方からもらった種を育てよう

①農家の方からもらった種を育てる ②間引きをして味噌汁にする ③世話をする

どんな野菜ができるのかな？幼稚園に帰ってみなで育ててみよう！楽しみだね。

農家のおじさんから手紙が来たよ！小さい野菜はくっつき合っていると大きくなれないんだって。抜いた小さい野菜は味噌汁にして食べよう！

野菜が大きくなるためには、お世話をしなさいって。何をしなさいといいのかな。

幼稚園教育要領・保育所保育指針上の位置付け

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと園の先生たちから

○幼稚園・保育園：環境

・何ができるかわからない野菜の種を使った野菜づくりを通して、子どもは自然の不思議さや命がつながっていることに感動することができます。そして、たくさんとれた野菜を使った漬け物づくりに参加することにより、発酵食品に興味をもったり、その良さに気付いたりすることができます。

***環境の内容**

- (1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- (3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
- (5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。
- (6) 身近な物を大切にする。

自分が消費する（加工する・調理する・飲食する）

漬け物を作って食べよう

④野菜を収穫する ⑤専門家の話を聞き、漬け物を作って食べる

すごい！野菜の正体が分かったね。大きく育ってうれしいね。どうやって食べる？

野菜で漬け物ができるんだって！菌ちゃんの仲間が野菜を漬け物にしてくれるんだよ。漬け物を作ってみよう。

野菜作り体験学習の可能性
保護者と一緒に活動を行うことで…

・保護者と一緒に活動を行うことで、親子で野菜を育てる楽しさを感じることができます。また、食育の一環として子どもと共に食について考えることもできます。特に発酵の大切さについて一緒に学ぶことで、発酵食品の良さを知ったり、家庭で食事の際に発酵食品について話題にしたりすることができます。

地域の実態に即した野菜を育てることで…

・地域の実態に合わせ、一番適した野菜を育てます。また、収穫した野菜の種類や漬け方も、子どもの実態やその地域の特色を生かした方法を選びます。地域の特色を知るためにも地域巡検や地域の方から研修を受けるなど子ども、教職員、保護者が地域の人との関わりを深めていくことができます。

実践例 「何ができるのだろう。みんなで野菜作り」～野菜で漬け物作り～

1 関連する領域名 幼稚園・保育園 環境 「何ができるのだろう。みんなで野菜作り」

2 題材のねらい

- 名前を知らない種から野菜を育てる活動を通して、野菜を育てる楽しさを感じるとともに発酵食品に興味をもったり良さに気付いたりする。

3 題材の流れと体験学習の位置付け

※幼稚園・保育園の園庭等で行う体験学習であり、保護者と一緒に行うのが望ましい。

(1) 農家の方からもらった種を育てよう (8月下旬～11月中旬) (4時間)

8月 ①もらった種を畑に植えよう。(めあて)

- 下旬 子どもたちには何の野菜の種だと伝えずに、小さな種がどのような野菜になるのか期待感をもちながら育てられるようにする。
- 農家の方が直接来られないときは、手紙などでどのように種をまくのか分かるようにする。

9月 ②間引きをして味噌汁にしよう。(めあて)

- 野菜がどのような状態になったら間引きをするのか、農家の方に直接来ていただいて話を聞いたり、手紙で教えていただいたりして間引きを行う。
- 間引きで抜いた野菜は小さくても大切な命であり、おいしい野菜になっていることを伝え、味噌汁などにする。味噌汁を作る過程で、葉を切る、味噌汁に入れるなど簡単な作業は園児が自分たちで行うようにする。

10月 ③野菜が大きくなるように世話をしよう。(めあて)

- 間引きと同じように教えていただきながら野菜の様子を見て、追肥を行ったり土寄せを行ったりする。
- 収穫が近いことを感じると共に、収穫を楽しみにすることができるようにする。

11月 ④野菜を収穫しよう。(めあて)

- 量感、質感を感じながら大きくなった野菜を収穫する喜びを味わわせる。
- 種の時は分からなかったが、収穫で野菜の名前を明確にすることで発見の喜びを感じさせる。
- 収穫した野菜を並べ収穫の喜びを味わいながら、どのように調理して食べるのか思いを広げる。

(2) 漬け物を作って食べよう (11月中旬～12月下旬) (3時間)

⑤-1 漬物を作ろう。(めあて)

- 菌(微生物)の働きで、自分たちがつくった野菜がおいしい漬け物になることを知る。
- 漬け物作りを通して野菜作りや菌ちゃん(微生物)に興味をもつ。

⑤-2 漬け物を食べよう。(めあて)

- 自分たちで漬けた野菜の味は格別なことに気付いたり、おいしい漬け物にしてくれた菌ちゃん(微生物)に感謝の気持ちをもって食べることができるようにしたりする。
- 家庭で食べている発酵食品にも興味をもつ。

<1>野菜の種を畑に植えよう

4 本時のねらい

野菜の種に興味をもつと共に、野菜を育てていきたいという意欲をもつことができる。

5 本時の展開例 (45分=1時間)

活動の内容	教師・保育士(T)・専門家(P)・子ども(C)	指導上の留意点
①幼稚園近くの農家の方から種をもらう (15分)	T:近くで野菜を育てている農家の方が来て、みんなにプレゼントをくれることを伝える。 C:プレゼントってなんだろう。楽しみだね。 P:みんなに野菜の種のプレゼントをもって来たことを伝える。何の野菜になるのかは秘密にする。 C:どんな野菜ができるのかな。	・事前に農家の方と相談して、野菜の種、育て方を相談しておく。 ・農家の方には、何ができる野菜の種なのかは秘密にしておこう。
②野菜の種のまき方を知る (10分)	T:農家の方と一緒に幼稚園の畑に種をまくことを伝える。 C:早く種をまきたいね。どうやってまくのかな。 P:種のまき方を子どもたちに伝える。 C:優しくまかないといけないだね。	・絵を交えながらどのように種をまいたらいいのか分かりやすく説明する。
③種をまく (20分)	T:教えてもらったまき方で丁寧に種をまくことを伝える。 P:子どもと一緒に種をまいていく。 C:大きくなるといいね。 T:最後に元気よく育つようにどうしたらいいか子どもたちに聞く。 C:毎日来たい。大きくなあれって魔法をかけよう。	・一つ一つの種が野菜に育っていく大切な命であることを伝えながらまいていく。 ・まき終わった後に全員で大きくなるように種に言葉をかけられるようにする。

6 体験学習の評価例

- 野菜を育てていくことに興味・関心をもつことができたか。
- 野菜は種をまいて育てていくことに気付くことができたか。

<2>間引きをして味噌汁にしよう

4 本時のねらい

野菜の生長を知り喜びを感じると共に、間引いた野菜も味噌汁にして大切に食べることで、命を大切にする気持ちもつことができる。

5 本時の展開例 (45分=1時間)

学習活動	教師・保育士(T)・子ども(C)	指導上の留意点
①育てている野菜を間引きしなければならぬことを知る (5分)	T:農家の方から手紙が届いたことを伝え、それを読む。 C:畑の野菜は、手紙に書いてある大きさになっていたよ。 C:もう、間引きをしないといけないんだね。みんなで間引きをしようよ。	・手紙には、間引きとはどのようなことなのか、野菜がどのような状態になったら間引きをするのか書いてもらう。農家の方に実際に来ていただければ、お願いをする。
②野菜を間引きする (10分)	T:子どもたちと確認しながら間引きを行う。間引いた野菜をどうするか子どもと一緒に考える。 C:どれを抜けばいいのかな。 C:抜いてしまった野菜がかわいそうだね。 T:間引きした野菜も、食べることができることを伝える。 C:食べてみたい。	・間引きをする前に、野菜がどのような状態なのかよく観察できるように働きかける。 ・間引いた野菜も生きていることと命の大切さについて伝えていく。
③間引いた野菜で味噌汁を作り、食べる (30分)	T:子どもたちと一緒に味噌汁を作る。 C:葉っぱをちぎるのが面白いね。 C:おいしい味噌汁ができるかな。早く食べたいね。 T:味噌汁を盛りつけ、みんなで食べる。 C:自分で作った味噌汁はおいしいね。 C:間引きした野菜がこんなにおいしいんだね。	・手でちぎるなど子どもも調理ができるように工夫する。 ・自分たちで育てた野菜を、自分たちも手伝った味噌汁のおいしさを子どもの言葉で学級全体で共有できるようにする。

6 体験学習の評価例

- 野菜を育てるには様々な作業を行わなければならないことに気付いたか。
- 間引いた野菜も生きていること、おいしく食べられることに気付いたか。

< 3 > 野菜が大きくなるように世話をしよう

4 本時のねらい

野菜が大きくなるためにどのような世話をしたらいいのか知ると共に野菜が大きくなるための世話を楽しみながら行うことができる。

5 本時の展開例 (45分＝1時間)

活動の内容	教師・保育士 (T)・専門家 (P)・子ども (C)	指導上の留意点
①野菜を大きくするために何が 필요한か気付く (10分)	T:自分たちは大きくなるために毎日食事をしていることに気付かせる。 C:ご飯を食べないと大きくなれないよね。 C:ご飯を食べないとお腹がすいちゃうよ。 T:野菜も同じように大きくなるためには栄養が必要なのに気付かせる。 C:育てている野菜にもご飯をあげないと。 C:どうすればいいのかな。	・野菜が生長するためには追肥などの世話が必要になることを自分の体の成長に置き換えることで子どもたちが気付くことができるようにする。
②追肥の方法を知る (10分)	T:農家の方に来ていただいたことと、一緒に野菜に追肥を行うことを伝える。 P:追肥の方法を説明する。 C:野菜のご飯は〇〇なんだね。 C:早く野菜にご飯をあげないとね。	・絵や実物の肥料を交えながらどのように追肥をしたらいいのか分かりやすく説明する。 ・農家の方が来られない場合は手紙などを準備する。
③追肥を行う (25分)	T:野菜が大きくなるように追肥を行おうと子どもたちに投げかける。 P:子どもと一緒に追肥を野菜に行う。 C:これで野菜ももっと元気になるね。 C:大きな野菜ができるかな。 C:楽しみだね。	・野菜が大きくなることを考えて追肥ができるように言葉かけをする。 ・追肥後は、野菜の収穫を楽しみにできるように、みんなで話をする。

6 体験学習の評価例

- ・野菜を大きくするためには追肥が必要なことに気付くことができたか。
- ・野菜の収穫を今まで以上に楽しみにすることができたか。

< 4 > 野菜を収穫しよう

4 本時のねらい

大きくなった野菜を収穫する楽しさを感じると共に食べることにも興味をもつことができる。

5 本時の展開例 (45分＝1時間)

学習活動	教師・保育士 (T)・専門家 (P)・子ども (C)	指導上の留意点
①収穫方法を知る (5分)	P:今までがんばって世話をしてきたから、りっぱな野菜を収穫できることを子どもたちに伝えようと伝える。 C:毎日お世話をしたからね。 C:収穫できるのがうれしいね。 C:どんな野菜ができていたんだね。 C:今までお世話をできてきたからね。	・今まで世話をしたり観察をしたりしてきたことが今日の収穫につながったことを子どもたちが感じられるように話をする。 ・大根など根菜類の場合は収穫する時まで何ができていたのか楽しみにしておく。
②野菜を収穫する (20分)	T:収穫をしようと声をかける。 P:収穫の方法を説明する。 C:すごい、こんな野菜ができていたんだね。 C:今までお世話をできてきたからね。	・一人一人が野菜を収穫できるように場所や順番などを配慮する。
③収穫の喜びを共有する (20分)	T:子どもたちに収穫してどうだったか、この野菜をどうするか聞く。 C:うれしい。 C:早く食べたいね。 C:みんなに見せてあげたいね。 C:野菜さん、ありがとう。	・自分たちだけでなく幼稚園のみんなに収穫の喜びを伝えられるように子どもたちになげかけていく。 ・収穫することができた喜びと共に作物への感謝の気持ちももてるようにする。

6 体験学習の評価例

- ・野菜を収穫することの喜びや感謝の気持ちをもつことができたか。
- ・収穫した野菜を食べたいという気持ちをもつことができたか。

< 5 > 漬け物を作って食べよう

4 本時のねらい

- ・菌ちゃん（微生物）の働きで、野菜がおいしい漬け物になることを知ることができる。
- ・漬け作りを通して野菜作りや菌ちゃんに興味をもつことができる。

5 本時の展開例 (135分＝3時間)

活動の内容	教師・保育士 (T)・専門家 (P)・子ども (C)	指導上の留意点
①菌ちゃんの仲間で漬け物が作れることを知る (30分)	T:たくさんとれた野菜をどうするか子どもと一緒に考える。 C:みんなで食べようよ。 C:いっぱいあって、だめになっちゃうよ。 T:料理の先生がいることを伝える。 C:お話を聞いてみたい。 P:菌ちゃんの仲間を使うとおいしい漬け物になり保存できることを知らせる。 C:作ってみたい。 C:野菜がいっぱいとれたけれど、これで大丈夫だね。 T:漬け物を作ろうと子どもに投げかける。	・いろいろな料理名を出し、収穫した野菜をみんなで食べることへ期待感と興味をもたせる。 ・漬け物を作るとき、菌ちゃんの仲間が活躍することを伝えてもらう。
②漬け物を作る (60分)	P:漬け物の作り方を説明する。 C:漬け物作りは楽しいね。 C:いろいろな材料を使うんだね。 C:いつ漬け物ができるんだろうね。楽しみだね。 C:早く食べたいね。	・教師が漬け物に使う材料について子どもに分かりやすく説明を補う。 ・漬け物を食べることを楽しみにできるように言葉掛けを行っていく。
③漬け物を食べる (45分) ※後片付け等を含む	T:できた漬け物の味と生の野菜との味の違いを確かめながら食べるように投げかける。 C:生の野菜とくらべて（すっぱい、しょっぱい）味がついていておいしいね。 T:菌ちゃんのおかげであまりそうだった野菜をおいしく食べることができたね。家庭でも菌ちゃんの力を使った食品はないかな。 C:菌ちゃんはすごいね。 C:家で食べるものの中にも菌ちゃんの力を使っているものはあるかな。	・生野菜と味を比べさせ、菌ちゃんの仲間の活躍で、おいしい漬け物になったことを伝える。 ・漬け物にしないでそのまま放っておいた野菜を見せ、発酵食品を作ることにより、野菜が長期保存できることを知らせるとともに、他の発酵食品も調べてみたいという興味を引き出す。

6 体験学習の評価例

- ・野菜には様々な調理方法（漬け方）があることに気付いたか。
- ・漬け物を作る際、菌ちゃんの仲間が活躍することに興味・関心をもつことができたか。

感動を伴った体験が本物の感性や生きる力を！

感動や主体的な思考を伴った体験が、豊かな感性や教養を育みます。レイチェル・カーソンの名著「センスオブワンダー」では、地球や生命の美しさを見て、聞いて、触れて、嗅いで感じることの喜び、そうした時間の過ごし方を愛情溢れる言葉で綴られています。かつての日本では、そうした時間や体験や人間関係が身近にありました。しかし、都市化や少子化や多忙化が進む中で、とりわけ休日の過ごし方からそれらは失われてしまいました。そんな訳もあり、平成25年度にオープンしたこども創造センターには、平日で600人以上、休日で1,700人以上のお子さんと保護者の方が来館します。遊んで造って楽しみ合える施設や環境をたくさんの方が待ち望んでいたのだと思います。



教育ファームは、田園型交響都市新潟が全市を挙げて準備した日本初の教育環境です。また、アグリ・スタディ・プログラムは環境とともに集団での学びや人間関係作りや教養も提供しています。

平成の指導要領で「体験活動の充実」が謳われ、その実現に苦慮されている学校の先生方、新潟市のメリットを活用してはいかがでしょうか。

新潟市こども創造センター 館長 浅井 俊一

より良い「学びの場の提供」をめざして

新潟市動物ふれあいセンターは、動物に関する学びを提供する教育ファームとして平成25年5月にオープンしました。2年間で1,100以上の団体をお迎えし、様々な体験プログラムを提供してまいりました。平成26年6月からは「アグリ・スタディ・プログラム」を開始し、「新潟市教育ビジョン」に即した内容を実践してまいりました。「アグリ・スタディ・プログラム」の1年間の実践経験を経て、このたび改訂版を発刊し、動物ふれあいセンターのみならず「いくとびあ食花」全体で子どもたちの成長を支える体制を強化してまいります。



プログラムの改訂によって、新潟市そして日本の未来を担う多くの子どもたちが動物とふれあう機会を持てるようになり、思いやりや優しい心を育み、動物への理解を深め、人と動物の関わりを学んでいただけたら幸いです。

改訂版の発刊が、そのような「学びの場の提供」となることを切に願っております。

新潟市動物ふれあいセンター 館長 田中 和志

5 適応指導教室編 (1) アグリパーク

①適応指導教室の仲間とアグリパークに行こう！

＜小学校 5年～中学校 3年 特別活動〔学校行事〕＞ …………… 440

「アグリ・スタディ・プログラム」の適応指導教室編を作成するにあたっては、友達との関係等コミュニケーション力を築くことができることを一番のねらいとしました。そのため、農業体験活動のほかに、レクリエーションや集いの時間も位置付けたプログラム構成にしております。

① 適応指導教室の仲間とアグリパークに行こう！

- ・ 未来へのストーリー ★★★★★
- ・ 命のストーリー ★★★★★
- ・ 郷土愛のストーリー ★★★

・ 実施期間	通年
・ 1班最大人数	6人
・ 費用	320円/人

が 魂 自分が育てる（採取する・収穫する） ➡

みんなが、もっと仲良くなるためには、どうすればいいのだろう。農業体験活動を通して、友達のいいところをたくさん見つけよう。

① 出会いの集い ② 野菜の収穫

だんだん楽しくなってきたよ。

みんな見て！こんなに大きな大根だよ。

わたしのも見て！すごいでしょ。

学習指導要領上の位置付け

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○ 小学校5・6年：特別活動〔学校行事〕
中学校全学年：特別活動〔学校行事〕

- ・ 農作業、農産物の収穫、調理や会食を行う中で、協力し合って自分の役割を果たしたり、楽しさ、感動などを共有したりすることで集団生活や友達同士のかかわり合いの基盤を培っていくことができます。
- * 小学校特別活動〔学校行事〕（4）遠足・集団宿泊的行事
- * 中学校特別活動〔学校行事〕（4）旅行・集団宿泊的行事

自分が消費する（加工する・調理する・飲食する・作品にする）

③ ピザパーティー ④ 搾乳体験 ⑤ 終わりの集い

野菜を切るのがうまいだね。

スープは私たちにまかせてね。

順番に指を握るといいよ。

ほんとだ！うまくてよかったよ。教えてくれてありがとう。

ありがとうございました。家でよくやっているからね。

みんなで協力してがんばろう！

楽しかったね！記念撮影を撮ろう。ハイチーズ！

収穫体験や調理活動の学びの可能性

○ 事前、事後の学習活動において、収穫する野菜等について植物の生長、栽培技術、調理等と関連付けて学習活動を構成していくなれば…

- * 小学校5年理科の内容B（1）「植物の発芽、成長、結実」
- * 小学校5・6年家庭の内容B「日常の食事と調理の基礎」
- * 中学校1年理科の内容〔第2分野〕（1）「植物の生活と種類」
- * 中学校全学年技術・家庭
 - 〔技術分野〕の内容C「生物育成に関する技術」
 - 〔家庭分野〕の内容B「食生活と自立」

実践例 「適応指導教室の仲間とアグリパークに行こう！」

1 関連する単元名 小学校5～中学校3年 特別活動[学校行事]
「適応指導教室の仲間とアグリパークに行こう！」 (7時間)

2 関連する単元の目標

- アグリパークで新潟の農業・農産物加工・食に触れる体験等の集団活動を通して、農業に親しみながら、自分の役割を果たしたり、友達と協力し合ったりして自分自身に自信がもてるようにする。

3 関連する単元の流れと体験学習の位置付け

体験の前に

○適応指導教室の仲間とアグリパークに行こう！ (7時間)

- 発達段階に応じて写真等を提示しながら、施設の様子や体験学習の内容を説明して興味・関心を高め、アグリパークに遠足に行くことへの期待をもつ。
- 遠足のめあてや日程を確かめる。
- 他の人と一緒に共通に行う体験学習を確認し、自分がやってみたい体験学習を考えたりする。

↓

学習のめあて

みんなが、もっと仲よくなるためには、どうすればいいのだろう。
農業体験活動を通して、友達のいいところをたくさん見つけよう。

アグリパークでの体験学習 <5時間>

①出会いの集い → ②野菜の収穫 → ③収穫した野菜でピザ作り →
レクリエーション & ピザミニパーティー

④搾乳体験&えさやり体験 → ⑤終わりの集い

まとめのメモ例

「みんなで収穫したり、自分の役目を果たしてピザをつくって食べたりしてとても楽しかった」
「〇〇さんが、やり方のコツを教えてくださいうまくできてうれしかった」

↓

体験の後に

- 体験したこと、気持ちなどを、伝えたいと思う人に伝えるため、絵や文等で表現する。
(対象…相談室の先生、学校の先生や友達、家の人、一緒に体験学習をした他校の人)
- 表現する中で、よかったこと、楽しかったこと、これからがんばることなどを教師と一緒に振り返りながら、めあての達成状況を確認する。
- 表現したものをもとに、教室の友達同士で発表し合い、活動を振り返る。

4 本時のねらい

学習班で一緒になった友達と一緒に野菜を収穫する等の農業体験をしたり、調理や会食をしたりする異年齢集団の強みを生かした活動を通して、協力し合いながら、楽しさを共有し、自分の役割を果たした自信をもつことができる。

5 本時の展開例 (250分=5時間)

学習活動	教師 (T)・指導員 (I)・子ども (C・S)	指導上の留意点
① めあてを確認する (10分)	T:めあてを確認し、インストラクターを紹介する。 I:子どもたちにあいさつをし、施設での注意事項を説明する。 T:活動の流れと目的を説明し、見通しをもって、安心、安全に活動に臨めるようにする。	・視覚情報を用いて説明し、どの子どもにも理解できるようにする。
②一緒に活動する友達を知り、触れ合う (35分)	T:「出会いの集い」、レクリエーションをリードする。 C・S:楽しくなってきたな。	・緊張をほぐし、和やかな雰囲気になれるようにレクリエーションを進める。
③協力して収穫をしたりピザ等を作って会食したりする (120分)	T:ピザを作ることを知らせ、めあてを確認する。 I:ピザ作りに必要な野菜の収穫、ピザ作りの手順等、一連の活動の流れ、注意事項を説明する。 C・S:ピザにのせる野菜は、何にしようか? C・S:トマトと・・・ナスもいいかな。 C・S:順番に野菜を切ったりトッピングしたりしよう。 C・S:自分の役目は、ピザ窯にピザを入れることだよ。熱いけどがんばるよ。 C・S:みんなでうまく作れたね。ピザもスープもおいしいね。	・必要に応じて子ども同士のかかわり合いの支援をする。 ・野菜スープ等、子どもの希望に応じて調理内容を増やす。 ・衛生面、調理器具の取扱等について発達段階に合わせた指導、支援を行う。 ・子ども同士のかかわり合いが促されるように、相談して決めるような内容の指示を含める。
④搾乳体験、えさやり体験をし、牛乳を飲む (65分)	T:搾乳することを伝え、めあてを確認する。 I:搾乳までの諸注意や搾り方、えさのやり方についての説明をする。 C・S:順番に指に力を入れて握るといいよ。 I:牛乳を配る。	・学習班ごとに搾乳のコツを教え合ったり、えさを協力してやったりできるように支援をする。
⑤楽しかったこと、うれしかったこと、自信がもてたこと等について振り返りをする (20分)	T:「終わりの集い」をリードする。 C・S:みんなで収穫したり、自分の役目を果たしてピザを作って食べたりしてとても楽しかったです。 C・S:〇〇さんが、やり方のコツを教えてくださいうまくできてうれしかったです。 T:今日やったことや感想を発表させた後、インストラクターにお礼を述べる。	・子どもの様子に応じて全体で行ったり、学習班ごとに行ったりする。 ・協力し合ったこと、楽しさを共有し合えたことについて、子どもの感想発表をもとに、共感する。

6 体験学習の評価例

観点	評価規準	評価方法
集団活動や生活への関心・意欲・態度	・調理や搾乳等の活動を協力し合って楽しく活動しようとしている。 ・自分の役割を果たした自信を深めている。	行動観察 振り返り作文
集団の一員としての思考・判断・実践	・遠足でのめあてを達成するために、どのようなことに注意したり、がんばったりしたらよいかを状況に応じて考え、実践している。	行動観察 振り返り作文
集団活動や生活についての知識・理解	・自分の役割を果たすことで、グループの人たちと協力でき、楽しい活動ができることが分かる。	振り返り作文

アグリ・スタディ・プログラムの改訂に当たって

新潟市では、「アグリ・スタディ・プログラム」(以下、「ASP」という)を策定し、ASPによる農業体験学習を行うすべての場を「教育ファーム」と定義しています。

アグリパークでは、新潟市における教育ファームの中核的な施設として、「農業体験学習を通じて、農業に対する理解を深め、郷土愛を育む」ことを目指して取り組んでいます。特に、農業体験学習では生活と密接につながった体験と知識とを結び付けており、「食について関心を高めること」や「生命について考えること」を意識して取り組んでいます。開園して1年を経過したアグリパークですが、学校へのアンケートなどから五感(視る・聴く・触る・嗅ぐ・味わう)を通じた本格的な農業体験学習は、子どもたちの新しい学びの機会となっているとともに、食生活を見直す機会ともなっているようです。

このたび、ASPが新潟市教育ビジョン第3期実施計画に位置付けられ、アグリパーク等での実践を踏まえて改訂されることになりました。申すまでもなく、アグリパークにおける農業体験学習は学校の教育課程に位置付けられており、学習のねらいを明確にすることが求められています。ASPに基づいた農業体験学習を充実させるためには、先生方とインストラクター間で学習のねらいを共有することが最も重要です。先生方には、アグリパークで何を学ばせたいかを明らかにして、事前の打合せや当日の農業体験学習に臨んでほしいと思います。

ASPの改訂を機に、今後とも新潟市からの指導・支援をいただきながら、「先生方と協力し合って行う農業体験学習」を心掛け、日本初の公立教育ファームの名に恥じない施設にしていきたいと考えています。

新潟市アグリパーク 教育ファーム園長 真柄 正幸



アグリパークパートナーとして

アグリパークパートナーとして教育ファームに関わって丸一年が過ぎました。

この一年で沢山の子どもたちとの出会いがありました。

同じ学年でありながら「あいさつ、返事、言葉で伝える、聞く」ことに違いがあるように思います。私はピザ作りのお手伝いをしていますが、どこまで子どもに関わるかについてや、包丁の使用、後片付けについても学校の方針が子どもたちの成長・動作にも関係しているように思います。低学年はここまで、高学年はここまでと、ある程度のプログラムを作って、どの学校でも同じように関わりをもってはどうでしょうか？

焼き上がったピザをおいしそうに食べる笑顔は私達パートナーの励みにもなります。

「農業はすてたもんじゃない、楽しいよ」って田園型政令市の特性を理解する子どもが一人でも多く生まれることを願っています。

アグリパークパートナー 西山 久子
(新潟市アグリパーク農業体験学習指導者)



付) P T A 編 (1) 学校教材園・アグリパーク

①親子で菌ちゃんとお友達! <小学校 全学年 P T A 行事> 446

「アグリ・スタディ・プログラム」の最後に、小学校のPTA編を付けました。学年PTAや学級PTAに活用していただきたいと思います。PTA編を作成するに当たっては、一番に親子が楽しく土や野菜に触れて農業体験をしてもらうことを考えました。その中で、農作物を育てることの楽しさに気付いたり、自然の神秘に気付いたりして、思い出をたくさん作ってほしいと思います。第二に保護者同士が共通の目標に向かって子どもたちと共に活動することで、PTAとしてのつながりを一層強めてほしいと願っています。そして、時間がたって農作物ができたとき、親子やPTAのコミュニケーションがより深まったと感じてほしいと思います。

①親子で菌ちゃんとお友達！

- ・未来へのストーリー ★★★★★
- ・命のストーリー ★★★★★
- ・郷土愛のストーリー ★★

・実施期間	4月中旬～12月中旬
・1班最大人数	20人
・費用	100円/人

が魂 自分が育てる（見学調査する）

「菌ちゃん」の働きを調べてみよう。

①親子で野菜の「生長点」を探そう

野菜の皮や「生長点」に栄養がたくさんあるよ。今日はみんなが食べられないから菌ちゃんに食べてもらおう！

②親子で菌ちゃんを感じて土作りをしよう

菌ちゃんは30分で子どもを産むよ。菌ちゃんが増えるとどんな感じがするかな？

私たちがごはんを食べるときに良く噛むように、菌ちゃんが食べやすく小さくするよ。

おしくらまんじゅうしているみたいで、熱いし、息苦しい！

P T A 活動における位置付け

確かな学び
プログラムを考えた専門家の人たちと学校の先生たちから

○小学校PTA行事

- ・野菜くずを使った土作りや野菜作りを通して、親子で生命を育てる感動を共有することができます。また、親子の感動を集団の感動に高めることにより、学級PTA・学年PTAとしてのまとまりを強くすることができます。
- ・家庭教育の一環として、保護者と子どもたちが一緒に食について考える機会とすることができます。

➡ 自分が消費する（飲食する）

③親子で野菜の食べ比べをしよう

菌ちゃんの土とそうでない土で育てた野菜を比べると、こっちの野菜の方がおいしい気がするね。

④親子で野菜作り

学年や学級のPTA行事で「親子で菌ちゃんとお友達！」の活動を行うには？

- ・活動は学校の校庭等で行うことができます。もちろん新潟市アグリパークで行うことも可能です。
- ・この活動を学校の校庭等で行う場合は、指導員の派遣等実施方法について、食育・花育センターにご相談ください。窓口の電話番号は、025-282-4181です。
- ・また、土曜日や日曜日に新潟市アグリパークでこの活動を行う場合は、新潟市アグリパーク電話番号は025-378-3109に相談した後、利用について同窓口に申し込んでください。

実践例 「親子で菌ちゃんとお友達！」～野菜くずでリサイクル元気野菜作り～

1 PTA行事名 「親子で菌ちゃんとお友達」

2 PTA行事の目標

- 親子で野菜くずを活用した土作りや野菜を育てる体験を通して、親子の会話を広げるとともに、子どもが家庭の一員として、家庭の食生活を考えることができるようにする。
- 保護者同士が共通の体験活動をやり遂げることに伴い、学級PTA・学年PTAとしてのまとまりの意識を高める。

3 PTA行事の流れと体験学習の位置付け

(1) 野菜くずでリサイクル野菜作りのための土作りをしよう

- 家庭から出る野菜くずを持って来る。

※最高の生理活性物質が濃縮されている野菜の皮、芯、へた、サヤ、タネなどをより多く確保する。

体験の前

特にキャベツの芯は、大きい生長点がたくさんついていて、子どもたちが観察しやすいので、ぜひ入れたい。また玉ねぎの皮にはビタミンやミネラル、ファイトケミカルが特に多いので、あれば望ましい。生ごみは、新鮮でなければならない。腐って臭いがきつい生ごみは、浄化が大変遅いので使えない。暑くて腐りやすい季節は当日の生ごみが一番よい。前日集めた生ごみは日に当たると熱さで腐る場合があるので、数日前のものでも冷蔵庫で保管しておく。

めあての例

「菌ちゃん」の働きを調べてみよう。

アグリパークでの体験学習 <2時間>

- ①持参した野菜くずの観察 → ②プランターによる土作り → ③野菜の比較
 (野菜の種類、皮のバリアや生長点の発見) (野菜くずを細かくし、ぼかしを混ぜ、土に入れる) (菌ちゃん栽培とそうでない栽培の野菜の比較)

感想の例

「菌ちゃんの野菜くずが入った土には栄養があるよ。」
 「菌ちゃんの入った土で作った野菜の方がおいしいよ。」
 「菌ちゃんの入った食べ物は、体にいいよ。」

体験の後

- 体験のおさらいをする (皮のバリア、生長点、病気を引き起こす菌だけではない、など)。
- 菌ちゃんとはどういうものかを想像する。
- 土作りをした土がどうなるかを想像する。

(2) 土作り (約1ヵ月間)

- 3日後、プランターから土を広げて混ぜる
→ 菌ちゃんを見る (白カビ有用菌)、つかむ、においをかぐ。温かさを感じる。
- 7日後、再度混ぜる
→ ほとんど野菜くずが無くなっている (たくさん入れた生ごみがもうない! 誰が食べたの?)
- 14日後、さらに混ぜる
→ 固いもの以外の野菜くずが無くなっている
- 1か月後、生ごみ臭くなければ、カキ殻石灰を混ぜて完成
- 完成した土は、希望する保護者が自宅に持ち帰る。残りは学校での野菜作りに使用する。

(3) 野菜づくり、収穫・食味

- 植え付け → 土の表面を5～10cmの草で覆うと雑草を抑え、土中にミネラルを補給する
- 栽培 → 植え付けの後の数日間は水をやらない⇒若いうちに少し我慢させると、強く美味しくなる。
- 収穫・食味 → 「明日も生きたかったお野菜さん、ごめんね、ありがとう! 菌ちゃんありがとう! 地球の生きる力を自分の命につなぐ」・・・この食べる本質が幼児にもわかる。

4 本時のねらい

- 野菜くずが微生物の働きで、ゴミではなく、素晴らしいものになることを親子で実感することができる。
- 微生物による土作りを通して、親子・保護者同士が活動する楽しさを味わうことができる。

5 本時の展開例 (110分)

学習活動	役員(Y)・指導員(I)・保護者(H)・子ども(C)	指導上の留意点
①めあてをつかむ (5分)	Y:めあてを確認し、指導者を紹介する。 I:学習の流れ及び施設や道具等についての注意事項を確認し、安全に活動できるようにする。	・学習の流れを示し、学習の見通しを持たせる。
②野菜くずを観察し、まだエネルギーが残っていることを知る (10分)	I:(野菜くずを見せて)この野菜は何かを問う。 I:キャベツの芯やニンジンなどのへたの部分は、新しい葉や根が出てくる生長点であることを告げる。 I:「野菜くずを菌ちゃんにあげよう」と呼びかける。	
③菌ちゃんを使った土作りを行う (60分)	I:「私たちがごはんを食べるときに良く噛むように、手で踏みつけたり、木槌を使って菌ちゃんが食べやすく小さくしよう」と呼びかける。 I:「私たちがつばでご飯を食べるように、ぼかしを入れよう」と呼びかける。 C・H:ぼかしは〇〇のにおいがする。 I:手でぼかしと野菜を混ぜてプランターに入れるよう指示する。 I:ブルーシートをかけて雨が入らないようにすることを指示する。 I:次に、みんなで「菌ちゃんを体験」させる。菌ちゃんは30分で子どもを産むことを告げ、菌ちゃんが増えるるとどんな感じがするかを問う。 C・H:熱いし、息苦しい! I:菌ちゃんは熱くて息苦しくなるから、定期的に空気を入れるよう指示する。	・食べ物を踏むことが菌の代わりになることを伝える。 ・ぼかしのにおいを臭いと思わせないようにする。また、子どもが感じたにおいを褒める。 ・菌ちゃん=バイ菌ではなく、良い菌であることを意識させる。
④菌ちゃんの土で育てた野菜とそうでない土で育てた野菜を比較する (25分)	I:1か月経って土ができれば、「この土で野菜を作ってみよう」と呼びかける。「菌ちゃんがたくさんいる土で作った野菜は何が違うか実際に野菜を食べ比べてみよう」と呼びかける。 C・H:こっちの方がおいしい。 I:菌ちゃんの野菜と、そうでない野菜を切ってそのままにしておくとうなるか写真で提示し、菌ちゃんからパワーをもらった野菜は腐りにくくて、生命力があふれていることを説明する。 I:野菜が元気になるように、みんなも菌ちゃんが入った食べ物を食べることで元気になることを告げ、菌ちゃんが入った食べ物って何があるかを問う。 C・H:納豆!味噌!ヨーグルト! I:「菌ちゃんが入ったものをたくさん食べて元気になろうね」と呼びかける。	・どちらが菌ちゃん野菜かを教えずに食べてもらう。 ・写真で腐りにくい様子を見せる。
⑤感想を交流する (10分)	Y:感想を言わせて後、指導者にお礼を述べる。	

6 PTA行事の評価例

- 野菜くずがゴミではなく、素晴らしいものであることを親子で実感することができたか。
- 土作りを通して、親子・保護者同士が活動する楽しさを味わうことができたか。

子どもたちに未来を託す教育ファーム

にいがた農えん隊が「菌ちゃんリサイクル元気野菜野菜づくり」の事務局として、8行政区、8幼稚園・保育園と9人のインストラクターとのコーディネート業務を担当させて頂き、いま実施園は秋野菜の収穫を楽しみに待っています。

当該実施園は何れも従来から野菜作りを畑またはプランターで取り組んできていますが、各園の関係者の熱意が園児に伝わり、インストラクターのお話をしっかり聞き、楽しそうに作業に参加してくれたことがとても印象的でした。食育・菌ちゃん・土づくりをお話だけでなく、紙芝居、小道具などを工夫するともっと子どもたちにインパクトを与えられたかなと思います。

当初、夏野菜を植えたい希望が多数でしたが、土づくりが間に合わず、今年度は秋野菜に取り組むことになりました。次年度からは夏野菜植え付けに間に合うように土づくりを開始し、たくさんの夏野菜を楽しめるように取り組んではいかがでしょう。また、各園とも保護者にも元気野菜土づくりへの参加を呼びかけましたが参加者が少数にとどまったことは残念です。保護者、地域社会、公立だけでなく私立幼稚園・保育園にも参加を呼びかけて、元気野菜・土づくりが市内全域に大きな輪となって広がっていくことを夢見たいものです。

子どもは菌ちゃん元気野菜・土づくりのお手伝いのほか、アグリパーク圃場での野菜作りを開園以来作業のサポートをしています。来園する子ども達から元気をもらい、野菜の成長に季節を感じ、野菜作りを楽しんでいます。

「この子らに未来を託す」子どもが全国初の教育ファーム誕生を機に、食の大切さを教え、野菜をはじめ農産物・家畜を身近に感じ、楽しさと感動を持ち帰ってもらうことは子どもたちが大きくなった時ふるさとを思い出し、新潟の食と農を振り返ることにつながり、人づくり、健康づくりに寄与すると確信しています。教育ファームの益々の発展を期待しています。

NPO 法人にいがた農えん隊 理事長 星野 尚志
(菌ちゃんリサイクル元気野菜づくりコーディネーター)



農業の体験から教育や障がい者福祉に、人の成長を支える

現代の社会は、IT化と通信技術の発達を背景に、より早く、より多く、効率的に生産し売れることを目標に動いていることが特徴的です。

一方、人が育ち、自立していくためには、様々な体験をとおして、失敗や苦労からも学びを深めていきます。人は、効率よく、手際よく育つものではありません。農業の営みは一筋縄ではいかず、生き物も多様な働きかけをとおして、初めてその果実（成果）を実らせませす。息の長い、働きかけを大切にするプロセスです。これは、子どもたちの成長にとっても大切です。デジタル化された社会の中でこそ、この時間や手間をかけて子どもが、触れ合いながら理解を深め、ゆっくりとレスポンスが返ってくる。この農の営みが脳や能を鍛えてくれます。

新潟市は田園型政令市という特性を生かして、農業を生産面だけではなく、教育や福祉の充実という切り口に生かしたことが、素晴らしいと思います。

本プログラムでは、生き生きした農業の素材をもとに豊かな体験から子どもたちの学びの質を深めていることが、魅力的です。また、わかりやすく、教育への導入方法を示した本冊子は、楽しくて教育効果が期待できますね。

一方、障がい者にとっては、このゆっくりとした、デジタル化されない、効率とは一歩、距離を置いた営みが、心の発達や回復を促す大切な栄養素となります。

国際的にも障がい者への農業の営みは、グリーンケアとして、最近注目されつつあります。我々は、新潟市ならではの障がい者用の農業体験プログラム（アグリ・ケア・プログラム）の開発にチャレンジしています。障がい福祉分野をはじめ、園芸、動物、植物、多様な領域の専門家が力を合わせて連携のもとに開発中です。そのポイントは、季節の流れに着目して、重度の障がいのある方でも、分かりやすく、そして使いやすいことをコンセプトとして心がけています。どうぞご期待の上、アグリ・ケア・プログラムの開発も、見守っていただければ幸いです。

元新潟医療福祉大学教授 星野 恵美子
(新潟市障がい者向け農業体験プログラムコーディネーター)



Ⅲ 資料

資料 1	学年・時期別プログラム一覧（小学校）	454
資料 2	学年・時期別プログラム一覧 （中学校・中等教育学校，特別支援学校，幼稚園・保育園，適応指導教室）	456
資料 3	アグリパークの概要	458
資料 4	いくとぴあ食花の概要	459
資料 5	「アグリ・リレー・プロジェクト」とは？	460
資料 6	南区（旧白根市）の怖い話「白根のカエル」	461
資料 7	餅つき体験の話「餅・魂・お年玉の話」	463
資料 8	「アグリ・スタディ・プログラム」策定経過	464
資料 9	平成 27 年度「アグリ・スタディ・プログラム」推進体制	468
資料 10	「アグリ・スタディ・プログラム」検討委員会名簿	469
資料 11	参考文献	472

資料1 学年・時期別体験学習プログラム一覧(小学校)

<単元名等の見方>
 小ア① ・小…小学校(プログラム実施対象)
 ・ア…アグリパーク(プログラム実施場所)
 (い…いくとびあ3施設 農…農家 田…学校教育田 園…学級園)
 ・①…プログラム番号

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1年	小ア① そうだったの!土のひみつ(生活)					
	小い② 動物さんたち何をしているの?(図画工作)					
2年	小い① めざせ!花いくミニマスター!(生活)					
	小ア② おやさいマジック ~命の源、土作り編~(生活)		小ア③ おやさいマジック ~パーティー編~(生活)		小ア④ まるごとかんじて ストロベリーデイ!(生活)	
	小い② 動物さんたち何をしているの?(図画工作)					
3年	小ア⑤ かしこい消費者になろう「見直そう」わたしたちの買い物(社会) 小ア⑥ かしこい消費者になろう「調べようものを作る仕事」(社会)					
	小ア⑦ 新潟おいしい果物物語(社会)					
	小農① そうだったの冬咲きチューリップの秘密(社会)					
	小農② おいしい柿づくりのひみつ(社会)					
4年	小ア⑧ 季節によって違うのですか?(理科)					
	小ア⑨ 昔の泥田に入ろう(社会)			小ア⑩ 果樹園はどんな場所?(社会)		
	小園① 教材園に今日行く、明日行く、共に育~ヘチマ栽培~(理科)					
	小園④ 生ごみが奇跡を起こす!ごみは、ごみじゃない!(理科)					
5年	小ア⑪⑫⑬ にいがたお米 NO1(社会:アグリ教育田の活用) 小田①②③ にいがたお米 NO1(社会:学校田の活用) (1)田植え編 (2)草取り編 (3)稲刈り編					
	小ア⑭ おいしさの秘密を探せ ~野菜と家畜から学ぶ 生命の循環~(社会)			小ア⑯ そうだったの! めしべの秘密(理科)		
	小ア⑮ 畜産農家の工夫を探そう(社会)					
	小ア⑰ 稲も家畜も、私たちのために(総合)					
	小ア⑱ 考えてみよう!米粉からお米のこと(総合)					
	小い④ つくって学びのち(総合)					
6年	小ア⑰ ありがとう、いただきます ~家畜から学ぶのちのあたたかさにつながり~(理科)					
	小ア⑳ ありがとう、いただきます					
	小い⑥ ペットの幸せ~動物愛護・ふれあいセンターの取組(特別活動・道徳)					
	小い⑦ 卒業に向けて~台所でひとり立ち~(総合)					
	小園② SV(School Vegetable)カレー de おもてなし(「学校菜園」を活用した一年間の取組)					
	小園③ 伝統野菜を、育てて食べちゃおう(「学校菜園」を活用した一年間の取組)					
全学年 共通	小ア⑳ 見つめて感じて ~動物となかよし~(図画工作)					
	小ア㉑ 大豆は、ホントに大事な豆(3~5年総合)					
	小ア㉒ そうだったの!牛乳に秘められた命の恵み					
	小ア㉓ アグリパーク・ツアーズ ~日帰り編~					
	小ア㉔ アグリパーク・ツアーズ ~宿泊編~					
	小い③ 食育・花育センターの秘密(3~6年総合)					

10月	11月	12月	1月	2月	3月
小ア① そうだったの!土のひみつ(生活)					
小い② 動物さんたち何をしているの?(図画工作)					
小い① めざせ!花いくミニマスター!(生活)					
小ア② おやさいマジック ~命の源、土作り編~(生活)					
小ア③ おやさいマジック ~パーティー編~(生活)					
小ア④ まるごとかんじて ストロベリーデイ!(生活)					
小い② 動物さんたち何をしているの?(図画工作)					
小ア⑤ かしこい消費者になろう「見直そう」わたしたちの買い物(社会)					
小ア⑥ かしこい消費者になろう「調べようものを作る仕事」(社会)					
小ア⑦ 新潟おいしい果物物語(社会)					
小農① そうだったの冬咲きチューリップの秘密(社会)					
小農② おいしい柿づくりのひみつ(社会)					
小ア⑧ 季節によって違うのですか?(理科)					
小ア⑨ 昔の泥田に入ろう(社会)					
小ア⑩ 果樹園はどんな場所?(社会)					
小園① 教材園に今日行く、明日行く、共に育~ヘチマ栽培~(理科)					
小園④ 生ごみが奇跡を起こす!ごみは、ごみじゃない!(理科)					
小ア⑪⑫⑬ にいがたお米 NO1(社会:アグリ教育田の活用) 小田①②③ にいがたお米 NO1(社会:学校田の活用) (1)田植え編 (2)草取り編 (3)稲刈り編					
小ア⑭ おいしさの秘密を探せ ~野菜と家畜から学ぶ 生命の循環~(社会)					
小ア⑯ そうだったの! めしべの秘密(理科)					
小ア⑮ 畜産農家の工夫を探そう(社会)					
小ア⑰ 稲も家畜も、私たちのために(総合)					
小ア⑱ 考えてみよう!米粉からお米のこと(総合)					
小い④ つくって学びのち(総合)					
小い⑤ めざせ!和食で“家庭遺産”@いくとびあ食花(家庭)					
小ア⑲ まかせてね、今日の食事 ~アグリ定食を作ろう~(家庭科)					
~道徳編~(道徳)					
小い⑥ ペットの幸せ~動物愛護・ふれあいセンターの取組(特別活動・道徳)					
小い⑦ 卒業に向けて~台所でひとり立ち~(総合)					
小園② SV(School Vegetable)カレー de おもてなし(「学校菜園」を活用した一年間の取組)					
小園③ 伝統野菜を、育てて食べちゃおう(「学校菜園」を活用した一年間の取組)					
小ア⑳ 見つめて感じて ~動物となかよし~(図画工作)					
小ア㉑ 大豆は、ホントに大事な豆(3~5年総合)					
小ア㉒ そうだったの!牛乳に秘められた命の恵み					
小ア㉓ アグリパーク・ツアーズ ~日帰り編~					
小ア㉔ アグリパーク・ツアーズ ~宿泊編~					
小い③ 食育・花育センターの秘密(3~6年総合)					
(特別活動:学級活動[共通事項]) ※ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成					
(特別活動:学校行事[遠足・集団宿泊的行事]) ※ 学校の希望により、多様な農業体験学習や農業体験を選択することが可能					
(特別活動:学校行事[遠足・集団宿泊的行事]) ※ 学校の希望により、多様な農業体験学習や農業体験を選択することが可能					

資料2 学年・時期別体験学習プログラム一覧

(中学校・中等教育学校, 特別支援学校, 幼稚園・保育園, 適応指導教室)

中ア① ・中…中学校・中等教育学校 (プログラム実施対象)
 (特…特別支援学校 幼・保…幼稚園・保育園 適…適応指導教室)
 ・ア…アグリパーク (プログラム実施場所)
 (い…いくとびあ3施設 農…農家 田…学校教育田 園…学級園)
 ・①…プログラム番号

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
中学校 1年	中ア① 食素材の力を活かし、付加価値を高める ～新潟食農ブランドづくり～ (技術・家庭 家庭分野)					
	中ア② 協力し合い 苦手な野菜を克服しよう! (特別活動: 学級活動)					
中学校 2年	中ア④ ザ・野菜づくり! ～アグリで体験 生物育成と季節の食材の調理～ (技術・家庭技術分野、家庭分野)					
	中ア⑤ 農業が感動に変わる職場体験					
	中ア⑥ 新潟農業ヒストリー ～乾田化で都市化～ (総合)					
	中ア⑦ アグリビジネスを体験しよう ～仮想株式会社で企業体験学習～ (総合)					
	中ア⑧ 新潟はスウィーツ王国だ! ～地場産野菜の魅力を生かして～ (総合)					
中学校 全学年 共通	中ア⑨ アグリパーク・ツアーズ ～日帰り編～					
	中ア⑩ アグリパーク・ツアーズ ～宿泊編～					
	中い① 食花ハローワーク					
	中農① 日本で一番! アート園芸 (総合)					
	中農② 世界にプレゼン! ブランド新潟米 (総合)					
特別支援学校 小学部 全学年	特ア① あいこいこ! 『HOT ほっと』 あにまる					
特別支援学校 中学部 全学年	特ア② うれしいな! みんなと一緒に野菜作り! ～種まき・水やり編～ (学校行事)					
	特ア③ うれしいな! みんなと一緒に野菜作り!					
	特ア④ アグリツアーを成功させよう!					
	特ア⑤ アグリツアーを成功させよう!					
	特い① 植物にふれよう・つくろう～花びらが大変身～ (春編) (生活)					
	特園① さつまいもを育てよう・おいしく					
幼稚園 保育園	幼・保ア① 菌ちゃんはおともだち ～野菜くずでリサイクル					
	幼・保ア② 大豆の大変身					
	幼・保ア③ 牛さん					
	幼・保い① 朝ごはん					
	幼・保い② 植物の不思議					
	幼・保い③ 楽しく食べよう!					
	幼・保園① サツマイモ大好き (健康)					
	幼・保園② 菌ちゃん元気な野菜作り (環境)					
	幼・保園③ 何ができる					
適応指導教室	適ア① ふれあい交流会 (学校行事)					
【参考】 PTA	PTA行事 親子で菌ちゃんとお友達! ～野菜くずでリサイクル					

10月	11月	12月	1月	2月	3月
※ 適応と成長及び健康安全					
中ア③ Agrish Cooking! ～英語で郷土料理 in Agri～ (英語)					
学習! (総合)					
(特別活動: 学校行事 [遠足・集団宿泊的行事]) ※ 学校の希望により、多様な農業体験学習や農業体験を選択することが可能					
(特別活動: 学校行事 [遠足・集団宿泊的行事]) ※ 学校の希望により、多様な農業体験学習や農業体験を選択することが可能					
(総合)					
ZOO!! (生活)					
～収穫→調理 or 販売編～ (学校行事)					
～日帰り編～ (学校行事)					
～宿泊編～ (学校行事)					
特い① 植物にふれよう・つくろう～花びらが大変身～ (春編) (生活)					
食べよう (生活)					
元気野菜づくり～ (環境)					
～味噌の不思議～ (環境)					
ありがとう (環境)					
元気いっぱい (健康)					
～いろいろなものに変身～ (環境)					
～おいしく食べよう 朝ご飯～ (健康)					
のだらう? みんなで野菜作り! ～野菜で漬物づくり～ (環境)					
元気野菜づくり～					

※ 野菜の生育状況、動物の飼育状況により、プログラムの実施時期が変わったり、実施できなくなったりする場合がありますので、ご了承

ください。

資料3 アグリパークの概要

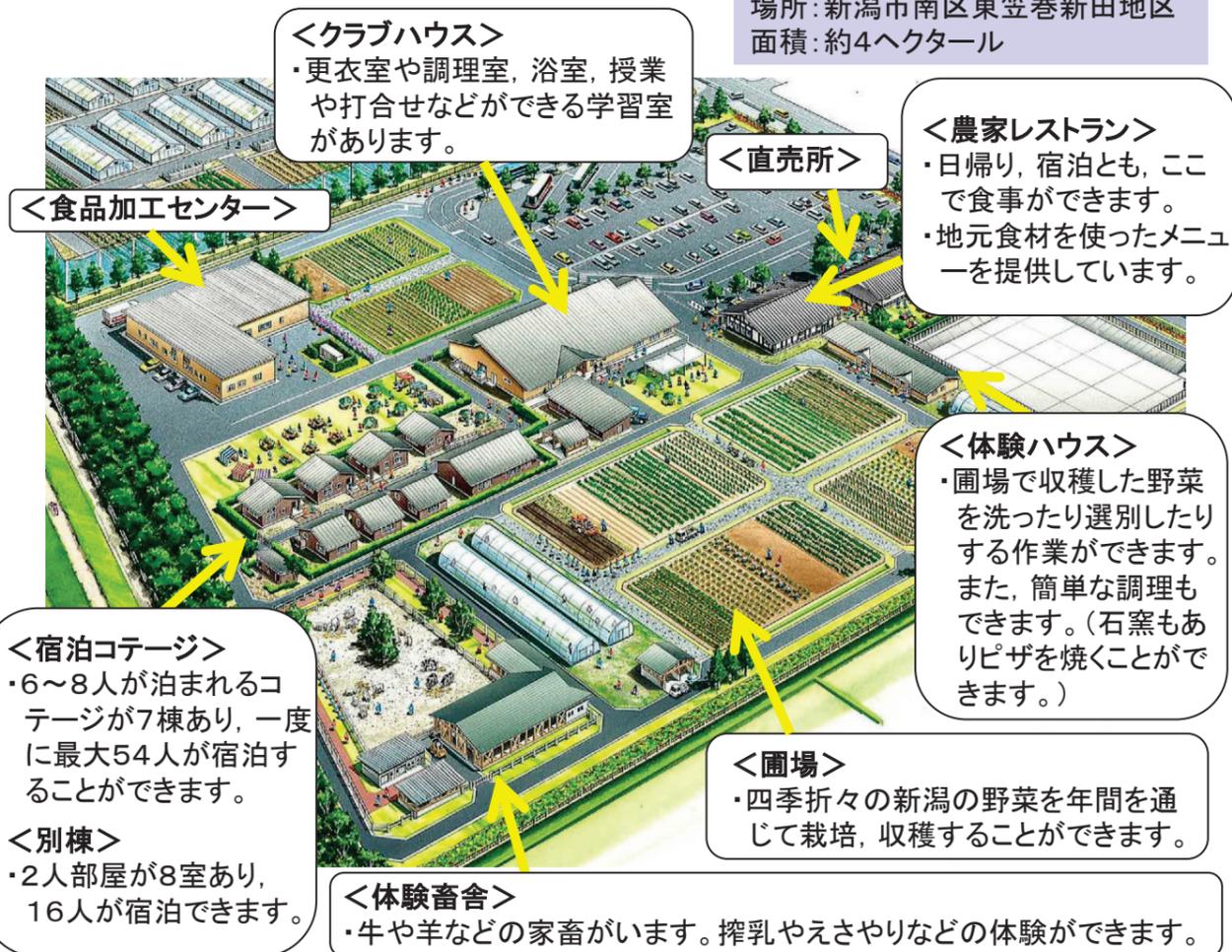
新潟市アグリパークは、農業に触れ、親しみ、学ぶ場を提供する、日本初の宿泊型公立教育ファームです。

園内では、農作物の栽培や収穫、家畜の乳搾りや餌やり、石窯を使ったピザ作りなどを体験できます。

また、学習指導要領に基づいた学習と農業体験が結びついた農業体験プログラム「アグリ・スタディ・プログラム」を展開しています。

各学校からは、学習のねらいに応じてプログラムを選択的に実施してもらい、実感をともなった教科等の学習を進めてもらうとともに、友達との絆を深めたり、命の尊さや農業都市新潟のすばらしさに気付いたりする場として活用されることを期待しています。

場所：新潟市南区東笠巻新田地区
面積：約4ヘクタール



<お問い合わせ>
新潟市アグリパーク
〒950-1406 新潟市南区東笠巻新田3044
電話：025-378-3109
FAX：025-378-3096
メール：info@niigata-aguri.com
ホームページ：http://www.niigata-aguri.com

資料4 いくとぴあ食花の概要

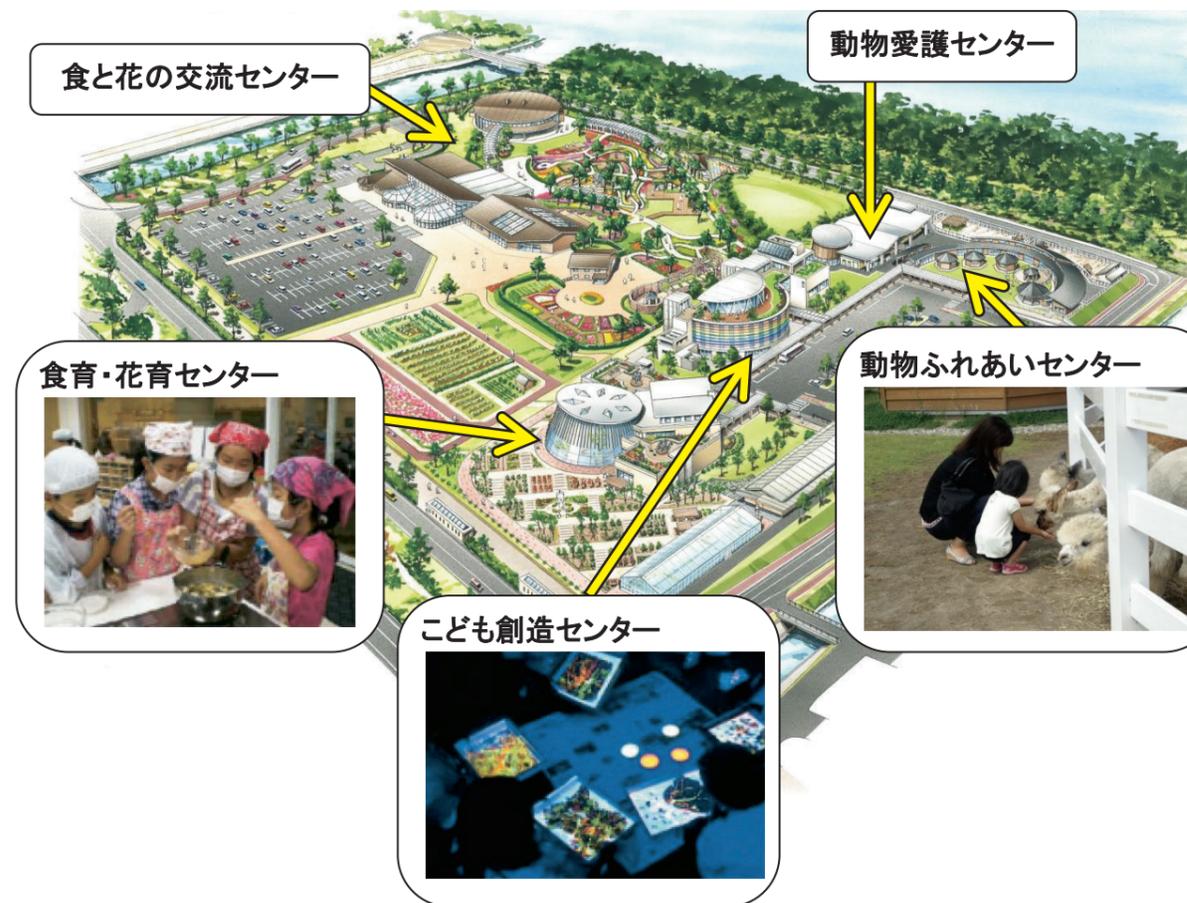
「いくとぴあ食花」は、都市と田園地帯が交わる鳥屋野潟のほとりに位置し、美しい風景や野鳥などの生き物を間近に観ることもできる憩いのスポットです。

新潟市が誇る食と花をメインテーマに、子どもから大人まで様々な体験と交流ができる施設がそろっています。そのうち、教育ファームを展開する3施設をご紹介します。

「食育・花育センター」は、「食と花」を一体的に学ぶことができる施設です。新潟の美味しさ、美しさ、豊かさを発掘する目を育て、心と身体の健康づくりを市民運動へと展開していく拠点施設です。

「こども創造センター」は、未来を担う子どもたちが、人との交流や創作活動・体験活動を通して、自分で考え、行動していく「自ら生きる力」を伸ばし、他者と協調しながら「共に生きる力」を育むための機会と場所を提供する拠点施設です。

「動物ふれあいセンター」は、アルパカ、カピバラ、ヤギ、ヒツジ、ウサギなどの動物が飼育されており、エサやりやふれあいなどの体験を通して動物への理解を深め、動物と人の関わりを学ぶことができます。



<お問い合わせ>
こども創造センター（いくとぴあ食花「団体利用」総合窓口）
〒950-0933 新潟市中央区清五郎375-2
電話：025-281-3715
FAX：025-281-3725
メール：info_kodomo@niigatamirai.com
ホームページ：http://www.ikutopia.com

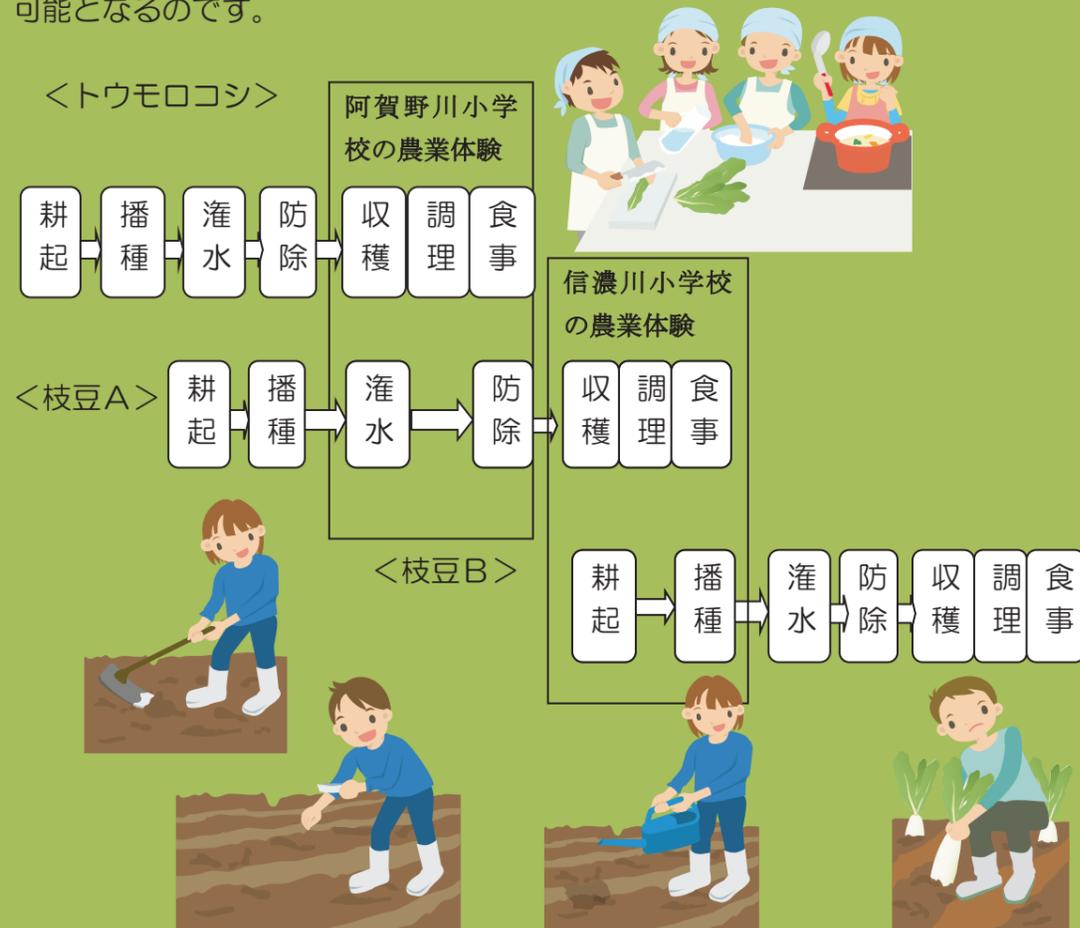
資料5「アグリ・リレー・プロジェクト」とは？

アグリパークは、子どもが耕起・播種・灌水・防除・収穫・食品加工・調理・食事等の農作業体験・食体験を行うことのできる施設です。子どもが、それら一連の体験を行い、学習に生かすことができれば、体験と知識を結び付けたすばらしい学びが実現できます。

しかし、授業時数の関係から全部の体験を継続して行うことは不可能です。

そのため、アグリパークでは、複数の学校がリレー形式で一つの農作物を育てる「アグリ・リレー・プロジェクト」というシステムを設けました。これは、A校が耕起した畑にB校が播種し、C校が灌水・防除し、さらにD校が収穫・調理して食するというものです。

このように、多様な農作物をリレー形式で栽培することにより、他の学校が育てた農作物を収穫させてもらい調理して食す代わりに、自分たちが灌水・防除して次の学校に収穫を委ねるなど、限られた時間で農業体験と食体験の両方を行うことが可能となるのです。



*畑には、農作業履歴（どこの学校がどのような農作業を行ってきたのか）を明示した立て札を立て、多くの学校がリレーにより農作物を育てる「アグリ」の輪を形成していることをアピールします。

私が小学生の頃のことでした。ある雨上がりの朝、友達のとしおと田んぼの中を通る道路を、学校に向かって歩いていたら道の端に大きなカエルの死骸を見つけました。おそらく車に轢かれたのでしょう、舌を出し、無惨に潰れたカエルの死骸には、たくさんのハエが黒く群がっていました。

それは当時まだたくさんいた、ウシガエルと呼ばれるカエルで、そう手足を伸ばすと20センチから30センチはあるのでしょうか、とても大きなカエルでした。鳴き声が牛に似ているところから、その名が付いたようですが…。

ウシガエルは、食用ガエルとも呼ばれました。その名の通り、食用、食べるためのカエルです。軟らかい身をしていて、見た目や味が鶏肉のようなので、昔は皮をむき、骨付きで食べられていたのです。

ウシガエルは小さな雨ガエルのように大群で出てくることはありませんでしたし、めったにその死骸に出くわすこともありませんでした。ただ、大きいだけに、車に潰された牛ガエルの死骸に出会うのは、やはり気持ちの良いものではありませんでした。

その死骸を見ながら、としおが私に言いました。

「おい、しげる。カエルのたたりって、知ってるか。」

「いや。なんだ、それ。」

「カエルの死骸を見た日に食用ガエルを食べると、化けて出るんだってよ。」

「…うそだろ。」

「いや、うそじゃねえって。本当に出るんだってよ。」

「でも、食用ガエルなんか、家でめったに出ないし、関係ねえさ。」

そんな話をした夜のことでした。何としたことか、我が家の夕食に、その食用ガエルが出たのです。まるで骨付きチキンのように、唐揚げにされた食用ガエルが、皿に山盛り置かれていたのです。「となりの常吉どんが、食用ガエルくれたぞ。さあ、食（けえ）や、食（けえ）や。」

父はそう言ってご機嫌でしたが、私は朝、牛ガエルの死骸を見た上に、としおの話を聞いたばかりでしたので、何だか食べる気にはなりません。もちろん、本当に化けて出てくるとは思っていないんですが…。いつもは喜んで食べていた私ですが、その日は家族に適切なことを言って、とうとう一つも食べませんでした。

さて、その日の夜中。運の悪いことに、私は急に腹が痛くなり、トイレに行きたくなくなりました。実は昔の田舎の家というのは、トイレが家の外に作られていて、トイレに行くには一度外に出なければなりません。

外は真っ暗で、一所懸命、暗闇に目を慣らしながら、頭で覚えている位置をたよりに、用を足してこなければなりません。ですから、夜は我慢してなるべくトイレに行かないようにしていましたが、その日のように腹が痛くなるとは、もう我慢することもできません。

「おっかながってないで、一人で行ってこい。」

言われて私は、学校であったおもしろいことなど、別なことを考えるようにしながら、外のトイレへと行きました。しかし、その日は運悪く、月が雲に隠れて、いつも以上に真っ暗闇でした。

昔のトイレはどこもしゃがんで用を足す和式トイレで、しかも今のような水洗便所ではありませんでした。便器の下はどこまでも続くかと思うような深い穴になっていましたので、暗がりの中で間違っってその穴に足を落とさないよう気を付けながら、私は急いで便器にまたがりました。

と、私がしゃがんだそのとき、私の首筋に、ぴたっと冷たいものが触れました。「ひっ」私はびっくりしましたが、きっと水滴か何か落ちてきたのだろうと考えるようにして、首筋にそっと手を当ててみました。すると、そこには冷たくぬるっとする感触がありました。「わっ」私は思わず手を振り払って、首筋に付いていたものにじっと目をやりました。どうやらそれは、小さなアマガエルだったようです。



「ふう…」気が弱っているときには何でも怖く思えるものだ、別に怖がることはない、と私は自分に言い聞かせました。が、一度弱気になったせいか、用を足している間も、何だか暗闇の中で誰かに見張られているような、落ち着かない気持ちがありました。

ようやく私が用を足し終わる頃、雲に隠れていた月が少し現れ、トイレの中に光が差し込みました。ふと顔を上げて正面の板壁に目をやった私は、思わず「あっ」と声を上げそうになりました。月明かりに映し出された板壁には、一面びっしりと鮮やかな緑色をしたアマガエルが張り付いていたのです。その数は、何十匹を超え、何百匹だったことでしょう。

「うわっ、何でこんなにカエルがいるんだ。」

壁一面に張り付いたアマガエルが、一斉に自分目がけて跳びついて来そうに感じられました。私は、「怖くない、怖くない」と自分に言い聞かせると、急いでトイレから出ました。そして、足早に母屋（おもや）へ戻ろうとしたのですが、今度はその足下に、暗闇からいきなり子犬ほどの大きさの何かが、跳びついてきました。

「ぐがあっ」私はびっくりして跳び上がりました。そして、3歩ほど飛び退いて目を凝らすと、それは50センチはあろうかという、大きな大きなウシガエルでした。そのウシガエルは、瞬きもせず、じっと私を見ていました。まるで私をにらむような目つきで、腹を大きくふくらませたり、凹ませたりしながら…。

完全に固まってしまった私は、しばらくそのウシガエルと向かい合っていました。遠くで聞こえていたウシガエルたちの声が、だんだん、だんだん大きくなって、大きな大きな大合唱へと変わっていくように思えました。私は頭の中が、だんだんぼうっとしてきました。すると、ウシガエルたちの鳴き声に混じって、こんな声が聞こえてきました。

「…食ったろう。…食ったろう。…おめえ、食ったろう。」

私は、としおの言っていた、カエルのたたりの話を思い出しました。

「…おら、食ってねって。食ってねって。一つも食ってねって。」

私は目をつぶりながら、必死になってそう言いながら、一目散に母屋に走り帰りました。そして、そのまま布団に入ると、ぶるぶる、ぶるぶるふるえていました。

よく日、としおにその話をすると、

「そんげにでっけ食用ガエルは、見たことも聞いたこともねえぞ。」

と、笑って信じてくれませんでした。でも、私が見たのは、夢でも何でもないので。

「うそじゃねえって。本当にな…。」

私がむきになって言い返そうととしおを見ると、何と、いつの間にかその右肩には、小さな緑色のアマガエルが載っていました。そして、ニターッと醜く顔をゆがめて私に笑いかけると、としおの肩から飛び降り、草むらの中へと消えてしまいました。私にはそれが、「いつもお前の近くで見てるぞ」というメッセージのように思えました。

それ以来、私はカエルを見るたびに心臓の鼓動が激しくなり、居もしないウシガエルたちの鳴き声が、いつまでもいつまでも、頭の中に鳴り響くのでした。



資料7 餅つき体験の話「餅・魂・お年玉の話」



みなさんはお正月になると「お年玉」といって、お金をもらいますね。でも、昔のお年玉は、お金ではありませんでした。

昔のお年玉は何だったのでしょうか。(間)

昔のお年玉は、(ゆっくり)お餅だったのです。

昔の子供たちは、正月になると、お父さんからお年玉として、お餅をもらったのです。

なぜ、お年玉がお餅なのでしょう？

その答えは、「お年玉」という言葉の中にあります。

「お年玉」の「お」は、ていねいに言うときの「お」です。残りは、「年玉」です。

「年玉」というのは何でしょうか。(間)

年玉というのは、「年の魂」という意味です。

昔は、お正月になると、人間は一つ年をとると考えていました。

お正月に一つ年をとるためには、「年の魂」を一つもらわなければなりません。

「たましい」をもらうから、一つ年をとる。一つ年が増えるのです。

それでは、なぜ「たましい」がお餅なのでしょう？(間)

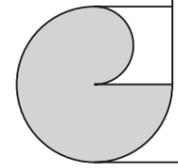
それは、昔から日本の国では、お餅は、お百姓さんが八十八の手間をかけてていねいに育てた大切なお米を使って作った栄養が高い食品で、神様の魂が宿っていると信じられていたのです。

だから、お正月には、魂がやどっていると信じられていたお餅を一つもらって、年を一つ増やしたのです。

そのお餅が、年の魂、「年魂」「年玉」「お年玉」と呼ばれていったのです。

今日、皆さんが作ってくれるお餅は、そのように昔から日本で大切にされてきたものです。魂が宿っていると考えられていたものです。

一粒一粒のお米から、心を込めて、お餅を作りましょう。



資料8 「アグリ・スタディ・プログラム」策定経過

1 初版

(1) 小学校

No.	開催会議等	開催年月日	協議内容等
1	第1回 体験学習プログラム検討会議	平成24年 12月27日(木)	・教育ファームの経緯, 委員の役割について ・教育ファームの推進について ・学校における教育ファームの位置づけについて
2	伊賀の里モクモク手づくり ファーム研修	平成25年 1月10日(木) ～12日(土)	・1泊2日の体験研修
3	第2回 体験学習プログラム検討会議	平成25年 1月24日(木)	・施設整備の進捗状況について ・農業体験活動を位置づける単元の検討について
4	第3回 体験学習プログラム検討会議	平成25年 2月6日(水)	・施設整備の進捗状況について ・農業体験活動を位置づける単元の検討について
5	第4回 体験学習プログラム検討会議	平成25年 2月26日(火)	・施設整備の進捗状況について ・農業体験活動を位置づける単元の検討について
6	第5回 体験学習プログラム検討会議	平成25年 3月12日(火)	・体験学習プログラムの検討について
7	第6回 体験学習プログラム検討会議	平成25年 4月23日(火)	・体験学習プログラムの検討について
8	第7回 体験学習プログラム検討会議	平成25年 5月29日(水)	・アグリパーク現地視察 ・体験学習プログラムの検討について
9	第8回 プログラム検討会議	平成25年 7月1日(月)	・体験学習プログラムの検討について
10	第1回 教育ファーム推進校長会議	平成25年 8月27日(火)	・教育ファーム推進の全体像について ・現状報告, 見直しについて
11	第2回 教育ファーム推進校長会議	平成25年 10月24日(火)	・教育ファーム推進に向けた支援体制, 推進体制について ・新潟市アグリパーク 利用要項について

(2) 中学校

No.	開催会議等	開催年月日	協議内容等
1	教育ファームにかかる 中学校長等との意見交換会	平成25年 7月12日(金)	・教育ファーム, アグリパークについての意見交換
2	伊賀の里モクモク手づくり ファーム研修	平成25年 9月26日(木) ～28日(土)	・1泊2日の体験研修
3	第1回 体験学習プログラム検討会議	平成25年 10月23日(水)	・体験学習プログラムの検討について
4	第2回 体験学習プログラム検討会議	平成25年 12月4日(水)	・体験学習プログラムの検討について
5	第3回 体験学習プログラム検討会議	平成25年 12月17日(火)	・体験学習プログラムの検討について
6	第4回 体験学習プログラム検討会議	平成26年 1月9日(木)	・体験学習プログラムの検討について

(3) 特別支援学校

No.	開催会議等	開催年月日	協議内容等
1	伊賀の里モクモク手づくり ファーム研修	平成25年 9月26日(木) ～28日(土)	・1泊2日の体験研修
2	第1回 体験学習プログラム検討会議	平成25年 10月23日(水)	・体験学習プログラムの検討について
3	第2回 体験学習プログラム検討会議	平成25年 12月4日(水)	・体験学習プログラムの検討について
4	第3回 体験学習プログラム検討会議	平成25年 12月26日(木)	・体験学習プログラムの検討について

2 補遺編

(1) 小学校・中学校・特別支援学校

No.	開催会議等	開催年月日	協議内容等
1	第1回「アグリ・スタディ・プログラム」改訂検討会議	平成26年 8月20日(水)	・アグリ・スタディ・プログラムについて ・今後の進め方について
2	第2回「アグリ・スタディ・プログラム」改訂検討会議	平成26年 9月25日(木)	・体験学習プログラムの検討について
3	第3回「アグリ・スタディ・プログラム」改訂検討会議	平成26年 11月7日(金)	・体験学習プログラムの検討について
4	第4回「アグリ・スタディ・プログラム」改訂検討会議	平成26年 12月17日(水)	・体験学習プログラムの検討について

(2) 幼稚園・保育園

No.	開催会議等	開催年月日	協議内容等
1	第1回「アグリ・スタディ・プログラム」幼稚園・保育園編検討会議	平成26年 8月22日(金)	・アグリ・スタディ・プログラムについて ・今後の進め方について
2	第2回「アグリ・スタディ・プログラム」幼稚園・保育園編検討会議	平成26年 10月16日(木)	・体験学習プログラム（アグリパーク編）の検討について
3	第2回「アグリ・スタディ・プログラム」幼稚園・保育園編検討会議	平成26年 10月17日(金)	・体験学習プログラム（いくとびあ食花編）の検討について
4	第3回「アグリ・スタディ・プログラム」幼稚園・保育園編検討会議	平成26年 11月10日(月)	・体験学習プログラムの検討について
5	伊賀の里モクモク手づくりファーム研修	平成27年 1月25日(日)～ 27日(火)	・1泊2日の体験研修

3 改訂版

No.	開催会議等	開催年月日	協議内容等
1	伊賀の里モクモク手づくりファーム研修	平成27年 5月21日(木) ～23日(土)	・1泊2日の体験研修
2	第1回アグリ・スタディ・プログラム改訂委員会	平成27年 6月5日(金)	・改訂版の作成について ・改訂にかかる関係者の役割分担について
3	第1回諸問題検討部会	平成27年 6月17日(水)	・現状と課題の洗い出し
4	第1回アグリ・スタディ・プログラム改訂部会	平成27年 6月18日(木)	・改訂内容についての検討
5	第1回体験料検討部会	平成27年 6月19日(金)	・現在の設定料金と実情との比較について意見交換
6	第2回アグリ・スタディ・プログラム改訂委員会	平成27年 6月22日(月)	・各部会の進捗状況について
7	第2回体験料検討部会	平成27年 7月14日(火)	・適正価格の検討
8	第3回体験料検討部会	平成27年 7月22日(水)	・適正価格の検討
9	第2回アグリ・スタディ・プログラム改訂部会	平成27年 8月3日(月)	・改訂内容についての検討
10	第3回アグリ・スタディ・プログラム改訂部会	平成27年 8月17日(月)	・改訂内容についての検討
11	第4回アグリ・スタディ・プログラム改訂部会	平成27年 9月8日(月)	・改訂内容についての検討
12	第4回体験料検討部会	平成27年 9月16日(水)	・適正価格の検討
13	第5回アグリ・スタディ・プログラム改訂部会	平成27年 9月18日(金)	・改訂内容についての検討

資料9 平成27年度「アグリ・スタディ・プログラム」推進体制

「アグリ・スタディ・プログラム」総合推進会議

新潟市小学校長会長 逢坂健太郎（新潟市立白山小学校長）
 新潟市小学校教育研究会会長 田中 賢一（新潟市立亀田小学校長）
 新潟市中学校長会長 高居 和夫（新潟市立小針中学校長）
 新潟市中学校教育研究会会長 澁谷 雅秀（新潟市立関屋中学校長）
 新潟市立特別支援学校代表校長 鷲津 毅史（新潟市立東特別支援学校長）
 新潟市小中学校PTA連合会会長 大宮 一真（新潟市立宮浦中学校PTA会長）

「アグリ・スタディ・プログラム」小学校推進委員会

北区 戸川しげ子（新潟市立豊栄南小学校長）
 東区 中村 芳郎（新潟市立竹尾小学校長）
 中央区 長尾 嘉博（新潟市立有明台小学校長）
 江南区 今井 真悟（新潟市立早通小学校長）
 秋葉区 岩崎 道郎（新潟市立新津第三小学校長）
 南区 須貝 久弥（新潟市立大鷲小学校長）
 西区 井浦 順子（新潟市立笠木小学校長）
 西蒲区 青木 清美（新潟市立潟東東小学校長）

「アグリ・スタディ・プログラム」中学校推進委員会

佐藤 宏欣（新潟市立大江山中学校長）
 玉木 浩（新潟市立白根北中学校長）
 佐藤 靖子（新潟市立中野小屋中学校長）
 齋藤 雅敏（新潟市立西川中学校長）
 和泉 哲章（新潟市立小針中学校教頭）

「アグリ・スタディ・プログラム」評価・サポート委員会

岩崎 道郎（新潟市立新津第三小学校長）
 浅野 秀之（新潟市立漆山小学校長）
 佐藤 靖子（新潟市立中野小屋中学校長）
 佐々木達也（新潟市小中学校PTA連合会副会長）
 伊藤 充（新潟市教育委員会教育政策監）
 大竹 和浩（新潟市食育・花育センター所長）

資料10 「アグリ・スタディ・プログラム」検討委員会名簿

青木かほる（新潟市立巻つくし保育園長）
 浅井 俊一（にいがた未来共同事業体・新潟市こども創造センター館長）
 浅野 秀之（新潟市立漆山小学校長）
 阿部 隆一（新潟市教育相談センター所長，前新潟市教育委員会学校支援課指導主事）
 安部 宏美（にいがた未来共同事業体・こども創造センターチーフ）
 飯島 千秋（にいがた未来共同事業体・こども創造センターチーフ）
 石橋 望（新潟市農林水産部食育・花育センター職員）
 磯部 久人（にいがた未来共同事業体・グリーン産業㈱常務）
 伊藤 明世（新潟市教育ファーム市民交流会議事務局員）
 伊藤 紀幸（新潟市農林水産部農業特区・農村都市交流課アグリ・スタディ指導主事）
 伊藤 真理（新潟市立亀田小学校教諭）
 伊藤 充（新潟市教育委員会教育政策監）
 岩崎 道郎（新潟市立新津第三小学校長，前新潟市教育委員会学校支援課指導主事）
 上杉 玲子（新潟市農林水産部食育・花育センター非常勤嘱託職員）
 植野 浩之（新潟市立西幼稚園教頭）
 遠藤 昇（新潟市教育委員会学校支援課指導主事）
 遠藤 寿紀（新潟市立白根北中学校教諭）
 大井 隆（新潟市教育委員会学校支援課長）
 大井田 哲（にいがた未来共同事業体・グリーン産業㈱部長）
 大岩 樹生（新潟市立白新中学校教諭）
 大竹 和浩（新潟市食育・花育センター所長）
 大谷 善秋（前新潟市食育・花育センター所長）
 小熊 由美（新潟市立牡丹山幼稚園講師）
 風間 篤史（にいがた未来共同事業体・グリーン産業㈱係長）
 片桐 宏之（にいがた未来共同事業体・アグリパーク副園長）
 金澤 博（新潟市立東特別支援学校教諭）
 川合 千尋（新潟市教育委員会学校支援課指導主事）
 川崎 広之（新潟市立味方小学校教諭）
 川村 千絵（にいがた未来共同事業体・グリーン産業㈱職員）
 川又 健司（新潟市立太夫浜小学校長，前新潟市教育委員会学校支援課指導主事）
 木村 昌克（新潟市農林水産部食育・花育センター所長補佐）
 黒崎 裕子（新潟市農林水産部食育・花育センター主幹）
 小島 雅彦（にいがた未来共同事業体・動物ふれあいセンター運営管理部長）
 後藤みゆき（にいがた未来共同事業体・愛宕商事㈱主任）

小濱 亨（新潟市立巻南小学校長，前新潟市教育委員会学校支援課指導主事）
小林 厚司（新潟市立東山の下小学校教諭，前新潟市立小針小学校教諭）
小林真優子（新潟市農林水産部食育・花育センター栄養士）
小林由希恵（新潟市教育委員会学校支援課指導主事）
小松 浩也（伊賀の里モクモク手づくりファーム職員）
齋藤いずみ（新潟市教育委員会学校支援課指導主事）
齋藤 裕子（新潟市教育委員会学校支援課指導主事）
坂 哲也（新潟市教育委員会学校支援課指導主事）
佐久間由紀恵（新潟市地域魅力創造部課長補佐，前新潟市食育・花育センター係長）
佐々木達也（新潟市小中学校PTA連合会副会長）
佐藤 晶代（新潟市保健衛生部保健所動物愛護センター所長）
佐藤 克彦（新潟市農林水産部食育・花育センター主査）
佐藤 信幸（前新潟市農林水産部教育ファーム推進担当ディレクター）
佐藤 博子（新潟市立沼垂幼稚園長）
佐藤 靖子（新潟市立中野小屋中学校長，前新潟市立白南中学校教頭）
澁谷 徹（新潟市教育委員会学校支援課指導主事）
清水 良紀（新潟市立山の下小学校教諭，前新潟市立白根小学校教諭）
白井智佳子（前新潟市立牡丹山幼稚園長）
白井 吉之（にいがた未来共同事業体・愛宕商事㈱部長）
白石誠史郎（新潟市教育委員会教職員課総括管理主事，前新潟市立濁川中学校校長）
白澤 陽子（新潟市教育委員会学校支援課指導主事）
杉本 久子（新潟市農林水産部食育・花育センター係長）
関 卓二（新潟市立有明台小学校教諭）
高橋 恒彦（新潟市立東新潟中学校長，前新潟市教育委員会学校支援課長）
田口 琢望（新潟市立沼垂幼稚園教諭）
田代 孝（新潟市教育委員会学校支援課指導主事）
田中 和志（にいがた未来共同事業体・動物ふれあいセンター館長）
田中 貴広（新潟市農林水産部食育・花育センター園芸技能員）
田村 篤（新潟市教育委員会教職員課管理主事，前新潟市立新関小学校校長）
津野庄一郎（新潟市教育委員会学校支援課課長補佐）
戸川 美子（新潟市教育委員会学校支援課指導主事）
中川 一之（新潟市教育委員会学校支援課総括指導主事）
中村 康（新潟市立葛塚小学校教諭）
永井 一哉（新潟市教育委員会学校支援課指導主事）
野澤 州子（新潟市立新津第三幼稚園教諭）
橋本 宜枝（にいがた未来共同事業体・愛宕商事㈱職員）

藤巻 真紀（新潟市立南中野山小学校教諭，前新潟市立荻川小学校教諭）
藤本 洋則（新潟市教育委員会学校支援課課長補佐，前新潟市立松浜中学校校長）
星 千里（前新潟市立興野保育園長）
星 麻理（新潟市立西特別支援学校教諭）
保科賢一郎（新潟市教育委員会学校支援課総括指導主事，前新潟市立小合中学校校長）
星野 尚志（新潟市教育ファーム市民交流会議事務局長）
堀内 澄江（新潟市西蒲区健康福祉課指導保育士，前新潟市立諏訪木保育園長）
本多 朋子（新潟市立新津第三幼稚園教頭）
本間 寿美（新潟市立小新中学校長，前新潟市教育委員会教育相談センター所長）
真柄 正幸（にいがた未来共同事業体・アグリパーク園長）
松田真理亜（新潟市農林水産部食育・花育センター職員）
水野 浩子（新潟市立下山小学校栄養教諭，前新潟市教育委員会保健給食課指導主事）
皆川 公永（前新潟市保健衛生部保健所動物愛護センター主幹）
湊 健太（にいがた未来共同事業体・グリーン産業㈱職員）
八木栄弥子（新潟市立東特別支援学校教諭）
山崎 貴志（新潟市立笹口小学校教諭，前新潟市立沼垂幼稚園教諭）
山田 哲也（新潟大学教育学部附属新潟小学校副校長，前新潟市立有明台小学校長）
吉田 優美（にいがた未来共同事業体・食と花の交流センター職員）
和田 友宏（新潟市農林水産部食育・花育センター主査）
渡辺 栄（新潟市南区建設課長補佐，前新潟市南区産業振興課長補佐）
渡辺 徹（新潟市立鏡淵小学校長，前新潟市教育委員会教育相談センター所長補佐）
渡部 一也（にいがた未来共同事業体・愛宕商事㈱室長）

資料 11 参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領』平成 20 年
文部科学省『中学校学習指導要領』平成 20 年
文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部学習指導要領』平成 21 年
文部科学省『幼稚園教育要領』平成 20 年
文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』平成 22 年
文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』平成 23 年
新潟県教育庁義務教育課指導第 1 係『キャリア教育ガイド』平成 20 年
新潟県教育庁義務教育課指導第 1 係『新潟県の子どものたちの夢をかなえるキャリア教育の推進に向けて 平成 20 年度「新潟県キャリア・スタート・ウィーク推進地域事業」の取組を通して』平成 21 年
新潟県新聞活用教育(N I E)推進協議会『新潟県N I E実践報告書 Newspaper in Education 教育に新聞を』平成 25 年
新潟市教育委員会『新潟市教育ビジョン第 3 期実施計画 NEXT&NEW』平成 27 年
新潟市教育委員会『小学校各教科等年間指導計画大綱案』平成 22 年
新潟市教育委員会『中学校各教科等年間指導計画大綱案』平成 23 年
新潟市教育委員会『食に関する指導の手引き』平成 24 年
新潟市教育委員会『新潟市の授業づくり 実践編』平成 25 年
新潟市教育委員会『授業づくりと生徒指導の一体化を目指して』平成 26 年
新潟市『新潟市史 通史編』平成 7～9 年
白根市『白根市史 通史編』平成元年
新潟市小学校教育研究協議会社会研究部『社会科指導計画』平成 23 年
新潟市小学校教育研究協議会社会研究部『わたしたちの政令市新潟』平成 19 年
新潟市立新潟小学校『平成 26 年度環境コミュニケーション科研究紀要』平成 26 年
新潟市立白新中学校『ファシリテーションとユニバーサルデザインで創る授業』平成 26 年
亀田郷土地改良区『写真集 亀田郷一水と土と農民』平成 14 年
亀田郷土地改良区『まんが亀田郷の歴史』平成 10 年
にいがたファシリテーション授業研究会『みんなが主役！わくわくファシリテーション授業』平成 25 年
胎内型ツーリズム推進協議会 301 人会『胎内市のふるさと体験学習』平成 24 年
木村修・吉田修・青山浩子『新しい農業の風はモクモクからやって来る』平成 23 年
蜂須賀裕子 寺子屋新書『農業で子どもの心を耕す』平成 16 年
西日本新聞社「食 くらし」取材班『食卓の向こう側 1～10』平成 16 年～

エネルギー環境教育検討委員会『エネルギー環境教育ガイドライン 2013』平成 25 年
内山節 新潮選書『「里」という思想』平成 17 年
中央酪農会議『酪農体験学習ハンドブック』平成 17 年
社団法人農山漁村文化協会『そだててあそぼう 38 土の絵本 ③作物をそだてる土』平成 23 年
吉田俊道『お野菜さん ありがとう！ 子どもと一緒に元気野菜作り』平成 23 年
吉田俊道『生ごみ先生の元気野菜革命』平成 23 年

あ と が き

新潟市教育委員会教育政策監 伊藤 充

スーパーマーケットやコンビニエンスストアの棚の前で子どもたちの姿を見かけると、いつも私は思います。棚に並べられたカット野菜のサラダパックの向こう側に、子どもたちはどこまで想像力を働かせることができるのだろうか。

キャベツの玉を切り分けるおばさんの包丁さばきや、青果市場のおじさんが運転するターレットトラックの音、キャベツを収穫する農家の人の汗、キャベツの種を蒔く人の眼差し、柔らかい土を作るために畑を耕すトラクターのハンドルを握る人の手、牛の糞をもとに作った肥料の色、母牛が子牛のために出した牛乳の温かさ、この世に生を受けた子牛の体を包む体液の輝き、生まれてすぐ母牛と引き離される子牛の鳴き声、母牛を妊娠させるための計画表を作っている人のパソコンを叩く音。そして、それぞれの人々や農作物、家畜をサポートする多くの人々を子どもたちは想像することができるのだろうか。

人々がつながりながら自然に働き掛けて創り上げた農作物は、私たちの口から食道・胃腸を通り、血液になって体中を駆け巡り、私たちと自然をつなげてくれます。そのために人々の工夫があり、熱意があり、苦労があります。それを可能にする組織があり、ビジョンがあり、システムがあり、その総体としての社会があります。しかしながら、現代はそれら一つ一つを具体的にみることができにくい時代です。それゆえ子どもたちは、分断された個別のものを目にしても、それらを結び付けて考え、人と人との関係や社会全体の構造を解き明かしていくことが不得意になっています。まさに、土からの分断、生産現場からの分断が、子どもの思考の分断を招き、社会や人からの分断に帰結しているのです。

子どもたちが、これからの世界を生き抜いていくためには、それら分断されたものをつなげる力、つなげて想像する力とつなげて説明する力が必要です。つなげることは、頭を耕すことであり、心を耕すことです。

私たちは「アグリ・スタディ・プログラム」で、「つなげる」ことを重視し、新潟市の子どもたちが農業のすばらしさに気付き、人との絆や命を大切にして、ふるさと新潟を愛し誇りに思うこと、そして持続可能な社会の実現に向け、よりよく問題を解決していく力を育成することを目指しました。そして、体験と知識をつなげるプログラム、生産と消費をつなげるプログラム、自分の生き方と労働をつなげるプログラム、環境のサイクルをつなげるプログラムを創ってきました。つなげる力を獲得した子どもたちが、より多くの人々とつながって未来の問題を解決することができるようになることを願って。

「アグリ・スタディ・プログラム」改訂委員会名簿

総務部会

伊藤 充（新潟市教育委員会教育政策監）
斉藤 和弘（新潟市農林水産部農業特区・農村都市交流課長）
大竹 和浩（新潟市農林水産部食育・花育センター所長）
大井 隆（新潟市教育委員会学校支援課長）
松崎 義春（新潟市教育委員会保健給食課長）
白井 吉之（にいがた未来共同事業体・愛宕商事（株）部長）
坪川 藤夫（にいがた未来共同事業体・新潟市アグリパーク館長）
浅井 俊一（にいがた未来共同事業体・こども創造センター館長）

プログラム部会

○津野庄一郎（新潟市教育委員会課長補佐）
保科賢一郎（新潟市教育委員会学校支援課総括指導主事、前新潟市立小合中学校校長）
田代 孝（新潟市教育委員会学校支援課指導主事）
小池 晃（新潟市教育委員会保健給食課指導主事）
伊藤 紀幸（新潟市農林水産部農業特区・農村都市交流課アグリ・スタディ指導主事）
岩崎 道郎（新潟市立新津第三小学校長）
浅野 秀之（新潟市立漆山小学校長）
佐藤 靖子（新潟市立中野小屋中学校長）
佐藤 博子（新潟市立沼垂幼稚園長）
星 麻理（新潟市立西特別支援学校教諭）
浅井 俊一（にいがた未来共同事業体・新潟市こども創造センター館長）
片桐 宏之（にいがた未来共同事業体・アグリパーク副園長）

体験料検討部会

○佐藤 克彦（新潟市農林水産部食育・花育センター主査）
上杉 玲子（新潟市農林水産部食育・花育センター嘱託職員）
小池 晃（新潟市教育委員会保健給食課指導主事）
大久保ゆり子（にいがた未来共同事業体・アグリパーク職員）

問題解決部会

○鈴木 雄策（新潟市農林水産部農業特区・農村都市交流課課長補佐）
本間 靖隆（新潟市農林水産部農業特区・農村都市交流課主査）
佐藤 克彦（新潟市農林水産部食育・花育センター主査）
田代 孝（新潟市教育委員会学校支援課指導主事）
伊藤 紀幸（新潟市農林水産部農業特区・農村都市交流課アグリ・スタディ指導主事）
真柄 正幸（にいがた未来共同事業体・新潟市アグリパーク園長）

編集・執筆

編集

伊藤 充・岩崎道郎・田代 孝・田村 篤・伊藤紀幸

執筆

I 基本構想 (伊藤 充・岩崎道郎)

II 基本プログラム

1 小学校編

- (1) アグリパーク (伊藤真理・伊藤 充・岩崎道郎・川崎広之・小林厚司・清水良紀・関 卓二・田村 篤・中村 康・藤巻真紀)
- (2) いくとぴあ食花 (伊藤 充・岩崎道郎・上杉玲子・佐藤克彦・田村 篤・山田哲也)
- (3) 近隣農家 (川崎広之・田村篤)
- (4) 学校教育田 (中村 康)
- (5) 学校教材園 (佐藤克彦・田村 篤・中村 康・山田哲也)

2 中学校・中等教育学校編

- (1) アグリパーク (遠藤寿紀・大岩樹生・佐藤靖子・白石誠史郎・藤本洋則・保科賢一郎)
- (2) いくとぴあ食花 (保科賢一郎)
- (3) 近隣農家 (保科賢一郎)

3 特別支援学校編

- (1) アグリパーク (金澤 博・星 麻理・八木栄弥子)
- (2) いくとぴあ食花 (星 麻理)
- (3) 学校教材園 (星 麻理)

4 幼稚園・保育園編

- (1) アグリパーク (佐藤克彦・野澤州子・堀内澄江)
- (2) いくとぴあ食花 (青木かほる・植野浩之・星 千里)
- (3) 学校教材園 (小熊由美・佐藤博子・田口琢望・山崎貴志)

5 適応指導編 (岩崎道郎・本間寿美・渡辺 徹)

付) PTA編 (伊藤 充・佐藤克彦)

III 資料

(伊藤 充・岩崎道郎・川又健司・佐藤克彦)

なお「アグリ・スタディ・プログラム」改訂版の発行にかかわる業務は、農林水産部では佐藤克彦主査、伊藤紀幸アグリ・スタディ指導主事、上杉玲子嘱託職員、松田真理亜職員、教育委員会では伊藤充教育政策監、田代孝指導主事が担当した。

(イラスト ますこさとみ)

「新潟発 わくわく教育ファーム」
アグリ・スタディ・プログラム
改訂版

発行	平成27(2015)年10月30日
編集者	新潟市教育委員会
発行者	新潟市 新潟市中央区学校町通1番町602番地1 新潟市教育委員会 新潟市中央区学校町通1番町602番地1
印刷者	髯ウィザップ